

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成25年6月

木更津工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	5
	基準2 教育組織（実施体制）	5 5
	基準3 教員及び教育支援者等	1 0 5
	基準4 学生の受入	1 7 3
	基準5 教育内容及び方法	2 0 1
	基準6 教育の成果	3 3 5
	基準7 学生支援等	3 8 1
	基準8 施設・設備	4 8 1
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	5 4 1
	基準10 財務	6 2 1
	基準11 管理運営	6 5 5

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名 木更津工業高等専門学校

(2) 所在地 千葉県木更津市

(3) 学科等の構成

学 科：機械工学科，電気電子工学科，
電子制御工学科，情報工学科，
環境都市工学科

専攻科：機械・電子システム工学専攻，
制御・情報システム工学専攻，
環境建設工学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成25年5月1日現在）

学生数：学 科 1,051人

専攻科 70人

専任教員数： 75人（校長含む）

助手数： 1人

2 特徴

【沿革】木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、1967年6月に機械工学科，電気工学科及び土木工学科の3学科で発足し，その後，1983年4月に高専としては初めての電子制御工学科を，1990年4月には情報工学科を増設し，5学科となった。また，科学技術の発展や社会の要請，産業動向に対応し，1994年4月に土木工学科を環境都市工学科に改組，2000年4月に電気工学科を電気電子工学科に名称変更をした。さらに，2001年4月には，従来の5年間の準学士課程の上に更に2年間のより高度の教育を行うことを目的として専攻科を設置し，機械・電子システム工学専攻，制御・情報システム工学専攻，環境建設工学専攻の3専攻を開設した。

【教育方針】創設以来，教育基本法の精神にのっとり，学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とし，(1)人間形成 (2)専門の科学技術の修得 (3)心身の鍛練を教育方針として掲げている。

【専門教育】本校では，知能と技能を併せ持ち実社会において即戦力として活躍する技術者の育成を目指し，実験・実習系科目の時間を多く取ってきている。さらに，専攻科においては，科学技術の高度化，国際化，学際化に対応できる人材を養成するためのカリキュラムを整備している。そのため，卒業生及び修了生は，設計，開発，生産技術，保守など専門知識を活かした実務に優れていると産業界から高い評価を受けており，社会情勢の

変動にかかわらず，常に高い求人倍率を保っている。

【一般教育】本校では幅広い教養を獲得しつつ，高度な専門知識を理解する基礎を修得させるために一般教育にも力を入れている。1991年から一般教育をより充実させるために人文学系・基礎学系の一般科目担当教員らが中心となり，第3学年で「一般特別研究」を実施している。各教員が少人数の学生を担当し，学生は自ら設定した課題について1年間研究を行い，年度末に研究成果を論文として提出し，発表会を開催している。

【JABEE対応プログラム】本校の「生産システム工学」教育プログラムは，2006年5月に工学（融合複合・新領域）関連分野で日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定を受けた。このことにより，専攻科修了生は本プログラムにより国際化に対応した技術者教育を受けたことが認められ，技術士第一次試験の合格と同等に技術士補となる資格が得られる。

【学生寮】全国高専には教育寮としての学生寮が設けられている。本校の学寮は発足当時の仮寮としての開設に始まり，2000年3月には女子寮も竣工し，現在では，男女合わせて全学生数の3分の1に当たる約340名が入寮している。寮の運営においては，「群制度」という個性的な小集団割拠方式を採用している。男子寮は8つの群に分割，女子寮は全体を1つの群とし，各群に群長を置き，群の自主的な運営を尊重することにより自律的な共同生活を体験させ，それを通して人間形成に役立つ資質を涵養している。

【地域連携】地域産業界等との連携・協力を図るために，2001年3月に地域共同テクノセンターを設置した。更に2004年3月には，技術振興交流会を立ち上げ地元企業等との連携による研究活動の活性化を図っている。また，本校で行うサイエンススクエアや公開講座，近隣小中学校における出前授業などの実施を通して，地域の教育活動にも貢献している。

【国際交流】1983年に高専での留学生制度が開始され，開始と同時に本校では留学生を積極的に受け入れた。それ以降現在まで連続して留学生を受け入れており国際貢献の一端を担っている。また，2006年12月には台湾国立聯合大学と学術交流協定を締結し，相互の学生派遣や国際シンポジウムの共催を行っている他，2008年12月にはドイツ外務省と協定を締結し，日本初のドイツ政府認定校として，学生派遣等を行っている。

Ⅱ 目的

1 木更津工業高等専門学校の使命及び基本方針

1.1 本校の目的

学校全体の目的は、学則第 1 条に「木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法の本質にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」と規定されており、専攻科課程については、学則第 37 条に「専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成すること」と規定されている。

1.2 教育方針

本校は、「人間形成」、「専門の科学技術の修得」、「心身の鍛練」を教育の基本方針とする。

人間形成においては、幅広い教養を基本として、自らを考え自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う実行力の養成に努める。

専門の科学技術の修得においては、将来指導的立場に立つ技術者として機械・電気電子・電子制御・情報・環境都市の各工学分野において、自らが専門とする科学技術の最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域に対する率先した取り組みも含め、広範に活躍しうる技術者の養成に努める。

心身の鍛練においては、教科教育に加え課外活動への参加を奨励し、身体の鍛練、豊かな情操の育成に努める。

2 達成しようとしている基本的な成果

2.1 準学士課程

準学士課程では、基礎学力と工学に関する基礎的な知識、行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力、倫理的・美的価値への感受性を備えた問題発見・解決型技術者の育成をめざし、次の 4 項目を達成すべき基本的な成果とする。

(1) **人間形成**： 豊かな人間性と健康な心身を培い、深く社会について理解し広い視野が持てるよう豊かな教養を身につけ、技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し技術者としての責任を自覚する。

(2) **科学技術の修得**： 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力、専攻する学科の専門分野の知識と能力、実験・実習を通してものづくりに必要な力を身につける。

(3) **コミュニケーション能力**： 日本語の記述能力、英語によるコミュニケーション基礎能力、情報技術を使いこなす発表・討論ができる能力を身につける。

(4) **創造力**： 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

2.2 専攻科課程

専攻科課程では、複合領域の知識を結びつける研究・開発能力、国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力、技術者としての社会的責任と倫理の自覚を備えた開発研究型技術者の育成をめざし、次の 4 項目を達成すべき基本的な成果とする。

(1) **人間形成**： 豊かな人間性と健康な心身を培い、技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し技術者としての責任を自覚する。

(2) **科学技術の修得と応用**： 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力、最も得意とする専門分野の知識と能力、異なる技術分野を理解し得意とする専門分野の知識と複合する能力、実験・実習を通しての実践的技術を身につける。

(3) **コミュニケーション能力**： 日本語の記述能力、情報技術を使いこなす日本語による発表・討論ができる能力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

(4) **創造力(デザイン能力)**： 特別研究などを通して、問題解決のために修得した専門知識を応用する能力、創

意工夫し問題解決のための計画を立案・実行，得られた結果の考察および整理ができる能力を身につける。

3 学科・学系及び専攻ごとの目的

3.1 準学士課程

※専門5学科の目的

(1) **機械工学科**： 材料力学・材料分野，熱流体分野，生産システム分野，計測制御分野等の基礎科目に加えて，実験・実習，設計・製図，コンピュータに関する教育を行い，ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し，システム開発の素養を有する技術者を育成することを目的とする。

(2) **電気電子工学科**： 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど，現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い，創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる技術者を育成することを目的とする。

(3) **電子制御工学科**： 制御工学を中心として，電気工学，電子工学，機械工学，情報処理工学，計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い，制御システムの開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

(4) **情報工学科**： 情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に，インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野の教育を行い，総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者を育成することを目的とする。

(5) **環境都市工学科**： 構造力学，水理学，土質力学，情報処理等の基礎科目に加え，生態環境工学，水環境学等の環境工学の教育を行い，自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成することを目的とする。

※上記専門5学科共通の授業科目で編成される一般科目である人文学系及び基礎学系の目的

(1) **人文学系**： 国語，社会，保健・体育，外国語等の教育を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語及び特に英語でのコミュニケーション能力を養成し，国際的視野を持たせ，倫理的・美的価値への感受性を育むことにより，教養ある社会人としての基礎力を養成することを目的とする。

(2) **基礎学系**： 数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育及び専門基礎教育を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理を理解できるようにすることを目的とする。

3.2 専攻科課程

(1) **機械・電子システム工学専攻**： 機械および電気電子の各工学分野における高い技術力と，両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を培う教育を行い，先端技術に対応できる技術者を育成することを目的とする。

(2) **制御・情報システム工学専攻**： 情報処理技術を基礎として，意思決定技術，ソフトウェア技術，通信技術，制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い，創造的，実践的な制御システム・情報システムの研究開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

(3) **環境建設工学専攻**： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を培う教育を行い，これらの問題に対応した研究開発ができる技術者を育成することを目的とする。

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校は、京葉工業地帯の一角を占め、日本有数の工業県である千葉県の木更津市に、最新技術の根本の原理を修得し、実社会において即戦力として活躍する技術者の育成をめざし、昭和42年に創設された。本校では創設時に学校の使命を定め、学則に掲げている(資料1-1-①-1)。本校の使命は、高等専門学校創設の趣旨である「中堅技術者の養成」という目的及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されたものである。すなわち、学校教育法第115条に謳われている、「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」については、本校の学則第1条に忠実に反映されている。また、創設から現在に至るまで、製造業を始めとする産業界の発展に貢献しうる多くの人材を輩出し、本校が社会において担っている「ものづくり基盤の確立」という基本的な役割は、変わっていないと考えているため、この使命は現在に至るまで貫かれている。

更に、本校では平成13年4月に専攻科の使命を定め、学則に掲げている(資料1-1-①-1)。近年の技術の発展における質的变化を概観するとき、科学技術の高度化や独創的発想が求められることに加えて、専門領域の境界が特定しにくくなってきているなど、社会的背景が著しく変化してきている。高専5年間の教育体系を基盤として、より高度な専門の科学技術及び境界領域の知識の修得・人間形成の教育を行う教育機関として発展させる必要があり、専攻科(3専攻：機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻)を設置している。設立時から現在に至るまで、地域密着型の開かれた専攻科として発展してきており、学則に掲げられている使命が土台になっている。

また昭和42年12月、開校以来検討されてきた教育方針が明文化され(資料1-1-①-2)、見直しと改定を行い、現在の学校の目的は平成24年11月に定めたものである(資料1-1-①-3)。

学校としての達成しようとしている基本的な成果は、前述の教育方針(資料1-1-①-2)から伝統的に培われてきた実学教育を、より具体的に学習・教育目標という形で明文化している。準学士課程における学習・教育目標(資料1-1-①-4)は、平成18年2月に本校の伝統、建学の精神を考慮し発展的に定められ、専攻科課程における学習・教育目標(資料1-1-①-5)は、平成16年2月に定められ、平成24年12月に見直し(資料1-1-①-6)、現在に至っている。

更に、本校では、前述の学習・教育目標を達成するために、準学士課程において、各学科の教育目的を、それぞれの学科の特性に応じて学則第7条の2に定めている(資料1-1-①-7)。これらの教育目的は、科学技術の発展及び社会構造の変化に対応したカリキュラム改訂に伴い変遷し、現在に至っている。また、専攻科課程においても、各専攻の特性に応じた教育目的を、平成13年4月に学則第39条の2に定め(資料1-1-①-8)、平成24年12月に見直しと改定が行われた(資料1-1-①-6)。

また、本校の教育方針、準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標、更には準学士課程における

各学科・学系の教育目的及び専攻科課程における各専攻の教育目的は、学校教育法第 115 条に規定された高等専門学校一般に求められる目的を、明確に意識して策定されている。その対応関係を示すと次のとおりである（資料 1 - 1 - ① - 9）。準学士課程と専攻科課程の学習・教育目標を比較すると、教育方針から派生する共通的な目標を有している一方で、より高度な専門の科学技術及び境界領域の知識の修得及び応用という項目において、明確な相違点がある（資料 1 - 1 - ① - 10）。

資料 1-1-①-1

本校の使命

第1章 本校の目的

(目的)

第1条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(中略)

第7章 専攻科

(目的)

第37条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(出典 木更津工業高等専門学校学則)

資料 1-1-①-2

教育方針

(1) 人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う実行力の三つの能力を備えなければならない。

本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2) 専門の科学技術の修得

21世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりではなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市の各工学分野において、自らが専門とする科学技術の最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域に対する取り組みも含め、広範に活躍しうる技術者の養成に努める。

(3) 心身の鍛錬

将来、すぐれた技術者として社会に貢献するためには、健康な身体と精神を培うこと必要である。

本校は、教科教育に加え課外活動への参加を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

(出典 平成25年度版学生便覧 1頁)

教育方針見直しに関する議事要旨

運営協議会（議事要旨）

1. 日 時 平成 24 年 10 月 4 日（木） 10：45～11：40
2. 場 所 会議室 B
3. 出席者 校長，教務主事，学生主事，寮務主事，地域共同センター長
小澤，福地，高橋秀，上原，鈴木聡，和崎（栗本代理），石川 C，事務部長
欠席：専攻科長（出張）

4. 議 事

◎協議題

1. 本校の教育方針について（見直し案）

点検・評価委員長から，見直しに至った経緯等について説明があり，平成 25 年度から適用することです承された。

2. 平成 24 年度共同研究受入れについて

総務課長から，資料に基づき説明がありました承された。

（出典 平成 24 年 10 月 4 日 運営協議会・議事要旨から抜粋）

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3. コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(出典 平成 25 年度版学生便覧 3 頁)

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

卒業研究や専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。

- (1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。
- (2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察及び整理ができること。

(出典 平成 25 年度版学生便覧 5 頁)

資料 1-1-①-6 (1/2)

各学科・学系・専攻の教育目的見直しに関する議事要旨

運営協議会（議事要旨）

1. 日 時 平成 24 年 12 月 20 日（木）10:45 ～ 12:00
2. 場 所 会議室 B
3. 出席者 校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，地域共同テクニカルセンター長，
小澤，福地，高橋秀，上原，鈴木聡，栗本，石川 C，事務部長

4. 議 事

◎協議題

(省略)

◎連絡・報告事項

(省略)

5. 各課程及び各学科・学系，各専攻の学習・教育目標の見直しについて

点検・評価委員長から，資料に基づき説明があり，現時点では学生便覧の修正のみとし，学則の改正は行わない旨の補足があった。

(省略)

(出典 平成 24 年 12 月 20 日 運営協議会・議事要旨から抜粋)

資料 1 - 1 - ① - 6 (2 / 2)

平成 24 年 12 月 20 日
運営協議会資料 7

点検・評価委員長 福地健一

各課程及び各学科・学系、各専攻の学習・教育目標の見直しについて

平成 24 年 4 月 5 日 (木) 第 1 回運営協議会において、認証評価受審への準備の一環として、教育方針や学習教育目標について、社会や時代の要請に照らし合わせて点検・評価委員会において問題点があれば抽出を行うことが了承された。

「本校の教育方針」については、既に当委員会の見直し案が運営協議会、教員会議で了承された。この度、各課程及び学科・専攻科毎の学習・教育目標の見直しについて、教務委員会、専攻科委員会、各学科学系からの答申を基にした点検・評価委員会の判断について、運営協議会に報告するものである。

1) 準学士課程の学習・教育目標

教務委員会の答申を受け、点検・評価委員会で審議した結果、現行からの修正は必要ないと判断した。内容については省略する。

2) 専攻科課程の学習・教育目標

専攻科委員会の答申を受け、点検・評価委員会で審議した結果、現行からの修正は必要ないと判断した。内容については省略する。

3) 各学科・学系、各専攻の学習・教育目標

各学科・学系の答申を受け、点検・評価委員会で審議した結果、機械工学科、環境都市工学科、制御・情報システム工学専攻のものに若干の文言修正を加えることとした。修正を加えた部分を以下に示す。

【機械工学科】 ~~材料・材料力学~~**材料力学**・~~材料分野~~、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる**の素養を有する**技術者を育成することを目的とする。

【環境都市工学科】 構造力学、水理学、土質力学、~~測量学~~、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境工学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成することを目的とする。

【制御・情報システム工学専攻】 情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造的、実践的な制御システム・**情報システム**の研究開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

以上

各学科の教育目的

機械工学科：材料・材料力学分野，熱流体分野，生産システム分野，計測制御分野等の基礎科目に加えて，実験・実習，設計・製図，コンピュータに関する教育を行い，ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し，システム開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

電気電子工学科：電子，情報通信，コンピュータ，材料，計測，制御，電気機器，エネルギーなど，高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い，創造力が豊で次世代の産業社会を担うことができる技術者を育成することを目的とする。

電子制御工学科：制御工学を中心として，電気工学，電子工学，機械工学，情報処理工学，計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い，制御システムの開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

情報工学科：情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に，インターフェース技術，情報通信技術，制御技術などの関連分野の教育を行い，総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者を育成することを目的とする。

環境都市工学科：構造力学，水理学，土質力学，情報処理等の基礎科目に加え，生態環境工学，水環境学等の環境工学の教育を行い，自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成することを目的とする。

(出典 学則第 7 条の 2)

各専攻の教育目的

機械・電子システム工学専攻： 機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成を目指す。

制御・情報システム工学専攻： 情報処理技術を基礎として、意思決定技術，ソフトウェア技術，通信技術，制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い，創造的，実践的な制御システム・情報システムの研究開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

環境建設工学専攻： 社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに，これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成を目指す。

(出典 学則第 39 条の 2)

資料 1-1-①-9 (1/3)

本校の教育目的と学校教育法 115 条との対応関係

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
<p>本校の教育方針のうち、</p> <p>(2) 専門の科学技術の修得</p> <p>21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。</p>	<p>(1) 人間形成</p> <p>いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せずに行う実行力の三つの能力を備えなければならない。</p> <p>(3) 心身の鍛練</p> <p>社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。本校は、学友会の部活動を奨励し、身体の鍛練、豊かな情操の育成に努める。</p>
<p>準学士課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>2. 科学技術の修得</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。</p> <p>(2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。</p> <p>(3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。</p> <p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者</p> <p>(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。</p>	<p>準学士課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献する優れた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。</p> <p>(2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。</p> <p>(3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p> <p>3. コミュニケーション能力</p> <p>高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。</p> <p>(2) 情報技術を使いこなす、発表・討論ができる能力を身につける。</p> <p>(3) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。</p>

資料 1-1-①-9 (2/3)	
「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
機械工学科の教育目的のうち、 材料力学・材料分野，熱流体分野，生産システム分野，計測制御分野等の基礎科目に加えて，実験・実習，設計・製図，コンピュータに関する教育を行い，	機械工学科の教育目的のうち、 ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し，システム開発の素養を有する技術者を育成することを目的とする。
電気電子工学科の教育目的のうち、 電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど，現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い，	電気電子工学科の教育目的のうち、 創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる技術者を育成することを目的とする。
電子制御工学科の教育目的のうち、 制御工学を中心として，電気工学，電子工学，機械工学，情報処理工学，計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い，	電子制御工学科の教育目的のうち、 制御システムの開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。
情報工学科の教育目的のうち、 制御工学を中心として，電気工学，電子工学，機械工学，情報処理工学，計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い，	情報工学科の教育目的のうち、 総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者を育成することを目的とする。
環境都市工学科の教育目的のうち、 構造力学，水理学，土質力学，情報処理等の基礎科目に加え，生態環境工学，水環境学等の環境工学の教育を行い，	環境都市工学科の教育目的のうち、 自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成することを目的とする。
	人文学系の教育目的のうち、 国語，社会，保健・体育，外国語等の教育を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語及び特に英語でのコミュニケーション能力を養成し，国際的視野を持たせ，倫理的・美的価値への感受性を育むことにより，教養ある社会人としての基礎力を養成することを目的とする。
	基礎学系の教育目的のうち、 数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育及び専門基礎教育を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理を理解できるようにすることを目的とする。

資料 1-1-①-9 (3/3)	
「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
<p>専攻科課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>2. 科学技術の修得と応用</p> <p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。</p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。</p> <p>(2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。</p> <p>(3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。</p> <p>(4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。</p> <p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。</p> <p>(1) 特別研究などを通して、修得した知識をもとに創造性を発揮し、自発的に問題を解決する能力を身につける。</p>	<p>専攻科課程の学習・教育目標のうち、</p> <p>1. 人間形成</p> <p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。</p> <p>(2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p> <p>3. コミュニケーション能力</p> <p>国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。</p> <p>(2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。</p> <p>(3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。</p>
<p>機械・電子システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>機械および電気電子の各工学分野における高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を培う教育を行い、</p>	<p>機械・電子システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>先端技術に対応できる技術者を育成することを目的とする。</p>
<p>制御・情報システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、</p>	<p>制御・情報システム工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>創造的、実践的な制御システム・情報システムの研究開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。</p>
<p>環境建設工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を培う教育を行い、</p>	<p>環境建設工学専攻の教育目的のうち、</p> <p>これらの問題に対応した研究開発ができる技術者を育成することを目的とする。</p>
(出典 点検・評価委員会資料)	

資料 1-1-①-10 (1/2)

各課程の学習・教育目標 (学生便覧 p.3 及び p.5)

準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、</p> <p>1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力 3) 論理的・美的価値への感受性を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>	<p>専攻科課程では、自らがよって立つところの深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、</p> <p>1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚を備え、他者と共同して会社に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>
<p>1. 人間形成</p>	<p>1. 人間形成</p>
<p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) <u>深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。</u> (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p>	<p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p>
<p>2. 科学技術の修得</p>	<p>2. 科学技術の修得と応用</p>
<p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、<u>積極的に活用しようとする技術者。</u></p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) <u>専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。</u> (3) 実験・実習を通して、<u>ものづくりに必要な力を身につける。</u></p>	<p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、<u>境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。</u></p> <p>(1) 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) <u>最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。</u> (3) <u>異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。</u> (4) 実験・実習を通して<u>実践的技術</u>を身につける。</p>

資料 1-1-①-10 (2/2)	
準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>3. コミュニケーション能力</p> <p>高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。</p> <p>(2) <u>英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。</u></p> <p>(3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。</p>	<p>3. コミュニケーション能力</p> <p><u>国際化および高度情報化社会に柔軟に対応</u>し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。</p> <p>(2) 情報技術を使いこなし、<u>日本語による発表・討論</u>ができる能力を身につける。</p> <p>(3) <u>国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。</u></p>
準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す<u>問題発見・解決型</u>の技術者。</p> <p>(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。</p>	<p>4. 創造力 (デザイン能力)</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す<u>研究開発型</u>の技術者。</p> <p>卒業研究や専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。</p> <p>(1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。</p> <p>(2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察及び整理ができること。</p>
(出典 点検・評価委員会資料)	

(分析結果とその根拠理由)

本校は、学校が社会に対して担う基本的な役割として、本校の使命を定めている。また、本校の教育方針については、学校教育法の高等専門学校の目的との対応を、明確に意識したうえで策定されている。更に本教育方針を土台にして展開されている準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標、各学科・学系及び各専攻の教育目的も明確な相違点があり、学校教育法115条の高等専門学校の目的を具現化したものとなっている。

以上のことから、本校は、高等専門学校として目的、学科・専攻ごとの目的を明確に定め、その目的は学校教育法の定める目的に適合している。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の使命、準学士課程・専攻科課程の学習・教育目標、各学科・学系・専攻の教育目的（達成項目）は、学校要覧（資料 1-2-①-1）、学生便覧（資料 1-2-①-2）及びウェブページ（資料 1-2-①-3）に掲載されている。ここで、学生便覧においては、表題を「各学科の専門科目及び一般科目の達成項目」および「各専攻の専門科目の達成項目」とし、学生が見て分かりやすいように表現している。

本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的は、年度初めの教員会議及び技術教育支援センター会議において資料を配付し（資料 1-2-①-4）、周知徹底を図っている。

また、教員採用時の初任者研修では、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的についても重点的に説明がなされている（資料 1-2-①-4）。

準学士課程の学生に対しては、年度初めの HR の中で、本校の使命、教育方針、準学士課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的が重点的に説明され、周知徹底が図られている（資料 1-2-①-5）。

また、専攻科課程の学生に対しては、新入生ガイダンス及び第 2 学年ガイダンスの中で、専攻科課程の学習・教育目標、専攻科課程における各専攻の教育目的が重点的に説明され、周知徹底が図られている（資料 1-2-①-6）。

本校では、教員及び技術教育支援センター職員は、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、自らが所属する学科・学系の教育目的、自らが関連する専攻の教育目的について、事務職員は、本校の使命、教育方針について、それぞれ良く認識していることが必要であると考えている。また、準学士課程の学生は、本校の教育方針、本課程の学習・教育目標、学系及び自らが所属する学科の教育目的について、専攻科課程の学生は、本校の教育方針、本課程の学習・教育目標、自らが所属する専攻の教育目的について、それぞれ良く認識していることが必要であると考えている。

平成 25 年 1 月に学校の構成員に対し、教育目的の周知状況調査を実施した。この結果（資料 1-2-①-7）、すべての項目で教員はほぼ全員が理解していることがわかる。また、技術職員は専攻科に関する項目において 9 割程度が理解しており、学生はすべての項目で 9 割程度が理解している。さらに、事務職員は 9 割程度が理解していることから、教育目的は概ね理解されていると判断する。今後、理解度の向上を目指し、学校全体および個別の授業等で周知に努める必要がある。

教育目的（達成項目）学校要覧

- 17 環境都市工学科
Dept. of Civil Engineering
- 19 専攻科概要
Advanced Engineering Courses
- 19 専攻科課程の学習・教育目標
Education in the Advanced Courses
- 20 機械・電子システム工学専攻
Mechanical and Electrical Course
- 21 制御・情報システム工学専攻
Control and Information Course
- 22 環境建設工学専攻
Civil and Environment Course
- 23 「生産システム工学」教育プログラム
The "General Engineering" Education Program
- 24 国際交流
International Exchanges
- 25 地域との連携
Alliances with the Community
- 25 地域共同テクノセンター
Cooperative Technology Center
- 27 図書館
Library
- 28 ネットワーク情報センター
Information Network Center
- 28 実験実習センター
Experiment Practice Center
- 29 学寮
Dormitory
- 30 保健室、学生相談室、福利厚生施設
Dispensary, Counseling Center, Welfare Facilities
- 31 学生会組織
Student Council
- 32 平成24年度の行事予定
College Calendar
- 33 学生の概況
Students
- 35 卒業後の進路
Course after Graduation
- 37 収入・支出額等
Incomes and Expenditures
- 38 建物配置図
Map of the Campus
- 38 施設の概要
Facilities
- 39 学校位置図
Location of the College

本校の使命

The Social Responsibility of the College

木更津工業高等専門学校は、教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神にのっとり、学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。また本校専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

教育方針

The College's Educational Policy

(1)人間形成 Character Building

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自ら考え、自主的に決断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う実行力の三つの能力を備えなければならない。本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2)専門の科学技術の修得 Acquisition of Science and Technology

21世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。

そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

(3)心身の鍛練 Cultivating Flexible Minds and Sound Bodies

社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。

本校は、学生会の部活動を奨励し、身体の鍛練、豊かな情操の育成に努める。

準学士課程の学習・教育目標

Education in the Semi-Advanced Courses

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3. コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

The students are trained to be engineers who can become cultured members of society with an independent spirit and a global view. To achieve this and become engineers capable of contributing and cooperating with others for social progress, the following three are required:

- 1) Basic scholastic ability and engineering knowledge.
- 2) Creative thinking and pro-active behaviour.
- 3) An ability to think clearly, understand beauty and a strong sense of ethics.

The following four items are the practical objectives to establish this purpose.

1. Character Building

Engineers are required to develop a sound mind and body and to be well cultured so as to contribute to society. The three concrete objectives for this are:

- (1) To cultivate both mental and physical health and a high level of humanity.
- (2) To acquire a depth of culture sufficient to comprehend society.
- (3) To understand the responsibility of engineers to affect nature and circumstance.

2. Acquisition of Science and Technology

Engineers should understand the theories and principles in their fields and utilize them. The three concrete objectives for this are:

- (1) To acquire logical ability on the basis of mathematics and natural sciences.
- (2) To obtain a deep knowledge and become highly skilled in their major.
- (3) To have the necessary faculty to produce things through practice and experiments.

3. Communicative Competence

Engineers must develop the ability to express themselves in public in order to succeed in the modern information-oriented society. The three concrete objectives for this are:

- (1) To acquire the ability to completely describe anything in their native language.
- (2) To acquire a basic communicative competence in English.
- (3) To acquire the ability to present, discuss, and debate a topic.

4. Creativity

Engineers are required to create new solutions on the basis of finding problems and solving them. The concrete objective for this is:

- (1) To develop the capacity for creative thinking enabling the student to find and solve problems through the General Education Seminar in the 3rd year and the Graduation Research in the 5th year.

(出典 学校要覧 2012 5頁)

専攻科概要

Advanced Engineering Courses

専攻科は、5年間の準学士課程教育の上にさらに2年間のより高度の教育を行うことを目的に平成13年4月に設置されました。

専攻科において、所定の単位を修得し、大学評価・学位授与機構が行う試験に合格すると、大学学部卒業者と同様に学士(工学)の学位を取得できます。また大学院に進学もできます。

本校専攻科には、機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻の3専攻があります。

Established in 2001, the Advanced Engineering Course of Kisarazu National College of Technology provides two-year higher level technology education, based on the regular five-year Semi-Advanced Course education.

The bachelor degree is obtained by earning the required credits at the Advanced Course and passing the examination by the National Institution for Academic Degrees and University Evaluation. This also means the graduates are qualified to enter postgraduate courses in universities.

This course has three fields: Mechanical and Electrical Course, Control and Information Course, and Civil and Environment Course.

専攻科課程の学習・教育目標

Education in the Advanced Courses

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力(デザイン能力)

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。卒業研究や専攻科特別研究などを通じて次の能力を身につける。

- (1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。
- (2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察および整理ができること。

In order to train the students to be engineers who are highly skilled at problem-solving and interdisciplinary study, the following are required:

- 1) Research and development ability to combine adjoining fields in technology.
- 2) A fundamental ability to flexibly adapt globalization and the highly information-oriented society.
- 3) Competence to understand the accountability and social ethics of an engineer.

The following four items are the practical objectives to establish the purpose mentioned above.

1. Character Building

Engineers are required to develop a sound mind and body and to be well cultured, enabling them to contribute to society. The two concrete objectives are:

- (1) To cultivate both mental and physical health and a high level of humanity.
- (2) To understand the responsibility of engineers to affect nature and circumstance.

2. Mastery of Technology

Engineers should understand the theories and principles in their major field and utilize them. The three concrete objectives here are:

- (1) To acquire logical ability on the basis of mathematics and natural sciences.
- (2) To obtain a deep knowledge and become highly skilled in their prominent major.
- (3) To have the faculty to respond to other fields and to combine them with their major.
- (4) To acquire practical skills through practice and experiments.

3. Communicative Competence

Engineers should achieve the ability to express themselves in public to succeed in the modern information oriented society. The three concrete objectives are:

- (1) To acquire the ability to adequately describe anything in Japanese.
- (2) To acquire the ability to present, discuss, and debate in Japanese.
- (3) To acquire a basic communicative competence in English.

4. Creativity (Ability to Design)

Engineers should create new things on the basis of problem finding and solving. Through the Graduation Research, the Advanced Research and other related subjects, the two concrete objectives are:

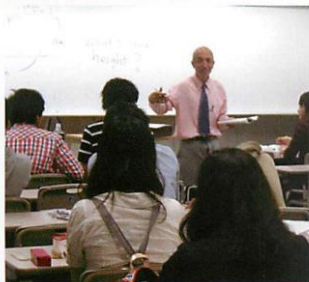
- (1) To acquire the ability to flexibly apply technical knowledge to solve problems.
- (2) To acquire the ability to make a plan, practice it, and then evaluate the results.

一般教育 General Education

一般教育では、幅広い教養を獲得しつつ高度な専門知識を理解するための基礎を修得する目的で、専門5学科に共通した科目を開設している。国語・社会・外国語・保健体育等を担当する人文学系教員と、数学・物理・化学等を担当する基礎学系教員で構成されている。技術者としての基本的な素養を身につけるための必修科目に加え、学生の多様な関心に応じることができるよう、多くの選択科目も開設されている。また、第3学年では学生が自主的に調査研究に取り組む一般特別研究を開設している。

In the general educational program, courses are offered to students in all the departments so that all can acquire a broad education as well as the fundamental abilities necessary for understanding and working within their specified areas of engineering. This program consists of liberal arts courses (programs in Japanese, sociology, English, health and physical education, etc.) and natural science courses (courses in mathematics, physics, and chemistry, etc.). In addition to the basic studies for the foundation of engineers, a wide variety of elective subjects are offered in response to the many concerns and needs of students. In addition, general education seminars are offered in the third year in which students independently research and examine topics of their choice.

Performance Goals	人文学系	Liberal Arts
達成項目		
国語、社会、保健・体育、外国語等の修得を通じ、心身の鍛練と並行しつつ、日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を獲得し、国際的視野を持ち、倫理的・美的価値への感受性を育むことにより、教養ある社会人としての基礎力を身につけること。		To develop the students' sound minds and bodies, as well as to enhance their communicative competence in both their native language and in English, their sense of ethics and beauty, and their ability to see things from a global viewpoint through the study of Japanese, sociology, health and physical education and foreign languages, etc.



外国人講師による英語の授業
English Taught by Native Speakers of English



体育の授業(柔道)
Judo in the Physical Education Class



一般特別研究(上総掘り)
General Education Seminar Classes: This group is Studying Kazusabori

Performance Goals	基礎学系	Natural Science
達成項目		
数学、物理学、化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎の知識の修得を通じ、論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ、最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになること。		To develop the students' ability to observe and experiment with a logical mind and use practical skills, and to help them comprehend the theories and principles of the latest science and technology through the study of mathematics, physics, and chemistry, etc.



数学の授業風景
Mathematics Class



基礎科学における放射線量の計測
Measurement of Radiation during a General Science Class



一般特別研究発表会
Poster Session in the General Education Seminar Symposium

資料 1 - 2 - ① - 1 (5 / 8)

機械工学科

Department of Mec

Performance Goals
達成項目

材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野の基礎科目に加えて、実験・実習、設計製図、コンピュータに関する知識を修得し、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に応用できること。

To gain knowledge through Experiments, Manufacturing Practices, Design, Drawing and Computers, in addition to the basic subjects of the following fields, materials, strength of materials, thermo and fluid dynamics, production systems, measuring and control. Moreover, it is to understand the creative design method required for manufacturing, and be able to apply their knowledge to the development of systems.



精密測定実験 Precision Measurement Laboratory



最近の情報化に伴う技術革新により、機械工学は従来の工場生産活動のための基礎的な分野に留まらず、情報、制御、電子等の分野にまでその応用分野は広がっている。

(出典 学校要覧 2012 9 頁)

電気電子工学科

Department of Electrical ar

Performance Goals
達成項目

電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる知識を修得し、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる能力を身につけること。

To develop the students' ability to find and solve problems and enable them to work in the next generation with creativity through the study of electronics, information technology, computer engineering, materials, electrical measurement, control technology, electric machinery, and energy technology.



ロボットの実験 Robotics Laboratory



電気電子工学科は、電気電子基礎をはじめ電力・電機・制御・情報・通信・材料・計測など、現代の電気電子工学の全領域を網羅した総合工学科として発展している。2年からの実験実習では少人数教育を重視し、各学年で「ものづくり実習」を実施している。低学年から情報処理教育を取り入れ、高学年では技術の進展に合わせた高度な授業の中から学生の希望する科目を選択できるようにし、深い人間性と豊かな創造力、高い洞察力を育む教育を実践している。

(出典 学校要覧 2012 13 頁)

資料 1-2-①-1 (6/8)

電子制御工学科
Department of Control Eng

Performance Goals
達成項目

制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し、制御システムに関する設計や問題解決に対応できる能力を身につけること。

To develop the students' ability to find and solve problems enabling them to develop control systems through the study of the fundamental subjects of control engineering, including electrical and electronic engineering, mechanical engineering, information and computer engineering, etc.



シーケンス制御に関する実験 Experimental Laboratory on Sequence Control



現代社会においては、家庭電化製品から航空宇宙機器、さらには工場や社会システムまで、計算機により制御されており、電子制御技術はあらゆる分野に普及している。電子制御工学科では、計算機工学と制御工学を核とし、電子工学、機械工学などを統合した電子制御工学を学び、計算機制御を中心とした次世代の科学技術を担う創造性豊かな技術者の育成を目的としている。電子制御工学科で行われる研究も、知能ロボット、光デバイス材料、アンテナ、通信制御、計測制御、振動制御、電子回路解析、材料強度、自然エネルギーの利用など多岐にわたっている。

(出典 学校要覧 2012 13 頁)

情報工学科
Department of Infoc

Performance Goals
達成項目

情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野に関する知識を修得し、総合的な情報処理システムの知識を身につけること。

To develop the students' ability to find and solve problems with a wide-ranging knowledge of information systems through the study of hardware, software and related technologies such as computer interfaces, network communications and control systems.



情報回路実験 Logic and Electronic Circuits Laboratory



情報工学科では、情報を処理して新しい情報を創造する計算機システム、情報を遠方に伝送する通信システム、情報を用いて機械を制御

(出典 学校要覧 2012 15 頁)

資料 1-2-①-1 (7/8)

環境都市工学科
Department of Civil Engine

Performance Goals

達成項目

構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学に関する知識を修得し、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応える能力を身につけること。

To develop the students ability to find and solve problems and enable them to realize comfortable environments and cities to live in through the study of subjects in civil engineering such as structural mechanics, hydraulics, soil mechanics and information processing, as well as subjects in environmental engineering such as environmental river engineering, water environment and applied ecological engineering.



土質実験 Experiments in Soil Mechanics



環境都市工学は従来の土木工学を基本とし、これに都市に関連した問題や環境との調和の問題を取り入れた分野である。土木工学は、橋、道路、公園など産業の発展や、市民生活の基本となる公共施設の充実に貢献してきたが、経済の高度な発展に伴い、都市や環境の問題がクローズアップされてきた。そこで当学科では公共施設の設計や建設にあたり、安全性や景観・環境の維持などの幅広い視点を持った技術者の育成を目標にしている。

The curriculum of this department covers issues concerning

(出典 学校要覧 2012 17 頁)

資料 1 - 2 - ① - 1 (8 / 8)

Performance Goals	機械・電子システム工学専攻	Mechanical and Electrical Course
達成項目		
<p>機械工学と電気電子工学のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある能力を身につけ先端技術に対応した研究開発ができること。</p>	<p>This advanced course aims at cultivating the students to be creative and practical engineers with skills in both the mechanical and electrical fields, who thereby have the flexibility to research and develop the newest technologies.</p>	

(出典 学校要覧 2012 20 頁)

Performance Goals	制御・情報システム工学専攻	Control and Information Course
達成項目		
<p>情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関する知識を修得し、創造的、実践的な制御システムの研究開発ができること。</p>	<p>This advanced course aims to train students in a wide variety of subjects including decision support, software, communication, mechatronic and control technologies, on the basis of information processing engineering, and aims at training the students to be leading engineers capable of dealing with creative and practical control systems.</p>	

(出典 学校要覧 2012 21 頁)

Performance Goals	環境建設工学専攻	Civil and Environment Course
達成項目		
<p>社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を身につけ、これらの問題に対応した研究開発ができること。</p>	<p>This advanced course aims at training the students to be creative and imaginative engineers who can carry out R&D and flexibly cope with problems relating to the environment and urbanization which have become more serious and widely spread.</p>	

(出典 学校要覧 2012 22 頁)

資料 1-2-①-2 (1/5)

教育目的（達成項目）学生便覧

5-1 学 則

第1章 本校の目的

(目的)

第1条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(自己評価等)

(出典 平成25年度版学生便覧 87頁)

第7章 専攻科

(設置)

第36条 本校に、専攻科を置く。

(目的)

第37条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(修業年限及び在学年限)

(出典 平成25年度版学生便覧 93頁)

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3. コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力(デザイン能力)

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。
卒業研究や専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。

- (1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。
- (2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察および整理ができること。

各学科の専門科目および一般科目の達成項目

機械工学科：材料力学・材料分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する知識を修得し、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発の素養を身につけること。

電気電子工学科：電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる知識を修得し、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる能力を身につけること。

電子制御工学科：制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し、制御システムに関する設計や問題解決に対応できる能力を身につけること。

情報工学科：情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野に関する知識を修得し、総合的な情報処理システムの知識を身につけること。

環境都市工学科：構造力学、水理学、土質力学、測量学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境工学等の環境工学に関する知識を修得し、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応える能力を身につけること。

人文学系：国語、社会、保健・体育、外国語等の修得を通じ、心身の鍛練と並行しつつ、日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を獲得し、国際的視野を持ち、倫理的・美的価値への感受性を育むことにより、教養ある社会人としての基礎力を身につけること。

基礎学系：数学、物理学、化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎の知識の修得を通じ、論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ、最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになること。

各専攻の専門科目の達成項目

(1)機械・電子システム工学専攻

機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある能力を身につけ、先端技術に対応した研究開発ができること。

(2)制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関する知識を修得し、創造的、実践的な制御システム・情報システムの研究開発ができること。

(3)環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を身につけ、これらの問題に対応した研究開発ができること。

資料 1-2-①-3 (1/3)

教育目的（達成項目）ウェブページ



独立行政法人国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校

Google 検索
WWWを検索 KISARAZU.ac.jpを検索

HOME | 交通案内 | 採用情報 | 入札公示 | サイトマップ | お問い合わせ | English

学校概要 | 入試情報 | 学科紹介 | スクールライフ | 卒業生の進路 | 産学連携 | 公開講座等

教育理念

◆本校の使命
木更津工業高等専門学校は、教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神にのっとり、学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。また本校専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

◆本校の教育方針

(1)人間形成
いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に判断する判断力、自ら工夫し新しいものを造り出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せずに行う実行力の三つの能力を備えなければならない。
本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2)専門の科学技術の修得
21世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。
そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。
本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

(3)心身の鍛錬
社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。
本校は、学生会の部活動を奨励し、身体を鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

以上のような使命と教育方針の基に、私たちは進学士課程(1～5年生)と専攻科課程において、各々の学習・教育目標を掲げています。

◆本校の教育過程
本校には次のような教育課程および教育プログラムがあります。

進学士課程(学科)
本校の進学士課程では、5年間の一貫教育を通して深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境都市工学科の5つの学科が設置されています。また、各学科共通の一般科目は、国語、社会、保健・体育、外国語等を教授する人文学系と数学、物理、化学等を教授する基礎学系に分かれています。(従来本科と表記されていた)

専攻科課程(専攻科)
本校には、5年間の進学士課程の上位コースとして2年間の専攻科(機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻)があります。専攻科は、進学士課程における5年間一貫教育の基礎の上に、さらに高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的としています。


「生産システム工学」教育プログラム
本校の進学士課程の4年次から専攻科課程の2年次までの4年間にまたがる「生産システム工学」教育プログラムを設定し、国際化に対応できる技術者教育を行っています。本教育プログラムは、最も得意としている専門分野の知識と能力を身につけ、さらに異なる技術分野を理解し、両分野の知識を複合させる能力を身につけることを目的としています。この教育プログラムは日本技術者教育認定機構(JABEE)による審査を受けています。


>>進学士課程 学習・教育目標
>>専攻科課程 学習・教育目標
>>生産システム工学教育プログラムの学習・教育目標(PDF)

▲このページの先頭に戻る

HOME | 交通案内 | 採用情報 | 入札公示 | サイトマップ | お問い合わせ | English
〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1 電話0438-30-4000(代表) FAX0438-38-5717
Copyright (C) 2009 Kisarazu National College of Technology. All rights reserved.

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gakko/shimei.html>)





独立行政法人国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校

WWWを検索 Kisarazu.ac.jpを検索

HOME | 交通案内 | 採用情報 | 入札公示 | サイトマップ | お問い合わせ | English

▶ 学校概要 | ▶ 入試情報 | ▶ 学科紹介 | ▶ スクールライフ | ▶ 卒業生の進路 | ▶ 産学連携 | ▶ 公開講座等

教育理念

◆本校の使命
木更津工業高等専門学校は、教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神にのっとり、学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。また本校専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。

◆本校の教育方針

(1)人間形成
いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自らを考え、自主的に判断する判断力、自ら工夫し新しいものを導き出す創造力、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せずに行う実行力の三つの能力を備えなければならない。
本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

(2)専門の科学技術の修得
21世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。
そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりでなく、これらの科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解しなければならない。
本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、最新の成果とその根本の原理を修得させるとともに、これらの境界領域にも自らすすんで活躍しうる技術者の養成に努める。

(3)心身の鍛錬
社会に貢献するためには、健康な身体と精神が必要である。
本校は、学生会の部活動を奨励し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

以上のような使命と教育方針の基に、私たちは準学士課程(1～5年生)と専攻科課程において、各々の学習・教育目標を掲げています。

◆本校の教育過程
本校には次のような教育課程および教育プログラムがあります。

準学士課程(学科)
本校の準学士課程では、5年間の一貫教育を通して深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境都市工学科の5つの学科が設置されています。また、各学科共通の一般科目は、国語、社会、保健・体育、外国語等を教授する人文学系と数学、物理、化学等を教授する基礎学系に分かれています。(従来本科と表記されていた)

専攻科課程(専攻科)
本校には、5年間の準学士課程の上級コースとして2年間の専攻科(機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻)があります。専攻科は、準学士課程における5年間一貫教育の基礎の上に、さらに高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的としています。

「生産システム工学」教育プログラム
本校の準学士課程の4年次から専攻科課程の2年次までの4年間にまたがる「生産システム工学」教育プログラムを設定し、国際化に対応できる技術者教育を行っています。本教育プログラムは、最も得意としている専門分野の知識と能力を身につけ、さらに異なる技術分野を理解し、両分野の知識を複合させる能力を身につけることを目的としています。この教育プログラムは日本技術者教育認定機構(JABEE)による審査を受けています。

>>準学士課程 学習・教育目標
>>専攻科課程 学習・教育目標
>>生産システム工学教育プログラムの学習・教育目標(PDF)

▲このページの先頭に戻る

HOME | 交通案内 | 採用情報 | 入札公示 | サイトマップ | お問い合わせ | English
〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1 電話0438-30-4000(代表) FAX0438-98-5717
Copyright (C) 2009 Kisarazu National College of Technology. All rights reserved.

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/jungakushi.html>)



独立行政法人国立高等専門学校機構

木更津工業高等専門学校

Google

検索

○ WWWを検索 ● kisarazu.ac.jpを検索

HOME | 交通案内 | 採用情報 | 入札公示 | サイトマップ | お問い合わせ | English

学校概要	入試情報	学科紹介	スクールライフ	卒業生の進路	産学連携	公開講座等
------	------	------	---------	--------	------	-------

専攻科課程 学習・教育目標

◆専攻科課程 学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を履行する技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすんで活躍する技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現する技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。

- (1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。
- (2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察および整理ができること。

◆各専攻の教育目的

本校は、5年間の準学士課程の高級コースとして2年間の専攻科があります。専攻科は、準学士課程における5年間一貫教育の基礎の上に、さらに高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することを目的とします。以下に各専攻の教育目的を示します。

機械・電子システム工学専攻

機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者を育成する。

制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造的、実践的な制御システム・情報システムに対応できる実践的専門技術者を育成する。

環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これら問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者を育成する。

▲このページの先頭に戻る

HOME | 交通案内 | 採用情報 | 入札公示 | サイトマップ | お問い合わせ | English

〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1 電話0438-30-4000(代表) FAX0438-98-5717

Copyright (C) 2009 Kisarazu National College of Technology. All rights reserved.

(出典 ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/senkoka.html>)

資料 1-2-①-4 (1/4)

教育目的周知資料（教職員向け）

平成 24 年度点検・評価委員会

教職員向説明資料

本校の教育目的

（木更津工業高等専門学校学則 第 1 章第 1 条の 1）

木更津工業高等専門学校は、**教育基本法**の精神にのっとり、**学校教育法**に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

本校の教育方針について

（学生便覧 p.1）

（1）人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自ら考え、自主的に決断する**判断力**、自ら工夫し新しいものを造り出す**創造力**、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う**実行力**の三つの能力を備えなければならない。本校は、これらの能力を養い発揮させることに努める。

（2）専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりではなく、これらの**科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解**しなければならない。本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、**最新の成果とその根本の原理を修得**させるとともに、これらの**境界領域にも自らすすんで活躍する技術者の養成**に努める。

（3）心身の鍛錬

社会に貢献するためには、**健康な身体と精神が必要**である。本校は、**学友会の部活動を奨励**し、身体の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

平成 24 年度点検・評価委員会

教職員向説明資料

各学科・専攻の教育目的

【準学士課程】(木更津工業高等専門学校学則 第 2 章第 7 条の 2)

機械工学科

材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

電気電子工学科

電子、情報通信、コンピュータ、材料、計測、制御、電気機器、エネルギーなど、高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、創造力が豊で次世代の産業社会を担うことができる技術者を育成することを目的とする。

電子制御工学科

制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、制御システムの開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

情報工学科

情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インターフェース技術、情報通信技術、制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者を育成することを目的とする。

環境都市工学科

構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成することを目的とする。

【専攻科課程】(木更津工業高等専門学校学則 第 2 章第 39 条の 2)

機械・電子システム工学専攻

機械・電子システム工学専攻は、機械工学と電気電子工学のそれぞれの分野の高い技術力と両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる技術者を育成することを目的とする。

制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造力、実践的な制御システムに対応できる技術者を育成することを目的とする。

環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる技術者を育成することを目的とする。

資料 1 - 2 - ① - 4 (3 / 4)

平成 24 年度点検・評価委員会

教職員向説明資料

各課程の学習・教育目標 (学生便覧 p.3 及び p.5)

準学士課程の学習・教育目標	専攻科課程の学習・教育目標
<p>準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、</p> <p>1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力 3) 論理的・美的価値への感受性</p> <p>を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>	<p>専攻科課程では、自らがよって立つところの深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、</p> <p>1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚</p> <p>を備え、他者と共同して会社に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。</p>
1. 人間形成	1. 人間形成
<p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) <u>深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。</u> (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p>	<p>健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。</p> <p>(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。 (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。</p>
2. 科学技術の修得	2. 科学技術の修得と応用
<p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、<u>積極的に活用しようとする技術者。</u></p> <p>(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) <u>専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。</u> (3) 実験・実習を通して、<u>ものづくりに必要な力を身につける。</u></p>	<p>自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、<u>境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。</u></p> <p>(1) 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。 (2) <u>最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。</u> (3) <u>異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。</u> (4) 実験・実習を通して<u>実践的技術</u>を身につける。</p>

資料 1 - 2 - ① - 4 (4 / 4)

平成 24 年度点検・評価委員会

教職員向説明資料

<p>3. コミュニケーション能力</p> <p>高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。</p> <p>(2) <u>英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。</u></p> <p>(3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。</p>	<p>3. コミュニケーション能力</p> <p><u>国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。</u></p> <p>(1) 日本語の記述能力を身につける。</p> <p>(2) 情報技術を使いこなし、<u>日本語による発表・討論ができる能力を身につける。</u></p> <p>(3) <u>国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。</u></p>
<p>4. 創造力</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す<u>問題発見・解決型</u>の技術者。</p> <p>(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。</p>	<p>4. 創造力（デザイン能力）</p> <p>自ら工夫して新しいものを造り出す<u>研究開発型</u>の技術者。</p> <p>卒業研究や専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。</p> <p>(1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。</p> <p>(2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察及び整理ができること。</p>

アドミッション・ポリシー (進学志望の手引き・Web 入試情報等)**【準学士課程】**

1. 数学や理科などの理数系科目が得意で科学技術に興味・関心がある人
2. 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けたい人
3. 将来、指導的立場に立つ技術者になりたい人

【専攻科課程】

1. 専門とする技術分野の基礎学力と工学的素養を備えている人
2. これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味（好奇心）を持っている人
3. 将来、より高度な技術課題に取り組むことのできる基礎能力を身に付けたい人
4. 技術者として社会的責任を自覚し、他者と共同して社会に貢献する意欲を持った人

資料 1 - 2 - ① - 5 (1 / 2)

教育目的周知資料 (準学士課程学生向け)

点検・評価委員会資料 P.1

◎木更津高専の教育目的 (木更津工業高等専門学校学則 第 1 章第 1 条の 1)

木更津工業高等専門学校は、教育基本法 の精神にのっとり、学校教育法 に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

◎木更津高専の教育方針 (学生便覧 p.1)

(1) 人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自ら考え、自主的に決断する**判断力**、自ら工夫し新しいものを造り出す**創造力**、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う**実行力**の三つの能力を備えなければならない。

本校はこれらの能力を養い発揮させることに努める。

(2) 専門の科学技術の修得

21 世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。

そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりではなく、これらの**科学技術の基礎となる理論、原理を十分に理解**しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、**最新の成果とその根本の原理を修得**させるとともに、これらの**境界領域にも自らすすんで活躍**しうる**技術者の養成**に努める。

(3) 心身の鍛錬

社会に貢献するためには、**健康な身体と精神が必要**である。

本校は、**学友会の部活動を奨励**し、身体 の鍛錬、豊かな情操の育成に努める。

◎各学科 (準学士課程) の教育目的 (木更津工業高等専門学校学則 第 2 章第 7 条の 2)

機械工学科

材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野等の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する教育を行い、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

電気電子工学科

電子、情報通信、コンピュータ、材料、計測、制御、電気機器、エネルギーなど、高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、創造力が豊で次世代の産業社会を担うことができる技術者を育成することを目的とする。

電子制御工学科

制御工学を中心として、電気工学、電子工学、機械工学、情報処理工学、計算機工学などの広範囲な基礎科目に関する教育を行い、制御システムの開発に対応できる技術者を育成することを目的とする。

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 1 - 2 - ① - 5 (2 / 2)

点検・評価委員会資料 P.2

情報工学科

情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インターフェース技術、情報通信技術、制御技術などの関連分野の教育を行い、総合的な情報処理システムの知識を備えた技術者を育成することを目的とする。

環境都市工学科

構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学の教育を行い、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応えることのできる技術者を育成することを目的とする。

◎準学士課程の学習・教育目標 (学生便覧 p.3)

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 論理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の 4 点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3. コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 1 - 2 - ① - 6 (1 / 2)

教育目的周知資料（専攻科学生向け）

木更津高専の教育方針について（学生便覧 p.1）

（１）人間形成

いかにすぐれた知識・技能があっても、人間性に欠けるところがあれば、これを正しく発揮することはできない。何にもまして人間形成は重要である。すぐれた人間としては、幅広い教養を基本として、自ら考え、自主的に決断する**判断力**、自ら工夫し新しいものを造り出す**創造力**、自ら良しとしたことをいかなる障害にも屈せず行う**行動力**の三つの能力を備えなければならない。

本校はこれらの能力を養い発揮させることに努める。

（２）専門の科学技術の修得

21世紀を迎えた現在、科学技術の発展は想像を絶するものがある。本校の学生は将来、指導的立場に立つ技術者として、この発展に対応し、さらにこの発展に寄与していかなければならない。そのためには、最新の科学技術の成果を知るばかりではなく、これらの**科学技術の基礎となる論理**、**原理を十分に理解**しなければならない。

本校は、機械、電気電子、電子制御、情報、環境都市のそれぞれの科学技術について、**最新の成果とその根本となる原理を修得**させるとともに、これらの**境界領域にも自らすすんで活躍**しうる**技術者の養成**に努める。

（３）心身の鍛錬

社会に貢献するためには、**健康な身体と精神が必要**である。

本校は、**学友会の部活動を奨励**し、**身体**の鍛錬、**豊かな情操**の育成に努める。

専攻科課程の学習・教育目標（学生便覧 p.5）

専攻科では、自らがよって立つところの深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結びつける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報社会に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して会社に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

（出典 点検・評価委員会資料）

資料 1 - 2 - ① - 6 (2 / 2)

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識を身につける
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力（デザイン能力）

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

卒業研究や専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。

- (1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること
- (2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察及び整理ができること。

各専攻の教育目的（木更津工業高等専門学校学則 第 39 条の 2）**機械・電子システム工学専攻**

機械・電子システム工学専攻は、機械工学と電気電子工学のそれぞれの分野の高い技術力と両方の専門分野を融合した柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる技術者を育成することを目的とする。

制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関わる教育を行い、創造力、実践的な制御システムに対応できる技術者を育成することを目的とする。

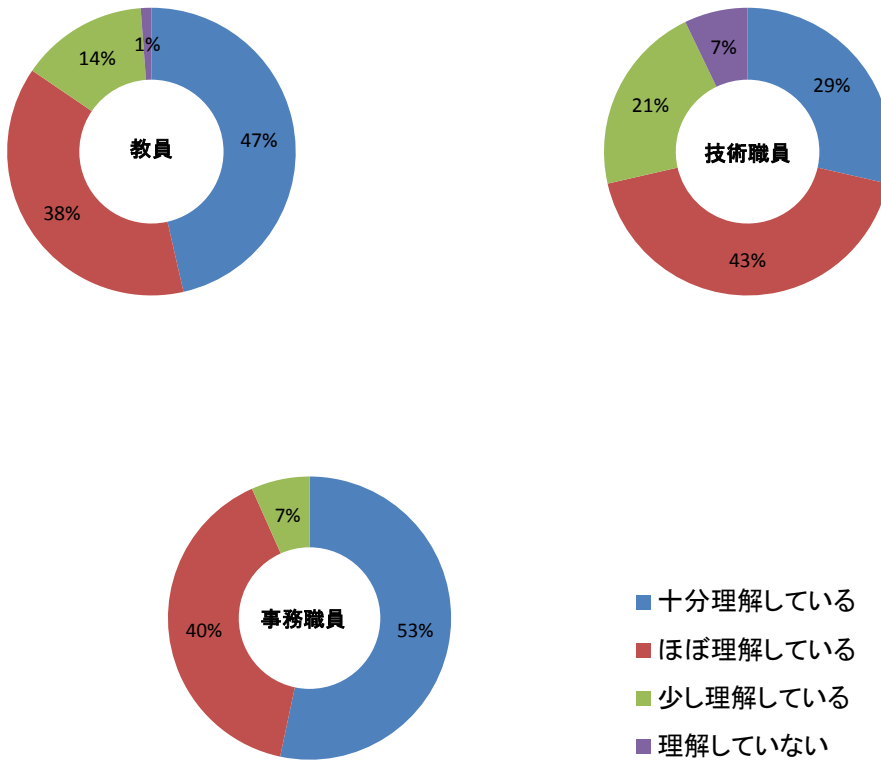
環境都市工学科

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる技術者を育成することを目的とする。

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 1-2-①-7 (1/4)

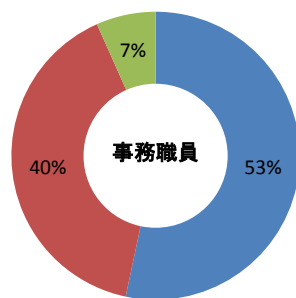
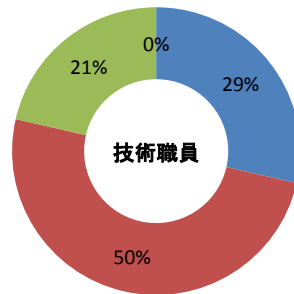
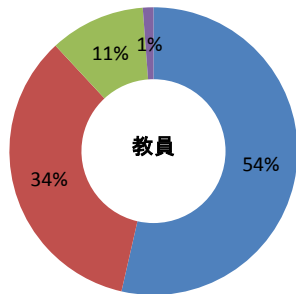
教育目的の周知度に関するアンケート結果 (本校の使命)



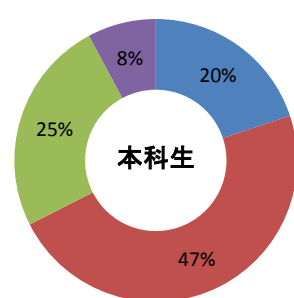
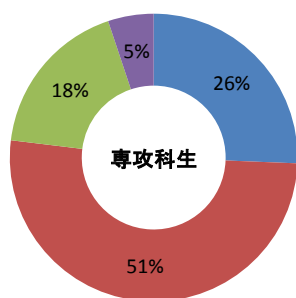
(出典 点検・評価委員会資料)

資料 1-2-①-7 (2/4)

教育目的の周知度に関するアンケート結果 (本校の教育方針)



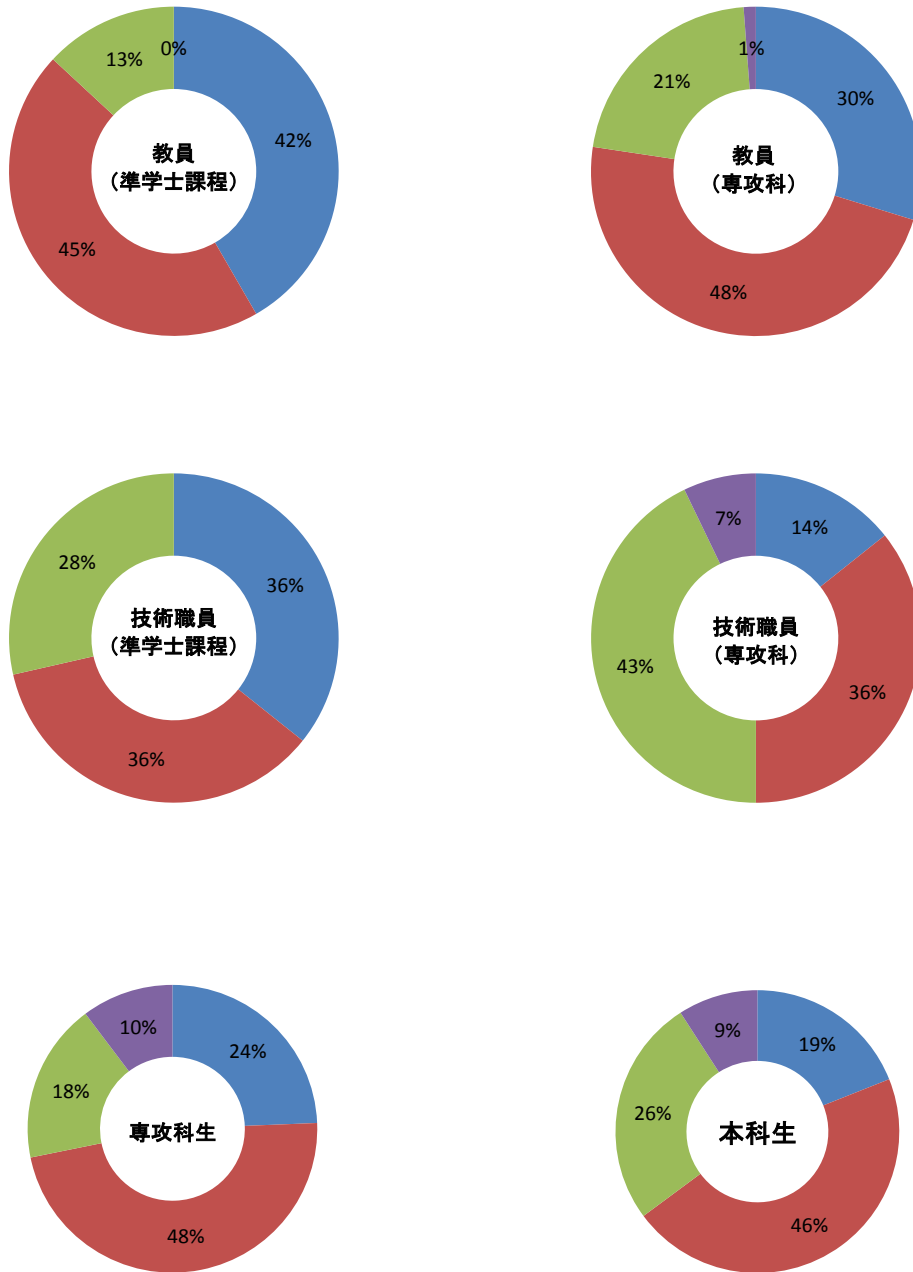
- 十分理解している
- ほぼ理解している
- 少し理解している
- 理解していない



(出典 点検・評価委員会資料)

資料 1-2-①-7 (3/4)

教育目的の周知度に関するアンケート結果 (学習・教育目標)

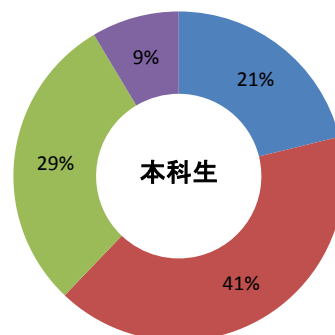
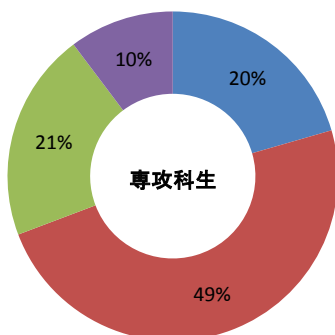
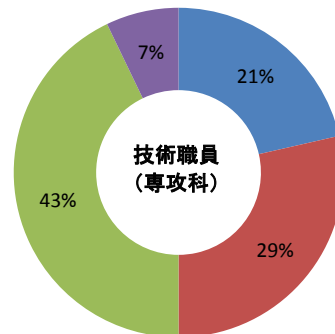
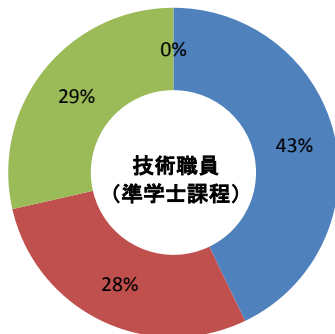
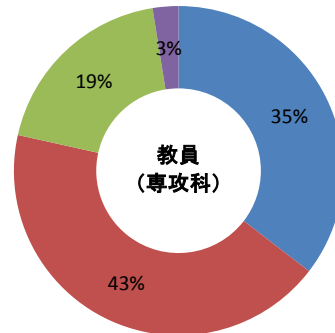
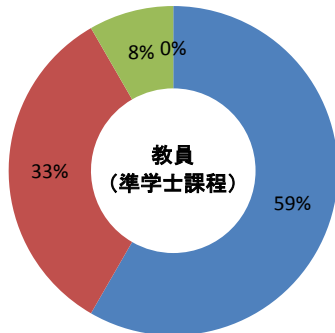


■ 十分理解している ■ ほぼ理解している ■ 少し理解している ■ 理解していない

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 1-2-①-7 (4/4)

教育目的の周知度に関するアンケート結果（所属している学科・学系の教育目的）



■ 十分理解している ■ ほぼ理解している ■ 少し理解している ■ 理解していない

(出典 点検・評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

全教職員及び全学生に対して、冊子（学生便覧, 学校要覧）の配付及びウェブページへの掲載によって、目的の周知を図っており、教職員及び学生アンケートの結果から、準学士課程における学生への周知状況に、改善の余地を残し充分ではないが、おおむね理解されているものと判断される。

以上のことから、本校では、目的が、学校の構成員に周知されている。

観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的は、全てウェブページに掲載することによって、社会に対して公表している（資料 1-2-①-3）。主として中学生を対象とした進学志望の手引にも、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的を記載し（資料 1-2-②-1）、オープンキャンパス（資料 1-2-②-2）、一日体験入学（資料 1-2-②-2）、学校説明会（資料 1-2-②-3）で全参加者に対して配布しているほか、県内の中学校を中心として、学校の説明を訪問（資料 1-2-②-4）して行っており、進学志望の手引を配布するとともに、学校の目的の説明を行い、千葉県内の主な進学塾にも進学志望の手引きを配布している。

また、進学先の大学等及び求人のための面談に来校された企業の担当者に対しては必要に応じて、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的を記載した学校要覧を配布している（資料 1-2-②-5、資料 1-2-②-6）。さらに、年 2 回開催されるテクノフォーラムにおいては、施設見学等を通して本校の教育目的についての理解を深めていただいている。

各学科・学系の教育目的

機械工学科 8 頁


教育の目標

機械工学科 5 年間の課程を修了する人の達成目標は“材料・材料力学分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野の基礎科目に加えて、実験・実習、設計・製図、コンピュータに関する知識を修得し、ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し、システム開発に応用できること”です。

電気電子工学科 10 頁


教育の目標

電気電子基礎、情報、コンピュータ、材料、計測、制御、電気機器、エネルギーなどの電気電子系分野全般を学び、未来の技術者として活躍するための能力を身につけます。

電子制御工学科 12 頁


教育の目標

制御技術は、機械工学、電気・電子工学、情報処理工学を基礎とした広範囲な技術の融合によって支えられています。電子制御工学科では、幅広い技術に対応できる次世代の技術者育成を教育目標としています。

情報学科 14 頁


教育の目標

現在、社会のあらゆる分野でコンピュータが利用されています。科学技術だけでなく、医療、商業、流通、サービスなど、コンピュータなしには社会が機能しなくなっています。さらに、画像音声も扱うマルチメディア情報システムが一層発展し、より豊かな情報化社会が約束されています。このような情報化社会の実現には多くの情報処理技術者が必要とされ、情報工学科はこの社会的要望に応えて、高度な情報処理技術をもつ技術者の育成を目標としています。

環境都市工学科 16 頁


教育の目標

環境都市工学科は、構造力学、水理学、土質力学、情報処理等の基礎科目に加え、生態環境工学、水環境学等の環境工学に関する知識を修得し、自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応える能力を身につけることを目標としています。

人文・基礎学系 20 頁


教育の目標

人文学系が開設している国語、社会、外国語、保健体育等においては、コミュニケーション能力の向上および心身の鍛錬を図ることが目標とされています。基礎学系が開設している数学、物理、化学等においては、理論的思考、実験・観察の技術を身に付け、最新の科学技術の基礎となる理論と原理を理解することが目標とされています。

技術者としての素養を育む

これからの技術者は、高い創造性を持ち、そして世界に目を向けることのできる広い視野を持つ必要があります。また、科学技術が高度に発展した現代社会において、技術者はきわめて重要な役割を果たしています。そして、その重要性に伴い、大きな社会的責任を負っています。一般科目は、このような技術者としての基本的な素養を身に付けるためにも、重要な位置付けがなされています。

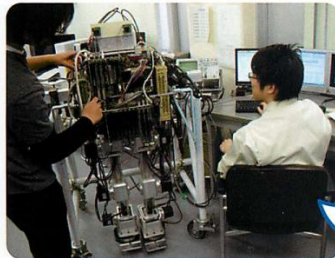
(出典 進学指導の手引き)

各専攻の教育目的

木更津高専には、5年間の高専本科の上級コースとして、
2年間の専攻科があります。
高専の一貫教育という特徴を生かしながら、
地域・産業界との密接な協力・連携のもとで、
より高度な教育・研究指導を行い、研究開発能力、
創造能力を兼ね備えた新しい型の実践的専門技術者の養成をしています。

Target 教育の目標

機械・電子システム工学専攻



機械工学と電気電子工学のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合し柔軟性のある研究・技術開発能力を兼ね備えた先端技術に対応できる実践的専門技術者の育成をめざしています。

2足歩行ロボットに関する研究

機械・電子システム工学専攻 専門専攻カリキュラム

	科目名	単位
必修科目	特別研究 I	6
	特別研究 II	8
	特別実験	2
	特別演習 I	2
	特別演習 II	2
選択科目	生産工学	2
	トライボロジー	2
	システム制御工学	2
	可視化情報工学	2
	オプトメカトロニクス工学	2
	高周波回路工学	2
	電磁波工学	2
	エネルギー工学	2
	半導体物性	2
	電気機械エネルギー変換工学	2

制御・情報システム工学専攻 専門専攻カリキュラム

	科目名	単位
必修科目	特別研究 I	6
	特別研究 II	8
	特別実験	2
	特別演習 I	2
	特別演習 II	2
選択科目	半導体デバイス	2
	学習制御	2
	システム制御	2
	通信工学	2
	集積回路工学	2
	数値解析基礎論	2
	ソフトウェア工学	2
	ヒューマンインターフェース	2
	情報通信工学	2
	数理モデリング	2

制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に係わる教育を行い、創造的、実践的な制御システムに対応できる実践的専門技術者の育成をめざしています。



筋電信号を用いて、ロボットアームの操作を試みています

環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を併せ持つ技術者を育成するとともに、これらの問題に対応した研究開発ができる実践的専門技術者の育成をめざしています。



環境建設工学専攻 専門専攻カリキュラム

	科目名	単位
必修科目	特別研究 I	6
	特別研究 II	8
	特別実験	2
	特別演習 I	2
	特別演習 II	2
選択科目	環境生物学	2
	構造数値解析学	2
	応用構造工学	2
	環境情報・保全工学	2
	環境工学特論	2
	応用材料工学	2
	応用地盤工学	2

スキャナを用いたコンクリートのひずみ測定

共通科目カリキュラム

	科目名	単位
必修科目	問題解決技法	1
	英語総合	2
	人間と文化	2
	現代文明	2
	技術倫理	2
	技術英語 I	2
	技術英語 II	2
	材料力学通論	2
	コンピュータ科学	2
	地震防災工学通論	2
	応用数学特論	2
	応用物理特論	2
	応用化学特論	2
	環境工学通論	2
	回路工学	2
創造設計工学	2	
選択科目	材料学通論	2
	磁性材料工学	2

(出典 進学指導の手引き 20 頁 21 頁)

資料 1-2-②-2

平成 24 年度 学内入試関連イベント

行事内容	対象者	開催日	参加者
オープンキャンパス	中学生	平成 24 年 7 月 28 日	136 組
		平成 24 年 10 月 6 日	136 組
学園祭における 入試相談コーナー	中学生	平成 24 年 11 月 3 日	51 組
		平成 24 年 11 月 4 日	
一 日 体 験 入 学	機械工学科	平成 24 年 7 月 29 日	139 名
		平成 24 年 8 月 26 日	67 名
	電気電子工学科	平成 24 年 8 月 4 日	82 名
		平成 24 年 8 月 25 日	37 名
	電子制御工学科	平成 24 年 8 月 5 日	72 名
平成 24 年 8 月 22 日		48 名	
情報工学科	中学生	平成 24 年 8 月 18 日	81 名
		平成 24 年 8 月 19 日	51 名
環境都市工学科	中学生	平成 24 年 8 月 2 日	100 名

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 1-2-②-3

平成 24 年度 学校説明会

行 事 内 容	対 象 者	開 催 日	参 加 者
本校主催学 校説明会	本校マルチメディアB	塾	平成24年7月28日 10名
	きぼーる	生徒・保護者	平成24年8月12日 12組
	千葉県立現代産業科学館 研修室	生徒・保護者	平成24年8月25日 16組
	本校マルチメディアA	教諭	平成24年10月10日 31名
塾等主催 合同説明会	高校進学説明会 かずさアカデミアパーク (神子学院主催)	生徒・保護者	平成24年6月2日 32組
	高等学校一斉説明会 (幕張メッセ国際会議場)	生徒・保護者	平成24年6月16日 60組
	首都圏進学フェア 柏会場	生徒・保護者	平成24年7月29日 14組
	首都圏進学フェア 幕張会場	生徒・保護者	平成24年8月4日 65組
	幕張メッセ国際会議場		平成24年8月5日 73組
	首都圏進学フェア 成田会場	生徒・保護者	平成24年8月19日 4組
	首都圏進学フェア 木更津会場	生徒・保護者	平成24年9月2日 12組
	公立高校進学相談会 千葉市民会館	生徒・保護者	平成24年10月21日 13組

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 1 - 2 - ② - 4

平成 24 年度 中学校訪問一覧

千葉市	浦安市	市川市	習志野市	船橋市	鎌ヶ谷市
31	1	1	3	3	1
野田市	印西市	佐倉市	四街道市	成田市	八街市
1	1	2	1	2	1
富里市	香取市	銚子市	大網白里町	東金市	長柄町
1	1	1	3	3	1
大多喜町	長生村	茂原市	館山市	鋸南町	南房総市
1	1	7	2	1	3
君津市	市原市	袖ヶ浦市	富津市	木更津市	合計
11	21	5	5	13	128

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 1 - 2 - ② - 5

平成 24 年度卒業生対象求人面談社数

機械 工学科	電気電子 工学科	電子制御 工学科	情報 工学科	環境都市 工学科	合計
72	104	69	25	50	320

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 1 - 2 - ② - 6

学校要覧の主な学外配布状況

配布先	部数	配布先	部数	配布先	部数
高等専門学校	61	機構本部	18	東京日本語教育センター	1
国立大学	60	文部科学省	2	日本国際教育支援協会	1
公立大学	2	千葉県教育庁	1	国立歴史民俗博物館	1
私立大学	6	木更津市役所	1	千葉県産業振興センター	1
留学生派遣国大使館	6	記者クラブ	5	学習塾	189
		茂原市教育委員会	1	その他(配付用)	422

(出典 点検・評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

ウェブページに、本校の使命、教育方針、各課程の学習・教育目標、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的を全て掲載している。また、中学生向けの進学志望の手引においても、準学士課程における各学科・学系の教育目的、専攻科課程における各専攻の教育目的が記載され、学校説明会、一日体験入学、公開講座時等に積極的に説明している。また、本校近隣及び就職先等の関係企業、進学先の大学等に対して、学校要覧を配布している。

以上のことから、本校の目的が、社会に対して広く公表されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校は、学校が社会に対して担う基本的な役割として使命を定めている。学校としての教育方針や教育課程ごとに育成すべき人物像を学習・教育目標として定めているほか、学科・専攻ごとに卒業・修了時に身に付けるべき学力や能力として教育目的を定めている。さらに、学科・専攻ごとの学生が目指す人物像として達成項目を定めている。また、本校の目的は、創設当時に制定された教育方針から伝統的に培われてきた実学教育を具体的に学習・教育目標という形で展開しており、学校教育法の目的に十分沿って策定され、これらに関する学生、教職員の理解度は極めて高い。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校は、学校が社会に対して担う基本的な役割として使命を定めている。学校としての教育方針や教育課程ごとに育成すべき人物像を学習・教育目標として定めているほか、学科・専攻ごとに卒業・修了時に身に付けるべき学力や能力として教育目的を定めている。さらに、学科・専攻ごとの学生が目指す人物像として達成項目を定めている。また、本校の目的は、創設当時に制定された教育方針から伝統的に培われてきた実学教育を具体的に学習・教育目標という形で展開しており、学校教育法の目的に十分沿って策定され、これらに関する、学生、教職員の理解度は極めて高い。

本校の使命等が記載されている学生便覧などを毎年学生および教職員に配布することで目的の周知を図っているほか、教職員に対しては会議や研修において説明され、学生に対してホームルームなどで説明することで周知を図っている。また、目的の周知状況を把握するアンケート調査では、すべての項目で教員はほぼ全員が理解しており、技術職員は専攻科に関する項目のみ 9 割程度であったもののその他の項目ではほぼ全員が理解している。加えて事務職員は 9 割程度が理解しており、学生はすべての項目で 9 割程度の者が理解していることが確認できていることから、学校の構成員に十分周知されていると判断する。今後、理解度の向上を目指し、学校全体および個別の授業等で周知に努める。

また、本校の目的は、ウェブページや刊行物への掲載、学校説明会、一日体験入学や県内を中心とする中学校への訪問時の説明及び学校要覧の学外配布等によって、社会に対して広く公表されている。

基準 2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点 2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程には機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科，情報工学科，環境都市工学科の 5 学科が設置されている（資料 2-1-①-1）。昭和42年に機械工学科，電気工学科，土木工学科の 3 学科体制で設立されて以来，電子制御工学科の新設（昭和58年），情報工学科の新設（平成 2 年），土木工学科の環境都市工学科への改組（平成 6 年），電気工学科の電気電子工学科への改組（平成12年）を行い，科学技術の動向や社会のニーズに応じてきた（資料 2-1-①-2）。

本校の目的を達成するために，準学士課程の学習・教育目標（資料 2-1-①-3）にもとづいて各学科の専門科目および一般科目の達成項目（資料 2-1-①-4）が定められている。この中で，一般科目の人文学系は主として学習教育目標の「1. 人間形成」「3. コミュニケーション能力」の育成を担う。基礎学系は数学，自然科学の科目を通じて「2. 科学技術の習得」の「(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力」を身につけさせる。「2. 科学技術の習得」の「(2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力」，「(3) 実験・実習を通して，ものづくりに必要な力」，「4. 創造力」は各学科の専門分野に応じた各専門学科の達成項目として具体化されている。

資料 2-1-①-1

木更津工業高等専門学校学則（抜粋）

第 3 章 学科，学級数，入学定員及び教職員組織

（学科，学級数及び入学定員）

第 7 条 学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	1	40 人
電 気 電 子 工 学 科	1	40 人
電 子 制 御 工 学 科	1	40 人
情 報 工 学 科	1	40 人
環 境 都 市 工 学 科	1	40 人

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和 43 年 6 月 1 日学則第 1 号）

本校沿革

本校の沿革

History

- 1967(昭和42)年 6月 1日 国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和42年法律第18号)により機械工学科、電気工学科、土木工学科の3学科を創設
(National College of Technology was established with three departments.)
- 初代校長に文部省大学学術局科学官 村上成一就任、開校式並びに第1回入学式挙行
The 1st President (S. Murakami) was appointed. The School Foundation Ceremony & 1st Entrance Ceremony were held.
- 1968(昭和43)年 6月15日 1期工事竣工
Primary construction work for the college building was completed.
- 1969(昭和44)年 3月18日 2期工事竣工
Secondary construction work for the college building was completed.
- 1970(昭和45)年 3月20日 3期工事及び武道場竣工
Extension of the college building and the martial gymnasium was completed.
- 4月 1日 事務部設置、庶務課、会計課を置く
The Administration Office was established with two divisions: School Affairs and Financial Affairs.
- 1972(昭和47)年 4月 1日 事務部に学生課を置く
The Student Affairs Division was added to the Office.
- 1973(昭和48)年 7月 1日 第2代校長に人事院任用局長 渡辺哲利就任
The 2nd President (T. Watanabe) was appointed.
- 1975(昭和50)年 3月25日 電子計算機室竣工
The Computer Center was established.
- 1976(昭和51)年11月20日 図書館竣工
The Library was built.
- 1977(昭和52)年11月 1日 創立10周年記念式典挙行
The 10th Anniversary of the school's founding was celebrated.
- 1979(昭和54)年 6月16日 第3代校長に放送教育開発センター教授 西田亀久夫就任
The 3rd President (K. Nishida) was appointed.
- 1982(昭和57)年 3月 1日 学生会館竣工
The Students Union Building was built.
- 1983(昭和58)年 1月31日 第2体育館竣工
The second gymnasium was built.
- 4月 1日 電子制御工学科新設
The Department of Electronic Control Engineering was established.
- 1984(昭和59)年 2月28日 第2研究実験棟竣工
The college building was extended for the new department.
- 1985(昭和60)年 3月25日 寄宿舎増築
Extension of the dormitory was completed.
- 4月 2日 第4代校長に元東京工業大学総合理工学研究科教授工学博士 関根太郎就任
The 4th President (T. Sekine) was appointed.
- 1987(昭和62)年11月15日 創立20周年記念式典挙行
The 20th anniversary was celebrated.
- 1988(昭和63)年 3月30日 講義棟竣工
Extension of the college building was completed.
- 4月 1日 第5代校長に文部省大臣官房文教施設部長 高野文雄就任
The 5th President (H. Takano) was appointed.
- 1990(平成2)年 4月 1日 情報工学科新設
The Department of Information and Computer Engineering was established.
- 1991(平成3)年 7月 1日 第6代校長に日本育英会理事 宮野禮一就任
The 6th President (R. Miyano) was appointed.
- 1992(平成4)年 3月26日 第3研究実験棟竣工
The college building was extended for the new department.
- 4月 1日 学校(授業)5日制実施
The school switched to a 5-day week.
- 1994(平成6)年 4月 1日 土木工学科を環境都市工学科に改組
The Department of Civil Engineering was reorganized.
- 1995(平成7)年 4月 1日 第7代校長に長岡技術科学大学副学長 山田勝兵就任
The 7th President (S. Yamada) was appointed.
- 1997(平成9)年 11月13日 創立30周年記念式典挙行
The 30th anniversary was celebrated.
- 1998(平成10)年10月 1日 事務部学生課に技術教育支援センターを置く
The Technology Education Support Center was established in Student Affairs Division.
- 2000(平成12)年 3月14日 女子寄宿舎棟竣工
The dormitory for female students was completed.
- 4月 1日 電気工学科を電気電子工学科に改称
The Department of Electrical and Electronic Engineering.
- 7月 1日 第8代校長に文部省高等教育局主任視学官 北尾美成就任
The 8th President (Y. Kitao) was appointed.
- 12月28日 地域共同テクノセンター竣工
The Cooperative Technology Center was built.
- 2001(平成13)年 4月 1日 専攻科(機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻)設置
The Advanced Engineering Courses were established with three courses.
- 2002(平成14)年 8月 1日 第9代校長に文部科学省大臣官房文教施設部長 小田島章就任
The 9th President (A. Odajima) was appointed.
- 2003(平成15)年 8月29日 総合教育棟竣工
The Education Building was built.
- 2004(平成16)年 4月 1日 独立行政法人国立高等専門学校機構木更津工業高等専門学校となる
Kisarazu National College of Technology became Institute of National Colleges of Technology, Japan Kisarazu National College of Technology
- 2005(平成17)年 4月 1日 第10代校長に独立行政法人国立科学博物館 理事 河上恭雄就任
The 10th President (Y. Kawakami) was appointed.
- 2006(平成18)年 5月 8日 「生産システム工学」プログラムが日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受ける
The "General Engineering" Education Program was authorized by the Japan Accreditation Board for Engineering Education.
- 2007(平成19)年 3月28日 平成18年度高等学校機関別認証評価を受審し、高等学校評価基準を満たしていると大学評価・学位授与機構によって認定される
The college has already received the comprehensive evaluation of educational and research activities dominated by the National Institution for Academic Degrees and University Evaluation in fiscal year 2006, and has been accredited by the institution.
- 4月 1日 事務組織再編に伴い、2課体制となる(総務課、学生課)
The Administration Department was reorganized and two departments were established: General Affairs Division and Student Affairs Division.
- 2008(平成20)年10月 1日 高専機構本部事務局の組織等に関する規則の改正に基づき、教育研究支援センターを設置
The Education and Research Support Center was established based on the revision of regulations for an organization.
- 2010(平成22)年 4月 1日 第11代校長に独立行政法人大学評価・学位授与機構 理事 工藤敏夫就任
The 11th President (T. Kudo) was appointed.

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程では、教養ある社会人としての技術者の育成として、自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 基礎学力と工学に関する基礎的な知識
- 2) 行動と実践に基づく柔軟な発想力と創造力
- 3) 倫理的・美的価値への感受性

を備え、他者と共同して社会に貢献できる問題発見・解決型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。
- (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

3. コミュニケーション能力

高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
- (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

4. 創造力

自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。

- (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

(出典 平成25年度学生便覧 3頁)

各学科の専門科目および一般科目の達成項目

機械工学科：材料力学・材料分野，熱流体分野，生産システム分野，計測制御分野の基礎科目に加えて，実験・実習，設計・製図，コンピュータに関する知識を修得し，ものづくりに必要な創造的設計手法を理解し，システム開発の素養を身につけること。

電気電子工学科：電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど，現代の高度化技術社会の基礎に係わる知識を修得し，創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができる能力を身につけること。

電子制御工学科：制御工学を中心として，電気工学，電子工学，機械工学，情報処理工学，計算機工学などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し，制御システムに関する設計や問題解決に対応できる能力を身につけること。

情報工学科：情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に，インタフェース技術・情報通信技術・制御技術などの関連分野に関する知識を修得し，総合的な情報処理システムの知識を身につけること。

環境都市工学科：構造力学，水理学，土質力学，測量学，情報処理等の基礎科目に加え，生態環境工学，水環境工学等の環境工学に関する知識を修得し，自然環境の保全や安全で快適な都市の創成などの要望に応える能力を身につけること。

人文学系：国語，社会，保健・体育，外国語等の修得を通じ，心身の鍛練と並行しつつ，日本語および特に英語でのコミュニケーション能力を獲得し，国際的視野を持ち，倫理的・美的価値への感受性を育むことにより，教養ある社会人としての基礎力を身につけること。

基礎学系：数学，物理学，化学等の自然科学系一般科目の基礎教育および専門基礎の知識の修得を通じ，論理的思考能力と実験・観察の技術を身につけ，最新の科学技術の基礎となる理論と原理が理解できるようになること。

(出典 平成 25 年度学生便覧 4 頁)

(分析結果とその根拠理由)

各学科の達成項目は、学習・教育目標に対応して各学科の専門分野に応じて具体化されている。また人文学系、基礎学系が学科によらない共通の素養に関する教育を行う体制になっている。

以上のことから、学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているといえる。

観点 2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程には、機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻の3専攻が設置されている(資料2-1-②-1)。本校の目的を達成するために、専攻科課程の学習・教育目標(資料2-1-②-2)にもとづいて各専攻の達成項目(資料2-1-②-3)が定められている。専攻科課程の学習・教育目標は、準学士課程の目標(資料2-1-①-3)の各項目を、より高いレベルで達成するものとなっており、これに対応して各専攻の達成項目が設定されている。

この中で、一般科目の人文学系は主として学習教育目標の「1. 人間形成」「3. コミュニケーション能力」の育成を担う。基礎学系は数学、自然科学の科目を通じて「2. 科学技術の習得と応用」の「(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力」を身につけさせる。「2. 科学技術の習得の応用」の「(2) 最も得意とする専門分野の知識と能力」、「(3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力」、「(4) 実験・実習を通して実践的技術」、「4. 創造力(デザイン能力)」は各学科の専門分野に応じた各専門学科の達成項目として具体化されている。

資料 2-1-②-1

木更津工業高等専門学校学則(抜粋)

第7章 専攻科

(専攻及び入学定員)

第39条 専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員
機械・電子システム工学専攻	8人
制御・情報システム工学専攻	8人
環境建設工学専攻	4人

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和43年6月1日学則第1号)

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を履行する技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍する技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現する技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力(デザイン能力)

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

卒業研究や専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。

- (1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。
- (2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察および整理ができること。

(出典 平成25年度学生便覧 5頁)

各専攻の専門科目の達成項目

(1) 機械・電子システム工学専攻

機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある能力を身につけ、先端技術に対応した研究開発ができること。

(2) 制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関する知識を修得し、創造的、実践的な制御システム・情報システムの研究開発ができること。

(3) 環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を身につけ、これらの問題に対応した研究開発ができること。

(出典 平成 25 年度学生便覧 6 頁)

(分析結果とその根拠理由)

各専攻の達成項目は、学習・教育目標に対応して各専攻の専門分野に応じて具体化されている。また人文学系、基礎学系が専攻によらない共通の教養教育を行う体制になっている。

以上のことから、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているといえる。

観点 2 - 1 - ③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

教育の目的を達成するための全学的なセンターとして、ネットワーク情報センター、実習工場、地域共同テクノセンターを設置している (資料 2 - 1 - ③ - 1)。

ネットワーク情報センターは、本校の共同利用施設として、校内・外ネットワークシステムを円滑かつ効率的に運用し、教育・研究・事務及び課外活動に資することを目的としている (資料 2 - 1 - ③ - 2)。ネットワーク情報センターは全学にネットワーク環境、電子メール等のサービスを提供している。センター演習室および特別教室にそれぞれ約 50 台のパソコンを設置し、主として各学科の情報通信技術に関する授業、英語の授業で利用している (資料 2 - 1 - ③ - 3)。図書館にも同等のパソコンを 5 台設置して、放課後等の利用に供してきた (資料 2 - 1 - ③ - 4)。平成 24 年度には、図書館とネットワーク情報センターを融合した図書館・ネットワークセンター棟に改修したことにより、従来午後 5 時に閉鎖していた演習室を午後 8 時まで延長し、サービスを充実した。さらに演習室が閉鎖される土日も 12 時から 17 時まで、図書館インターネット・マルチメディア室のパソコンが利用可能である。

実習工場は、学生の実習教育並びに研究・実験に関する必要な機器部品の製作を行うことを目的としている（資料 2-1-③-5）。実習工場では、主として機械系の実験実習を行っている（資料 2-1-③-3）。

地域共同テクノセンターは、地域の中小企業を始めとする産業界を対象とした技術相談、共同研究、技術者のリフレッシュ教育を集約的に行い、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力向上に資することを目的としている（資料 2-1-③-6）。また電子顕微鏡室の運営も行っている。地域共同テクノセンターでは、地域企業とのつながりを生かして、平成23年度から「企業技術者等活用プログラム」として本校学生が地域企業等の経営方針や技術力、経営環境、研究課題等をインタビューしてまとめる事業を行っている（資料 2-1-③-7～8，現地閲覧資料 1～2）。

教員を対象にしたアンケート調査によって、実習工場や地域共同テクノセンターは卒業研究、専攻科特別研究等においても有効に活用されていることが示されている（資料 2-1-③-9）。

資料 2-1-③-1

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（抜粋）

（ネットワーク情報センター及びその長）

第 15 条 本校にネットワーク情報センターを置く。ネットワーク情報センターの運営その他必要な事項は、別に定める。

2 ネットワーク情報センターにセンター長及び副センター長を置く。センター長は、教授又は准教授をもって充て、副センター長は、教授、准教授、専任講師又は助教をもって充てる。

3 センター長及び副センター長は、校長が任命し、任期は 2 年とする。

4 センター長は、ネットワーク情報センターの管理運営に関することを総括し、副センター長は、センター長を補佐する。

（地域共同テクノセンター及びその長）

第 16 条 本校に地域共同テクノセンターを置く。地域共同テクノセンターの運営その他必要な事項は、別に定める。

2 地域共同テクノセンターにセンター長及び副センター長を置く。センター長は、教授又は准教授をもって充て、副センター長は、教授、准教授、専任講師又は助教をもって充てる。

3 センター長及び副センター長は、校長が任命し、任期は 2 年とする。

4 センター長は、地域共同テクノセンターの管理運営に関することを総括し、副センター長は、センター長を補佐する。

（実習工場及びその長）

第 17 条 本校に実習工場を置く。実習工場の運営その他必要な事項は、別に定める。

2 実習工場に工場長を置き、機械工学科に属する教授又は准教授をもって充てる。

3 工場長は、機械工学科主任の推薦に基づき校長が任命し、任期は 2 年とする。

4 工場長は、機械工学科主任の指導の下に、実習工場の管理運営に関することを総括する。

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営規程（抜粋）

第1条 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第15条第1項に基づき、本校のネットワーク情報センターの運営その他必要な事項について定める。

第2条 ネットワーク情報センターは、本校の共同利用施設として、校内・外ネットワークシステムを円滑かつ効率的に運用し、教育・研究・事務及び課外活動に資することを目的とする。

第3条 ネットワーク情報センターは、次の業務を行う。

- (1) 教育用電子計算機（ホストマシン、大容量記憶装置、高性能プリンタ、プロッタ、共通ソフト等）の維持管理に関すること。
- (2) 共通施設設備（視聴覚室、特別教室、特別教室準備室等）の維持管理に関すること。
- (3) 校内外ネットワーク施設（ターミナルサーバ、トランシーバ等を含む）の維持管理に関すること。
- (4) 共通ソフトの開発及びフォーマットの取り決めに関すること。
- (5) 共通データベースの構築に関すること。
- (6) 利用者に対するサービス、教育体制に関すること。
- (7) その他ネットワーク情報センター長が必要と認める業務に関すること。

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成3年1月24日規則第5号）

ネットワーク情報センター・特別教室・実習工場利用状況 (H24 授業使用)

平成 24年度前期授業時間割表

2012.03.16

学年	進 学 士 課 程																								専 攻 科 課 程																	
	1年						2年						3年						4年						1年				2年													
	M	E	D	J	C		M	E	D	J	C		M	E	D	J	C		M	E	D	J	C		M	E	D	J	C	M	E	D	J	C								
月	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6						
火	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
水	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
木	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
金	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

黄色：ネットワーク情報センター演習室 緑：特別教室 赤：実習工場

資料 2-1-③-4

図書館閲覧室設置パソコンの利用状況

マシン名	延べ利用者数	開館 1 日あたり利用人数
INC201	132	4.4
INC202	96	3.2
INC203	181	6.0
INC204	113	3.8
INC205	108	3.6
合計	630	21.0

平成 24 年 6 月 12 日～7 月 20 日（開館日数 30 日，うち平日 25 日）

（出典 パソコンのシステムログから作成）

資料 2-1-③-5

木更津工業高等専門学校実習工場運営規程（抜粋）

（目的）

第 2 条 実習工場は，機械工場，鋳造・鍛造工場，溶接工場，試作シミュレーション室，測定・検査室，産学連携・安全管理室で構成され，学生の実習教育並びに研究・実験に関する必要な機器部品の製作を行うことを目的とする。

（業務）

第 3 条 実習工場は，次に掲げる業務を行う。

- (1) 機械工作実習授業の計画及び実施に関すること。
- (2) 研究（卒業研究を含む。）及び実験等のために必要な機器部品の製作に関すること。
- (3) 実習工場の安全衛生及び事故防止に関すること。
- (4) 実習工場の設備の保守管理に関すること。
- (5) その他実習工場長（以下「工場長」という。）が必要と認める事項

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成13年4月1日規則第11号）

資料 2-1-③-6

木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営規程（抜粋）

（趣旨）

第1 条 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第16 条第 1 項に基づき、地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）の運営その他必要な事項について定める。

（目的）

第2 条 センターは、地域の中小企業を始めとする産業界を対象とした技術相談、共同研究、技術者のリフレッシュ教育を集約的に行い、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力向上に資することを目的とする。

（業務）

第3 条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産業界との共同研究及び技術相談等研究交流に関すること。
- (2) 技術セミナー及び技術研修会に関すること。
- (3) 学内共同研究に関すること。
- (4) ものづくり教育の推進に関すること。
- (5) 公開講座に関すること。
- (6) 電子顕微鏡室の運営に関すること。
- (7) その他センターの推進に関する必要な事項。

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成12年11月15日規則第 8 号）

資料 2-1-③-7

学生の企業訪問報告書「千葉 匠の力」23 年度版



（出典 学生の企業訪問報告書「千葉 匠の力」平成 23 年度版、現地閲覧資料 1）

資料 2 - 1 - ③ - 8

企業技術者等活用プログラム学生報告書「千葉 匠の力」24 年度版



(出典 企業技術者等活用プログラム学生報告書「匠の力」24 年度版, 現地閲覧資料 2)

資料 2 - 1 - ③ - 9

実習工場・地域共同テクノセンターの利用状況に関する教員アンケート結果

利用施設	学科	利用の概要
実習工場	機械	卒業研究および専攻科特別研究では実習工場の工作機械を用いて、実験装置の部品やその加工(穴あけやねじ切り)、測定資料の切り出しなどを行う。
実習工場	電気電子	教育研究支援センター及び実習工場 ・アクリル材の加工(2011年度) 卒業研究において、アンテナ支持台を製作する必要があるため、部材を持ち込み技術職員に相談させていただき、試料の加工を行っていただいた。
実習工場	電気電子	・PTFE材の加工(2012年度) 専攻科1年生の研究において、あるスペース内に隙間なく試料(PTFE材)を充てんする必要があったため、試料の加工を技術職員に依頼し、仕様を満たすものができあがったため研究を進めることができ、国内学会や国際会議における研究発表に結び付いた。
実習工場	情報	実習工場にて、卒業研究及び専攻科特別研究に必要な装置のアルミ加工依頼を行った。
テクノセンター	機械	卒業研究および専攻科特別研究で電子顕微鏡室の電子顕微鏡を用いて試料の表面を観察した。
テクノセンター	機械	卒業研究および専攻科特別研究でテクノセンターの第1ラボを実験・測定場所として利用している。
テクノセンター	機械	地域共同テクノセンター第3ラボを利用して、卒業研究や専攻科特別研究など通常の実験実習科目以外に株式会社東京電力様からACC燃焼器回りメンテナンス時における作業負担軽減装置の開発に活用した。
テクノセンター	情報	専攻科特別研究 磁気位置センサを用いて腕の振り動作を取得し、仮想打楽器システムを構築した。広い空間が必要だったため、上記オープンラボDにて実験を行った。

(出典 点検・評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

ネットワーク情報センターは、情報ネットワーク運用を担い、またセンター演習室および特別教室が情報通信技術に関する授業や英語の授業、放課後等の自習にも活用されている。実習工場は実験実習や卒業研究、専攻科特別研究で活用されている。地域共同テクノセンターは施設、設備が卒業研究や専攻科特別研究で利用されているほか、地域企業等とのつながりを生かして「企業技術者等活用プログラム」等による教育活動を行っている。

以上のように、三つの全学的センターは教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点 2-2-①： 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

(観点に係る状況)

本校には、教育課程全体を企画調整するための体制として、運営協議会を設置しており、平成24年度には22回開かれた(資料 2-2-①-1, 資料 2-2-①-2)。運営協議会が合議決定するが、学校運営の重要事項で学生の教育にかかわるものについて審議し、必要な情報について連絡するため教員会議が行われており、平成24年度は11回開かれた(資料 2-2-①-3, 資料 2-2-①-4)。運営協議会からの諮問に対し、答申・建議するために各委員会が設置されている(資料 2-2-①-5)。

運営協議会の諮問に対し、主に組織及び管理運営の改善方策にかかわるものについて答申・建議する委員会として、将来構想検討委員会が設定されており、平成24年には8回開かれた(資料 2-2-①-6, 資料 2-2-①-7)。また、主に教育課程にかかわるものについて答申・建議する委員会として、教務委員会が設置されており、平成24年度には10回開かれた(資料 2-2-①-8, 資料 2-2-①-9)。教育課程の中でも特に専攻科に特有な事項を審議する委員会として専攻科委員会が設置されており、平成24年度には13回開かれた。(資料 2-2-①-10, 資料 2-2-①-11) これらの委員会の組織図及び意思決定の流れを資料 2-2-①-12に示す。各委員会における人員配置を示す役職者名簿を資料 2-2-①-13に示す。

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則(抜粋)

第3章 審議機関

(運営協議会)

第23条 本校の校務の執行に関する重要事項について合議決定するため、本校に運営協議会を置く。

- 2 前項の重要事項のうち、学生の教育にかかわるものであって、あらかじめ教員会議の議を経ることが適当であると運営協議会が認めたものについては、案を付してこれを校長が教員会議に諮問するものとする。
- 3 運営協議会は、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、地域共同テクノセンター長、特定の業務を担当する副校長、事務部長、各学科主任及び各学系主任をもって構成し、校長が主宰する。
- 4 運営協議会の運営に関する必要な事項は、別に定める。
- 5 運営協議会の事務は、総務課において処理する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和56年4月1日規則第1号)

運営協議会（議事要旨）

1. 日 時 平成 25 年 3 月 13 日（水）11:00 ～ 11:40
2. 場 所 会議室 B
3. 出席者 校長，教務主事，寮務主事，専攻科長，地域共同テクノセンター長，
小澤，福地，高橋秀，上原，鈴木聡，栗本，石川 C，事務部長

欠席：学生主事

4. 議 事

◎協議題

1. 施設整備マスタープランの提出について
将来構想検討委員会審議事項
2. 平成 26 年度概算要求事業について
将来構想検討委員会審議事項
3. 図書館改修の進捗状況について
将来構想検討委員会審議事項
4. 平成 24 年度計画実績（案）及び中期計画に基づいた平成 25 年度「本校独自の評価項目」（案）について
～省略～
5. 平成 24 年度修了証書・卒業証書授与の進行（案）について
～省略～

◎連絡・報告事項

1. 災害用（非常用）備蓄品について
～省略～
2. ナイジェリア教育副大臣一行の本校視察について
～省略～

◎その他

～省略～

（出典 平成 24 年度第 22 回運営協議会議事要旨）

資料 2-2-①-3

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則(抜粋)

第3章 審議機関

(教員会議)

第22条 本校の運営に関する重要事項であって学生の教育にかかわるものについて審議し、教員の教育研究活動に必要な情報について連絡し、及び本校における校務の執行について総括的に評価するため、本校に教員会議を置く。

2 校長は、次の各号に掲げる事項を決定しようとする場合には、あらかじめ教員会議に諮問するものとする。

- (1) 入学者の選考基準
- (2) 学業成績の評価基準
- (3) 学生の賞罰基準
- (4) 学生に対する教育指導方針
- (5) 学校の運営に関する基本的な規則等の制定又は改廃

3 この会議は、校長及び専任教員をもって構成し、議長は、校長、副校長以外の教員の互選によって定める。

4 この規則で定めるものの外、教員会議の招集、運営その他必要な事項は、教員会議が定める。

5 この会議の事務は、総務課において処理する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和56年4月1日規則第1号)

資料 2-2-①-4

教員会議議事要旨

(平成24年度 第11回)

日 時 平成25年3月13日(水) 15:10~15:45

場 所 会議室A

出席者 教員57名(校長含む)、事務部長、総務課長、学生課長

欠席者 武長、五十嵐、清水、荒木、清野、柴田、岩崎、嘉数、阿部、田所、歸山、伊藤裕、板垣、柏木、臼井、岡本峰、白木、齋藤、島崎、佐藤

【協議題】

なし

【連絡報告事項】

1. 平成25年度入学式日程表(本科)について(資料1)
学生課長(学生主事代理)より、資料に基づき説明があった。

【その他】

1. 以下の出張報告があった。
 - ・平成24年度機構主催「産学連携に関する実践セミナー」(吉井教員)
2. 異動者及び内地研究員について、以下のとおり紹介または挨拶があった。
～省略～

(出典 平成24年度第11回教員会議議事要旨)

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則(抜粋)

第 3 章 審議機関

(委員会)

第 28 条

本校に運営協議会の諮問に応じて答申し、これに建議するため、本校に次に掲げる委員会を置く。

- (1) 入試委員会
- (2) 教務委員会
- (3) 学生委員会
- (4) 寮務委員会
- (5) 専攻科委員会
- (6) 将来構想検討委員会
- (7) 総合情報メディア委員会
- (8) 国際交流委員会

2 前項に定める委員会の外、必要に応じ、委員会を置くことができる。

3 各委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号)

木更津工業高等専門学校将来構想検討委員会規則(抜粋)

(趣旨)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年4月1日規則第1号）第28条第3項の規定に基づき、将来構想検討委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学科の設置及び改組等に関すること。
- (2) 組織及び管理運営の改善方策に関すること。
- (3) 施設・設備の整備及び充実に関すること。
- (4) その他将来構想等に関すること。

(組織等)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事
- (3) 学生主事
- (4) 寮務主事
- (5) 専攻科長、地域共同テクノセンター長及び特定の業務を担当する副校長
- (6) 各学科主任、学系主任
- (7) 事務部長
- (8) 総務課長及び学生課長
- (9) その他校長が必要と認めた者

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第1項第9号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成13年4月1日規則第2号)

資料2-2-①-7

将来構想検討委員会（議事要旨）

1. 日 時 平成25年3月13日（水）10：45～11：00
2. 場 所 会議室B
3. 出席者 校長，教務主事，寮務主事，専攻科長，地域共同センター長，
小澤，福地，高橋秀，上原，鈴木聡，栗本，石川（C），
事務部長，総務課長，学生課長

欠席：学生主事

4. 議 事

（1）施設整備マスタープランの提出について

教務主事から，資料に基づき説明があり了承された。

（2）平成26年度概算要求事業について

施設整備専門委員長（事務部長）から，資料に基づき説明があり了承された。

（3）図書館改修の進捗状況について

施設整備専門委員長（事務部長）から，今後の予定と併せて資料に基づき説明があり了承された。

（出典 平成24年度第8回将来構想委員会議事要旨）

木更津工業高等専門学校教務委員会規則(抜粋)

(趣旨)

第 1 条

この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 28 条第 3 項の規定に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割並びに年間行事計画に関すること。
- (2) 試験及び評価その他履修に関すること。
- (3) 学校行事（学生委員会が所掌する事項を除く。）に関すること。
- (4) その他教務に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
 - (2) 教務主事補
 - (3) 学科・学系（以下「学科等」という。）から選出された教員各 1 名（ただし、教務主事補を選出された学科等は除くものとする。）
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第 1 項第 3 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させその意見を聴取することができる。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 13 年 4 月 1 日規則第 4 号)

平成 24 年度 第 10 回教務委員会 議事要旨

日時：平成 25 年 3 月 5 日(火) 14:10～14:55

場所：学生課会議室

出席者：鵜田主事，泉主事補(D)，嘉数主事補(基)，大野主事補(E)，坂田委員(人)，内田教員(板垣委員代理)(M)，丸山委員(J)，鬼塚委員(C)，御園学生課長，正木学生課長補佐，中根教務係長，宮原教務主任

議題：

1. 転科願について(鵜田 主事) (1)
～省略～
2. 学業成績の訂正について(鵜田 主事) (2)
～省略～
3. 本校以外の教育施設における学修単位申請について(鵜田 主事) (3)
～省略～
4. 特別学修について(嘉数 主事補) (4)
～省略～
 - ・中期計画提出報告(鵜田 主事)
～省略～

その他

- ・学修単位の単位数について(鵜田 主事)
～省略～
- ・コアカリキュラム マッチング調査(嘉数 主事補)
～省略～
- ・非常勤講師窓口の確認(中根 教務係長) (5)
～省略～
- ・成績表配布と送付について(中根 教務係長)
～省略～
- ・身分確定について(中根 教務係長)
～省略～

配布資料：

- (1) 転科願について
- (2) 学業成績の訂正(平成 24 年度前期末)について (1 件)
- (3) 本校以外の教育施設における学修単位申請について(4 件)
- (4) 特別学修
- (5) 非常勤講師窓口教員一覧表(平成 25 年度)

(出典 平成 24 年度第 10 回教務委員会議事要旨)

木更津工業高等専門学校専攻科委員会規則(抜粋)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 28 条第 3 項の規定に基づき、専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、専攻科に関する特有な事項を審議する。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) 副専攻科長
- (3) 各専攻主任
- (4) その他校長が必要と認めた者

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第 1 項第 4 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させその意見を聴取することができる。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 13 年 4 月 1 日規則第 7 号)

専攻科委員会（平成 24 年度 第 13 回）議事要旨

日 時 平成 25 年 3 月 26 日（火）15 時 10 分～15 時 40 分

場 所 会議室 B

出席者 ○石川（長），○小澤（人），○関口（基），○高橋（M），○上原（E），○鈴木（D），○栗本（J），○石川（C），○正木（学），○石井（副），※伊藤（新年度専攻科長）

配布資料リスト

0. 専攻科委員会（平成24年度 第12回）議事要旨

1. 平成24年度専攻科 2 年生進路状況
2. 平成24年度専攻科 1 年生進路希望状況
3. 平成25年度前期 T A 公募について（案）
4. 4 月 8 日と 4 月 9 日の予定

議 題

(0) 議事要旨（資料 0）

～省略～

(1) 英語 JABEE 基準クリア 状況について

～省略～

(2) 修了式報告

～省略～

(3) 修了生進路状況のまとめ（資料 1）

～省略～

(4) 進路志望状況（資料 2）

～省略～

(5) 専攻科連絡会

～省略～

(6) ティーチングアシスタント（T A）について（資料 3）

～省略～

(7) 新年度入学・始業ガイダンス準備（資料 4）

～省略～

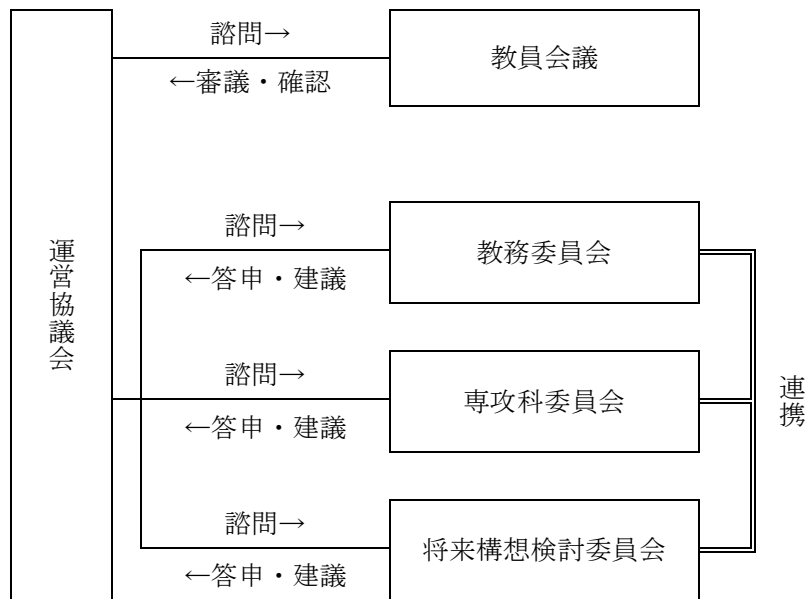
(8) その他

～省略～

（出典 平成 24 年度第 13 回専攻科委員会議事要旨）

資料 2 - 2 - ① - 12

教育課程の企画調整における検討・運営体制組織図・意思決定の流れ



(出典 木更津工業高等専門学校規則内容より作図)

平成 24 年度学内役職者一覧

任期等 役職名	役 職 者							
	任期(平成23年4月～平成25年3月)	任期(平成24年4月～平成26年3月)						
副校長	荒木英彦・石川雅之	錦田正俊・佐藤恒明・石出忠輝						
主事	荒木英彦(学生)	錦田正俊(教務)・佐藤恒明(寮務)						
主事補	泉 源(教務)	嘉敷祐子(教務)・大野貴信(教務)						
	加藤達彦(学生)・湯谷賢太郎(学生) 阿部孝之(寮務)・白木厚司(寮務)	黄野銀介(学生) 岩崎洋一(寮務)						
専攻科長	石川雅之(専攻科長:E)	石井建樹(副専攻科長:C)						
学科・学系主任	小澤健志(人)・福地健一(基)・栗本育三郎(J)	高橋秀雄(M)・上原正啓(E)・鈴木 聡(D)・石川雅朗(C)						
専攻主任		高橋秀雄(ME)・鈴木 聡(DJ)・石川雅朗(CC)						
教育研究支援センター長		錦田正俊(教務)						
図書館長	鎌田 勝(基)							
ネットワーク情報センター長	白井邦人(センター長:D)・丸山真佐夫(副センター長:J)	岩崎洋一(副センター長:人)・柏木康秀(副センター長:E)						
実習工場長	石出忠輝(M)							
学生相談室長		大澤 寛(相談室長:E)						
地域共同テクノセンター長	和崎浩幸(副センター長:J)・大久保努(副センター長:C)	石出忠輝(センター長:M)・吉井文子(副センター長:基)						
学年主任	1年 山下 哲	2年 坂田洋満	3年 和崎浩幸	4年 鬼塚信弘	5年 石井孝一	専攻1年	専攻2年	(任期: H24.4～ H25.3)
	M1 清野哲也	M2 坂田洋満	M3 伊藤裕一	M4 小田 功	M5 丸岡邦明	ME1 上原正啓	ME2 高橋秀雄	
学級担任	E1 鈴木道治	E2 金子真隆	E3 柏木康秀	E4 大澤 寛	E5 石井孝一	DJ1 栗本育三郎	DJ2 鈴木 聡	
	D1 伊藤 操	D2 相川正美	D3 柴田育子	D4 坂元周作	D5 大橋太郎			
	J1 山下 哲	J2 鎌田 勝	J3 和崎浩幸	J4 米村恵一	J5 齋藤康之			
	C1 五十嵐謙介	C2 篠村朋樹	C3 上村繁樹	C4 鬼塚信弘	C5 青木優介			
留学生指導教員	小田(M)・丸岡(M)・柏木(E)・大澤(E)・坂元(D)・大橋(D)・米村(J)・上村(C)・鬼塚(C)							(任期:H24.4～H25.3)
セクハラ相談員	学生主事・学生相談室長・総務課長・愛甲(カウンセラー)・田村(看護師)・柴田・中根							(任期:H24.4～H26.3)

任期等 役職名	委 員		
	役職指定	任期(平成23年4月～平成25年3月)	任期(平成24年4月～平成26年4月)
運営調整会議	◎校長・教務主事・学生主事・寮務主事・専攻科長・テクノセンター長・事務部長・総務課長・学生課長		
入試委員会	◎教務主事・嘉敷(補)・大野(補)・泉(補)	篠村(人)・岡本(E)・上村(C)	相川(基)・小田(M)・沢口(D)・和田(J)
教務委員会	◎教務主事・嘉敷(補)・大野(補)・泉(補)	坂田(人)・鬼塚(C)	板垣(M)・丸山(J)
学生委員会	◎学生主事・学生相談室長・黄野(補)・加藤(補)・湯谷(補)	大橋(D)・齋藤(J)	鈴木道(基)・浅野(E)
寮務委員会	◎寮務主事・岩崎(補)・阿部(補)・白木(補)	山下(基)・柏木(E)・岡本(D)・米村(J)	武長(人)・伊藤(M)・島崎(C)
専攻科委員会	◎専攻科長・石井(副科長)・高橋(ME)・鈴木(DJ)・石川(CC)	関口(基)・栗本(J)	小澤(人)・上原(E)
将来構想検討委員会	◎校長・教務主事・学生主事・寮務主事・専攻科長・テクノセンター長・小澤(人)・福地(基)・高橋(M)・上原(E)・鈴木(D)・栗本(J)・石川(C)・事務部長・総務課長・学生課長		
総合情報デパ委員会	◎教務主事・図書館長・ネットワークセンター長・学生課長	岩崎(人)・坂元(D)・鬼塚(C)	高谷(基)・伊藤(M)・柏木(E)・丸山(J)
国際交流委員会	留学生指導教員・総務課長・学生課長	柴田(人)・武長(人)・岩崎(人)・黄野(M)・沢口(D)	◎関口
施設整備専門委員会	◎事務部長・総務課長・学生課長	相川(基)・高橋(M)・石井(E)・鈴木(D)・東(J)・上村(C)	篠村(人)
広報委員会	◎事務部長・総務課長・学生課長	嘉敷(基)・吉崎(E)・入試委員	柴田(人)・内田(M)・沢口(D)・渡邊(J)・大久保(C)
フカダティ・デパ・ロッピング推進委員会	◎教務主事・大野(補)・学生課長	相川(基)・大澤(E)・齋藤(J)・青木(C)	
点検・評価委員会	総務課長・学生課長		◎福地(基)・岡本(主査)(D)・岩崎(人)・金子(基)・鶴山(M)・大野(E)・鈴木(D)・丸山(J)・鬼塚(C)
中期計画推進委員会	総務課長		◎高橋(M)・清野(人)・関口(基)・岡本(E)・沢口(D)・白木(J)・青木(C)
情報公開委員会	◎校長・教務主事・学生主事・寮務主事・専攻科長・テクノセンター長・小澤(人)・福地(基)・高橋(M)・上原(E)・鈴木(D)・栗本(J)・石川(C)・事務部長・総務課長・学生課長		
学生相談室委員会	◎学生相談室長・学生課長・カウンセラー・看護師		
地域共同テクノセンター運営委員会	◎テクノセンター長・吉井(副長)・和崎(副長)・大久保(副長)・総務課長	五十嵐(人)・小田(M)	石井(E)・坂元(D)
実習工場運営委員会	◎実習工場長	石井(E)・伊藤(D)	
教育研究支援センター運営委員会	◎教務主事(支長)・専攻科長・テクノセンター長・小澤(人)・福地(基)・高橋(M)・上原(E)・鈴木(D)・栗本(J)・石川(C)・実習工場長・ネットワークセンター長・事務部長・技術長		
図書館運営部会	◎図書館長・学生課長	泉(D)・和田(J)	清水(人)・高谷(基)・丸岡(M)・吉崎(E)・石井(C)
ネットワーク情報センター運営部会	◎ネットワークセンター長・丸山(副長)・岩崎(副長)・柏木(副長)・学生課長		高谷(基)・伊藤(M)・湯谷(C)
環境専門委員会	総務課長	永井(総務課)・正木(学生課)・技術長	◎石川(C)・清水(人)・吉井(基)・内田(M)・石川(E)・伊藤(D)・渡邊(J)
知的財産委員会	◎テクノセンター長・吉井(副長)・和崎(副長)・大久保(副長)・総務課長	五十嵐(人)・小田(M)	石井(E)・坂元(D)
安全衛生委員会	◎校長(代理:学生主事)・清野(衛管)・総務課長(安管)・大日方(産医)	黄野(補)・加藤(補)・湯谷(補)・鈴木道(基)・大橋(D)・齋藤(J)・中村(総務課)・須賀(学生課)・今村(支援センター)・看護師	

◎は委員長,ゴシック体は校長が必要と認められた者,(補)は主事補,(副科長)は副専攻科長,(副長)はテクノセンター副センター長,(副長)はネットワーク情報センター副センター長(衛管)は衛生管理者,(安管)は安全管理者,(産医)は産業医,(支長)は教育研究支援センター長の略

(出典 平成 24 年度学内役職者一覧)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動を展開する上で重要な事項を審議・運営する組織として、運営協議会を主軸に、審議機関としての教員会議、教育課程全般にかかわる事項を担う教務委員会、専攻科特有の事項を担う専攻科委員会、組織・運営の改善方策を担う将来構想検討委員会が設置されている。教員会議は全専任教員が出席して行われている。その他の委員会は、各学科・学系の教員により構成され、均整の取れた人員配置となっている。各委員会は年間十数回の会議を開き、懸案事項の審議・実行を行っている。これらの委員会を統制し、教育課程全体を企画調整する役割を運営協議会が担っており、各委員会の審議結果は運営協議会に報告され、承認を受けた上で実行されている。

以上のことから、教育活動全体を企画調整し、有効に展開するための検討・運営体制が整備され、審議などの十分な活動が行われている。

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

本校では、FD委員会の主導のもと、平成16年度から平成22年度にかけて第1期目の一般科目(数学、物理・化学、英語、国語・社会、体育)と専門科目の懇談会を実施した(資料2-2-②-1)。第2期目の一般科目と専門科目の懇談会は平成24年度より開催しており、授業改善やカリキュラム改善のための議論を行っている(資料2-2-②-2)。懇談会では、授業担当者による現状報告が行われ、問題の共有と今後の教育内容の改善に向けた意見交換が行われている(資料2-2-②-3、資料2-2-②-4)。この他にも低学年教育とクラス指導を効果的に行うことを目的として、1、2年の一般科目と専門科目を担当している教員と学級担任による懇談会が行われている(資料2-2-②-5、資料2-2-②-6)。また、これら一般科目と専門科目の内容の連携が、教員・学生に対し明確になるよう、シラバスに「関連科目」を記述する欄を設けている(資料2-2-②-7)。この他、創設当時から教員談話室という教職員用コミュニティルームを設けてあり、日常的に教員間の連携が行われている。

資料 2-2-②-1

「教科と学科の懇談会」実施依頼(第1期)

平成17年5月31日

関係者各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会
委員長 角田幸紀

「教科と学科の懇談会」の実施について(依頼)

昨年度に引き続き、平成17年度においても「教科と学科の懇談会」の実施が下記のように予定されておりますので、特にJABEE認定推進委員において、準備等をお進め願います。

なお、昨年度の「教科と学科の懇談会」の議事要旨は「教職員LocalHomepage」の「FD関係」ウェブ・ページに掲載済みですので(「平成16年度 各種配付文書および雛形等」のページより閲覧可)、これらをご参考にご覧願います。

また、「教科と学科の懇談会」に関係する本年度の活動項目を以下に示しておきますので、計画的な実施をお願いいたします。

1. 授業公開特別期間

- (1) 従来と同様に、前期と後期において各1回設定されているが、これは「授業方法改善研究会」と関係するものであり、この期間にお互いの授業を参観することが求められる。
- (2) 「授業公開特別期間」においては、平成16年度に作成した「授業コメント」に基づき「ピア・レビュー(peer review: 同僚評価=学科教科内等で実施)」が試行されることが期待される(この機会に「授業コメント」の校正等も行ってください)。

2. 授業方法改善研究会

- (1) 授業参観とピア・レビューが研究会の一内容となることが求められる。
- (2) 「教科と学科の懇談会」は科目の見直し等を目的としているが、これは「カリキュラム改訂」に資するためでもある。
- (3) 実施後には、議事要旨を作成し、記録として残すことが求められる。
- (4) 「教科と学科の懇談会」の実施予定は以下のように組まれているが、諸般の事情により変更となる可能性もある。

「教科と学科の懇談会」実施予定：変更の可能性あり					
	M科	E科	D科	J科	C科
数学	H16前期	H17前期	H16後期	H18前期	H17後期
物理	H17後期	H16前期	H17前期	H16後期	H18前期
化学	H18後期	H22後期	H21後期	H17後期	H16後期
英語	H19前期	H18後期	H22前期	H20前期	H19後期
国語	H20後期	H19前期	H18後期	H21後期	H20前期
社会	H21前期	H20後期	H19後期	H22前期	H21後期
体育	H22後期	H21前期	H20前期	H19後期	H22前期

以上ですが、よろしくお願いたします。

(出典 平成17年度ファカルティ・ディベロップメント委員会教科と学科の懇談会の実施依頼書)

資料 2 - 2 - ② - 2

「教科と学科の懇談会」実施依頼(第 2 期)

平成 2 4 年 7 月 5 日

教科主任, 学科主任各位

FD 推進委員会
委員長 鴫田正俊

平成 2 4 年度「教科と学科の懇談会」の実施について (依頼)

FD 活動の一環として, 従来実施しておりました表題懇談会を本年度も実施します。つきましては以下の実施予定表を参照のうえ, 各教科・各学科間にて日程を調整され実施していただきますようお願い致します。

教科/学科	M科	E科	D科	J科	C科
数学	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
物理・化学	26 年度	27 年度	28 年度	24 年度	25 年度
英語	28 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
国語・社会	27 年度	28 年度	24 年度	25 年度	26 年度
体育	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	24 年度

なお, 実施に際しては必ず議事録を作成し, 実施期間内に FD 推進委員長までお送りいただきますようお願い致します。参考までに過去の表題懇談会に関する議事要旨が教職員 Local Homepage 中の FD 関係ページに掲載されております。

懇談会の内容につきましては, 基本的に各教科・各学科間の裁量にお任せ致します。ただし, 以下の観点を必ず含んでいただきますようお願い致します。

- ・ 低学年教育 (学生の学力状況や授業態度等)
- ・ 一般科目と専門科目の関連内容の確認
- ・ 一般科目と専門科目の授業進捗の確認

本件に関しご不明な点がございましたら, FD 推進委員長あるいは FD 推進委員の環境都市工学科青木教員までお問い合わせ願います。

以上

(出典 平成 24 年度ファカルティ・デベロップメント委員会教科と学科の懇談会の実施依頼書)

「平成24年度 機械工学科と数学科の懇談会」議事要旨

日時：2013年1月17日（木）16：30～17：30

会場：第1研究棟コミュニティールームD

出席者：[機械工学科] 高橋秀，板垣，石出，丸岡，内田，小田，伊藤裕，歸山

[数学科] 山下，鎌田，関口，金子，阿部

※臨時学生委員会（賞罰審査関係）による欠席者：黄野，鈴木道

議題：

1. 新入生の入試成績と前期中間試験成績の相関（鈴木道）

平成23年度までは新入生に一斉テストを実施し、数学の学力が不足している学生をピックアップして経過観察をしてきたが、平成24年度から入試成績（推薦選抜の適性試験及び一般選抜の入学試験）で成績不振者をピックアップして経過観察した。結論としては、これまでの一斉テストと同様に相関がなかった。本校での成績は本校での学習の取り組みによるところが大きいと考えられる。

2. 機械工学科1年生の数学の履修状況に関する報告（関口）

数名の学生が学習障害の傾向があるが、概ね学習態度も成績も良好であり、問題はない。

3. 機械工学科2年生の数学の履修状況に関する報告（鎌田，阿部）

数名の学生以外は概ね学習態度も成績も良好であり、問題はない。

4. 機械工学科4年生の数学の履修状況に関する報告（山下，鎌田，阿部）

授業や課題には真面目に取り組むが、試験ができない者が多く、結果的に年度内再評価や再履修しなければならない学生が多かった。

5. 数学と専門科目の摺合せについて

数名の学生以外は概ね学習態度も成績も良好であり、問題はない。

6. その他

- 気になる学生について意見交換を行った。
- 「複素関数論」については本科から専攻科へ移行することを検討する。ただし、他学科との懇談会の結果を踏まえる。

（文責：数学科主任 山下哲）

（出典 平成24年度 数学科と機械工学科の懇談会 議事要旨）

資料 2 - 2 - ② - 4

平成24年度 英語科と電気電子工学科の懇談会 議事要旨

開催日時：平成24年11月29日(木) 15:10～16:00

開催場所：コミュニティールームE

出席者：【英語科】荒木，小澤

：【電気電子工学科】石井，柏木，上原(議事要旨作成)

配布資料：英語科作成「木更津高専における英語学習について」

議 事：

初めに，小澤先生から，入学時に配布する「木更津高専における英語学習について」の資料が配布され，説明があった。5年修了時まで英検準2級またはTOEIC400点を取ることを目標としており，学生の英語力が年々低下しているが，今の目標は維持したいとのことであった。

次に，荒木先生から，最近は極端に英語の出来ない学生が入学して来ているとの話があった。中学で文法を教えなくなったことや，単語を覚える訓練をしていないことも，英語力低下の原因であり，大学でも同じ状況が生じている。3年修了時に英検準2級を取るよう指導しているが，今年は取得率が7割を切りそうである。準2級取得後にTOEICを受けさせるが，それができなくなって来た。準2級では目標が高すぎる学生には，3級から受験させることも必要になって来るかもしれない。

石井先生から，5年生で航空会社を受ける予定だった学生が，英語力に自信がなくて，受けるのを諦めたとの話題提供があった。また，1年の概論で，英語は将来必要になることを学生に話しているとのことであった。

学生の英語の単位取得状況について質問があり，英語では基本的に単位を落とさないよう，追試を繰り返して単位を取得させているとの回答があった。それでも，クラスで1名程度は救えない学生がいる。

柏木先生から，国際交流関連から，英語で授業を実施する可能性について質問があったが，学生の英語力がばらつき過ぎているので，専攻科はともかく本科では無理であるとの回答があった。

英検準2級を取って入学する者も1年生の中に10名程度いる。英語力がばらつき過ぎているのが問題であるとの指摘があった。

最後に，英語科から専門学科への要望として，英語が出来る学生には国際交流への積極的な参加を勧めて欲しいこと，概論等の授業で低学年の内に英検を取ることを勧めて欲しいことの2点の要望があった。

以上

(出典 平成24年度 英語科と電気電子工学科の懇談会 議事要旨)

資料2-2-②-5

1,2年と教科担当の懇談会 開催通知

教員各位

1年学年主任 山下 哲

2年学年主任 坂田洋満

中間試験が終了し、今週半ばにも成績が手渡される予定ですが、今年度も、1,2年生の教科担当教員と担任との懇談会を下記の通り開催することに致しました。

今回は、過去に実施したような全体での情報交換は手短に済ませ、教科担当の先生方に各担任のところを回っていただき個別に情報交換する形で進めたいと考えております。

大変御忙しいこととは存じますが、関係する先生方のご出席を宜しくお願いいたします。

記

日 時 : 6月28日(木) 16時～

場 所 : 会議室A予定(変更の場合は再度連絡します)

(出典 平成24年度 1,2年と教科担当の懇談会 開催通知)

2012 年度 1, 2 年教科担当と担任との懇談会 議事要旨

日時: 2012-06-28 16:05-17:20

場所: 管理棟 2 階 会議室 A

参加者: 29 名(平安, 五十嵐, 篠村, 小澤, 清野, 坂田, 岩崎, 鎌田, 相川, N 鈴木, 山下, 金子, 阿部, 嘉数, 内田, M 伊藤, 歸山, E 岡本, 大野, 浅野, D 伊藤, 臼井, D 岡本, 沢口, 米村, 佐藤, 島崎, 青木, 湯谷)

1 全体懇談

人文学系坂田教員を進行役として, 16:05 から 16:25 まで全体懇談を実施した。

1.1 一年生の全体的な様子について

前期中間試験の成績表について, 60 点未満で灰色となるマスが比較的少なかったこと, 全体的に乱れておらず, やる気を低下させてしまわないようにフォローする必要があることなどが確認された。

1.2 二年生の全体的な様子について

混合学級の廃止による影響を中心として意見交換がなされた。代表的な意見を以下に記す。

- 専門科目の授業開始時の私語等が減少した。
- 担任として学生の様子を把握し易くなった。
- クラスの雰囲気慣れ切っていて, 緊張感が無い様子がある。
- 「何故混合学級でないのか?」という疑問を持つ学生も居る。二年生を混合学級とした方が結束が高まる, という声もある。
- 混合学級とした方が良いという意見は, まじめな学生の意見である。落ち着きが無いクラスがあり, 前期中間試験前に強く注意した。そのクラスの試験成績は良く, 試験後の授業では落ち着きが出て来た。個別指導が有効である。
- ハイキングやペットボトルロケットコンテストなどを学科混合の班で実施している。合同ホームルームが多く, 各クラス単位でのホームルームの機会が少ない。
- 担任が持ち上がりとなったクラスでは, 担任との馴れ合いがあるように見受けられる。担任が変わる方が新鮮な感じがあり, 緊張感を維持できるように思う。

2 個別懇談

16:25 より, 各クラス担任と教科担当との個別懇談を実施した。クラスごと・教科ごとに, 注意を要する学生や各教科受講時の様子などについて意見交換がなされた。

(出典 平成 24 年度 1, 2 年と教科担当の懇談会 議事要旨)

資料 2 - 2 - ② - 7

一般科目と専門科目の内容の連携

授 業 科 目	材料力学 I		
開 設 学 科 学 系	電子制御工学科	区 分 ・ 単 位 数	必修・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電子制御工学科3年・後期	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	材料の機械的性質、応力、ひずみ、つり合い式、フック則		
関 連 科 目	物理学、材料力学II		
担 当 教 員	伊藤 操		
連 絡 先 (オ フ ィ ス ・ ア フ タ ー)	(事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	石田良平、秋田剛 共著『ビジュアルアプローチ材料力学』森北出版、2011年、2500円(税込)		
補 助 教 科 書 等			

(出典 平成 24 年度シラバス電子制御工学科 14 頁)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、平成24年度より第2期目の一般科目と専門科目の懇談会を行っており、一般科目担当教員と専門科目担当教員の間で授業内容に関する意見交換とカリキュラム変更に関する検討が行われている。また、1, 2年生の科目担当と担任の懇談会を行い、低学年の授業を担当する一般科目担当教員、専門科目担当教員と担任の間での意見交換が行われている。この他、専門科目と一般科目の関連内容を明確にし、専門学科と人文・基礎学系間の連携がスムーズに行われるようシラバスに関連科目が明記してある。

以上のことから、本校では一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われている。

観点 2 - 2 - ③： 教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

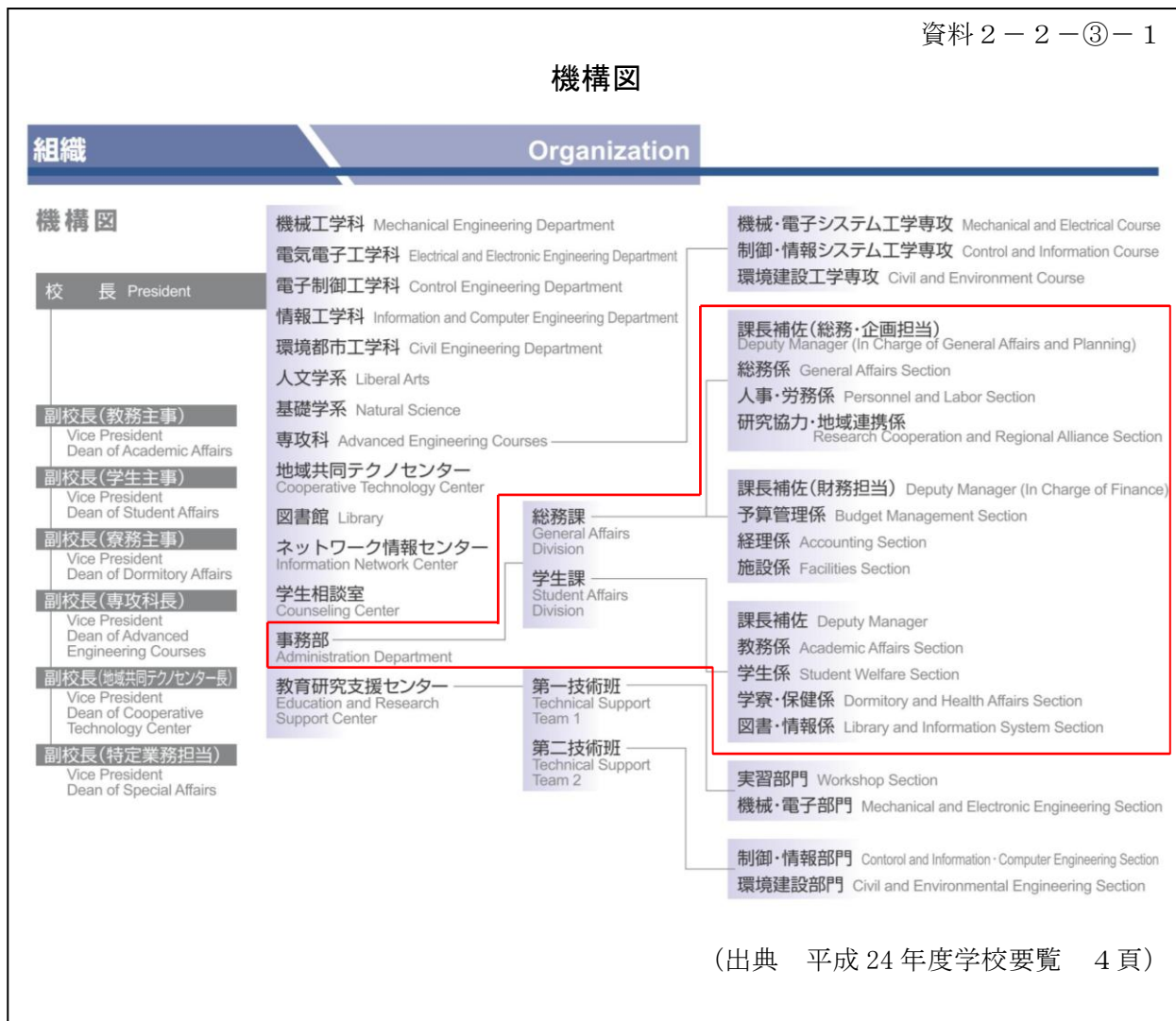
本校の事務組織は、総務課と学生課からなる(資料 2 - 2 - ③ - 1)。事務組織の各役割は木更津工業高等専門学校事務組織規程に明示されており、学生課は、修学指導、進路指導、課外活動など教育活動支援を主たる役割として担っている(資料 2 - 2 - ③ - 2)。学生への技術的な教育をサポートする組織として教育研究支援センターがある。第一技術班と第二技術班からなり、主に工場実習と実験実習をサポートしている(資料 2 - 2 - ③ - 3)。学級担任制の支援として、教務委員会、学生委員会と FD 委員会により学級担任の手引を年度ごとに改訂・作成し、各学級担任へ配布している(資料 2 - 2 - ③ - 4)。第 1 ~ 3 学年における特別活動(HR)では、各学級担任の計画をもとに、事前の調整を行い全体の計画表を作成し、実施している(資料 2 - 2 - ③ - 5)。学級担任の教育活動を円滑に行えるように支援する体制として、担任会や学科会議があげられる。担任会は各学年における学級担任で構成され、合同HRの実施打ち合わせやクラスの状況についての意見交換などを行っている(資料 2 - 2 - ③ - 6, 資料 2 - 2 - ③ - 7)。また、学科会議でも学級担任からの事案などを受け、審議や意見交換を行い学級担任の教育活動を支援している(資料 2 - 2 - ③ - 8, 資料 2 - 2 - ③ - 9)。本校には、学生のメンタルヘルスに関する業務を行う学生相談室が設置されている(資料 2 - 2 - ③ - 10)。学級担任が学生の精神面の健康状態を把握し、円滑な教育活動を行うため、

学生相談室の相談員と学級担任の打ち合わせや懇談会が行われている（資料 2-2-③-11，資料 2-2-③-12）。その他，全教職員を対象としたメンタルヘルス研修会が実施されている（資料 2-2-③-13）。この他，学級担任のクラス運営支援の一環として平成 23 年度より 1 年生から 3 年生までを対象とした Q U アンケートが実施されている（資料 2-2-③-14）。

工業高等専門学校という性質上，各部・同好会の技術指導の専門知識を有する教員数には限りがある。これを支援するため，各部・同好会には技術指導員をおくことができる（資料 2-2-③-15）。平成 24 年度は，12 のクラブで 14 名の方に技術指導員として指導を行って頂いた。

本校の充実振興について後援することを目的に，本校に在籍する学生の保護者その他趣旨に賛同する個人・団体によって木更津工業高等専門学校後援会が組織されている（資料 2-2-③-16）。部活動費，クラス運営にかかる費用（担任経費），専攻科学生の学会発表支援などが後援会から助成されている（資料 2-2-③-17）。

資料 2-2-③-1



資料 2 - 2 - ③ - 2

木更津工業高等専門学校事務組織規程(抜粋)

平成 19 年 4 月 1 日
規 則 第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校規則第 1 号）及び独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 4 号）第 9 条並びに木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年規則第 1 号）第 8 条第 1 項の規定に基づき、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及びその所掌事務について定める。

(事務組織)

第 2 条 本校の事務部に総務課及び学生課並びに別に定めるところにより係その他これに
～中略～

第 4 条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関する事。
- (2) 学生の修学指導に関する事。
- (3) 教育課程の編成及び授業に関する事。
- (4) 学生の学業成績の整理に関する事。
- (5) 学生の学籍に関する事。
- (6) 学生募集等の広報に関する事。
- (7) 学生課に属する公印の管守に関する事。
- (8) 学生の課外活動に関する事。
- (9) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (10) 学生及び学生団体の指導監督に関する事。
- (11) 学生の旅客運賃割引証その他証明に関する事。
- (12) 学生の奨学金に関する事。
- (13) 学生の進路指導に関する事。
- (14) 外国人留学生に関する事。
- (15) 学生の賞罰に関する事。
- (16) 学生の入学料、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する事。
- (17) 学生寮の管理運営に関する事。
- (18) 寮生の入退寮に関する事。
- (19) 寮生の生活相談等に関する事。
- (20) 学生の健康管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- (21) 学生のカウンセリングに関する事。
- (22) 事務の情報化推進及び情報管理に関する事。
- (23) ネットワーク情報センターの事務に関する事。
- (24) 図書を選定に関する事。
- (25) 図書館資料の受入れ、整理及び保管等に関する事。
- (26) 図書館資料の閲覧、貸出し等利用に関する事。
- (27) 図書館における参考奉仕（検索指導、読書相談等）に関する事。
- (28) その他学生課に関する事務を処理すること。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 19 年 4 月 1 日規則第 2 号)

資料 2 - 2 - ③ - 3

木更津工業高等専門学校教育研究支援センター規則(抜粋)

平成 20 年 9 月 11 日

規則 第 4 号

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第 8 条の 2 第 1 項に基づき、教育研究支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営その他必要な事項について定める。

(目的)

第 2 条 センターは、本校技術職員の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営を図るとともにその能力及び資質の向上を図り、もって学生の実験・実習、卒業研究及び教員の教育・研究を支援することを目的とする。

～中略～

～以下省略～

第 3 章 所掌業務

(業務)

第 7 条 センターは次の業務を行う。

- (1) 学生の実習の支援及び安全管理に関すること。
- (2) 卒業研究、実験の支援及び安全管理に関すること。
- (3) 学生の課外活動の支援に関すること。
- (4) 公開講座等学外者を対象とした技術教育の支援に関すること。
- (5) 民間企業との共同研究、技術援助の支援及び技術相談に関すること。
- (6) 施設設備及び機械器具等の使用、維持管理に関すること。
- (7) 研究・実験・実習に係る装置等の製作に関すること。
- (8) 技術発表会、技術講演会等の企画・実施に関すること。
- (9) その他教育及び研究の支援に関すること。

2 第 3 条第 1 項に定める班は、他の班から業務に関する協力依頼があった場合は、可能な限りそれを支援するものとする。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 20 年 9 月 11 日規則第 4 号)

学級担任の手引き（目次）

目 次

1.	学級担任の役割	1
2.	学級担任の基本姿勢	2
3.	各学年の指導上のポイント	3
4.	学生の健康管理	9
5.	事件事故防止に関する指導	10
6.	特別活動（H・R）	11
7.	学級担任の年間業務一覧	13
8.	緊急事態への対応	33
	参考資料	31

（出典 学級担任の手引きより抜粋）

資料 2 - 2 - ③ - 6

学級担任会議（抜粋）

(学級担任会議)

第 30 条 各学級担任が、担当事項について連絡協議するため、本校に学級担任会議を置く。

- 2 この会議に議長を置き、構成員の互選によって定める。
- 3 この会議の運営その他必要事項については、学級担任会議が定める。
- 4 この会議の事務は、学生課において処理する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和 56 年 4 月 1 日規則第 9 号)

資料 2 - 2 - ③ - 7

平成 24 年度担任会記録

第 1 学年

回数	月 日	概要
1	2月9日	新入生合宿研修の内容について
2	2月15日	新入生合宿研修の内容について
3	3月15日	新入生合宿研修の内容について
4	4月4日	始業式、オリエンテーションなどの日程について
5	4月6日	始業式、オリエンテーションなどの日程について
6	4月9日	新入寮生自己紹介への対応について
7	4月20日	QU アンケート、合同 HR について
8	4月26日	1・2年合同担任会、低学年指導について
9	5月25日	学園祭クラス企画について
10	6月28日	教科担当と担任との懇談会
11	7月3日	カウンセラーとの懇談会
12	7月20日	保護者面談についての情報交換
13	8月1日	QU アンケートの利用法について
14	10月16日	盗難事件、学園祭企画の準備、年度内再評価願の提出について
15	10月26日	学園祭の準備について
16	11月6日	最近の各クラスの状況についての意見交換
17	12月5日	合同 HR の講演会（飴細工職人）について
18	12月6日	1年合同 HR 球技大会について
19	1月8日	合同 HR の講演会（飴細工職人）について
20	3月14日	来年度 2 年担任会との引継ぎ

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 2 - 2 - ③ - 8

学科会議及び学系会議(抜粋)

(学科会議及び学系会議)

第 31 条 学科主任及び学系主任の所掌する校務に関して連絡協議するため、各学科及び学系に、それぞれ学科会議又は学系会議を置く。

2 これらの会議は、当該学科又は学系に属する専任教員又は関係職員をもって構成し、当該学科主任又は学系主任が主宰する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和 56 年 4 月 1 日規則第 9 号)

資料 2 - 2 - ③ - 9

学科会議議事要旨

第 05 回 電子制御工学科会議 議事要旨

- 日時: 2012-06-07 15:11-17:00
- 場所: 第 2 研究棟 3 階 コミュニティ G
- 途中退出: 鶴田, 臼井, 泉, 沢口 (16:30) (敬称を略しますがご了承下さい。)

~ 途中省略 ~

3 担任報告

3.1 D5 (大橋)

- 別紙を参照しつつ進路状況が報告された。

3.2 D4 (坂元)

- ○○君, 中間試験は受けない。母親の予想よりも長期化しており, 後期休学の可能性もある。
- 学外実習について, いろいろ進めている。

3.3 D3 (岡本)

- 中間試験終了まで様子見の方針である。
- 火, 木の放課後に実験報告書の指導を行った。レポート提出が無い学生, 完成度の低いレポートを提出する学生が対象なので, 該当者が居れば知らせて欲しい。次回は 6 月 21 日と 6 月 26 日を予定している。考察関連で筆が止まる傾向があり, 実験担当者の指導が望ましい。6 月 21 日は学科会議が予定されているため, TA による指導を検討する。D3○○君の 6/6 ぶんは提出が無かった。

3.4 D2 (沢口)

- D2 ○○君がサボり気味である。保護者懇談で様子を訊く。

3.5 D1 (伊藤)

- D1 ○○さんが退寮した。家庭の事情による。

3.6 DJ2(鈴木)

- 就職, D 出身の学生は決まった。
- 進学, DJ2○○, DJ2○○, DJ2○○から筑波への推薦希望があった。志望学科が異なった為, 3 名とも推薦した。今後は競合する可能性もあり, ルール作りが必要と思われる。

~ 以下省略 ~

(出典 平成 24 年度 第 5 回電子制御工学科会議議事要旨より抜粋)

木更津工業高等専門学校学生相談室規程

昭和 6 1 年 2 月 2 0 日
規 則 第 9 号

(設置)

第 1 条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生相談室を置く。

(業務)

第 2 条 学生相談室は、学生の修学その他日常生活に関する諸問題について本校学生の個人相談に応じるとともに、次の業務を行う。

(1) 学生のメンタルヘルスに関すること。

(2) 学生相談室の管理及び運営に関すること。

(室長及び相談員)

第 3 条 相談室に、室長及び相談員を置く。

2 室長は、相談業務に従事するとともに室務を総括する。

3 相談員は、相談業務に従事する。

(委嘱)

第 4 条 室長は、教授又は准教授の中から校長が委嘱する。

2 相談員は、次の各号に掲げるものについて校長が委嘱する。

(1) 室長が推薦した者 若干名

(2) 校長が必要と認めた者 若干名

3 室長及び相談員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

第 5 条 相談室の管理運営に関し審議するため、学生相談室委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 室長

(2) 相談員

(3) 学生課長

(4) その他校長が必要と認めた者

3 室長は、委員会を招集し、その議長となる。

(庶務)

第 6 条 相談室に関する庶務は、学生課学生係において行う。

(雑則)

第 7 条 この規程に定めるものの外、相談室に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規則は、昭和 6 1 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 1 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 1 9 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和 61 年 2 月 20 日規則第 9 号)

学生相談室打ち合わせ記録

3-3 相談室打ち合わせ記録（定常参加者：愛甲，田村，大澤）

相談室では，原則毎月打ち合わせを行っている。通常は相談室利用学生の情報共有が主で，相談室員である，カウンセラー，看護師，相談室長で打ち合わせを行う。しかし懸案事項がある場合は，担任や学生主事が入って，該当学生の情報共有や対応方法について話あう場合がある。備考欄にある職名が記載されている回がこれに相当する。

相談室打ち合わせ記録

回数	日付	概要	備考
1	4月9日	学生の状況，今年度予算等 メンタルヘルスアンケートについて	学生課長
2	4月20日	学生の情報交換	
3	5月10日	発達障害学生のための補講に関して 講演会の予定	特別補講の講師
4	5月11日	5E, 4D 学生の状況	学生主事 5E, 4D 担任
5	5月12日	5E 保護者面談	5E 担任
6	5月25日	講演会の件，清水先生の補講 学生の情報交換	
7	6月29日	学生の状況説明	
8	7月20日	9月の講演会について 厚生補導の講演について 学生の情報交換	
9	8月6日	学生の情報交換(ME2 学生の件)	
10	9月27日	学生の情報交換	
11	10月23日	学生の情報交換	
12	10月26日	学生の情報交換 学園祭の講演会打ち合わせ	学生主事 卒研担当教員
13	11月30日	学生の情報交換	
14	12月20日	学生相談室リーフレット 来年度の講演（宇都宮大：梅沢先生） 学生の情報交換	
15	2013年 1月31日	新入生への相談室紹介について QUテスト，特別支援コーディネータ 教職員メンタルヘルス研修会 9/26 予定 学生の情報交換	
16	2月22日	相談室年間報告書について メンタルアンケートについて（マーク シート方式） 学生の情報交換	
17	3月14日	学生の情報交換(3J 学生の件)	
18	3月26日	学生の情報交換	

（出典 学生相談室 平成24年度報告書 8頁）

資料2-2-③-12

学生相談室と担任教員との情報交換

3-4 担任教員との情報交換

平成24年7月3日、1年担任の先生方（清野，五十嵐，鈴木(道)，伊藤(操)，山下 各教員）と情報交換を行った。それぞれの担任の学生で、相談室に関わる学生の情報で、支障無いと判断した内容について、情報交換を行った。

担任の先生方からは、2年もしくは3年生の教員と行った方が効果的ではないかとの意見もあった。

この年は他の学年の担任との懇談は行わなかった。次年度は、検討したい。

(出典 学生相談室 平成24年度報告書 9頁)

資料2-2-③-13

教員向け講演会

1-2 教員向け講演会

(a) 第14回教職員メンタルヘルス研修会

日時：平成24年9月25日(火) 15時～16時半

演題題目：専門教育とレジリエンス

講師：日本臨床心理士会会長 村瀬嘉代子

会場：第1講義室

出席者数：55名

(b) 教職員厚生補導研究会

日時：平成24年8月28日(火)

講演題目：基調報告「学生相談室の現状について」

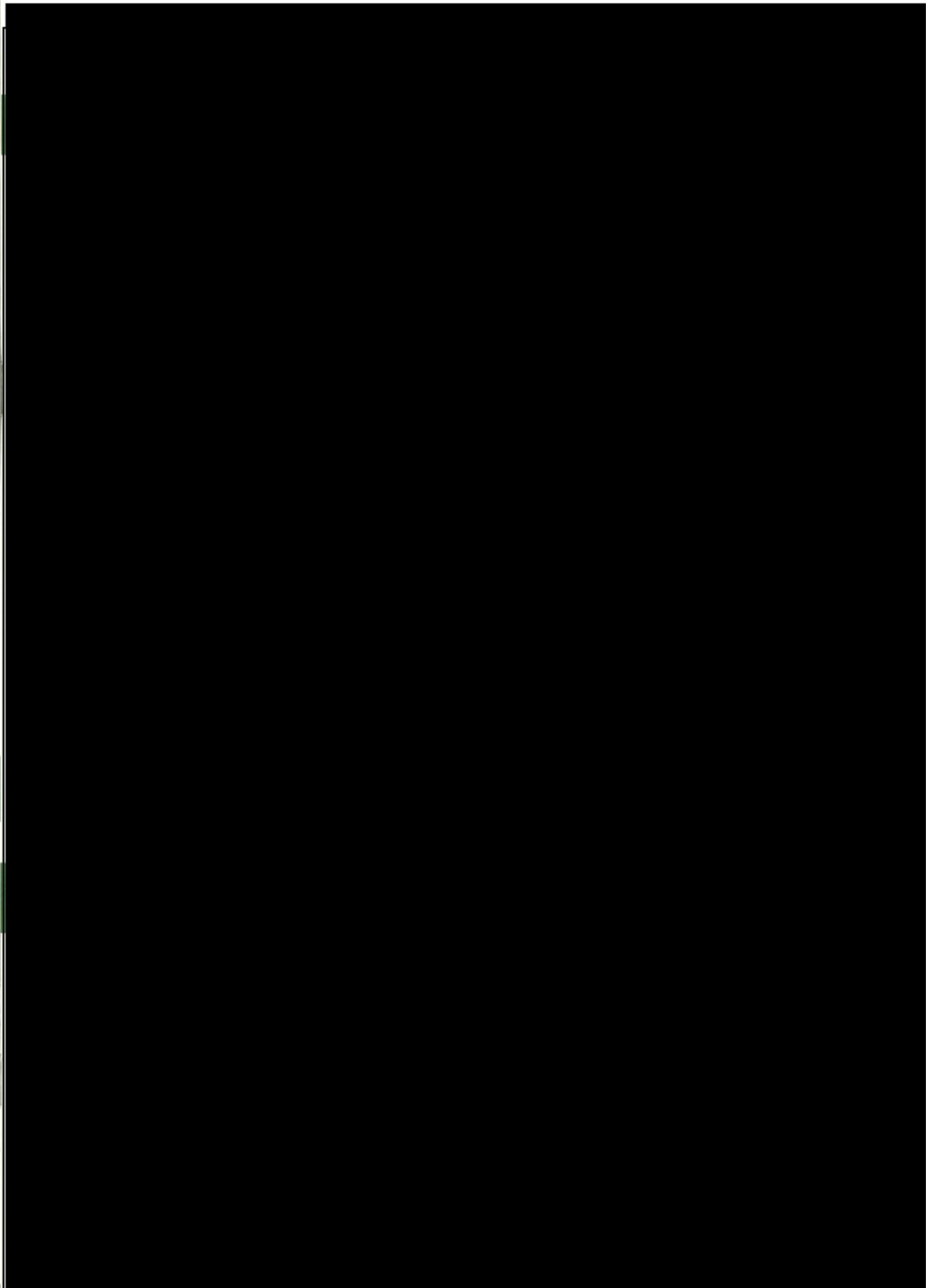
会場：本校第1講義室

講師：本校カウンセラー 愛甲修子

出席者数：65名

(出典 学生相談室 平成24年度報告書 4頁)

QU アンケート



(出典 QU アンケートの冊子)

資料 2 - 2 - ③ - 15

木更津工業高等専門学校学友会部・同好会技術指導員要領(抜粋)

昭和 56 年 9 月 17 日

細 則 第 14 号

- 1 本校学友会の部・同好会活動の技術を向上させるため、技術指導員（以下「コーチ」という。）を置くことができる。
- 2 コーチは、指導教員の指示を受けて、専門的技術指導に当たるものとする。
- 3 コーチは、指導教員の推薦に基づき校長が委嘱する。ただし、学内者からの委嘱は勤務時間外とし、本務に支障を来たさないよう配慮するものとする。
- 4 コーチは、特定の日時に技術指導に当たる。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和 56 年 9 月 17 日細則第 14 号)

資料 2 - 2 - ③ - 16

木更津工業高等専門学校後援会会則

(名称及び事務所)

第 1 条 本会は、木更津工業高等専門学校後援会（以下「本会」という。）と称する。

第 2 条 本会は、事務所を木更津工業高等専門学校内に置く。

(目的及び事業)

第 3 条 本会は、木更津工業高等専門学校の充実振興について後援し、もって同校の発展に寄与することを目的とする。

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 学校の諸施設、設備の充実助成に関する事。
- (2) 学生の課外活動並びに福利厚生助成に関する事。
- (3) 教職員の研究の助成に関する事。
- (4) 就職先の開拓及び斡旋の助成に関する事。
- (5) その他本会の目的達成に必要な事業に関する事。

(会員)

第 5 条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 木更津工業高等専門学校に在学する学生の保護者。
- (2) 賛助会員 本会の趣旨に賛同する個人及び団体。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校後援会会則)

資料 2 - 2 - ③ - 17

後援会クラブ活動助成費関係等の支出基準

このことについて、学生保護者より後援会会費（入会金15,000円 年会費18,000円）を原資として従来より下記のとおり各方面にわたり補助等をしておりますので、お知らせいたします。

記

	項 目	備	考	
ク ラ ブ 活 動 助 成 費	クラブ指導費	1部・1同好会の指導に対して部同好会当たり 5,000円	後援会職員（学生課）に請求	
	クラブ物品援助費	体育系 20,000円 文化系 15,000円 同好会 10,000円	希望物品一覧を学生課学生係へ提出	
	課外活動指導費	休日に3時間以上の部活動の指導を行った場合 1回につき 2,400円	部活動指導業務実施報告書を学生課 学生係へ速やかに提出	
	合宿指導費	1泊の勤務につき 3,000円		
	活 動 助 成 費	クラブ引率旅費	交通費 実費 宿泊料 実費	活動計画に合致しているものに限る ただし、予算の範囲で調整あり
		地区大会遠征費等顧問 学生	交通費 実費 宿泊料 実費	
			負担割合	交通費・宿泊料及び弁当代の総額を後援会、学友会、学生で各1/3 乗車券は参加人数により団券・学割適用
		全国体育大会遠征費	同 上	
	英語弁論大会旅費	同 上		
	文化発表会旅費	同 上		
その他の旅費等	交通費 実費 宿泊料 実費 その他 実費 (ホッケー部東日本大会、棋 道部全国将棋大会、自動車部エコラン大会等)			
厚 生 補 導 関 係 等	学生指導費	主事(3名) 主事補(9名) 金額 10,000円 専攻科長・副専攻科長 金額 10,000円	各主事、専攻科長が代表して学生課 後援会職員へ請求	
	担任経費	学級担任経費	1クラス 10,000円	学年主任が代表して学年分を一括 して学生課の後援会職員へ請求
		学年共通通費	各学年 20,000円	経費は学年主任が後援会職員（学生 課）に請求
	新入生歓迎会		各学科 10,000円	学生課学生係へ領収書を提出
	卒業生追出会		各学科 10,000円	学生課学生係へ領収書を提出
	弔慰金	学生の父母（生計を同一にしている者）が死亡 した場合 金額 10,000円		担任教員は、学生課学生係へ連絡
	表彰関係	表彰規程に定める表彰該当者に表彰状及び記 念品		各種大会等で上位入賞の場合は学 生課学生係へ連絡（推薦書提出）
	卒業生との就職懇談会		各学科 20,000円	領収書を学生課学生係へ提出
	就職依頼旅費	就職開拓旅費	各学科 30,000円	
	卒業研究資料代	卒業研究資料代	各教員 10,000円	領収書を後援会職員（学生課）へ
専攻科等研究補助	論文発表1回につき10,000円上限（交通費実費）1人年2回限度 5年生も可		後援会職員へ請求（専攻主任から）	
専攻科ティーチングアシスタント	1人週4時間、年48時間上限		後援会職員へ請求（専攻科長から）	

(出典 木更津工業高等専門学校後援会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学級担任が円滑に教育活動を実施するために、学生課では教育課程の編成・実施、進路指導、課外活動など多岐にわたる分野で支援を行っている。技術的な教育サポートは教育研究支援センターが担っている。また、担任会、学科会議、学生相談室などの担任を支援する体制が整えられている。部・同好会の技術指導員を置くことができる制度なども整えられている。後援会からも、クラブ活動費、クラス運営費、専攻科生の学会発表費用などが助成されている。

以上のことから、本校では教育活動を円滑に実施するための支援体制が整備され、それらの体制は十分に機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

平成25年度から、ネットワーク情報センターのパソコンを平日8時半から20時、土曜日12時から17時まで学生が利用できるようにし、学生へのサービスを向上した。

地域共同テクノセンターが地域企業等とのつながりを活かして「企業技術者等活用プログラム」等による教育活動を行っている。

一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携の一環として第1期目(平成16年度～平成22年度)の「教科と学科の懇談会」が実施された。平成24年度より第2期目の懇談会が実施されている。また、創設当時から教員談話室という教職員用コミュニティルームを設けてあり、継続的に教員間の連携が行われている。この他、「1・2年教科担当と担任の懇談会」、QUアンケートの導入など低学年教育のサポートを強化している。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準2の自己評価の概要

準学士課程を構成する5学科の達成項目は、学習・教育目標に対応して各学科の専門分野に応じて具体化されている。また人文学系、基礎学系が学科によらない共通の素養に関する教育を行う体制になっている。

専攻科課程の3専攻の達成項目は、学習・教育目標に対応して各専攻の専門分野に応じて具体化されている。また人文学系、基礎学系が専攻によらない共通の教養教育を行う体制になっている。

全学的なセンターであるネットワーク情報センター、実習工場、地域共同テクノセンターは、実験実習をはじめとする授業や卒業研究、専攻科特別研究などにおける教育に活用されている。

教育活動を展開する上で重要な事項を審議・運営する組織として、運営協議会を主軸に、教員会議、教務委員会、専攻科委員会、将来構想検討委員会が設置されている。各委員会を統制し、教育課程全体を企画調整する役割を運営協議会が担っている。以上のことから、教育活動全体を企画調整し、有効に展開するための検討・運営体制が整備され、審議などの十分な活動が行われている。

本校では、一般科目担当教員と専門科目担当教員間の連携を目的として「教科と学科の懇談会」、
「1・2年教科担当と担任の懇談会」実施している。この他、教職員用コミュニティルームとしての教員談話室を設けることで、教員間の連携を強化している。

学級担任が円滑に教育活動を実施するために、学生課では教育課程の編成・実施，進路指導，QUアンケートの実施，課外活動などの多分野で支援を行っている。また，担任会，学科会議，学生相談室などの体制があり，人的支援を行っている。後援会からもクラブ活動費，クラス運営費，専攻科生の学会発表費用などが助成されている。以上のことから，本校では教育活動を円滑に実施するための支援体制が整備され，それらの体制は十分に機能している。

基準 3 教員及び教育支援者等

(1) 観点ごとの分析

観点 3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校は1学年5学級である。一般科目を担当する専任教員は25名（人文学系13名，基礎学系12名）であり，高等専門学校設置基準第6条（資料3-1-①-1）で定められた22名以上を満たしている。

人文学系科目は本校の準学士課程における「1. 人間形成，3. コミュニケーション能力」を主に達成するために設置されている科目であり，担当する専任教員は13名，非常勤講師は20名である（資料3-1-①-2）。「1. 人間形成」では，国語や体育，社会，美術，音楽等の人間性の基礎となる教養科目があり，これらは専任教員の専門分野については専任教員が担当し，他分野については非常勤講師が補っている。また，「3. コミュニケーション能力」にかかわる国語（現代国語）等の重要科目は低学年を専任教員が担当し，高学年を専門性に適した非常勤講師が担当している。また，外国人のネイティブスピーカーを非常勤講師として配置し，実践的な英会話能力の習得を図っている。

基礎学系（数学・物理学・化学等）の一般科目を担当する専任教員は12名，非常勤講師は5名であり，それぞれの専門分野に適した授業科目を担当している（資料3-1-①-3）。基礎学系科目は本校の準学士課程における「2. 科学技術の修得」を主に達成するために設置されている科目であり，専門科目を修得するために基礎となる科目であるため，特に重要な低学年では主に専任教員が担当している。

「3. コミュニケーション能力」「4. 創造性」を養う一般科目として，本校の特色でもある第3学年の一般特別研究がある。これは，専任の一般科目教員が，各自の専門性を活かした内容の講座を開き，学生が各講座のテーマに沿った研究内容を進め，論文作成や口頭発表等をする科目である（資料3-1-①-4）。

資料 3-1-①-1

高等専門学校設置基準

(第6条) 高等専門学校には，学科の種類及び学級数に応じ，各授業科目を教授するために必要な相当数の教員（助手を除く。以下この条において同じ。）を置かなければならない。

2 教員のうち，第16条に規定する一般科目を担当する専任者の数は，次の各号に上げる数を下ってはならない。

- 一 入学定員に係る学生を1の学級に編制する場合は，10人
- 二 入学定員に係る学生を2の学級に編制する場合は，12人
- 三 入学定員に係る学生を3の学級に編制する場合は，14人
- 四 入学定員に係る学生を4の学級から6の学級までに編制する場合は，14人に3学級を超えて1学級を増すごとに4人を加えた数
- 五 入学定員に係る学生を7以上の学級に編制する場合は，26人に6学級を超えて1学級を増すごとに3人を加えた数

(出典 高等専門学校設置基準)

資料3-1-①-2 (1/2)

平成24年度 人文学系 教員・一般科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	五十嵐 讓介	国語Ⅰ	俳諧研究	文学修士
		国語Ⅱ		
		日本文化論		
		国文学特論		
		一般特別研究		
教授	清水 公男	英語ⅡA	英語力の測定と評価, 教師認知研究, 英語教育学	文学修士
		英語演習Ⅰ		
		英語演習Ⅱ		
教授	荒木 英彦	英語Ⅲ	英語教育, ドイツ文学, 水泳指導法	文学士
		一般特別研究		
教授	篠村 朋樹	保健体育Ⅰ	コーチ学(バレーボール)	修士(体育学)
		保健体育Ⅱ		
		体育Ⅲ		
教授	小澤 健志	英語ⅠA	英語教育, アメリカ自然主義文学, シェイクスピア批評史	教育学修士
		英語演習Ⅱ		
		一般特別研究		
教授	清野 哲也	保健体育Ⅰ	コーチ学(柔道), 運動生理学	体育学修士
		保健体育Ⅱ		
		体育Ⅲ		
准教授	柴田 育子	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語教育, 西洋思想史	修士(文学)
		ドイツ語Ⅱ		
		ドイツ語特論		
准教授	瀬川 直美	英語ⅠB	英語教育, 英語指導法・教材論	修士(教育学)
		英文法Ⅱ		
准教授	武長 玄次郎	歴史Ⅰ	経済史, イギリス農業革命	博士(経済学)
		経済学		
准教授	坂田 洋満	保健体育Ⅰ	コーチ学(陸上)	修士(体育学)
		保健体育Ⅱ		
		体育Ⅱ		
		一般特別研究		
准教授	加藤 達彦	国語Ⅰ	日本近代文学, 文化研究	博士(文学)
		国語Ⅱ		
		日本文化論		
		一般特別研究		
准教授	岩崎 洋一	英文法Ⅰ	英語教育, CALL, 英語語彙分析	修士(教育学)
		英語ⅡB		
特任教授	平安 隆雄	歴史Ⅱ	西洋史, 日仏交流史	文学修士
		技術と社会		

資料3-1-①-2 (2/2)

2. 非常勤講師

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
講師	小林 美鈴	国語表現	国語教育	文学士
		国語Ⅲ		
講師	竹内 直人	国語Ⅲ	日本近代文学	修士(文学)
講師	岡 啓輔	日本文化論	建築家	
講師	James Paul Grant	英会話Ⅰ	英語教育	学士(理学)
		英会話Ⅱ		
		英語表現		
講師	Allan Doyle	英会話Ⅰ	英語教育	理学士
		英会話Ⅱ		
講師	松山 峰子	中国語	中国語教育	修士
講師	今山 正幾	現代の社会	美術史, 芸術史	修士(文学)
		社会学		
講師	川元 豊和	現代の社会	人文地理学	博士(地理学)
講師	太田 潤一	心理学	臨床心理学	文学士
講師	魚谷 雅広	技術と社会	西洋倫理学, 倫理思想	博士(文学)
講師	小松崎 利明	法学	行政法, 国際法	修士(行政学)
講師	大山 浩太	ドイツ語Ⅱ	現代ドイツ文学	修士(文学)
講師	真鍋 清孝	体育Ⅰ	スポーツ健康科学	修士(スポーツ健康学)
講師	高田 佑輔	体育Ⅰ	スポーツ科学	修士(人間科学)
講師	高寄三朗	美術	日本画	修士(芸術学)
講師	斎藤 恵美子	音楽	音楽理論	修士(音楽)
講師	中村 光孝	英語演習Ⅰ	英語教育	修士(教育学)
講師	白石 知代	日本語	日本語教育	修士(人文学)
講師	八藤後 和春	英文法Ⅱ	英語教育	文学士
講師	中西 邦夫	英語ⅠB	英語教育	文学士

(出典 平成24年度 授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-①-3 (1/2)

平成24年度 基礎学系 教員・一般科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	鎌田 勝	基礎数学Ⅲ	自己双対ゲージ場の構成と q-解析, 一般階数微積分と可積分系, 低次元重力理論	理学博士
		解析ⅠA		
		解析ⅠB		
		数学演習B		
		応用数学B		
一般特別研究				
教授	相川 正美	化学	金属錯体の科学, 環境科学	理学博士
		環境化学特論		
教授	関口 昌由	基礎数学	ハミルトン力学系	博士(理学)
		基礎数学Ⅱ		
		解析ⅠA		
		解析ⅠB		
		応用数学特論		
一般特別研究				
教授	福地 健一	物理学Ⅲ	蛍光計測に基づく植物生育診断	博士(工学)
		応用物理Ⅰ		
		応用物理実験		
		一般特別研究		
教授	鈴木 道治	基礎数学Ⅰ	偏微分方程式論, 数学教育	理学修士
		基礎数学Ⅱ		
		代数幾何		
		解析Ⅱ		
		数学演習A		
		応用数学A		
		一般特別研究		
准教授	山下 哲	基礎数学Ⅰ	数学教育, 数式処理, 位相幾何学 グラフ理論	博士(理学)
		基礎数学Ⅱ		
		基礎数学Ⅲ		
		解析ⅠA		
		解析ⅠB		
		解析Ⅲ		
		応用数学A		
		統計学		
一般特別研究				
准教授	金子 真隆	基礎数学Ⅰ	教材中の挿図がもたらす教育効果 に関する研究	博士(数理科学)
		基礎数学Ⅱ		
		代数幾何		
		統計学		
		応用数学C		

資料3-1-①-3 (2/2)

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
准教授	吉井 文子	基礎化学	香料化学, 計算化学	博士(学術)
		応用化学特論		
		一般特別研究		
准教授	田所 勇樹	外地研修 (平成24年度)	トポロジー, 複素解析, リーマン面	博士 (数理科学)
准教授	阿部 孝之	基礎数学Ⅰ	非圧縮性粘性流体の数学的解析, 実解析学	博士(理学)
		基礎数学Ⅱ		
		代数幾何		
		解析Ⅲ		
		応用数学C		
講師	嘉数 祐子	物理学Ⅱ	海洋混合層の変動, 蛍光計測による植物生育診断	博士(工学)
		応用物理実験		
		一般特別研究		
講師	高谷 博史	基礎科学	高エネルギー物理学実験, 医学物理, 物理教育	博士(理学)
		物理学Ⅰ		
		応用物理Ⅱ		
嘱託教授	高橋 邦夫	応用物理実験	光応用計測	博士(工学)

2. 非常勤講師

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
講師	伊藤 真吾	解析Ⅲ	解析学	博士(理学)
		基礎数学Ⅲ		
講師	小松 直樹	応用物理Ⅲ	物性物理学	修士(理学)
講師	藤岡 導明	地学	地質学	博士(理学)
講師	平山 明彦	生物学	生命科学	歯学博士
講師	福室 康介	解析Ⅱ	代数学	修士(理学)

(出典 平成24年度授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-①-4

一般特別研究のシラバス

授 業 科 目		一般特別研究	
開設学科学系	人文学系および基礎学系	区分・単位数	必修・1単位
受講年科・学期	3年全学科・通年	授 業 形 態	各担当教員による
キ ー ワ ー ド	各講座による		
関 連 科 目	各講座による		
担 当 教 員	下表参照		
連絡先(オフィス・アワー)	講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
教 科 書	講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
補 助 教 科 書 等	講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
参 考 図 書	講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
プログラム目標			
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・ 研究を進める上で必要な基礎知識を、講義、書籍の講読やオーディオ資料の視聴によって習得することができる。		講座ごとに決定する。	
・ 習得した基礎知識に立脚して、新たな課題を発見することができる。		講座ごとに決定する。	
・ インターネットや実地調査、実験や計算、論理的な演算等を駆使し、発見した課題に対して解答することができる。		講座ごとに決定する。	
・ 得られた結果を、専門外の人間にも分かりやすい形で伝達することができる。		講座ごとに決定する。	
・ 他の学生の発表を聴き、その内容を理解するとともに、積極的に疑問点について質問し、発表者との間でコミュニケーションを取ることができる。		講座ごとに決定する。	
履 修 上 の 注 意	学生諸君が自主的に調査や研究、時には実験や実技に取り組むという積極的な姿勢を持つこと。肝心な点は、この科目は教員と学生が共同して作り上げるということで、何よりも学生個々の意欲を期待したい。		
開 講 予 定 講 座 と 担 当 教 員 の 一 覧			
講 座 名		担 当 教 員	
1.	世界一の人力井戸掘り技術「上総掘り」	五十嵐 謙介	
2.	高専生がつくる理想の国語教科書国際理解	加藤 達彦	
3.	クリティカル・シンキング入門	清水 公男	
4.	日本の諸問題を考える	小澤 健志	
5.	「幸福論」研究	荒木 英彦	
6.	ハリー・ポッターとイギリス社会	武長 玄次郎	
7.	お騒がせ国家・イスラエル国を知る	平安 隆雄	
8.	スポーツ動作分析入門	坂田 洋満	
9.	点渦系のダイナミクス3	関口 昌由	
10.	複雑系を考える	鎌田 勝	
11.	線画による図形の世界	山下 哲	
12.	経済学を数理のメガネで見ると…	金子 真隆	
13.	ゲーム理論に挑戦してみないか	鈴木 道治	
14.	原子力と放射線	福地 健一	
15.	海の中を知る	嘉数 祐子	
16.	化学であそぼう	吉井 文子	
評価方法	各担当教員によるが、授業の参加状況や内容、学年末に提出する論文および特研発表会での発表等を総合評価する。		

(出典 平成24年度シラバス一般科目 43頁)

(分析結果とその根拠理由)

本校は1学年5学級であり、25人の専任教員が配置されており、設置基準を満たしている。一般科目は本校の教育目的を達成するために設置されている科目である。これらの科目を担当する教員は、専任・非常勤ともに専門性を考慮した適切な配置となっている。また、低学年の授業において、教育の核となる授業科目には重点的に専任教員が配置されている。

以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な一般科目担当教員は適切に配置されている。

観点 3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の専門5学科(機械工学科, 電気電子工学科, 電子制御工学科, 情報工学科, 環境都市工学科)の専任教員数は50名であり, 高等専門学校設置基準(資料3-1-②-1)に基づき教員配置がなされている。本校専任教員は人文・基礎学系を合わせて75人である。うち, 専門5学科の教授・准教授(39人)が占める割合は約51%である。専門科目は本校の教育目的「2. 科学技術の修得, 4. 創造性」を達成するために必要な科目であり, 科目内容と担当教員の専門分野の一致が必要である。各学科の教員・専門科目一覧を資料3-1-②-2~6に示す。専門科目担当の非常勤講師は17名である。一般科目と同様に, 低学年の科目は専任教員が重点的に担当する配置となっている。これらの資料から, 科目内容と担当教員の専門分野の整合性が取れた配置が明らかである。5学科の教員における修士以上の学位取得率は94%, 非常勤講師では83%であり, 専門基礎科目を教授する資質を十分持っている(資料3-1-②-7)。また, 企業・公共団体の実務経験のある専門専任教員の割合は42%, 実務にも明るい教員が多い(現地閲覧資料3)。教員の前歴については人事書類を出典とするため, 現地閲覧資料として提示する。

資料 3-1-②-1

高等専門学校設置基準

(第6条) 高等専門学校には, 学科の種類及び学級数に応じ, 各授業科目を教授するために必要な相当数の教員(助手を除く。以下この条において同じ。)を置かなければならない。

3 教員のうち, 工学に関する学科において第16条に規定する専門科目を担当する専任者の数は, 当該学校に1の学科をおくときは, 8人, 2以上の学科をおくときは8人に1学科を超えて1学科を増すごとに7人を加えた数を下ってはならない。この場合において, 1学科の入学定員に係る学生を2以上の学級に編制するときは, これらに1学級を超えて1学級を増すごとに5人を加えるものとする。

(第7条) 高等専門学校は, 演習, 実験, 実習又は実技を伴う授業科目については, なるべく助手に補助させるものとする。

(第8条) 専門科目を担当する専任の教授及び助教授の数は一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の2分の1を下ってはならない。

(出典 高等専門学校設置基準)

資料3-1-②-2 (1/3)

平成24年度 機械工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	高橋 秀雄	材料力学Ⅱ	機械要素の性能評価	博士(工学)
		設計法		
		機械工学概論		
		工学実験Ⅰ		
		工学実験Ⅱ		
		工学実験Ⅲ		
		製作実習Ⅰ		
		課題研究		
		卒業研究		
教授	丸岡 邦明	工業力学	薄鋼板の製造法および利用技術, 人間中心デザイン	博士(工学)
		数値計算法		
		工学演習		
		材料学Ⅱ		
		機械工学概論		
		工学実験Ⅱ		
		工学実験Ⅲ		
		工学実験Ⅳ		
		課題研究		
卒業研究				
教授	石出 忠輝	水力学	剥離流れ, 空気力学, 可視化画像計測	博士(工学)
		流体力学		
		数値流体力学		
		機械工学概		
		工学実験Ⅴ		
		工学実験Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		
教授	内田 洋彰	自動制御	6脚ロボットの歩行制御, 姿勢制御, 柔軟アームの位置と力制御	博士(工学)
		マイコン制御		
		ロボット制御		
		電気工学実験		
		工業力学		
		機械工学概論		
		工学実験Ⅲ		
		工学実験Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		

資料3-1-②-2 (2/3)

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	黄野 銀介	材料力学Ⅰ	材料の衝撃特性評価(シャルピー衝撃試験), 研磨加工	博士(学術)
		機械工作法		
		工業英語演習		
		製作実習Ⅱ		
		機械工学概論		
		工学実験Ⅲ		
		工学実験Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	小田 功	計測工学	光応用技術の開発	博士(工学)
		製作実習Ⅲ		
		センサ工学		
		設計製図Ⅱ		
		工学実験Ⅰ		
		工学実験Ⅲ		
		工学実験Ⅳ		
		論文作成技法		
		学外実習		
		機械工学概論		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	板垣 貴喜	機械力学	機械の振動・騒音の測定, 摩擦・ 摩耗・潤滑	修士(工学)
		情報処理Ⅰ		
		設計製図Ⅱ		
		情報処理Ⅱ		
		製作実習Ⅳ		
		工学実験Ⅲ		
		工学実験Ⅳ		
		機械工学概論		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	伊藤 裕一	設計製図Ⅰ	乱流熱流体现象の予測, ハイパフ パフォーマンスコンピューティング	博士(工学)
		熱力学		
		情報処理Ⅰ		
		情報処理Ⅱ		
		製作実習Ⅱ		
		工学実験Ⅱ		
		工学実験Ⅲ		
		工学実験Ⅳ		
		機械工学概論		
		課題研究		
		卒業研究		

資料3-1-②-2 (3/3)

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
講師	歸山 智治	図学製図	画像工学, 人間工学	博士(工学)
		機械運動学		
		論理回路		
		機構学		
		電気工学実験		
		工学実験Ⅰ		
		工学実験Ⅱ		
		工学実験Ⅳ		
		機械工学概論		
		課題研究		
		卒業研究		

2. 非常勤講師

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
講師	中川朝之	伝熱工学	製鉄工程における熱および物質移動	博士(工学)
講師	川崎 薫	材料学Ⅰ	薄鋼板の材料学	工学修士
講師	塩谷 政典	電気電子回路	電気計測制御	修士
講師	永山 啓樹	自動車工学	自動車部品設計	学士

(出典 平成24年度授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-②-3 (1/2)

平成24年度 電気電子工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	石川 雅之	電子回路Ⅰ	アナログフィルタ（能動RCフィルタ，スイッチトキャパシタフィルタ），発振回路	博士(工学)
		電子回路Ⅱ		
		回路網理論		
		実験実習Ⅲ		
		課題研究		
		卒業研		
教授	大澤 寛	コンピュータ工学Ⅱ	パワーエレクトロニクス，DC/DC電源，太陽電池の電力変換技術	工学修士
		コンピュータ実習		
		電気機器		
		電気数学演習B		
		パワーエレクトロニクス		
		実験実習Ⅲ		
		実験実習Ⅳ		
		電気法規		
		電気回路Ⅱ		
		課題研究		
卒業研				
教授	上原 正啓	電気磁気学Ⅱ	電磁界理論，電磁波工学，静磁波工学	博士(工学)
		情報処理演習		
		電気磁気学Ⅲ		
		電気数学演習A		
		実験実習Ⅰ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研		
教授	石井 孝一	情報伝送工学	高周波工学，ナノメートル微細加工技術，超伝導薄膜による電磁波検出素子	工学士
		電子計測		
		工学基礎演習Ⅰ		
		工学基礎演習Ⅱ		
		実験実習Ⅲ		
		実験実習Ⅳ		
		電気法規		
		課題研究		
		卒業研		
准教授	柏木 康秀	放電工学	浴面放電，バリア放電，マイクロギャップ放電，真空紫外光，インパルス高電圧・大電流測定	博士(工学)
		高電圧大電流工学		
		電力工学		
		電気回路Ⅱ		
		実験実習Ⅱ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
卒業研				

資料3-1-②-3 (2/2)

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
准教授	岡本 保	電子工学	半導体物性, 半導体デバイス, 光計測	博士(工学)
		半導体工学		
		電気電子材料		
		電気磁気学Ⅰ		
		実験実習Ⅰ		
		実験実習Ⅳ		
		電気電子工学概論		
		課題研究		
		卒業研		
准教授	飯田 聡子	内地研修 (平成24年度)	磁性薄体を用いた磁気センサ, 電解めっき法による軟磁性薄体 の作製	博士(工学)
准教授	大野 貴信	工業英語演習	高周波フィルタやノイズ抑制シ ートの開発, マイクロ波・ミリ 波帯における誘電率測定	博士(工学)
		電気回路Ⅲ		
		情報通信Ⅰ		
		情報処理Ⅰ		
		情報処理Ⅱ		
		コンピュータ工学Ⅰ		
		電気電子工学概論		
		実験実習Ⅰ		
		課題研究		
		卒業研		
講師	浅野 洋介	制御工学Ⅰ	制御工学, モーションコントロ ール, ロボティクス, ロボット ビジョン, 福祉工学	博士(工学)
		制御工学Ⅱ		
		電気回路Ⅰ		
		実験実習Ⅱ		
		課題研究		
		卒業研		
助手	吉崎 静男	工学基礎演習Ⅰ	論理回路, 電子工作技術	
		工学基礎演習Ⅱ		
		実験実習Ⅰ		
		実験実習Ⅱ		
		課題研究		
		卒業研		

2. 非常勤講師

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
講師	鈴木 直央	コンピュータ工学Ⅲ	情報工学, システム工学	学士
講師	松崎 洋仁	情報通信Ⅱ	電気通信, ネットワークシステ ム	

(出典 平成24年度授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-②-4 (1/2)

平成24年度 電子制御工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	橘川 五郎	電気回路Ⅱ	電圧変換回路(昇圧, 降圧), デバイスモデリング, 発振回路, 信号インターフェース	博士(工学)
		制御機器		
		実験実習Ⅲ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		
教授	伊藤 操	材料力学Ⅰ	材料力学, 塑性加工	工学博士
		材料力学Ⅱ		
		精密工学		
		制御機器		
		実験実習Ⅰ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		
教授	鴫田 正俊	ロボット工学	適応制御系および知的制御系の 構築, ロボット工学	博士(工学)
		実験実習Ⅲ		
		課題研究		
		卒業研究		
教授	鈴木 聡	電子工学Ⅰ	半導体物性, マイコンによる計 測・制御	博士(工学)
		電子工学Ⅱ		
		電子材料		
		実験実習Ⅲ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	臼井 邦人	電磁気学Ⅰ	教育工学, 情報通信工学	工学修士
		プログラミング技法		
		電気回路Ⅰ		
		実験実習Ⅰ		
		実験実習Ⅱ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	大橋 太郎	計測工学	制御工学, 各種センサを用いた 自動計測と制御, 機械動力学	修士(工学)
		電子計算機Ⅱ		
		制御工学Ⅱ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		

資料3-1-②-4 (2/2)

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
准教授	泉 源	電磁気学Ⅱ	アンテナ設計・評価, 電磁界解析	博士(工学)
		電子回路Ⅱ		
		実験実習Ⅱ		
		実験実習Ⅲ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	岡本 峰基	製図	制御工学, 振動工学	博士(工学)
		機械力学		
		制御工学Ⅰ		
		実験実習Ⅲ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		
講師	坂元 周作	総合演習	計測工学, 超電導工学	博士(工学)
		情報処理		
		工業英語演習		
		電子回路Ⅰ		
		実験実習Ⅱ		
		実験実習Ⅲ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
卒業研究				
講師	沢口 義人	機械制御入門	生体医工学, 信号処理, 制御工学	博士(工学)
		計算機制御工学		
		電子計算機Ⅰ		
		実験実習Ⅰ		
		実験実習Ⅱ		
		実験実習Ⅲ		
		課題研究		
		卒業研究		

2. 非常勤講師

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
講師	松坂 壮太	設計工学	レーザ加工学, 溶接・接合工学	博士(工学)
講師	森 康久仁	工業解析	パターン認識, 機械学習, 情報可視化	博士(工学)
講師	下馬場 朋禄	情報工学	計算機工学, 波動光学, ホログラフィー	博士(工学)
講師	遠藤 洋一	熱流体力学	流体力学, 熱力学	修士(工学)
講師	栗山 幸久	システム工学	塑性力学, 安全工学, 社会システム工学	博士(工学)

(出典 平成24年度授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-②-5 (1/2)

平成24年度 情報工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	栗本 育三郎	電子計算機Ⅱ	近赤外分光法を用いた脳機能信号解析, ヒューマンインターフェース	博士 (情報理工学)
		計算機インターフェース		
		ソフトウェア設計		
		課題研究		
		卒業研究		
教授	和崎 浩幸	電気回路	画像処理	博士(工学)
		電子回路		
		オペレーティングシステム		
		画像情報システム		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		
教授	和田 州平	情報数学	作用素論	博士(理学)
		情報理論		
		理工学演習		
		実験実習Ⅰ		
		実験実習Ⅱ		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	丸山 真佐夫	コンピュータ入門	並列プログラムのデバッグ, 囲碁対局システム	博士(工学)
		言語処理系		
		プログラミング演習Ⅲ		
		実験実習Ⅰ		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	齋藤 康之	データ構造アルゴリズム	音楽情報処理, パターン情報解析	博士 (情報科学)
		プログラミング演習Ⅱ		
		工業英語演習		
		実験実習Ⅱ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	米村 恵一	プログラミング言語	顔認知, 魅力	博士(工学)
		プログラミング演習Ⅰ		
		理工学演習		
		実験実習Ⅲ		
		実験実習Ⅳ		
		課題研究		
		卒業研究		

資料3-1-②-5 (2/2)

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
准教授	大枝 真一	内地研修(平成24年度)	知識システム, 機械学習, ニューラルネットワーク, 遺伝的アルゴリズム	博士(工学)
講師	白木 厚司	ネットワーク入門	三次元表示, 数値計算の高速化	博士(工学)
		ドキュメント書法演習		
		応用物理Ⅰ		
		理工学演習		
		プログラミング演習Ⅲ		
		課題研究		
講師	渡邊 孝一	卒業研究	テレグジスタンスマスタスレーブシステム	博士(情報理工学)
		計算機システム		
		信号処理工学		
		プログラミング演習Ⅰ		
		用物理実験		
		実験実習Ⅲ		
特任教授	東 雄二	課題研究	音楽と脳波との共鳴現象, 人工音と自然音の解析	
		卒業研究		
		電子計算機Ⅰ		
		半導体工学		
		応用物理実験		
		実験実習Ⅱ		
		実験実習Ⅲ		
嘱託教授	天摩 勝洋	実験実習Ⅳ	シミュレーション工学, モデリング, 解析力学	工学修士
		論理回路		
		応用物理実験		
		数理モデリング		

2. 非常勤講師

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
講師	小松 直樹	応用物理Ⅱ	物性物理学	修士(理学)
		応用物理Ⅲ		
講師	西 正一	分散情報システム	データベース, 情報処理	修士(理学)
		情報理論		
講師	市橋 保之	情報通信システム	計算機工学, 光学	博士(工学)
講師	下馬場 朋禄	論理回路	計算機工学, 波動光学, ホログラフィー	博士(工学)

(出典 平成24年度授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-②-6 (1/2)

平成24年度 環境都市工学科 教員・専門担当科目配置表

1. 専任教員

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	佐藤 恒明	構造力学Ⅰ	構造力学, 橋構造	博士(工学)
		構造力学演習		
		橋構造		
		構造工学実験		
		課題研究		
		卒業研究		
教授	石川 雅朗	水理学Ⅰ	水理学, 河川工学, 水産工学	博士(水産学)
		水理学Ⅱ		
		生態環境工学		
		水理実験		
		課題研究		
		卒業研究		
教授	上村 繁樹	水環境工学Ⅰ	水環境工学, 廃棄物管理	博士(工学)
		工業英語演習		
		廃棄物管理		
		境概論		
		環境都市工学概論Ⅰ		
		環境工学実験		
		課題研究		
		卒業研究		
教授	岐美 宗	図学	ロジスティクス, 交通工学, 環境教育	博士(工学)
		情報処理入門		
		コンピュータ基礎演習		
		測量実習		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	鬼塚 信弘	土質力学Ⅰ	地盤工学	博士(工学)
		土質力学Ⅱ		
		土質実験		
		地盤設計製図		
		課題研究		
		卒業研究		
准教授	島崎 彦人	環境都市工学概論Ⅱ	空間情報工学	博士(工学)
		プログラミング演習		
		防災工学		
		環境管理手法		
		測量リモートセンシング		
		環境保全工学演習		
		課題研究		
		卒業研究		

資料3-1-②-6 (2/2)

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
准教授	青木 優介	建設材料学	建設材料学, 鉄筋コンクリート工学	博士(工学)
		鉄筋コンクリート工学Ⅰ		
		鉄筋コンクリート工学Ⅱ		
		材料実験		
		プレストレストコンクリート工学		
		課題研究 卒業研究		
准教授	石井 建樹	構造力学Ⅱ	計算力学, 固体力学, 応用力学	博士(工学)
		RC構造設計製図		
		計算工学		
		耐震構造		
		課題研究		
		卒業研究		
講師	湯谷 賢太郎	水域システム工学	応用生態工学	博士(学術)
		環境シミュレーション工学		
		水域シミュレーション工学		
		環境都市工学概論Ⅰ		
		環境工学実験		
		課題研究 卒業研究		
講師	大久保 努	上下水道工学	水環境工学, 上下水道工学	博士(工学)
		水環境工学Ⅱ		
		環境都市工学概論Ⅱ		
		環境工学実験		
		測量実習		
		課題研究 卒業研究		
特任教授	大木 正喜	測量学	測量学, 測量リモートセンシング	工学修士
		水理実験		
		測量実習		
		課題研究		
		卒業研究		

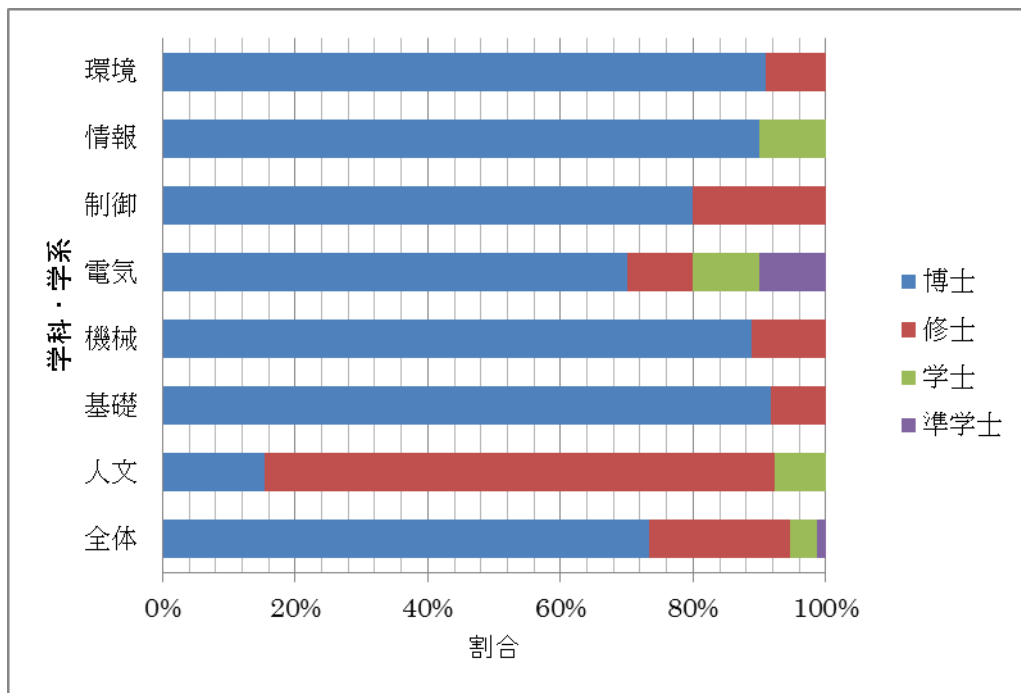
2. 非常勤講師

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
講師	筒井 純一	地球環境科学	気候, 地球環境	博士(環境学)
講師	横山 公一	都市デザイン	景観工学, 都市及び地方計画	工学修士
講師	松井 和己	情報処理演習	計算工学	博士(工学)

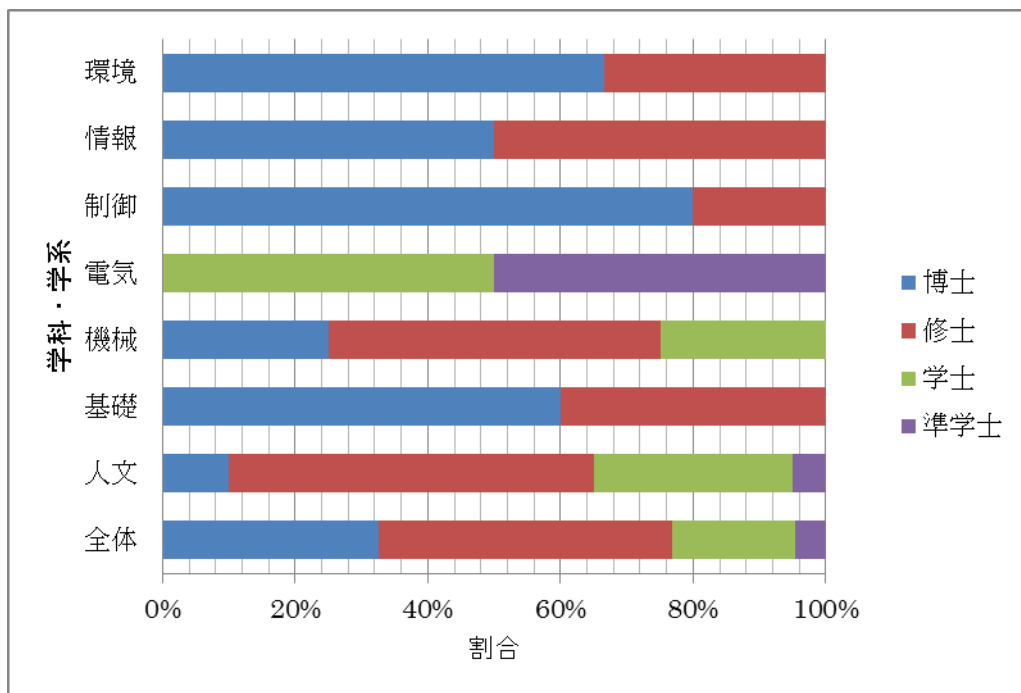
(出典 平成24年度授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-②-7

教員の学位取得状況



専任教員の学位取得状況



非常勤講師の学位取得状況

(出典 平成24年度高専教員個人データより抜粋・編集)

(分析結果とその根拠理由)

本校は1学年5学級を設置しており、専門の専任教員数は50名である。高等専門学校設置基準36名を下っており、適切な教員配置がなされている。また、本校専任教員のうち専門5学科の教授・准教授の教員数は39名であり、設置基準第8条を満たしている。

「2. 科学技術の修得」を達成するため、一般科目と同様に、重要な低学年の科目は専任教員が重点的に担当する配置となっている。専任教員及び非常勤講師の学位取得の状況から、専門科目を教授する資質は十分持っていると考えられる。また、企業・公共団体の職務経験のある専任教員も多く、実務についても明るい教員が多い。このような多様な専門や経験を持つ教員構成のもとで、実験実習や課題研究・卒業研究等を行うことにより、「4. 創造性」が達成できると考えられる。

以上のことから、本校の教育目的「2. 科学技術の修得」、「4. 創造性」を達成するために必要な専門科目の担当専任教員及び非常勤講師の専門分野の整合性が取れた適切な配置が行われている。

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専攻科共通科目は、専攻科教育目的「1. 人間形成, 3. コミュニケーション能力」を達成するのに必要な科目である。また、多分野にわたる専門科目の教授により、得意とする専門分野と他分野の知識と複合する能力を育て、「2. 科学技術の修得と応用」を達成するものである(資料3-1-③-1)。専攻専門科目は深い専門性の授業、演習・実験・研究科目を通し、本校の教育目的「2. 科学技術の修得, 3. コミュニケーション能力, 4. 創造性」を達成するために必要な科目である。よって、科目内容と担当教員の専門分野の一致が必要である。資料3-1-③-2～資料3-1-③-4より、科目内容と担当専任教員の専門分野の整合性が取れた配置が明らかである。専攻科科目の担当教員は、専任教員と本校を定年退職後に再雇用された教員である。専任教員における博士号取得率は84%であり、専門科目を教授する資質を十分持っている。また、企業・公共団体の実務経験率は38%であり、実務にも明るい教員が多い(現地閲覧資料3)。教員の前歴に関する資料は人事書類を出典とするため、現地閲覧資料として提示する。

資料 3-1-③-1

平成 24 年度 専攻科 専攻共通科目 教員・担当科目配置表

職名	所属	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	人文	五十嵐 讓介	人間と文化	俳諧研究	文学修士
教授	人文	荒木 英彦	技術英語 I	英語教育, ドイツ文学, 水泳指導法	文学士
教授	人文	小澤 健志	英語総合	英語教育, アメリカ自然主義文学, シェイクスピア批評史	教育学修士
准教授	人文	武長 玄次郎	現代文明	経済史, イギリス農業革命	博士(経済学)
准教授	人文	柴田 育子	技術倫理	ドイツ語教育, 西洋思想史	修士(文学)
教授	基礎	相川 正美	環境工学通論, 環境化学特論	金属錯体の科学, 環境科学	理学博士
教授	基礎	関口 昌由	応用数学特論	ハミルトン力学系	博士(理学)
准教授	基礎	吉井 文子	応用化学特論	香料化学, 計算化学	博士(学術)
教授	機械	高橋 秀雄	材料力学通論	機械要素の性能評価	博士(工学)
教授	機械	丸岡 邦明	材料学通論, 技術倫理	薄鋼板の製造法および利用技術, 人間中心デザイン	博士(工学)
教授	機械	内田 洋彰	問題解決技法	6脚ロボットの歩行制御, 姿勢制御, 柔軟アームの位置と力制御	博士(工学)
准教授	機械	板垣 貴喜	問題解決技法	機械の振動・騒音の測定, 摩擦・摩耗・潤滑	修士(工学)
教授	電気	石川 雅之	回路工学, 問題解決技法	アナログフィルタ(能動RCフィルタ, スイッチトキャパシタフィルタ), 発振回路	博士(工学)
教授	電気	上原 正啓	技術倫理	電磁界理論, 電磁波工学, 静磁波工学	博士(工学)
教授	電気	石井 孝一	問題解決技法	高周波工学, ナノメートル微細加工技術, 超伝導薄膜による電磁波検出素子	工学士
准教授	電気	飯田 聡子	磁性材料工学	磁性薄体を用いた磁気センサ, 電解めっき法による軟磁性薄体の作製	博士(工学)
教授	制御	橘川 五郎	技術英語 II, 技術倫理, 技術論	電圧変換回路(昇圧, 降圧), デバイスマデリング, 発振回路, 信号インタフェース	博士(工学)
教授	制御	鴫田 正俊	創造設計工学	適応制御系および知的制御系の構築, ロボット工学	博士(工学)
教授	制御	伊藤 操	問題解決技法	材料力学, 塑性加工	工学博士
教授	情報	和崎 浩幸	コンピュータ科学	画像処理	博士(工学)
准教授	情報	丸山 真佐夫	コンピュータ科学	並列プログラムのデバッグ, 囲碁対局システム	博士(工学)
特任教授	情報	東 雄二	技術倫理	音楽と脳波との共鳴現象, 人工音と自然音の解析	
教授	環境	上村 繁樹	技術倫理, 技術論	水環境工学, 廃棄物管理	博士(工学)
准教授	環境	鬼塚信弘	地震防災工学通論	地盤工学	博士(工学)
講師	環境	湯谷 賢太郎	環境工学通論	応用生態工学	博士(学術)
嘱託教授	基礎	高橋 邦夫	応用物理	光応用計測	博士(工学)

(出典 平成 24 年度授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-③-2

平成24年度 機械・電子システム工学専攻 専攻専門科目 教員・担当科目配置表

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	高橋 秀雄	特別実験, 特別演習Ⅱ, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	機械要素の性能評価	博士(工学)
教授	丸岡 邦明	特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	薄鋼板の製造法および利用技術, 人間中心デザイン	博士(工学)
教授	石出 忠輝	可視化情報工学, 特別実験, 特別演習Ⅰ, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	剥離流れ, 空気力学, 可視化画像計測	博士(工学)
教授	内田 洋彰	システム制御工学, 特別研究Ⅰ	6脚ロボットの歩行制御, 姿勢制御, 柔軟アームの位置と力制御	博士(工学)
教授	黄野 銀介	生産工学, 特別実験, 特別演習Ⅰ, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	材料の衝撃特性評価(シャルピー衝撃試験), 研磨加工	博士(学術)
准教授	小田 功	オプトメカトロニクス工学, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	光応用技術の開発	博士(工学)
准教授	板垣 貴喜	トライボロジー, 特別演習Ⅱ, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	機械の振動・騒音の測定, 摩擦・摩耗・潤滑	修士(工学)
准教授	伊藤 裕一	特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	乱流熱流体现象の予測, ハイパフォーマンスコンピューティング	博士(工学)
講師	歸山 智治	特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	画像工学, 人間工学	博士(工学)
教授	石川 雅之	特別実験, 特別演習Ⅰ, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	アナログフィルタ(能動RCフィルタ, スイッチトキャパシタフィルタ), 発振回路	博士(工学)
教授	大澤 寛	電気機械エネルギー変換工学, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	パワーエレクトロニクス, DC/DC電源, 太陽電池の電力変換技術	工学修士
教授	上原 正啓	電磁波工学, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	電磁界理論, 電磁波工学, 静磁波工学	博士(工学)
教授	石井 孝一	特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	高周波工学, ナノメートル微細加工技術, 超伝導薄膜による電磁波検出素子	
准教授	柏木 康秀	エネルギー工学, 特別実験, 特別演習Ⅱ, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	沿面放電, バリア放電, マイクロギャップ放電, 真空紫外光, インパルス高電圧・大電流測定	博士(工学)
准教授	岡本 保	半導体物性, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	半導体物性, 半導体デバイス, 光計測	博士(工学)
准教授	飯田 聡子	特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	磁性薄体を用いた磁気センサ, 電解めっき法による軟磁性薄体の作製	博士(工学)
准教授	大野 貴信	高周波回路工学, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	高周波フィルタやノイズ抑制シートの開発, マイクロ波・ミリ波帯における誘電率測定	博士(工学)
講師	浅野 洋介	特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	制御工学, モーションコントロール, ロボティクス, ロボットビジョン, 福祉工学	博士(工学)
助手	吉崎 静男	特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	論理回路, 電子工作技術	

(出典 平成24年度授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-③-3

平成24年度 制御・情報システム工学専攻 専攻専門科目 教員・担当科目配置表

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	橘川 五郎	集積回路工学, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	電圧変換回路(昇圧, 降圧), デバイスマデリング, 発振回路, 信号インタフェース	博士(工学)
教授	伊藤 操	特別演習Ⅱ, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	材料力学, 塑性加工	工学博士
教授	鴫田 正俊	学習制御, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	適応制御系および知的制御系の構築, ロボット工学	博士(工学)
教授	鈴木 聡	半導体デバイス, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	半導体物性, マイコンによる計測・制御	博士(工学)
准教授	臼井 邦人	特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	教育工学, 情報通信工学	工学修士
准教授	大橋 太郎	特別演習Ⅰ, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	制御工学, 各種センサを用いた自動計測と制御, 機械動力学	修士(工学)
准教授	泉 源	通信工学, 特別演習Ⅰ, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	アンテナ設計・評価, 電磁界解析	博士(工学)
准教授	岡本 峰基	システム制御, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	制御工学, 振動工学	博士(工学)
講師	坂元 周作	特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	計測工学, 超電導工学	博士(工学)
講師	沢口 義人	特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	生体医工学, 信号処理, 制御工学	博士(工学)
教授	栗本 育三郎	ヒューマンインターフェース, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	近赤外分光法を用いた脳機能信号解析, ヒューマンインターフェース	博士(情報理工学)
教授	和崎 浩幸	特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	画像処理	博士(工学)
教授	和田 州平	数値解析基礎論, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	作用素論	博士(理学)
准教授	丸山 真佐夫	特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	並列プログラムのデバッグ, 囲碁対局システム	博士(工学)
准教授	齋藤 康之	ソフトウェア工学, ヒューマンインターフェース, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	音楽情報処理, パターン情報解析	博士(情報科学)
准教授	米村 恵一	特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	顔認知, 魅力	博士(工学)
准教授	大枝 真一	特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	知識システム, 機械学習, ニューラルネットワーク, 遺伝的アルゴリズム	博士(工学)
講師	白木 厚司	情報通信工学, 特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	三次元表示, 数値計算の高速化	博士(工学)
講師	渡邊 孝一	特別実験, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	トレイグジスタンスマスタスレーブシステム	博士(情報理工学)
特任教授	東 雄二	特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ	音楽と脳波との共鳴現象, 人工音と自然音の解析	
嘱託教授	天摩 勝洋	数理モデリング	シミュレーション工学, モデリング, 解析力学	工学修士

(出典 平成24年度授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

資料3-1-③-4

平成24年度 環境建設工学専攻 専攻専門科目 教員・担当科目配置表

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
教授	佐藤 恒明	構造数値解析学, 特別研究 I, 特別研究 II	構造力学, 橋構造	博士(工学)
教授	石川 雅朗	環境情報・保全工学, 特別演習 I, 特別研究 I, 特別研究 II	水理学, 河川工学, 水産工学	博士(水産学)
教授	上村 繁樹	環境生物工学, 特別研究 I, 特別研究 II	水環境工学, 廃棄物管理	博士(工学)
教授	岐美 宗	特別研究 I, 特別研究 II	ロジスティクス, 交通工学, 環境教育	博士(工学)
准教授	鬼塚 信弘	応用地盤工学, 特別研究 I, 特別研究 II	地盤工学	博士(工学)
准教授	島崎 彦人	環境工学特論, 特別研究 I, 特別研究 II	空間情報工学	博士(工学)
准教授	青木 優介	応用材料工学, 特別研究 I, 特別研究 II	建設材料学, 鉄筋コンクリート工学	博士(工学)
准教授	石井 建樹	応用構造工学, 特別実験, 特別研究 I, 特別研究 II	計算力学, 固体力学, 応用力学	博士(工学)
講師	湯谷 賢太郎	特別演習 II, 特別研究 I, 特別研究 II	応用生態工学	博士(学術)
講師	大久保 努	特別演習 II, 特別研究 I, 特別研究 II	水環境工学, 上下水道工学	博士(工学)
特任教授	大木 正喜	環境情報・保全工学, 特別研究 I, 特別研究 II	測量学, 測量リモートセンシング	工学修士

(出典 平成24年度授業科目担当表および教員個人データより抜粋・編集)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科共通科目は、本校の専攻科教育目的「1. 人間形成, 2. 科学技術の修得と応用, 3. コミュニケーション能力, 4. 創造性」を達成するのに必要な科目である。よって、科目内容と担当教員の専門分野の一致が必要である。専攻科科目の担当教員は、全て専任教員と本校を定年退職後に再雇用された教員である。専任教員の学位取得の状況から、専攻科の科目内容を教授する資質は十分持っていると考えられる。また、企業・公共団体の職務経験のある専任教員及び非常勤講師も多く、実務についても明るい教員が多い。以上のことから、本校の教育目的を達成するために必要な専門科目の担当専任教員について専門分野の整合性が取れた適切な配置が明らかである。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

(観点に係る状況)

本校では教員の採用を公募によって行っている(資料3-1-④-1)。公募内容の応募資格(1)～(4)や提出書類の内容、面接等および模擬授業から、専門性や教育・学生生活指導に関して本校に適した人材を確保する配慮を行っている。平成24年度の本校教員の年齢別構成を資料3-1-④-2に示す。基本的に博士の学位を有する者を採用しているため、20代の教員数が0名となっているが、その他は各年齢層にわたって概ね均等に分布している。専任教員における女性教員数(5名)の割合は6.7%であり、今後も積極的に女性教員を採用する方針である(資料3-1-④-1, 資料3-1-④-3)。資料3-1-④-4の応募資格(1)に示すように専門の専任教員採用において、学位取得者を積極的に採用しており、博士号取得率は73%である。また、資料3-1-④-3に示すように、多様な背景を持つ教員の確保にも努めており、現在の専任教員のうち他の教育機関での実務経験者は44%であり、民間企業での実務経験を持つ者は27%である。この他、専任教員の教育・研究能力の向上を目的として、在外研究員、内地研究員及び高専間人事交流を積極的に進めている(資料3-1-④-5, 資料3-1-④-6)。外国人教員は準学士課程外国語科目において非常勤講師2名を任用している(資料3-1-④-7)。

本校では、教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で優秀な業績を上げた教員を表彰する制度として木更津高専教職員顕彰(資料3-1-④-8, 資料3-1-④-9)と国立高等専門学校教員顕彰を実施している(資料3-1-④-10)。木更津高専教職員顕彰は平成20年度から平成24年度までの5年間で37名の教職員の表彰しており、表彰分野は、学校運営、地域貢献、研究、教育と多岐にわたっている(資料3-1-④-11)。国立高等専門学校教員顕彰には平成22年度より推薦を行っており、過去3年間で2名の教員が受賞している(資料3-1-④-12)。

資料3-1-④-1

教員公募資料(人文学系)

関係機関の長 殿

木更津工業高等専門学校長
工 藤 敏 夫 (公印省略)

教員の公募について (依頼)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では下記により教員の公募をいたしますので、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦についてよろしくお願い申し上げます。

敬具

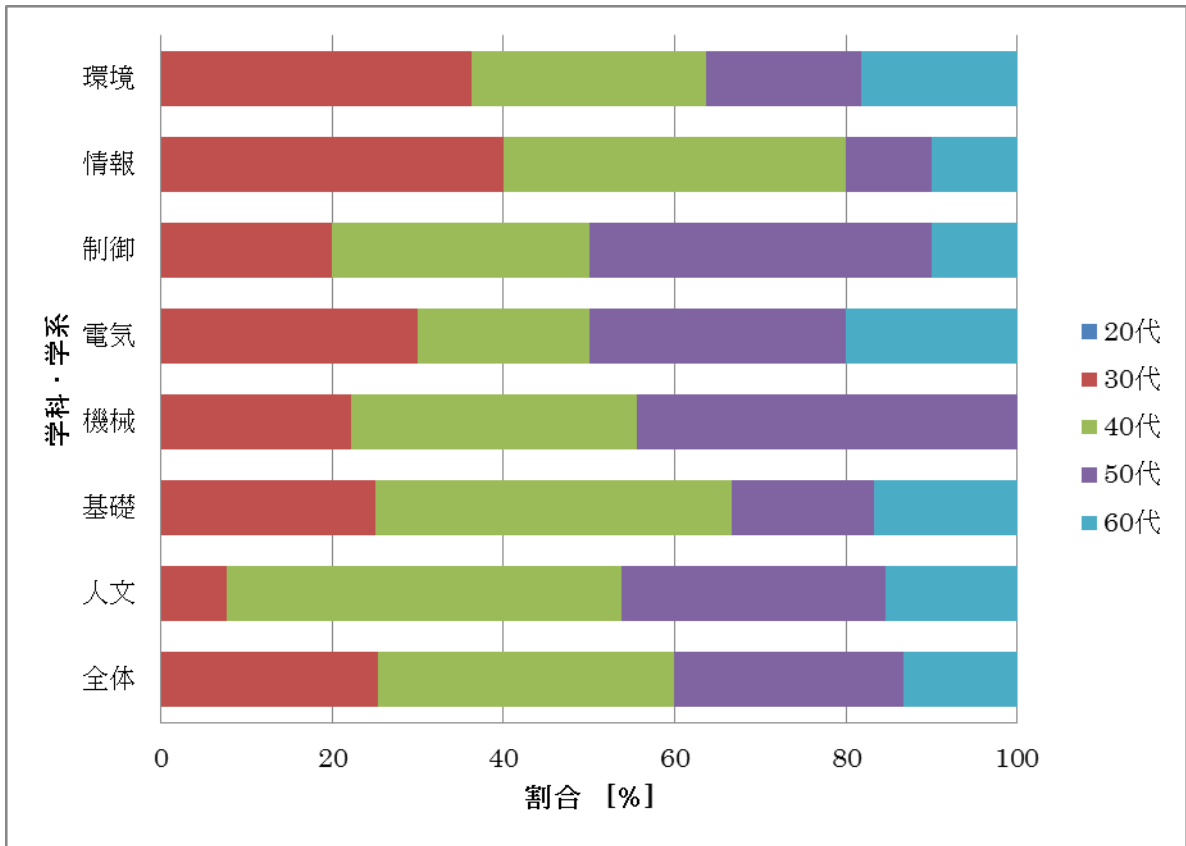
記

1. 採用職名・人員 准教授または講師 1名
2. 所 属 人文学系
3. 専 門 分 野 歴史学(世界史分野), 技術倫理等
4. 担 当 科 目 準学士課程 歴史Ⅱ(2年:内容は世界史), 技術と社会(3年)
一般特別研究(3年), その他
専攻科課程 現代文明(1年), 技術倫理(2年)
5. 応 募 資 格 (1)修士の学位を有する者またはこれと同等以上の教育および研究実績を有する者。(採用時までに修士の学位を取得見込みの者を含む)
(2)特に技術倫理等の分野において, 論文等の研究業績のある者
(3)教育, 研究に情熱を持ち, 学生指導にも理解と熱意のある者
(4)高等学校等における教職経験があり, 準学士課程においては人文科学および社会科学の広い分野の授業が担当できる者が望ましい。
(5)地域貢献に理解と熱意のある者
6. 採用予定日 平成25年4月1日
7. 提出書類 (1)履歴書(指定様式または市販のものに本人自筆, 写真貼付)
(2)教育研究業績書(著書, 論文, 特許, 報告等で指定様式または様式任意)
(3)著書・論文等の別刷(コピー可, 主要なもの3編程度)
(4)研究業績概要(A4版, 2000字程度, 様式任意)
(5)教育, 研究および学生指導に対する抱負
(A4版, 2000字程度, 様式任意)
(6)所属長(または指導教員)の推薦書またはこれに準ずるもの
8. 選 考 方 法 第1次選考(書類選考), 第2次選考(面接および模擬授業)
※ 面接に関わる旅費等は, 応募者の負担とする。
9. 応 募 期 限 平成24年6月29日(金) 必着
10. 備 考 (1)木更津工業高等専門学校の教員が携わる授業以外の職務概要は, 別紙のとおりです。
(2)木更津工業高等専門学校は, 男女共同参画に配慮していますので, 女性の積極的な応募を期待します。
～以下省略～

(出典 人事・労務係資料)

資料3-1-④-2

教員年齢別構成



(出典 平成24年度高専教員個人データより抜粋・編集)

木更津工業高等専門学校第 2 期中期計画

(3) 優れた教員の確保

- ・ **公募制による教員の採用を継続するとともに、他高専や大学、民間企業などにおいて過去に勤務した経験を持つ者にその対象範囲を拡大することを目指し、教授・准教授における多様な背景を持つ教員の割合 60%以上を継続して保持する。**
- ・ 「長岡・豊橋両技科大及び高専間教員交流制度」に、原則 1 名以上の派遣者を推薦する。
- ・ 在外研究者派遣について検討する。
- ・ 理系以外の一般科目担当教員の修士以上の学位取得率 80%以上を継続して保持する。
- ・ 理系担当教員の新規採用にあたっては、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度な資格を有する者を積極的に採用すること並びに現職教員がそれらの資格を取得できるように教育研究環境（研究時間、研究設備、研修制度等）を整備することにより、取得者の割合が向上するよう促進する。
- ・ **女性職員の比率向上を目指し、必要な支援策の検討を行い、働きやすい職場環境の整備に努める。**
- ・ 授業公開、アンケート及び授業方法改善研究会を継続して実施する。
- ・ 厚生補導研究会を引き続き継承発展させる。
- ・ 「授業公開特別期間」等における新任教員研修に関し、「研修報告書」の提出を義務づける。
- ・ 外部機関の開催する教員研修会に対して、教員の派遣を促進する。
- ・ 教育、研究、生活指導などの活動において顕著な功績が認められる教職員や教職員グループを表彰する。
- ・ 原則 1 名以上の長期もしくは短期研修員を選出し、国内外の大学等で研究研修を行うようにする。
- ・ 授業振替等を積極的に支援し、国際学会への参加を促進する。
- ・ 教員が高専間教員交流制度等の人事交流制度を利用できるよう配慮する。

(出典 木更津工業高等専門学校第 2 期中期計画より抜粋)

資料3-1-④-4

教員公募資料(電子制御)

関係機関の長 殿

木更津工業高等専門学校長
工 藤 敏 夫 (公印省略)

教員の公募について(依頼)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では下記により教員の公募をいたしますので、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦についてよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

- | | |
|------------|--|
| 1. 採用職名・人員 | 助教1名 |
| 2. 所 属 | 電子制御工学科 |
| 3. 専 門 分 野 | 情報系分野 |
| 4. 担 当 科 目 | 情報処理 情報工学 実験実習(プログラミング関係, コンピュータを利用した計測・制御関係, ネットワーク関係など) |
| 5. 応 募 資 格 | (1)博士の学位を有する者または採用時まで博士の学位を取得見込みの者
(2)教育, 研究に情熱をもち, 学生指導にも理解と熱意のある者
(3)地域貢献に理解と熱意のある者 |
| 6. 採用予定日 | 平成25年4月1日 |
| 7. 提出書類 | (1)履歴書(指定様式または市販のものに本人自筆, 写真貼付)
(2)教育研究業績書(著書, 論文, 特許, 報告等で指定様式または様式任意)
(3)著書・論文等の別刷(コピー可, 主要なもの3編程度)
(4)研究業績概要(A4版, 2000字程度, 様式任意)
(5)教育, 研究および学生指導に対する抱負
(A4版, 2000字程度, 様式任意)
(6)所属長(または指導教員)の推薦書またはこれに準ずるもの |
| 8. 選 考 方 法 | 第1次選考(書類選考), 第2次選考(面接および模擬授業)
※ 面接に関わる旅費等は, 応募者の負担とする。 |
| 9. 応 募 期 限 | 平成24年6月29日(金) 必着 |
| 10. 備 考 | (1)木更津工業高等専門学校の教員が携わる授業以外の職務概要は, 別紙のとおりです。
(2)木更津工業高等専門学校は, 男女共同参画に配慮していますので, 女性の積極的な応募を期待します。
(3)応募者の個人情報, 木更津工業高等専門学校の教員を採用する目的のために利用するものであり, 第三者に提供または公表することはありません。 |

～以下省略～

(出典 人事・労務係資料)

資料3-1-④-5

人事交流の実績

高専・両技科大間教員交流者一覧

1. 派遣

派遣日	所属・職名	氏名	派遣先	派遣期間
20.4.1	電気電子工学科 准教授	柏木康秀	東京工業高等専門学校	20.4.1 ~ 21.3.31
23.4.1	基礎学系 教授	鈴木道治	長野工業高等専門学校	23.4.1 ~ 24.3.31
25.4.1	環境都市工学科 准教授	青木優介	八戸工業高等専門学校	25.4.1 ~ 26.3.31

2. 受入

受入日	受入所属・職名	氏名	派遣元	受入期間
20.4.1	人文学系 准教授	瀬川直美 ※	福井工業高等専門学校	20.4.1 ~ 21.3.31
23.4.1	基礎学系 教授	小林茂樹	長野工業高等専門学校	23.4.1 ~ 24.3.31
24.4.1	環境都市工学科 教授	岐美 宗	広島商船高等専門学校	24.4.1 ~ 26.3.31
25.4.1	環境都市工学科 准教授	森山卓郎	阿南工業高等専門学校	25.4.1 ~ 26.3.31

(出典 人事・労務係資料)

資料3-1-④-6

在外研究員・内地研究員の実績

在外研究員・内地研究員派遣一覧（平成20年度～平成24年度）

【在外研究員】

年度	派遣教員名	学科・職名	派遣先	派遣期間
平成20年度	なし			
平成21年度	なし			
平成22年度	石出忠輝	機械工学科 教授	パース大学（英国）及び ミシガン大学（米国）	H22.4.10～ H23.3.21
平成23年度	なし			
平成24年度	田所勇樹	基礎学系 准教授	オーフス大学モジュライ空 間の量子幾何学センター （デンマーク）	H24.4.10～ H25.3.15

【内地研究員】

年度	派遣教員名	学科・職名	派遣先	派遣期間
平成20年度	なし			
平成21年度	なし			
平成22年度	齋藤康之	情報工学科 准教授	東京大学大学院情報理工学 系研究科	H22.5.6～ H23.2.28
平成23年度	米村恵一	情報工学科 准教授	東京大学先端科学技術研究 センター	H23.5.6～ H24.2.28
平成24年度	大枝真一	情報工学科 准教授	東京大学大学院情報理工学 系研究科	H24.5.1～ H25.2.28
	飯田聡子	電気電子工学科 准教授	信州大学 工学部	H24.5.1～ H25.2.28

(出典 人事・労務係資料)

資料 3-1-④-7

平成 24 年度 外国人教員任用状況

1. 専任教員：なし

2. 非常勤講師

職名	氏名	担当授業科目	専門分野	最終学位
講師	James Paul Grant	英語表現, 英会話 I, 英会話 II	英語教育	学士(理学)
講師	Allan Doyle	英会話 I, 英会話 II	英語教育	理学士

(出典 平成 24 年度教員個人データより編集・抜粋)

資料 3-1-④-8

木更津工業高等専門学校教職員顕彰規則(抜粋)

(趣旨)

第 1 条 木更津工業高等専門学校の組織的な運営の改善に資するため、教職員の顕彰を行うこととし、顕彰については、この規則の定めるところによるものとする。

(顕彰の対象者等)

第 2 条 顕彰の対象となる者は、校長及び事務部長を除く、本校に勤務する全教職員（非常勤の職員を含む。）とする。なお、組織及び任意団体等も顕彰の対象とする。

(顕彰の対象活動)

第 3 条 顕彰の対象となる活動は、以下の 4 分野におけるものとする。

- (1) 教 育：授業・課外活動・学生支援等において、顕著な教育効果を上げたと認められる活動
- (2) 研 究：研究において、顕著な業績を達成したと認められる活動
- (3) 学校運営：学校運営・学校経営において、顕著な貢献をしたと認められる活動
- (4) 地域連携：地域連携において、顕著な貢献をしたと認められる活動

(被顕彰者等の推薦)

第 4 条 被顕彰者等の推薦は、被顕彰者等に関係する者及び委員会等が、別紙様式 1 の「教職員顕彰候補者等推薦書」を校長に提出することにより行う。なお、自薦も可とする。また、推薦は随時受け付けるものとする。

(被顕彰者等の選考)

第 5 条 被顕彰者等の選考は、次に掲げる者の意見を聴取し、校長が決定する。

- (1) ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員より校長が指名した若干名。
- (2) 校長が必要と認めた若干名

(顕彰の方法)

第 6 条 顕彰は、校長が被顕彰者に表彰状を授与することにより行う。

(顕彰の時期)

第 7 条 顕彰は、毎年 3 月に行う。

(事務)

第 8 条 顕彰に関する事務は、総務課において処理する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 16 年 12 月 2 日規則第 11 号)

資料 3 - 1 - ④ - 9

教職員顕彰候補者推薦書

平成 年 月 日

木更津工業高等専門学校長 殿

推薦者等 _____ 印

教職員顕彰候補者等推薦書

木更津工業高等専門学校教職員顕彰規則第 4 条に基づき、下記の者等を顕彰候補として適切と認め、推薦します。

記

分 野	(1) 教 育 (2) 研 究 (3) 学校運営 (4) 地域連携
候補者名等	
推 薦 理 由	
添付資料等	

記入上の注意

- (1) 「分野」に関しては、該当分野を○で囲むこと。
- (2) 組織等が候補である場合は、全構成員を記した上、代表者を明記すること。
- (3) 「推薦理由」は具体的に記し、その詳細が分かるような資料を添付すること。
- (4) 当推薦書を含む関係書類等の提出先は総務課人事・労務係とする。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 16 年 12 月 2 日規則第 11 号)

資料3-1-④-10

国立高等専門学校教員顕彰の通知(教員向け)

平成24年10月15日

教員各位

校長

工藤敏夫

平成24年度国立高等専門学校教員顕彰の実施について

標記について、独立行政法人国立高等専門学校機構理事長から標記教員顕彰候補者の推薦依頼の通知がありました。

この教員顕彰は、国立高等専門学校における教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績があったと認められる者を顕彰するため実施されるものです。

本校においても、教員顕彰候補者を選考のうえ、機構理事長あて推薦することとし、教員顕彰候補者の選考基準である「教員による自己評価」、「教員による相互評価」並びに「学生による教員の評価」を実施することとしました。

つきましては、趣旨をご理解のうえ「教員による自己評価」及び「教員による相互評価」について、別添「教員の教育業績等評価要領」に従い別紙「評価集計表」に記入のうえ、ご面倒ですが10月26日(金)までにご提出くださるようご協力方よろしくお願いいたします。

記

提出方法および提出先

- ①メールによる提出：ajinji@a.kisarazu.ac.jp (人事・労務係)
- ②紙媒体による提出：人事・労務係に設置した箱に投函

のいずれかをお願いいたします。

【参考】教員顕彰の趣旨

高等専門学校教員は主として教育者の面を持つが、一方で研究者の面を持つとともに高等専門学校の管理運営にも果たすべき役割がある。高等専門学校教員個々に対する業績評価は、これらを総合して行われるべきものであるが、現状においては、ともすれば専門の研究業績のみが重視され、学生教育や管理運営及び地域社会への貢献に係る業績が適正に評価されていない恐れがある。このような観点から、管理運営や地域社会への貢献を含み、学生教育を中心とする分野において顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに、顕彰を通じて高専における教育の充実・向上を目指すものである。

(出典 国立高等専門学校教員顕彰の通知)

資料3-1-④-11

平成24年度木更津高専教職員顕彰者について(通知)

顕彰年月日：平成25年3月18日

教職員 各位

校長 工藤 敏夫 (公印省略)

平成24年度木更津高専教職員顕彰者について(通知)

このことについて、「木更津工業高等専門学校教職員顕彰規則」に基づき選考を行い、本校において顕著な功績を上げた者として、以下のとおり表彰しましたのでお知らせします。

所属・氏名	顕彰分野	顕彰理由
人文学系 荒木 英彦	学校運営	平成21年度より学生主事(副校長)として学校運営に尽力し、その在任期間中に生じた学生種々の困難な事態に対応し、バランスの取れた対応を行い、非常にデリケートな案件も含め、各問題を適切な解決に導いた。 また、学内感染症の流行時にはいち早く学生への感染拡大対応をされ、学校運営に支障の無いよう尽力された。 以上のように、長年に亘り本校発展のために学校運営に尽力した功績は誠に顕著である。
基礎学系 嘉数 祐子	地域貢献	本校赴任以来、数多くの出前授業及び木更津市内小中学校教職員対象の研修会等の講師を担当され、理科教育及びものづくり教育の推進活動を通して地域連携分野において大きく貢献している。 以上のように、本校発展のために学校運営に尽力した功績は誠に顕著である。
機械工学科 歸山 智治	研究	2012年度日本カイロプラクティック徒手医学会において「青年期女性における歩行特徴」の研究テーマで奨励賞を受賞した。 この結果は、当該分野における先端的な研究であることが認められたことでもあり、本校の研究レベルの高さを広く認識させたと認められる。 この研究への取り組みは他の職員の模範となるものであり、顕著な貢献をしたと認められる。
電気電子工学科 石川 雅之	教育	平成21年度から4年間専攻科長として、専攻科の発展に尽力し、特に学位授与機構による学位授与試験に在任中4年連続し、受験者を全員が合格。 また、群馬高専と共同実施していた「専攻科赤城合同フレッシュセミナー」を関東信越地区7高専の合同実施に拡大など、功績が顕著であります。 以上のように、本校発展のために学校運営に尽力した功績は誠に顕著である。
教育研究 支援センター 白井 淳治	学校運営	永年に亘り教室系技術職員として勤務し、揺るぎ無い向上心は、現在も、後に続く技術職員の模範となっている。 平成23年度からは技術長として技術職員の組織づくりに貢献し、多くの公開講座を開催するなど地域貢献にも尽力した。 また、科学研究補助金等については他の技術職員に応募を促すなど、外部資金獲得の増加にも貢献した。 平成22年3月には、全国高専技術教育発表会を企画・開催した。この発表会は、技術教育の情報交換の場として期待され、参加校の要望から現在も毎年開催されている。 以上のように、技術職員の育成と教育研究支援センターの運営を通じ本校発展のために学校運営に尽力した功績は誠に顕著である。

(出典 平成24年度木更津高専教職員顕彰者について(通知))

資料3-1-④-12

国立高等専門学校教員顕彰受賞者一覧

該当年度	賞	学 科	役職	氏名	顕彰題目	備考
平成 22 年度	優秀賞	機械工学科	准教授	小田 功	学生に社会に対する興味 を持たせて主体的な行動 をさせる進路指導	若手部門
平成 23 年度	分野別 優秀賞	環境都市工学科	准教授	青木 優介	学生の心に寄り添い実践 力を養う教育研究活動	若手部門 教育研究を通じた社 会貢献分野
平成 24 年度	なし					

(出典 人事・労務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育目的を達成するために、応募資格や提出書類の内容における教育、研究、実務等の条件を配慮し、採用を行っている。年齢構成は均衡のとれた年齢構成となっている。また、女性教員が少ない状況であったが、近年の積極採用により、女性教員の人数は増えてきている。教員の博士号取得者は73%であり、2005年度の55%と比べ大幅に増えている。外国人教員も2名（非常勤講師）を任用している。この他、専任教員の教育・研究能力の向上を目的として、在外研究員、内地研究員及び高専間人事交流を継続的に進めている。また、教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教職員に贈られる木更津高専教職員顕彰および国立高等専門学校教員顕彰を行っている。

以上のような教員組織の構成への配慮、支援、任用状況より、本校では教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が執られていると考える。

観点3-2-①： 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

本校では、全専任教員に対して校長による面談が行われている(資料3-2-①-1)。校長は各教員から提出された資料(資料3-2-①-2, 資料3-2-①-3, 資料3-2-①-4)を基に、教員の研究・教育活動を把握すると共に、各教員に対して助言を与えている。平成22年度には、校長による教員面談により出された意見に基づいて、教員業務の効率化を目的とした委員会組織の統合および構成員の見直しが行われた(資料3-2-①-5)。この他、業績評価型の校長裁量経費を導入し、実施している(資料3-2-①-6)。平成24年度は予算編成の都合で配分が見送られたが、平成23年度は19名の教員に予算が配分され、平成25年度以降も継続する予定である。学生による教員評価として、平成13年度より学生による授業評価アンケートを開始している。平成24年度からはWEBキャリアカルテ(WCA)を活用したアンケート(資料3-2-①-7)を実施し、アンケート結果はウェブサイト上で全教員が確認できる。各教員はアンケート結果を元に事後シラバスを作成し(資料3-2-①-8)、継続的な授業改善を行うことが求められている。この他、木更津工業高等専門学校教職員顕彰と国立高等専門学校教員顕彰により教員の教育・研究活動の定期的な評価を行っている(資料3-1-④-8, 資料3-1-④-9, 資料3-1-④-10, 資料3-1-④-11, 資料3-1-④-12)。

校長面談スケジュール

平成24年6月13日

教員各位

総務課長

校長との教員個人ヒアリングについて

下記にとおり時間を設定しましたので、お知らせします。不都合等がありましたらご連絡願います。

なお、時間になりましたら各自校長室に入ってくださいますが、次のヒアリング時間（1人15分程度ですが時間は前後することがある）が引き続いている場合は、ヒアリングが終わりましたら、次に方に連絡（電話等で終わった旨の）くださるようお願いいたします。

記

1. 人文学系

(1) 6月19日（火）

13:30～清野教授, 14:00～柴田准教授, 15:00～坂田准教授,

15:30～小澤教授

(2) 6月20日（水）

10:00～加藤准教授, 11:00～岩崎准教授, 11:30～篠村教授

14:00～荒木教授, 14:40～五十嵐教授

(3) 6月21日（木）

13:30～武長准教授, 14:00～清水教授, 14:40～平安特任教授

～ 以下省略 ～

(出典 校長面談資料)

資料3-2-①-2

研究業績の提出について（校長面談資料）

平成24年5月15日

教 員 各 位

校 長 工 藤 敏 夫

研究業績書等の提出について（依頼）

このことについて、既に5月10日の運営協議会で連絡しましたようにヒアリング等の参考資料とするため、下記調書を作成のうえ、6月8日（金）までに総務課課長補佐までメールにて提出くださるようお願いします。

なお、下記調書1、2の様式を併せて添付します。

記

1. 教員の教育上の能力に関する学校の評価書
2. 最近5年間の研究業績
3. 研究計画書（任意様式）

現在の取り組み状況及び今後の計画

（研究テーマ、研究期間、学術誌・論文誌への投稿、時期など）

（出典 校長面談資料）

資料3-2-①-3

教員の教育上の能力に関する学校の評価書の書式

教員の教育上の能力に関する学校の評価書

氏名・職名	(氏名)	(所属学科)	(職名)
評 価	(教授の業績)		
	(学生指導, 生活指導の業績)		
	(課外活動指導の業績)		
	(教育研究の業績)		
	(地域連携活動の業績)		
記入年月日	平成 年 月 日		
記入者	木更津工業高等専門学校 校長		

(出典 校長面談資料)

資料3-2-①-4

最近5年間の研究業績の書式

最近5年間の研究業績

(氏名)

著書・論文等の名称	単著， 共著の 別	発行又は 発表の 年月日	発行所，発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(論文)				
(学会発表)				
(その他)				

(出典 校長面談資料)

平成23年度における委員会の統廃合等

1. 運営の効率化をする委員会

○情報公開委員会

(委員会規則はそのまま残し、案件があった場合のみ運営協議会で審議する)

2. 統合する委員会

○自己点検等委員会, J A B E E 認定・認証評価推進委員会

(J A B E E 及び機関別認証評価の審査においては、必ず自己点検が義務付けられていること。また、委員についてはJ A B E E 認定・認証評価推進委員会委員が担当する。)

3. 委員構成を見直す委員会

○入試委員会(主事補を選出する学科等は、委員を選出しない)(3名減)

○教務委員会(主事補を選出する学科等は、委員を選出しない)(3名減)

○学生委員会(主事補を選出する学科等は、委員を選出しない)(3名減)

○地域共同テ/センター委員会(副センター長を選出する学科等は、委員を選出しない)(3名減)

○ネットワーク情報センター運営部会(副センター長を選出する学科等は、委員を選出しない。)(3名減)

○学生相談室委員会(室長が推薦した者若干名となっており、全ての学科からの委員の選出は要しない)(数名減)

○広報委員会(入試広報の充実強化のため、委員に入試委員1名を追加)(1名増)

○知的財産委員会(地域共同テ/センター委員会委員と同じ委員とする)

○安全衛生委員会(役職指定の委員及び事務系以外は、学生委員会委員と同じ委員とする)

4. 委員の任期

○平成23年度委員の選出にあたっては、現在の委員の任期は柔軟に対応する。

5. その他

○寮務委員会については、群制度(9群(女子寮を含む))で運用しており、各群を委員が担当しているため、主事補を選出している学科等から委員を選出しない場合は運用に支障をきたすため、従来どおり学科等から委員を選出する。

○各委員会活動を把握するため、委員会等の1年間の活動報告書を提出してもらい、その活動状況等を参考に次年度の委員会の継続性等を考慮する。

(出典 平成22年11月25日運営協議会資料)

資料3-2-①-6 (1/2)

校長裁量経費について

平成22年1月7日
運営協議会承認済

平成22年度からの校長裁量経費について

1. 基本方針

木更津高専における教育の改善充実，研究の推進発展，設備の充実及び中期計画の重点事業の推進を図るために，運営費の一部を校長裁量経費として，全学的な視点で効率的に交付する。

2. 配分方針

各事業活動の実施計画と実績等に基づいて，各選考委員会等の評価と意見を参考にして，校長が経費交付先（個人，グループ，学科学系）と経費額の配分を決定する。
各選考委員会等の取りまとめは，将来構想検討委員会が行う。

3. 配分原資・・・・・・・・・・・・・・・・3,200万円（平成21年度予算配分額を想定）※

- ①重点研究配分費・・・・・・・・1,000万円
- ②教育改善充実費・・・・・・・・850万円
- ③高専教育設備充実費・・・・・・・・1,350万円

※ 配分原資は，年度ごとに変動があるため，配分予算額については当該年度の予算に合わせた，比例配分とする。

4. 配分区分・申請方式・予算額・選考委員会等

	区 分	目 的	申請方式	予算額	選考委員会等
A	中期計画及び地域連携推進経費	中期計画での重点事業の推進及び地域連携事業推進経費	指定型	総額：250万円	中期計画推進委員会
B	教育改善等推進経費 (B-1) 一般教育の推進	人文・基礎学系の一般特別研究などを支援	申請型	総額：100万円	教務委員会及びFD委員会
	(B-2) 教育研究支援センターの技術教育推進	技術教育を支援	申請型	総額：100万円	
	(B-3) 教育設備の充実	主に教育に使用する実験室や製図室などの維持充実	公募型	総額：2,000万円	
C	重点研究推進経費 (C-1) 新任教員研究支援	教授を除く新任教員着任後2年間	公募型 個人申請	総額：200万円 上限50万円/1人	副校長 (研究担当)
	(C-2) 萌芽・挑戦的研究の支援	萌芽研究の発掘及び挑戦的研究の推進	公募型 (条件付：科研費等の申請者に限る)	総額：350万円 上限7件	
D	教育研究推進経費	教育研究等のインセンティブ	業績評価型 (個人)	10万円/1人， 総額：200万円	副校長

資料3-2-①-6 (2/2)

5. 選考方法

(1) 指定型

選考委員会がその年度の主とする事業計画実施に相応しい個人あるいはグループを選定し、順番を付して推薦し、交付する。

- ・選定項目：事業実施計画に対して、①相応しい業績があり、②成果が期待できること。

(2) 公募型

学内に公募し、申請のあった教職員個人あるいは研究グループ、各学科学系、センター等の提出申請書類に基づき、各選考委員会が下記選考事項についてヒアリングを実施した後に、順番を付して推薦し、交付する。

- ・選考項目：「申請区分」に対して、①相応しい実施計画（教育研究）で、②実現と成果が期待でき、③教育研究の改善や発展が見込まれること。

- ・ヒアリング実施方法：10分/1件以内（申請理由：3分、事項質疑：7分程度）、参考資料（A4サイズ、2枚程度）。ヒアリング時には、申請の重複状況についても説明を求める。

(3) 評価型

教育・研究等の業績について、校長は、3主事や専攻科科長等との相談の上、次の選考区分の中から、該当者を評価選考し交付する。

- ・選考区分：教育、研究、厚生補導、地域連携、国際交流、学校運営、その他

- ・選考基準：「選考区分」に対して、①顕著な業績または功労のあった者、②特段の成果や効果等が期待できる者

6. 研究成果（実施状況）の公表

公募方式により配分された経費（研究費等）については、年度末日までに成果（実施状況）報告書を提出する。これに基づき、主管の選考委員会（将来構想検討委員会）は学内に対して成果（実施状況）の公表を行う。

7. 参考：「配分区分」の選考優先順位

- ・区分A（中期計画及び地域連携推進経費）
 1. 学校運営
 2. 地域連携
 3. 国際交流
 4. 厚生補導
- ・区分B（教育改善推進経費）
 1. 教育
 2. 厚生補導
 3. 国際交流
- ・区分C（研究推進経費）
 1. 研究
 2. 教育
- ・区分D（教育研究推進経費）：特に定めず

（出典 平成22年11月25日運営協議会資料）

資料3-2-①-7 (1/2)

「学生による授業評価アンケート」の実施

V 「学生による授業評価アンケート」の実施

教育改善活動の一環として、木更津高専では平成13年度より「授業評価アンケート」を実施しております。平成24年度から各授業担当者にウェブキャリアシステム(WCA)を活用した「学生による授業評価アンケート」を実施して頂くこととなります。

1. 目的

学生による授業評価を受け、授業方法等の継続的な改善に資するため。

2. 実施者

全授業担当者(助手を含む全専任教員と全非常勤講師)

3. 対象となる授業科目

全授業科目

※「卒業研究」等の通常の授業形態とは異なる授業での実施は除きますが、これらの科目についても、授業方法等の継続的な改善のための何らかの調査が求められます(最終的には「事後シラバス」への記録が必要です)。

4. 実施時期

前期科目：前期中間試験終了後三週間程度以内(絶対的な実施期間ではありません)

後期科目：後期中間試験終了後三週間程度以内(絶対的な実施期間ではありません)

通年科目：前期中間試験終了後三週間程度以内(絶対的な実施期間ではありません)

※ 受講学生への速やかなフィードバックが可能なこれらの時期での実施をお願いいたします。ただし、試験時や試験返却時の実施は、学生の感情が入り込むため適切とは言えず、試験後、しばらく経過してからの実施が望まれます。

※ 上記期間以外でのアンケートの実施も推奨されます(「中間で実施ーフィードバックー期末で実施ー改善状況の検証」が最も望ましい形態です)。

※

5. アンケート形式

WCAにおいて標準的なアンケート(4段階選択及び自由記述)を用意いたします。なお、今年度は「マークシート」によるアンケートの準備は原則いたしません。

資料3-2-①-7 (2/2)

6. アンケートの設定と実施方法

- (1) WCA(<http://wca.kisarazu.ac.jp>)にアクセスして授業アンケートの個別設定を行う必要があります。WCAにログイン後、メニュー内の「アンケート個別設定」をクリックしてください。タイトル横の「？」マークをクリックすると設定方法に関する説明の文書が開きますのでご参照ください。
- (2) WCAにおける授業アンケートの設定後、マルチメディアA、ネットワーク情報センター、特別教室および各実験室等にてアンケートを行ってください。アンケート実施方法の詳細は、WCAログイン後に表示されるメニュー内の「アンケート個別設定」横の「？」マークをクリックして下さい。実施方法に関する説明文が開きます。なお、独自アンケートについては、各担当教員において実施してください。

7. 結果の集計

- (1) アンケート結果は、WCAによって自動的に集計されます。ログイン後の「アンケート集計結果表示」のリンクより確認することができます。なお、集計結果を教務係等に提出する必要はありません。

8. 学生へのフィードバック等

- (1) 集計結果に対する分析を行ってください。
- (2) 学生に対しては、「口頭による」「アンケート結果を印刷したものを掲示する」「印刷物を配布する」等のいずれかの方法でコメント等を学生に示し、授業の改善に努めてください。

9. 「事後シラバス」への記載

集計結果およびコメント等について「事後シラバス」の関連箇所への記載文書を作成してください。

10. 補足

- (1) 「記述式アンケート」は非常に簡便ですが、無駄な負担等を伴わずに、学生の要望やその強さ等を漏れなく吸い上げることが期待できる優れた手法です。よって、十分にご活用されることを望みます。
- (2) アンケートは、自己評価による「授業改善のための授業評価アンケート」と位置づけられています。このことをご理解の上、各授業担当者において改善活動に努めてください。

(出典 授業担当者の手引き 8～9頁)

資料3-2-①-8

事後シラバスの書式
事後シラバス

授業科目	授業科目名	
授業実施記録		
項目	内容	時間数
実際に行った項目	実際に行った内容	実施時間数
中間試験	範囲	
実際に行った項目	実際に行った内容	実施時間数
(前期)定期試験	範囲	—
実際に行った項目	実際に行った内容	実施時間数
中間試験	範囲	
実際に行った項目	実際に行った内容	実施時間数
(後期)定期試験	範囲	—
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)		合計時間数
授業評価アンケート結果に対するコメント等		
授業評価アンケート結果に対するコメント等		
次回開講時に向けての改善点等		
次回開講時に向けての改善点等		

※ 必要に応じ、行数およびページ数等を増減して構いません。

(出典 授業担当者の手引き 15頁)

(分析結果とその根拠理由)

全教員を対象とした校長面談を定期的に行い、教員の教育・研究活動に適切な助言を与えている。平成22年度には校長面談中の意見を元に教員業務の効率化を目的とした委員会組織の統合および構成員の見直しが行われた。この他、教員の業績評価を反映した校長裁量経費の配分が行われている。また、教職員顕彰による教員評価が定期的に行われている。学生による教員評価としては、全授業を対象とした授業評価アンケートが実施されており、アンケート結果を元に事後シラバスを作成し、学生評価に基づいた授業改善を継続的に行っている。

以上のことから、教員の定期的な評価が行われ、その結果把握された事項に対して適切な取り組みが行われている。

観点3-2-②： 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

資料3-2-②-1に高等専門学校設置基準を示す。本校における教員採用及び昇任に関する選考方法は、木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規に明示されている(**資料3-2-②-2**)。高等専門学校設置基準における「教育上の能力を有すると認められる者」という点において、本校の採用では公募書類**資料3-2-②-3**に示すように、応募資格(3)に採用基準を示し、提出書類(5)、面接および模擬授業において採用の判断を下している。また、研究に関しては提出書類(2)～(4)を求めており、候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。本校における非常勤講師の任用に関しては、木更津工業高等専門学校非常勤講師の任用に関する内規に明示されている(**資料3-2-②-4**)。

昇任候補者の選考に関しても同様に**資料3-2-②-2**に示されるように明示されている。昇任選考基準に関しても**資料3-2-②-5**に明示されている。昇任候補者選考における資料として**資料3-2-②-6**を示す。高専着任後の教育業績は同資料⑤、⑧～⑩及び⑫、⑬欄に明記される。研究業績についても著書論文一覧及び著書論文等の概要を明示する。これらの資料をもとに候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。

採用・昇格に関して教育上の能力を評価する詳細なプロセスを含む資料は人事関係資料であるため、現地閲覧資料として提示する(**現地閲覧資料4**)。

高等専門学校設置基準

第十一条 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- 二 学位規則（昭和二十八年文部省令第九号）第五条の二に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者
- 三 大学（短期大学を含む。以下同じ。）又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者
- 四 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者
- 五 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者
- 六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第十二条 准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 前条各号のいずれかに該当する者
- 二 大学又は高等専門学校において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）のある者
- 三 修士の学位又は学位規則第五条の二に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- 四 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者
- 五 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第十三条 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 第十一条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者
- 二 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者
- 三 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第十三条の二 助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 第十一条各号又は第十二条各号のいずれかに該当する者
- 二 修士の学位（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については、学士の学位）又は学位規則第五条の二に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- 三 特定の分野について、知識及び経験を有すると認められる者

第十四条 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 学士若しくは短期大学士の学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者
- 二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規(抜粋)

(趣旨)

第1条 本校専任教員の転任、退職又はその他の事由により本校専任教員の採用又は昇任を必要とする場合における採用候補者及び昇任候補者の選考手続きについては、法令又は別に定めるものの他、この内規の定めるところによる。

(教員採用・昇任候補者選考会議)

第2条 校長の諮問に応じて、教員の採用候補者又は昇任候補者の選考について校長に助言するため、教員採用・昇任候補者選考会議(以下「選考会議」という。)を置く。選考会議は、校長、教務主事、学科・学系主任をもって構成し、校長が主宰する。

(候補者の選考方法)

第3条 校長は、採用候補者選考の事由が生じたときは、あらかじめ、関係学科・学系主任に対し、候補者に係る専門分野、職名、その他の要件の提示を求め、候補者の選考方法について審議するため、選考会議を召集するものとする。

2 前項の審議において、学内での昇任により補充することが可能であると思われる場合には、昇任候補者に係る次の各号に掲げる書類を当該学科・学系主任から提出させ、選考会議で選考し、校長が昇任者を決定する。

- (1) 昇任候補者推薦書
- (2) 教員選考個人調書
- (3) 著書・論文等一覧
- (4) 著書・論文等の概要

3 前2項の審議において、公募による候補者の選考を行うこととした場合は、選考会議において公募要件を決定し公募を行う。この場合、広く各方面から人材を求めることを原則とする。なお、本校の専任教員は、学科・学系主任を通して、候補者を推薦することができるものとする。

(1) 候補者の選考は、所定の期限までに推薦された候補者について、選考会議で公募要件に定めた書類による一次審査を行う。この場合、候補者が少数である場合等については、一次審査を省略することができるものとする。

(2) 一次審査後、校長、教務主事、当該学科・学系主任及び校長が必要と認めた者による面接を行い、この面接結果を基に選考会議で候補者を選考し、校長が採用者を決定する。

(転任又は退職の申出)

第4条 この内規の実施を円滑に行うため、本校の専任教員は自己の都合で転任又は退職をしようとする場合は、あらかじめ6ヵ月前までに校長に申し出ることを原則とする。

附 則

この内規は、昭和57年10月28日から施行する。

附 則

この内規は、平成14年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和57年10月28日規則第6号)

資料3-2-②-3

教員公募資料

関係機関の長 殿

木更津工業高等専門学校長
工 藤 敏 夫 (公印省略)

教員の公募について (依頼)

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では下記により教員の公募をいたしますので、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦についてよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

- | | |
|------------|--|
| 1. 採用職名・人員 | 助教1名 |
| 2. 所 属 | 環境都市工学科 |
| 3. 専 門 分 野 | 構造力学及びそれらの関連分野 |
| 4. 担 当 科 目 | 構造工学実験, 測量実習, 図学など |
| 5. 応 募 資 格 | (1)博士の学位を有する者または採用時まで博士の学位を取得見込みの者
(2)構造力学, 鋼構造, コンクリート構造, 設計製図のいずれかに教育研究業績のある者
(3)教育, 研究に情熱を持ち, 学生指導にも理解と熱意のある者
(4)地域貢献に理解と熱意のある者 |
| 6. 採用予定日 | 平成25年4月1日 |
| 7. 提出書類 | (1)履歴書(指定様式または市販のものに本人自筆, 写真貼付)
(2)教育研究業績書(著書, 論文, 特許, 報告等で指定様式または様式任意)
(3)著書・論文等の別刷(コピー可, 主要なもの3編程度)
(4)研究業績概要(A4版, 2000字程度, 様式任意)
(5)教育, 研究および学生指導に対する抱負
(A4版, 2000字程度, 様式任意)
(6)所属長(または指導教員)の推薦書またはこれに準ずるもの |
| 8. 選 考 方 法 | 第1次選考(書類選考), 第2次選考(面接および模擬授業)
※ 面接に関わる旅費等は, 応募者の負担とする。 |
| 9. 応 募 期 限 | 平成24年6月29日(金)必着 |
| 10. 備 考 | (1)木更津工業高等専門学校の教員が携わる授業以外の職務概要は, 別紙のとおりです。
(2)木更津工業高等専門学校は, 男女共同参画に配慮していますので, 女性の積極的な応募を期待します。
(3)応募者の個人情報, は, 木更津工業高等専門学校の教員を採用する目的のために利用するものであり, 第三者に提供または公表することはありません。 |
| 11. 書類送付先 | ～省略～ |
| 12. 問い合わせ先 | 「教育・研究に関すること」
～省略～
「その他事務的なこと」
～省略～ |

(出典 人事・労務係資料)

木更津工業高等専門学校非常勤講師の任用に関する内規

(任用基準)

第1条 非常勤講師は、優れた識見を持ち、本校の教育方針に沿った教育指導のできる者で、次の各号に該当する者とする。

(1) 高等専門学校設置基準（昭和 36 年 8 月 30 日 文部省令第 23 号）に定められた講師の資格を有する者

(2) 採用日において、65 歳未満の者

(任用方法)

第2条 任用は、年度計画により作成された任用計画書に基づき行う。

(任用書類)

第3条 任用に必要な書類は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 履歴書（教育研究業績を含む）

(2) その他必要と認める書類

(その他)

第4条 特別の事情により、この内規により難しい場合には、校長は別段の取扱いをすることができる。

附 則

1 この内規は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

2 木更津工業高等専門学校非常勤講師の任用上の年令制限に関する内規（昭和 60 年 2 月 21 日 細則第 2 号）は廃止する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 5 年 4 月 1 日 規則第 3 号)

資料 3-2-②-5 (1/2)

木更津工業高等専門学校教員の昇任選考基準

平成 24 年 4 月 5 日

細 則 第 1 号

教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規（昭和 57 年 10 月 28 日細則第 6 号）第 3 条第 2 項の教員の昇任候補者の選考は、高等専門学校設置基準の規定のほか、この基準による。

- 1 教授への昇任は、次のすべての要件を満たしている者の中から選考する。
 - 1) 高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有し、着実に実践してきたこと。
 - 2) 博士の学位（人文学系については、修士以上の学位）を有していること、又は技術士等の職業上の高度の資格を有していること。
 - 3) 直近 5 年間に論文発表 3 編以上であること、又は研究分野の特性なども踏まえ、これに相当する研究業績を有すること。
 - 4) 学級担任を 3 年以上担当したこと。
 - 5) 主事補、副センター長などの重要な学内役職を 2 年以上担当したこと、又は各種委員会においてこれに相当する業績を上げたこと。
 - 6) 課外活動指導、学生生活指導、地域連携、国際交流、高専間連携、外部資金獲得など本校の教育研究の発展向上に資する活動において優れた実績を上げたこと。
 - 7) 学科・学系の運営に関して積極的に協力し、関わったこと。
 - 8) 昇任後も引き続き教育研究、学内役職、学科・学系運営その他において活発な活動が期待できること。
- 2 前項の適用に当たっては、次の取扱いをすることができる。
 - ア) 当分の間、本校運営上必要不可欠な人材を教授に昇任させる場合に、前項の 2) の要件を問わないものとする。
 - イ) 企業における実務経験等を教育研究上の能力に準ずるものと評価して学外から准教授等として採用した者を教授に昇任させる場合に、前項の 2) の要件を問わないものとする。
 - ウ) 学外から准教授等として採用後本校における勤務期間が短い者を教授に昇任させる場合に、前項の 4) 及び 5) の要件における年数を緩和すること。
- 3 准教授への昇任は、次のすべての要件を満たしている者の中から選考する。
 - 1) 高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められること。
 - 2) 博士の学位（人文学系については、修士以上の学位）を有していること、又は技術士等の職業上の高度の資格を有していること。
 - 3) 直近 5 年間に論文発表 3 編以上であること、又は研究分野の特性なども踏まえ、これに相当する研究業績を有すること。
 - 4) 学内の各種役職、課外活動指導、学生生活指導、地域連携、国際交流、外部資金獲得など本校の教育研究の発展向上に資する活動に積極的に取り組んでいること。
 - 5) 学科・学系の運営に関して積極的に協力したこと。
 - 6) 昇任後も引き続き教育研究、学内役職、学科・学系運営その他において活発な活動が期待できること。

資料 3-2-②-5 (2/2)

- 4 前項の適用に当たっては、第 2 項のイ) の規定を準用する。
- 5 講師への昇任は、准教授への昇任要件に準じ、准教授となるためにはなお経験年数を必要とする者の中から選考する。
- 6 助教からの昇任は、当該学科が有する定数枠を前提としつつも、学科・学系間の教員の構成等を勘案し、全学的に考慮する。

附 則

この基準は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 24 年 4 月 5 日細則第 1 号)

資料3-2-②-6 (1/4)

教員選考資料 (昇任用)
教 員 選 考 個 人 調 書 (昇任用)

		学科・学系	
①(ふりがな) 氏名	() (昭和 年 月 日生 歳)	現住所	
採用又は昇任後の 職名 (学科名等)	② ()	④ 発令希望年月日	平成 年 月 日
現職 (学科名等)	③ ()		
⑤ 担当授業科目名	昇任後の 担当科目	⑥ 最終学歴 (高専・短大・大卒以後)	平成 年 月
	現在の 担当科目	⑦ 学位・称号	
⑧ 教歴及び職歴の概要	(常勤のみ記載) 年 月～年 月 (年)	⑨ 資格免許状	
		⑩ 教歴及び 職歴の年数	教歴 年 月(.) 職歴 年 月(.) ※()内は 本校での年数
			計 年 月 (.)
⑪ 過去の選考状況 (採用・昇任)	昭和・平成 年 月 日 ()		
⑫ 高等専門学校にお ける主事・主事補歴	平成 年 月～平成 年 月 (年)		
⑬ 上記以外の高等専門 学校における学生指 導歴等 (学級担任や クラブ顧問など)	平成 年 月～平成 年 月 (年)		

資料3-2-②-6 (2/4)

(2-1)

氏名		学科・学系	
⑭ 研修歴等	研修歴		
	内地研究等		
	賞罰		
⑮ 教育・研究上の業績	企業の各部門における実践を含む	1.	
		2.	
		3.	
		4.	
		5.	
⑯ その他特記すべき事項		(所属学会)	

(2-2)

資料3-2-②-6 (3/4)

著書・論文等一覧

整理 番号	発表年月日 (和暦)	発表課題名	発表学会誌名等	単著・ 共著の別	※使用 の有無	備考
氏名						

※過去の採用や昇任の際に著書・論文等の概要として使用したものには「有」、それ以外には「無」と記入する。

(注) 年代順に記載し、特に重要なものに関しては、直近5年間に発表した3編以上を含め、全部で5編以上を整理番号に○を付し、その「概要」及び「別刷」を添付すること。(原則として「使用の有無」欄が“無”のものとする。)

資料3-2-②-6 (4/4)

著書・論文等の概要

		学科・学系		申請職名	
		氏 名			
整理 番号	発表年月 日	発表課題名	発表学会誌名等	単著・共著の別 共著者名, 分担部分等	

(800字程度で記載のこと)

(出典 人事・労務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校における教員採用及び昇任に関しては、木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規に明示されている。高等専門学校設置基準における「教育上の能力を有すると認められる者」という点については、本校では応募資格や提出書類、面接および模擬授業により採用の判断を下している。研究に関しても判断基準となる提出書類を求めている。昇任候補者の選考に関しても同様に内規に明示されている。高専着任後の教育業績及び研究業績について明示された資料をもとに候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。

以上のことから、本校における採用や昇格に関する規定は明確かつ適切に定められており、かつ、適切に運用されている。

観点3-3-①： 学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

資料3-3-①-1に示した組織内で、主に教育にかかわる事務は学生課と教育研究支援センターである。学生課は課長の他、課長補佐、教務係、学生係、学寮・保健係、図書・情報係で構成される。これらの事務組織の事務分掌を資料3-3-①-2に示す。これらの業務を円滑に行うため、学生課には13名の職員が配置されている。教育研究支援センターは、センター長（教務主事）と副センター長（技術長）の下に第1技術班、第2技術班を構成している（資料3-3-①-3）。技術専門職員及び技術職員は各学科の専門内容に応じた専門技術を有し、資料3-3-①-4で定められた業務を学科・学系からの依頼（資料3-3-①-5）に応じて行っている。また、技術職員は支援業務の質を向上させるため、積極的に研修・研究活動を実施している（資料3-3-①-6）。

機構図

組織

Organization

機構図

校長 President

副校長(教務主事)
Vice President
Dean of Academic Affairs

副校長(学生主事)
Vice President
Dean of Student Affairs

副校長(寮務主事)
Vice President
Dean of Dormitory Affairs

副校長(専攻科長)
Vice President
Dean of Advanced
Engineering Courses

副校長(地域共同テクノセンター長)
Vice President
Dean of Cooperative
Technology Center

副校長(特定業務担当)
Vice President
Dean of Special Affairs

機械工学科 Mechanical Engineering Department

電気電子工学科 Electrical and Electronic Engineering Department

電子制御工学科 Control Engineering Department

情報工学科 Information and Computer Engineering Department

環境都市工学科 Civil Engineering Department

人文学系 Liberal Arts

基礎学系 Natural Science

専攻科 Advanced Engineering Courses

地域共同テクノセンター
Cooperative Technology Center

図書館 Library

ネットワーク情報センター
Information Network Center

学生相談室
Counseling Center

事務部
Administration Department

教育研究支援センター
Education and Research
Support Center

総務課
General Affairs
Division

学生課
Student Affairs
Division

第一技術班
Technical Support
Team 1

第二技術班
Technical Support
Team 2

機械・電子システム工学専攻 Mechanical and Electrical Course

制御・情報システム工学専攻 Control and Information Course

環境建設工学専攻 Civil and Environment Course

課長補佐(総務・企画担当)
Deputy Manager (In Charge of General Affairs and Planning)

総務係 General Affairs Section

人事・労務係 Personnel and Labor Section

研究協力・地域連携係
Research Cooperation and Regional Alliance Section

課長補佐(財務担当) Deputy Manager (In Charge of Finance)

予算管理係 Budget Management Section

経理係 Accounting Section

施設係 Facilities Section

課長補佐 Deputy Manager

教務係 Academic Affairs Section

学生係 Student Welfare Section

学寮・保健係 Dormitory and Health Affairs Section

図書・情報係 Library and Information System Section

実習部門 Workshop Section

機械・電子部門 Mechanical and Electronic Engineering Section

制御・情報部門 Control and Information - Computer Engineering Section

環境建設部門 Civil and Environmental Engineering Section

(出典 平成 24 年度学校要覧 4 頁)

資料 3-3-①-2 (1/2)

木更津工業高等専門学校事務分掌細則

(趣旨)

第 1 条 この細則は、木更津工業高等専門学校事務組織規程（平成 19 年 4 月 1 日規則第 2 号）第 5 条の規定に基づき、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務部の課に置く課長補佐及び係の事務分掌等について定める。

～中略～

(学生課)

第 3 条 学生課に課長を補佐し、その事務を分掌整理させるため、課長補佐を置く。

2 学生課に次の 4 係を置く。

- (1) 教務係
- (2) 学生係
- (3) 学寮・保健係
- (4) 図書・情報係

3 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学，進級，卒業，その他学生の身分の異動に関する事。
- (2) 入学者の募集及び選抜に関する事。
- (3) 入学者選抜の広報に関する事。
- (4) 入学者の選抜に関する事。
- (5) 教育課程の編成及び実施に関する事。
- (6) 学生の修学指導に関する事。
- (7) 学生の学籍に関する事。
- (8) 専攻科に関する事。
- (9) 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。
- (10) 授業及び試験に関する事。
- (11) 学生の出席等に関する事。
- (12) 学生の進路に関する事。
- (13) 学外実習に関する事。
- (14) 教科書及び教材に関する事。
- (15) 学生の身分，学業成績及び卒業等の諸証明に関する事。
- (16) 研究生，科目等履修生に関する事。
- (17) 学生課に属する公印の管守に関する事。
- (18) ネットワーク情報センターの事務に関する事。
- (19) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。
- (20) その他学生課の所掌で他の係に属さない事務に関する事。

4 学生係にあつては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の就職斡旋に関する事。
- (2) 学生の課外活動及び行事に関する事。
- (3) 学生の奨学に関する事。
- (4) 学生の旅客運賃割引証に関する事。
- (5) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (6) 学生便覧に関する事。
- (7) 学生の入学料・授業料免除及び徴収猶予に関する事。
- (8) 学生の表彰及び懲戒に関する事。
- (9) 学友会，その他の学生団体に関する事。
- (10) 学生の集会，刊行物及び掲示に関する事。
- (11) 学生の施設及び設備の使用に関する事。
- (12) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。
- (13) その他学生の厚生補導に関する事。

資料 3-3-①-2 (2/2)

5 学寮・保健係にあつては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学寮の管理運営に関する事。
- (2) 学生の入寮及び退寮に関する事。
- (3) 寮生の厚生補導に関する事。
- (4) 寮生の栄養管理及び保健衛生に関する事。
- (5) 寄宿料の免除に関する事。
- (6) 寮友会に関する事。
- (7) 教員の宿日直に関する事。
- (8) 外国人留学生（学生課の他の係に属さない事務）に関する事。
- (9) 学生の健康管理及び安全保持に関する事。
- (10) 学生のカウンセリングに関する事。
- (11) 日本スポーツ振興センターの災害給付に関する事。
- (12) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- (13) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。
- (14) その他学寮・保健に関する事。

6 図書・情報係にあつては、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書館資料の受入れ、整理及び保管等に関する事。
- (2) 図書館資料の収集、選定に関する事。
- (3) 図書館資料の閲覧及び貸出等利用に関する事。
- (4) 図書館資料の検索指導及び読書相談等参考奉仕に関する事。
- (5) 図書館資料の寄附受入れに関する事。
- (6) 図書購入費の経理に関する事。
- (7) 図書の契約に関する事。
- (8) 紀要の発行に関する事。
- (9) 図書館の広報に関する事。
- (10) 学術情報システムの構成に係る関連機関との連絡調整に関する事。
- (11) 情報化推進に関する事。
- (12) 事務用電子計算機のシステムの運用及び維持管理に関する事。
- (13) 情報関係の広報に関する事。
- (14) 電子計算機の利用にかかる知識及び技術の普及に関する事。
- (15) 電子計算機の事務処理のための調査、分析及び資料収集に関する事。
- (16) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。
- (17) その他図書・情報に関する事。

附 則

- 1 この細則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 木更津工業高等専門学校事務分掌細則（平成12年細則第2号）は廃止する。

附 則

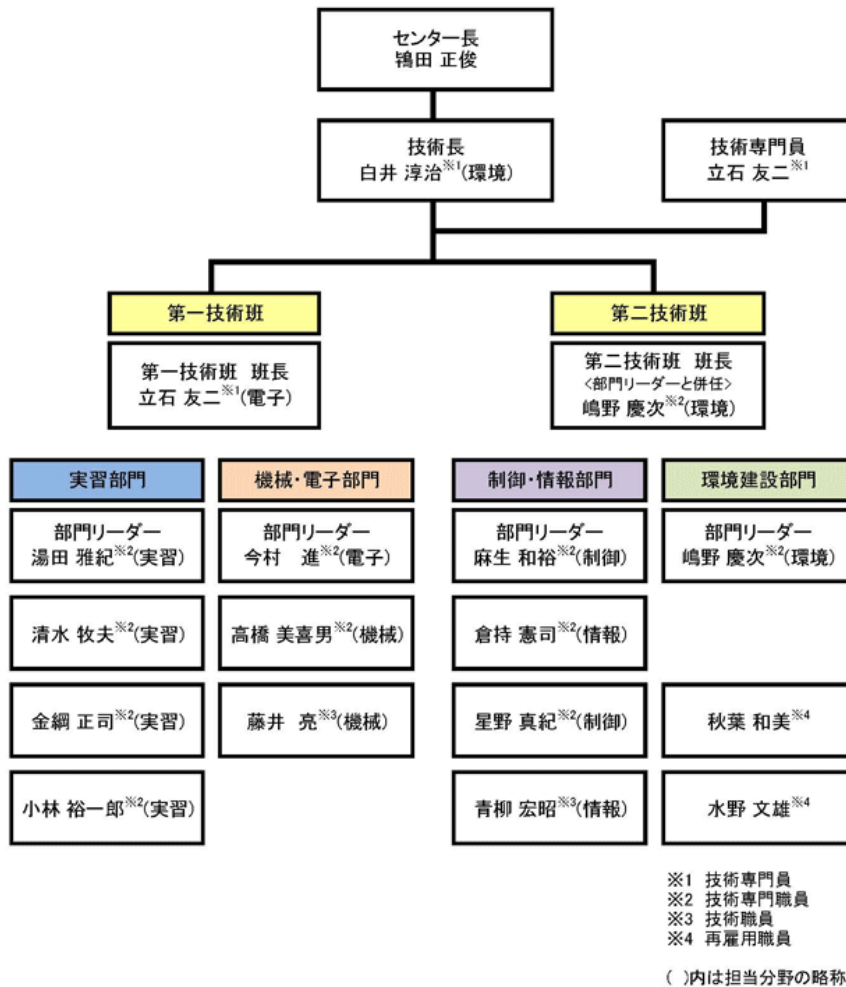
この細則は、平成21年4月1日から施行する。

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成19年4月1日細則第1号）

教育研究支援センター組織図

教育研究支援センター 組織図

2012年4月1日



(出典 木更津高専ウェブページ)

http://www.kisarazu.ac.jp/kyoiku_kenkyu_shien/soshiki/soshiki.html

資料3-3-①-4

木更津工業高等専門学校教育研究支援センター規則(抜粋)

平成20年9月11日

規則第4号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第8条の2第1項に基づき、教育研究支援センター(以下「センター」という。)の組織及び運営その他必要な事項について定める。

(目的)

第2条 センターは、本校技術職員の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営を図るとともにその能力及び資質の向上を図り、もって学生の実験・実習、卒業研究及び教員の教育・研究を支援することを目的とする。

～中略～

～以下省略～

第3章 所掌業務

(業務)

第7条 センターは次の業務を行う。

- (1) 学生の実習の支援及び安全管理に関すること。
- (2) 卒業研究、実験の支援及び安全管理に関すること。
- (3) 学生の課外活動の支援に関すること。
- (4) 公開講座等学外者を対象とした技術教育の支援に関すること。
- (5) 民間企業との共同研究、技術援助の支援及び技術相談に関すること。
- (6) 施設設備及び機械器具等の使用、維持管理に関すること。
- (7) 研究・実験・実習に係る装置等の製作に関すること。
- (8) 技術発表会、技術講演会等の企画・実施に関すること。
- (9) その他教育及び研究の支援に関すること。

2 第3条第1項に定める班は、他の班から業務に関する協力依頼があった場合は、可能な限りそれを支援するものとする。

～以下省略～

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成20年9月11日規則第4号)

資料3-3-①-5

教育研究支援センターへの支援依頼票

技術教育支援依頼票

平成 年 月 日

技術教育支援センター長 殿

受付番号	学 科 名 (課 名)						
	学科主任等 (課 長 名)			印			
	担当教官等 (実施責任者)			印			
	(連絡先 内線 :)						
授業支援	平成 年度	<input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期					
	授 業 名						
	授 業 日	毎週	曜日	限			
	教 室 名						
	授業開始前の 打ち合わせ等	<input type="checkbox"/> 不 要	平成 年 月 日 時 ~ 時		計	h	
	準備・後片付 に要する時間	授業前	h	授業後	h	計	h
	支援の内容	<input type="checkbox"/> 詳細は裏面に記載 <input type="checkbox"/> 添付資料(有・無)					
研究支援等 その他	事 業 名						
	実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日					
		定 期	毎週	曜日	時 ~ 時	計	h
		不 定期	h / d		日間		
	実施場所						
<input type="checkbox"/> 受託研究 <input type="checkbox"/> 共同研究(外) <input type="checkbox"/> 共同研究(内) <input type="checkbox"/> 受託試験 <input type="checkbox"/> 学校行事 <input type="checkbox"/> 実験室等管理 <input type="checkbox"/> 学科等行事 <input type="checkbox"/> 学科事務 <input type="checkbox"/> その他	支援の内容	<input type="checkbox"/> 詳細は裏面に記載 <input type="checkbox"/> 添付資料(有・無)					
上記業務に 必要な人数 及び技能等	必要人数	必 要 な 技 能 等					
	人						
特に指名する職員がある ときはその職員名							

(出典 技術教育支援依頼票)

資料3-3-①-6 (1/2)

年報(目次)

目次

日本型イノベーション	教育研究支援センター長	鴫田正俊	1
オンリーワン	教育研究支援センター技術長	白井淳治	2
トピックス 2012 年度			3
第1部門 事業報告			
平成 24 年度教育研究支援センター事業一覧			5
第 29 回技術職員セミナー報告		金網正司	6
第 30 回技術職員セミナー報告		藤井 亮	7
第 31 回技術職員セミナー報告		金網正司	8
第 3 回高専技術教育発表会報告 －「高専技術教育発表会 in 木更津」－		白井淳治	9
第 11 回関東信越地区技術長等会議東京高専にて開催		白井淳治, 立石友二 今村 進	11
平成 24 年度独立行政法人国立高等専門学校機構 東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会報告(建設・環境系)		嶋野慶次	13
平成 24 年度関東信越地区国立高等専門学校 技術職員研修会報告(電子制御系)		星野真紀	15
公開講座報告「ガラスを削って絵を描こう」		小林裕一郎, 湯田雅紀 清水牧夫, 金網正司	17
公開講座報告「夏休みこども工作教室」		白井淳治, 立石友二 今村 進, 清水牧夫	18
公開講座報告「磁石とコイルを使って音を聞いてみよう」		白井淳治, 立石友二 今村 進, 藤井 亮	19
第2部門 教育に関わる活動報告			
「とんぼ」: ~頭と手で作り上げる課題~		湯田雅紀	21

資料3-3-①-6 (2/2)

第3部門 研究活動報告（研究論文等）

平成24年度研究等活動一覧		23
平成23年度科学研究費補助金（奨励研究）実績報告	立石友二	24
平成23年度科学研究費補助金（奨励研究）実績報告	湯田雅紀	25
平成23年度科学研究費補助金（奨励研究）実績報告	清水牧夫	26
平成23年度科学研究費補助金（奨励研究）実績報告	青柳宏昭	27

資料集

木更津工業高等専門学校教育研究支援センター規則		29
木更津工業高等専門学校における技術専門員及び技術専門職員選考基準		31
平成24年度教育研究支援センター運営委員会名簿		32
教育研究支援センター運営委員会開催記録		33
平成24年度特別事業費・科学研究費補助金（奨励研究）等採択状況		35
平成24年度研修会・委員会等の業務		35
平成24年度奨学寄付金等実績		35
技術職員セミナー開催一覧		36
教育研究支援センター運営体制		43

(出典 教育研究支援センター 年報 第12号)

(分析結果とその根拠理由)

主に教育活動にかかわる事務は学生課である。学生課は課長，課長補佐の他，教務係，学生係，学寮・保健係と図書・情報係で構成される。これら組織の事務分掌は木更津工業高等専門学校事務分掌細則に明記されている。主に教育活動にかかわる技術的なサポートを担うのは教育研究支援センターであり，所掌業務については教育研究支援センター規則に明示されている。学生課各係には図書・情報係2名，教務係3名，学生係2名(再雇用職員1名の支援)，学寮・保健係3名，教育研究支援センターには，14名(再雇用職員2名の支援)の職員が配置されており，教育活動を円滑にするための支援を行うに十分な人員配置である。技術専門職員及び技術職員は各学科の専門内容に応じた専門技術を有し，学科・学系からの依頼に応じて実験・実習等の技術教育支援を行っている。

以上のことから，本校では教育課程を展開するのに必要な事務職員，技術職員が適切に配置されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

観点3-1-①～③において述べたとおり、専門5学科の専任教員における博士の学位取得率は84%であり、教育目的(2)を達成するために十分な素質を持つ教員構成となっている。

また、一般科目を担当する人文・基礎学系でも博士の学位取得率は52%であるのに加え、多くの教育職歴の豊富な教員で構成されている。また、職務経験だけではなく年齢等の全体の教員構成も均衡のとれた配置となっている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準3の自己評価の概要

本校は1学年5学級であり、25人の一般科目専任教員が配置されており、設置基準を満たしている。本校の教育目的を達成するため、一般科目の担当教員を専門性を考慮して適切に配置している。

専門の専任教員数は50名であり、高等専門学校設置基準を満たした適切な教員配置がなされている。教育目的(準学士課程及び専攻科課程の学習・教育目標2)の達成には、教員の専門性が重要である。担当教員の学位取得の状況から、専門科目を教授する資質は明らかであり、本校の教育目的を達成するために必要な専門科目と担当教員の専門分野の整合性が取れた適切な配置となっている。

専攻科科目の担当教員は、専任教員と本校を定年退職後に再雇用された教員である。専任教員の学位取得の状況から、専攻科の科目内容を教授する資質は十分に示されている。よって、教育目的を達成するために必要な専門科目と担当専任教員の専門分野の整合性が取れた適切な配置になっている。

本校では教育目的を達成するために、応募資格や提出書類の内容における年齢、教育、研究、実務等の条件を考慮し、採用を行っている。その結果、均衡のとれた教員構成となっている。このような教員構成への配慮、支援、任用状況より、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置がとられている。

教員採用及び昇任の選考方法に関しては、木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者の選考に関する内規に明示されている。教育上の能力・研究業績という点については、応募資格や提出書類、面接および模擬授業により判断している。また昇任においては、明確な昇任基準が定められ、高専着任後の教育・研究業績が明示された資料を基に候補者選考に関する内規に定められた方法で審査している。よって、採用や昇格に関する規定は明確かつ適切に定められ、適切に運用されていると考える。

2004年度より教職員顕彰を行っている。これは、教育・研究・学校運営・地域連携の何れかの分野で業績をあげた教員に行われている。この様に本校では教員の活動に関する定期的な評価を実施するための体制は整備されているが、評価体制のさらなる改善を目指して、現在検討中である。

主に教育活動にかかわる事務は学生課である。学生課は教務係、学生係、学寮・保健係と図書・情報係で構成されており、12名の職員が配置されている。これらの事務組織の事務分掌は木更津工業高等専門学校事務組織規程に明示されている。教育活動にかかわる技術的なサポートを担うのは教育研究支援センターであり、教育研究支援センター規則に定められた業務を遂行するために16名の技術職員が配置されている。よって、教育活動を展開するのに必要な事務職員、技術職員が適切に配置されている。

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

木更津高専のアドミッション・ポリシーは本校を志望する学生に対する周知を目的とし、準学士課程と専攻科課程別に明文化されている。準学士課程では「入学者募集要項」（資料 4-1-①-1）に、専攻科課程では「専攻科入学者選抜募集要項」に記載している（資料 4-1-①-2）。

また、本校のウェブページにもアドミッション・ポリシーが掲載されており、学内外に広く公開されている（資料 4-1-①-3～5）。この他、千葉県内の中学校訪問時に冊子「木更津高専 Campus Guide Book」や「入学者選抜に関する資料」を配布して、説明を行っている（資料 4-1-①-6, 7）。これらを踏まえて、本校のウェブページでは、平成24年度では8,561件のアクセス件数があり、準学士課程 1 年次入学者選抜が近づいた 1 月から 2 月にかけてアクセス件数が多くなっている（資料 4-1-①-8）。

本校の教職員に対して教員会議、学科・学系会議において説明して周知し、教員会議にてアドミッション・ポリシーの認知の度合いを測るためにアンケートを行った（資料 4-1-①-9, 10）。

資料 4-1-①-1

準学士課程のアドミッション・ポリシー（募集要項）

Admission Policy
アドミッション・ポリシー

※アドミッション・ポリシー…入学者選抜の基本的な考え方

木更津高専では、このようなあなたを求めています。

1. 数学や理科などの理数系科目が得意で科学技術に興味・関心がある人
2. 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身につけたい人
3. 将来、指導的立場に立つ技術者になりたい人

（出典 平成 25 年度入学者選抜募集要項 1 頁）

資料 4-1-①-2

専攻科課程のアドミッション・ポリシー（募集要項）

専攻科のアドミッション・ポリシー

木更津高専専攻科では、次のような資質や意欲を持った人を求めています。

1. 専門とする技術分野の基礎学力と工学的素養を備えている人
2. これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味（好奇心）を持っている人
3. 将来、より高度な技術課題に取り組むことのできる基礎能力を身に付けた人
4. 技術者として社会的責任を自覚し、他者と共同して社会に貢献する意欲を持った人

（出典 平成 25 年度専攻科入学者選抜募集要項 1 頁）

資料 4-1-①-3

準学士課程 1 年次入学者選抜のアドミッション・ポリシー（本校ウェブページ）

■ アドミッション・ポリシー

木更津高専では、このようなあなたを求めています。

- “
1. 数学や理科などの理数系科目が得意で科学技術に興味・関心がある人
 2. 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けたい人
 3. 将来、指導的立場に立つ技術者になりたい人

検定料免除について掲載しました。

募集要項を配布しています。

キャンパスガイドブック(進学志望の手引2013)を配布しています。

（出典 木更津工業高等専門学校ウェブページ入試情報）

<http://nyushi.kisarazu.ac.jp/nyushi/index.html>

資料 4-1-①-4

準学士課程 4 年次編入学者選抜のアドミッション・ポリシー（本校ウェブページ）

編入学生の入試情報

募集要項(添付:志願者用書類)の請求

本校学生課教務係で配布しています。来校されるか、郵送で請求して下さい。詳しくは、[ここ](#)をご覧ください。

アドミッション・ポリシー

木更津高专では、このようなあなたを求めています。

1. 数学や理科などの理数系科目が得意で科学技術に興味・関心のある人
2. 自ら考え、自ら工夫して新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けたい人
3. 将来、指導的立場に立つ技術者になりたい人

ダウンロード

平成25年度編入学募集要項
PDF

学科へのリンク

機械工学科

電気電子工学科

電子制御工学科

情報工学科

環境都市工学科

(出典 木更津工業高等専門学校ウェブページ入試情報)

<http://nyushi.kisarazu.ac.jp/nyushi/index.html>

資料 4-1-①-5

専攻科課程入学者選抜のアドミッション・ポリシー（本校ウェブページ）

専攻科のアドミッション・ポリシー

木更津高专専攻科では、次のような資質や意欲を持った人を求めています。

1. 専門とする技術分野の基礎学力と工学的素養を備えている人
2. これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味(好奇心)を持っている人
3. 将来、より高度な技術課題に取り組むことのできる基礎能力を身に付けたい人
4. 技術者として社会的責任を自覚し、他者と共同して社会に貢献する意欲を持った人

算方法の改正について(予告)PDF
を掲載しました。

専攻科入試情報メニュー

アドミッション・ポリシー

推薦入学者選抜

学力入学者選抜

社会人特別選抜

お問い合わせ

木更津高专Top

(出典 木更津工業高等専門学校ウェブページ入試情報)

<http://nyushi.kisarazu.ac.jp/nyushi/index.html>

木更津高専 Campus Guide Book

木更津高専のアドミッション・ポリシー 私たちが求めているのは…

- 1 数学や理科などの理数系科目が得意で
科学技術に興味・関心のある人
- 2 自ら考え、自ら工夫して
新しいものをつくり出す力と実行力を身に付けたい人
- 3 将来、指導的立場に立つ
技術者になりたい人

木更津高専

高専は高等教育機関です

高専では、将来エンジニアになることを目指し、入学当初からその資質や目標にあった専門教育がおこなわれています。5年間の一貫教育で、専門教育と一般教育が効率よく組み合わされているので、大学と同程度の高度な専門的能力を修得できます。また、大学や企業で活躍する第一線の研究者や技術者を講師として多数招き、より実践的な授業をおこなっています。

5年間の一貫教育をおこなっています

- ◎1年生から専門教育が始まり、5年間で基礎から高度な専門技術までを学びます。
- ◎実験・実習の時間数が大学に比べて多く、自らものをつくる創造的能力が養われます。
- ◎4・5年生になると、学生の興味や進路にあわせて選択する科目も用意されています。
- ◎5年生になるとそれまでの学習を土台にして1つのテーマを深く追求する卒業研究があります。
- ◎技術者として将来大きく成長するための一般科目の勉強も、5年間にわたり専門科目と並行して学びます。

カリキュラムの構成

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生
外国語				
国語・社会・芸術			人文・社会系	
数学 基礎科学 物理学 科学		自然科学系		
保健体育				
一般特別研究				特論
専門科目				

入学者選抜に関する資料

平成 25 年度
 国立 木更津工業高等専門学校
 入学者選抜に関する資料

平成 25 年度入学者選抜の主な日程

推薦入学者選抜

入学願書受付	平成 25 年 1 月 11 日 (金) ~ 16 日 (水)	9:00-16:30
試験 (適性検査・面接)	平成 25 年 1 月 23 日 (水)	9:00
推薦選抜結果発表	平成 25 年 1 月 25 日 (金)	13:00
入学確約書の提出期限	平成 25 年 2 月 1 日 (金)	16:00

学力入学者選抜

入学願書受付	平成 25 年 2 月 1 日 (金) ~ 7 日 (木)	9:00-16:30
学力検査	平成 25 年 2 月 24 日 (日)	9:00-15:30
本校第一志望者選抜結果発表	平成 25 年 2 月 27 日 (水)	10:00
入学確約書の提出期限	平成 25 年 3 月 4 日 (月)	16:00
本校第二志望者選抜 (面接)	平成 25 年 3 月 7 日 (木)	10:00
本校第二志望者選抜結果発表	平成 25 年 3 月 7 日 (木)	16:00

【参考】千葉県立高等学校入学者選抜日程

前期選抜	出願日	平成 25 年 2 月 1 ~ 4 日
	検査日	平成 25 年 2 月 12, 13 日
	発表日	平成 25 年 2 月 19 日
	確約書	平成 25 年 2 月 19 ~ 20 日
後期選抜	出願日	平成 25 年 2 月 21 ~ 22 日
	検査日	平成 25 年 2 月 28 日
	発表日	平成 25 年 3 月 6 日

2012年度 入試関連ウェブサイト利用状況等調査

年	月	アクセス数
2012	4	534
2012	5	416
2012	6	500
2012	7	492
2012	8	467
2012	9	476
2012	10	604
2012	11	587
2012	12	697
2013	1	1810
2013	2	1416
2013	3	562
計		8561

(出典 広報委員会・入試委員会資料)

アドミッション・ポリシーの周知を測るアンケート

教 員 会 議

平成 25 年 1 月 17 日 (木)
(平成 24 年度第 9 回) (会議室 A : 15 時 10 分～)

協 議 題

連絡・報告事項

- ※ 1 . 平成24年度スキー合宿研修について (資料 1) (学生主事)
- ※ 2 . 学友会中央委員会役員(平成25年度)選挙の結果報告 (資料 2) (学生主事)
について
- ※ 3 . 平成24年度駅伝大会結果について (資料 3) (学生主事)
- ※ 4 . 寮生数一覧について (資料 4) (寮務主事)
- ※ 5 . 平成25年1月以降の税制改正について (資料 5) (総務課長)

その他

- 1 . 認証評価受審に向けたアンケート調査の実施について (資料: (点検・評価委)
当日配布) 員長

- 2 . 出張報告 (資料 無) (総務課長)
 - ・全国高専メンタルヘルス研究集会(大澤教員)
 - ・ISTS2012(米村教員)
 - ・女性研究者研究交流会(吉井教員、瀬川教員)

※印：資料は、教職員ローカルホームページに掲載済み
ホームページのアドレスは <http://10.10.0.21/> です。

(出典 平成 24 年度第 9 回教員会議目次)

資料 4 - 1 - ① - 10

アドミッション・ポリシーの周知を測るアンケート結果

教 員

設問	1	2	3	4	平均
1. 準学士課程のアドミッション・ポリシーを理解していますか。					
1 十分理解している	39	35	8	2	1.7
2 ほぼ理解している					
3 少し理解している					
4 理解していない					
2. 専攻科課程のアドミッション・ポリシーを理解していますか。					
1 十分理解している	23	40	19	2	2.0
2 ほぼ理解している					
3 少し理解している					
4 理解していない					

(計 84 名)

技術職員

設問	1	2	3	4	平均
1. 準学士課程のアドミッション・ポリシーを理解していますか。					
1 十分理解している	5	5	2	2	2.1
2 ほぼ理解している					
3 少し理解している					
4 理解していない					
2. 専攻科課程のアドミッション・ポリシーを理解していますか。					
1 十分理解している	2	5	5	2	2.5
2 ほぼ理解している					
3 少し理解している					
4 理解していない					

(計 14 名)

(出典 点検・評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、アドミッション・ポリシーを準学士課程と専攻科課程別に明確に定めており、教育の目的に沿って求める学生像及び入学者選抜の基本方針等を準学士課程の「入学者募集要項」、専攻科課程の「専攻科入学者選抜募集要項」他に記載し、教員会議、学科・学系会議において本校の教職員にも周知されている。

観点 4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校における準学士課程 1 年次の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに沿った資料 4-2-①-1 に示す選抜方法に基づき、各学科において勉学に支障のない学力、目的意識と学習意欲を備えた人物を選抜する方針で行っている。準学士課程 1 年次の入学者選抜は「推薦入学者選抜」と「学力入学者選抜」の 2 つを実施している。「推薦入学者選抜」は学力試験を免除し、調査書における内申点のうち主要 5 教科（国・社・数・理・英）の配点を 2 倍にする傾斜配点によって学力を判断するとともに、調査書及び推薦書記載事項に対する質問事項を含む面接、並びに適性検査の評価によって、受験者の合否を判定している。「学力入学者選抜」は主要 5 教科（国・社・数・理・英）について学力検査を行い、そのうちの数学、理科、英語の得点を 2 倍にする傾斜配点によって理数系科目が得意な人物を選抜している。

4 年次編入学者選抜はアドミッション・ポリシーに沿った資料 4-2-①-2 に示す選抜方法に基づき、高等学校を修了もしくは修了見込みの受験者に対して、各学科において勉学に支障のない学力と目的意識、意欲を十分備えた人物を選抜する方針で行っている。学力入学者選抜試験の数学、理科、英語及び専門科目については、各学科ともに本校の準学士課程 3 年次までに修得しておくべき内容を考慮した試験範囲となっている。

専攻科課程の入学者選抜はアドミッション・ポリシーに沿った資料 4-2-①-3 に示す選抜方法に基づき、各専攻において勉学に支障のない学力、目的意識と学習意欲を備えた人物を選抜する方針で行っている。「推薦入学者選抜」は目的意識、意欲と共に学力を評価するため、専門科目に関する口頭試問を含む面接を行っている。「学力入学者選抜」では専門とする技術分野の基礎学力を備えた人物を選抜するため、専攻ごとに専門に関する試験問題を作成し学力試験を行っている。更に「社会人特別選抜」では、社会人として学んできた経験を含む幅広い工学分野への興味を示す小論文を課し、専門科目に関する口頭試問を含む面接も行っている。

準学士課程 1 年次の入学者選抜方法に関する資料

平成 25 年度の入学者選抜方法について

推薦入学者選抜

1. 定員

100 名程度（各学科 20 名程度）

2. 評価方法

調査書・推薦書・面接・適性検査に基づき、次式により評価点を計算し順位付けて、上位の者から合格とします。

評価点 (500 点) = 内申点 (350 点)¹ + 適性点 (150 点)²

①内申点 (350 点) = 主要 5 教科点 (125 点) × 2 + 技能 4 教科点 (100 点)

②適性点 (150 点) = 適性検査 (100 点) + 面接点 (50 点)

- ・ 教科点は、第 2 学年の 5 段階評点と第 3 学年の 5 段階評点との積です。
- ・ 適性点は、推薦書の記載事項に対する質問を含む面接および適性検査に関する評価点です。

3. 推薦基準

5 段階評定において、原則として、主要 5 教科（国・社・数・理・英）の評点の平均が 4 以上、かつ技能 4 教科（音・美・体・技）の評点の平均が 3 以上である者としています。

4. 推薦方法

「在籍中学校の校長推薦」とします。

学力入学者選抜

1. 定員

本校第一志望者 100 名程度（各学科 20 名程度）

本校第二志望者 若干名（4. 参照）

2. 学力検査

入試の学力点は、各科目（国・社・数・理・英）の得点を Tスコア（いわゆる偏差値、p.4 参照）に換算した後、数・理・英の 3 科目を 2 倍の重みで傾斜配点します。

学力点 = 国語 + 社会 + (数学 + 理科 + 英語) × 2

3. 本校第一志望者の選抜方法

まず、学力点だけにより上位 50 位を順位付けします。次に、51 名以降については、学力点 + 内申点（推薦選抜と同じ評価方法）により順位付けします。

この順位付けに従い、学科ごとにその学科を第一希望とする者について、上位から順に約 20 名（合計 100 名）を合格とします。なお、末尾において、第 2～第 3 希望学科へのスライド合格の場合があります。

4. 本校第二志望者の選抜方法と合格者数の実績

本校第一志望者の上位 50 名と同等以上の学力点の者を第二次選抜（面接）の対象者とし、受験番号を中学校長宛に通知します。公立高校の合格発表日の翌日に、対象者に面接を実施して合否を決定します。

- ・ 平成 24 年度 第二次選抜対象者 14 名 面接来校者 4 名 合格者 4 名
- ・ 平成 23 年度 第二次選抜対象者 11 名 面接来校者 1 名 合格者 1 名
- ・ 平成 22 年度 第二次選抜対象者 14 名 面接来校者 2 名 合格者 2 名

4 年次編入学者選抜方法に関する資料

5. 選考方法

編入学者の選考は、学力試験・調査書・面接の結果を総合して行う。

(1) 学力試験科目（出題範囲は別表）

数学（基礎）

英語

理科

数学又は志望学科の専門科目

(2) 試験日時

月 日	試験科目	時 間
平成 24 年 7 月 27 日 (金)	(受験者集合)	(8:40)
	数学（基礎） 100 点	9:00 ～ 9:50
	英語 100 点	10:00 ～ 10:50
	理科 100 点	11:00 ～ 11:50
	数学又は志望学科の専門科目 100 点	13:00 ～ 13:50
	面接	14:30 ～

(3) 試験場 本校

(4) 健康診断 特に必要と認めた者については別に健康診断を行う。

6. 選考結果の通知

平成 24 年 8 月 2 日 (木)

本人及び高等学校長あてに文書で通知する。(電話による問い合わせには応じない。)

7. 入学手続き及び入学前指導

合格通知を受けた者は、平成 25 年 3 月 5 日 (火) の 13 時に本校に来校し、所定の入学手続きをすませたのち入学前指導を受ける。

8. その他

入学後必要であると認めた科目については補講を実施する。

9. 出願上の注意事項

- (1) 出願後は、いかなる理由があっても、提出した書類の変更、検定料の返還を認めない。
- (2) 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学許可を取り消すことがある。

10. 問い合わせ先及び出願先

〒 292-0041 千葉県木更津市清見台東 2-11-1

木更津工業高等専門学校 学生課教務係

TEL 0438-30-4040 / FAX 0438-98-5403 / E-mail nyushi@a.kisarazu.ac.jp

資料 4-2-①-2 (2/2)

4 年次編入学者選抜方法に関する資料

別表

試験科目の出題範囲		
試験科目	出題範囲	
数学 (基礎)	「数学 I」 「数学 II」 「数学 A」(確率を除く) 「数学 B」のうち、数列、ベクトル(空間におけるベクトルを除く)	
英語	「英語 I」 「英語 II」	
理科	「物理 I」 「化学 I」 「物理 II」と「化学 II」のいずれかを選択	
数学 又は 志望 学科 の 専門 科目	数学	「数学 III」(積分法を除く) 「数学 B」のうち、ベクトル 「数学 C」のうち、行列とその応用
	機械工学科	(1) 機械に働く力と仕事 (2) 材料の強さと使い方 (3) 機械要素と装置 (4) 機械材料 (5) 各種の加工法
	電気電子工学科	(1) 直流回路 (2) 電流と磁気 (3) 静電気 (4) 交流回路
	電子制御工学科	(1) 力学(力とエネルギー) (2) 電流と磁気
	情報工学科	(1) 電気回路 (2) 論理回路 (3) コンピュータの基本構成 (4) 数の表現と処理 (5) ソフトウェアの基礎知識 (6) プログラミング技法
	環境都市工学科	(1) 静定構造物の計算 (2) 静水及び流水の性質

(出典 平成 25 年度 国立木更津工業高等専門学校 4 年次編入学者募集要項 3 頁)

専攻科課程の入学者選抜方法に関する資料

推 薦 選 抜

1. 出願資格

平成 26 年 3 月に高等専門学校を卒業見込みの者で、出身学校長が成績及び人物ともに優れていると認め推薦する者

2. 出願手続

(1) 願書受付

- 期間 平成 25 年 5 月 7 日(火)～ 5 月 8 日(水)
 (郵送の場合は、 5 月 8 日午後 4 時必着とする。)
 時間 午前 9 時から午後 5 時まで
 場所 木更津工業高等専門学校 学生課教務係
 〒292-0041 千葉県木更津市清見台東 2-11-1
 ① 郵送の場合は必ず速達書留とし、封筒の表に「専攻科出願書類在中」と朱書すること。
 ② 郵送の場合は 80 円切手を貼付した返信用封筒を同封すること。

(2) 出願に必要な書類

出 願 書 類 等	摘 要
入 学 願 書	本校所定の用紙に必要事項を記入すること。
受 験 票 写 真 票	本校所定の用紙に必要事項を記入し、写真は、正面脱帽上半身・無背景(縦 6cm×横4.5cm)で、出願以前3か月以内に撮影したものを貼付すること。
調 査 書	本校所定の用紙により、出身学校長が作成し厳封したもの。
成 績 ・ 単 位 修 得 証 明 書	出身学校所定の用紙により、出身学校長が作成し厳封したもの。修得単位数が明記されているもの(成績の評定基準は調査書に明示すること)。
推 薦 書	本校所定の用紙により、出身学校長が作成したもの。
検 定 料	綴り込みの振込依頼書に氏名及び住所を記入して事前に払い込み、その振込受付証明書を検定料振込受付証明書貼付用紙に貼付すること。 検定料：16,500円
英 語 の 資 格 に 関 す る も の	1. TOEIC®の場合は、「公式認定証(Official Score Certificate)」を提出すること。 なお、TOEIC® IP の場合、2005年3月31日以前は「Score Sheet」、2005年4月1日以降は「Score Report」になるが、いずれの場合も原本を提出すること。 2. 実用英検で準2級以上合格の場合は、最上位の級の和文または英文の「合格証明書」(注:「合格証書(賞状)」ではない)を提出すること。 3. 実用英検で一次試験のみの合格の場合は、「二次受験票」(一次試験の結果が明示されている)を提出すること。なお、これを紛失等した場合には、日本英語検定協会に「一次試験合格証明書」の発行(発行手数料1,000円程度)を依頼すること。 ※上記のいずれの場合も、コピーではなく、原本を提出すること。
そ の 他	現に、日本国内に在住する外国人は、市区町村長が発行する「外国人登録済証明書」を提出すること。

専攻科課程の入学者選抜方法に関する資料

(3) 出願に関する注意事項

- ① 出願書類の不備なものは受け付けない。
- ② 提出した出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがある。
- ③ 願書提出後の記載事項の変更は認めない。
- ④ 受理した出願書類及び検定料は、いかなる理由があっても返還しない。

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、面接(専門科目に関する口頭試問を含む)、出身学校長から提出された調査書及び英語の資格を総合して行う。

選抜日時

日 時	試験科目	時 間	場 所
平成25年 5月14日(火)	面接	10:00～	木更津工業高等専門学校

4. 合格発表

平成 25 年 5 月 17 日(金) 午後 3 時
 本校に掲示するとともに、合格者には文書で通知する。
 (電話等による可否の問い合わせには一切応じない。)

5. 入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、平成 25 年 5 月 24 日(金)までに「入学確約書」を提出すること。
 入学確約書を提出しなかった者は、本校への入学の意思がないものとして取り扱う。

6. 入学手続

入学手続の詳細については合格者に別に通知する。
 所定の日時内に入学手続きを完了しない場合は、入学辞退者として取り扱う。

7. 推薦による選抜で合格とならなかった者の取り扱い

推薦による選抜の結果、合格とならなかった者で学力による選抜の受験を希望する者は、改めて次ページの学力選抜の出願手続きを行うこと。ただし、調査書、英語の資格に関するもの、外国人登録済証明書は再提出しなくてもよい。

資料 4 - 2 - ① - 3 (3 / 4)

専攻科課程の入学者選抜方法に関する資料

学 力 選 抜

1. 出願資格

- (1) 高等専門学校を卒業した者又は平成 26 年 3 月卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者又は平成 26 年 3 月卒業見込みの者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第 132 条の規定により大学に編入学することができる者又は平成 26 年 3 月までに同要件を満たす見込みの者
- (4) 外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者又は平成 26 年 3 月までに同要件を満たす見込みの者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了した者又は平成 26 年 3 月までに同要件を満たす見込みの者
- (6) 我が国において、外国の短期大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了したとされるものに限る)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は平成 26 年 3 月までに同要件を満たす見込みの者
- (7) その他本校専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

2. 出願手続

(1) 願書受付

期間 前期 平成 25 年 6 月 4 日(火)～ 6 月 5 日(水)

(郵送の場合は、6 月 5 日午後 4 時必着とする。)

時間 午前 9 時から午後 5 時まで

場所 木更津工業高等専門学校 学生課教務係

〒292-0041 千葉県木更津市清見台東 2-11-1

① 郵送の場合は必ず速達書留とし、封筒の表に「専攻科出願書類在中」と朱書すること。

② 郵送の場合は 80 円切手を貼付した返信用封筒を同封すること。

(2) 出願に必要な書類

出 願 書 類 等	摘 要
入 学 願 書	本校所定の用紙に必要事項を記入すること。
受 験 票 写 真 票	本校所定の用紙に必要事項を記入し、写真は、正面脱帽上半身・無背景(縦6cm×横4.5cm)で、出願以前3か月以内に撮影したものを貼付すること。
調 査 書	本校所定の用紙により、出身学校長が作成し厳封したもの。
成 績・単 位 修 得 証 明 書	出身学校所定の用紙により、出身学校長が作成し厳封したもの。修得単位数が明記されているもの。(成績の評定基準は調査書に明示すること)
出 願 承 諾 書	本校所定の用紙により、所属長が作成したもの。(企業等に在職したまま入学を希望する者のみ)
検 定 料	綴り込みの振込依頼書に氏名及び住所を記入して事前に払い込み、その振込受付証明書を検定料振込受付証明書貼付用紙に貼付すること。 検定料：16,500円

資料 4 - 2 - ① - 3 (4 / 4)

専攻科課程の入学者選抜方法に関する資料

出願書類等	摘 要
英語の資格に関するもの	1. TOEIC®の場合は、「公式認定証(Official Score Certificate)」を提出すること。 なお、TOEIC® IP の場合、2005年3月31日以前は「Score Sheet」、2005年4月1日以降は「Score Report」になるが、いずれの場合も原本を提出すること。 2. 実用英検で準2級以上合格の場合は、最上位の級の和文または英文の「合格証明書」(注:「合格証書(賞状)」ではない)を提出すること。 3. 実用英検で一次試験のみの合格の場合は、「二次受験票」(一次試験の結果が明示されている)を提出すること。なお、これを紛失等した場合には、日本英語検定協会に「一次試験合格証明書」の発行(発行手数料1,000円程度)を依頼すること。 ※上記のいずれの場合も、コピーではなく、原本を提出すること。
その他	現に、日本国内に在住する外国人は、市区町村長が発行する「外国人登録済証明書」を提出すること。

(3) 出願に関する注意事項

- ① 出願書類の不備なものは受け付けない。
- ② 提出した出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがある。
- ③ 願書提出後の記載事項の変更は認めない。
- ④ 受理した出願書類及び検定料は、いかなる理由があっても返還しない。

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、学力試験の成績、調査書、英語の資格及び面接の結果を総合して行う。

(1) 選抜日時

日 時	試験科目	時 間	場 所
平成25年 6月17日(月)	数 学(100点)	9:30~10:20	木更津工業高等専門学校
	専門科目(100点)	10:30~12:00	
	面 接	13:00~	

(2) 出題分野(専門科目は1専攻を選択する)

試験科目	出題分野	
数 学	微分積分, 線形代数	
専 門 科 目	機械・電子システム工学専攻	材料力学, 熱・流体力学, 電気磁気学, 電気回路 から 2科目選択
	制御・情報システム工学専攻	制御工学, 電気基礎(電磁気・電気回路), 計算機ハードウェア, 計算機ソフトウェアから2科目選択
	環境建設工学専攻	構造力学, 水理学, 土質力学

注) 英語の資格に関する換算方法は下記のとおりとする。

【換算方法】

- (1) TOEIC®及びTOEIC®IPの場合は、200点までは0点とし、200点を超える得点について0.4を乗じ、小数点以下を切り捨てた上で、100点を上限とする換算を行う(300点で40点、350点で60点、400点で80点、450点以上で100点となる)。
- (2) 実用英検の場合は、準2級一次試験合格は60点、準2級合格は80点、2級一次試験合格は90点、2級以上合格は100点として換算する。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、準学士課程の1年次入学者選抜及び4年次編入学者選抜、専攻科課程の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに沿った選抜方法に基づき、「推薦入学者選抜」と「学力入学者選抜」共に、各学科、各専攻において勉学に支障のない学力、目的意識と学習意欲を備えた人物を選抜する方針で行い、理数系科目が得意な人物を選抜するなど入学者選抜を適切に実施している。

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況)

本校における入学者選抜に関連する事項は、教務主事、教務主事補及び各学科・学系の代表者によって構成される入試委員会によって検討されている。準学士課程では学生の受入がアドミッション・ポリシーに沿って行われているかどうかを検証している。

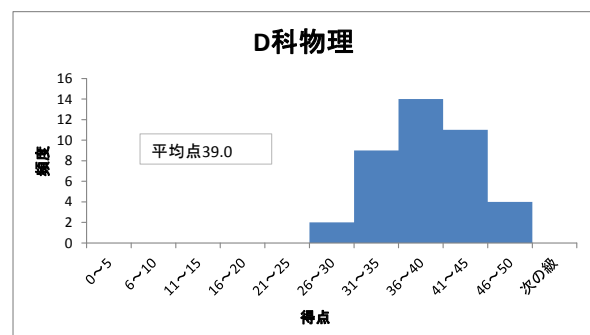
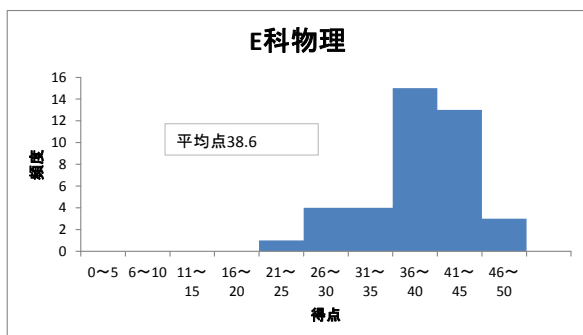
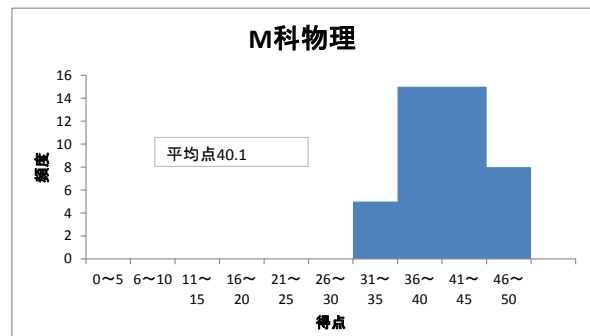
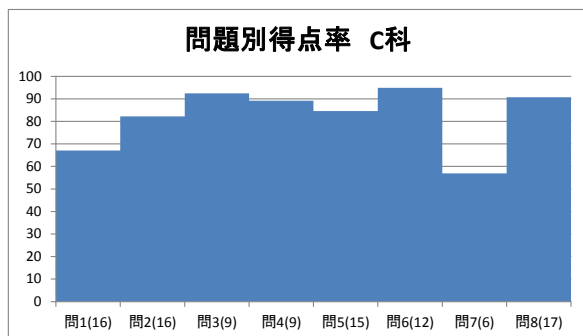
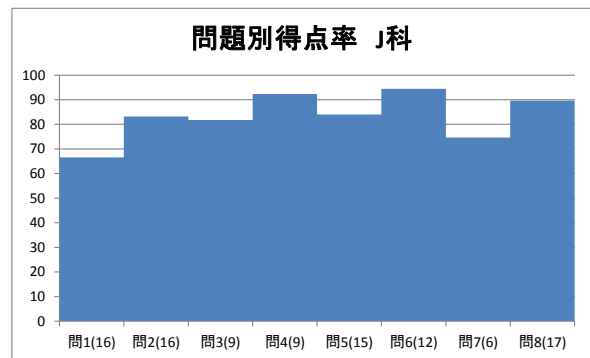
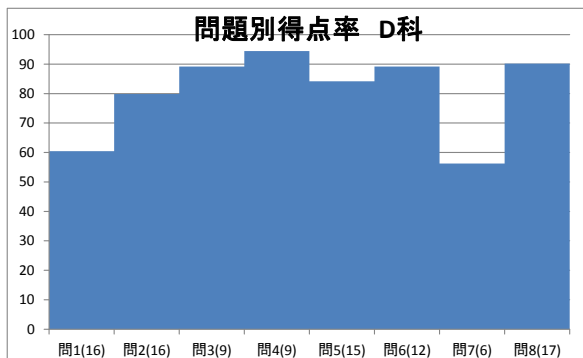
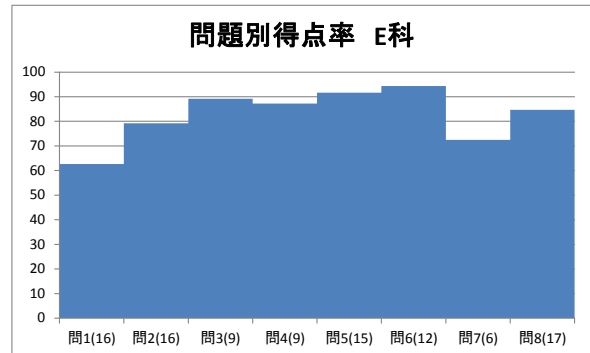
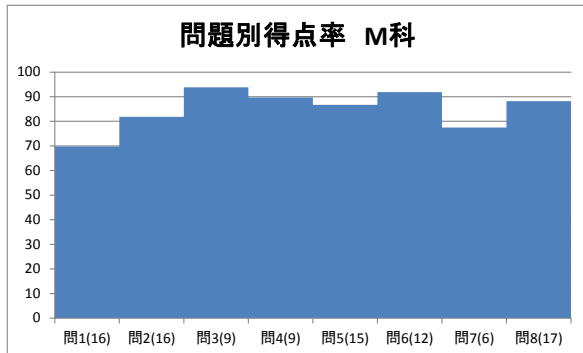
準学士課程1年次入学者選抜「推薦入学者選抜」の適性検査では、平成22年度入学者選抜までは作文が課されていたが、平成23年度入学者選抜からはアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを行うため、「推薦入学者選抜」の適性検査に数学を導入し、より客観的な評価が可能となった（[現地閲覧資料5](#)）。

理科のアドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているかどうかを検証するため、新入生に対して、平成24年度から入学後の理科（物理・化学）の基礎学力試験を実施している。その結果から、基礎学力を備えた学生が入学している様子が窺える（[資料4-2-②-1](#)）。

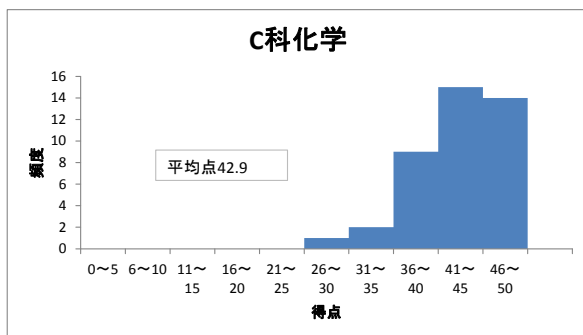
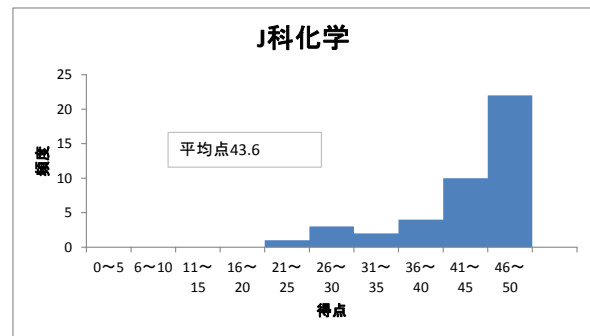
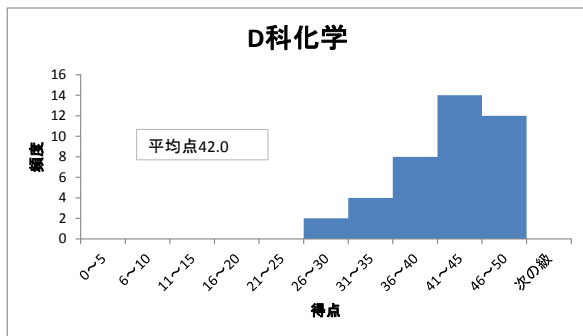
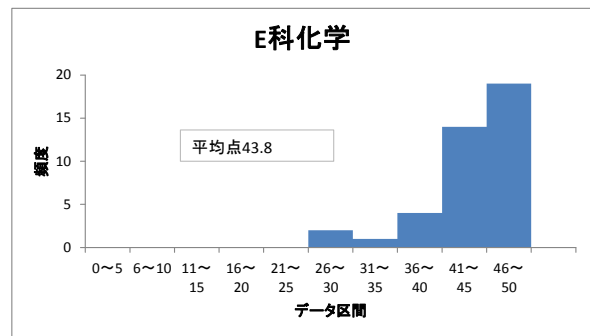
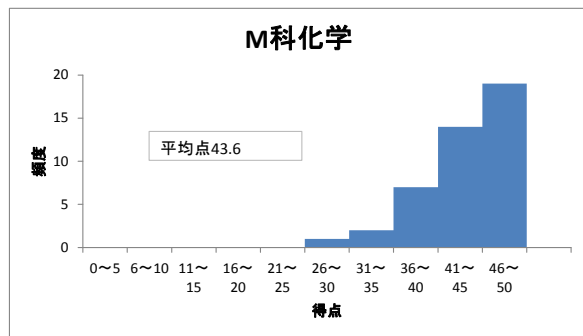
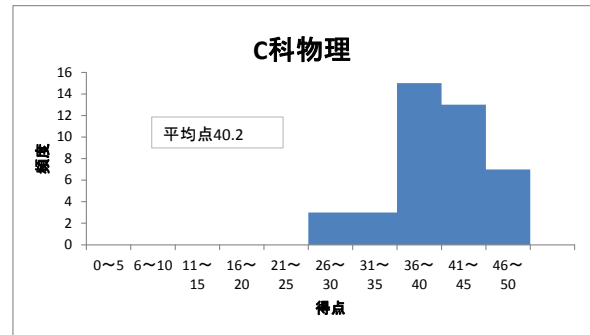
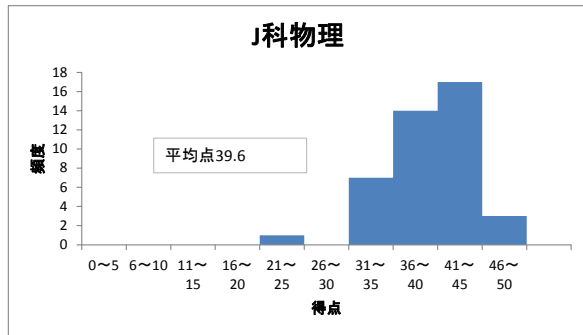
一方、専攻科課程では、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを行うため、平成20年度に専攻科課程の入学者選抜制度（英語）に関する改定がなされた（[資料4-2-②-2](#)）。

資料 4 - 2 - ② - 1 (1 / 2)

理科（物理・化学）の基礎学力試験



資料 4 - 2 - ② - 1 (2 / 2)



(出典 基礎学系理科担当資料)

専攻科課程の入学者選抜制度（英語）に関する改定

平成20年度入試委員会議事要旨（第5回）

1. 日 時 平成20年11月13日（木） 15:50～17:20
2. 場 所 学生課会議室
3. 出席者 黒田教務主事、金子・飯田・鬼塚教務主事補、小澤、福地、小田、上原、泉、和崎（和田代理）、教務係長

4. 欠席者

5. 議 事

(1) 平成21年度入学者選抜日程について

教務主事より資料について説明があり、原案のとおり了承された。

(2) 専攻科入試制度（英語）に関する改定について

教務主事より資料に基づいて説明があり、審議した結果、委員会としては実施の方向だが、各委員は、各学科、学系の意見を次回委員会までに聞いてくることとなった。

(3) 入試成績の簡便な方法による開示について

教務主事より、機構からの通知により21年度入試から学力試験の成績を開示することになったとの説明があり、検討した結果、開示通知書の例②の様式を修正して開示することとなった。開示用の個人別ファイルの作成については、入試システム開発業者に依頼する。

(4) その他

①平成20年度学校説明会実施報告等について

教務主事より、資料に基づいて説明があり次年度については、実施場所や回数、方法等について検討することとなった。また、機構から中学校訪問は年2回くらいの実施を積極的に検討するように提案があり、検討の結果、2回目は募集要項を持参して実施する等の意見が出された。

②学校案内のリーフレットについて

教務主事より、リーフレットをA4の三つ折りの大きさに検討してほしいとの要望があり、福島高専のリーフレットを参考に教務主事補で検討することとなった。

③次回委員会は、12月9日（火）15:30～開催予定

資料 4-2-②-2 (2/5)

平成20年10月9日

入試委員会 委員長
黒田孝春 殿

専攻科委員会 委員長
橘川五郎
人文学系 英語科主任
荒木英彦

専攻科入試制度(英語)に関する改定について (審議の依頼)

専攻科における英語力に関しては極めて具体的な達成基準が定められており、これを全学生に達成させるべく、英語科はもとより、専門学科においても大きな努力が払われてきている。

しかし、専攻科の目的は、準学士課程における教育を基に、更に高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな技術能力を育成することであり、専攻科生全員に大幅な英語力向上を期待することはできない。

このような観点から、英語科からの諸提案も受けつつ、平成21年実施の平成22年度入試以降に関し、専攻科委員会において平成20年9月30日に審議を行った結果、以下のような改定を行うことが了承された。

については、入試委員会での検討を重ねて頂きたい、ここに審議を依頼するものである。

I 入試制度の改定

1. 推薦選抜

- (1) 「英語力に関しては、TOEIC350点以上または実用英検準2級一次試験合格以上での推薦が望ましい」との明確な選考基準を新設する。
- (2) 当基準は「専攻科募集要項」に明記し、「調査書」において英語力に関する記述を求めるものとする。
- (3) 当基準は、あくまでも「選考基準」とどめ、「出願(被推薦)資格」とはしない。

2. 学力選抜(前・後期とも)

- (1) 本校作成の独自問題による試験は実施せず、選考においては、TOEICまたは実用英検による得点換算を行う。
- (2) TOEICの得点については、次の換算を行う。なお、350点以上の換算方法は従来どおりであり、「350点未満の部分の換算」を今回から導入する。
200点までは0点とし、200点を超える得点について0.4を乗じ、小数点以下を切り捨てた上で、100点を上限とする換算を行う(300点で40点、350点で60点、400点で80点、450点以上で100点となる)。
- (3) 実用英検については、次の換算を行う。なお、「準2級一次試験合格は60点」を今回から導入する。
準2級一次試験合格は60点、準2級合格は80点、2級以上合格は100点

3. 社会人特別選抜

- (1) 「英語力に関しては、TOEIC350点以上または実用英検準2級一次試験合格以上での出願が望ましい」との明確な選考基準を新設する。
- (2) 当基準は「専攻科募集要項」に明記し、「調査書」において英語力に関する記述を求めるものとする。
- (3) 当基準は、あくまでも「選考基準」にとどめ、「出願資格」とはしない。

II 改定の理由および補足事項等

1. 推薦選抜

- (1) 推薦で入学した者と学力で入学した者との間に英語力の違いはなく、両者とも問題である。よって、推薦制度の改定が求められる。
- (2) 選考基準に英語力に関する記述が無いと、他高専から英語力に問題のある学生が推薦された場合、選考から外すことが出来ない、という状況も想定される。よって、早急に選考基準を明示することが望まれる。

2. 学力選抜(前・後期とも)

- (1) 現行の専攻科英語学力試験においては、「本校作成問題による英語学力試験」と「外部試験結果の換算」という2つの異なる基準を1つに纏めて選抜を行っており、2つの基準の間に難易度等のズレが生じることが常に懸念される。その懸念を払拭するため、選抜基準を可能な限り一本化することが望まれる。
- (2) 現行の専攻科英語学力試験は「50分」という枠内での実施のため、リスニング試験を行っていないが、TOEIC、実用英検ともリスニング試験が導入されており、英語力の総合的な判定が可能である。なお、入学試験における独自のリスニング試験の作成は、素材に関する著作権、ネイティブへの録音依頼による予算増などから、非常に困難である。
- (3) 受験者は全員、入学願書提出時以前に、TOEICまたは実用英検を受験し、その結果(「Score Report」等)を得ておくことになる。
- (4) Score Report等は公的な証明のための正式な書類であり、受験者は必要に応じ、協会等に対して実費での発行を求めることが出来る。なお、受験等においては、「受験者は原本提出、受領側は返却せず」が通常の形態となる。
- (5) 「実用英検準2級一次試験のみ合格」の得点換算を行うためには一次試験の結果が明示されている「二次受験票」の提出が求められるが、これを受験者が紛失等した場合には、英検協会に「一次合格確認票」の発行(発行手数料1000円程度)を依頼することが出来る。
- (6) 「4択(一部3択)で990点満点」のTOEICでは、220点未満は「実質0点」と通常は判断される(確率的にその程度の点数になる)。
- (7) 準学士課程に平成18年度以降に入学した新教育課程適用者については全員が第3学年において「実用英検準2級」を受験することになっているが、現第4学年生(旧教育課程適用者)は、その試行として、ほとんど全員に実用英検準2級を受験させた。よって、来年度から独自試験を廃止することに大きな問題はない。

資料 4-2-②-2 (4/5)

- (8) 元来TOEICは社会人用であり、当初からこれに向けて勉強することは適切とは言えない。よって、英語科としては「実用英検準2級」の受験を強く勧めているが、一次試験に合格した場合の二次試験の面接を嫌い、受験に身が入らない学生も見られる。このような学生にとり、「一次試験合格だけでも意味がある」とするのは、英検の受験意欲の向上に資すると思われる。
- (9) 京都大学工学部が実施した「平成21年度 高専編入学試験」においては、基礎科目(英語)の筆記試験が廃止され、その代わりにTOEFLの成績による評価が行われた(「資料1」参照)。北米地域の大学等へ留学するための試験であるTOEFLを受験する高専生は非常に少ないと思われるが、このような動きも参考にすべきであろう。なお、TOEFLについては実質的に受験者がいないため、TOEFLの点数換算等は今回の改定には盛り込まないこととする。
- (10) 最近、大学院入試において、独自の英語学力試験を行わず、TOEIC等により英語力の判定を行う所が目立つようになった(東北大学大学院情報科学研究科および電気通信大学大学院電気通信学研究科等)。しかし、本校の学生の中にはTOEICの未受験者もあり、場合によっては、出願自体を諦めることもあると聞く。このような状況において、学生に「外部試験の受験が必要」と強く印象づけるためにも、入試制度を改定する必要があると思われる。
- (11) 高専宛ではないが、文部科学省高等教育局長より平成19年5月24日付で各国公私立大学長等宛に出された「平成20年度大学入学者選抜実施要項」という通知の「第5 学力検査等」の「(3) 外部試験の活用」において「入学志願者の外国語におけるコミュニケーション能力を適切に評価する観点から、実用英語技能検定(英検)やTOEFL等の結果を活用するなど、必要に応じ信頼性の高い外部試験の活用を図ることが望ましい。」とされている(「資料2」参照)。これは学部入試に関わる記述であるが、高専専攻科の入試においても、この流れを汲むことが望ましいと思われる。

3. 社会人特別選抜

- (1) 社会人特別選抜においては、専攻科の2年間では英語力の大幅向上が難しいことから、英語力に関する基準を明示し、出願の際に熟考を求めることが望まれる。
- (2) 社会人については、英語から長期間遠ざかっている場合も想定されるため、募集要項に「修了に関する記述」があるだけでは不十分であり、「入学時に具体的にどの程度の英語力が必要か」を明示することが必要であると思われる。

4. その他

- (1) 苫小牧高専のように、英語力に関し「出願資格」を設定し、基準を下回っている場合には出願自体できない、とすることも考えられよう(「資料3」参照)。しかし、このような設定を行えば、入試倍率に確実に影響するであろう。また、「修業年限の2年でなく、3年かかっても良いから、専攻科に進学したい」という学生の存在を否定することは出来ず、「2年間では英語力が規定に達しない」と断定することは出来ない。よって、あくまでも本校では「出願資格では

資料 4-2-②-2 (5/5)

なく選考基準」として設定を行うべきである。

- (2) TOEIC等の成績を有効とする期限を定めることも考えられるが、仮に「遡って2年前まで」とすると、低学年の時に取得した資格が無効になり、不合理な面が生じるので、有効期限等は設けない。なお、元来、TOEICに「有効期限」は存在しない(「2年以上前のデータは出力できない」というだけの話である)。
- (3) 平成19年度入学者より、専門教員が担当する2年次必修科目「技術英語Ⅱ」の単位認定のために、英語資格達成(TOEIC400点以上取得または実用英検準2級以上合格)を課してきた。今回、資格未達成者への指導を強化するため、平成21年度入学者より、その科目を「技術英語Ⅱ」から人文学系英語教員が担当する1年次必修科目「英語総合」に変更する。なお、この変更も、平成20年9月30日開催の専攻科委員会において了承されたものである。

Ⅲ 「学力選抜」の場合の募集要項への記述内容(案)

対象者：受験者全員

提出書類：(1) TOEICの場合は、「公式認定証(Official Score Certificate)」の原本を提出すること(コピーは不可)。なお、TOEIC IP の場合、2005年3月31日以前は「Score Sheet」、2005年4月1日以降は「Score Report」になるが、いずれの場合も原本を提出すること(コピーは不可)。

(2) 実用英検合格の場合は、和文または英文の「合格証明書」(注：「合格証書(賞状)」ではない)の原本を提出すること(コピーは不可)。

(3) 実用英検で「準2級一次試験のみ合格」の場合は、「二次受験票」(一次試験の結果が明示されている)を提出すること。なお、これを紛失等した場合には、日本英語検定協会に「一次試験合格確認票」の発行(発行手数料1000円程度)を依頼すること。

換算方法：(1) TOEICの場合は、200点までは0点とし、200点を超える得点について0.4を乗じ、小数点以下を切り捨てた上で、100点を上限とする換算を行う(300点で40点、350点で60点、400点で80点、450点以上で100点となる)。

(2) 実用英検の場合は、準2級一次試験合格は60点、準2級合格は80点、2級以上合格は100点として換算する。

注意事項：(1) TOEICの場合、「公式認定証/Score Report(Score Sheet)の再発行期間」は「試験日から2年以内」であるので、注意すること。

(2) 実用英検の場合、「一次試験合格確認票」の発行期間は「試験日から2年以内」であるので、注意すること。

(3) いずれの場合も、提出された原本の返却は行わない。

以上

(分析結果とその根拠理由)

本校の入学者選抜に関する事項は入試委員会において検討され、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われている。準学士課程では平成23年度入学者選抜から1年次「推薦入学者選抜」の適性検査に数学を導入している。平成24年度より、入学後には理科（物理・化学）の基礎学力試験が実施されている。専攻科課程では平成20年度に入学者選抜制度（英語）に関する改定がなされている。これらの結果から、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが入学者選抜方法の改善に役立てられている。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

平成24年度の準学士課程の実入学者数は募集定員200名を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていない（資料 4-3-①-1）。専攻科課程は募集定員20名ではあるが、入学希望者が多いため、実入学者数は41名となっている。特別研究の科目の教員負担を考慮して、原則として一人の教員に対し2名（各学年1名）の専攻科学生を受け入れられるようにし、教員研修等を考慮して募集定員20名の2倍の40名を最大入学者数としている。これを大幅に超える状況になっていないため、教育・研究に支障はでていない。

学生の概況

学生の概況 Students

■学生定員・現員 Number of Students

(平成24年4月1日現在)
As of April 2012

準学士課程 Semi-Advanced Courses

区分 学科 Dept. of	総定員 Capacity Statutory Total	現 員 Present Number					
		1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	合計 Total
機 械 工 学 科 Mechanical Eng.	200	43 (1)	43 (2)	40 (1)	45 (2)[1]	40 (1)[3]	211 (7)[4]
電 気 電 子 工 学 科 Electrical and Electronic Eng.	200	41	45 (7)	39 (5)[1]	45 (2)[1]	43 (4)[2]	213 (18)[4]
電 子 制 御 工 学 科 Control Eng.	200	40 (3)	44 (5)	40 (5)	40 (4)[2]	36 (1)[1]	200 (18)[3]
情 報 工 学 科 Information Eng.	200	43 (12)	44 (5)	45 (11)[1]	41 (9)[2]	35 (10)	208 (47)[3]
環 境 都 市 工 学 科 Civil Eng.	200	41 (16)	43 (13)	42 (9)[1]	42 (8)[1]	34 (17)	202 (63)[2]
合 計 Total	1,000	208 (32)	219 (32)	206 (31)[3]	213 (25)[7]	188 (33)[6]	1034 (153)[16]

(注) ()は女子、[]は留学生で内数

専攻科 Advanced Engineering Courses

区分 専攻 Course	総定員 Capacity Statutory Total	現 員 Present Number		
		1年 1st	2年 2nd	合計 Total
機 械 ・ 電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻 Mechanical and Electrical Course	16	17	16 (1)	33 (1)
制 御 ・ 情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻 Control and Information Course	16	17 (2)	18	35 (2)
環 境 建 設 工 学 専 攻 Civil and Environmental Course	8	7 (1)	7 (2)	14 (3)
合 計 Total	40	41 (3)	41 (3)	82 (6)

(注) ()は女子学生を内数で示す。

■入学状況 Applicants and Entrants

(平成24年度入学生)
As of April 2012

準学士課程 Semi-Advanced Courses

区分 学科 Classification Dept. of	募集定員 Statutory Number	機 械 工 学 科 Mechanical Eng.	電 気 電 子 工 学 科 Electrical and Electronic Eng.	電 子 制 御 工 学 科 Control Eng.	情 報 工 学 科 Information Eng.	環 境 都 市 工 学 科 Civil Eng.	合計 Total
募集定員 Statutory Number	40	40	40	40	40	40	200
志 願 者 数 Applicants	75(2)	57	41	69(16)	65(20)	307(38)	
学 力 試 験 入 学 者 General	23	21	22(3)	23(6)	21(7)	110(16)	
推 薦 入 学 者 Recommended	20(1)	20	18	20(6)	20(9)	98(16)	
入 学 者 合 計 Entrants	43(1)	41	40(3)	43(12)	41(16)	208(32)	
編 入 学 者 (4年) Transfers							
留 学 生 (3年) Foreign Students		1	1		1(1)	3(1)	

(注) ()は女子学生を内数で示す。

専攻科 Advanced Engineering Courses

区分 専攻 Classification Dept. of	募集定員 Statutory Number	機 械 ・ 電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻 Mechanical and Electrical Course	制 御 ・ 情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻 Control and Information Course	環 境 建 設 工 学 専 攻 Civil and Environmental Course	合計 Total
募集定員 Statutory Number	8	8	4	20	
志 願 者 数 Applicants	19	22(2)	8(1)	49(3)	
入 学 者 合 計 Entrants	17	17(2)	7(1)	41(3)	

(注) ()は女子学生を内数で示す。

■外国人留学生 Number of Foreign Students

(平成24年4月1日現在)
As of April 2012

国名 Nation	学 年 Year	機 械 工 学 科 Mechanical Eng.			電 気 電 子 工 学 科 Electrical and Electronic Eng.			電 子 制 御 工 学 科 Control Eng.			情 報 工 学 科 Information Eng.			環 境 都 市 工 学 科 Civil Eng.			合計 Total
		3年 3rd	4年 4th	5年 5th	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
マレーシア Malaysia				2	1	1	1(1)		1(1)	1	1	1(1)		1(1)	1(1)		11(5)
インドネシア Indonesia			1(1)														1(1)
ラオス Laos							1										1
モンゴル Mongolia											1						1
イラン Iran				1													1
ベトナム Vietnam									1								1
合 計 Total			1(1)	3	1	1	2(1)		2(1)	1	1	2(1)		1(1)	1(1)		16(6)

(注) ()は女子学生を内数で示す。

(分析結果とその根拠理由)

本校の平成24年度の準学士課程1年次入学者数は、募集定員200名に対し、実入学者数208名であり、定員を大幅に超えていない。専攻科課程では募集定員20名に対し、実入学者数41名ではあるが、募集定員の2倍の40名を最大入学者数としているため、その最大入学者数を大幅に超えていない。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校のアドミッション・ポリシーが準学士課程と専攻科課程ごとに明確に定められ、各募集要項及びウェブページによって広く社会に理解されやすい形で公表している。この他にも、積極的に学校説明会及び中学校訪問を実施し、アドミッション・ポリシーに沿った学生が集まるよう活動している。

アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜するため、準学士課程1年次の推薦入学者選抜では、平成23年度入学者選抜より適性検査に数学を導入し、学力入学者選抜においても、数学、理科、英語の得点を2倍の傾斜配点にするなど、理数系の得意な学生を選抜している。

準学士課程1年次の推薦入学者選抜の適性検査において、数学を導入したことで、より客観的な評価が可能となっている。

平成24年度より、準学士課程1年次入学後に理科(物理・化学)の基礎学力試験を実施し、基礎学力を備えた学生が入学している。

平成20年度に専攻科課程の入学者選抜制度(英語)に関する改定を行っている。

入学者選抜に関する事項を検討する入試委員会において、入学者選抜が適切に行われているかどうかを検討し、必要に応じて入学者選抜方法の見直しを行っている。

(改善を要する点)

なし。

(3) 基準4の自己評価の概要

本校では、教育の目的に沿って求める学生像及び入学者選抜の基本方針等を準学士課程の「入学者募集要項」、専攻科課程の「専攻科入学者選抜募集要項」、ウェブページ、中学校訪問時の冊子「進学志望の手引」や「入学者選抜に関する資料」に、アドミッション・ポリシーを準学士課程と専攻科課程別に明確に定めて記載している。アドミッション・ポリシーを記載しているウェブサイトの調査では、平成24年度で約8,600件のアクセス件数があり、準学士課程1年次入学者選抜が近づいた1月から2月にかけてアクセス件数が多くなっていることから、受験生に周知されていることがわかる。同様に本校の教職員に対しても教員会議、学科・学系会議において説明して周知し、平成24年度第9回教員会議ではアドミッション・ポリシーの認知の度合いを測るためのアンケートを行うなど周知している。

準学士課程の1年次入学者選抜及び4年次編入学者選抜、専攻科課程の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに沿った資料の選抜基準に基づき、「推薦入学者選抜」と「学力入学者選抜」共に、各学科、各専攻において勉学に支障のない学力、目的意識と学習意欲を備えた人物を選抜する方針で行っている。準学士課程1年次の「学力入学者選抜」では、理数系科目が得意な人物を選抜し、専攻科課程の「学力入学者選抜」では、専門とする技術分野の基礎学力を備えた人物を選抜するなど入学者選抜を適切に実施している。

入学者選抜に関する事項は、入試委員会において検討し、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れを行うため、平成22年度より準学士課程1年次「推薦入学者選抜」の適性検査に数学を導入し、入学後には理科（物理・化学）の基礎学力試験を実施するなど、その結果を踏まえて入学者選抜方法の改善に役立っている。

平成24年度の準学士課程1年次入学者数は、募集定員200名に対し、実入学者数208名であり、定員を大幅に超えていない。専攻科課程では募集定員20名に対し、実入学者数41名ではあるが、募集定員の2倍の40名を最大入学者数としているため、その最大入学者数を大幅に超えていない。

基準 5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

< 準学士課程 >

観点 5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点到に係る状況)

本校では5学科とも準学士課程の学習・教育目標を達成するために、人間形成に重要な役割を果たす一般教養と専門の科学技術を修得する基礎となる数学・物理等の基礎科目を低学年に多く配置する一方、専門科目は高学年になるに従い増えていく配置としている。一般科目の教育課程表を資料5-1-①-1、専門の教育課程表を資料5-1-①-2（機械工学科）、資料5-1-①-3（電気電子工学科）、資料5-1-①-4（電子制御工学科）、資料5-1-①-5（情報工学科）、資料5-1-①-6（環境都市工学科）に示す。

準学士課程の学習・教育目標を達成するための学習・教育目標の各項目と授業科目の流れについて分析したものを資料5-1-①-7に示す。また、各学科の授業科目が適切に配置され体系性が保たれていることを示すため、学習・教育目標の細項目に分類した授業科目の流れを資料5-1-①-8（機械工学科）、資料5-1-①-9（電気電子工学科）、資料5-1-①-10（電子制御工学科）、資料5-1-①-11（情報工学科）、資料5-1-①-12（環境都市工学科）に示す。

授業の内容については、基礎科目において、科学技術を修得するために必要な基礎的素養を精選し、早期に身につけられるような高専独自のカリキュラムを編成する一方、専門科目において、これらの基盤の上に適切な教材を準備し、各学科の教育目的を効率的に達成できるようなカリキュラムを組んでいる。基礎科目の独自性を示すため、第1学年全学科共通の「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」および「基礎科学」のシラバスを資料5-1-①-13に示す。

一般科目の教育課程表

準学士課程
一般科目 (1~4年)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数				備考
			1年前	2年前	3年前	4年前	
必修	国語 I	3	3				
	国語 II	2	2				
	国語 III	2		2			
	国語表現	1			1		
	歴史 I	2	2				
	歴史 II	2	2				
	現代の社会	2	2				
	技術と社会	1		1			
	美術	1	1				
	音楽	1	1				
必修	英語 I A	2	2				
	英語 I B	2	2				
	英文法 I	1	1				
	英語 II A	2	2				
	英語 II B	2	2				
	英文法 II	1	1				
	英語 III	2	2				
	英語表現	1	1				
	ドイツ語 I	2	2				
	保健体育 I	3	3				
必修	保健体育 II	3	3				
	体育 I	2	2				
	体育 II	1	1				
	体育 III	1	1				
	基礎数学 I	3	3				
	基礎数学 II	2	2				
	基礎数学 III	1	1				
	代数学 I	3	3				
	解析 I A	2	2				
	解析 I B	2	2				
必修	解析 II	2	2				
	解析 III	1	1				
	科学 I	1	1				
	物理 I	2	2				
	物理 II	1	1				
	物理 III	1	1				
	基礎化学	3	3				
	化学	2	2				
	一般特別研究	1	1				
	開設単位数計	69	28	23	15	2	1

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数				備考
			1年前	2年前	3年前	4年前	
必修	数学演習 A	1			1		
	数学演習 B	1			1		
	生物	1			1		
	地理	1			1		
	英語演習 I	2			2		
	英語演習 II	2			2		
	英語演習 III	1			1		
	英語演習 IV	1			1		
	経済学	2			2		
	社会学	2			2		
開設単位数計	開設単位数計	16	0	0	4	10	2
	国文学	1				1	
	心理学	1				1	
	法学	1				1	
	ドイツ語 II	2			2		
	中国語 I	2			2		
	ドイツ語 III	2			2		
	中国語 II	2			2		
	日本文化論	1			1		
	開設単位数計	12	0	1	0	4	7
特別学修	特別学修						[注3]
	本校以外の教育施設における学修						[注4]
開設単位数計	97	28	24	19	16	10	

注1：英語科目に関し、次のような振替措置を行う。なお、詳細については、英語の授業時に説明される。

資格試験 (合格/得点)	振替を行う授業科目	単位数	評点
実用英検準2級	英語演習 I	2	90
工業英検 4級	英語演習 II	1	80~*
TOEIC400点以上*			
* TOEIC 400~424点：80点、425~449点：90点、450~469点：100点、470点以上得点の場合は「特別学修」による単位認定も併せて行われる。			

注2：B (1単位：22.5時間+自学自習22.5時間) 1履修単位→1学修単位

注3：特別学修の内容は、別に定める。

注4：本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

機械工学科の専門の教育課程表

専門科目
機械工学科

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前	2年前	3年前	4年前	5年前	
必修	応用数学 A	1				1		B[注1]
	応用数学 B	1				1		B
	応用数学 C	1				1		B
	統計学	1				1		B
	応用物理 I	1			1			B
	応用物理 II	1			1			
	情報処理 I	2	2					
	情報処理 II	2		2				
	数値計算法	1			1			
	機械工学概論	1	1					
必修	機械運動学	1			1			
	機構学	3					3	A
	工業力学	2		2				
	機械力学	3				3		A
	材料力学 I	2		2				
	材料力学 II	3			3			A
	材料学 I	2		2				
	材料学 II	3			3			A
	熱力学	3			3			A
	機械工作法	2		2				A
必修	図学製図	2		2				
	設計製図 I	2		2				
	設計製図 II	2			2			
	電気回路	2		2				B
	論理制御	1			1			B
	ロボット制御	3				3		A
	計測工学	1		1				
	センサ工学	3				3		A
	工業英語演習	1			1			
	論文作成技法	1				1		
必修	課題研究	1				1		
	工学演習 I	1				1		
	工学実験 I	1	1					
	工学実験 II	2		2				
	工学実験 III	2			2			
	工学実験 IV	2				2		
	工学実験 V	1				1		
	製作実習 I	2		2				
	製作実習 II	2			2			
	製作実習 III	1				1		
製作実習 IV	1					1		
電気工学実験	1					1		
卒業研究	8					8		
開設単位数計		84	4	10	17	28	25	学修単位数 51

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前	2年前	3年前	4年前	5年前	
必修	応用物理 III	1					1	
	設計法	2				2		
	伝熱工学	1					1	
	流体力学	1					1	
	数値流体力学	1					1	
	マイコン制御	1					1	
	自動車工学	1					1	
	学外実習	2				2		
	開設単位数計	10	0	0	0	5	5	
	特別学修							[注2]
特別学修	本校以外の教育施設における学修							[注3]
	本校以外の教育施設における学修							特別学修および本校以外の教育施設における学修は含まない
開設単位数計		94	4	10	17	33	30	

注1：A (1単位：15時間+自学自習30時間) 1履修単位→1.5学修単位
 B (1単位：22.5時間+自学自習22.5時間) 1履修単位→1学修単位
 注2：特別学修の内容は、別に定める。
 注3：本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

(出典 平成25年度学生便覧 32, 33頁)

電気電子工学科の専門の教育課程表

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										備考			
			1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前	4年後	5年前	5年後				
必修	電気機器	3														
	情報伝送工学	3														
	電気数学演習A	1														
	電気数学演習B	1														
	制御工学	3														
	半導体工学	3														
	コンピュータ工学	3														
	開設単位数計	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	応用物理Ⅲ	1														
	情報通信Ⅰ	1														
情報通信Ⅱ	1															
電気電子材料	1															
電子計測Ⅰ	1															
電子回路Ⅱ	2															
放電工学	1															
高電圧大電流工学	1															
電力工学	2															
パワーエレクトロニクス	1															
回路網理論	1															
電気電子製図	2															
電気法規	2															
電気外実習	2															
開設単位数計	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特別学修																
特別学修																
開設単位数計	99	4	10	17	35	33										

注1：A（1単位：15時間＋自学自習30時間）
 B（1単位：22.5時間＋自学自習22.5時間）
 注2：特別学修の内容は、別に定める。
 注3：本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

専門科目
電気電子工学科

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										備考			
			1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前	4年後	5年前	5年後				
必修	応用数学A	1														
	応用数学B	1														
	応用数学C	1														
	統計学	1														
	工業英語演習Ⅰ	1														
	応用物理Ⅰ	1														
	応用物理Ⅱ	1														
	応用物理実験Ⅰ	1														
	電気電子工学概論	2														
	工学基礎演習Ⅰ	1														
工学基礎演習Ⅱ	2															
電気磁気学Ⅰ	2															
電気磁気学Ⅱ	2															
電気磁気学Ⅲ	3															
電気回路Ⅰ	2															
電気回路Ⅱ	2															
電気回路Ⅲ	3															
電子工学	2															
情報処理Ⅰ	2															
情報処理Ⅱ	1															
コンピュータ工学Ⅰ	1															
コンピュータ工学Ⅱ	1															
コンピュータ実習Ⅰ	1															
情報処理演習Ⅰ	1															
実験実習Ⅰ	3															
実験実習Ⅱ	4															
実験実習Ⅲ	4															
実験実習Ⅳ	2															
機械工作実習Ⅰ	1															
課題研究	2															
卒業研究	8															
開設単位数計	60	4	10	17	18	11										

(出典 平成25年度学生便覧 34, 35頁)

電子制御工学科の専門の教育課程表

専門科目
電子制御工学科

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前後	2年前後	3年前後	4年前後	5年前後	
必修	応用数学 A	1				1		B [注1]
	応用数学 B	1				1		B
	応用数学 C	1				1		B
	統計学	1			1			B
	応用物理 I	1			1			B
	応用物理 II	1			1			
	応用物理実験	1			1			
	応用物理実習	2			2			
	プログラミング技法	2			2			
	製図	2			2			
選択	機械制御入門	2			2			
	機械力学	2			2			
	材料力学 I	1			1			
	材料力学 II	3			3			A
	電磁気学 I	2			2			
	電磁気学 II	2			2			
	電気回路 I	2			2			
	電子工学 I	2			2			
	電子回路 I	3			3			A
	電子回路 II	3			3			A
科目	情報処理	2			2			
	電子計算機 II	3			3			A
	計測工学	2			2			
	制御工学 I	3			3			A
	制御工学 II	3			3			A
	制御機器	3			3			A
	情報工学	3			3			A
	総合演習	1			1			
	工業英語演習	1			1			
	実験実習 I	2			2			
科目	実験実習 II	2			2			
	実験実習 III	3			3			
	実験実習 IV	2			2			
	課題研究	2			2			
	卒業研究	8			8			
開設単位小計	75	4	10	18	22	21	29	学修単位数

(出典 平成 25 年度学生便覧 38, 39 頁)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前後	2年前後	3年前後	4年前後	5年前後	
必修	精密工学	2					2	
	熱流体力学	2					2	
	電気回路 II	2				2		
	電子工学 II	2				2		
	電子材料	1				1		
	工業解析	2				2		
	計算機制御工学	2				2		
	ロボット工学	2				2		
	システム工学	1				1		
	応用物理 III	1				1		
科目	設計工学	2				2		
	学外実習	2				2		
	開設単位小計	21	0	0	0	10	11	
	特別学修		一般及び専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修を合わせて最大10単位まで有効					[注2]
	本校以外の教育施設における学修		本校以外の教育施設における学修					[注3]
	開設単位合計	96	4	10	18	32	32	特別学修及び本校以外の教育施設における学修は含まない

注1：A (1単位：15時間+自学自習30時間) 1履修単位→1.5学修単位
 B (1単位：22.5時間+自学自習22.5時間) 1履修単位→1学修単位
 注2：特別学修の内容は、別に定める。
 注3：本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

情報工学科の専門の教育課程表

専門科目
情報工学科

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前	2年前	3年前	4年前	5年後	
必修	応用物理 I	1			1			
	応用物理 II	1				1		B [注1]
	応用物理実験	1				1		
	応用数学 A	1				1		B
	応用数学 B	1				1		B
	統計学	1				1		B
	コンピュータ入門	2	2					
	プログラミング言語	2		2				
	プログラミング演習	2			2			
	言語処理系	3				3		A
オペレーティングシステム	3				3		A	
ソフトウェア設計	3				3		A	
シミュレーション	3				3		A	
必修	情報数学	2			2			
	情報理論	3			3			A
	ネットワーク入門	2		2				
	情報通信システム	3				3		A
	論理回路	2		2				
	電気回路	2		2				
	電子回路	2			2			
	電子計算機 I	2			2			
	電子計算機 II	3				3		A
	計算機ネットワーク	3				3		A
科目	計算機システム	3				3		A
	工業英語演習 I	1				1		
	工業英語演習 II	2				2		
	理工学演習	2				2		
	ドキュメント書誌演習	1				1		
	プログラミング演習 I	2		2				
	プログラミング演習 II	2			2			
	プログラミング演習 III	2				2		
	実験・実習 I	2	2					
	実験・実習 II	2		2				
実験・実習 III	2			2				
実験・実習 IV	2				2			
課題研究	2					2		
卒業研究	7					7		
開設単位数計		78	4	10	15	27	22	学修単位数31

(出典 平成25年度学生便覧 40, 41頁)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考	
			1年前	2年前	3年前	4年前	5年後		
必修	応用物理 III	1					1		
	制御工学	2					2		
	半導体工学	2					2		
	知能システム	2					2		
	信号処理工学	2					2		
	画像情報システム	2					2		
	分散情報システム	2					2		
	学外実習	2				2			
	開設単位数計		15	0	0	0	4	11	
	特別学修	一般および専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大10単位まで有効							[注2]
本校以外の教育施設における学修								[注3]	
開設単位数合計		93	4	10	15	31	33	特別学修および本校以外の教育施設における学修は含まない	

注1: A (1単位: 15時間 + 自学自習 30時間) 履修単位 → 1.5 学修単位
 B (1単位: 22.5時間 + 自学自習 22.5時間) 履修単位 → 1 学修単位
 注2: 特別学修の内容は、別に定める。
 注3: 本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

環境都市工学科の専門の教育課程表

専門科目
環境都市工学科

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年前	2年前	3年前	4年前	5年前	
必修	応用数学 A	1			1			B [注1]
	応用数学 B	1			1			B
	応用数学 C	1				1		B
	統計学	1				1		B
	応用物理 I	1			1			B
	応用物理 II	1			1			B
	環境都市工学概論 I	1						
	環境都市工学概論 II	1						
	図学 I	1						
	情報処入門	1						
必修	コンピュータ基礎習	1			1			
	プログラミング演習	1			1			
	情報処理演習 I	1				1		
	計算工学	3			1		3	A
	測量学	4	1	2	1			
	構造力学 I	4	2	2				
	構造力学 II	3				3		A
	水理学 I	2		2				A
	水理学 II	3				3		A
	土質力学 I	2		2				A
必修	土質力学 II	3				3		A
	建設材料学	2	2					
	数値コンピュータ工学 I	2			2			
	数値コンピュータ工学 II	1			1			B
	上下水道工学	3				3		A
	環境概論	1				1		A
	環境システム工学	3					3	A
	水環境工学 I	3					3	A
	水環境工学 II	1					1	B
	生体環境工学	1				1		
必修	構造力学演習	1					1	
	工業英語演習	1					1	
	R/C構造設計製図	2				2		
	材料実験	2			2			
	水理実験	2			2			
	土質実験	2			2			
	応用物理実験 I	1					1	
	応用物理実験 II	3		2	1			
	課題研究 I	1					1	
	卒業研究	8					8	
開設単位数計		76	4	10	16	30	16	学修単位数 28

(出典 平成25年度学生便覧 42, 43頁)

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考	
			1年前	2年前	3年前	4年前	5年前		
必修	環境システム工学	1					1		B
	水環境工学 II	1						1	[注2] B
	環境工学実習	2					2		B
	防災工学	1					1		B
	都市構造	1					1		B
	都市耐震構造	1					1		B
	都市耐震構造	1					1		B
	都市耐震構造	1					1		B
	都市耐震構造	1					1		B
	都市耐震構造	1					1		B
必修	開設単位数計	10	0	0	0	2	8		学修単位数 6
	環境学	1				1			
	水環境工学	1					1		
	環境工学実習	1					1		
	環境工学実習	1					1		
	環境工学実習	1					1		
	環境工学実習	1					1		
	環境工学実習	1					1		
	環境工学実習	1					1		
	環境工学実習	1					1		
必修	開設単位数計	10	0	0	0	3	7		
	特別学修	1							[注3]
	本校以外の教育施設における学修	1							[注4]
	開設単位数計	96	4	10	16	35	31		特別学修および本校以外の教育施設における学修は含まない

注1: A (1単位: 15時間+自学自習30時間) 1履修単位→1.5学修単位
 B (1単位: 22.5時間+自学自習22.5時間) 1履修単位→1学修単位
 注2: ※印の科目は、同時開講科目。
 注3: 特別学修の内容は、別に定める。
 注4: 本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

準学士課程の授業科目の流れの説明

1. (1) 豊かな人間性と健康な心身を養う

健康な心身を養うため1年から5年まですべての学年で保健体育を必修科目として開講している。また、豊かな人間性を養う目的で1年時に音楽と美術の授業を必修として開講している。

1. (2) 深く社会について理解し、広い視野がもてるよう、豊かな教養を身につける。

社会についての基礎的な理解を助けるために「歴史Ⅰ、Ⅱ」と「現代の社会」を1、2学年で必修科目として開講している。また、豊かな教養を身につけるという目的から、英語以外の外国語として「ドイツ語Ⅰ」を3学年で必修科目として開講している。高学年となる4、5学年では、社会系科目が選択科目として開講されており、豊かな教養を身につけることができる授業配置となっている。

1. (3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

本格的に専門科目が増え始める3学年に「技術と社会」を必修科目として配置することで、技術者としての責任を自覚できるようになっている。

2. (1) 数学及び自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。

専門科目をスムーズに履修するという観点から、1～3年までに多くの数学、物理、化学系の科目が開講されており、自然科学の基礎知識の修得ができる授業配置となっている。さらに4、5年では、応用数学や応用物理といったより高度な内容の自然科学系の授業によって、論理的思考能力が身につけられる授業の配置となっている。

2. (2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。

各学科とも教育目的を達成するのに必要な専門の授業科目の流れとなっている。

2. (3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。

5学科とも「実験実習」を1学年から4学年まで必修科目として開講している。また、5学年では「卒業研究」が必修科目として開講されており、実験・実習を通してものづくりに必要な力を身につけることができるようになっている。

3. (1) 日本語の記述能力を身につける。

1～4年まで国語の授業が必修科目となっており、日本語の記述能力を身につけることができる授業配置となっている。さらに、5年で国文学が選択科目として開講されている。また、機械工学科では5年次に論文作成技法が選択科目として開講されており、日本語の記述能力向上ができる授業配置となっている。

3. (2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。

1、2年時に必修科目として開講される英語Aと英語Bで「読む、書く、聞く、話す」の基礎を学び、3年次以降に開講される英会話及び英語の授業によって英語によるコミュニケーションの基礎能力を身につけることができるようになっている。

3. (3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。

5学年時の卒業研究において、中間発表会及び研究発表会を通して情報機器（主にPC）を使った発表と討論（自分の発表に対する受け答え）ができる能力を身につけることができるようになっている。

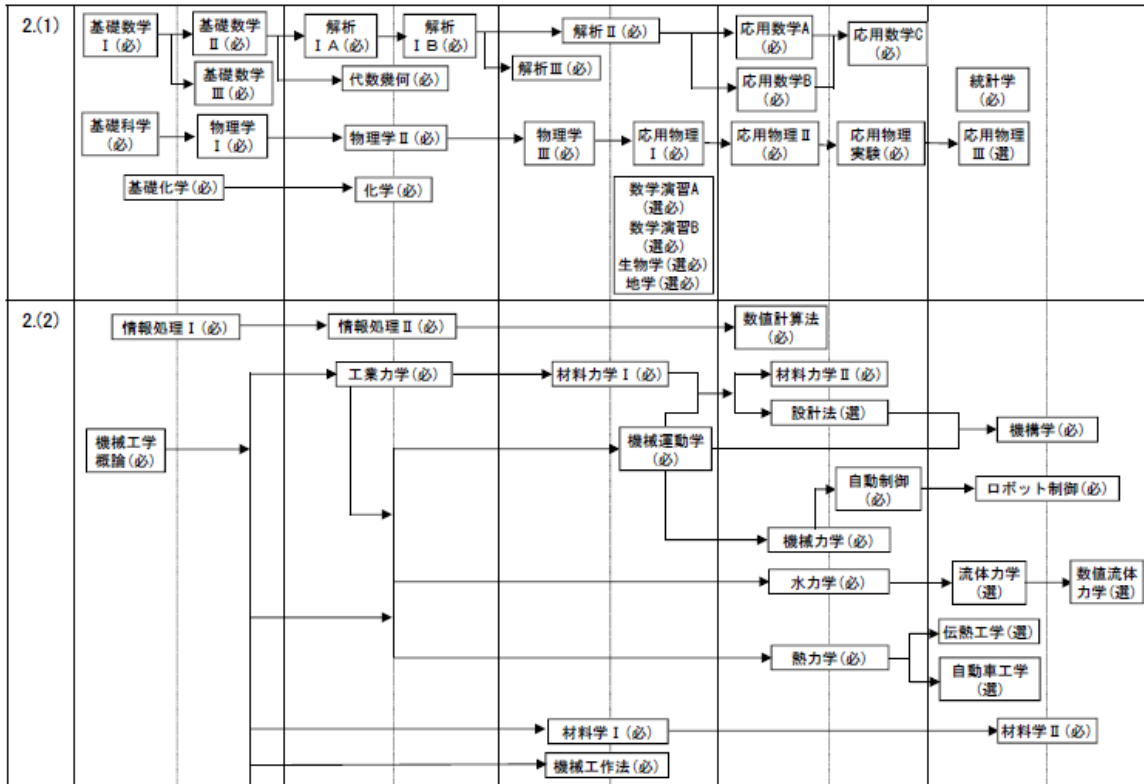
4. (1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。

人文・基礎学系の教員各自の専門に基づいたテーマに対して、学生が少人数で取り組む形態の一般特別研究（一般科目の卒研）と5学年次の卒業研究を通して問題解決能力を身につけることができるようになっている。

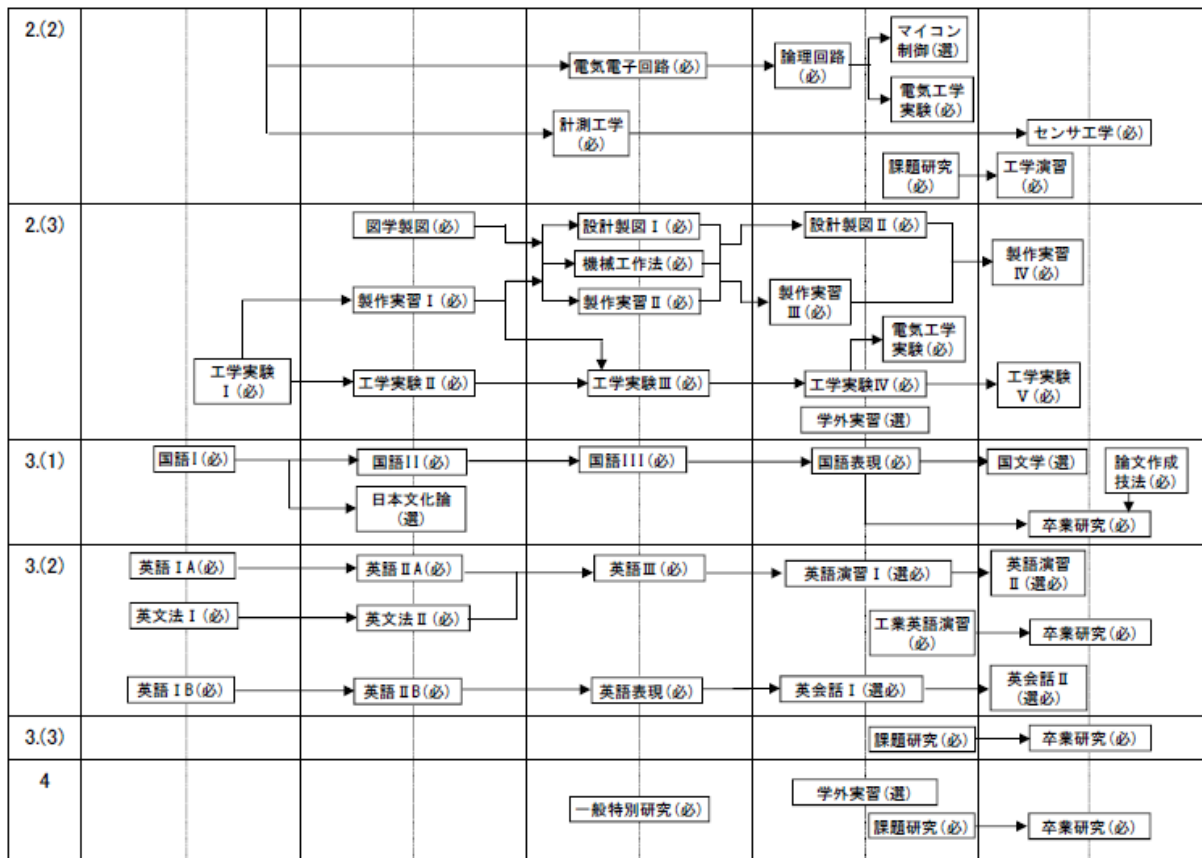
(出典 点検・評価委員会資料)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(機械工学科1~4年生)

学習・教育目標	授 業 科 目 名									
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1.(1)	保健体育Ⅰ(必) 美術(必) 音楽(必)		保健体育Ⅱ(必)			体育Ⅰ(必)		体育Ⅱ(必)		体育Ⅲ(必)
1.(2)	歴史Ⅰ(必) 現代の社会(必)		歴史Ⅱ(必)			ドイツ語Ⅰ(必)		ドイツ語Ⅱ(選) 哲学(選必) 経済学(選必) 社会学(選必)		ドイツ語Ⅲ(選) 法学(選) 心理学(必)
1.(3)						技術と社会(必)				



資料 5-1-①-8 (2/2)

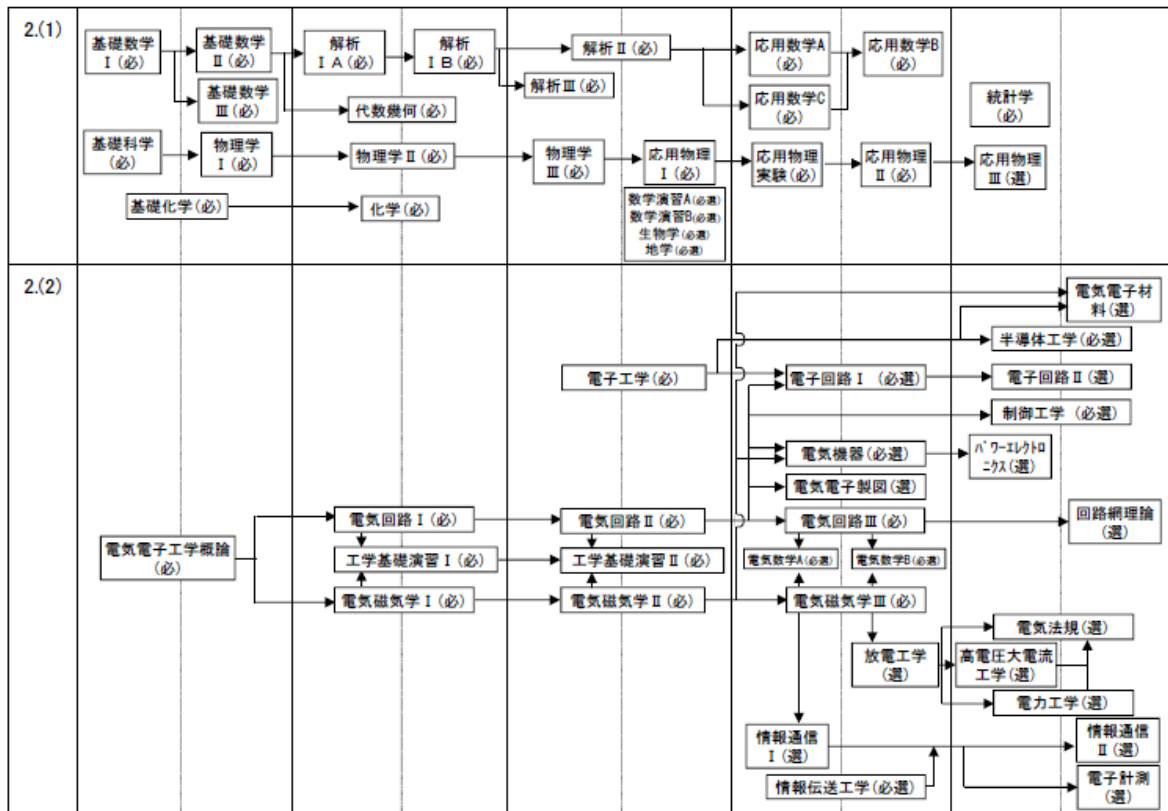


(出典 平成 25 年度シラバス 機械工学科編 2, 3 頁)

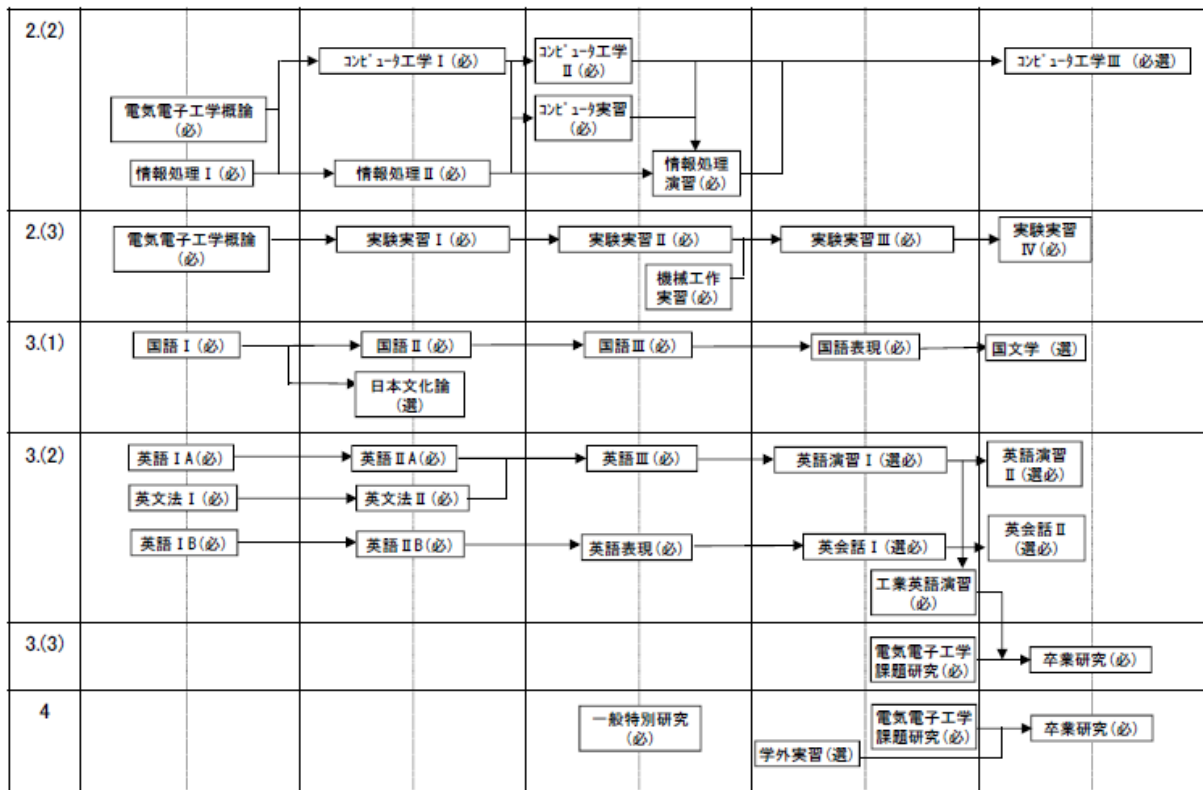
資料5-1-①-9 (1/2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(電気電子工学科1~4年生)

学習・教育目標	授業科目名									
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1.(1)	保健体育 I (必) 美術 (必) 音楽 (必)	保健体育 II (必)			体育 I (必)		体育 II (必)			体育 III (必)
1.(2)	歴史 I (必) 現代の社会 (必)	歴史 II (必)			ドイツ語 I (必)		ドイツ語 II (選) 哲学 (選必) 経済学 (選必) 社会学 (選必)			ドイツ語 III (選) 法学 (選) 心理学 (必)
1.(3)					技術と社会 (必)					



資料 5-1-①-9 (2/2)



(出典 平成 25 年度シラバス 電気電子工学科編 8, 9 頁)

資料 5 - 1 - ① - 10 (1 / 2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(電子制御工学科 1~4 年生)

学習・教育目標	授 業 科 目 名									
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1.(1)	保健体育 I (必) 美術 (必) 音楽 (必)		保健体育 II (必)		体育 I (必)		体育 II (必)		体育 III (必)	
1.(2)	歴史 I (必) 現代の社会 (必)		歴史 II (必)		ドイツ語 I (必)		ドイツ語 II (選) 中国語 I (選) 哲学 (選必) 経済学 (選必) 社会学 (選必)		ドイツ語 III (選) 中国語 II (選) 心理学 (選) 法学 (選)	
1.(3)					技術と社会 (必)					

2.(1)	基礎数学 I (必) 基礎科学 (必) 基礎化学 (必)	基礎数学 II (必) 基礎数学 III (必) 物理学 I (必)	解析 I A (必) 代数幾何 (必) 物理学 II (必) 化学 (必)	解析 I B (必)	解析 II (必) 解析 III (必)	数学演習 A (選必) 数学演習 B (選必) 生物学 (選必) 地学 (選必) 総合演習 (必)	応用数学 A (必) 応用数学 C (必)	応用数学 B (必)	統計学 (必)	物理学 III (必) 応用物理 I (必) 応用物理 II (必)	応用物理 II (選) 応用物理実験 (必) 応用物理 III (選)
2.(2)	機械制御入門 (必)	製図 (必)	材料力学 I (必)	電子工学 I (必)	電気回路 I (必) 電磁気学 I (必)	材料力学 II (必) 電子工学 II (選) 電気回路 II (選)	設計工学 (選) 電子回路 I (必) 電気回路 II (選)	精密工学 (選) 熱流体力学 (選) 電子材料 (選) 電子回路 II (必)	制御工学 I (必)	制御機器 (必) 制御工学 II (必) ロボット工学 (選)	システム工学 (選) 情報工学 (必)

資料 5 - 1 - ① - 10 (2 / 2)

2(3)	実験実習Ⅰ(必)	実験実習Ⅱ(必) 製図(必)	実験実習Ⅲ(必)	実験実習Ⅳ(必) 学外実習(選)	
3(1)	国語Ⅰ(必)	国語Ⅱ(必) 日本文化論(選)	国語Ⅲ(必)	国語表現(必)	国文学(選)
3(2)	英語ⅠA(必) 英文法Ⅰ(必) 英語ⅠB(必)	英語ⅡA(必) 英文法Ⅱ(必) 英語ⅡB(必)	英語Ⅲ(必) 英語表現(必)	英語演習Ⅰ(選必) 工業英語演習(必) 英会話Ⅰ(選必)	英語演習Ⅱ(選必) 英会話Ⅱ(選必)
3(3)				課題研究(必)	卒業研究(必)
4			一般特別研究(必)	学外実習(選) 課題研究(必)	卒業研究(必)

(出典 平成 25 年度シラバス 電子制御工学科編 14, 15 頁)

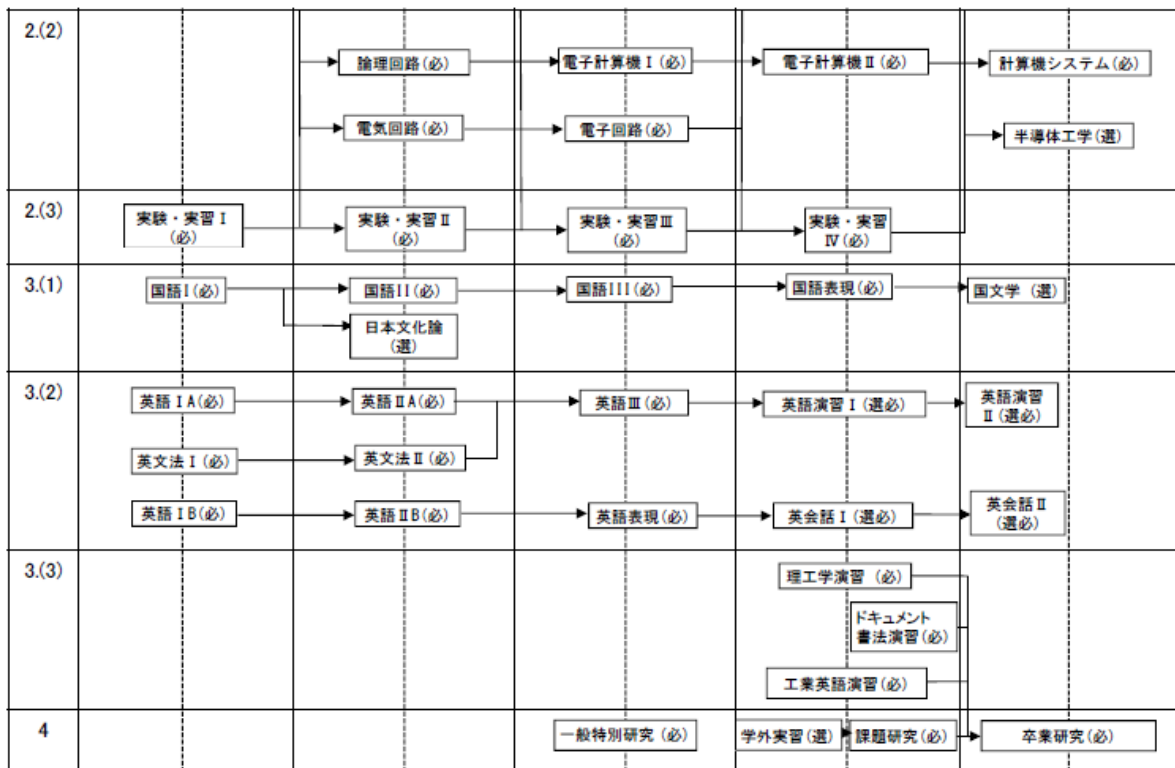
資料5-1-①-11 (1/2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(情報工学科1~4年生)

学習・教育目標	授 業 科 目 名									
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1.(1)	保健体育Ⅰ(必) 美術(必) 音楽(必)		保健体育Ⅱ(必)		体育Ⅰ(必)		体育Ⅱ(必)		体育Ⅲ(必)	
1.(2)	歴史Ⅰ(必) 現代の社会(必)		歴史Ⅱ(必)		ドイツ語Ⅰ(必)		ドイツ語Ⅱ(選) 哲学(選必) 経済学(選必) 社会学(選必)		ドイツ語Ⅲ(選) 法学(選) 心理学(必)	
1.(3)					技術と社会(必)					

2.(1)	基礎数学Ⅰ(必) 基礎科学(必) 基礎化学(必)	基礎数学Ⅱ(必) 基礎数学Ⅲ(必) 物理学Ⅰ(必)	解析ⅠA(必) 代数幾何(必) 物理学Ⅱ(必) 化学(必)	解析ⅠB(必)	解析Ⅱ(必) 解析Ⅲ(必) 物理学Ⅲ(必)	解析Ⅱ(必) 数学演習A(選必) 数学演習B(選必) 生物学(選必) 地学(選必)	応用数学B(必) 応用数学A(必) 応用物理Ⅰ(必) 数学演習A(選必) 数学演習B(選必) 生物学(選必) 地学(選必)	統計学(必) 応用物理Ⅱ(必)	応用物理Ⅲ(選)
2.(2)	コンピュータ入門(必)		プログラミング演習Ⅰ(必) プログラミング言語(必)		プログラミング演習Ⅱ(必) データ構造・アルゴリズム(必) 情報数学(必) ネットワーク入門(必)		プログラミング演習Ⅲ(必) 言語処理系(必) 制御工学(選) オペレーティング・システム(必) 計算機インターフェース(必)		シミュレーション工学(必) 知能システム(選) ソフトウェア設計(必) 画像情報システム(選) 情報理論(必) 情報通信システム(必) 分散情報システム(選) 信号処理工学(選)

資料 5 - 1 - ① - 11 (2 / 2)

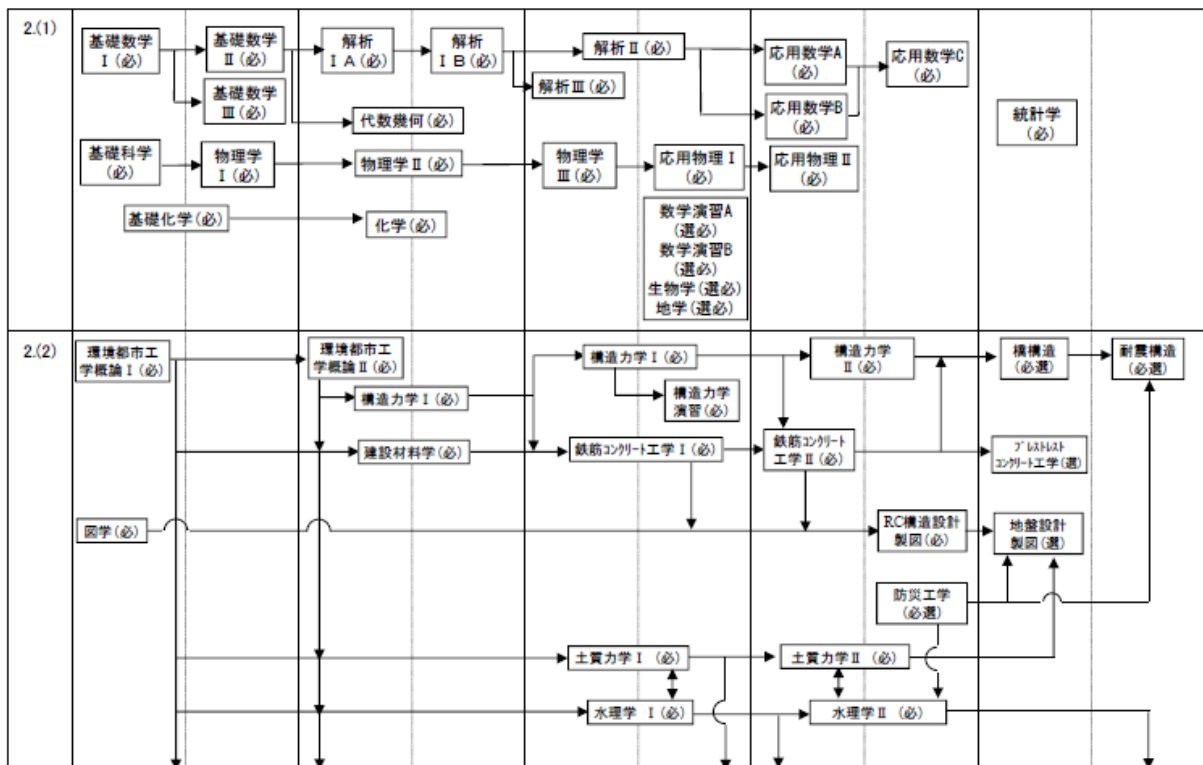


(出典 平成 25 年度シラバス 情報工学科編 20, 21 頁)

資料 5 - 1 - ① - 12 (1 / 2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(環境都市工学科 1~4 年生)

学習・教育目標	授 業 科 目 名									
	準学士課程1年		準学士課程2年		準学士課程3年		準学士課程4年		準学士課程5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1.(1)	保健体育 I (必) 美術(必) 音楽(必)		保健体育 II (必)		体育 I (必)		体育 II (必)		体育 III (必)	
1.(2)	歴史 I (必) 現代の社会(必)		歴史 II (必)		ドイツ語 I (必)		ドイツ語 II (選) 哲学(選必) 経済学(選必) 社会学(選必)		ドイツ語 III (選) 法学(選) 心理学(必)	
1.(3)					技術と社会(必)					



資料 5 - 1 - ① - 13 (1 / 3)

基礎数学 I のシラバス

授 業 科 目		基礎数学 I	
開設学科学系	基礎学系	区分・単位数	必修・3単位
受講年科・学期	1年全学科・前期	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	数式、方程式、不等式、2次関数、指数関数、対数関数		
関 連 科 目			
担 当 教 員	阿部孝之、鈴木道治、鎌田勝、田所勇樹		
連絡先(オフィス・アワー)	abe@n.kisarazu.ac.jp, m-suzuki@kisarazu.ac.jp, kamata@kisarazu.ac.jp, tado@n.kisarazu.ac.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	高遠ほか著『新基礎数学』大日本図書、2011年、1,800円(+税)		
補 助 教 科 書 等	高遠ほか著『新基礎数学問題集』大日本図書、2011年、900円(+税)		
参 考 図 書	本校図書館に備え付けの各種参考書		
プログラム目標			
達 成 目 標		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
・ 数式の計算や、いろいろな数と式、方程式、不等式の解法に習熟する。		前期中間試験および演習の提出状況や内容、授業への参加状況を考慮して総合評価する。	
・ 関数の意味を理解し、2次関数、べき関数、分数関数、無理関数、逆関数、指数関数、対数関数など、いろいろな関数の性質やグラフに習熟し、使いこなすことができるようにする。		前期定期試験および演習の提出状況や内容、授業への参加状況を考慮して総合評価する。	
履 修 上 の 注 意	ノートのとりかた、解答の書き方など、高専での数学の学習方法をなるべく早く身につける必要がある。授業で学習した方法で教科書の間、練習問題をすべて解き、また必ずしも授業では取り上げられない教科書併用の問題集などの問題も積極的に解くこと。基礎数学 I で学習する内容は、今後学習する数学でもよく使われるので、多面的に学んでほしい。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ 整式の計算	・ 整式の加減乗除、因数分解、剰余の定理、因数定理について学ぶ。		10
・ いろいろな数と式	・ 分数式の計算、実数と絶対値、平方根、複素数について学ぶ。		10
・ 方程式	・ 2次方程式と解の公式、解と係数の関係、いろいろな方程式、恒等式、等式の証明について学ぶ。		12
・ 不等式	・ 不等式の性質、1次不等式の解法、いろいろな不等式、不等式の証明、集合、命題について学ぶ。		10
前期中間試験	前期中間試験までの学習内容		6
・ 2次関数	・ 関数とグラフ、2次関数のグラフ、2次関数の最大・最小、2次関数と2次方程式、2次関数と2次不等式について学ぶ。		12
・ いろいろな関数	・ べき関数、分数関数、無理関数、逆関数について学ぶ。		10
・ 指数関数	・ 累乗根、指数の拡張、指数関数のグラフと性質について学ぶ。		10
・ 対数関数	・ 対数の定義と性質、対数関数のグラフと性質、常用対数について学ぶ。		10
前期定期試験	前期中間試験以降の学習内容		
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			90
成績の算出方法	中間試験および定期試験を実施し、試験成績、演習の提出状況や内容、授業への参加状況を考慮して総合評価する。		

(出典 平成 25 年度シラバス 一般科目 15 頁)

資料 5 - 1 - ① - 13 (2 / 3)

基礎数学Ⅱのシラバス

授 業 科 目		基礎数学Ⅱ	
開設学科学系	基礎学系	区分・単位数	必修・2単位
受講年科・学期	1年全学科・後期	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	三角比、三角関数、直線の方程式、2次曲線の方程式、不等式と領域		
関 連 科 目	基礎数学Ⅰ		
担 当 教 員	阿部孝之、鈴木道治、鎌田勝、田所勇樹		
連絡先(オフィス・アワー)	abe@n.kisarazu.ac.jp, m-suzuki@kisarazu.ac.jp, kamata@kisarazu.ac.jp, tado@n.kisarazu.ac.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	高遠ほか著『新基礎数学』大日本図書、2011年、1,800円(+税)		
補 助 教 科 書 等	高遠ほか著『新基礎数学問題集』大日本図書、2011年、900円(+税)		
参 考 図 書	本校図書館に備え付けの各種参考書		
プログラム目標			
達 成 目 標		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
・ 三角関数を理解し、三角関数の基本的な計算をすることができる。		後期中間試験および演習の提出状況や内容、授業への参加状況を考慮して総合評価する。	
・ 直線や2次曲線を理解し、直線や2次曲線に関する基本的な計算をすることができる。		後期定期試験および演習の提出状況や内容、授業への参加状況を考慮して総合評価する。	
履 修 上 の 注 意	授業で学習した方法で教科書の間、練習問題をすべて解く。必ずしも授業では取り上げられない教科書併用の問題集などの問題も積極的に解くこと。基礎数学Ⅱで学習する内容は、今後学習する数学でもよく使われるので、多面的に学んでほしい。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ 三角比	・ 鋭角の三角比、鈍角の三角比について学ぶ。		4
・ 三角比の相互関係	・ 三角比の相互関係について学ぶ。		2
・ 三角形への応用	・ 正弦定理、余弦定理、三角形の面積、ヘロンの公式について学ぶ。		4
・ 三角関数の性質	・ 一般の三角関数、弧度法(ラジアン)、扇形の弧の長さ と面積について学ぶ。		6
・ 三角関数の相互関係	・ 三角関数の間の相互関係について学ぶ。		2
・ 三角関数のグラフ	・ 三角関数のグラフについて学ぶ。		4
・ 加法定理	・ 加法定理について学ぶ。		2
・ 加法定理の応用	・ 2倍角の公式、半角の公式、積を和・差に直す公式、 和・差を積に直す公式、三角関数の合成について学ぶ。		4
後期中間試験	後期中間試験までの学習内容		4
・ 2点間の距離と分点	・ 2点間の距離、内分点の座標について学ぶ。		2
・ 直線の方程式	・ 直線の方程式(1)(2)(3)(4)、三角形の重心について 学ぶ。		6
・ 2直線の関係	・ 2直線の平行・垂直条件について学ぶ。		4
・ 円	・ 円の方程式について学ぶ。		4
・ いろいろな2次曲線	・ 楕円の方程式、双曲線の方程式、放物線の方程式につ いて学ぶ。		4
・ 2次曲線の接線	・ 2次曲線の接線について学ぶ。		2
・ 不等式と領域	・ 不等式の表す領域、連立不等式の表す領域について学 ぶ。		6
後期定期試験	後期中間試験以降の学習内容		
合計授業時間数(後期の定期試験は除く)			60
成績の 算出方法	中間試験および定期試験を実施し、試験成績、演習の提出状況や内容、授業への参加状況を考慮して総合評価する。		

(出典 平成25年度シラバス 一般科目 16頁)

資料 5 - 1 - ① - 13 (3 / 3)

基礎科学のシラバス

授 業 科 目		基礎科学	
開 設 学 科 学 系	基礎学系	区 分 ・ 単 位 数	必修・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	1年全学科・前期	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	単位系、有効数字、グラフ、表、ベクトル表示、科学的思考法		
関 連 科 目	物理学I		
担 当 教 員	高谷 博史		
連絡先(オフィスアワー)	(事前にメールなどにより調整を行った上で質問に応じる。)		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等	「新訂物理図解」 第一学習社 820円 (税込) 「エクセル物理 I+II」 実教出版 960円 (税込)		
参 考 図 書			
プログラム目標			
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法 (評価の割合/重み)	
・ 物理学の歴史をたどりながら、物理の仕組みや科学的な思考法などについて学び、今までに学んできた身近な物理現象について定性的に説明できること。		前期中間試験と課題レポートと授業への取り組みを考慮して総合評価する。	
・ 物理量の基本的な量と基本単位を理解し、測定値を正確に科学的記数法で表示でき、有効数字を考慮した測定値の計算ができること。測定値を正確にグラフ表示できること。 ・ 物理量で使用されるベクトル量とスカラー量の違いを理解し、ベクトルの合成と分解の計算ができること。		前期定期試験と課題レポートと授業への取り組みを考慮して総合評価する。	
履 修 上 の 注 意	今後学んでゆくあらゆる理系分野の学問の基礎となるので、しっかりと理解するように努めること。そのために、常に自分の頭で考え、イメージを持って講義に臨むこと。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時 間 数
・ 物理学のはじまり ・ ニュートン力学、身近な力学 ・ 熱 ・ 波動 ・ 電気と磁気	・ どのように物理は発展してきたかについて ・ 力学の基礎と、身近な力学的現象について ・ 熱とは何かについて ・ 波とは何か、音、光 ・ 電気と磁気の現象について		2 4 2 2 4
前期中間試験	前期中間試験までの学習内容		2
・ 基本的な物理量と基本単位 ・ 測定と測定値の計算 ・ 測定値のグラフ表示 ・ 物理量の表し方 (ベクトルとスカラー)	・ 物理量の基本と表記、その単位系について ・ 有効数字の表し方と計算方法について ・ グラフの描き方と実験式の求め方について ・ ベクトルの意味と計算方法について		2 4 4 4
前期定期試験	前期中間試験以降の学習内容		—
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	前期中間試験および前期定期試験を実施し、試験成績、課題レポートおよび授業への取り組みを考慮して総合評価する。		

(出典 平成 25 年度シラバス 一般科目 18 頁)

(分析結果とその根拠理由)

低学年で一般科目の多くを配置し、高学年になるに従って専門科目を増やしていく授業配置は、中学卒業後の5年間で専門的な科学技術を修得するのに適した配置となっている。授業の内容も、このような配置に即し、各学科の教育目的が効率的に達成されるように工夫されている。

また、資料5-1-①-8~12より、各学科とも学習・教育目標の細項目を達成するのに適した体系性を持った授業科目の流れとなっている。

観点5-1-②： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

(観点に係る状況)

学生の多様なニーズに応えるために、本校以外の教育施設における学習に関する規程が定められており、学生便覧に掲載することで学生への周知も図っている(資料5-1-②-1)。実施例として、豊橋技術科学大学が実施している「eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換制度」があげられる(資料5-1-②-2)。対象学生は準学士課程4年以上(専攻科課程生を含む)であり、平成24年度の講義に申し込んだ学生は準学士課程に在籍する5名(資料5-1-②-3)で、実際に受講した学生は4名である。受講学生は、学修単位認定申請書(資料5-1-②-4)を提出し、教務委員会で審議の上、単位が認定される。また、外部の技能検定や資格試験を利用した単位認定も実施している(資料5-1-②-5)。

この他にも、準学士課程の4学年を対象とした学外実習(インターンシップ)について明文化されており、学生便覧(資料5-1-②-6)、及び各学科のシラバス(資料5-1-②-7)に記載されている。平成24年度の実施状況の資料を資料5-1-②-8に示す。選択科目にも拘わらず各学科の多くの学生が履修している。

また、国際社会に対応する技術者の育成のため国際交流に関しても力点を置いている。台湾の国立聯合大学との連携による学生派遣を行っている(資料5-1-②-9)。さらに、ドイツ語教育に関しては、ドイツ外務省と協定を締結し学生のドイツ語学習の意欲向上につとめている。ドイツ文化センターのウェブページには、パートナー校として掲載されている(資料5-1-②-10)。

いくつかの科目では、学術の最新の動向や社会からの要請を授業内容に反映している。一例として、機械工学科第1学年の「機械工学概論」(シラバスを資料5-1-②-11に示す)では、次世代自動車への転換に向けた技術革新の方向性とその問題点について教育が行われている。

本校以外の教育施設における学習に関する規程

5-3 本校以外の教育施設における学修に関する規程

(趣旨)

第1条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第14条の3の規定に基づき、本校以外の教育施設における学修については、この規程の定めるところによる。

(学修手続き及び単位認定申請)

第2条 本校以外の教育施設で開設されている授業科目を履修してその単位の認定を希望する者は、あらかじめ「本校以外の教育施設における学修許可願」を校長に提出しなければならない。また、本校以外の教育施設における学修を修了し単位の認定を受けようとするときは、「本校以外の教育施設における学修単位認定申請書」を校長に提出しなければならない。

(修得単位の取り扱い)

第3条 単位の認定は、学則第13条第6項の規定に基づく特別学修とあわせて10単位を超えない範囲で本科における単位として認定することができる。

2 前項により認定する単位は、単位認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 平成24年度学生便覧 99頁)

資料5-1-②-2 (1/2)

本校以外の教育施設における学習の例

平成24年度eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換制度
に基づく豊橋技術科学大学特別聴講学生募集要項

1. 本制度の実施趣旨

本制度により、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、釧路工業高等専門学校、仙台高等専門学校、福島工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、群馬工業高等専門学校、木更津工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校、岐阜工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、松江工業高等専門学校、徳山工業高等専門学校、新居浜工業高等専門学校、熊本高等専門学校は、相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換を実施するものです。

遠隔教育により本学の授業科目を履修し修得した単位は、学生の所属する大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）において修得した単位として認定することができます。

2. 出願資格

上記1に記述されている協定を締結している大学等に在籍している学生（科目等履修生、研究生等を除く）

3. 授業料等

検定料、入学料及び授業料は徴収しません。

4. 開講科目等（平成24年度後期）

（学部3，4年・高専専攻科）

・ 機械動力学	2.0単位
・ 情報理論	2.0単位
・ プログラミング言語論	2.0単位
・ 論理数学	2.0単位
・ 基礎画像処理	1.0単位
・ 建築環境工学Ⅱ	2.0単位
・ 建築環境設備学	2.0単位

（学部1，2年・高専4，5年）

・ 電磁気学序論	1.5単位
・ 英文法基礎	1.0単位
・ 基礎無機化学Ⅰ	2.0単位
・ 物理学Ⅰ	3.0単位

※1. シラバスは、下記URLまたは、別紙にありますのでご参照ください。

<http://www.imc.tut.ac.jp/course/distance/>

2. 開講期間（開講期間内に履修すること。）

前期：平成24年10月 1日～平成25年 3月31日

3. 遠隔教育形態 非同期 WBL型

5. 出願手続き

本学の特別聴講学生を希望する方は、所属する大学等の担当窓口にて「豊橋技術科学大学特別聴講学生願」（添付の書式による）を提出し、所属大学等を通じて9月20日（木）（必着）までに豊橋技術科学大学に申し込んでください。

資料5-1-②-2 (2/2)

6. 受入れ可否の通知
所属大学等を経て，通知します。
7. 単位の認定等
単位の認定は，本学授業担当教員が各講義又は学期末に行う筆記試験等により派遣大学等へ成績を提供し，派遣大学等が定めるところにより行います。
なお，受験上の取扱い及び追試験の実施等については，本学の規則によります。
8. 本学の所在地及び問い合わせ先
豊橋技術科学大学教務課教務係(TEL：[REDACTED])
住所：〒[REDACTED]
e-mail：[REDACTED]

(出典 学生課資料)

資料5-1-②-3 (1/2)

本校以外の教育施設における学習の実施例

平成25年2月28日

木更津工業高等専門学校長 殿

豊橋技術科学大学長
榊 佳之



平成24年度eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による
単位互換協定に基づく特別聴講学生の成績について（報告）

このことについて、以下のとおり成績を報告します。

履修科目名：英文法基礎
担当教員： ██████████

No.	学籍番号	所属	学年	氏名	評点	評価
1	██████	電子制御工学科	5	██████	██████	██████
2	██████	電子制御工学科	5	██████	██████	██████
3	██████	電子制御工学科	5	██████	██████	██████
4	██████	電子制御工学科	5	██████	██████	██████
5	██████	電子制御工学科	5	██████	██████	██████

評価 A：80～100 B：65～79 C：55～64 D：0～54（不合格）H：履修放棄

資料5-1-②-3 (2/2)

平成25年2月28日

木更津工業高等専門学校長 殿

豊橋技術科学大学長
榊 佳之



平成24年度eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による
単位互換協定に基づく特別聴講学生の成績について（報告）

このことについて、以下のとおり成績を報告します。

履修科目名：電磁気学序論
担当教員：██████████

No.	学籍番号	所属	学年	氏名	評点	評価
1	██████████	電子制御工学科	5	██████████	██████████	██████████
2	██████████	電子制御工学科	5	██████████	██████████	██████████
3	██████████	電子制御工学科	5	██████████	██████████	██████████

評価 A：80～100 B：65～79 C：55～64 D：0～54（不合格）H：履修放棄

（出典 学生課資料）

本校以外の教育施設における学修単位認定申請書

大学等における学修単位認定申請書
本校以外の教育施設における学修単位申請書

学科主任 専攻科長	担任 専攻主任
	

平成25年3月4日

木更津工業高等専門学校長 殿

平成20年度入学 工学専攻
第 5 学年 電子制御 工学科

学籍番号 氏名

私は、下記のとおり学修を終了したので、単位の認定について申請します。

記

1. 教育施設の名称
平成24年度eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換制度に基づく豊橋技術科学大学特別聴講学生
2. 学修期間
平成24年10月1日 ～ 平成25年3月31日
3. 授業科目名及び単位数
・ 英文法基礎 1.0単位 ・ 電磁気学序論 1.5単位
4. 添付書類
・ 物理学I 3.0単位
・ 単位修得証明書
・ 成績証明書
・ その他

以上

(出典 学生課資料)

特別学習に関する資料

平成25年度 一般科目（各学科共通）

特別学修一覧表

1. 木更津工業高等専門学校学則第 13 条第 6 項の規程に基づく、別表第 1 及び別表第 2 の特別学修についてはこの定めによる。
2. 特別学修は以下の一覧表とする。
3. この定めは平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

特別学修一覧表

一般（全学科共通）				
項目	表記	単位数	主催団体	窓口教員名
日本漢字能力検定 1 級	漢字検定:1 級	1	日本漢字能力検定協会	五十嵐譲介 加藤達彦
日本漢字能力検定 準 1 級	漢字検定:準 1 級	1		
日本漢字能力検定 2 級	漢字検定:2 級	1		
実用英語技能検定 1 級	実用英検:1 級	2	日本英語検定協会	岩崎洋一
実用英語技能検定 準 1 級	実用英検:準 1 級	2		
実用英語技能検定 2 級	実用英検:2 級	2		
実用英語技能検定 準 2 級	実用英検:準 2 級	1		
工業英語能力検定 1 級	工業英検:1 級	2	日本工業英語協会	荒木英彦
工業英語能力検定 2 級	工業英検:2 級	2		
工業英語能力検定 3 級	工業英検:3 級	2		
工業英語能力検定 4 級	工業英検:4 級	1		
TOEIC 730 点以上	TOEIC:上級	4	(財)国際ビジネスコミュニケーション協会	小澤健志
TOEIC 470 点以上	TOEIC:中級	1		
TOEIC 400 点以上	TOEIC:初級	1		
ドイツ語基礎統一試験(ZD)	国際ドイツ語検定:B1	2	ゲーテ・インスティテュート	柴田育子
スタート・ドイツ語 II(SD2)	国際ドイツ語検定:A2	1		
スタート・ドイツ語 I(SD1)	国際ドイツ語検定:A1	1		
ドイツ語技能検定 2 級	ドイツ語検定:2 級	2	(財)ドイツ語文学振興会	
ドイツ語技能検定 3 級	ドイツ語検定:3 級	1		
ドイツ語技能検定 4 級	ドイツ語検定:4 級	1		
技術士補	技術士補	4	(社)日本技術士会	福地健一
技術イベント活動	技術イベント活動:ロボコン	1		坂元周作
技術イベント活動	技術イベント活動:プロコン	1		白木厚司
ボランティア活動	ボランティア活動:社会福祉	1		加藤達彦 岡本保 湯谷賢太郎
ボランティア活動	ボランティア活動:地域支援	1		加藤達彦 岡本保 湯谷賢太郎
国際交流	国際交流:外国人留学生支援	1		関口昌由

出典 平成 25 年度シラバス 一般科目 71 頁)

学外実習に関する資料

1-13 学外実習

本校では、専門教育の比重が大きくなる第4学年の夏季休業中に、企業での実習体験に参加するように指導しています。

企業での実習を通して、学校での授業では得られない実務の場を体験し、第5学年において進路を決定する際の参考にすることを期待しているからです。

また、この実習の評点が60点以上の場合、単位が修得できます。実習の時期は夏季休業中の2週間程度です。

実習先等の詳細については、学級担任と相談してください。

評価方法

第4学年の学生に適用される学外実習についての評価方法は、次のとおりです。

- (1) 所属学科の授業内容に合致する実習を通算60時間(2単位の場合)以上行った者について単位の認定を行う。
- (2) 単位の認定を希望する学生は、担当教員に報告書と学外実習証明書を提出する。
- (3) 報告書には少なくとも次の事項が記載してあること。
 - ① 実習の目的
 - ② 実習の内容
 - ③ 実習の成果
 - ④ 考察
- (4) 担当教員は、提出された報告書等に基づいた成績の評価を行い、各学科の主任を経由して校長に報告する。

(出典 平成24年度学生便覧 25～26頁)

学外実習のシラバス

授 業 科 目			
学外実習			
開設学科学系	電子制御工学科	区分・単位数	選択・2単位
受講年科・学期	電子制御工学科4年・前期	授 業 形 態	実習
キ ー ワ ー ド	企業実習		
関 連 科 目	4年前期までに学んだすべての科目		
担 当 教 員	臼井 邦人		
連絡先(オフィス・アワー)	usui@d.kisarazu.ac.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プログラム目標	(D-1)		
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
・ 実習内容を理解し、これまで学んだ専門知識を活用し、報告書をまとめる能力を身につける。		報告書 (80%) で評価する。	
・ 実習成果について、発表・討論する能力を身につける。		実習体験報告会 (20%) で評価する。	
履 修 上 の 注 意	企業での実習を通して、学校の授業では得られない実践的な感覚、心構えを身につけ、第5学年における進路を決定する際の判断の参考にすることを目的とする。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ 企業実習	<ul style="list-style-type: none"> 7月中旬～8月末を基本として、2～3週間程度、企業において、学科の授業内容に合致する実習を行う。 <p>(実習先は担任と相談のうえ決定する。60時間の学外実習に対し、2単位を認める。ただし、実習時間の確保が困難な場合には、30時間の学外実習に対し、1単位を認める。)</p>		60
・ 実習体験報告会	<ul style="list-style-type: none"> 9月中旬に学内にて実習体験報告会を実施する。 		
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			60
成績の算出方法	企業からの実習証明書、学生から提出された報告書を80%、報告会での発表内容を20%として評価する。		

(出典 平成 25 年度シラバス 電子制御工学科編 40 頁)

資料5-1-②-8

学外実習（インターンシップ）実施状況

平成24年度 第4学年「学外実習」実施状況

学科	在籍者数	参加状況			実習受入先			備 考
		参 加	不 参 加	うち既修得	企 業	官 公 庁 等	大 学 等	
M	45 (休1)	43	1	1	44社	0法人	5大学	2つ受講 12人 (2会社受講 9人 会社&大学受講 2人 2大学受講 1人)
					40人	0人	5人	
E	45	36	9	5	21社	4法人	2大学	2つ受講 6人 (2会社受講 3人 会社&法人受講 1人 会社&大学受講 2人)
					31人	5人	6人	
D	40	33	6	2	26社	3法人	2大学	2つ受講 5人 (2会社受講 3人 会社&県庁受講 1人 会社&独行受講 1人)
					28人	2人	3人	
J	41	39	2	1	36社	3法人	2大学	2つ受講 12人 (2会社受講 10人 会社&大学受講 2人)
					36人	3人	3人	
C	42 (休2)	40	2	2	15社 *事業所別にす ると18箇所	9法人	0大学	2つ受講 1人 (1会社2事業所受講 1 人)
					23人	17人	0人	
計	213	191	20	11	127社	15法人	5大学	
					159人	27人	17人	

学科	在籍者数	参加状況			実習受入先			備 考
		参 加	不 参 加	既 修 得	企 業	官 公 庁 等	大 学 等	
5J		5			4社		1大学	チームラボ・日本空港テ クノ・コックス・千葉オイ レッシュ株式会社・豊橋技 科大
					4人		1人	
5C		2			1社	1法人		千葉県環境生活部自然保護課 生物多様性センター1人 山岡コンクリート工業有限会 社1人
					1人	1人		

(出典 学生課資料)

本校の国際交流ウェブページ（一部）

国際交流@木更津高専

Search this site

学生派遣事業

▼ 実施済み

Engineering Training Program in 2012
日台シンポジウム 2012

▼ 公募(外部機関主催)

ISTS2013
テマセク技術英語研修

▼ 募集中(本校主催)

Engineering Training Program in 2013
中国語研修(国立台湾師範大学)
台湾インターンシップ(2013年8月)
台湾短期研修(2014年3月)

▼ 募集終了

IWIP2013
シンガポールNYPインターンシップ2013

Sitemap

Recent site activity

[募集中\(本校主催\) >](#)

台湾インターンシップ(2013年8月)

平成25年8月18日出発、31日帰国
研修期間:8月19日~30日(実質10日間)
場所:国立聯合大学(台湾、苗栗市)
内容:工学系研究室にて研究補助作業

コメント

コメントを追加する権限がありません。

ドイツ文化センターのウェブページ (一部)


Mein goethe.de | お問い合わせ | ドイツ文化センター | RSS | パートナー/リンク集 | モバイル | スポンサー

検索

JAPAN

トップページ
文化芸術
ドイツ語を学ぶ
ドイツ語を教える
ネットワーク

トップページ > ドイツ語を教える > PASCH 新しい国際交流のあり方 > 日本のパートナー校 > 国立木更津工業高等専門学校

国立木更津工業高等専門学校

- ドイツ語教員研修
- ドイツ語教師養成コース
- 教材
- ドイツ語を広めよう
- 奨学金制度
- 授業例/プロジェクト
- Hallo Deutschland
- 国際ドイツ語オリンピック
- PASCH 新しい国際交流のあり方
- 窓口
- 日本のパートナー校
 - ▶ 国立木更津工業高等専門学校
 - 獨協中学校・獨協高等学校
 - 早稲田大学高等学院
 - 都立北園高等学校
 - プロジェクト2013
 - プロジェクト2012
 - プロジェクト2011
 - プロジェクト2010
 - プロジェクト2009

木更津高専 概要

プロフィール: 木更津工業高等専門学校



木更津高専 (www.kisarazu.ac.jp) は1967年(昭和42年)に設立された工業専門学校です。機械工学科・電気電子工学科・電子制御工学科・情報工学科・環境都市工学科の5つの学科で5年間の実践教育により、世界に通用する技術を学びます。ドイツ語は3年生で必修、4・5年生では選択科目です。現在、約300名の木更津高専生がドイツ語を学んでいます。その他、英語はもちろんのこと中国語もカリキュラムに組み込まれています。

日本で最初のPASCHパートナー校!



PASCHパートナー校として協定を結んで以来、ゲーテ・インスティテュートのサポートでドイツ語の授業の改革が行われています。その一例として「START DEUTSCH I」の試験が実施され、クラスで学んだドイツ語を試してみる機会が提供されました。3ヶ月の猛特訓の結果27名が合格、6月30日にはゲーテ・インスティテュートの合格証書が手渡されました。合格者の中には、500個にも及ぶ単語帳で試験に挑み、好成績を残した学生もいたかなりの熱の入れようでした。

成績優秀の12名は8～9月にかけてユーゲントクルス(若者向けの短期留学)に参加します。世界中のPASCHパートナー校の奨学生やドイツ人の高校生と一緒に生きたドイツ語を通して交流する機会が得られます。また10月にはアジア4カ国のPASCHパートナー校の奨学生を対象にタイでドイツ語キャンプが行われ、木更津高専からは10名の参加者が予定されています。

< コンテスト >

- * 土木系学生によるコンクリートカヌー大会3連覇 (2001、2002、2003)
- * 第19回高専プログラミングコンテスト競技部門優勝(文部科学大臣賞) (2008)

Mein goethe.de | お問い合わせ | ドイツ文化センター | RSS | パートナー/リンク集 | モバイル | スポンサー

© 2013 Goethe-Institut

(出典 <http://www.goethe.de/ins/jp/lp/lhr/isp/psj/tfk/jaindex.htm>)

- 234 -

機械工学概論のシラバス

授 業 科 目		機械工学概論	
設 学 科 学 系	機械工学科	区 分 ・ 単 位 数	必修・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	機械工学科1年・前期	授 業 形 態	講義と体験学習
キ ー ワ ー ド	流体力学, 機械力学, 熱力学, 材料力学, 自動制御, 計測工学, 材料学, 機械工作法		
関 連 科 目	全機械工学科専門科目		
担 当 教 員	高橋秀雄, 丸岡邦明, 石出忠輝, 内田洋彰, 小田功, 板垣貴喜, 黄野銀介, 伊藤裕一, 歸山智治, 小川登志男		
連絡先(オフィスアワー)	伊藤裕一: itoh@m.kisarazu.ac.jp (事前に時間調整を行った上で質問に応じる)		
教 科 書	日本機械学会 編, 先端事例から学ぶ機械工学		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標			
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
・ 機械工学が社会に対してどのように貢献しているかを理解する		レポートの内容と提出状況(20%), 出席状況(25%), 授業中の学習態度(5%)で評価	
・ 日々の学習に対する目標を自分で設定し, 専門科目の履修をする意義と目的を認識できる能力をつける.		レポートの内容と提出状況(20%), 出席状況(25%), 授業中の学習態度(5%)で評価	
履 修 上 の 注 意	科学技術関連の専門雑誌やテレビ番組などの情報に関心を持ち, 自らその情報に触れるよう努めることが大切である.		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時 間 数
・ 学科紹介と授業の概要	・ 機械工学科の紹介と, 機械工学科の志望動機などのアンケート調査を行う. また本授業の進め方を説明する.		2
・ 自転車の分解とその構造	・ 自転車の分解, スケッチ, 調査考察, 実験, 説明の一貫した体験学習を行う.		4
・ ロボット技術の現状と夢	・ 現状のロボット技術とその技術が望まれる産行技術分野について概説する.		2
・ ヒューマンインターフェース	・ 機械とそれを操作する人間との相互作用について学ぶ.		1
・ 機械と製図	・ 機械工学の言葉として JIS 規格等の重要性を理解し, 図面で示すと正確に情報を伝えられることを学ぶ.		2
・ 前年度卒業生進路状況	・ 前年度5年生の進路状況を前年度5年生担任が説明する.		1
・ 機械だけではダメなんです	・ 現在の精密機械を豊富な実例を交えて紹介する.		1
・ 流れについて	・ 自動車や高層ビルのまわりの流れを例に挙げながら, 流体力学の概要をわかりやすく説明する.		1
・ ものづくりと機械工作 (除去加工)	・ 除去加工の原理と応用している機械の種類および工業製品に関するものづくりを学ぶ.		1
・ コンピュータを用いた流れのシミュレーション	・ 航空機, 鉄道, 自動車, 船舶まわりの流れを, コンピュータを用いた可視化画像によりわかりやすく解説する.		1
・ 熱エネルギーと環境	・ 熱エネルギーと環境の関連性を学習しながら熱力学の概要を学ぶ.		2
・ 5年生からのアドバイス	・ これからの高専生活におけるアドバイスを5年生が講演する.		1
・ 機械と動力	・ エネルギー交換と原動機, 熱機関の概要について学ぶ.		2
・ 鉄の世界	・ 機械構造材料として欠かすことのできない鉄や鋼について, ビデオを見ながら学習する.		2
・ 材料と材料力学	・ ものを製作する際の材料選択の必要性和形を決めるときの計算について説明する.		1
・ 各教員とのコンタクト	・ 少人数で実験室に訪問し, 実験装置を見学する(時間数変更の可能性もあり).		6
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	レポートの内容と提出状況を40%, 出席状況を50%, 授業中の学習態度を10%として総合的に評価する		

(出典 平成 25 年度シラバス 機械工学科編 8 頁)

(分析結果とその根拠理由)

学生の多様化するニーズに合わせて、他の教育機関の授業を受講することを認めている。その結果、この仕組みを利用して単位を取得した学生が存在する。英検等の外部試験や台湾・ドイツを中心とする国際交流も学生の学習意欲を向上させている。また、学校の授業では得られない実務経験を得る機会として4年次にインターンシップを選択科目として設け、積極的に参加するように指導している。その結果、多くの学生がこの機会を生かして、企業での実務を体験している。さらに、一部の科目では次世代の技術革新の方向性等を授業内容に取り入れ、学生の学習意欲を高めるための工夫がなされている。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

(観点到に係る状況)

資料5-1-①-8～12に示したように、各学科とも教育の目的達成を考慮した授業配置をとり、その授業形態は講義、演習、実験・実習に分類できる。

学習・教育目標にある専門分野の修得のためには、専門科目の講義はもちろん、実験・実習を通じ、工学的現象・問題を解析・解決する力を育成する必要がある。このため、各学科とも1～4学年には実験・実習の科目を、5学年には卒業研究を必修科目として配置している(資料5-1-①-2～6)。その他、演習系の授業を高学年に多く配置し、講義で身につけた知識を確かなものとする配慮がなされている。一例として、電気電子工学科第4学年の「電気数学演習 B」(資料5-2-①-1)では、電磁気学の講義で扱われた内容を、数学を用いた問題演習によって定着させることが企図されるなど、講義と演習のバランスが適切になるように配慮されている。

教育内容に応じた学習指導法の工夫として、多くの科目で情報機器の活用や、対話・参加型の授業が実施されている。例として、情報工学科第5学年の「信号処理工学」(資料5-2-①-2)では、マイコンを活用して情報のやり取りや処理手法を体得させているほか、環境都市工学科第2・3学年の「測量実習」(資料5-2-①-3)では、4～5人の少人数での対話・実務型実習が行われている。

電気数学演習 B のシラバス

授 業 科 目	電気数学演習B		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区分・単位数	必修選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科 4年・後期	授業形態	講義・演習
キ ー ワ ー ド	解析学, ベクトル解析, 線形代数, フーリエ級数		
関 連 科 目	電気回路, 電気磁気学		
担 当 教 員	大澤 寛		
連 絡 先 (オ フ ィ ス ・ ア ー)	ohsawa@e.kisarazu.ac.jp (事前に連絡のうえ)		
教 科 書	教員作成の資料を使用		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書	「微分方程式で数学モデルを作ろう」 垣田 訳, 日本評論社, 2008年, ¥3500 「電気数学」 吉田他, 実教出版, 2008年, ¥2600 「ゼロから学ぶ線形代数」 小島, 講談社, 2008年, ¥2500 「物理数学の直感的方法」 長沼, 通商産業研究社, 1997年, ¥1600 「大学編入試験問題 数学/徹底演習」 林他, 森北出版, 2008年, ¥2600 「詳解電気磁気学演習」 後藤他, 共立出版, 2004年, ¥2600 「フーリエの冒険」 ヒップファミリークラブ, 1988年, ¥3500		
プ ロ グ ラ ム 目 標	(B-1)		
達 成 目 標 (合 格 点)	各達成目標の評価方法 (評価の割合/重み)		
<ul style="list-style-type: none"> 1階微分方程式を立て, 概形を描くことができる 2階微分方程式を立て, 概形を描くことができる フーリエ級数の概念を理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 中間試験 70×1/3 [%], レポート 30×1/3 [%] 中間試験 70×1/3 [%], レポート 30×1/3 [%] 定期試験 70×1/3 [%], レポート 30×1/3 [%] 		
<ul style="list-style-type: none"> ラプラス変換が使える ベクトル解析の概念を理解できる 線形代数の概念を理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 70×1/3 [%], レポート 30×1/3 [%] 定期試験 70×1/3 [%], レポート 30×1/3 [%] 定期試験 70×1/3 [%], レポート 30×1/3 [%] 		
履 修 上 の 注 意	電気工学で使用する数学をなるべく身近なテーマに応用するので, 考え方を良く理解するようにしてほしい。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等	時 間 数	
<ul style="list-style-type: none"> 微分方程式 1 微分方程式 2 意味を考えて積分する 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な現象から 1階微分方程式を立てて解析する。 身近な現象から 2階微分方程式を立てて解析する 電磁気学の積分問題を例に意味を考えて積分式を立てる 	6 4 4	
後期中間試験	後期中間試験以前の学習内容	2	
<ul style="list-style-type: none"> フーリエ級数から複素フーリエ級数へ 複素フーリエ級数からフーリエ変換 ラプラス変換 行列式とクラメル公式 ベクトル解析 (divとrotの意味) 演習 	<ul style="list-style-type: none"> 波形とスペクトルの関係を中心に 波形とスペクトルの関係を中心に ラプラス変換の基礎 行列式とクラメル公式 (実例を交えて) divとrotの意味を中心に電磁気学の基本問題を解く 	2 2 4 4 2	
後期定期試験	後期中間試験以降の学習内容	-	
合計授業時間数 (前期および後期の定期試験は除く)		30	
成績の算出方法	レポート 30%, 試験の成績 70% 授業態度が悪い場合は, 申し渡しの上減点する。 1/3以上の欠席をした場合は試験の受験を認めない。		

(出典 平成 25 年度シラバス 電気電子工学科編 39 頁)

信号処理工学のシラバス

授 業 科 目		信号処理工学	
開 設 学 科 学 系	情報工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択・2単位
開 設 学 年 ・ 学 期	情報工学科5年・通年	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	デジタルフィルタ, サンプリグ定理, 離散フーリエ変換, 周波数応答		
関 連 科 目	応用数学 A, 制御工学		
担 当 教 員	渡邊 孝一		
連絡先(オフィスアワー)	watanabe@j.kisarazu.ac.jp (事前にメール等による調整の上で質問に応ずる)		
教 科 書	小畑秀文/浜田望/田村安孝 著『計測・制御テクノロジーシリーズ 15) 信号処理入門』コロナ社, 2007年, 3,570円(税込)		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書	酒井幸市 著『高専学生のためのデジタル信号処理』コロナ社, 1996年, 図書分類記号 547.1		
プログラム目標	(B-2)		
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
・ インパルス応答とたたみこみ, AD・DA変換とフーリエ変換などを理解することができる。		前期中間試験(20%)およびレポート(5%)で評価する。	
・ 高速フーリエ変換やシステム表現のためのラプラス・Z変換, フィルタ等を理解することができる。		前期定期試験(20%)およびレポート(5%)で評価する。	
・ H8マイコンを利用した信号処理手順を理解できる。		後期中間試験(20%)およびレポート(5%)で評価する。	
・ H8マイコンを利用した実機音声処理を施す事ができる。		後期定期試験(20%)およびレポート(5%)で評価する。	
履 修 上 の 注 意	前半の座学における基礎概念は要点を的確に押さえ, 後半の実機演習課題において活用できるように, 常に実用を見据えた学習を心がけること。		
授 業 計 画			
項 目	内 容		時間数
・ ガイダンス	・ ガイダンスと信号処理に関する現状の紹介		2
・ 連続時間信号と離散時間信号	・ デジタル信号処理の基礎概念, アナログ・デジタル変換		2
・ 信号によるシステム解析	・ インパルス応答とたたみこみ		6
・ 連続信号の周波数領域表現	・ 複素フーリエ級数展開, 連続・離散フーリエ変換		2
前期中間試験	前期中間試験までの学習内容		2
・ 高速フーリエ変換	・ 高速フーリエ変換, バタフライ演算		2
・ ラプラス変換	・ 信号処理システム表現手法としてのラプラス変換		2
・ Z変換	・ 離散システムの表現方法としてのZ変換		2
・ フィルタ	・ アナログフィルタとデジタルフィルタの構築方法		4
・ ロボットセンサと信号処理	・ ロボットにおける信号処理の適用例		2
・ 相関関数	・ 信号の周期性や類似度を知るための相互・自己相関		2
前期定期試験	前期定期試験までの学習内容		—
・ H8による信号処理実機演習	・ マイコンでのコンパイル・リンクの手法の理解		2
	・ 入出力ポートの扱い		2
	・ AD・DA変換の実機実装とマイクスピーカの扱い		2
	・ タイマー割り込みの実機実装		4
	・ DFT・FFTのC言語による実装		4
後期中間試験	後期中間試験までの学習内容		2
・ H8による音声信号処理実機演習	・ シリアル通信によるH8からの信号の送受信		6
	・ 音声信号の信号処理と再生実習		8
後期定期試験	科目全体の学習内容		—
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			60
成績の算出方法	前・後期とも, 中間試験および定期試験を実施し, 試験成績(4回の試験の平均点)を80%, 課題(レポート)の成績を20%として評価する。		

(出典 平成 25 年度シラバス 情報工学科編 50 頁)

測量実習のシラバス

授 業 科 目		測量実習	
開設学科学系	環境都市工学科	区分・単位数	必修・2単位
受講年科・学期	環境都市工学科2年・通年	授 業 形 態	実習
キーワード	代数学, 幾何学, 解析学, 統計学, 誤差論		
関 連 科 目	基礎数学, 基礎科学, 測量学		
担 当 教 員	島崎彦人		
連絡先(オフィス・アワー)	shimazaki@c.kisarazu.ac.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	指定しない(実習に必要な資料を適宜配布する)。		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書	大木正喜(著)『測量学』森北出版, 2003年, 2730円(税込) 川吉春ほか(著)『よくわかる測量実習(増補)』コロナ社, 2009年, 2800円+税 吉澤孝和(著)『図解 測量学要論』日本測量協会, 2005年, 7800円(税込)		
プログラム目標			
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
・ 距離測量について理解し, 器具を使って測量できる.		距離測量のレポート(5%)で評価する.	
・ 水準測量について理解し, 器具を使って測量できる.		往復水準測量のレポート(5%)および閉合水準測量のレポート(5%)で評価する.	
・ 縦横断測量について理解し, 器具を使って測量できる.		縦横断測量のレポート(10%)で評価する.	
・ 角測量について理解し, 器具を使って測量できる.		内角観測のレポート(5%)で評価する.	
・ トラバース測量について理解し, 器具を使って測量できる.		トラバース測量のレポート(10%)で評価する.	
・ 基線長の測定方法について理解し, 器具を使って測量できる.		基線長測定のレポート(5%)で評価する.	
・ 平板測量について理解し, 器具を使って測量できる.		平板測量のレポート(5%)で評価する.	
履 修 上 の 注 意	測量実習に取り組む際には, 実習の目的, 使用器材の名称, 測量手順, 測定値の計算処理方法などの項目を測量実習ノートにまとめ, 指導担当者に提出すること。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ 距離測量	・ 平坦地の距離測量を巻尺よりも長い2点間で実施する.		4
・ 水準測量の基礎	・ 水準測量で用いる機材(レベル, 標尺など)の使い方と野帳の記入方法(昇降式, 器高式)を理解する.		4
・ 往復水準測量	・ 2点間の高低差を往復測定し, 正しい標高を求める.		6
・ 閉合水準測量	・ 閉合路線の高低差を測定し, 閉合差を調整して地盤高を決定する.		8
・ 縦横断測量	・ 基礎的な路線測量を行い, 縦断面図および横断面図を作成する.		8
・ 角測量の基礎	・ 角測量で用いる機材(セオドライトなど)の据付け方と使い方を習得するとともに, 野帳の記入方法を理解する.		4
・ 内角観測	・ 水平角を単測法, 倍角法および方向法で測定する.		6
・ トラバース測量	・ 閉合トラバースの測角と測距を行い, 調整計算の方法を理解する.		10
・ 基線長測定	・ 鋼巻尺を用いた距離の精密測定方法を理解する.		6
・ 平板測量の基礎	・ 平板測量で用いる機材(平板測器, アリダードなど)の使い方と作図方法(放射法, 導線法)を理解する.		4
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			60
成績の算出方法	実習ノートの提出状況ならびに実習への取り組み姿勢から算出される態度点(50%)と実習レポートの評価点(50%)を合計(100%)して評価する。		

(出典 平成 25 年度シラバス 環境都市工学科編 16 頁)

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的を達成するために講義，演習，実験・実習が適切に組み合わせられており，授業形態のバランスは適切なものとなっている。また，多くの科目で情報機器の活用や対話・参加型の授業が実施され，教育内容に応じた学習指導法が工夫されている。

観点 5-2-②：教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

(観点到に係る状況)

非常勤講師を含めた全教員が，「授業担当者の手引きー平成 25 年度版ー」（資料 5-2-②-1）に基づき，学習内容・達成目標・評価方法を含め，教育課程の趣旨に沿った適切なシラバス（資料 5-2-②-2）を作成している。

準学士課程学生を対象としたアンケートの結果（資料 5-2-②-3）から，7割近い学生が授業内容や評価方法を確認するためにシラバスを活用していることがわかる。また，教員を対象としたアンケートの結果（資料 5-2-②-4）から，ほとんどの教員が授業や成績評価をシラバスに沿って行っていることがわかる。

45 時間を 1 単位とする科目については，教育課程表（資料 5-2-②-5）に履修時間が授業時間以外を含めて 45 時間であることを明示した上，シラバス（資料 5-2-②-6）に具体的な自学自習の方法を指示し，その実質化を図っている。

「授業担当者の手引きー平成25年度版ー」 (表紙)

授業担当者の手引 ー平成25年度版ー

1. 当手引は以下の項目から構成されておりますが、必要に応じ「追加情報」等が出されることもありますので、その時には当手引に付加しておいてください。
 - I 授業をご担当されるにあたり……………1ページ
 - II シラバスの意義……………1-3ページ
 - III 平成25年度版シラバスの作成方法……………3-6ページ
 - IV 中間試験および定期試験の実施……………7-8ページ
 - V 「学生による授業評価アンケート」の実施……………8-9ページ
 - VI 「授業実施記録」等の作成(試験問題等の保存)……………9ページ
 - 資料1「授業実施記録」等作成一式……………10-16ページ
 - 資料2「特別学修」について……………17-18ページ
 - 資料3 木更津工業高等専門学校学業成績審査規程……………19-20ページ
2. 「授業実施記録」等の作成および試験問題等の保存につきましては、添付ファイルとしてメールにより配付を行った「授業実施記録」等作成一式ー平成25年度版ーにより、詳細のご確認をお願いします。
3. 非常勤講師の先生方への詳細説明および諸ファイルの配付等は、各学科学系の非常勤講師担当の専任教員より行ってください。
4. 非常勤講師の先生におかれましては、疑問点等が生じた場合には、各学科学系の非常勤講師担当の専任教員から指示を受けてください。

木更津工業高等専門学校

教務委員会
ファカルティ・ディベロップメント推進委員会
点検・評価委員会

「授業担当者の手引き—平成25年度版—」 (一部)

評価方法として、評価の割合(「定期試験80%、レポート20%」等)を必ず示してください。

・成績の算出方法

成績の算出方法については、準学士課程と専攻科等の間で下表に示すような若干の違いがありますので、ご注意ください。なお、詳細については「学業成績審査規程」等でご確認願います。

成績の算出方法	
共通事項	(1) 授業時間数の3分の1以上を欠席した者の単位は、原則として、不認定となります。 (2) 中間において成績を報告する場合でも、当該試験の点数のみならず「この段階において成績を出すならば」という計算に基づいた数字を報告することが望まれます。 <u>なお、通年科目の前期末においては、前期を通じた評価を行ってください。</u>
準学士課程 1～3年	「総合的な評価方法」で構いません。
準学士課程 4・5年 専攻科	「総合的な評価方法」で構いませんが、「出席状況」や「受講状況」は評価に加算しないでください(減算は可とします)。

- (7) 作成したシラバスは、全教員に別途配布される平成25年度シラバス-03-Web公開用ファイル名一覧.xls内に記載されているファイル名に変更した上、各授業担当者において保存すると共に、次項で示された提出先に送付してください。
- (8) 各学科学系において、以下の分担によりシラバスの記載事項の確認を行い、必要に応じ、作成者に修正を求めてください。
教 務 委 員：準学士課程1～3年対象の科目(ただし対象学年に関わらず「特別学修」等を含む)
JABEE認定推進委員：準学士課程4年以上の「生産システム工学」教育プログラムに関わる科目
- (9) 完成したシラバスは、教務委員およびJABEE認定推進委員が取り纏め、1月末日までに担当の教務主事補にファイルを送付してください。

シラバスの例

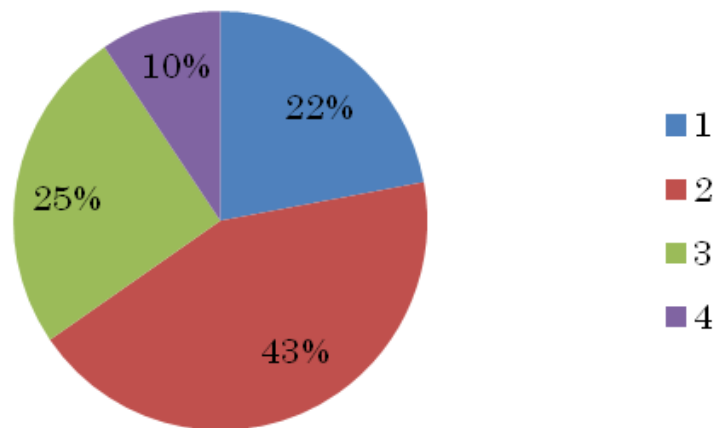
授 業 科 目		応用数学A	
開設学科学系	基礎学系	区分・単位数	必修・1単位
受講年科・学期	情報工学科4年・前期	授 業 形 態	講義
キーワード	ラプラス変換、逆ラプラス変換、フーリエ級数、フーリエ変換、常微分方程式、偏微分方程式、たたみこみ、線形システム、デルタ関数、スペクトル、サンプリング定理		
関連科目	解析Ⅰ、解析Ⅱ		
担当教員	田所 勇樹		
連絡先(オフィス・アワー)	tado@nebula.n.kisarazu.ac.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教科書	斎藤・高遠ほか著『新訂応用数学』大日本図書、2005年、1800円(+税)		
補助教科書等	斎藤・高遠ほか著『新訂応用数学問題集』大日本図書、2006年、819円(+税)		
参考図書	E. Kreyszig, "Advanced Engineering Mathematics, 8 th ed.," 1999, John Wiley & Sons, Inc. (図書分類番号: 501.1)		
プログラム目標	(B-1)		
達成目標 (合格点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・関数のラプラス変換を計算することができ、逆ラプラス変換を用いて常微分方程式が解ける。		前期中間試験(40%)および課題(10%)で評価する。	
・周期関数のフーリエ級数や関数のフーリエ変換を計算することができる。		前期定期試験(40%)および課題(10%)で評価する。	
履修上の注意	解析Ⅰで学習した1変数関数の微積分の知識を前提とする。特に、部分積分法を中心とした積分の計算への習熟が欠かせない。必要に応じて、解析Ⅰの内容を復習してほしい。不明な点がないよう各自しっかり復習し、わからなければ随時質問に訪れること。		
学修単位科目の自学自習について	B	授業90分に対して教科書でそれぞれ45分以上の予習、復習を行うこと。	
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ラプラス変換の定義	・関数のラプラス変換の定義式による計算について学ぶ。		2
・ラプラス変換の基本的性質	・ラプラス変換を応用する上で重要な性質(相似性、像関数の移動法則)を学ぶ。		4
・逆ラプラス変換	・部分分数分解や平方完成を駆使して、逆ラプラス変換の計算方法について学ぶ。		2
・常微分方程式への応用	・ラプラス変換により常微分方程式の解法を代数方程式の解法に帰着させる方法について学ぶ。		2
・たたみこみ	・たたみこみとたたみこみのラプラス変換について学ぶ。		2
・線形システムの伝達関数とデルタ関数	・線形システムの伝達関数やデルタ関数について学ぶ。		2
前期中間試験	・前期中間試験までの学習内容		2
・周期 2π の関数のフーリエ級数	・周期 2π の関数のフーリエ級数について学ぶ。		2
・一般の周期関数のフーリエ級数	・一般の周期関数のフーリエ級数と複素フーリエ級数について学ぶ。		2
・フーリエ級数の偏微分方程式への応用	・フーリエ級数を用いた偏微分方程式の解法について学ぶ。		2
・フーリエ変換と積分定理	・関数のフーリエ変換とフーリエの積分定理について学ぶ。		2
・フーリエ変換の性質と公式	・フーリエ変換の性質やたたみこみの公式を用いてフーリエ変換の計算方法について学ぶ。		2
・フーリエ変換の偏微分方程式への応用	・フーリエ変換を用いた偏微分方程式の解法について学ぶ。		2
・スペクトルとサンプリング定理	・関数のスペクトルの計算方法とサンプリング定理について学ぶ。		2
前期定期試験	・前期中間試験以降の学習内容		—
合計授業時間数(前期定期試験は除く)			30
成績の算出方法	中間試験および定期試験を実施し、試験成績(2回の試験の平均点)を80%、課題(レポート)を20%として評価する。		

(出典 平成 25 年度シラバス情報工学科 24 頁)

資料5-2-②-3

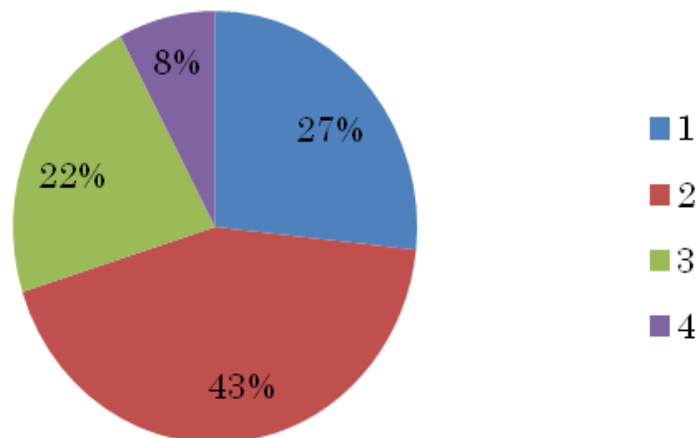
シラバスの活用状況に関するアンケート結果（準学士課程）

6. シラバスを使って授業内容を確認
していますか.



1: よく確認する, 2: たまに確認する, 3: あまり確認しない, 4: 確認したことがない

7. 授業の評価方法をシラバスで確認
していますか.



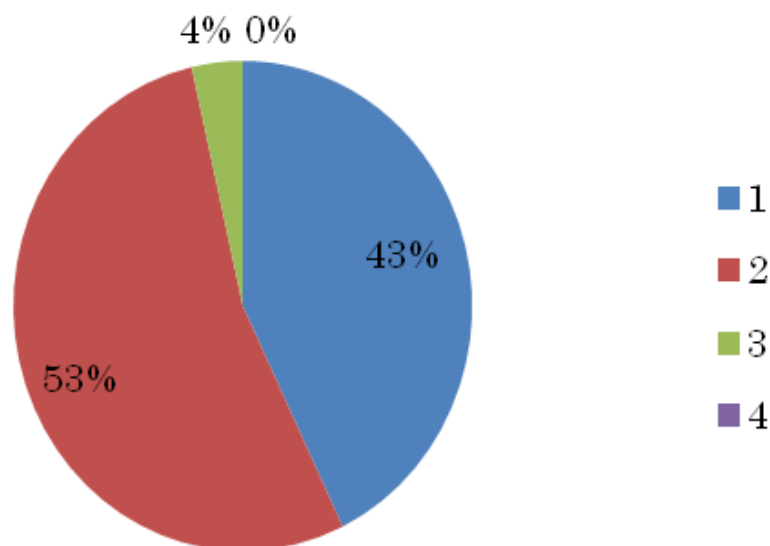
1: よく確認する, 2: たまに確認する, 3: あまり確認しない, 4: 確認したことがない

(回答総数 944)

(出典 点検・評価委員会資料)

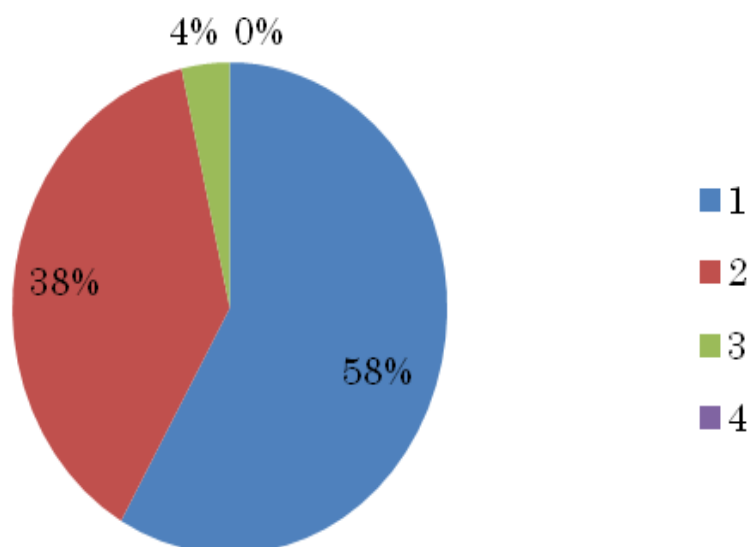
シラバスの活用状況に関するアンケート結果（教員）

12. シラバスに沿って計画的に授業を行っていますか.



1: 計画どおり行っている, 2: だいたい計画通り行っている
3: あまり計画通り行っていない, 4: 全くシラバスどおり行っていない

13. 授業計画, 成績評価方法等について, シラバスの記載に沿って授業を行っていますか.



1: シラバスに沿っている, 2: だいたいシラバスに沿っている
3: あまり沿っていない, 4: まったく沿っていない

(回答総数 84)

(出典 点検・評価委員会資料)

45 時間を 1 単位とする科目の教育課程表における表示例

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										備考
			1年		2年		3年		4年		5年		
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
必修 選択科目	環境コース 水域システム工学	1							1				B
	水環境工学Ⅱ	1								1*			[注2] B
	環境管理手法	1									1		B
	環境工学実験	2								2*			
	都市コース 防災工学	1							1				B
	橋構造	1								1*			B
	耐震構造	1									1		B
	構造工学実験	2								2*			
	開設単位計	10	0	0	0	0	0	2	8				学修単位数 6
	選択科目	廃棄物管理	1						1				
水域シミュレーション工学		1								1			
プレストレストコンクリート工学		1								1			
地球環境科学		1								1			
都市デザイン		1									1		
測量リモートセンシング		1									1		
環境保全工学演習		1								1			
地盤設計製図		1								1			
学外実習		2						2					
開設単位計		10	0	0	0	0	0	3	7				
特別学修	一般および専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大 10 単位まで有効										[注3]		
本校以外の教育施設における学修											[注4]		
開設単位合計	96	4	10	16	35	31				特別学修および本校以外の教育施設における学修は含まない			

注1: A (1単位: 15時間+自学自習 30時間) 1履修単位→1.5学修単位

B (1単位: 22.5時間+自学自習 22.5時間) 1履修単位→1学修単位

注2: ※印の科目は、同時開講科目。

注3: 特別学修の内容は、別に定める。

注4: 本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

(出典 平成 25 年度シラバス 環境都市工学科編 6 頁)

45 時間を 1 単位とする科目のシラバスの例

授 業 科 目			
防災工学			
開設学科学系	環境都市工学科	区分・単位数	必選・1単位
受講年科・学期	環境都市工学科4年・後期	授業形態	講義
キーワード	自然災害, 環境災害, 防災, 減災, 地形図		
関連科目			
担当教員	島崎彦人		
連絡先(オフィス・アワー)	shimazaki@c.kisarazu.ac.jp (事前にメール等で調整を行った上で質問に応じる)		
教科書			
補助教科書等	石井一郎『防災工学 (第2版)』, 森北出版, 2005年. 2500円+税		
参考図書	水谷武司『自然災害と防災の科学』, 東京大学出版会, 2002年. 図書分類記号 519.9		
プログラム目標	(B-2)		
達成目標 (合格点)		各達成目標の評価方法 (評価の割合/重み)	
・自然災害が発生するしくみを, 素因と誘因の観点から整理して理解できる.		小テスト (25%) と課題レポート (25%) で評価する.	
・地域の自然環境と社会経済の特性を考慮しながら, 適切な災害対策を発想できる.		小テスト (25%) と課題レポート (25%) で評価する.	
履修上の注意	自然災害のしくみを理解し, 適切な防災手段を具体的に発想できるようになるためには, 受け身の姿勢で講義を聴くだけでなく, 常日頃から, 自然災害や防災に関する話題に関心を持ち, 講義中の議論にも積極的に参加することが重要である. なお, 授業の最後に毎回, 小テストを行う. 正当な理由もなく授業に遅刻あるいは欠席した場合には, 小テストの点数を, それぞれ半減あるいは0点とする.		
学修単位科目の自学自習について	B	①授業90分に対して教材等でそれぞれ45分以上の予習, 復習を行うこと. ②1題270分のレポートを5題課すので復習に役立てること.	
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ガイダンス ・自然災害と被害の基礎知識	・本科目の概要, 達成目標 (合格点), 評価方法の説明		2
	・自然災害の連鎖構造と防災手段		2
	・気象災害 (台風, 高波)		2
	・気象災害 (大雨, 河川洪水, 内水氾濫)		2
	・気象災害 (斜面崩壊, 地すべり, 土石流)		4
	・気象災害 (たつ巻, 強風)		2
後期中間試験	・実施しない		
・災害対策 (防災と減災) の基礎知識	・気象災害 (干ばつ, 冷夏, 大雪)		2
	・地震災害		2
	・火山災害		2
	・環境災害		4
	・災害対策の概要		2
・まとめ	・災害危険性評価と被害予測		2
	・総復習と課題レポートの説明		2
後期定期試験	・実施しない		—
合計授業時間数 (前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	毎回の授業時間内に行う小テスト (50%) と授業時間外に取り組む課題レポート (50%) の合計点を100%として評価する.		

(出典 平成 25 年度シラバス環境都市工学科編 46 頁)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスの作成方法が「授業担当者の手引き－平成 25 年度版－」に示され、全教員が教育課程の趣旨に沿った適切なシラバスを作成している。授業内容や評価方法を確認するためにシラバスを活用している学生が7割近く、授業や成績評価をシラバスに沿って行っている教員がほとんど全員に達し、シラバスの活用状況は良好だと考えられる。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

(観点に係る状況)

本校では、学生の創造性を育む教育方法として、3学年の一般特別研究（資料5-2-③-1）、4学年の課題研究（資料5-2-③-2）、5学年の卒業研究のように各学年で開講している（資料5-2-③-3）。また、一般特別研究は、人文・基礎学系教員が示すテーマについて学生が自主的に研究して論文にまとめ（資料5-2-③-4、現地閲覧資料6）、学内で発表する形式をとり、学生の創造性を養う教育方法となっている。課題研究や卒業研究では、学生は各学科の研究室に配属され、研究方法・論文作成・研究発表の指導を受け、新たな知見を得る手法を学ぶ。また、観点5-1-②で述べたように、4学年に選択科目として「学外実習」（インターンシップ）が開設され、会社経験を積むだけでなく、終了後のレポート作成や報告会を通じ、新しく得た知識と経験を整理し他の学生へ伝える機会にもなっている。

一般特別研究のシラバス

授 業 科 目		一般特別研究	
開設学科学系	人文学系および基礎学系	区分・単位数	必修・1単位
受講年科・学期	3年全学科・通年	授 業 形 態	各担当教員による
キ ー ワ ー ド	各講座による		
関 連 科 目	各講座による		
担 当 教 員	下表参照		
連絡先(オフィス・アワー)	講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
教 科 書	講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
補 助 教 科 書 等	講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
参 考 図 書	講座ごとに指定される(講座によっては指定されないこともある)		
プログラム目標			
達 成 目 標		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合/重み)	
・ 研究を進める上で必要な基礎知識を、講義、書籍の講読やオーディオ資料の視聴によって習得することができる。		講座ごとに決定する。	
・ 習得した基礎知識に立脚して、新たな課題を発見することができる。		講座ごとに決定する。	
・ インターネットや実地調査、実験や計算、論理的な演算等を駆使し、発見した課題に対して解答することができる。		講座ごとに決定する。	
・ 得られた結果を、専門外の人間にも分かりやすい形で伝達することができる。		講座ごとに決定する。	
・ 他の学生の発表を聴き、その内容を理解するとともに、積極的に疑問点について質問し、発表者との間でコミュニケーションを取ることができる。		講座ごとに決定する。	
履 修 上 の 注 意	学生諸君が自主的に調査や研究、時には実験や実技に取り組むという積極的な姿勢を持つこと。肝心な点は、この科目は教員と学生が共同して作り上げるということで、何よりも学生個々の意欲を期待したい。		
開 講 予 定 講 座 と 担 当 教 員 の 一 覧			
講 座 名		担 当 教 員	
1. 自分の家は自分で造ろう 大工技術基礎編		五十嵐 譲介	
2. 人生相談 あなたのお悩み解決します!		加藤 達彦	
3. クリティカル・シンキング演習		清水 公男	
4. 日本の諸問題を考える		小澤 健志	
5. CALL体験 一効果的な英語学習方法を探るー		岩崎 洋一	
6. 八田與一と台湾		武長 玄次郎	
7. お騒がせ国家 イスラエル国の研究		平安 隆雄	
8. 体内革命 2013!		篠村 朋樹	
9. 渦巻きを数学する		関口 昌由	
10. 時系列解析で未来は予想できるか?		阿部 孝之	
11. TEXとKETpicによるラーニング・ポートフォリオの作成		山下 哲	
12. 折り紙と幾何学		田所 勇樹	
13. ゲーム理論ようこそ!		鈴木 道治	
14. 原子力と放射線		福地 健一	
15. 海の中を知る		嘉数 祐子	
16. 味・香・色に関する化学 ～先輩の特研成果を発展させよう～		吉井 文子	
評価方法	各担当教員によるが、授業の参加状況や内容、学年末に提出する論文および特研発表会での発表等を総合評価する。		

(出典 平成 25 年度シラバス 一般科目 43 頁)

課題研究のシラバス

授 業 科 目		課題研究	
開設学科学系	環境都市工学科	区分・単位数	必修・1単位
受講年科・学期	環境都市工学科4年・後期	授 業 形 態	課題研究
キ ー ワ ー ド	研究、プレゼンテーション		
関 連 科 目	これまで学んだ全ての科目		
担 当 教 員	環境都市工学科全教員		
連絡先(オフィスアワー)	事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる		
教 科 書	各研究テーマに関する参考書や学術論文		
補助教科書等	なし		
参 考 図 書	なし		
プログラム目標	(C-2)、(D-1)		
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
・ 研究成果について、発表・討論する能力を身に付ける。		研究発表会(20%)で評価する。	
・ 与えられたテーマについての専門知識を身に付ける。		研究発表会(15%)、および課題研究報告書(30%)で評価する。	
・ これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身に付ける。		研究発表会(15%)および課題研究報告書(20%)で評価する。	
履 修 上 の 注 意	研究は自ら思考して自主的に進めるものであり、講義や実験とは全く異質のものであることを認識することが大切である。研究計画、実験、解析、まとめの各段階で指導教員によく相談し研究を進めることが重要である。実験・調査は十分安全を考慮して実施すること。		
授 業 計 画			
<p>課題研究発表会：年度末に実施する。 予定される研究テーマを以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耐候性鋼橋の健全度評価に関する研究 (佐藤) ・ 個体ベース魚群行動モデルによる魚類生息環境評価 (石川) ・ 魚道の水理特性と遡上・降河の評価 (石川) ・ エージェントベースモデルによる都市地域計画 (石川) ・ 水処理に関する研究 (上村) ・ 香りの抗菌活性に関する研究 (上村) ・ 環境教育プログラムの実践的研究 (岐美) ・ 木更津市の地域資源を用いたまちづくりに関する調査研究 (岐美) ・ 木更津駅前ロータリーにおけるKiss & Rideに関する調査研究 (岐美) ・ 発生土と廃棄物を用いた混合土の地盤工学的特性と土系舗装の開発 (鬼塚) ・ 房総地域の地震・地盤防災に関する研究 (鬼塚) ・ 地理空間データ分析の理論と応用に関する基礎検討 (島崎) ・ リモートセンシングの理論と応用に関する基礎検討 (島崎) ・ 建設材料の強度発現メカニズムに関する研究 (石井) ・ 防災技術に関する研究 (石井) ・ 生態工学的手法による環境浄化に関する研究 (湯谷) ・ 応用生態工学的手法による自然再生に関する研究 (湯谷) ・ 橋梁の耐震技術に関する研究 (森山) ・ 生物の力と力に関する研究 (森山) ・ 水処理に関する研究 (大久保) ・ 廃棄物リサイクルに関する研究 (大久保) ・ 腐食劣化した高力ボルトの残存軸力評価に関する研究 (田井) ・ 錆の状態に応じた耐候性鋼板の引張強度及び疲労強度評価に関する研究 (田井) 			
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	評価＝課題研究発表(50%) + 課題研究報告書(50%)		

(出典 平成 25 年度シラバス 環境都市工学科編 44 頁)

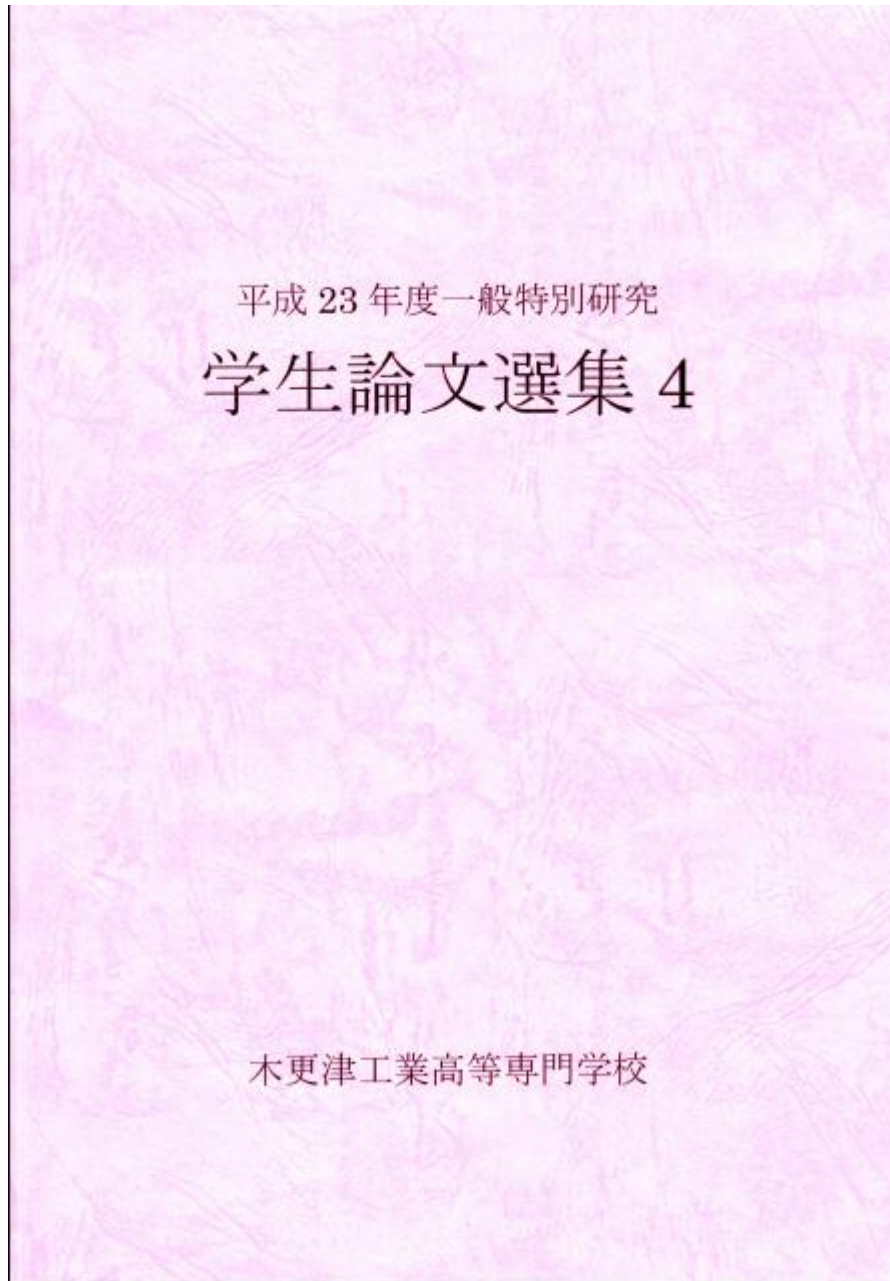
卒業研究のシラバス

授 業 科 目		卒業研究	
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	必修・8単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科5年・通年	授 業 形 態	研究
キ ー ワ ー ド	研究、総まとめ		
関 連 科 目	今まで学んだすべての科目		
担 当 教 員	電気電子工学科の全教員		
連 絡 先 (オ フ ィ ス ア ー)	事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。		
教 科 書	各研究テーマの専門分野の参考書や学術論文		
補 助 教 科 書 等	なし		
参 考 図 書	なし		
プ ロ グ ラ ム 目 標	(C-2), (D-2)		
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法 (評価の割合/重み)	
・ 研究成果について、発表・討論する能力を身につける。		中間発表会(10%)および研究発表会(20%)で評価する。	
・ 与えられたテーマについての専門知識を身につける。		中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(25%)で評価する。	
・ これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。		中間発表会(5%)、研究発表会(10%)および卒業論文(15%)で評価する。	
履 修 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する専門知識を、図書館やインターネットを利用して、自主的に文献を調べて、吸収しておくことが大切である。 困難な課題に直面した場合は、まず自ら十分に検討して対策を考え、指導教官の助言を求める。 1つのテーマに複数の学生が取り組むときは、分担した成果を報告しあいながら、全員が全体の進行状況を把握しておく。 		
授 業 計 画			
<p>配属の決定：4月当初に決定する。 中間発表会：前期末頃～後期初め頃の適当な時期に実施する。 研究発表会：年度末に実施する。</p> <p>研究テーマの例を以下に示す。 (岡本) 化合物半導体薄膜太陽電池に関する研究 (石川) アナログ回路を中心とした電子回路の研究 (石井) 超伝導素子を応用したミリ波サブミリ波受信機の研究 (大野) マイクロ波フィルタを中心とする高周波デバイスに関する研究 (上原) 静磁波・電磁波の解析、およびプロセス制御に関する研究 (浅野) 居住環境を考慮したロボットの制御およびヒューマンインターフェイスに関する研究 (大澤) パワーエレクトロニクス技術の研究と、その応用研究 (柏木) 光子・電子・原子相互作用としての放電基礎過程、インパルス測定、電磁界解析等の研究 (飯田) 磁性薄体を用いたセンサに関する研究</p> <p>具体的な卒業研究テーマについては、毎年発行されている「卒業研究抄録」を参照のこと。 「卒業研究抄録」は、図書館、各実験室、教員室などで保管されている。</p>			
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			240
成績の算出方法	中間発表会(20%)、研究発表会(40%)および卒業論文(40%)で評価する。		

(出典 平成 25 年度シラバス 電気電子工学科編 48 頁)

資料 5 - 2 - ③ - 4

一般特別研究にかかわる学生論文集の表紙



(出典 「平成 23 年度一般特別研究 学生論文選集 4」，現地閲覧資料 6)

(分析結果とその根拠理由)

人文・基礎学系教員による一般特別研究および、専門学科教員が担当する課題研究・卒業研究が創造力を育む主な授業として位置づけられている。インターンシップも多くの学生に活用されている。

観点5-3-①： 教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校では、教育目的にある通り、知識・技能を正しく発揮するための豊かな人間性、及びその基盤となる幅広い教養や健康な心身の育成を重視している。一般教育はそうした育成に主要な役割を果たすが、中でも観点5-2-③で述べた一般特別研究は、学生が一般科目担当教員の研究姿勢のみならず、人間性に触れる機会ともなっている。また、1～3学年で週1時間の特別活動(HR)の時間を設け(資料5-3-①-1)、幅広い教養を身につけさせるために学外の講師を招いて行う講演会、環境整備(学内・周辺の清掃)、スポーツ等を企画し(資料5-3-①-2)、3年間で設置基準に定められた90単位時間以上実施している。学級担任教員に対して「学級担任の手引き」を配付し、HR運営を行う資料として活用されている(資料5-3-①-3、現地閲覧資料7)。その他、心身の鍛錬を主な目的として全学年を対象に体育祭(資料5-3-①-4)及び駅伝大会(資料5-3-①-5)、3学年を対象にスキー合宿(資料5-3-①-6)を実施している。

生活指導面では学生委員会(資料5-3-①-7)が中心となり、学級担任と協力して指導に当たっている。また、「学級担任の手引き」には、各学年の指導上のポイントや学生の健康管理と事故防止に関する指導について記され、学級担任はこれらを参考にしてきめ細かい生活指導を行っている。

学生の自主的な活動の場として学友会が組織され(資料5-3-①-8)、活発な課外活動を行っている。年間最大の行事である「祇園祭」(資料5-3-①-9)は、学生委員会や企画指導教員による支援の下で、学友会と祇園祭実行委員会が中心となり、企画立案からパンフレットの編集(資料5-3-①-10、現地閲覧資料8)に到るまで、すべて学生を主体に運営されている。企画に携わる一般の学生を含め、安全管理や対外的折衝等に際し、自らの責任と判断で行動することが求められ、学生の自主性を育む上で重要な機会となっている。

この他、学友会には文化部(11)、運動部(20)及び同好会(25)が結成され、指導教員の下で活動している(資料5-3-①-11)。活動状況を示す資料として活動予定表を示す(資料5-3-①-12)。

平成25年度前期時間割表

平成25年度前期授業時間割表

Table with columns for Course (課程), Semester (学年), Class (クラス), and Teacher (担任). It details the schedule for 1st, 2nd, 3rd, 4th, and 5th years, including subjects like Mathematics, Science, and Engineering, and lists the responsible teachers for each class.

授業時間 1時限 8:50~9:35 5時限 13:00~13:45
2時限 9:40~10:25 6時限 13:50~14:35
3時限 10:35~11:20 7時限 14:45~15:30
4時限 11:25~12:10 8時限 15:35~16:20

5年生HR教室

M5 第1講義室 E5 マルチメディアA D5 マルチメディアB
J5 第4講義室 C5 第5講義室

使用教室 (特)特別教室 (視)視聴覚室 (ホ)図書館ホール (ア)アートギャラリー 留学生日本語 (図書・ネットワークセンター)
(階)階級教室 (ネ)ネットワーク情報センター (物)物理実験室 (化)化学実験室 (3年)月曜5~6時限 (4年)月曜1~2時限
(計)情報工学科計算機演習室 (回)情報工学科情報回路実験室 (CC)CC専攻実習室 (5年)月曜3~4時限 (CAD)CAD室 (フ)校内フィールド (部)環境都市工学科都市創造実験室・都市創造レクチャー室 (講1)第1講義室 (講2)第2講義室 (講3)第3講義室 (講4)第4講義室 (講5)第5講義室 (専A)専攻講義室A (専B)専攻講義室B (専セ)専攻セミナー室
(マA)マルチメディア講義室A (マB)マルチメディア講義室B (マC)マルチメディア講義室C (HSCS), (実)実験実習センター (講)講義棟C (田)ネットワーク情報センター

(出典 学生課資料)

平成24年度 後期特別活動(H・R)計画表

平成24年度 後期特別活動(H・R)計画表

クラス	M1	E1	D1	J1	C1	M2	E2	D2	J2	C2	M3	E3	D3	J3	C3	備考
10月4日	海野 哲也 教室活動	鈴木 道治 教室活動	伊藤 操 教室活動	山下 哲 教室活動	五十嵐 藤介 教室活動	坂田 洋満 教室活動	金子 真隆 教室活動	相川 正美 教室活動	鎌田 勝 研究室訪問	徳村 朋樹 教室活動	伊藤 裕一 教室活動	柏木 康秀 教室活動	柴田 晋子 教室活動	和崎 浩幸 教室活動	上村 繁樹 教室活動	
10月11日	体育祭															
10月18日	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	バスケット 第一体育館	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	
10月25日	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	スポーツ 第二体育館	校外清掃	バスケット 第一体育館	教室活動	
11月1日	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	校外清掃	教室活動	教室活動	
11月8日	教室活動 もしくは合同HR (第一体育館) (2年生 合同HR 予備日)															
11月15日	合同HR カウンセラー講演 第一講義室															
11月22日	中 間 試 験															
11月29日	中 間 試 験															
12月6日	教室活動	校外清掃	教室活動	教室活動	校外清掃	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	
12月13日	合同HR 球技大会 第1体育館・第2体育館・グラウンド															
12月20日	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	校外清掃	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	
1月10日	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	校外清掃	教室活動	教室活動	校外清掃	バスケット 第一体育館	教室活動	サッカー グラウンド	教室活動	教室活動	
1月17日	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	ビデオ観賞	教室活動	教室活動	合同HR スキー合宿について 第一講義室	合同HR スキー合宿について 第一講義室	教室活動	教室活動	教室活動	
1月24日	校外清掃	教室活動	校外清掃	教室活動	教室活動	教室活動	合同HR テートDVについて 第一講義室	合同HR 一般特別研究説明会 階段教室	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	バスケット 第一体育館	バスケット 第一体育館	教室活動	
1月31日	合同HR カタリバ 第一講義室															
2月7日	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	
2月14日	定 期 試 験															
2月21日	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	教室活動	ビデオ観賞	教室活動	特別研究見学	特別研究発表会	特別研究発表会	特別研究発表会	特別研究発表会	特別研究発表会	

(出典 学生課資料)

学級担任の手引き（表紙）

学級担任の手引



平成24年4月

木更津工業高等専門学校

教務委員会

学生委員会

F D委員会

（出典 学級担任の手引き，現地閲覧資料7）

平成24年度 体育祭プログラム

体育祭日程

1. 実施日 平成24年10月11日(木)(雨天時は10月18日(木)に1週間延期)
2. 場所 本校グラウンド
3. タイムスケジュール

出欠確認 8:40~8:50

開会式 8:50~9:05

- (1) 開会の言葉
- (2) 学校長挨拶(校長先生)
- (3) 優勝旗返却(C科団長)
- (4) 諸注意(体育委員長)
- (5) 宣誓及び決意表明(各学科団長)
- (6) 閉会の言葉

9:20~9:40 3人4脚

9:55~10:15 棒通し

10:30~11:20 騎馬戦

11:35~11:55 借り者競走

12:05~12:15 教職員対抗競技

12:15~13:05 昼休み

13:05~14:15 綱引き

14:25~14:35 仲良しリレー

14:45~15:15 追っかけ玉入れ

15:25~15:45 長縄跳び

15:55~16:10 学科対抗リレー

閉会式 16:20~16:30

- (1) 閉会の言葉(体育委員長)
- (2) 成績発表(体育委員長)
- (3) 優勝旗授与(校長先生)
- (4) 総評(学生主事)
- (5) 閉会の言葉

※閉会式終了後、体育委員以外は解散。体育委員は後片付け。
時間は予定なのでずれる場合があるので気を付けてください。

(出典 学生課資料)

平成24年度 駅伝大会実施要領

資料1

平成24年度駅伝大会実施要領

平成24年度駅伝大会実行委員会

1. 実施目的 心身の鍛練・クラスの団結
 2. 日時・場所 平成24年12月18日(火)8時50分～14時 本校構内および外周公道
(雨天延期 1月15日)
 3. 距離 一人あたり約3.9km(総距離15.6km)
 4. 実行委員 学生主事・主事補、体育科教員、学生委員、学年主任
 5. 責任者 荒木学生主事(総括責任者)、黄野学生主事補(実行委員長)
 6. 集計責任者 体育教員
 7. 表彰 チーム・クラスそれぞれ1～3位を表彰
8. 実施詳細
- (1) チーム編成
 - ・1チーム4名、男女混合としてクラスごとにチームを編成する。
 - ・事前にある程度のチーム編成を済ませておき、当日の朝は欠席者や体調不良者を考慮した微調整で済むように準備しておくことが理想。
 - ※クラスの参加人数が4の倍数でない場合
 - ・不足分については3人でチームを作る。たとえば38人のクラスでは、
4人チーム×8、3人チーム×2
という編成とする。2人以下のチームは認めない。また、3人チームは各クラス3チーム以下とする。
 - ・3人チームの記録は、クラス成績に含めるが、チーム表彰の対象にはしない。
 - ・3人チームであっても、各選手が走るコース・距離は4人チームの場合と同一とする。
 - ※怪我・持病等による駅伝不参加者
 - ・運動可能な学生は、1区スタートと同時に別ゼッケン(ビブス)を着けて同一コースを走る。その際、各自ゴールタイムを報告する。
 - ・運動不可能な場合は、補助員として大会運営のサポートを行う。
 - ・朝の時点で発熱・風邪症状等が見られる場合は、補助員は行わず、静養もしくは帰宅する。
 - (2) コース・距離等について
 - ・学内及び外周を利用したコース。距離は約3.9km、別紙に参照。
(グラウンド→学友会館横→工場棟横→外周2周→正門→正門→グラウンド)
 - ・男女同一コースとする。女子の人数に応じて、チームの記録を補正する。
 - ・1～2年の部と3～5年の部に分けて実施する。
 - (3) ゼッケン
 - ・全選手が、クラス・チーム・チーム内走者番号を示したゼッケンを着用する。
 - ・3人チームのアンカーと単独走者はビブスを着用し、3人チームのアンカーはビブスの上からゼッケンを着用する。
 - (4) 表彰(1～2年の部と3～5年の部に分ける)
 - ・チーム表彰(1位～3位)：チームタイムで順位付け
 - ・クラス表彰(1位～3位)：全チームの記録によって順位付け
 - (5) 役員・補助員(括弧内は人数+補助員人数)
 - 大会本部(4) : ライン引き、町内挨拶、運営全般
 - 周回(各年1+各年1) : 正門で、外周を2周したかどうかの確認
 - 計時(3) : チームタイムの測定、電光掲示盤
 - 順位判定(3+3) : ゴール順位を判定し着順一覧表に記入
 - 選手誘導(3) : 走者の呼び出し、スタート地点への誘導
 - 記録集計(3) : オーダー用紙回収、タイム、着順をPCへ入力、
チーム順位・クラス順位を算出
 - 立ち番(20) : コース上での立ち番、走者の安全確保
 - 用器具(1) : 用器具リスト作成及びその準備
 - 救護(1) : 体調を崩した学生への対応

(出典 学生課資料)

平成24年度スキー合宿研修概要

実施概要

日 程 平成25年3月4日(月)～3月6日(水) 2泊3日
 スキー実習場所 ニュー・グリーンピア津南スキー場
 実習指導 ニュー・グリーンピア津南スキー&スノーボードスクール
 (インストラクター20名)
 宿泊研修場所 ニュー・グリーンピア津南
 〒949-8313 新潟県中魚沼郡津南町秋成12300
 TEL 025-765-4944 FAX 025-765-4620

スキー合宿研修の目標

- ①正しいスキー技術を修得すると共に、団体行動の秩序と規律を体得し、協調の精神を養う。
- ②団体生活を通して相互の理解と親交を深め、豊かな学生生活を創造する叡智を培う。
- ③雪山の自然に親しみ、体力の増強を図り、健全な学生生活のための新たな活力を培う。

参加者

学生(3年生) 193名(男164名, 女29名)
 教職員 12名(男10名, 女2名)
 合計 205名(男174名, 女31名)

学生内訳

	M	E	D	J	C	合計
参加学生	38	37	36	42	40	193
男子	37	32	32	32	31	164
女子	1	5	4	10	9	29

教職員参加者と役割

総責任者 荒木英彦(学生主事)
 実行委員長 湯谷賢太郎(学生主事補)
 副実行委員長 黄野銀介(学生主事補)
 総務班 ○湯谷賢太郎, 荒木英彦, 黄野銀介, 中田雄太
 生活指導班 ○和崎浩幸, 伊藤裕一, 柏木康秀, 柴田育子, 上村繁樹
 実技指導班 ○篠村朋樹, 黄野銀介
 救護班 ○田村真弓, 坂本翔吾
 記録班 ○伊藤裕一, 柏木康秀
 学生企画班 ○和崎浩幸, 伊藤裕一, 柏木康秀, 柴田育子, 上村繁樹

(○印は責任者)

(出典 学生課資料・スキー合宿研修の手引き)

平成 24 年度学生委員会委員メンバー

H24.08.01現在

平成24年度学内役職員一覧

任期等 役職名	役 職 者							
	任期(平成23年4月～平成25年3月)	任期(平成24年4月～平成26年3月)						
副校長	荒木英彦・石川雅之	橋田正俊・佐藤恒明・石出忠輝						
主事	荒木英彦(学生)	橋田正俊(教務)・佐藤恒明(事務)						
主事補	泉 諒(教務) 加藤達彦(学生)・湯谷賢太郎(学生) 阿部幸之(事務)・白木厚可(事務)	嘉敷祐子(教務)・大野貴信(教務) 黄野銀介(学生) 岩崎洋一(事務)						
専攻科長	石川雅之(専攻科長:E)	石井建樹(副専攻科長:C)						
学科・学系主任	小澤謙志(人)・福地隆一(基)・栗本育三郎(I)	高橋秀雄(M)・上原正啓(E)・鈴木 聡(D)・石川雅嗣(C)						
専攻主任		高橋秀雄(ME)・鈴木 聡(DJ)・石川雅嗣(CC)						
教育研究支援センター長		橋田正俊(教務)						
図書館長	鎌田 勝(基)							
ネットワーク情報センター長	臼井邦人(センター長:D)・丸山真佐夫(副センター長:J)	岩崎洋一(副センター長:人)・柏木康秀(副センター長:E)						
実習工場長	石出忠輝(M)							
学生相談室長		大澤 寛(相談室長:E)						
地域共同テクノセンター長	和崎浩幸(副センター長:J)・大久保努(副センター長:C)	石出忠輝(センター長:M)・吉井文子(副センター長:基)						
学年主任	1年 山下 哲 2年 坂田洋満 3年 和崎浩幸 4年 鬼塚信弘 5年 石井孝一 専攻1年 専攻2年	ME1 上原正啓 ME2 高橋秀雄 D1 栗本育三郎 D2 鈴木 聡 D3 泉 諒 D4 坂元周作 D5 大橋太郎 D6 嘉藤康之 D7 岩崎洋一 D8 伊藤 操 D9 和崎浩幸 D10 五十嵐謙介 D11 藤村朋樹 D12 藤村朋樹 D13 上村繁樹 D14 米村恵一 D15 鬼塚信弘 D16 青木健介 D17 高橋秀雄 D18 石川雅嗣						
学級担任	M1 清野哲也 E1 鈴木道治 D1 伊藤 操 J1 山下 哲 C1 五十嵐謙介	M2 坂田洋満 E2 金子真雄 D2 相川正美 J2 鎌田 勝 C2 藤村朋樹	M3 伊藤裕一 E3 柏木康秀 D3 柴田育子 J3 和崎浩幸 C3 上村繁樹	M4 小田 功 E4 大澤 寛 D4 坂元周作 J4 米村恵一 C4 鬼塚信弘	M5 丸岡邦明 E5 石井孝一 D5 大橋太郎 J5 嘉藤康之 C5 青木健介	ME1 上原正啓 ME2 高橋秀雄 D1 栗本育三郎 D2 鈴木 聡 D3 泉 諒 D4 坂元周作 D5 大橋太郎 D6 嘉藤康之 D7 岩崎洋一 D8 伊藤 操 D9 和崎浩幸 D10 五十嵐謙介 D11 藤村朋樹 D12 藤村朋樹 D13 上村繁樹 D14 米村恵一 D15 鬼塚信弘 D16 青木健介 D17 高橋秀雄 D18 石川雅嗣	CC1 鳥崎彦人 CC2 石川雅嗣	(任期: H24.4～ H25.3)
留学生指導教員	小田(M)・丸岡(M)・柏木(E)・大澤(E)・岡本(D)・米村(J)・上村(C)・鬼塚(C)		(任期:H24.4～H25.3)					
セハラ相談員	学生主事・学生相談室長・総務課長・愛甲(カウンセラー)・田村(看護師)・柴田・中根		(任期:H24.4～H26.3)					

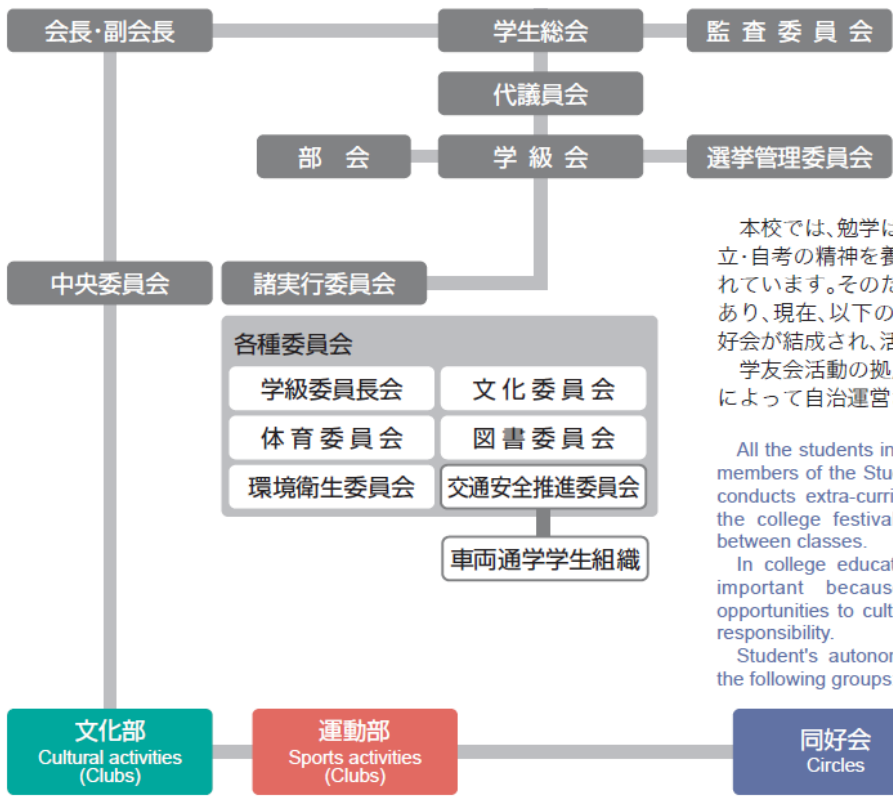
任期等 役職名	委 員		
	役職指定	任期(平成23年4月～平成25年3月)	任期(平成24年4月～平成26年3月)
運営調整会議	◎校長・教務主事・学生主事・事務主事・専攻科長・テクノセンター長・事務部長・総務課長・学生課長		
入試委員会	◎教務主事・嘉敷(補)・大野(補)・泉(補)	藤村(人)・岡本(E)・上村(C)	相川(基)・小田(M)・沢口(D)・和田(J)
教務委員会	◎教務主事・嘉敷(補)・大野(補)・泉(補)	坂田(人)・鬼塚(C)	坂田(M)・丸山(J)
学生委員会	◎学生主事・学生相談室長・黄野(補)・湯谷(補)	大橋(D)・齋藤(J)	鈴木道(基)・浅野(E)
事務委員会	◎事務主事・岩崎(補)・阿部(補)・白木(補)	山下(基)・柏木(E)・岡本(D)・大枝(J)	武長(人)・伊藤(M)・鳥崎(C)
専攻科委員会	◎専攻科長・石井(副科長)・高橋(ME)・鈴木(DJ)・石川(CC)	関口(基)・栗本(J)	小澤(人)・上原(E)
将来構想検討委員会	◎校長・教務主事・学生主事・事務主事・専攻科長・テクノセンター長・小澤(人)・福地(基)・高橋(M)・上原(E)・鈴木(D)・栗本(J)・石川(C)・事務部長・総務課長・学生課長		
総合情報メディア委員会	◎教務主事・図書館長・ネットワークセンター長・学生課長	岩崎(人)・坂元(D)・鬼塚(C)	高谷(基)・伊藤(M)・柏木(E)・丸山(J)
国際交流委員会	留学生指導教員・総務課長・学生課長	柴田(人)・武長(人)・瀬川(人)・貴野(M)・沢口(D)	◎関口
施設整備専門委員会	◎事務部長・総務課長・学生課長	相川(基)・高橋(M)・石井(E)・鈴木(D)・東(J)・上村(C)	藤村(人)
広報委員会	◎事務部長・総務課長・学生課長	嘉敷(基)・吉崎(E)・入試委員	柴田(人)・内田(M)・沢口(D)・渡邊(J)・大久保(C)
フカサティアドバイザー推進委員会	◎教務主事・大野(補)・学生課長	相川(基)・大澤(E)・齋藤(J)・青木(C)	
点検・評価委員会	総務課長・学生課長		◎福地(基)・岡本(主査)(D)・岩崎(人)・金子(基)・藤山(M)・大野(E)・鈴木(D)・丸山(J)・鬼塚(C)・JABEE推進専門委員会委員 上原(E)・石井(C)
中期計画推進委員会	総務課長		◎高橋(M)・清野(人)・関口(基)・岡本(E)・沢口(D)・白木(J)・青木(C)
情報公開委員会	◎校長・教務主事・学生主事・事務主事・専攻科長・テクノセンター長・小澤(人)・福地(基)・高橋(M)・上原(E)・鈴木(D)・栗本(J)・石川(C)・事務部長・総務課長・学生課長		
学生相談室委員会	◎学生相談室長・学生課長・カウンセラー・看護師		
地域共同テクノセンター運営委員会	◎テクノセンター長・吉井(副長)・和崎(副長)・大久保(副長)・総務課長	五十嵐(人)・小田(M)	石井(E)・坂元(D)
実習工場運営委員会	◎実習工場長	石井(E)・伊藤(D)	
教育研究支援センター運営委員会	◎教務主事(支長)・専攻科長・テクノセンター長・小澤(人)・福地(基)・高橋(M)・上原(E)・鈴木(D)・栗本(J)・石川(C)・実習工場長・ネットワークセンター長・事務部長・技術長		
図書館運営部会	◎図書館長・学生課長	泉(D)・和田(J)	清水(人)・高谷(基)・丸岡(M)・吉崎(E)・石井(C)
ネットワーク情報センター運営部会	◎ネットワークセンター長・丸山(副長)・岩崎(副長)・柏木(副長)・学生課長		高谷(基)・伊藤(M)・湯谷(C)
環境専門委員会	総務課長・学生課長	永井(総務課)・正木(学生課)・技術長	◎石川(C)・清水(人)・吉井(基)・内田(M)・石川(E)・伊藤(D)・渡邊(J)
知的財産委員会	◎テクノセンター長・吉井(副長)・和崎(副長)・大久保(副長)・総務課長	五十嵐(人)・小田(M)	石井(E)・坂元(D)
安全衛生委員会	◎校長(代理)・学生主事・清野(衛管)・総務課長(安管)・大日方(産医)	黄野(補)・加藤(補)・湯谷(補)・鈴木道(基)・大橋(D)・齋藤(J)・中村(総務課)・須賀(学生課)・今村(支援センター)・看護師	

◎は委員長、ゴシック体は校長が必要と認めた者、(補)は主事補、(副科長)は副専攻科長、(副長)はテクノセンター副センター長、(副副長)はネットワーク情報センター副センター長、(衛管)は衛生管理者、(安管)は安全管理者、(産医)は産業医、(支長)は教育研究支援センター長の略

(出典 平成 24 年度学内役職員一覧)

学友会の組織図

学友会組織 Student Council



本校では、勉学はもとより学生生活を通じて、自立・自考の精神を養うために、課外活動にも力を入れています。そのための学生組織として、学友会があり、現在、以下のような文化部、運動部そして同好会が結成され、活発に活動しています。

学友会活動の拠点として、学友会館があり、学生によって自治運営されています。

All the students in the college automatically become members of the Student Council. The Student Council conducts extra-curricular activities, the athletic meet, the college festival and various kinds of matches between classes.

In college education, extra-curricular activities are important because they give students more opportunities to cultivate the spirit of cooperation and responsibility.

Student's autonomous activities are carried out in the following groups:

(出典 平成 24 年度学校要覧 31 頁)

祇園祭実施報告

H24.12.4 学生委員会

H24祇園祭執行部反省

本部	企画管理	備品管理	広報
<p>・準備が済んでいて何もすることがなくても、留守番のために誰かが8時に出校する必要が出てしまう。(個別対応は難しいかもしれないが)</p> <p>・土曜日の朝、清掃業者のリヤカーを持ち出して、荷物の変搬をしようとしている学生がいた。(学園祭期間中は学友会が責任を持って借り受ける形にしたらどうか)</p> <p>・総合教育棟の階段、一般棟から食堂へいたる階段が汚れるので、掃除を行う。(誰がやるか?)</p> <p>・研究室前のゴミ箱が無くなってしまい、ちょっと不便だった。使用させない理由は分かるが、なくすのではなく、最寄りの研究室に入れてしまうのがよいのでは。</p> <p>・クラブ指導教員等の負担が少ないこの方法はすばらしい。</p> <p>・学園祭全体を次年度に紹介するためのプロモーションビデオを作成する。たとえば1年生に4月のHRで紹介できればどういふものをするのかイメージができる。</p> <p>・メールが通じない人がいた。</p> <p>・当日のシフトが把握できていない人がいた。</p> <p>・落し物の対策</p>	<p>・食品企画が多すぎる。(お金儲けだけの祇園祭でいいのか)</p> <p>・1年生、2年生の関わり方を考えてもらいたい。なかにはクラス企画もあり、部活動の企画もあり、さらに学友会の仕事もしているという1年生もいた。これでは1年生にクラス企画を義務化しているのになかなか関われない状態になる。したがって、1年については、部活動の企画へは参加しないとかにしてもらいたい。(過激かも?)</p> <p>・食品企画では、金額の上限をきめたらどうか。やきそばなら、MAX100円にするとか。</p> <p>・前売りチケットのルールを明確にする。(もしくは前売りは禁止して割引券制度にする。割引券ならば、近隣住民にも配布できる。)</p> <p>・各企画の展示場所の配慮。学園祭は食品企画だけかと思わせるような感じがした。もっと専門学科のまじめな企画を目立たせる工夫がほしい。</p> <p>・今年、保健室前コミュニティAは、IDのお化け屋敷だったが、学園祭当日は保護者も面談等でお話しになる方が多く、けが人や体調不良者の利用もあるので、場所と内容を配慮いただきたい。</p> <p>・食品企画はクラスから1つとしたらどうか。</p> <p>・1、2年生のクラス企画では、1年生では何々をする(たとえば劇をするとか)、2年生では何々をするとし、それを毎年行うようにしたらどうか。(定番企画の提案。)</p>	<p>・文化委員に訂正版の紙を渡し忘れてしまった</p> <p>・貸出書の作成が遅かったため、貸出書を取りに来ない企画があった。</p> <p>・貸出書の訂正が多かった。</p> <p>・貸出書を無くす企画が多くその対処について考えていなかった。</p> <p>・各企画に貸出書の説明をし切れなかった</p>	<p>・今年度はミスが目立った。(やはり時間をかけて多くの人の目で見直しが必要がある。)</p> <p>・パンフレットを一般のお客さんが見やすい形にする。(検索しやすいように工夫する。)</p> <p>・パンフレットは近隣の小学校にも配布したらどうか。(小学生の来校が多かったので。)</p> <p>・作業分担が難しい</p> <p>・校正がずさんであった。人を増やした方がよい</p> <p>・学内に貼る祇園祭ポスター多い 13月 14日</p>
<p>・作業が一人に集中してしまうことが多かった。</p> <p>・作業の日に全員が集まらなかった。</p> <p>・用意したものを当日設置しなかった。</p> <p>・備品のゴミ箱も利用した方がよいのでは</p> <p>・作るものを運営全体で募集してほしい。</p> <p>・入口に全体図が欲しい</p> <p>・買うもの、作るもののリストアップ</p> <p>・余裕を持って作業するべき</p>	<p>・イベント</p> <p>・学園祭で、たとえば集客一番の団体とか、お客さんによる「これはすばらしい」企画とかを投票してもらい、祇園祭大賞みたいなものを創設し、競わせたらどうか。</p> <p>・コンテストの景品が話していたものと違っていた。</p> <p>・事前に景品を決めて、参加者に事前に知らせるべき</p> <p>・前日までの仕事を全員が把握していない</p> <p>・コンテスト関連をしっかりとほしかった。</p> <p>・門の組み立て方法を確実に引き継ぐ</p> <p>・工場を利用できる学生が欲しい</p>	<p>・委員会</p> <p>・実験実習センターの男子トイレの洗面台に食品企画の物と思われる、キャベツの破片が流されていた。トイレ内で食品を洗っているとしたら衛生上問題がある。</p> <p>・祇園祭の主要メンバー(文化、交通安全委員など)が、一日一回は始まる前にミーティングを開き、その日の仕事の確認をすべき。(特にシフトの確認・変更など。今年度は交通整理の人が足りなかった。)</p> <p>・OB戦にくるOBの態度が酷い サッカー部、ボウリング部、野球部</p> <p>・駐車場を早めに決めてほしい</p> <p>11月2日</p> <p>学生委員会と11月14日に 作業</p>	<p>置工場必要?</p>

(出典 学生委員会資料)

祇園祭パンフレット（表紙）

木更津高専 祇園祭

2012/11/3
~2012/11/4



（出典 学生課資料，現地閲覧資料8）

学友会に所属するクラブと同好会の一覧

平成25年度 学友会クラブ等指導教員一覧

文化系クラブ

	ク ラ ブ 名	指 導 教 員	
1	電 気 部	石川雅之	泉 源
2	写 真 部	小田 功	丸岡邦明
3	自 動 車 部	鈴木 聡	大木正喜
4	吹 奏 楽 部	大澤 寛	瀬川直美
		齋藤康之	
5	合 唱 部	佐藤恒明	
6	華 道 部	関口昌由	栗本 育三郎
7	茶 道 部	柏木康秀	小澤健志
		鎌田 勝	
8	演 劇 部	武長 玄次郎	加藤達彦
		清水公男	
9	囲 碁 部	黄野銀介	丸山 真佐夫
		石出忠輝	
10	美 術 部	関口昌由	渡邊孝一
11	軽 音 部	福地健一	柴田育子

同 好 会

	ク ラ ブ 名	指 導 教 員	
1	化学研究同好会	相川正美	吉井文子
2	文 芸 同 好 会	武長玄次郎	加藤達彦
3	ロボット研究同好会	嶋田正俊	伊藤裕一
		坂元周作	内田洋彰
4	RPG 研究同好会	吉井文子	
5	地盤研究同好会	鬼塚信弘	
6	見呂工房同好会	五十嵐謙介	
7	土木技術研究同好会	鬼塚信弘	
8	ドイツ語研究同好会	柴田育子	荒木英彦
9	プログラミング研究同好会	丸山真佐夫	白木厚司
10	建 築 同 好 会	石川雅朗	
11	電子創作同好会	和崎浩幸	
12	生物研究同好会	湯谷賢太郎	黄野銀介
		上村繁樹	
13	洋楽研究同好会	清水公男	
14	し っ と こ 隊	大野貴信	
15	自転車同好会	坂元周作	鈴木道治
16	スホーツチャンバラ同好会	武長玄次郎	
17	地中海研究同好会	関口昌由	柏木康秀
18	歴史研究同好会	武長玄次郎	
19	山 岳 同 好 会	白井邦人	
20	護身術同好会	島崎彦人	
21	音楽研究同好会	齋藤康之	
22	ダ ー ツ 同 好 会	島崎彦人	
23	ダンス同好会	岐美 宗	高谷博史
24	書 道 同 好 会	加藤達彦	鬼塚信弘

運動系クラブ

	ク ラ ブ 名	指 導 教 員	
1	野 球 部	高橋秀雄	鈴木 聡
		板垣貴喜	白木厚司
2	バスケットボール部	加藤達彦	岩崎洋一
		飯田聡子	大枝真一
3	バレーボール部	篠村朋樹	石井孝一
		大野貴信	米村恵一
4	卓 球 部	栗本 育三郎	黄野銀介
		丸山 真佐夫	伊藤裕一
5	ソフトテニス部	山下 哲	島崎彦人
		岡本 保	
6	サ ッ カ ー 部	泉 源	岡本峰基
		米村恵一	
7	柔 道 部	清野哲也	鈴木道治
8	陸 上 競 技 部	坂田洋満	沢口義人
		岐美 宗	
9	空 手 道 部	浅野洋介	大野貴信
		島崎彦人	
10	水 泳 部	大橋太郎	荒木英彦
11	バドミントン部	歸山智治	上原正啓
		嘉数祐子	
12	ホ ッ ケ ー 部	大久保努	白木厚司
		石井建樹	
13	ラ グ ビ ー 部	大木正喜	
14	テ ニ ス 部	伊藤 操	田所勇樹
15	ゴ ル フ 部	高谷博史	大木正喜
16	剣 道 部	内田洋彰	
17	女子バレーボール部	篠村朋樹	石井孝一
		米村恵一	
18	女子ホッケー部	大久保努	白木厚司
		石井建樹	
19	女子バスケットボール部	加藤達彦	岩崎洋一
		飯田聡子	大枝真一
20	女子テニス部	阿部孝之	田所勇樹

S T G 指 導 教 員

鈴木 聡	(電子制御工学科)
大木 正喜	(環境都市工学科)

(出典 平成25年度学生便覧 181頁)

資料5-3-①-12 (1/2)

クラブ活動状況

平成25年度 学友会クラブ等一覧

【文化系クラブ】

平成25年1月23日

クラブ名	活動場所	活動日・時間	代表者(クラス)	指導教員
電気部	ものづくり準備室	木 7時限～	■■■■■	石川雅之 泉 源
写真部	ものづくり準備室	木 7時限～	■■■■■	小田 功 丸岡 邦明
自動車部	ガレージ	火, 木 15時～	■■■■■	鈴木 聡 大木 正喜
吹奏楽部	階段教室	ほぼ毎日	■■■■■	大澤 寛 瀬川 直美
	学友会館 奏室, 研修室5	金 17時～19時, 土日祝 8時～17時	■■■■■	齋藤 康之
合唱部	第3講義室など	月, 水 16時半～	■■■■■	佐藤 恒明
華道部	コミュニティルームA	火または木 15時～ (月1,2回)	■■■■■	関口 昌由 栗本 育三郎
茶道部	学友会館 研修室2・3	主として木 15時～19時	■■■■■	柏木 康秀 小澤 健志
				鎌田 勝
演劇部	第2講義室	月, 金 16:30～19時	■■■■■	武長 玄次郎 加藤 達彦
				清水 公男
囲碁部	学友会館 研修室4	火, 水, 木 7時限～	■■■■■	黄野 銀介 丸山 真佐夫
				石出 忠輝
美術部	ものづくりB	木 7時限～	■■■■■	関口 昌由 渡邊 孝一
軽音部	学友会館 奏室	月・水16時30分～19時, 火・木 15時～19時, 日・祝 9時～17時	■■■■■	福地 健一 柴田 育子

【同好会】

クラブ名	活動場所	活動日・時間	代表者(クラス)	指導教員
化学研究同好会	化学実験室	木 7時限～	■■■■■	相川 正美 吉井 文子
文芸同好会	第3講義室	木 7時限～	■■■■■	武長 玄次郎 加藤 達彦
ロボット研究同好会	ものづくり工房	月～金	■■■■■	铸田 正俊 伊藤 裕一
		放課後		坂元 周作 内田 洋彰
RPG研究同好会	視聴覚室	火, 木 7時限～	■■■■■	吉井 文子
地盤研究同好会	都市創造レクチャー室	木 7時限～	■■■■■	鬼塚 信弘
見呂工房同好会	見呂工房部室	火 7時限～、土 午後	■■■■■	五十嵐 譲介
土木技術研究同好会	都市創造実験室	6月～8月の平日	■■■■■	鬼塚 信弘
ドイツ語研究同好会	第5講義室・他	月, 水, 金 16:50～ (不定期) 掲示あり	■■■■■	柴田 育子 荒木 英彦
プログラミング研究同好会	計算機演習室	平日 放課後	■■■■■	丸山 真佐夫 白木 厚司
建築同好会	水理実験室	放課後, 随時	■■■■■	石川 雅朗
電子創作同好会	回路システム実験室	火, 木 放課後 (その他, 随時)	■■■■■	和崎 浩幸
生物研究同好会	ものづくり室A	平日 放課後	■■■■■	湯谷 賢太郎 黄野 銀介
				上村 繁樹
洋楽研究同好会	視聴覚室	水 16:30～	■■■■■	清水 公男
しっここ隊	コミュニティルームA	水 放課後	■■■■■	大野 貴信
自転車同好会	計算機実習室2	火, 水 放課後他	■■■■■	坂元 周作 鈴木 道治
スネークハンパ同好会	学友会館 研修室5	月, 水 16時30分～19時	■■■■■	武長 玄次郎
地中海研究同好会	コミュニティルームB	火または木15:00～ (月1回)	■■■■■	関口 昌由 柏木 康秀
歴史研究同好会	コミュニティルームF	木 15時～17時30分	■■■■■	武長 玄次郎
山岳同好会	コミュニティG	木, 金 16時30分～18時	■■■■■	臼井 邦人
護身術同好会	学友会館 研修室2・3・4	毎週月・水・金 放課後～19時	■■■■■	島崎 彦人
音楽研究同好会	学友会館 研修室2・3	毎週火曜日 放課後	■■■■■	齋藤 康之
ものづくり同好会	実験実習センター シミュレーション室	火・木 放課後	■■■■■	歸山 智治
ダーツ同好会	学友会館 研修室1	毎週月・火・木 16:20～19時	■■■■■	島崎 彦人
ダンス同好会	第2講義室	平日 放課後, 土日10時～19時	■■■■■	岐 美 宗 高谷 博史
書道同好会	ものづくり室	水, 金 放課後～18:00	■■■■■	加藤 達彦 鬼塚 信弘

資料5-3-①-12 (2/2)

平成25年度 学友会クラブ等一覧

平成25年1月23日

クラブ名	活動場所	活動日・時間	代表者(クラス)	指導教員
電気部	ものづくり準備室	木 7時限～	■■■■■	石川雅之 泉源
写真部	ものづくり準備室	木 7時限～	■■■■■	小田功 丸岡邦明
自動車部	ガレージ	火、木 15時～	■■■■■	鈴木聡 大木正喜
吹奏楽部	階段教室 学友会館 奏室, 研修室5	ほぼ毎日 金 17時～19時, 土日祝 8時～17時	■■■■■	大澤寛 瀬川直美 齋藤康之
合唱部	第3講義室など	月、水 16時半～	■■■■■	佐藤恒明
華道部	コミュニティルームA	火または木 15時～ (月1.2回)	■■■■■	関口昌由 栗本育三郎
茶道部	学友会館 研修室2・3	主として木 15時～19時	■■■■■	柏木康秀 小澤健志 鎌田勝
演劇部	第2講義室	月、金 16:30～19時	■■■■■	武長玄次郎 加藤達彦 清水公男
囲碁部	学友会館 研修室4	火、水、木 7時限～	■■■■■	黄野銀介 丸山真佐夫 石出忠輝
美術部	ものづくりB	木 7時限～	■■■■■	関口昌由 渡邊孝一
軽音部	学友会館 奏室	月・水16時30分～19時, 火・木 15時～19時, 日・祝 9時～17時	■■■■■	福地健一 柴田育子

クラブ名	活動場所	活動日・時間	代表者(クラス)	指導教員
化学研究同好会	化学実験室	木 7時限～	■■■■■	相川正美 吉井文子
文芸同好会	第3講義室	木 7時限～	■■■■■	武長玄次郎 加藤達彦
ロボット研究同好会	ものづくり工房	月～金 放課後	■■■■■	鎗田正俊 伊藤裕一 坂元周作 内田洋彰
RPG研究同好会	視聴覚室	火、木 7時限～	■■■■■	吉井文子
地盤研究同好会	都市創造レクチャー室	木 7時限～	■■■■■	鬼塚信弘
見呂工房同好会	見呂工房部室	火 7時限～、土 午後	■■■■■	五十嵐譲介
土木技術研究同好会	都市創造実験室	6月～8月の平日	■■■■■	鬼塚信弘
ドイツ語研究同好会	第5講義室・他	月、水、金 16:50～(不定期) 掲示あり	■■■■■	柴田育子 荒木英彦
プログラミング研究同好会	計算機演習室	平日 放課後	■■■■■	丸山真佐夫 白木厚司
建築同好会	水理実験室	放課後, 随時	■■■■■	石川雅朗
電子創作同好会	回路システム実験室	火、木 放課後(その他, 随時)	■■■■■	和崎浩幸
生物研究同好会	ものづくり室A	平日 放課後	■■■■■	湯谷賢太郎 黄野銀介 上村繁樹
洋楽研究同好会	視聴覚室	水 16:30～	■■■■■	清水公男
しっとこ隊	コミュニティルームA	水 放課後	■■■■■	大野貴信
自転車同好会	計算機実習室2	火、水 放課後他	■■■■■	坂元周作 鈴木道治
スルーフランパ同好会	学友会館 研修室5	月、水 16時30分～19時	■■■■■	武長玄次郎
地中海研究同好会	コミュニティルームB	火または木15:00～(月1回)	■■■■■	関口昌由 柏木康秀
歴史研究同好会	コミュニティルームF	木 15時～17時30分	■■■■■	武長玄次郎
山岳同好会	コミュニティルームG	木、金 16時30分～18時	■■■■■	臼井邦人
護身術同好会	学友会館 研修室2・3・4	毎週月・水・金 放課後～19時	■■■■■	島崎彦人
音楽研究同好会	学友会館 研修室2・3	毎週火曜日 放課後	■■■■■	齋藤康之
ものづくり同好会	実験実習センター シミュレーション室	火・木 放課後	■■■■■	歸山智治
ダーツ同好会	学友会館 研修室1	毎週月・火・木 16:20～19時	■■■■■	島崎彦人
ダンス同好会	第2講義室	平日 放課後, 土日10時～19時	■■■■■	岐美宗 高谷博史
書道同好会	ものづくり室	水、金 放課後～18:00	■■■■■	加藤達彦 鬼塚信弘

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

一般特別研究をはじめとする一般教育や、1～3学年で週1時間実施される特別活動（HR）を通じ、豊かな人間性が涵養されるように配慮されている。学級担任は「学級担任の手引き」をもとに、学生委員会とも協力しながら、HR運営やきめ細かな生活指導を行っている。この他、体育祭、駅伝大会、スキー合宿といった多くの行事が心身の鍛練を目的として実施されている。また、学友会が組織され、「祇園祭」の運営やクラブ活動を中心に、教員の支援の下、自主的で活発な課外活動を行っている。

観点5-4-①： 成績評価・単位認定規程や進級・卒業認定規程が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価、単位認定、進級（各学年の修了認定）、卒業認定、定期試験をやむを得ない事情で受けられなかった学生を対象とした追試験、及び年度内再評価や再履修に伴う再試験について、学業成績審査規程（資料5-4-①-1）が定められ、その内容を分かり易くまとめた「学習案内」とともに「学生便覧」に記載されている。準学士課程学生を対象としたアンケートの結果（資料5-4-①-2）から、6割以上の学生が進級規定や卒業認定基準について学生便覧で確認していることがわかる。教員は、定期試験終了から1週間の間に答案を返却し、シラバスに明示された方法により成績評価を行い、成績に対する学生の異議申し立てを受け付けている。修了認定会議及び卒業認定会議は原則として全教員が参加し、成績審査（修了認定）会議資料（現地閲覧資料9）及び成績審査（卒業認定）会議資料（現地閲覧資料10）に基づき、学業成績審査規程に従って行われている。

資料5-4-①-1 (1/3)

学業成績審査規程

5-2 学業成績審査規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学則第15条の規定に基づき、学業成績の評価並びに各学年の課程修了（以下「修了」という。）及び卒業の認定について定めたものである。

(履修)

第1条の2 学生は、木更津工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）別表1、別表2及び別表3に従い、年度において編成される授業時間数で配当される授業科目（以下「科目」という。）及び特別活動を履修するものとする。

(科目区分及び履修単位数)

第1条の3 学則別表第1及び別表第2の科目の構成に係る意義は、次の各号の区分に並び、当該各号に定めるとおりとする。

- 一 必修科目 必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
- 二 必修選択科目 必修選択科目として指定されている科目の中から所定の単位数を修得しなければならない科目
- 三 選択科目 履修を選択することができる科目

(履修の特例)

第1条の4 別表に定める選択科目に限り開講学年以外でも履修できる。単位認定は、履修申告及び認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。

(試験)

第2条 学業成績の評価及び学習指導の資料とするため、毎年度、前期末及び学年末に定期試験を行う。

- 2 前項の定期試験のほか、前期・後期において、原則として中間試験を行うものとする。
- 3 試験の内容及び方法については、各授業科目担当教員（以下「担当教員」という。）が定める。
- 4 やむを得ない事由により試験を受けられなかった者については、願い出を審査の結果、追試験を行うことができる。ただし、休学のため試験を受けなかった者については、これを行わない。
- 5 正当な事由によらず試験を受けなかった者、又は懲戒処分の結果、試験を受けられなかった者の試験の成績は0点とする。
- 6 試験中に不正行為を行った者は、その時間以降の試験を受ける資格を失い、その試験期間中の全試験科目の成績は0点とする。

(成績の評価)

第3条 担当教員は、前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験終了後、100点法によって学業成績を評価し、校長に報告するものとする。

- 2 前期末及び学年末の評価は、試験の成績、授業の出席状況及び平常の学習態度等を考慮して行うものとする。
- 3 成績の評価は、100点法によって評価し、次の区分によって評定する。

資料5-4-①-1 (2/3)

評点	100～80	79～70	69～60	59以下
評定	A	B	C	D

- 4 前項において、その授業時間数の3分の1以上欠席した者についての評点は、原則として60点未満とする。
- 5 授業が年度の途中で終了する授業科目で、評定がDであるものについては、願い出を審査の結果、担当教員が適切な学習指導を行い、学年末に再評価（以下「年度内再評価」という。）をすることができる。また、前項に該当する場合は、願い出を審査の結果、担当教員が適切な学習指導を行ったうえで、補講により授業出席時数の不足を補い、年度内再評価をすることができる。ただし、この年度内再評価は、いずれも最高60点とする。
- 6 校長は、毎学年末において、各授業科目の学業成績を、評点、評定及び修得単位数によって学生指導要録に記録する。評定Dの授業科目については、修得単位を認めないもの（以下「未修得科目」という。）とする。

（再履修及び再評価）

- 第4条 必修科目において未修得科目をもつ者は、次年度にその未修得科目を再履修しなくてはならない。また、選択科目において未修得科目をもつ者は、次年度以降、願い出により、その未修得科目を再履修することができる。
- 2 再履修は、その授業科目を通常の授業形態で履修（以下「通常授業による再評価」という。）することを通例とする。
- 3 前項の規定により難しい場合は、特別の補講の授業形態により履修（以下「特別補講による再履修」という。）することができる。
- 4 前条第4項に該当する場合を除き、第4学年までの未修得科目については、試験のみの方法により再評価（以下「再試験による再評価」という。）することができる。
- 5 前4項により単位を修得した場合は、校長は前条第6項の学生指導要録を修正するものとする。

（修了の認定）

- 第5条 各学年の課程修了の認定については、学則の定める当該学年の所定の単位を修得した者について、特別活動等の履修状況を考慮して、校長が行う。ただし、その学年末までの必修科目及び必修選択科目のうち、未修得科目の単位数の合計が第1学年及び第2学年に在学する者にあつては6以内、第3学年に在学する者にあつては4以内、第4学年に在学する者にあつては3以内の者について、修了の認定を行うものとする。
- 2 前項の規定により修了の認定を受けられなかった者であっても、第2学年以下に限り、進級させることができる。
- 3 前項の規定により進級できなかつた者は、元の学年にとどまり、その学年の授業科目を改めて履修するものとする。ただし、評定C以上であった科目にあつては、単位の修得を認め、改めて履修する必要はない。
- 4 元の学年にとどまった者は、願い出により、前項の規定により改めて履修を必要としない授業科目も履修（以下「留年者の再履修」という。）する

資料5-4-①-1 (3/3)

ことができる。

(卒業の認定)

第6条 卒業の認定は、第5学年までの各学年の課程を修了した者で、すべての必修科目及び必修選択科目を修得し、全修得単位が167以上（そのうち、一般科目については75以上、専門科目については82以上）である者について、校長が行う。ただし、授業料及び寄宿料等を未納の者並びに学校の物品を借用し返済しない者は、卒業の認定を保留する。

2 第2学年以上に入学した者（再入学者を除く）に対する前項の規定の適用については、入学を許可されたときに前各学年の必修科目及び必修選択科目の単位を修得したものとみなす。

(成績審査会議)

第7条 前2条の認定は、成績審査会議の議に基づいて行うものとする。

附 則

1 この規程は、昭和59年5月8日から施行し、昭和59年4月1日から適用する。ただし、第5条の規定は、この規程の施行の日より前に行われた試験に係る欠点科目については、適用しない。

2 木更津工業高等専門学校成績評価、学年課程修了及び卒業の認定に関する規程は、これを廃止する。

(この間の附則は省略)

附 則

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

2 この規程施行日前に在学している者が、第4条第1項の規定に基づく再履修を行う場合は、平成18年度に再履修する場合に限り、第3条の規定を適用せず、なお、従前のとおりとする。

附 則

1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

2 平成20年度に第4学年に在学する者については、改正後の第5条の規定にかかわらず、なお、従前のとおりとする。

3 平成20年度及び平成21年度に第5学年に在学する者については、改正後の第6条の規定にかかわらず、なお、従前のとおりとする。

附 則

この規程は、平成20年10月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月21日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

別表

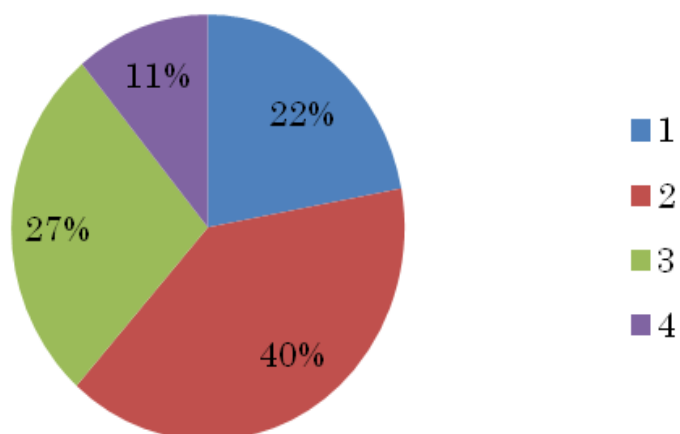
選択科目名	備考
学外実習	4学年以上の学年において履修可
日本文化論	2学年以上の学年において履修可

(出典 平成25年度学生便覧 95～97頁)

資料5-4-①-2

進級規定・卒業認定基準の周知度に関するアンケート結果（準学士課程）

8. 進級規定・卒業認定基準を学生便覧で確認していますか。



1: よく確認する, 2: たまに確認する, 3: あまり確認しない, 4: 確認したことがない

(回答総数 944)

(出典 点検・評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価、単位認定、進級・卒業認定等の基準が学業成績審査規程に明確に定められ、学生便覧に記載されている。これらの基準を学生便覧で確認している学生は6割を超え、多くの教員が授業中も周知していることを併せると、周知度は十分である。成績評価はシラバスに記載された方法で客観的に行われ、学生の異議申し立てを受け付ける配慮もなされている。修了認定会議及び卒業認定会議は原則として全教員が参加し、学業成績審査規程に従って厳正に行われている。

<専攻科課程>

観点5-5-①： 教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

本校では、準学士課程4年次から専攻科2年次までを対象とする「生産システム工学」教育プログラムを開設し、4年間一貫の技術者教育を実施している。「生産システム工学」教育プログラムでは、専攻科課程の学習・教育目標(資料5-5-①-1)とほぼ同様の学習・教育目標(資料5-5-①-2)を設定している。「生産システム工学」教育プログラムにおける準学士課程4～5学年と専攻科課程1～2学年の授業科目の流れ(機械工学科(資料5-5-①-3)、電気電子工学科(資料5-5-①-4)、電子制御工学科(資料5-5-①-5)、情報工学科(資料5-5-①-6)、環境都市工学科(資料5-5-①-7))に示すように、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮して教育課程を編成している。また専攻科の各科目のシラバスにも、本科科目を含む関連科目を示している(資料5-5-①-8)。

専攻科課程の学習・教育目標

専攻科課程では、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として自主自立の精神と国際的視野を持ち、

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者をめざして、以下の4点の側面から学習・教育目標を設定しています。

1. 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

2. 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
- (2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

3. コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (1) 日本語の記述能力を身につける。
- (2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

4. 創造力(デザイン能力)

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。

専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。

- (1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。
- (2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察および整理ができること。

(出典 平成25年度学生便覧 5頁)

「生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

(「生産システム工学」教育プログラム履修の手引から抜粋)

「生産システム工学」教育プログラムでは、自らがよって立つ所の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた、質の高い実践的技術者の育成として

自主自立の精神と国際的視野を持ち、以下の知識及び能力と実践力を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者

- 1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- 2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- 3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

をめざして、以下の4点を持った技術者の育成を学習・教育目標としている。

(A) 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者

(A-1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。

- ・健康や体力についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、生涯スポーツの礎を構築できること
- ・文芸作品を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深められること

(A-2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

- ・歴史学習を通して技術者が持つべき社会観を構築できること
- ・技術に関係する事故等の検討を通して、技術者としての社会的な責任と使命について理解できること
- ・環境問題と社会の関係についての概略を理解できること
- ・自然環境に関する基礎的事項を理解できること

(B) 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術について、その基礎となる理論及び原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者

(B-1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思想能力を身につける。

- ・数学および自然科学の基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題を解けること
- ・実験を通して現象を理解できること

(B-2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。

- ・各分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて実際の工学的な現象を理解できること

(B-3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。

- ・異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合するために、専門分野以外の工学の基礎知識を身につけること

(B-4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

- ・実験・実習を通して、実際の工学現象を理解し、実践的技術を身につけること

(C) コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者

(C-1) 日本語の記述能力を身につける。

- ・国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉で表現できること

(C-2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。

- ・コンピュータによる情報処理や情報収集等ができること
- ・コンピュータを用いて、卒業研究や専攻科特別研究の内容を発表・討論できること

(C-3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

- ・国際的に活躍するための基礎的な語学力、特に英語力を身につけること

(D) 創造力(デザイン能力)

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者

卒業研究や専攻科特別研究などを通して次の能力を身につける。

(D-1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること

(D-2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察および整理ができること

(出典 平成25年度学生便覧 7～8頁)

資料 5-5-①-3 (1/2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
 (機械工学科—機械・電子システム工学専攻)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
 (機械工学科、機械・電子システム工学専攻)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名								
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(A-1)	体育Ⅱ(◎)	→	体育Ⅲ(◎)						
	哲学(◎) 経済学(◎) 社会学(◎)	→	国文学(◎) 心理学(◎) 法学(◎)	→	人間と文化(◎)				
(A-2)					環境工学通論(◎)	→	環境化学特論(◎) 現代文明(◎) 技術論(◎)	→	技術倫理(◎)
(B-1)	応用数学A(◎) 応用数学B(◎)	→	応用数学C(◎)	→	統計学(◎)				
	応用物理Ⅱ(◎)	→	応用物理実験(◎)	→	応用物理Ⅲ(◎)	→	応用物理特論(◎) 応用化学特論(◎)	→	応用数学特論(◎)
	熱力学(◎)	→		→					
(B-2)	数値計算法(◎)								
	機械力学(◎)	→	機構学(◎)						
	材料力学Ⅱ(◎)	→	材料学Ⅱ(◎)						
	水力学(◎)								
	論理回路(◎)	→	センサ工学(◎)						
	自動制御(◎)	→	ロボット制御(◎)						
			工学演習(◎)						
					特別演習Ⅰ(◎)	→	特別演習Ⅱ(◎)		
					生産工学(◎)	→	トライボロジー(◎)	→	システム制御工学(◎) 可視化情報工学(◎)
					高周波回路工学(◎)	→	エネルギー工学(◎)	→	半導体物性(◎)
					電磁波工学(◎)	→		→	電気機械エネルギー変換工学(◎)
									オプトメカトロニクス工学(◎)

(注) 科目が学習・教育目標に主体的に関与する場合は◎、付随的に関与する場合は○をつける。

資料 5-5-①-3 (2/2)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名							
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(B-3)					材料力学 通論(◎)	材料学通論 (◎)	磁性材料 工学(◎)	
					回路工学 (◎)		創造設計 工学(◎)	地震防災工 学通論(◎)
						コンピュー タ科学(◎)		
(B-4)	設計製図Ⅱ(○)							
	製作実習Ⅲ (◎)							
(C-1)								
(C-2)								
(C-3)								
(D-1)								
(D-2)								

(注) 科目が学習・教育目標に主体的に関与する場合は◎、付随的に関与する場合は○をつける。

(出典 「生産システム工学」教育プログラム履修の手引 2012 年度版 10～11 頁)

資料 5-5-①-4 (1/2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
 (電気電子工学科—機械・電子システム工学専攻)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
 (電気電子工学科、機械・電子システム工学専攻)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名							
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A-1)	体育Ⅱ(◎) → 体育Ⅲ(◎)		国文学(◎) 心理学(◎) 法学(◎)		人間と文化(◎)			
(A-2)					環境工学通論(◎)		環境化学特論(◎) 現代文明(◎) 技術論(◎) → 技術倫理(◎)	
(B-1)	応用数学A(◎) 応用数学C(◎)	応用数学B(◎)	統計学(◎)	応用物理Ⅱ(◎) 電気磁気学Ⅲ(◎)	応用物理Ⅲ(◎)	応用物理特論(◎) 応用化学特論(◎)	応用数学特論(◎)	
(B-2)	情報伝送工学(◎) 電気回路Ⅲ(◎) 電子回路Ⅰ(◎) 電気機器(◎)	半導体工学(◎) コンピュータ工学Ⅲ(◎) 制御工学(◎)	特別演習Ⅰ(◎)	特別演習Ⅱ(◎)	生産工学(◎) 高周波回路工学(◎) 電磁波工学(◎)	トライボロジー(◎) エネルギー工学(◎)	システム制御工学(◎) 可視化情報工学(◎) 半導体物性(◎)	オプトメカトロニクス工学(◎) 電気機械エネルギー変換工学(◎)

(注) 科目が学習・教育目標に主体的に関与する場合は◎、付随的に関与する場合は○をつける。

資料 5-5-①-4 (2/2)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名								
	本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(B-3)					材料力学 通論(◎)	材料学通論 (◎)	磁性材料 工学(◎)		
					回路工学 (◎)		創造設計 工学(◎)	地震防災工 学通論(◎)	
						コンピュー タ科学(◎)			
(B-4)		実験実習Ⅲ(◎)		実験実習Ⅳ (◎)			特別実験 (◎)		
(C-1)		国語表現(◎)					人間と文化 (○)		
(C-2)			課題研究 (◎)		卒業研究(○)		特別研究Ⅰ(○)		特別研究Ⅱ(○)
(C-3)		工業英語 演習(◎)		英語演習Ⅱ (◎)		英語総合 (◎)	技術英語Ⅰ (◎)		技術英語Ⅱ (◎)
		英語演習Ⅰ(◎) 英会話Ⅰ(◎)		英会話Ⅱ (◎)					
		ドイツ語Ⅱ(◎) 中国語Ⅰ(◎)		ドイツ語Ⅲ(◎) 中国語Ⅱ(◎)					
(D-1)		学外実習 (◎)		課題研究 (○)		インター シップ(◎)	問題解決 技法(◎)		技術論(○)
(D-2)				卒業研究(◎)		特別研究Ⅰ(◎)			特別研究Ⅱ(◎)

(注) 科目が学習・教育目標に主体的に関与する場合は◎、付随的に関与する場合は○をつける。

(出典 「生産システム工学」教育プログラム履修の手引 2012 年度版 12～13 頁)

資料 5-5-①-5 (1/2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
 (電子制御工学科—制御・情報システム工学専攻)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
 (電子制御工学科、制御・情報システム工学専攻)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名							
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A-1)	体育Ⅱ(◎) → 体育Ⅲ(◎)		哲学(◎) 経済学(◎) 社会学(◎) → 国文学(◎) 心理学(◎) 法学(◎)		人間と文化(◎)			
(A-2)					環境工学通論(◎) → 環境化学特論(◎)		現代文明(◎) → 技術倫理(◎) 技術論(◎)	
(B-1)	応用数学A(◎) 応用数学C(◎) → 応用数学B(◎)		統計学(◎)		応用物理特論(◎) 応用化学特論(◎) → 応用数学特論(◎)			
(B-2)	電子回路Ⅰ(◎) → 電子回路Ⅱ(◎)		制御工学Ⅰ(◎) → 制御工学Ⅱ(◎) 制御機器(◎)		特別演習Ⅰ(◎) → 特別演習Ⅱ(◎)		システム制御(◎)	
	電子計算機Ⅱ(◎)		情報工学(◎)		半導体デバイス(◎)		集積回路工学(◎)	
	材料力学Ⅱ(◎)				数値解析基礎論(◎)		ソフトウェア工学(◎) → 数理モデリング(◎)	
					ヒューマンインターフェース(◎)		通信工学(◎) 情報通信工学(◎)	

(注) 科目が学習・教育目標に主体的に関与する場合は◎、付随的に関与する場合は○をつける。

資料5-5-①-5 (2/2)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名							
	本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(B-3)					材料力学 通論(◎)	材料学通論 (◎)	磁性材料 工学(◎)	
					回路工学 (◎)		創造設計 工学(◎)	地震防災工 学通論(◎)
						コンピュー タ科学(◎)		
(B-4)	実験実習IV (◎)						特別実験(○)	
(C-1)		国語表現(◎)					人間と文化 (○)	
(C-2)	実験実習IV (○)	課題研究 (◎)	卒業研究(○)			特別研究I(○)		特別研究II(○)
(C-3)		工業英語 演習(◎)			英語演習II (◎) 英会話II (◎)	英語総合 (◎)	技術英語I (◎)	技術英語II (◎)
		ドイツ語II(◎) 中国語I(◎)			ドイツ語III(◎) 中国語II(◎)			
(D-1)	学外実習 (◎)	実験実習IV (○)	課題研究 (○)			インター ンシップ(◎)	特別実験(◎)	問題解決 技法(◎)
								技術論(○)
(D-2)			卒業研究(◎)			特別研究I(◎)		特別研究II(◎)

(注) 科目が学習・教育目標に主体的に関与する場合は◎、付随的に関与する場合は○をつける。

(出典 「生産システム工学」教育プログラム履修の手引 2012年度版 14～15頁)

資料 5-5-①-6 (1/2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
 (情報工学科—制御・情報システム工学専攻)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
 (情報工学科、制御・情報システム工学専攻)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名							
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A-1)	体育Ⅱ(◎) → 体育Ⅲ(◎)		哲学(◎) 経済学(◎) 社会学(◎) → 国文学(◎) 心理学(◎) 法学(◎)		人間と文化(◎)			
(A-2)					環境工学通論(◎) → 環境化学特論(◎)		現代文明(◎) → 技術倫理(◎) 技術論(◎)	
(B-1)	応用数学A(◎) 応用数学B(◎)	統計学(◎)	工学演習(◎)		応用物理特論(◎) 応用化学特論(◎)	応用数学特論(◎)		
(B-2)	オペレーティングシステム(◎) 言語処理系(◎) プログラミング演習Ⅲ(◎)	ソフトウェア設計(◎) シミュレーション工学(◎) 情報通信システム(◎)	電子計算機Ⅱ(◎) 計算機インターフェース(◎)	情報理論(◎)	特別演習Ⅰ(◎) 学習制御(◎) 半導体デバイス(◎) ヒューマンインターフェース(◎) 数値解析基礎論(◎)	特別演習Ⅱ(◎) システム制御(◎) 集積回路工学(◎) 通信工学(◎) 情報通信工学(◎) ソフトウェア工学(◎)	数理モデリング(◎)	

(注) 科目が学習・教育目標に主体的に関与する場合は◎、付随的に関与する場合は○をつける。

資料 5-5-①-6 (2/2)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名								
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(B-3)					材料力学 通論(◎)	材料学通論 (◎)	磁性材料 工学(◎)		
					回路工学 (◎)		創造設計 工学(◎)	地震防災工 学通論(◎)	
						コンピュー タ科学(◎)			
(B-4)	実験・実習 IV(◎)						特別実験(○)		
(C-1)							人間と文化 (○)		
(C-2)		課題研究 (◎) ドキュメント 書法演習(◎)		卒業研究(○)		特別研究 I (○)		特別研究 II (○)	
(C-3)		工業英語演習(◎) 英語演習 I (◎) 英会話 I (◎)		英語演習 II (◎) 英会話 II (◎)		英語総合 (◎)	技術英語 I (◎)	技術英語 II (◎)	
		ドイツ語 II (◎) 中国語 I (◎)		ドイツ語 III (◎) 中国語 II (◎)					
(D-1)	学外実習 (◎) 実験・実習 IV(○)		課題研究 (○)			インター シップ(◎)	特別実験(◎)	問題解決 技法(◎)	技術論(○)
(D-2)				卒業研究(◎)		特別研究 I (◎)		特別研究 II (◎)	

(注) 科目が学習・教育目標に主體的に関与する場合は◎、付隨的に関与する場合は○をつける。

(出典 「生産システム工学」教育プログラム履修の手引 2012 年度版 16～17 頁)

資料 5-5-①-7 (1/2)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
 (環境都市工学科—環境建設工学専攻)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
 (環境都市工学科、環境建設工学専攻)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名							
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A-1)	体育Ⅱ(◎) → 体育Ⅲ(◎)		哲学(◎) 経済学(◎) 社会学(◎)		国文学(◎) 心理学(◎) 法学(◎)		人間と文化(◎)	
(A-2)					環境工学通論(◎)		環境化学特論(◎) 現代文明(◎) 技術論(◎) → 技術倫理(◎)	
(B-1)	応用数学A(◎) 応用数学B(◎)		応用数学C(◎)		統計学(◎)		応用物理特論(◎) 応用化学特論(◎) → 応用数学特論(◎)	
(B-2)	構造力学Ⅱ(◎) 土質力学Ⅱ(◎)		鉄筋コンクリート工学Ⅱ(◎) → R C構造設計製図(◎)		情報処理演習(◎) → 計算工学(◎)		特別演習Ⅰ(◎) → 特別演習Ⅱ(◎) 応用地盤工学(◎)	
	水理学Ⅱ(◎)		水環境工学Ⅰ(◎)		上下水道工学(◎) → 環境シミュレーション工学(◎)		応用構造工学(◎) → 構造数値解析学(◎) 生態環境工学(◎) → 環境生物工学(◎) → 環境情報・保全工学(◎) → 環境工学特論(◎)	

(注) 科目が学習・教育目標に主体的に関与する場合は◎、付随的に関与する場合は○をつける。

資料5-5-①-7 (2/2)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名								
	本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(B-3)					材料力学 通論(◎)	材料学通論 (◎)	磁性材料 工学(◎)		
					回路工学 (◎)		創造設計 工学(◎)	地震防災工 学通論(◎)	
						コンピュー タ科学(◎)			
(B-4)	水理実験 (◎)		構造工学 実験(◎)				特別実験 (○)		
	土質実験 (◎)		環境工学 実験(◎)						
(C-1)							人間と文化 (○)		
(C-2)		課題研究 (◎)		卒業研究(○)		特別研究Ⅰ(○)		特別研究Ⅱ(○)	
(C-3)		工業英語 演習(◎)		英語演習Ⅱ (◎)		英語総合 (◎)	技術英語Ⅰ (◎)	技術英語Ⅱ (◎)	
		英語演習Ⅰ(◎) 英会話Ⅰ(◎)		英会話Ⅱ (◎)					
		ドイツ語Ⅱ(◎) 中国語Ⅰ(◎)		ドイツ語Ⅲ(◎) 中国語Ⅱ(◎)					
(D-1)	学外実習 (◎)		課題研究 (○)			インター シップ(◎)	問題解決 技法(◎)	特別実験 (◎)	技術論(○)
(D-2)				卒業研究(◎)		特別研究Ⅰ(◎)		特別研究Ⅱ(◎)	

(注) 科目が学習・教育目標に主体的に関与する場合は◎、付随的に関与する場合は○をつける。

(出典 「生産システム工学」教育プログラム履修の手引 2012年度版 18～19頁)

ヒューマンインタフェースシラバス（本科科目との関連の例）

授 業 科 目	ヒューマンインタフェース		
開 設 学 科 学 系	情報工学科	区分・単位数	専門専攻・選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	DJ専攻1年・後期	授業形態	講義
キ ー ワ ー ド	人工物との相互作用理解、人間情報処理プロセス、信号処理、センサ機器		
関 連 科 目	計算機インタフェース、画像情報システム、計算機制御工学、ソフトウェア工学		
担 当 教 員	栗本 育三郎、米村 恵一		
連絡先(オフィス・アワー)	前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	特に指定せず		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書	P.H. リンゼイ、D.A. ノーマン共著（中溝幸夫、箱田裕司、近藤倫明 共訳）「情報処理心理学入門I」サイエンス社、1983年（栗本教官室にあり；閲覧希望者は申し出ること）		
プログラム目標	(B-2)		
達 成 目 標 (合格点)	各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)		
・ ヒューマンインタフェースおよびコンピュータで人間情報処理をするための基礎知識を身に付ける。	後期中間試験(50%)で評価する。		
・ 脳機能について理解を深め、人の情報処理システムについて説明できる。	後期定期試験(25%)で評価する。		
・ 人工物システムを構成するための基礎的なインタフェース設計論について理解する。	後期定期試験(25%)で評価する。		
履 修 上 の 注 意	身の周りの機器に目を留め、何故そのような機能や形状となっているのか等、人工物システムに対して常に関心を持つことが望まれる。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ ヒューマンインタフェース	・ 身近な機器や最新技術を事例にインタフェースについて学習する。		2
・ 認知科学	・ 認知科学について学習する。		12
後期中間試験	後期中間試験までの学習内容		2
・ 知覚/認識	・ 脳機能について学習し、知覚/認識における人の情報処理プロセスを理解する。		8
・ インタフェース設計論	・ センサ機器の働きなどを通じて人工物システムの構成と設計について学習する。		6
後期定期試験	後期中間試験以降の学習内容		—
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	中間試験および定期試験を実施し、試験成績(2回の試験の平均点)で評価する。		

(出典 平成 24 年度専攻科シラバス 36 頁)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の全学科について、学習・教育目標にもとづいて対応する専攻に教育を連携、発展させるよう授業科目を配置している。具体的な講義内容も、本科の講義との連携、発展を考慮して組み立てられている。このことから、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているといえる。

観点 5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程の学習・教育目標（資料 5-5-①-1）に基づき、各専攻の目標（資料 5-5-②-1）を達成するための科目を一般科目と専門科目に分けて開設している（資料 5-5-②-2）。一般科目では学習・教育目標のうち、主として「1. 人間形成」、「2. コミュニケーション能力」の分野に対応する科目を学ぶ。専門科目では主として「3. 科学技術の習得と応用」、「4. 創造力」の分野に対応する科目を学ぶ。専門科目はさらに、専門共通科目と専門専攻科目に分かれている。専門共通科目では共通して身につけるべき能力を学ぶ科目を必修、専門以外の分野を学ぶ科目を必修選択または選択科目としている。専門専攻科目には、自らの専門分野を深く学ぶための科目を配置している。学習・教育目標の各項目とそれを達成するための授業科目の対応を専攻ごとに示す（機械・電子システム工学専攻（資料 5-5-②-3）、制御・情報システム工学専攻（資料 5-5-②-4）、環境建設工学専攻（資料 5-5-②-5））。

資料 5-5-②-1

各専攻の専門科目の達成項目

(1) 機械・電子システム工学専攻

機械工学と電気電子のそれぞれの分野に高い技術力と、両方の専門分野を融合した柔軟性のある能力を身につけ、先端技術に対応した研究開発ができること。

(2) 制御・情報システム工学専攻

情報処理技術を基礎として、意思決定技術、ソフトウェア技術、通信技術、制御技術やメカトロニクス技術に関する知識を修得し、創造的、実践的な制御システム・情報システムの研究開発ができること。

(3) 環境建設工学専攻

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を身につけ、これらの問題に対応した研究開発ができること。

(出典 平成 25 年度学生便覧 6 頁)

科目配当表

専攻科課程

機械・電子システム工学専攻

区分	授業科目	単位数	学年別配当				備考	
			1年		2年			
			前	後	前	後		
一般科目	必修	英語総合	2	2				
		人間と文化	2		2			
		現代文明	2			2		
		技術倫理	2				2	
一般科目開設単位小計		8	4	4	一般科目修得単位8			
専門科目	必修	技術英語Ⅰ	2		2			
		技術英語Ⅱ	2			2		
		材料力学通論	2	2				
		コンピュータ科学	2		2			
		地震防災工学通論	2				2	
	共通科目	必修	問題解決技法	1	1			
			応用数学特論	2		2		3科目中、2科目以上選択
		応用物理特論	2	2				
		応用化学特論	2	2				
		選択	環境工学通論	2		2		2科目中、1科目以上選択
			環境化学特論	2			2	
			回路工学	2	2			2科目中、1科目以上選択
			創造設計工学	2			2	
	選択	材料科学通論	2		2		2科目中、1科目以上選択	
磁性材料工学		2			2			
技術論		1			1			
インターンシップ		2	2					
専門共通科目開設単位数		32	21	11	専門共通科目修得単位22以上			
科目	必修	特別研究Ⅰ	6	6				
		特別研究Ⅱ	8			8		
		特別実験	2		2			
		特別演習Ⅰ	2	2				
		特別演習Ⅱ	2			2		
	専門科目	必修	開講年度		H25	H26	隔年開講(1,2年生同時受講)	
			生産工学	2	2			
		選択	トライボロジー	2		2		
			システム制御工学	2			2	
			可視化情報工学	2				2
			オプトメカトロニクス工学	2				2
			高周波回路工学	2	2			
			電磁波工学	2	2			
	選択	エネルギー工学	2		2			
半導体物性		2			2			
	電気機械エネルギー変換工学	2				2		
専門専攻科目開設単位数		40	20	20	専門専攻科目修得単位32以上			
専門科目開設単位小計		72	41	31	専門科目修得単位54以上			
一般・専門科目開設単位合計		80	45	35	一般・専門科目修得単位62以上			

資料5-5-②-2 (2/3)

科目配当表

専攻科課程

制御・情報システム工学専攻

区 分	授 業 科 目		単位数	学年別配当				備 考	
				1 年		2 年			
				前	後	前	後		
一般科目	必修	英語総合	2	2					
		人間と文化	2		2				
		現代文	2			2			
		技術倫理	2				2		
一般科目開設単位小計			8	4	4		一般科目修得単位 8		
専門科目	必修	技術英語 I	2		2				
		技術英語 II	2			2			
		材料力学通論	2	2					
		コンピュータ科学	2		2				
		地震防災工学通論	2				2		
	共通	必修	問題解決技法	1	1				
			応用数学特論	2		2			3科目中、2科目以上選択
		選択	応用物理特論	2	2				
			応用化学特論	2	2				
			環境工学通論	2		2			2科目中、1科目以上選択
			環境化学特論	2			2		
			回路工学	2	2				2科目中、1科目以上選択
			創造設計工学	2			2		
			材料学通論	2		2			2科目中、1科目以上選択
			磁性材料工学	2			2		
	選択	技術論	1			1			
		インターンシップ	2	2					
	専門共通科目開設単位数			32	21	11		専門共通科目修得単位 22 以上	
	専門科目	必修	特別研究 I	6	6				
特別研究 II			8			8			
特別実験			2	2					
特別演習 I			2	2					
特別演習 II			2			2			
選択		半導体デバイス	2	2					
		学習制御	2		2				
		システム制御	2			2			
		通信工学	2			2			
		集積回路工学	2				2		
		数値解析基礎論	2	2					
		ソフトウェア工学	2		2				
		ヒューマンインターフェース	2		2				
		情報通信工学	2			2			
数理モデリング	2				2				
専門専攻科目開設単位数			40	20	20		専門専攻科目修得単位 32 以上		
専門科目開設単位小計			72	41	31		専門科目修得単位 54 以上		
一般・専門科目開設単位合計			80	45	35		一般・専門科目修得単位 62 以上		

資料5-5-②-2 (3/3)

科目配当表

環境建設工学専攻

区 分	授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当				備 考	
			1 年		2 年			
			前	後	前	後		
一 般 科 目	必 修	英 語 総 合	2	2				
		人 間 と 文 化	2		2			
		現 代 文 明	2			2		
		技 術 倫 理	2				2	
	一 般 科 目 開 設 単 位 小 計		8	4	4	一 般 科 目 修 得 単 位 8		
専 門 科 目	必 修	技 術 英 語 I	2	2				
		技 術 英 語 II	2			2		
		材 料 力 学 通 論	2	2				
		コ ン ピ ュ ー タ 科 学	2		2			
		地 震 防 災 工 学 通 論	2				2	
	共 通 選 択	必 修	問 題 解 決 技 法	1	1			
			応 用 数 学 特 論	2		2		3 科 目 中、2 科 目 以 上 選 択
		選 択	応 用 物 理 特 論	2	2			
			応 用 化 学 特 論	2	2			
			環 境 工 学 通 論	2		2		2 科 目 中、1 科 目 以 上 選 択
			環 境 化 学 特 論	2			2	
			回 路 工 学	2	2			2 科 目 中、1 科 目 以 上 選 択
			創 造 設 計 工 学	2				2
			材 料 学 通 論	2		2		2 科 目 中、1 科 目 以 上 選 択
			磁 性 材 料 工 学	2			2	
	選 択	技 術 論	1			1		
		イ ン タ ー ネット	2	2				
	専 門 共 通 科 目 開 設 単 位 数		32	21	11	専 門 共 通 科 目 修 得 単 位 22 以 上		
	専 門 専 攻 科 目	必 修	特 別 研 究 I	6	6			
			特 別 研 究 II	8			8	
			特 別 実 験	2		2		
			特 別 演 習 I	2	2			
選 択		特 修	特 別 演 習 II	2			2	
			環 境 生 物 工 学	2	2			
		選 択	構 造 数 値 解 析 学	2		2		
			応 用 構 造 工 学	2	2			
			環 境 情 報 ・ 保 全 工 学	2		2		
			環 境 工 学 特 論	2				2
			応 用 材 料 工 学	2				2
			応 用 地 盤 工 学	2			2	
専 門 専 攻 科 目 開 設 単 位 数		34	18	16	専 門 専 攻 科 目 修 得 単 位 32 以 上			
専 門 科 目 開 設 単 位 小 計		66	39	27	専 門 科 目 修 得 単 位 54 以 上			
一 般 ・ 専 門 科 目 開 設 単 位 合 計		74	43	31	一 般 ・ 専 門 科 目 修 得 単 位 62 以 上			

(出典 平成25年度シラバス 49~51頁)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
(機械・電子システム工学専攻)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(機械・電子システム工学専攻)
(平成 24 年度入学生)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名			
	専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期
1. (1)		人間と文化(必)		
1. (2)		環境工学通論(必選)	環境化学特論(必選) 現代文明(必) 技術論(選)	技術倫理(必)
2. (1)	応用物理特論(必選) 応用化学特論(必選)	応用数学特論(必選)		
2. (2)	システム制御工学(選) 可視化情報工学(選) 半導体物性(選)	特別演習Ⅰ(必) オプトメカトロニクス工学(選) 電気機械エネルギー変換工学(選)	特別演習Ⅱ(必) 生産工学(選) 高周波回路工学(選) 電磁波工学(選)	トライボロジー(選) エネルギー工学(選)
2. (3)	材料力学通論(必) 回路工学(必選)	材料学通論(必選) コンピュータ科学(必)	磁性材料工学(必選) 創造設計工学(必選)	地震防災工学通論(必)
2. (4)		特別実験(必)		
3. (1)		人間と文化(必)		
3. (2)		特別研究Ⅰ(必)	特別研究Ⅱ(必)	
3. (3)		英語総合(必)	技術英語Ⅰ(必) 技術英語Ⅱ(必)	
4. (1)	インターンシップ(選) 問題解決技法(必)		技術論(選)	
4. (2)		特別研究Ⅰ(必)	特別研究Ⅱ(必)	

(出典 平成 24 年度専攻科シラバス 2 頁)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
(制御・情報システム工学専攻)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(制御・情報システム工学専攻)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名			
	専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期
1. (1)		人間と文化(必)		
1. (2)		環境工学通論(必選)	環境化学特論(必選) 現代文明(必) 技術論(選)	技術倫理(必)
2. (1)	応用物理特論(必選) 応用化学特論(必選)	応用数学特論(必選)		
2. (2)	特別演習 I (必) 半導体デバイス(選) ヒューマンイン ターフェース(選) 数値解析基礎論(選)	学習制御(選) ソフトウェア工学(選)	特別演習 II (必) システム制御(選) 通信工学(選) 情報通信工学(選) 数理モデリング(選)	集積回路工学(選)
2. (3)	材料力学通論(必) 回路工学(必選)	材料学通論(必選) コンピュータ科学(必)	磁性材料工学(必選) 創造設計工学(必選)	地震防災工学通論(必)
2. (4)	特別実験(必)			
3. (1)		人間と文化(必)		
3. (2)		特別研究 I (必)	特別研究 II (必)	
3. (3)		英語総合(必)	技術英語 I (必) 技術英語 II (必)	
4. (1)	インターンシップ(選) 問題解決技法(必) 特別実験(必)		技術論(選)	
4. (2)		特別研究 I (必)	特別研究 II (必)	

(出典 平成 24 年度専攻科シラバス 3 頁)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
(環境建設工学専攻)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ(環境建設工学専攻)

学習・教育 目標	授 業 科 目 名			
	専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期
1. (1)		人間と文化(必)		
1. (2)		環境工学通論(必選)	環境化学特論(必選) 現代文明(必) 技術論(選)	技術倫理(必)
2. (1)	応用物理特論(必選) 応用化学特論(必選)	応用数学特論(必選)		
2. (2)	特別演習 I (必)		特別演習 II (必)	応用地盤工学(選)
	応用構造工学(選)	構造数値解析学(選)		応用材料工学(選)
	環境生物工学(選)	環境情報・保全工学(選)		環境工学特論(選)
2. (3)	材料力学通論(必) 回路工学(必選)	材料学通論(必選) コンピュータ科学(必)	磁性材料工学(必選) 創造設計工学(必選)	地震防災工学通論(必)
2. (4)		特別実験(必)		
3. (1)		人間と文化(必)		
3. (2)		特別研究 I (必)	特別研究 II (必)	
3. (3)		英語総合(必)	技術英語 I (必) 技術英語 II (必)	
4. (1)	インターンシップ(選) 問題解決技法(必)	特別実験(必)	技術論(選)	
4. (2)		特別研究 I (必)	特別研究 II (必)	

(出典 平成 24 年度専攻科シラバス 4 頁)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程の学習・教育目標に掲げた四つの項目について、その達成に必要な科目が一般科目、専門科目として体系的に配置されている。専門科目については学習・教育目標にもとづいて、自らの専門分野を深く学ぶための科目、専門以外の分野を学ぶための科目をバランスよく配置している。

以上のことから、授業科目は適切に配置され、教育課程が体系的に編成されている。また授業の内容は、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点5-5-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

(観点に係る状況)

学生の他分野の専門を学習したいといったニーズに応えるため、専攻科では他専攻で開設されている専門専攻の選択科目を、8単位を超えない範囲で履修することを認めている(資料5-5-③-1)。また他の高等教育機関で開設されている授業科目についても最大で4単位まで専攻科課程における単位として認定する制度を設けている(資料5-5-③-1)。

専攻科課程におけるインターンシップを専門共通選択科目として開設している(資料5-5-③-2)。海外を含む実習先でのインターンシップは、実社会での実務経験を積む貴重な経験の機会となっている(資料5-5-③-3)。

「国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」(専攻科課程学習・教育目標3(3))獲得のため「技術英語 I」(資料5-5-③-4)では「工業英検 2 級」, 「技術英語 II」(資料5-5-③-5)では TOEIC 500 点を達成目標に掲げて授業を行っている。また、海外でのインターンシップ、国際学会等への参加を奨励しており、さまざまな機会に学生を海外に派遣している(資料5-5-③-6)。海外派遣を促進するため、国際学会等に参加する学生に対して、後援会が交通費等に対して国内行事より手厚い支援(上限が国内1万円に対して海外5万円)を行っている(資料5-5-③-7)。このほか、専攻科学生が自由に利用できる e-ラーニング教材を提供している(資料5-5-③-8)。

木更津工業高等専門学校専攻科授業科目の履修等に関する規程（抜粋）

（他の専攻で履修した単位認定）

第9条 本校の他専攻で開設されている選択科目（専門専攻科目）の履修を希望する者は、あらかじめ専攻主任の許可を得た上で、受講届けを提出しなければならない。これにより修得した単位は、8単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、その単位の修得として認定することができる。

（他の教育施設で履修した単位認定）

第10条 他の高等専門学校の専攻科及び大学等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目を履修してその単位の認定を希望する者は、あらかじめ「大学等における学修許可願」を提出しなければならない。また、大学等における学修を修了し単位の認定を受けようとするときは、「大学等における学修単位認定申請書」を校長に提出しなければならない。

2 単位の認定は、シラバスを比較検討し、学則第43条に規定する別表第4の授業科目と置き換えて、最大4単位まで専攻科における単位として認定することができる。

3 前項により認定する単位は、単位認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成13年4月1日規則第15号）

「インターンシップ」シラバス

授 業 科 目	インターンシップ		
開設学科学系	専攻科	区 分 ・ 単 位 数	専門共通・選択・2単位
受講年科・学期	全専攻1年・前期	授 業 形 態	実習
キ ー ワ ー ド	インターンシップ		
関 連 科 目	本科：学外実習，卒業研究，専攻科：特別研究，特別実験，特別演習，技術倫理		
担 当 教 員	石川雅朗，上原正啓，丸山真佐夫		
連絡先(オフィスワーカー)	各教員の教員室（事前に電話やメール等により調整を行った上で質問に応ずる） (石川)		
教 科 書			
補助教科書等			
参 考 図 書			
プログラム目標	(D-1)		
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法 (評価の割合/重み)	
<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験をとおして，自分の専門分野に関する知識の程度を確認し，自らの能力を広げ，かつ高めることができる。 ・仕事の進め方，人との接し方を学び，社会のルールを身につけ，人間としての成長をはかると共に，自らが目指す技術者像をより明確にすることができる。 		報告書と日誌の評価(60%)，受け入れ企業の評価(20%)，発表内容(20%)で評価する。	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生を受け入れることは，受け入れ企業等には大きな負担であることに留意し，テーマに誠実に取り組み最大限の成果をあげるように努力する。 ・決められ時間を守り，規則を遵守し，挨拶等の社会人としての行動規範に基づき実習する。 ・実習中は，安全と健康管理に留意する。 ・期間3週間程度の実習を基準とする。 		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス(4月) ・実習申し込み(5月) ・実習先，テーマ決定(6月) ・実習(8・9月) ・報告会(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ概要説明，受け入れ企業での心構え他 ・受け入れの企業や官庁等の中から企業等を選択し，実習先希望票で担当教員に申し込む。 ・調整の上，実習先やテーマを決定する。 ・実習先に通って，事前に打合せたテーマに従って実習を行い，毎日「実習日誌」を作成する。実習内容は，「インターンシップ報告書」にまとめて，実習先と担当教員に提出する。実習終了時に，実習先より「インターンシップ評価書」をもらう。 ・実習内容とその成果を「インターンシップ報告会」で発表する。 		2 90以上 2
合計授業時間数			94以上
成績の算出方法	インターンシップ報告書と日誌の評価(60%)，受け入れ企業の評価(20%)，発表内容(20%)で評価する。		

(出典 平成 24 年度専攻科シラバス 20 頁)

資料5-5-③-3

平成24年度 専攻科インターンシップ実習先一覧

平成24年8月24日 専攻科長 石川雅之

JABEE 義務者 14名

専攻	学生氏名	企業名・連絡先・担当者氏名	実習期間ほか
DJ1年		(株)ジュピターコーポレーション	期間：13日間 7/23(月)～8/8(水)
ME1年			期間：10日間 8/6(月)～8/10(金) 8/20(月)～8/24(金)
DJ1年		協立化学産業株式会社	期間：10日間 7/23(月)～8/3(金)
CC1年		(株)パスコ	期間：10日間 7/23(月)～8/3(金)
CC1年		NEXCO 東日本木更津工事事務所	期間：10日間 7/23(月)～8/3(金)
ME1年		長岡技術科学大学	期間：10日間 7/23(月)～8/3(金)
ME1年		ナブソン株式会社	期間：6日間 7/31(火)～8/3(金) 8/7(火)～8/8(水)
DJ1年		(有)トレス環境システム 2	期間：6日間 8/3(金)～8/10(金)
DJ1年		横浜国立大学	期間：6日間 8/6(月)～8/8(水), 8/15(水)～8/17(金)
DJ1年		富士電機	期間：8日間 8/16(木)～8/25(土)
ME1年		不二精機(株)	期間：6日間 8/20(月)～8/25(土)
ME1年		木更津市役所	期間：10日間 8/20(月)～8/31(金)
CC1年		千葉県庁	期間：10日間 8/20(月)～8/31(金)
CC1年		コンケン大学(タイ)	期間：10日間 8/20(月)～8/31(金)

(出典 平成24年度専攻科委員会提出資料)

「技術英語Ⅰ」シラバス

授 業 科 目		技術英語Ⅰ	
開設学科学系	人文学系	区分・単位数	必修・2単位
受講年科・学期	専攻科1年全学科・後期	授 業 形 態	講義と演習
キ ー ワ ー ド	Technical Writing		
関 連 科 目	英語総合、技術英語Ⅱ		
担 当 教 員	荒木英彦		
連絡先(オフィス・アワー)	事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。		
教 科 書	使用せず(プリント使用)		
補 助 教 科 書 等	『Origins of CHINESE SCIENCE and TECHNOLOGY』ASIAPAC BOOKS		
参 考 図 書	『中国科学技術史』東京大学出版会 (教員室にあり；閲覧等希望者は申し出ること)		
プログラム目標	(C-3)		
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
・ 科学技術に関する英文で典型的に用いられる基本表現を理解し、活用できるようになる。		中間試験・定期試験(20%)および課題・レポート(5%)で評価する。	
・ 科学技術に関する英文でよく用いられる、数字・数量・単位に関する表現を理解し、活用できるようになる。		中間試験・定期試験(20%)および課題・レポート(5%)で評価する。	
・ 科学技術に関する英文でよく用いられる語彙を身につける。		中間試験・定期試験(20%)および課題・レポート(5%)で評価する。	
・ 科学技術に関する英文の内容を理解するためのリーディング能力を身につける。		中間試験・定期試験(20%)および課題・レポート(5%)で評価する。	
履 修 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高専準学士課程において学習した英文法、英単語・熟語を復習し、身につけておくことが肝要である。授業中の課題をきちんとこなすことで実力がつく。 ・ 不明な点は随時質問すること。 ・ 工業英検2級に合格できる能力を身につけることを目標とする。 		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
<ul style="list-style-type: none"> ・ Four Great Inventions ・ Astronomy ・ Geography ・ Mathematics ・ Agriculture and Industry 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 羅針盤、製紙、印刷技術、火薬に関する英文 ・ 天文学に関する英文 ・ 地学に関する英文 ・ 数学に関する英文 ・ 農業、工業に関する英文 		3 3 3 3 3
後期中間試験	後期中間試験までの学習内容		1
<ul style="list-style-type: none"> ・ Engineering Marvels ・ Architecture and Engineering ・ Other Inventions ・ Great Ancient Scientists 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土木工学に関する英文 ・ 建築に関する英文 ・ その他の発明に関する英文 ・ 中国の科学者に関する英文 		4 4 3 3
後期定期試験	後期中間試験以降の学習内容		—
合計授業時間数(後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	後期中間試験および定期試験を実施し、試験成績(2回の試験の平均点)を80%、課題(レポート)の成績を20%として評価する。		

「技術英語 II」 シラバス

授 業 科 目		技術英語 II	
開 設 学 科 学 系	電子制御工学科	区 分 ・ 単 位 数	専門共通・必修・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全専攻2年・前期	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	Dimensions, Formulae, Movement, Assignment, Definition, Comparison, Reporting, Experiment, Conclusions		
関 連 科 目	英語総合、技術英語 I		
担 当 教 員	橘川 五郎		
連 絡 先 (オ フ ィ ス ・ ア ー)	事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	小林忠夫ほか著『Basic English for Science』南雲堂、1999年、1995円(+税)		
補 助 教 科 書 等	教科書で不十分な項目については適宜プリントを配布し補足する。		
参 考 図 書	深山晶子ほか著『テクニカルイングリッシュの基礎と演習』研究社、2002年、1700円(+税)		
プ ロ グ ラ ム 目 標	(C-3)		
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
<ul style="list-style-type: none"> 英語の論文や特許、マニュアルに用いる特徴的な英語表現に慣れ理解できるようにする。授業ではCDやテープを用いてヒアリング能力向上もめざす。 TOEICで500点以上をとれる語彙を獲得する。 		課題レポートおよび定期試験を実施し、課題レポートで70%、定期試験で30%とし、それらを合計する。	
履 修 上 の 注 意	英字新聞・英語雑誌・TV・ラジオ・録音教材を用いて毎日学習するように心がけて欲しい。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時 間 数
・ 技術表現	・ Dimensions, Angles and Lines, Formulae, Position, Movements and Actions, Qualities of Materials, Classification, More Description, Instructions and Explanations,		8
・ 構文	・ Cause and Reason, Comparison and Contrast, Probable and Hypothetical Result, Possible Cause and Result, Reporting Actions, Stating Conclusions, Describing an Experiment, Stating Results, Describing Apparatus & Experiment, Consolidation		8
前期中間試験	中間試験は実施しないが、課題レポートは毎回課す		—
・ 実験レポートの書き方	・ Reporting Action, Conclusions, Apparatus and Experiment		10
・ 論文と特許の書き方	・ 論文の書き方、特許の書き方		4
前期定期試験	全体の学習内容からの定期試験		—
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	毎回の課題レポートおよび定期試験を実施し、課題レポートで70%、定期試験で30%とし、それらを合計して評価する。		

(出典 平成 24 年度専攻科シラバス 46 頁)

資料 5 - 5 - ③ - 6

専攻科生の平成 24 年度海外派遣実績

学校名	派遣先国	派遣先機関	参加人数(学年別)				研修等内容(複数回答可)						
			本科4	本科5	専攻1	専攻2	1	2	3	4	5	6	場合具体
木更津	タイ	Phang-nga Technical College		1	1			○		○		○	国際会議
木更津	タイ	スイスホテル・コンコルド・バンコ			1	1		○		○		○	国際シンポジウム
木更津	ドイツ	Goethe-Institut (フランクフルト)		1				○		○		○	ドイツ語オリンピック本戦
木更津	ドイツ	Goethe-Institut (シュペービッシュ・ハル)	2				○		○	○			
木更津	ドイツ	Goethe-Institut (上海)	1	1			○		○	○			
木更津	台湾(中華)	國立聯合大學		1	1			○		○		○	国際シンポジウム
木更津	大韓民国	釜山大学ほか				1		○					

(出典 総務課資料から作成)

資料 5 - 5 - ③ - 7

平成 24 年度専攻科等研究発表旅費支出一覧

支給月日	専攻学年	氏名	支出金額	発表場所	備考
2012/4/16	ME・2		50,000円	クアラルンプール(マレーシ	交通費 NO.9
7月2日	CC・1		4,860円	パシフィコ横浜アネックスホ	交通・参加費No70
8月27日	ME・2		7,640円	千葉工業大学	交通・参加費No128
8月27日	ME・2		7,640円	千葉工業大学	交通・参加費No128
9月3日	C・5		10,000円	立命館大学びわこさつきキ	交通費 NO.129
9月18日	C・1		10,000円	名古屋大学東山キャンパ	交通費 NO.151
9月18日	C・2		10,000円	〃	交通費 NO.151
9月18日	C・2		10,000円	近畿大学工業高等専門学	交通費 NO.152
9月24日	ME・1		7,315円	山口大学吉田キャンパス	参加費 No.160
9月24日	ME・1		3,000円	愛媛大学 城北地区	参加費 No.161
2012/10/	CC・1		2,560円	土木会館 四谷1丁目	参加費 No.189
11月28日	DJ・2		10,000円	京都大学吉田キャンパス	交通費 No.223
12月6日	DJ・1		10,000円	日本大学理工学部八海山	交通費 NO.227
12月6日	DJ・2		10,000円	日本大学理工学部八海山	交通費 NO.227
12月6日	ME・2		2,000円	日本大学理工学部八海山	参加費 NO.228
12月6日	ME・2		2,000円	日本大学理工学部八海山	参加費 NO.228
12月6日	ME・2		2,000円	日本大学理工学部八海山	参加費 NO.228
12月6日	ME・2		2,000円	日本大学理工学部八海山	参加費 NO.228
12月6日	M・5		5,640円	千葉工業大学津田沼キャ	交通・参加費No232
1月10日	ME・1		50,000円	英国リバプール大学(英国	交通費 No.248
1月10日	ME・1		50,000円	英国リバプール大学(英国	交通費 No.248
3月4日	DJ・2		10,000円	東北大学川内キャンパス	交通費 No.318
3月4日	DJ・2		10,000円	東北大学川内キャンパス	交通費 No.318
3月11日	C・5		10,000円	宇都宮大学陽東キャンパ	交通費 No.320
〃	C・5		10,000円	宇都宮大学陽東キャンパ	交通費 No.320
〃	C・5		10,000円	宇都宮大学陽東キャンパ	交通費 No.320
3月13日	C・5		10,000円	宇都宮大学陽東キャンパ	交通費 No.326
3月13日	CC・2		10,000円	宇都宮大学陽東キャンパ	交通費 No.326

(出典 後援会資料から作成)

e-ラーニング教材

e ラーニング英語学習システム

ALC NetAcademy2

— 初中級コース プラス —

を導入しました！



これは Web を使って英語を自学自習するためのシステムです。**4年生以上(専攻科生を含む)の学生であれば誰でも利用することができます。学内からだけでなく学外からもアクセス可能です。**「英語の授業を履修していない学生」や「更なる英語力アップを望んでいる学生」は積極的に利用して下さい。利用の際は、「ALC NetAcademy2 利用について」を参考して下さい。

不明な点等がある場合は、英語科教員まで問い合わせして下さい。

(出典 英語科配布資料)

(分析結果とその根拠理由)

他専攻科目、他の高等教育機関の授業科目を単位認定する規程を設け、学生の多様な学習ニーズに応えられる体制を取っている。また社会から要請される実践的な能力、国際的な視野を養うためのインターンシップをはじめとする授業科目や支援制度を整えている。

以上のことから、教育課程の編成又は授業科目の内容において学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているといえる。

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程で開講されている授業の形態は講義、演習、実験、実習、研究に分類される。教育の目的に照らして専門分野の工学的現象や問題の解析及び解決能力を育成するために、3専攻とも特別研究14単位360時間、特別実験2単位90時間、特別演習4単位120時間を割り当てている（資料5-5-②-2，資料5-6-①-1）。また科目の教育内容を考慮して共通専門科目の問題解決技法（資料5-6-①-2），技術論（資料5-6-①-3）を演習科目（合計2単位），インターンシップ（資料5-5-③-2）を実習科目（2単位）としている。講義以外の科目は24単位（うち必修21単位）と修了要件の3分の1以上を占める。

教員に対するアンケートをもとに、専攻科の授業で行われている学習指導法の工夫の例を示す（資料5-6-①-4）。

資料5-6-①-1 (1/2)

H24 年度前期専攻科時間割

平成24年度前期 専攻科 授業時間割表 2012/4/3修正版

学年	専攻科 1年			専攻科 2年			
担任	ME	DJ	CC	ME	DJ	CC	
曜日	(上原)	(栗本)	(島崎)	(高橋M)	(鈴木D)	(石川C)	
月	1	応用化学特論 (専A) 吉井		創造設計工学 (専B) 輪田			
	2	応用物理特論 (専A) 高橋邦			通信工学 (専B) 泉	特別演習Ⅱ (専ゼ) 湯谷	
	3	材料力学通論 (専A) 高橋秀		特別研究Ⅱ	情報通信工学 (専B) 白木		
	4	特別演習Ⅰ (ネ) 大橋・泉		特別演習Ⅱ (マB) 高橋秀・板垣			
	5	特別研究Ⅰ		特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	
	6	ME全教員		CC全教員	ME全教員	DJ全教員	CC全教員
	7						
	8						
火	1	問題解決技法 (専AB)		特別演習Ⅱ (マA) 柏木	システム制御 (マB) 岡本D	応用地盤工学 (専ゼ) 鬼塚	
	2	英語総合 (講2) 小澤		現代文明 (マB) 武長			
	3	特別研究Ⅰ		特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ
	4	特別研究Ⅰ		特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱ
	5	ME全教員		CC全教員	ME全教員	DJ全教員	CC全教員
	6						
	7						
	8						
水	1	特別演習Ⅰ (専B) 黄野	半導体デバイス (講1) 鈴木聡		磁性材料工学 (専A) 上原		
	2	回路工学 (マC=SCS) 石川E		環境化学特論 (視) 相川			
	3	可視化情報工学 (専B) 石出	特別実験 DJ各教員	特別実験 CC各教員	可視化情報工学 (専B) 石出	特別研究Ⅱ DJ全教員	特別研究Ⅱ CC全教員
	4	特別研究Ⅰ			特別研究Ⅱ		
	5	ME全教員			ME全教員		
	6						
	7						
	8						
木	1	特別研究Ⅰ		特別演習Ⅰ (専ゼ) 石川C	技術論 (専A) 橋川・栗本・上村		
	2	ME全教員					
	3	半導体物性 (専B) 岡本保	特別研究Ⅰ DJ全教員	応用構造工学 (専A) 石井建	半導体物性 (専B) 岡本保	特別研究Ⅱ DJ全教員	特別研究Ⅱ CC全教員
	4	特別研究Ⅰ		特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ	特別演習Ⅱ	特別研究Ⅱ
	5	ME全教員		CC全教員	ME全教員	特別演習Ⅱ (専B) 栗本・鈴木	
	6						
	7						
	8						
金	1		数値解析基礎論 (専B) 和田	環境生物工学 (専ゼ) 上村	技術英語Ⅱ (専A) 橋川		
	2	システム制御工学 (専A) 内田	特別研究Ⅰ DJ全教員	特別研究Ⅰ CC全教員	システム制御工学 (専A) 内田	特別研究Ⅱ DJ全教員	特別研究Ⅱ CC全教員
	3						
	4	特別研究Ⅰ			特別研究Ⅱ		特別研究Ⅱ
	5	ME全教員			ME全教員		
	6						
	7	特別研究Ⅰ			特別研究Ⅱ		
	8	ME全教員			ME全教員		

授業時間 1時限：8:50-9:35 5時限：13:00-13:45 (化)化学実験室、(専A)専攻科講義室A、(専B)専攻科講義室B、(専ゼ)専攻科ゼミ室
 2時限：9:40-10:25 6時限：13:50-14:35 (ネ)ネットワーク情報センター、(視)視聴覚室
 3時限：10:35-11:20 7時限：14:45-15:30 (マA)マルチメディア講義室A、(マB)マルチメディア講義室B、(マC)IBSCS講義室
 4時限：11:25-12:10 8時限：15:35-16:20 (講2)第2講義室、(計)情報工学科計算機演習室、(回)情報工学科情報回路実験室

資料 5-6-①-1 (2/2)

H24 年度後期専攻科時間割
平成24年度後期 専攻科 授業時間割表

学年	専攻科 1年			専攻科 2年			
担任	ME	DJ	CC	ME	DJ	CC	
曜日	(上原)	(栗本)	(島崎)	(高橋M)	(鈴木D)	(石川C)	
月	1	人間と文化 (専B) 加藤		地震防災工学通論 (専A) 鬼塚			
	2						
	3	特別実験 ME 教員	特別実験 DJ 教員	特別研究 I CC 教員	環境工学特論 (CAD) 島崎		
	4				特別研究 II ME 教員	特別研究 II DJ 教員	特別研究 II CC 教員
	5		特別研究 I DJ 教員	構造数値解析学 (CC) 佐藤			
	6						
	7						
	8						
火	1	応用数学特論 (講5) 関口		特別演習 II (専A) 柏木	特別演習 II (専B) 鈴木・栗本	特別演習 II (専ゼ) 湯谷・大久保・岐美	
	2						
	3	コンピュータ科学 (専B) 丸山・和崎		技術倫理 (マA) 平安			
	4	特別研究 I ME 教員	学習制御 (専A) 鴛田	特別演習 I (専ゼ) 石川C	特別研究 II ME 教員	特別研究 II DJ 教員	特別研究 II CC 教員
	5						
	6						
	7						
	8						
水	1	技術英語 I (講2) 荒木		集積回路工学 (専A) 橘川			
	2						
	3	環境工学通論 (専A) 湯谷		特別研究 II CC 教員			
	4	特別演習 I 石出, 伊藤, 石川	特別研究 I DJ 教員	特別研究 I CC 教員	特別研究 II ME 教員	特別研究 II DJ 教員	
	5	特別研究 I ME 教員					
	6						
	7						
	8						
木	1	オプトメカトロニクス工学 (専B) 小田	特別演習 I (計) 丸山	オプトメカトロニクス工学 (専B) 小田	応用材料工学 (講4) 青木		
	2						
	3	材料学通論 (マB) 丸岡		特別研究 II ME 教員	数理研'リング' (専B) (天摩)	特別研究 II CC 教員	
	4	特別研究 I ME 教員	ヒューマンインターフェイス (専B) (回) 栗本米村	特別研究 I CC 教員	特別演習 II (専A) 高橋板垣	特別研究 II DJ 教員	
	5						
	6						
	7						
	8						
金	1	電気機械エネルギー変換工学 (監) 大澤	ソフトウェア工学 (回) 齋藤	環境情報・保全工学 (専A) 大木・石川	電気機械エネルギー変換工学 (監) 大澤	特別研究 II CC 教員	
	2						
	3						
	4						
	5			特別実験 石井健			
	6	特別研究 I ME 教員	特別研究 I DJ 教員				
	7			特別研究 II ME 教員	特別研究 II DJ 教員		
	8						

授業時間 1 時限 : 8:50-9:35 5 時限 : 13:00-13:45 (化) 化学実験室, (専A) 専攻科講義室A, (専B) 専攻科講義室B, (専ゼ) 専攻科ゼミ室A
2 時限 : 9:40-10:25 6 時限 : 13:50-14:35 (ネ) ネットワーク情報センター, (SCS) SCS講義室
3 時限 : 10:35-11:20 7 時限 : 14:45-15:30 (マA) マルチメディア講義室A, (マB) マルチメディア講義室B
4 時限 : 11:25-12:10 8 時限 : 15:35-16:20 (講5) 第5講義室, (視) 視聴覚室

(出典 平成 24 年度時間割から作成)

「問題解決技法」シラバス

授 業 科 目	問題解決技法		
開設学科学系	全学科・学系	区 分 ・ 単 位 数	専門共通・必修・1単位
受講年科・学期	全専攻1年・前期	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	発想法、問題解決、創造力		
関 連 科 目	特別研究、特別実験、特別演習		
担 当 教 官	栗本 育三郎、篠村 朋樹、内田 洋彰、板垣 貴喜、石井 孝一、石川 雅之、伊藤 操、泉 源、白木 厚司、湯谷 賢太郎、大久保 努		
連絡先(オフィスアワー)	各教員の教員室（できたら、事前にメールで予約をお願いしたい）		
教 科 書	特に指定しない。		
補 助 教 科 書 等	川喜多二郎著『発想法』（中公新書、中央公論社、1967年、693円(税込) 川喜多二郎著『続・発想法』（中公新書、中央公論社、1970年、861円(税込)）		
参 考 図 書			
プログラム目標	(D)		
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
・グループエンカウンター、KJ法を理解し実施できる。		レポート(30%)で評価する。	
・ポスター等を使った効果的なプレゼンテーションができる。		発表(10%)で評価する。	
・テーマ選定から問題解決技法の一連の流れを修得する。		レポート(50%)、発表(10%)で評価する。	
履 修 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループエンカウンター法、KJ法等のシステム思考法を学び、チームとしての問題解決演習を実施するため、特に異分野間を意識した、チーム構成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ドキュメント作成能力が必要となる。 ・演習では、様々な場面で出てくる諸問題を準学士課程で培った技術や知識を駆使して、積極的に解決するように心がけその時々での対処法を記録・整理することが重要である。 ・プロジェクト実習では、具体的な課題（条件）に対して、テーマ設定、計画の立案、その条件を克服する解決策の発見、実施、その考察と発表のための整理が重要である。 		
授 業 計 画			
項 目	内 容		時間数
・ガイダンス、グループエンカウンター	・概要説明、グループ作り、パーソナルカード作成、グループエンカウンター		2
・KJ法入門	・KJ法実習とブレインストーミング		2
・プレゼンテーション演習	・仮想学会：ポスターセッションと招待講演		2
・アイデア創生演習	・アイデアの仮想工房：おもちゃの設計		2
・プレゼンテーション演習	・アイデアの発表会：おもちゃのアイデア発表会		2
・問題解決演習	・創造的思考パターンの分析と試案の作成		2
・プロジェクトアドベンチャー	・体育館での身体活動を通じたコミュニケーション：身体を使って、信頼と協力により条件の克服による問題解決		2
・プロジェクト実習ガイダンスと事例紹介	・プロジェクト実習のガイダンス、班分け、問題解決事例の紹介		2
・プロジェクト実習(1)～(5)	・グループで協力して、テーマに関する問題解決演習を実施		10
・プロジェクト実習(6)	・プロジェクト実習のまとめと発表準備		2
・発表会とアンケート	・プロジェクト実習発表会とアンケート実施、反省会		2
合計授業時間数（前期の定期試験は除く）			30
成績の算出方法	レポート(80%)、発表(20%)として評価する。		

(出典 平成 24 年度専攻科シラバス 13 頁)

「技術論」 シラバス

授 業 科 目	技術論		
開設学科学系	全専門学科	区 分 ・ 単 位 数	専門共通・選択・1単位
受講年科・学期	全専攻2年・前期	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	技術史, モノづくり, 知的財産権, 電子ジャーナル, 人工物, 環境問題		
関 連 科 目	現代と文明, 技術倫理, 専門科目全般		
担 当 教 官	橘川 五郎 (主担当), 栗本育三郎, 上村 繁樹		
連絡先(オフィスアワー)	事前に各教員へメールで予約をお願いしたい。 橘川 栗本 上村)		
教 科 書	特に指定しない。		
補助教科書等			
参 考 図 書			
プログラム目標	(A-2), (D-1)		
	達 成 目 標 (合格点)	各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
	・技術史についてその概要を理解し説明することができる。	レポート(33%)で評価する。	
	・技術開発での知的財産権利化の仕組みを理解し, 論文・特許情報検索手法を修得する。	レポート(34%)で評価する。	
	・技術と環境問題についての認識を深め, 科学的に環境を見る眼を修得する。	レポート(33%)で評価する。	
履 修 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> ・技術とは何か, モノ作りとは何か, 技術と人間社会との係わり合いの視点から考察することを勧める。 ・技術開発成果の権利化としての知的財産権, 特に特許制度の仕組みについて理解を深める。 ・科学技術が人間の生活を快適にすると共に, その負の側面にも目を向けて科学技術を洞察すること勧める。 		
授 業 計 画			
	項 目	内 容	時間数
	・授業ガイダンス	・技術論のガイダンス, 各テーマの概要説明	2
	・もの作りの形成とその歴史	・技術とは何か, どのように歴史的に形成されたか	4
	・技術開発と知的財産権	・技術開発成果の権利化, 特許制度について ・電子ジャーナル利用法, 論文・特許情報検索について	4
	・環境と技術	・エネルギー, 資源, 食料問題における環境と技術	4
	・授業座談会とアンケート	・座談会とアンケート	2
	合計授業時間数 (前期の定期試験は除く)		16
成績の算出方法	各担当者のレポートを総合して評価する。		

(出典 平成 24 年度専攻科シラバス 51 頁)

学習指導法の工夫の例（教員アンケートの結果）

専攻・学年	科目	工夫の内容
共通・1	創造設計工学	工学的思考方法の学習 学生は、専門知識について学ぶ機会が多いが、その知識を生かし、創造力を必要とする実際的な問題を解く具体的手法については、これまでほとんど学習していない。そこで実際の、工学的な問題を学生に与え、専門家として問題をどのような段階に分けて処理するか、問題を解く方法そのものについて学習させる事を試みている。 工学的問題は、初期においてかなりあいまいな形で与えられることが多いので、その中において自分で解くべき問題を具体的に設定すること。設定した問題を解く計画を立てること。計画を実行し、得られ結果を考察すること。さらに得られた知見が将来どんな形で再現できるかを整理することなどの手法を繰り返し経験させ学ばせる。授業では、学生同士や教師と討論をしながら作業を進めていく。似たような問題を繰り返し解く経験をさせ整理させていく。
共通・1	環境工学痛論	概論的な講義についてはパワーポイントを多用し、学術性よりはむしろ学生の興味を引く内容を重視している。
ME・1	材料学通論	視聴覚教材(市販品およびオリジナル)を多用したり、グループ討論でモチベーションを高めるように努力している
ME・1	材料学通論	授業と無関係の私語と授業にコミットしているからこそ生じる私語とを区別し、授業にコミットしているからこそ生じる私語は授業に取り込むことによって、学生のモチベーションを高めている
ME・1	生産工学	少人数授業なので、対話・討論型授業及び輪講の形で授業を展開された。事前に1人1人に発表テーマを決めて、毎週1人が決まったテーマで発表をする、発表の内容について質疑・議
ME・1	エネルギー工学	元々専攻科目で少人数なので、できる限り対、ディスカッションを行う。
ME・2	オプトメカトロニクス工学	最新の技術情報を提供するために、授業の内容に関連した雑誌や新聞記事の切り抜きを、資料として配布することがある。
DJ・1	ヒューマンインタフェース	認知科学を学ぶためには、脳機能を追求する様々な実験を理解する必要があるが、実際に実験をやってみないと分からない部分が多いため、実際に実験プログラムを作成し、学生には被験者として参加してもらい、実験を体感し、結果として得られる知見への理解度を深めてもらう
DJ・2	システム制御	制御系設計の理解を深めることを目的として、Scilabを使ったシミュレーション課題を導入した。

(出典 点検・評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

専門分野の工学的現象や問題の解析及び解決能力を育成するために、演習、実験、実習、研究科目を卒業要件の3分の1以上の単位数開設している。教員に対するアンケート結果から討論・対話、発表、実験などの工夫を取り入れた授業を展開していることが分かる。

以上のことから、教育の目的に照らして講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているといえる。

観点5-6-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

非常勤講師を含めた全教員が、「授業担当者の手引き－平成25年度版－」(資料5-2-②-1)に基づき、学習内容・達成目標・評価方法を含め、教育課程の趣旨に沿った適切なシラバス(資料5-6-②-1)を作成している。

専攻科生を対象としたアンケート結果(資料5-6-②-2)から、9割近い学生がシラバスを年度・学期の始めに確認しており、さらに学年・学期の途中、試験前などにもシラバスを確認すると答えた学生が半数以上いる。またシラバスを確認する目的も、科目選択の参考、授業内容を調べる、達成目標や評価方法を調べるなど多岐にわたり、十分にシラバスを活用していることが分かる。一方、教員を対象としたアンケートの結果(資料5-2-②-4)から、ほとんどの教員が授業や成績評価をシラバスに沿って行っていることが分かる。

1単位の履修時間が、授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目については、各教員が授業外のレポートを課すことなどによってその実質化を図っている(資料5-6-②-3)。平成25年度版からは専攻科のシラバスに自学自習に関する記述欄を設けて(資料5-6-②-1)科目ごとの自習時間、具体的な自習内容等の学生への周知を徹底している。

「学習制御」シラバス

授 業 科 目	学習制御		
開 設 学 科 学 系	電子制御工学科	区 分 ・ 単 位 数	専門専攻・選択・2単位
受 講 年 科 ・ 学 期	DJ 専攻 1 年 ・ 後 期	授 業 形 態	講義
キ ー ワ ー ド	適応制御、学習制御、ニューラルネットワーク、強化学習、遺伝的アルゴリズム		
関 連 科 目	システム制御、計測制御システム		
担 当 教 員	鴫田正俊		
連 絡 先 (オ フ ィ ス ・ ア ー)	事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。)		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書	J. A. Franklin, T. M. Mitchell, S. Thrun, "Recent Advances in Robot Learning", Kluwer Academic Print on Demand, (1996/08) ISBN: 0792397452		
プ ロ グ ラ ム 目 標	(B-2)		
	達 成 目 標 (合格点)	各達成目標の評価方法 (評価の割合/重み)	
	・ パラメータ同定手法、適応制御系の基本概念を理解でき簡単な系の設計ができる。	後期定期試験(25%)およびレポート(10%)で評価する。	
	・ ロボットにおけるD型、P型学習手法を理解できる。	後期定期試験(25%)で評価する。	
	・ ニューラルネットワークの学習、遺伝子アルゴリズムの手法を理解でき、実際にプログラミングできる。	後期定期試験(20%)およびレポート(10%)で評価する。	
	・ ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズムを用いた制御系を設計できる。	レポート(10%)で評価する。	
履 修 上 の 注 意	具体的な応用例を通じて理論の理解を深めるためプログラミングによる演習(レポート課題)を行うので、C言語等を習得しておくこと。		
自 学 自 習 に つ い て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業90分に対して、それぞれ90分以上の予習、復習を行うこと。 ・ 具体的な応用問題(1題300分程度のレポート)を3題課すので復習に役立てること。 		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等	時 間 数	
・ 適応制御	・ パラメータ同定手法、モデル規範型適応制御、セルフチューニングレギュレータの基本的概念を学ぶ。	4	
・ 適応制御系の設計	・ 数値モデルを使用し、適応制御系を具体的に設計しシミュレーションによって確認する。	6	
・ 反復学習制御	・ ロボット・マニピュレータなどに適用される反復学習制御手法について学ぶ。	6	
・ ニューラルネットワーク	・ ニューラルネットワークの基本概念およびその学習方法について学ぶ。	4	
・ 遺伝的アルゴリズム	・ 遺伝的アルゴリズムの基本的概念について学ぶ。	4	
・ 制御系の設計	・ 数値モデルを使用し、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズムを用いた制御系を設計しシミュレーションによって確認する。	6	
後期定期試験	後期中間試験以降の学習内容	-	
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)		30	
成績の算出方法	期末試験を実施し、試験成績を70%、レポートの成績を30%として総合評価する。		

(出典 平成 25 年度専攻科シラバス 40 頁)

資料5-6-②-2

シラバスの活用状況に関するアンケート結果（専攻科課程）

	1	2	3	4	5
21. どのようなときにシラバスを確認しますか (いくつでも選択可)					
1 年度・学期の始め	68	39	40	22	4
2 年度・学期の途中					
3 試験前					
4 年度・学期終了後					
5 ほとんど確認しない					
22. どのような目的でシラバスを確認しますか (いくつでも選択可)					
1 科目選択の参考にする	63	53	6	64	27
2 授業内容を調べる					
3 事前学習の参考にする					
4 達成目標や評価方法を調べる					
5 教科書・補助教科書等を調べる					

(出典 点検・評価委員会資料)

資料5-6-②-3

授業外の学修時間を実質化する対策に関する教員アンケート結果

14. 1単位の履修時間が授業時間以外の学修等を合わせて45時間である授業科目を担当している場合、それを実質化するために、どのような対策を講じていますか(いくつでも選択可)

1. 学生に自習時間の必要性を周知する
2. 授業時間では終わらず自学自習を必要とする課題を課す
3. 小レポート等の課題を課す
4. 試験以外にレポートを提出させ成績評価に含める

その他(具体的に)

非常勤

選択肢	回答数	その他具体的に
1	0	
2	2	・非常勤講師の交流の場及び常勤職員との公的交流の場が全くない。 ・他の先生方をどの様に教えているのかほとんど知らない。
3	0	・教育方針とか教育目標とかを文章で渡されるだけでは心もとない。
4	1	

常勤

選択肢	回答数	その他具体的に
1	31	・レポート提出は授業内容について復習させるため
2	23	・現状では該当する科目を担当していませんが、将来担当する機会があれば、上記の全項目を実施したいと思います。
3	22	・復習を行うため、ノートを各自作り、提出させ、その達成度状況により、評価も行っている。
4	35	・学生に学習ノートの作成を促し、テストに作成したノートの持ち込みを許可した。 ・授業時間で扱っていない内容(教科書には記述あり)も試験に出す。 ※学生には周知しておく。 ※教科書を読んで理解するのに必要な知識については全て授業内で。

(出典 点検・評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

全授業科目について「授業担当者の手引き」に基づき、学習内容・達成目標・評価方法を明示したシラバスが作成されている。また、履修時間に授業時間以外の学修を含む科目については、自学自習時間もシラバスに明記している。シラバスの活用について、教員はシラバスに沿った授業、成績評価を行っており、学生も適切にシラバスを確認していることが分かった。

以上のことから、教育課程の編成の趣旨に沿ってシラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているといえる。

観点5-6-③： 創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

(観点に係る状況)

本校では、学生の創造性を育む教育のために、平成18年度から全専攻共通科目として「問題解決技法」(資料5-6-①-2)を開設し、平成23年度からは必修科目に改めた(資料5-6-③-1)。全専攻共通科目である点を生かして専攻の異なるメンバーによるチームを組ませて「プロジェクト実習」を行わせる工夫を行っている(資料5-6-③-2)。平成24年度は「全国高専デザインコンペティション」への出品を課題として与え、1チームが「ものづくりデザイン部門」で審査員特別賞を受賞した(資料5-6-③-3)。平成25年度は、地域共同テクノセンターの協力を得て、プロジェクト実習の課題テーマを地元企業から募ることで、より実践的な実習にするための改善を行っている(資料5-6-③-4)。

専攻科課程におけるインターンシップを専門共通の選択科目として開設し、実社会での実務経験を積む機会を提供している(資料5-5-③-2)。

平成 24 年度「問題解決技法」授業配布資料(1)

問題解決技法 (1) 資料(1) 2012.4.17

平成 24 年度 問題解決技法 実施計画とテーマ・内容・場所

実施回	実施月日	テーマと内容	実施場所
1	4月17日	ガイダンス、「パーソナルカード作成」と「グループエンカウンター」	専攻科講義室 A・B
2	4月24日	「KJ法入門」と「ブレインストーミング」	専攻科講義室 A・B
3	5月8日	仮想学会「ポスターセッションと招待講演」	専攻科講義室 A・B
4	5月15日	アイデアの仮想工房「おもちゃの設計」	専攻科講義室 A・B
5	5月22日	アイデアの発表会：「おもちゃアイデアの発表」	専攻科講義室 A・B
6	5月29日	ショックレー創造的思考パターン「分析と試案作成」	専攻科講義室 A
7	6月5日	プロジェクト実習(1) 各班ごと	担当教員実験室
8	6月12日	「プロジェクトアドベンチャー」：身体活動を通じたコミュニケーション、信頼と協力による条件克服による問題解決	第1体育館
9	6月19日	プロジェクト実習(2) 各班ごと	担当教員実験室
10	6月26日	プロジェクト実習(3) 各班ごと	担当教員実験室
11	7月3日	プロジェクト実習(4) 各班ごと	担当教員実験室
12	7月10日	プロジェクト実習(5) 各班ごと	担当教員実験室
13	7月17日	プロジェクト実習(6) 各班ごと まとめと発表準備	担当教員実験室
14	9月4日	プロジェクト実習発表会(1)	専攻科講義室 A
15	9月11日	プロジェクト実習発表会(2), アンケートほか	専攻科講義室 A
16	9月18日	予備日	専攻科講義室 A
17	9月25日	予備日	専攻科講義室 A

問題解決技法の概要

区分：専門共通の必修科目，1単位， 実施形態：演習科目， 開講対象：専攻科1年

担当教員：

栗本 育三郎（主担当）、篠村 朋樹、内田 洋彰、板垣 貴喜、石井 孝一、石川 雅之、伊藤 操、泉 源、白木 厚司、湯谷 賢太郎、大久保 努

開講期間：前期， 開講曜日：火曜日， 時限：1～2 時限(8:50～10:25)

実施履歴：7 回目（必修科目、3 年目） 開始年度：平成 18 年度

(出典 平成 24 年度「問題解決技法」授業配布資料)

平成24年度「問題解決技法」授業配布資料(2)

問題解決技法(14) 2012.9.4

平成24年度専攻科 問題解決技法「プロジェクト実習発表会(1)」

日 時: 平成24年9月4日(火) 8時50分～10時25分

場 所: 第3講義棟(1階、専攻科講義室A)

プログラム(1)

8:50 発表会の諸注意 (発表時間: 発表 8分、質疑応答 4分)

番号	発表時間	テ ー マ(チーム名)	学 生(専攻)	指導教員	備考
1	9:00～ 9:12	泳げチーバくん!! with ピーナッツ!! (同上)	チーム(1-1) ■■■■:CC ■■■■:ME ■■■■:DJ ■■■■:DJ	栗本 育三郎	
2	9:13～ 9:25	The Fishing Ball (グラマッピ)	チーム(2-1) ■■■■:CC ■■■■:DJ ■■■■:DJ	石井 孝一 大久保 努	
3	9:26～ 9:38	ピーナッツキャッチャー (ラコェンドッグ)	チーム(3-1) ■■■■:ME ■■■■:DJ ■■■■:ME ■■■■:DJ	板垣 貴喜 湯谷 賢太郎	
4	9:39～ 9:51	こしふりちーばくん (チーバくんに こしを振らせ隊)	チーム(4-1) ■■■■:ME ■■■■:ME ■■■■:DJ	石川 雅之 内田 洋彰	
5	9:52～ 10:04	チバリョーシカ (ちばPRの会)	チーム(5-1) ■■■■:ME ■■■■:CC ■■■■:DJ	白木 厚司 泉 源	
6	10:05～ 10:17	落花生割りドン (六班A)	チーム(6-1) ■■■■:ME ■■■■:ME ■■■■:CC	伊藤 操	

10:20～10:25 評価用紙(発表会、作品)の記入・提出、次回(9月11日)の連絡

(出典 平成24年度「問題解決技法」授業配布資料)

全国高専デザインコンテスト表彰・審査結果一覧



* 表彰・審査結果一覧 *

| デザコンTOPページへ |

各部門の「表彰・審査結果一覧」を提示します。入賞したチームの皆さん!たいへんおめでとうございます!

2012.11.19. → 11.21.

 環境デザイン部門「身近なエネルギーで心豊かな生活環境を」

賞	高専名	作品名	チーム名
最優秀賞「文部科学大臣賞」	鉦路高専	ふいと×ほっとらいと	Spreading Light
優秀賞	徳山高専	豪雪地帯の家	卓球+剣道部+1
優秀賞	石川高専	うみまる	石渡研究所
審査員特別賞	阿南高専	波力・風力発電でスマート漁業	再生可能エネルギー研究会
審査員特別賞	鳥高専	街角どこでもパラソル	西宮研究室A

 構造デザイン部門「デザイン・コストに配慮した橋～単純支持橋の軽量化コンテスト～」

賞	高専名	作品名	(チーム名はありません)
最優秀賞「国土交通大臣賞」	米子高専	ABS47号	
優秀賞	小山高専	Reinforce After	
優秀賞	松江高専	アッキー	
日刊建設工業新聞社賞	藤城高専	穴の字	
審査員特別賞	新居浜高専	SECTOR	
審査員特別賞	米子高専	撫子☆KTN	

構造デザイン部門の、全チーム成績一覧は、こちらをご覧ください。

【重要】(2013年2月1日)順位表の修正・お知らせ

 空間デザイン部門「EARTHTECTURE 天と地の間に」

賞	高専名	作品名	チーム名
最優秀賞「最優秀賞栃木県知事賞」	小山高専	もっと近く、もっと遠く	R+Y
優秀賞	米子高専	うつろいの砂	村尾・清水
優秀賞	仙台高専	都市の橋	ホワイツ
審査員特別賞	名取高専		
審査員特別賞	明石高専	100年の防波堤	Break Water
審査員特別賞	鳥高専	Der Wirbel 渦	柳川かえで

 ものづくりデザイン部門「元気にさせる地域特産おもちゃ」

賞	高専名	作品名	チーム名
最優秀賞「小山市長賞」	サレジオ高専	江戸線香	bee
優秀賞	豊田高専	願いまして、四目並べ。	そらぼん
優秀賞	鉦路高専	サバクラアニマル	チームアニマル
審査員特別賞	明石高専	NASCER	Fantastic Four
審査員特別賞	木更津高専	落花生割りコロ	六羽

(出典 全国高専デザインコンテスト表彰・審査結果一覧,

<http://www1.oyama-ct.ac.jp/contents/dc2012oyama/dc-results.html>)

平成25年度「企業技術者等活用プログラム」計画書

※整理番号

平成25年度「企業技術者等活用プログラム」計画書

①高専番号	14	②高専名	木更津工業高等専門学校		
③プログラム名称	専攻科PBL科目における共同教育の展開				
(全角20字以内)	副題(サブタイトル) 技術振興交流会会員企業を核とした地域企業との更なる連携強化を目指して				
④キーワード (重要度の高い順に5つ以内)	共同教育、地域産業界、教育コーディネータ、PBL教育				
⑤取組期間	平成25年4月	～	平成26年3月	⑥取組学科等	専攻科全専攻
⑦取組状況	継続	⑧各高専で作成する 年度計画への記載(予定)の有無			有

⑨プログラムの概要
<p>本プログラムは、本校における代表的なPBL (Project Based Learning) 教育の一環として実施している専攻科全専攻第1学年対象の問題解決技法において、地域産業界における種々の課題を授業テーマとして取り組む共同教育を実施することによって、創造的で実践的な資質を涵養するものである。</p> <p>具体的には本校OB教員で構成される教育コーディネータが、木更津高専技術振興交流会会員企業を核とした地域企業を訪問して得られた企業ニーズをテーマとして設定し、異なる出身学科の学生で問題解決グループを構成し、企業側担当者と交流しながら、解決策を提案するものである。</p> <p>また提供を受けた企業ニーズの中で、問題解決技法で取り上げることのできなかった課題については、本校教員に情報提供し、技術相談から共同研究へのマッチングを図ったり、卒業研究や専攻科特別研究のテーマとして取り上げるなど技術振興交流会会員企業を核とした地域企業との更なる連携強化を目指す。</p>

1 プログラムについて

(1) プログラムの特性
<p>(1) 教育の質の充実、地域連携事業推進のための工夫</p> <p>(i) 少人数で課題に取り組む系統的なPBL学習 一つのテーマに対し、異なる出身学科からなる5名程度の学生で問題解決グループを構成し、異なる専門学科の担当教員2名体制で助言を行う。少人数での共同作業となり、グループの一員としての役割意識を促し、コミュニケーションを活性化することができる。</p> <p>(ii) 地域企業等のニーズを実施テーマに設定 学生が取り組むテーマは、平成16年に設立された本校技術振興交流会会員企業を核とする地元企業からのニーズをもとにしたものであり、担当テーマを提供する企業に本プログラム終了後の成果を還元することで、地域貢献に寄与することができる。</p> <p>(2) ものづくり技術力の伝承・発展への対処について 問題解決技法の授業中における企業技術者との交流や、夏季休業期間中における企業現場訪問を通して、普段の授業で学ぶことのできない最新線のものづくり技術力や製造プロセスにふれることができる。</p>

(出典 将来構想検討委員会提出資料)

(分析結果とその根拠理由)

創造性を育むための科目として共通必修科目「問題解決技法」を開設し、「全国高専デザインコンペティション」への出品、実習テーマを地元企業から募るなど、授業の内容や方法の工夫をしている。また、実社会での実務経験を積む機会としてインターンシップを開設している。

以上のことから、創造性を育む教育方法の工夫が図られ、またインターンシップの活用が図られているといえる。

観点5-7-①： 教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程の学習・教育目標(資料5-5-①-1)には、「幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者」という目標を掲げている。この目標にもとづき、「人間と文化」、「現代文明」、「技術倫理」の3科目6単位を一般必修科目として、また「技術論」1単位を専門共通選択科目として開設(資料5-5-②-2)し、教養教育を行っている。

技術職員は、学科からの技術教育支援依頼にもとづいて研究補助・指導を行っている(資料5-7-①-1)。専攻科での修学にふさわしい研究補助・指導を行うため職員自身が研究活動を行っており(資料5-7-①-2)、専攻科学生、指導教員を共著者とする論文発表を行っている(資料5-7-①-3、現地閲覧資料11)。

専攻科の特別研究においては、2名の教員による指導を行っており(資料5-7-①-4)、研究テーマに応じて、主たる指導教員のほかに同学科の教員、同専攻の他学科の教員または他専攻の教員を指導教員としている。これによって複合的な分野においても効果的な研究指導を行える体制になっている。平成23、24年度の修了生では、指導教員が同一専攻の他学科に所属していた例が5件、他専攻に所属していた例が1件であった。

専攻科の研究において技術職員の教育的機能を活用した例、複数教員による指導の例を資料5-7-①-5に示す。

特別研究は2年間の長期にわたり、学生自身が主体となって自主的に研究を進めるように促しながら、かつ必要な指導を行うことが必要になる。そこで研究の計画、実施状況、指導教員によるチェックやアドバイスを「専攻科特別研究状況報告書」にまとめる工夫をしている(資料5-7-①-6、現地閲覧資料12)。


研究テーマの決定にあたっては事前に研究テーマを説明し、相談の期間を設定するなど、十分な指導を行っている(資料5-7-①-7)。他高専との交流により専攻科生の視野を拡大することを目的として、1年生の前期に関東信越地区7高専合同の「赤城合同フレッシュセミナー」を実施している(資料5-7-①-8)。

技術教育支援依頼票の例

No. 1

技術支援依頼書様式1

技術教育支援依頼票(授業等)

学科主任	電子制御工学科	
	鈴木 聡	

提出日	平成 24年 4月 1日
期間	平成 24年度 前期
所属	第二技術班 制御・情報部門
担当技術職員	星野 真紀

番号	支援科目名	学科	学年	実施曜日	週時間(準備時間)	支援内容の詳細(またはシラバス等)	授業担当者	必要な技能等	センター長印	技術長印
1	実験実習 I	D	1	水	2h(2h)	D科「実験実習 I」参照 実習指導・準備・後片付け 実験装置の試作など	伊藤 操	電子工作技能 電気・電子回路		
2	実験実習 III	D	3	水	3h(2h)	D科「実験実習 III」参照 実習指導・準備・後片付け レポート受付 実験装置の試作など	岡本 峰基	電子工作技能 電気・電子回路 情報処理		
3	実験実習 IV	D	4	火	4h(2h+2h)	D科「実験実習 IV」参照 実習指導・準備・後片付け レポート受付・指導 実験装置の試作など	坂元 周作	電気・電子回路		
4	卒業研究	D	5	火 水 木 金	7h(1h)	D科「卒業研究」参照 実習指導・準備・後片付け	大橋 太郎	電子工作技能 回路設計技術 電気・電子回路 情報処理		
5	機械制御入門	D	1	月	2h	D科「機械制御入門」参照 実験実習 I とのタイアップ時の指導・準備・後片付け	沢口 義人	電子工作技能 電気・電子回路		
6	製図	D	2	木	2h	D科「製図」参照 製図用具管理・準備・後片付け	岡本 峰基			

2ページに及んだ場合は、両面印刷をするか綴じて提出をお願いします。

番号	支援科目名	学科	学年	実施曜日	週時間(準備時間)	支援内容の詳細(またはシラバス等)	授業担当者	必要な技能等	センター長印	技術長印
7	専攻科特別実験	DJ	1	水	3h	DJ専攻「特別実験」参照 実験機器管理・準備・後片付け				
8	専攻科特別研究 I	DJ	1	月 火 金	9h	DJ専攻「特別研究 I」参照 実習指導・準備・後片付け		電子工作 回路設計 電気・電子回路 情報処理		
9	専攻科特別研究 II	DJ	2	火 水 木 金	12h	DJ専攻「特別研究 II」参照 実習指導・準備・後片付け		電子工作 回路設計 電気・電子回路 情報処理		
10										
11										
12										
13										

(出典 教育研究支援センター資料)

技術職員の研究活動
平成24年度研究等活動一覧

No.	著書、学術論文等の名称	発表者名	共著・単著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	備考
1	小学生高学年を対象とした音の実験から科学の楽しさを学ぶ試み	立石友二	単著	平成24年3月	平成23年度 神戸大学 実験・実習技術研究会 報告集	
2	溶接の実習環境改善の取り組み	小林裕一郎	単著	平成24年3月	平成23年度 神戸大学 実験・実習技術研究会 報告集 P241-242	
3	硝酸銀溶液噴霧法における硝酸銀溶液の濃度変化による影響	嶋野慶次	共著	平成24年3月	第39回関東支部技術研究発表会 第V部門 V-1	
4	スキャナで撮影した長さ変化供試体の画像から収縮ひずみを求める際の問題	嶋野慶次	共著	平成24年3月	第39回関東支部技術研究発表会 第V部門 V-34	
5	不連続面を含む石膏供試体の一軸圧縮下で破壊挙動と強度特性	嶋野慶次	共著	平成24年9月	土木学会論文集A2分冊（応用力学）特集号 4-11	
6	混和材の混入が硝酸銀溶液噴霧法の結果に及ぼす影響	嶋野慶次	共著	平成24年9月	土木学会 第67回年次学術講演会講演概要集 V-084	
7	コンクリート表面から深さ方向のコンクリート比抵抗の変化	嶋野慶次	共著	平成24年9月	土木学会 第67回年次学術講演会講演概要集 V-018	
8	歯面温度を考慮した各種プラスチック歯車の寿命推定法に関する研究	高橋美喜男	共著	平成24年9月	日本機械学会2012年度年次大会 DVD-ROM講演論文集, S111021	
9	プラスチックねじ歯車の歯面温度（第一報 無潤滑条件の場合）	高橋美喜男	共著	平成24年9月	日本機械学会2012年度年次大会 DVD-ROM講演論文集, S111022	
10	樹脂焼成粉体を配合した射出成形プラスチック歯車の疲労と騒音	高橋美喜男	共著	平成23年3月	日本機械学会関東支部第17期総会講演会講演論文集, PP375-376	

（出典 教育研究支援センター年報第12号）

資料5-7-①-3

専攻科生と技術職員を共著者とする論文発表数

年度	技術職員が筆頭著者	筆頭著者以外
23	1	9
24	1	19

(出典 H23・H24 専攻科特別研究論文集 CD-ROM から集計, 現地閲覧資料 11)

資料5-7-①-4

他専攻に属する複数教員による特別研究指導例

目 次

環境建設工学専攻

番号	特 別 研 究 テ ー マ	指導教員	学生氏名
1	処理水循環型DHSリアクターにおけるフェノールとアンモニア性窒素の同時除去	上村 繁樹 大久保 努	
2	おが粉を取り入れた土系舗装における雑草抑制機構に関する基礎研究	鬼塚 信弘 湯谷賢太郎	
3	日本全国の海湾を対象とした高潮災害危険度評価に関する基礎検討	島崎 彦人 大木 正喜	
4	舗装から人体に与える影響の評価指標に関する基礎研究	鬼塚 信弘 栗本育三郎	
5	画像計測を組み合わせた有限要素解析システムの研究	石井 建樹 佐藤 恒明	
6	農業用ため池における池干し前後の水質の比較	湯谷賢太郎 大久保 努	
7	既存不連続面の配置が脆性材料の強度特性と圧縮破壊挙動へ及ぼす影響	石井 建樹 青木 優介	

(出典 平成24年度専攻科特別研究論文集 CD-ROM)

専攻科の研究指導に関する教員アンケート結果

<p>技術職員の研究支援</p> <p>機械要素関係で博士号を取得した技術専門職員（高橋美喜男さん）の協力により、着実な研究成果を上げている。</p> <p>ポリアセタール（POM）の衝撃特性に関する研究：3人（私も含む）の教員の指導及び工場技術職員の試料づくりの支援により、上述の研究テーマはより一層に研究成果が得られた。</p> <p>専攻科1年生の研究において、あるスペース内に隙間なく試料（PTFE材）を充てんする必要があった。試料の加工を技術職員に依頼し、仕様を満たすものができあがったため研究を進めることができ、国内学会や国際会議における研究発表に結び付いた。</p> <p>実験装置の利用には技術職員の支援が欠かせない</p>
<p>複数教員による研究指導等</p> <p>変形量計測を画像解析にて行う際に、材料の教員から指導いただいた。ただし、副査の教員ではな</p> <p>靱殻由来の炭素粉末を添加したプラスチック歯車に関する研究において、機械工学科高橋教授および高橋技術職員と共同で複数の学生の指導を行い、外部資金の獲得や研究発表など多くの業績を上げることにつながった。</p> <p>機械要素の研究を進める上で振動・騒音の問題を避けることはできない。そこで、振動の専門家である教員（板垣先生）の協力を頂き機械要素の振動・騒音に関する研究が順調に進んでいる。</p> <p>基礎学系・高橋邦夫教授（現名誉教授）と蛍光計測による海苔の生育診断、高効率LED集魚灯の研究開発を共同で実施し、学生の研究指導も連携して行っている。</p> <p>「軽量発泡プラスチック材料の力学特性評価と構造最適化」と題する特別研究において、接着接合関係に詳しい他学科の教員と議論し、研究成果に反映できた。</p> <p>研究室間で共同研究を推進しており、お互いがお互いの指導性をバランスよく指導することで効率的な研究進捗を生んでおり、国内発表だけでなく国際会議などへの採録も実現されている。</p> <p>少子高齢化及び環境の課題を共に解決する土系舗装の開発のテーマは、スポーツ科学・医学から土木工学までの様々な知識や経験が問われる。その中でも人体を計測する専攻科の研究では、環境都市工学科、情報工学科、電子制御工学科の教員と連携し、運動学的手法（筋電位測定等）を用いた研究を行い、学術論文等に掲載されるなどの成果を挙げている。</p>

(出典 点検・評価委員会資料)

資料5-7-①-6 (1/2)

特別研究状況報告書（表紙と3か月分の実施記録例）

専攻科 特別研究状況報告書

「生産システム工学」教育プログラムの養成すべき技術者像

自主自立の精神と国際的視野を持ち、以下の知識及び能力と実践力を備え、
他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者

- (1) 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
- (2) 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
- (3) 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

学習・教育目標

- (A) 人間形成
- (B) 科学技術の修得と応用
- (C) コミュニケーション能力
- (D) 創造力

学籍番号 氏名	
所属専攻名	制御・情報システム工学専攻
指導教員名	白木 厚司 先生

資料5-7-①-6 (2/2)

平成24年度 専攻科 特別研究の計画と記録

※ 自主自立の精神で、月に一度は必ずスケジュールを確認し、計画的な研究遂行に努めること

【1】月 月間スケジュール・・・重要なイベント、課題、達成目標などを記述すること	
日程(日時)	項目
	・学内の発表・抄録提出・審査用論文提出 ・評価実験
研究の記録(実施項目を全て選択)	
<input checked="" type="checkbox"/> 実験(数値実験)	<input type="checkbox"/> 実験等の準備 <input checked="" type="checkbox"/> データ分析 <input checked="" type="checkbox"/> 情報収集
<input type="checkbox"/> 理論の学習	<input checked="" type="checkbox"/> 発表会への準備 <input checked="" type="checkbox"/> 論文作成・投稿
<input type="checkbox"/> その他()	
自己評価: 今月の成果, または来月の課題	
研究内容の発表資料を作成した。	
指導教員との打ち合わせ回数	
<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日	<input type="checkbox"/> 週1~2回 <input type="checkbox"/> 隔週1回程度 <input type="checkbox"/> 0回
【2】月 月間スケジュール・・・重要なイベント、課題、達成目標などを記述すること	
日程(日時)	項目
	・特別研究論文提出
研究の記録(実施項目を全て選択)	
<input checked="" type="checkbox"/> 実験(数値実験)	<input type="checkbox"/> 実験等の準備 <input checked="" type="checkbox"/> データ分析 <input checked="" type="checkbox"/> 情報収集
<input type="checkbox"/> 理論の学習	<input checked="" type="checkbox"/> 発表会への準備 <input checked="" type="checkbox"/> 論文作成・投稿
<input type="checkbox"/> その他()	
自己評価: 今月の成果, または来月の課題	
特別研究として行ったことを論文としてまとめた。	
指導教員との打ち合わせ回数	
<input type="checkbox"/> ほぼ毎日	<input checked="" type="checkbox"/> 週1~2回 <input type="checkbox"/> 隔週1回程度 <input type="checkbox"/> 0回
【3】月 月間スケジュール・・・重要なイベント、課題、達成目標などを記述すること	
日程(日時)	項目
	・学会発表(情報処理学会) ・データの引き継ぎ
研究の記録(実施項目を全て選択)	
<input type="checkbox"/> 実験(数値実験)	<input type="checkbox"/> 実験等の準備 <input type="checkbox"/> データ分析 <input type="checkbox"/> 情報収集
<input type="checkbox"/> 理論の学習	<input type="checkbox"/> 発表会への準備 <input type="checkbox"/> 論文作成・投稿
<input type="checkbox"/> その他()	
自己評価: 今月の成果, または来月の課題	
指導教員との打ち合わせ回数	
<input type="checkbox"/> ほぼ毎日	<input checked="" type="checkbox"/> 週1~2回 <input type="checkbox"/> 隔週1回程度 <input type="checkbox"/> 0回
学籍番号	学生氏名
	教員確認欄 白木

(出典 特別研究状況報告書, 現地閲覧資料12)

制御・情報システム工学専攻 特別研究テーマ説明文書（一部）

平成 25 年 3 月 19 日

平成 25 年度 専攻科特別研究テーマ

平成 25 年度の特別研究テーマと担当教員をリストアップします。興味のあるテーマが見つかったら、それぞれの担当教員に相談してください。また、卒業研究から継続して行うテーマや、担当教員がすでに決まっている場合でも、調書を出す前に必ず担当教員に確認をとってください。4 月 9 日(火)までに「特別研究希望テーマ調書」を DJ 専攻 1 年担任 和崎先生に提出してください。

なお、今年度は電子制御工学科の橋川先生、情報工学科の東先生と和田先生への専攻科生の配属はありません。

平成 25 年度 制御・情報システム専攻主任 鈴木 聡

栗本育三郎 kurimoto@j.kisarazu.ac.jp

(1) 統合脳機能信号解析システムの開発

- 光脳機能信号解析ならびに脳波信号解析

近赤外分光法(NIRS)や脳波の信号計測を行い、検出信号のタスク関連検証のための数理を導出する。次に人間における各種機能における脳信号を解析し、脳機能診断の高度化、ブレインコンピュータインターフェースの実現を目指す。

- 可搬型シースルー脳立体観察ディスプレイの開発

様々な医療・研究現場で用いられるように、可搬型のシースルー型脳立体観察ディスプレイを開発し、脳立体情報（3 次元位置）と診断情報（NIRS, fMRI, EEG からの脳情報）との重畳ができるようにする。

- 脳位置情報マスター・スレーブシステムの開発

脳モデルを MRI 画像から立体物として造形し、脳部位情報を検出するマスターシステムを開発し、位置情報を頭部につけたスレーブシステムに送り、正確な位置情報としてマーキングを行うシステムの開発を行う。NIRS 計測や手術計画の高度化を目指す。

(2) 神経難病等の障害者のための自立支援システムの開発

医療・福祉・在宅などと連携をとりながら、障害者個人、その周りの環境に適合するシステム開発を行い、視線入力デバイスや頭部入力デバイスによって、失われた運動機能を代行するペット型ロボットターミナルや、遠隔地からの情報を相互に転送しコミュニケーションできるシステムの開発を目指す。

(3) 植物工場のための ANTS(Active-sensing Networks and Tele-existence System:ANTS)の開発

植物工場のための温度・湿度・水蒸気・CO₂等の環境計測制御システムを開発する。具体的には、移動する蟻の様な目やセンサと広域なネットワーク機能を持ち、データを計測・解析・制御・検索ができるシステムの構築を目指す。現在プロトタイプが完成しており、植物工場に設置し、ネットワークシステムを構築し実証実験によって有効性を

(出典 学生への配布文書)

赤城合同フレッシュセミナー実施要領

平成24年度 専攻科赤城合同フレッシュセミナー実施要項

1. 目的

個々の高専の枠を越えた交流により専攻科生の視野を拡大し、研究・学習意欲の向上と学生生活の充実を図るために、関東信越地区高専の合同セミナーを開催する。

2. 実施期日

平成24年9月21日(金)～9月22日(土) 1泊2日

3. 実施場所

国立赤城青少年交流の家 (〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27)

4. 日程

・9月21日(金)【第1日目】

8:30 高専集合
8:40 高専出発
12:00頃 青少年交流の家到着
12:00～12:55 昼食・休憩
12:55 講義室集合
13:00～13:30 セミナー開会挨拶(長岡高専)、
青少年交流の家オリエンテーション
13:30～15:00 講演
講師:長岡技術科学大学
機械系・人間環境システム大講座 准教授
15:00～15:15 休憩
15:15～16:30 交流会I(各校自慢:各校10分+交代準備時間)
16:30～16:50 連絡事項・宿泊室の鍵配付等
17:00～17:30 タベのつどい(青少年交流の家主催)
17:40～18:30 交流会II(班別討議)
18:30～19:25 入浴、休憩
19:30～21:00 交流会III(立食パーティー)
21:00～21:30 全員でパーティー片付け
21:30～22:20 入浴、休憩、就寝準備
22:30 消灯、就寝

・9月22日(土)【第2日目】

6:30～7:00 起床、清掃
7:10～7:30 朝のつどい(青少年交流の家主催)
7:30～8:00 写真撮影、朝食
8:00～8:50 点検(清掃)、ミーティング、合同セミナー解散
9:00～
～12:00 高専到着(解散)

5. 参加予定者(予定)

(1) 学生:

茨城高専 専攻科1年生 24名(内:女子3名)
小山高専 専攻科1年生 23名(内:女子5名)
群馬高専 専攻科1年生 50名(内:女子3名)
木更津高専 専攻科1年生 41名(内:女子3名)
東京高専 専攻科1年生 14名(内:女子0名)
長野高専 専攻科1年生 24名(内:女子1名)
長岡高専 専攻科1年生 25名(内:女子1名)

(2) 教職員等:

茨城高専 4名
小山高専 1名
群馬高専 3名
木更津高専 3名
東京高専 2名
長野高専 2名
長岡高専 5名
講師 1名

(3) 参加者合計 学生201名、教職員等21名

6. 交通手段

借上バス

7. 費用

参加費(青少年交流の家食費、シーツ代等) 4,000円程度

8. 持ち物

上履き(運動靴)、健康保険証(写し可)、寝間着、風呂・洗面用具、筆記用具等

9. 事前説明会(各高専にて実施)

内容:開催趣旨、注意事項、心構え等

(出典 専攻科委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の学習・教育目標に基づいて、共通の一般教育科目を中心として教養教育を行っている。研究テーマに応じた複数教員により、技術職員による支援を得ながら研究指導を行っている。また、研究テーマの決定に対しても適切な指導を行っている。

以上のことから、教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているといえる。

観点5-8-①：成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価、単位認定、修了認定、再試験については「専攻科授業科目の履修等に関する規程」に定められている(資料5-8-①-1)。またその内容を分かりやすくまとめ、全学生に配布する学生便覧に掲載して周知している(資料5-8-①-2)ほか、シラバスにも修了に必要な単位数の要件を記載している(資料5-8-①-3)。成績の訂正については、準学士課程と共通の手続きによって行う(資料5-8-①-4)。

修了認定会議は原則として全教員が参加し、各科目担当教員が提出した成績データから作成される専攻科成績審査(修了認定)会議資料(現地閲覧資料13)に基づいて、「専攻科授業科目の履修等に関する規程」に従って厳格かつ客観的に行われている。科目ごとの成績算出のためのデータは授業実施記録(現地閲覧資料14)として保存しており、成績算出の根拠を検証可能な体制をとっている。

1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目については、平成25年度版からは専攻科のシラバスに自学自習に関する記述欄を設けて(資料5-6-②-1)科目ごとの自習時間、具体的な自習内容等の学生への周知を徹底している。またレポート課題等を成績評価に含める場合は、その重みをシラバスに明記している。学生に対するアンケート調査から、専攻科生の96%が履修時間に自習時間を含む科目があることを知っているという結果が得られた(資料5-8-①-5)。また教員を対象としたアンケートの結果(資料5-2-②-4)から、ほとんどの教員が授業や成績評価をシラバスに沿って行っていることが分かる。

専攻科授業科目の履修等に関する規程（抜粋）

（試験）

第 4 条 試験は定期試験，追試験及び再試験とする。

- 2 定期試験は，前期末及び後期末に実施する。
- 3 追試験は，病気その他やむを得ない理由により，定期試験を受けられなかった者に対して実施する。
- 4 再試験は，実験科目及び演習科目を除く授業科目の単位を認定されなかった者に対して，次の学期以降の定期試験期間中に実施することができる。ただし，第 5 条第 3 項に該当する場合は原則として実施しない。また，再試験の評価は最高 60 点とする。
- 5 追試験又は再試験を希望する者は，あらかじめ「追試験受験願」又は「再試験受験願」を校長に提出しなければならない。

（成績評価）

第 5 条 成績は，授業科目ごとに前条に規定する試験の成績及び平素の学修状況等を総合して評価する。

- 2 成績の評価は，100 点法によって評価し，次の区分によって評定する。

評 点	100 ～ 80	79 ～ 70	69 ～ 60	59 以下
評 定	A	B	C	D

- 3 前項において，その授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者についての評点は，原則として 60 点未満とする。

（単位の認定）

第 6 条 前条第 2 項の規定に基づき，A，B 及び C に評価された科目については，当該授業科目の単位を修得したものと認定する。

（履修の特例）

第 7 条 単位を認定されなかった授業科目は，次年度以降において履修することができる。履修方法は通常の履修と同様に第 3 条による。

（修了に必要な単位）

第 8 条 専攻科の修了は，学則第 44 条に規定するもののほか，次の区分による単位を修得しなければならない。

専 攻	科 目	専 門 科 目		合 計
		一般科目	専門共通科目	
機械・電子システム工学専攻	8 単位以上	2 2 単位以上	3 2 単位以上	6 2 単位以上
制御・情報システム工学専攻	8 単位以上	2 2 単位以上	3 2 単位以上	6 2 単位以上
環境建設工学専攻	8 単位以上	2 2 単位以上	3 2 単位以上	6 2 単位以上

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 13 年 4 月 1 日規則第 15 号）

資料 5-8-①-2 (1/2)

専攻科課程の履修要領

1-17 専攻科課程の履修要領

専攻科授業科目の履修等に関する規程(5-4 参照)を必ず通読してください。

(1) 単位、開設科目、修了要件、履修申請、成績評価、再試験、次年度以降の履修

① 1 単位の授業時間 (大学設置基準に準拠します)

本科と異なり、1 単位は標準 45 時間の学修を要する教育内容をもって構成されます。実際に時間割に組み込まれる授業時間数は、次のようになります。

- (a) 講義科目：1 単位あたり 15 時間の授業で、30 時間の予習復習が課せられます。
- (b) 演習科目：1 単位あたり 30 時間の授業で、15 時間の予習復習が課せられます。
- (c) 実験および実習科目：1 単位あたり 45 時間の授業です。

特別研究は学生の主体的な取り組みを前提としています。

特別研究は、1 年次は 270 時間以上 (6 単位)、2 年次は 360 時間以上 (8 単位) の指導教員による直接指導を標準とします。

② 開設科目

一般科目、専門共通科目及び専門専攻科目があります。(教育課程表 1-16 参照)

③ 専攻科の修了要件

修了要件は、一般科目 8 単位、専門共通科目 22 単位以上、専門専攻科目 32 単位以上、合計 62 単位以上の修得です。この中には、必修 39 単位と必修選択 10 単位以上を含みます。

ただし、8 単位を超えない範囲で他専攻の専門専攻科目を履修できます。また、申請により認められれば、4 単位を超えない範囲で大学等において修得した単位を専攻科における授業科目の履修とみなすことができます。(5-4 参照)

④ 科目の履修申請

科目の履修については、前期および後期の授業開始日から 2 週間以内に、科目履修申請書を各専攻主任経由で学生課教務係まで提出してください。

⑤ 成績の評価

各科目の学業成績は、シラバス記載の「評価方法および評価基準」に従って 100 点法により評価し、次の区分によって評定します。

評点	100~80	79~70	69~60	59 以下
評定	A	B	C	D

授業時間数の 3 分の 1 以上を欠席した場合の評点は、59 以下となります。評点が 60 以上の場合に、その科目の単位修得を認定します。

⑥ 再試験

単位を認定されなかった場合、次期以降に再試験を受けることができます。

ただし、演習科目、実験科目、および 3 分の 1 以上を欠席した科目を除きます。再試験による評点の上限は 60 点です。再試験を希望する学生は、再試験受験願を科目担当教員へ提出してください。

⑦ 次年度以降の履修

単位を認定されなかった科目は、次年度以降に履修することができます。履修方法は通常の履修と同様です。

(2) 特別研究

① 特別研究について

特別研究は、専攻科の教育目的を達成するために最も重要な科目として位置づけられており、各専攻ともに必修科目として、1年前期から履修を義務づけています。1年生の後期に専攻ごとに中間発表を行い、2年生の年度末には3専攻合同の専攻科研究発表会を行います。この専攻科研究発表会は、広く学外にも一般公開されます。

自主的な研究への取り組みを促すため、年度当初に予定テーマを掲示し、学生の工学的興味をできるだけ尊重してテーマを決定します。指導教員の下で個別課題について研究を計画立案させ、文献検索から始まり、実験的手法、理論的手法、評価方法等を体得させ、論文作成および発表までを指導します。

② 専攻科特別研究状況報告書

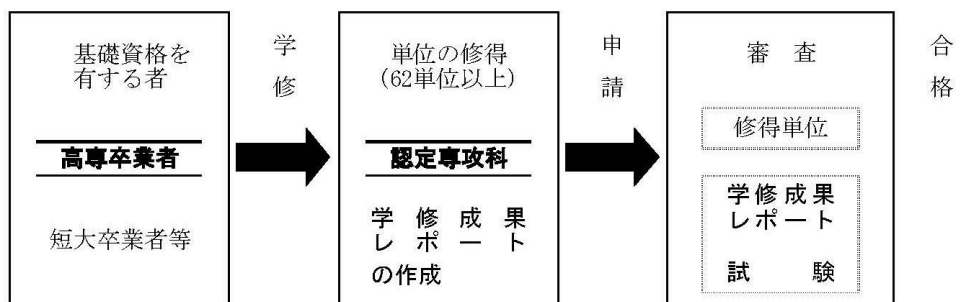
特別研究の計画的な研究実施と、指導の徹底を図り、その記録を残すために、**専攻科特別研究状況報告書**を作成します。報告書には、学生が毎日の研究時間と研究内容を記録し、指導教員がチェックします。

③ 研究成果の学会発表

各学会の研究発表会等の機会を利用して、積極的に研究成果を発表するように心がけてください。学会での研究発表を奨励するために、1回の発表について1万円以内で、1人につき年2回を限度として、後援会から旅費を補助します。その際は、専攻科研究発表補助費請求書を提出してください。

(3) 学位（学士）の取得

平成3年7月に学位授与機構（平成12年4月に大学評価・学位授与機構となる）が創設され、高等専門学校卒業生で一定の要件を満たした場合、大学評価・学位授与機構の審査に合格すれば、学士の学位が取得できます。



(出典 平成25年度学生便覧 52～54頁)

シラバスに記載された修得単位要件

専攻科課程
機械・電子システム工学専攻

区分	授業科目	単位数	学年別配当				備考		
			1年		2年				
			前	後	前	後			
一般科目	必修	英語総合	2	2					
		人間と文化	2		2				
		現代文明	2			2			
		技術倫理	2				2		
一般科目開設単位小計		8	4		4		一般科目修得単位 8		
専門科目	必修	技術英語Ⅰ	2		2				
		技術英語Ⅱ	2			2			
		材料力学通論	2	2					
		コンピュータ科学	2		2				
		地震防災工学通論	2				2		
		問題解決技法	1	1					
	共通科目	必修	応用数学特論	2		2			3科目中、2科目以上選択
			応用物理特論	2	2				
		選択	応用化学特論	2	2				
			環境工学通論	2		2			2科目中、1科目以上選択
			環境化学特論	2			2		
			回路工学	2	2				2科目中、1科目以上選択
			創造設計工学	2			2		
			材料学通論	2		2			2科目中、1科目以上選択
選択	磁性材料工学	2			2				
	技術論	1			1				
専門共通科目開設単位数		32	21		11		専門共通科目修得単位 22 以上		
科目	必修	特別研究Ⅰ	6	6					
		特別研究Ⅱ	8			8			
		特別実験	2		2				
		特別演習Ⅰ	2	2					
		特別演習Ⅱ	2			2			
	選択	開講年度			H25	H26	隔年開講(1,2年生同時受講)		
		生産工学	2	2					
		トライボロジー	2		2				
		システム制御工学	2			2		平成25年度は“H25”欄の科目が開講	
		可視化情報工学	2			2			
		オプトメカトロニクス工学	2				2		
		高周波回路工学	2	2				平成26年度は“H26”欄の科目が開講	
		電磁波工学	2	2					
		エネルギ工学	2		2				
選択	半導体物性	2			2				
	電気機械エネルギー変換工学	2				2			
	専門専攻科目開設単位数	40	20		20		専門専攻科目修得単位 32 以上		
専門科目開設単位小計		72	41		31		専門科目修得単位 54 以上		
一般・専門科目開設単位合計		80	45		35		一般・専門科目修得単位 62 以上		

(出典 平成25年度学生便覧 49頁)

資料5-8-①-4

学生便覧の学習案内（抜粋）

1-15 成績及び出欠席の訂正について

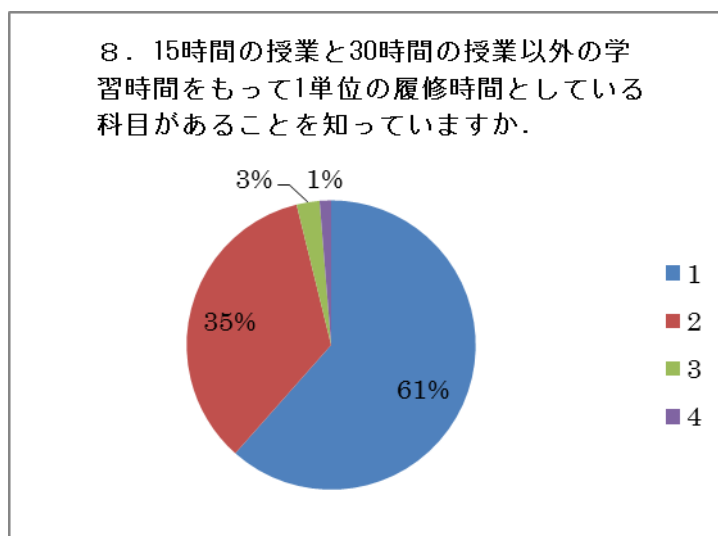
各科目の成績及び出欠席については、前期及び後期の終了後に電算処理され、各個人に通知されるが、万一、これらについて誤記等の疑問がある場合には、前期の場合は当該年度の10月末日までに、通年（後期）の場合は次年度の4月末日までに、学生課教務係に申し出ること。成績及び出欠席について誤りが発見された場合には、科目担当教員より訂正の手続きがなされるが、これらの期限が経過した以降は、訂正は不可能となるので、十分注意すること。

（出典 平成25年度学生便覧 26頁）

資料5-8-①-5

自習時間の周知状況に関する学生アンケート結果

8. 15時間の授業と30時間の授業以外の学習時間をもって1単位の履修時間としている科目があることを知っていますか。



- 1 よく知っている 2 だいたい知っている
3 あまり知らない 4 全く知らない

（出典 点検・評価委員会資料）

(分析結果とその根拠理由)

成績評価、単位認定、修了認定については「専攻科授業科目の履修等に関する規程」に定められ、学生便覧等によって学生に示されている。授業時間外の自習を履修時間を含む科目に関しては、シラバスに明記している。学生へのアンケート結果から学生によく周知されていることが確かめられた。成績評価、単位認定は規程に基づいて行われ、修了認定は成績審査会議資料に基づき、規程に従って行われている。

以上のことから、成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているといえる。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているといえる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・準学士課程では、教員の指導の下、3学年の少人数のグループが一つのテーマを掘り下げて探究する科目「一般特別研究」を実施し、創造性を育む教育を行っている。
- ・専攻科「問題解決技法」では、制作物の「全国高専デザインコンテスト」への出品、プロジェクト実習課題の地域企業からの募集など、創造性を育む教育としての効果を高めるさまざまな工夫を行っている。
- ・専攻科「特別研究」に関して、複数教員による指導、「特別研究状況報告書」を活用した学生による自己評価と教員による指導を行っている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準5の自己評価の概要

(準学士課程)

準学士課程では、5学科とも学習・教育目標を達成するために、人間形成に重要な役割を果たす人文系科目と専門科目の学習の基礎となる数学、物理などの基礎系科目を低学年に多く配置し、専門科目は高学年になるに従い増えていく配置とし、科学技術の修得が無理なく行える授業科目の配置となっている。

学生の多様なニーズに応えるために、本校以外の教育施設における学習に関する規程が定められており、学生への周知も図っている。英検等の外部試験や台湾・ドイツを中心とする国際交流も学生の学習意欲を向上させている。その他、準学士課程の4学年を対象とした学外実習（インターンシップ）は選択科目にも拘らず各学科多くの学生が履修している。

専門分野の修得とものづくりに必要な力を身につけるために、卒業研究を含む実験・実習を通じて専門分野の工学的現象及び問題を解析又は解く力の育成を重要視し、各学科とも必修科目として実験・実習科目を1学年から4学年までを通して配置し、5学年には卒業研究を配置している。その他、演習の授業を高学年に多く配置することによって、講義で身につけた知識を確かなものとする配慮がなされている。

「授業担当者の手引」には、シラバスの作成、授業評価アンケートの実施、事後シラバスの作成に

についての詳細が記述されており、非常勤講師を含む全教員は「授業担当者の手引」に従って、適切なシラバス作成と活用を行っている。

準学士課程では学生の創造力を育む教育方法として、3学年の一般特別研究、4学年の課題研究、5学年の卒業研究のように開講している。3学年で必修科目として開講されている一般特別研究は、人文学系及び基礎学系の教員の指導の下、学生が自主的に調査や研究を行い、結果を論文の形にまとめ最終的には学内で口頭発表するという形式をとっており、学生の創造性を育成する教育方法となっている。課題研究や卒業研究では、学生は各学科の研究室に配属され、研究方法・論文作成・研究発表の指導を受け、新たな知見を得る手法を学ぶ。

成績評価・単位認定、進級、再履修及び卒業の認定について学業成績審査規程が定められており、学生に周知されている。また、各授業の評価方法は明確に定められシラバスに記載されており、学生への周知がなされている。修了認定会議及び卒業認定会議は原則として全教員が参加し、学業成績審査規程に従って厳正に行われている。

1～3学年までは週1時間の特別活動（HR）の時間を設けている。特別活動は学級担任が中心となって、生活指導、成績指導、諸連絡、環境整備（学内及び周辺の清掃）、スポーツ、ビデオ鑑賞等を企画し実施している。その他、新入生合宿研修、体育祭、駅伝大会、スキー合宿、見学旅行といった行事を実施し、人間の素養の涵養がなされるように配慮している。

生活指導面では学級担任を中心とした学生支援体制を整え、学生指導に当たっている。また、学生組織である学友会が存在し、規約に従って活発な課外活動がなされている。

（専攻科課程）

専攻科課程では、準学士課程の全学科について学習・教育目標にもとづいて対応する専攻に教育を連携、発展させるよう授業科目を配置している。具体的な講義内容も、本科の講義との連携、発展を考慮して組み立てられている。

専攻科課程の学習・教育目標に基づき、学習・教育目標に掲げた四つの項目について、その達成に必要な科目が一般科目、専門科目として体系的に配置されている。専門科目については学習・教育目標に基づいて、自らの専門分野を深く学ぶための科目、専門以外の分野を学ぶための科目をバランスよく配置している。

学生の他分野の専門を学習したいといったニーズに応えるため、専攻科では他専攻で開設されている専門専攻の選択科目、他の高等教育機関で開設されている授業科目を専門科目として単位認定する制度を設けている。インターンシップを専門共通選択科目として開設し、実社会での実務経験を積む貴重な経験の機会となっている。国際的に通用するコミュニケーション基礎能力や社会から要請される実践的な能力、国際的な視野を養うために、インターンシップをはじめとする授業科目や支援制度を整えている。

専門分野の工学的現象や問題の解析及び解決能力を育成するために、演習、実験、実習、研究科目を卒業要件の3分の1以上開設している。授業においては討論・対話、発表、実験などの工夫を取り入れた授業を展開している。

全授業科目について「授業担当者の手引き」に基づき、学習内容・達成目標・評価方法を明示したシラバスが作成されている。また、履修時間に授業時間以外の学修を含む科目については、自学自習時間もシラバスに明記している。シラバスの活用について、教員はシラバスに沿った授業、成績評価を行っており、学生も適切にシラバスを確認している。

創造性を育むための科目として共通必修科目「問題解決技法」を開設し、「全国高専デザインコンペティション」への出品，実習テーマを地元企業から募るなど，授業の内容や方法の工夫をしている。また，実社会での実務経験を積む機会としてインターンシップを開設している。

専攻科の学習・教育目標に基づいて，共通の一般教育科目を中心として教養教育を行っている。研究テーマに応じた複数教員により，技術職員による支援を得ながら研究指導を行っている。また，研究テーマの決定に対しても適切な指導を行っている。

成績評価，単位認定，修了認定については「専攻科授業科目の履修等に関する規程」に定められ，学生便覧等によって学生に示されている。授業時間外の自習を履修時間に含む科目に関しては，シラバスに明記している。学生へのアンケート結果から学生によく周知されていることが確かめられた。成績評価，単位認定は規程に基づいて行われ，修了認定は成績審査会議資料に基づき，規程に従って厳正に行われている。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

[進学士課程]

本校では、観点5-1-①に述べた通り、学生が卒業時に身に付ける学力・能力を明示した学習・教育目標の項目ごとに授業科目が分類され、その相互関係が整理されている。従って、各目標の達成状況を把握・評価する上で、対応する授業科目における成績評価・単位認定の状況をモニターすることが基本となる。学年末に開催される第1学年から第4学年までの各学年についての修了認定会議及び第5学年の卒業認定会議において、単位修得、出欠席、特別活動・学校行事参加等の状況の確認と進級・卒業の認定が行われ、各目標の達成状況の確認を行う。できれば、在学中の一定時点においても達成状況をチェックしておくことが望ましいと考えられる。このため、教務委員会が中心となり、第3学年に在籍する学生を対象に、必修科目の単位修得状況をもとに第3学年終了時点で各目標の達成状況を把握し（資料6-1-①-1）、その結果を必要に応じて在籍学科に報告することとしている。

ただし、学習・教育目標4「創造力」については、成績の数値のみによる達成度の把握が困難であるため、対応する必修科目である第3学年「一般特別研究」、第5学年「卒業研究」等において、研究論文（現地閲覧資料15、現地閲覧資料16）と発表会（資料6-1-①-2、資料6-1-①-3）を実施し、その成果を問うこととしている。

[専攻科課程]

専攻科課程においては、学年末に開催される専攻科の修了認定会議において、単位修得、出欠席状況の確認と修了認定が行われている。各目標に必修科目が含まれることに加え、修業年限が短いことから、修了認定をもって各目標が達成されたことの確認にかえることとしている。

ただし、学習・教育目標4「創造力」については、成績の数値のみによる達成度の把握が困難であるため、対応する必修科目である「特別研究」について、研究論文（現地閲覧資料17）と発表会（資料6-1-①-4）を実施し、その成果を問うこととしている。

資料6-1-①-1 (1/2)

各学習・教育目標一覧

学習・教育目標	評価基準
1：人間形成	(1)豊かな人間性と健康な心身を培う。
	(2)深く社会について理解し，広い視野が持てるよう，豊かな教養を身につける。
	(3)技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し，技術者としての責任を自覚する。
2：科学技術の修得	(1)数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。
	(2)専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。
	(3)実験・実習を通して，ものづくりに必要な力を身につける。
3：コミュニケーション能力	(1)日本語の記述能力を身につける。
	(2)英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。
	(3)情報技術を使いこなし，発表・討論ができる能力を身につける。
4：創造力	一般特別研究や卒業研究などを通して，修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し，問題を発見し，解決する能力を身につける。

一般特別研究発表会口頭発表プログラム

口頭発表 プログラム (9:30~12:00)

A会場 (第一講義室)

	番号	発表者	タイトル	指導教員
審査員: 五十嵐 讓介 嘉数 祐子 鈴木 道治				
9:25 ~ 9:35	V1		n角形の面積と円周率について	山下 哲
9:37 ~ 9:47	V2		TeX入門、基本講義	山下 哲
9:49 ~ 9:59	V3		「生きること」って何だろう?	加藤 達彦
10:01 ~ 10:11	V4		道具にとっての幸福論	荒木 英彦
10:13 ~ 10:23	V5		いじめ問題から学ぶ現代の幸福論	荒木 英彦
10:25 ~ 10:45	休憩			
審査員: 加藤 達彦 山下 哲 吉井 文子				
10:45 ~ 10:55	V6		コメ需給のミクロ経済分析	金子 真隆
10:57 ~ 11:07	V7		交通混雑のミクロ経済分析	金子 真隆
11:09 ~ 11:19	V8		バンドン式採水器の製作	嘉数 祐子
11:21 ~ 11:31	V9		日本の安全保障を考える	小澤 健志
11:33 ~ 11:43	V10		中距離走におけるタイムとフォームの因果関係について	坂田 洋満

B会場 (マルチA,B)

	番号	発表者	タイトル	指導教員
審査員: 金子 真隆 平安 隆雄 坂田 洋満				
9:25 ~ 9:35	V11		先手を取るべきか、否か	鈴木 道治
9:37 ~ 9:47	V12		フィボナッチ数列について	鎌田 勝
9:49 ~ 9:59	V13		2点渦系の非等方モデル	関口 昌由
10:01 ~ 10:11	V14		スイッチのカタチ	清水 公男
10:13 ~ 10:23	V15		上総堀り井戸ついに完成	五十嵐 讓介
10:25 ~ 10:45	休憩			
審査員: 鎌田 勝 清水 公男 関口 昌由				
10:45 ~ 10:55	V16		フェルマーの愛した数式	山下 哲
10:57 ~ 11:07	V17		トランスミッションの概略設計について	高橋 秀雄
11:09 ~ 11:19	V18		放射線拡散と地形の関係	福地 健一
11:21 ~ 11:31	V19		イスラエルとパレスティナ問題について	平安 隆雄
11:33 ~ 11:43	V20		「殺して、食べる。」	加藤 達彦

(出典 一般特別研究発表会抄録集)

卒業研究発表会プログラム

平成24年度 卒業研究発表会 プログラム

場所 第2講義室

月日	時限	時刻	番号	テーマ名	学生名	指導教員	進行係	
2/27 水	1,2	8:50～9:00		出欠、開会式				
		9:00～9:12	D-01	高発泡ポリプロピレンの変形特性		伊藤	泉 研究室	
		9:12～9:24	D-02	熱変形を利用した高発泡ポリプロピレン板への複雑形状付与				
		9:24～9:36	D-03	高発泡ポリプロピレン構造体の衝突特性				
		9:36～9:48	D-04	有限要素法による高発泡ポリプロピレン翼の変形解析				
		9:48～10:00	D-05	電気化学堆積法による酸化亜鉛薄膜の作製		鈴木		
		10:00～10:12	D-06	Scratchを用いた中学校技術科の学習教材の開発				
	10:12～10:24	D-07	LabVIEWを用いた中学校技術科の学習教材の開発					
			10:24～10:35		休 息			
	3,4	10:35～10:47	D-08	新PICNICを利用した計測制御実験テーマの開発		白井	大橋	
		10:47～10:59	D-09	Wiportによる計測制御システムの無線化				
		10:59～11:11	D-10	PLCにおける高度な機能の利用と検討				
		11:11～11:23	D-11	体育祭の得点板の製作と制御				
		11:23～11:35	D-12	Javaを用いた連絡掲示板の作成				
			11:35～13:05		休 息			
	5,6	13:05～13:17	D-13	Android ADKを用いたシステム構築とチュートリアル作成		坂元	岡本 研究室	
		13:17～13:29	D-14	Android ADKを用いた移動ロボットの設計と製作				
		13:29～13:41	D-15	Androidを用いた学内案内システムの構築				
		13:41～13:53	D-16	走査ホール素子マグネトメトリに関する研究		鴫田		
		13:53～14:05	D-17	球体駆動型移動ロボットの試作（構造設計）				
14:05～14:17		D-18	球体駆動型移動ロボットの試作（制御系設計）					
14:17～14:35		D-19	飛行ロボットの試作					
2/28 木	1,2	8:50～9:00		出欠			泉 研究室	
		9:00～9:12	D-20	頸部からの心拍検出の試み		沢口		
		9:12～9:24	D-21	振動推進おもちゃの教材化				
		9:24～9:36	D-22	ロボット操作のための脳波解析法の提案				
		9:36～9:48	D-23	力覚共有デバイスの作成		橘川		
		9:48～10:00	D-24	DC-ACインバータの改良設計と評価				
		10:00～10:12	D-25	トランジスタ性能と増幅・発振回路の性能の関係の検討				
	10:12～10:24	D-26	ソーラーパネルの角度追従効果の検討					
			10:24～10:35		休 息			
	3,4	10:35～10:47	D-27	クラド二図形生成装置の製作		泉	坂元 研究室	
10:47～10:59		D-28	低誘電率基板を用いたアンテナの設計と小型化					
10:59～11:11		D-29	エフェクタの使用感に関する検討					
11:11～11:23		D-30	誘導起電力による金属識別装置の製作					
11:23～11:35		D-31	振動実験装置の検証と改良		岡本			
11:35～11:47		D-32	DMM法による制御系設計（外乱抑制特性の調整手法の検討）					
11:47～11:59		D-33	1軸テーブルを用いたPID制御実験教材に関する研究					
11:59～12:11		D-34	ODEを用いた制御シミュレーション教材の検討					
		12:11～12:15		主任講評、諸連絡				

発表：8分 質疑応答：4分 2人の場合 発表：12分 質疑応答：6分

(出典 電子制御工学科資料)

専攻科特別研究発表会プログラム

平成24年度 専攻科特別研究発表会

発表プログラム

第一会場(第1講義室)・第二会場(階段教室)・第三会場(マルチA) 平成25年1月30日(水)

開会式 9時00分 ~ 9時10分

第一会場(第1講義室) 機械・電子システム工学専攻

分冊 1

No	学籍番号	学生氏名	研究題目	指導教員	発表時間	頁
セッション1				座長：板垣貴喜 計時：		
1			導波管透過法における試料厚と複素比誘電率の推定精度に関する検討	大野 石井	09:20 ~ 09:35	1-1
2			高強度銅板の打ち抜き端部からの破断機構解明	丸岡 黄野	09:36 ~ 09:51	1-5
3			粉殻焼成粉体を配合した射出成形プラスチック歯車の寿命に及ぼす負荷トルクの影響	高橋秀 板垣	09:52 ~ 10:07	1-9
4			電解めっき法によるCo系アモルファス合金厚膜の作製	石井 飯田	10:08 ~ 10:23	1-13
5			NbN/AlN/NbN接合によるSIS素子の作製プロセス	石井 岡本	10:24 ~ 10:39	1-17
セッション2				座長：伊藤裕一 計時：		
6			無線通信を用いた空中移動ロボットの高度制御システムの検討	浅野 大澤	10:50 ~ 11:05	1-21
7			ヒステリシスコンパレータを制御回路に用いた降圧コンパレータの並列運転	大澤 浅野	11:06 ~ 11:21	1-25
8			低電圧電源のための昇圧コンバータ	大澤 浅野	11:22 ~ 11:37	1-31
9			粉殻焼成粉体を配合した射出成形プラスチック歯車の摩耗と騒音	板垣 高橋秀	11:38 ~ 11:53	1-35
10			射出成形プラスチック歯車列の騒音に及ぼすトルクとウェブの影響	板垣 高橋秀	11:54 ~ 12:09	1-39
セッション3				座長：大野貴信 計時：		
11			液面を参照面とする干渉計に関する研究	小田 内田	13:00 ~ 13:15	1-43
12			プラスチックねじ歯車の強度(モジュールの影響)	高橋秀 板垣	13:16 ~ 13:31	1-47
13			大規模数値流体解析を用いた空力騒音の予測	伊藤 石出	13:32 ~ 13:47	1-51
14			低歪み正弦波発振回路における制御回路の検討	石川 大澤	13:48 ~ 14:03	1-55

第二会場(階段教室) 制御・情報システム工学専攻

分冊 2

No	学籍番号	学生氏名	研究題目	指導教員	発表時間	頁
セッション1				座長：伊藤 操 計時：		
15			アクティブマスダンパの低次元化とDMM制御手法を用いた制御	岡本 嶋田	09:20 ~ 09:35	2-1
16			多チャンネル筋電信号による機器操作における個人差同定のための環境構築	沢口 大橋	09:36 ~ 09:51	2-7
17			Webカメラを用いた色認識による制御	大橋 沢口	09:52 ~ 10:07	2-11
18			RTミドルウェアによる四足歩行ロボットのコンポーネント開発	嶋田 岡本	10:08 ~ 10:23	2-17
セッション2				座長：白井邦人 計時：		
19			電気化学堆積法による酸化亜鉛薄膜の作成Ⅲ	鈴木 橋川	10:40 ~ 10:55	2-21
20			モノポールアンテナにおける給電系の検討	泉 大橋	10:56 ~ 11:11	2-25
21			太陽光発電を用いた2次電池充電制御回路の検討	橋川 坂元	11:12 ~ 11:27	2-29
22			太陽電池高効率利用のための電圧変換システムの検討	橋川 坂元	11:28 ~ 11:43	2-33
セッション3				座長：渡邊孝一 計時：		
23			オーケストラ譜からのデュオ譜の半自動生成に関する研究	齋藤 和田	13:00 ~ 13:15	2-37
24			画像にマッチする楽曲の自動推薦に関する研究	齋藤 和田	13:16 ~ 13:31	2-41
25			高速計算機を用いたCGH計算Webアプリケーションの構築	白木 丸山	13:32 ~ 13:47	2-45
26			電子ホログラフィによる3Dゲームシステムの構築と評価	白木 和崎	13:48 ~ 14:03	2-49
セッション4				座長：齋藤康之 計時：		
27			画像の空間周波数に対するノイズ知覚のモデル化	和崎 白木	14:15 ~ 14:30	2-53
28			確率生成モデルを用いた多重トピックを有する文書の分類手法の検証	栗本 和田	14:31 ~ 14:46	2-57
29			リカレント砂時計型ニューラルネットワークを用いた時系列データの変化点検出	栗本 白木	14:47 ~ 15:02	2-63
30			NMFを用いた時系列試験結果からのスキル構造の抽出	栗本 和崎	15:03 ~ 15:18	2-67
31			GUDAプログラムのロギング・再演機構	丸山 白木	15:19 ~ 15:34	2-71

第三会場(マルチA) 環境建設工学専攻

分冊 3

No	学籍番号	学生氏名	研究題目	指導教員	発表時間	頁
セッション1				座長：C石川雅朗 計時：		
32			おが粉を取り入れた土系舗装における雑草抑制機構に関する基礎研究	鬼塚 湯谷	13:00 ~ 13:15	3-1
33			舗装から人体に与える影響の評価指標に関する基礎研究	鬼塚 栗本	13:16 ~ 13:31	3-5
34			画像計測を組み合わせた有限要素解析システムの研究	石井 佐藤	13:32 ~ 13:47	3-9
35			既存不連続面の配置が脆性材料の強度特性と圧縮破壊挙動へ及ぼす影響	石井 青木	13:48 ~ 14:03	3-13
36			農業用ため池における池干し前後の水質の比較	湯谷 大久保	14:04 ~ 14:19	3-19
37			処理水循環型DHSリアクターにおけるフェノールとアンモニア性窒素の同時除去	上村 大久保	14:20 ~ 14:35	3-23
38			日本全国の港湾を対象とした高潮災害危険度評価に関する基礎検討	島崎 大木	14:36 ~ 14:51	3-27

閉会式 15時45分 ~ 15時55分

集合写真撮影 15時55分 ~ 16時05分

発表10分 質疑5分 発表終了1分前 予鈴 * 発表終了 ** 終了鈴 ***

注)第1講義室で開会式(9:00)、閉会式(15:45)、専攻科全2年生と教職員の記念撮影(15:55)を行いますので出席して下さい。

(出典 専攻科委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程においては、学生が卒業時に身に付ける学力・能力を明示した学習・教育目標の項目ごとの達成状況が、第3学年終了時点については教務委員会により、また卒業時点については卒業認定会議により把握されている。また、そのための基礎データとなる単位修得、出欠席、特別活動・学校行事参加等の状況の確認が、第1学年から第4学年までの修了認定会議において行われている。専攻科課程においては、修業年限が短いことを考慮して、学生が修了時に身に付ける学力・能力の達成状況が、修了時点についてのみ専攻科修了認定会議により把握されている。ただし、「創造力」の項目については成績の数値のみによる達成度の把握が困難であるため、対応する必修科目における研究論文と発表会を広く公開し、その成果を問うこととしている。このように、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するために適切な取組が行われている。

観点6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点到に係る状況)

[準学士課程]

準学士課程の過去7年間の留年者・退学者の各数と、学生総数に対するそれらの割合を(資料6-1-②-1)に示す。また、平成24年度の各学年各クラスの進級状況を(資料6-1-②-2)に示す。これらによれば、平成23年度から留年・退学者数がやや大きく増えていることがわかる。しかし、成績審査(修了認定)会議資料(現地閲覧資料18)から留年して再チャレンジした学生の多くが進級していることもわかる。

平成13年度より、本校の特徴的な科目として、選択科目「特別学修」(資料6-1-②-3)が導入された。これにより、多くの学生が外部資格試験(実用英語検定、工業英語検定、TOEIC、ドイツ語検定、漢字検定、危険物取扱者、情報処理技術者、ラジオ・音響検定等)のみならず、技術イベント活動(ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト)及びボランティア活動(社会福祉)等にも積極的に取り組むことができるようになった(資料6-1-②-4、現地閲覧資料18)。

また、「創造性」の項目について、準学士課程の学生にあっても学協会等で研究発表する事例が少なくない(資料6-1-②-5)ことがわかる。さらに、種々のコンテストの結果(資料6-1-②-6)は、課外活動を含めた本校の教育が、豊かな人間性の涵養から専門の科学技術の修得に至る広い範囲で効果を発揮していることを示している。

[専攻科課程]

専攻科課程の特別研究においては、研究の結果を特別研究論文(現地閲覧資料17)としてまとめ、3月に行われる特別研究発表会(資料6-1-①-4)で全員が発表している。修了時には、大学評価・学位授与機構による審査を受け、学士の学位を取得するが、最近2年間の修了生全員に対して学士が認定されている。

なお、準学士課程及び専攻科課程の学生による研究のうちで、電気学会、電子情報通信学会等で発表されたものの一部を資料6-1-②-5に示す。また、外部のコンテスト等で受賞や表彰を受けるものもあり、それらを資料6-1-②-6に示す。

資料 6 - 1 - ② - 1

準学士課程の過去 7 年間の留年・退学者の各数と对学生数比率

学年	平成18年度			平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	学生数	留年 人数	退学 割合	学生数	留年 人数	退学 割合	学生数	留年 人数	退学 割合	学生数	留年 人数	退学 割合
第 1 学年	210	1 (1)	0.5%	208	3 (0)	1.4%	215	5 (5)	2.3%	210	3 (0)	1.4%
第 2 学年	214	3 (1)	1.4%	213	9 (3)	4.2%	210	15 (6)	7.1%	219	20 (10)	9.1%
第 3 学年	221	28 (7)	12.7%	232	21 (10)	9.1%	219	14 (3)	6.4%	211	13 (5)	6.2%
第 4 学年	207	14 (6)	6.8%	196	10 (4)	5.1%	215	13 (3)	6.0%	216	19 (3)	8.8%
第 5 学年	200	3 (1)	1.5%	193	3 (0)	1.6%	189	4 (1)	2.1%	206	5 (0)	2.4%
専攻科												1
合計	1,052	49 (16)	4.7%	1,042	46 (17)	4.4%	1,048	51 (18)	4.9%	1,062	60 (18)	5.6%

学年	平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	学生数	留年 人数	退学 割合	学生数	留年 人数	退学 割合	学生数	留年 人数	退学 割合
第 1 学年	207	3 (1)	1.4%	211	2 (2)	0.9%	208	1 (0)	0.5%
第 2 学年	216	15 (5)	6.9%	211	19 (9)	9.0%	219	17 (7)	7.8%
第 3 学年	211	16 (2)	7.6%	220	22 (10)	10.0%	206	26 (5)	12.6%
第 4 学年	210	15 (3)	7.1%	204	20 (3)	9.8%	204	20 (4)	9.8%
第 5 学年	200	3 (0)	1.5%	197	8 (1)	4.1%	197	8 (2)	4.1%
専攻科									
合計	1,044	52 (11)	5.0%	1,043	71 (25)	6.8%	1,034	72 (18)	7.0%

(出典 学生課資料)

平成 24 年度の各学年各クラスの進級状況

	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境都市工学科	合計
1 休学/退学 (内数)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
留年/退学 (内数)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
仮進/留年 (内数)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	0 (0)	6 (0)
退学/退学合計	0 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	0 (0)	7 (0)
2 休学/退学 (内数)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	3 (3)
留年/退学 (内数)	3 (1)	3 (1)	6 (2)	1 (0)	1 (0)	14 (4)
仮進/留年 (内数)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	4 (0)	2 (0)	11 (0)
退学/退学合計	1 (1)	5 (2)	9 (2)	7 (2)	3 (0)	25 (7)
3 休学/退学 (内数)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	2 (1)	1 (1)	6 (3)
留年/退学 (内数)	3 (0)	1 (1)	9 (1)	4 (1)	3 (0)	20 (3)
退学/退学合計	3 (0)	2 (1)	11 (2)	6 (2)	4 (1)	26 (6)
4 休学/退学 (内数)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	4 (0)
留年/退学 (内数)	7 (0)	7 (3)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	17 (4)
退学/退学合計	8 (0)	7 (3)	2 (0)	0 (0)	4 (1)	21 (4)
5 休学/退学 (内数)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	7 (1)
留年/退学 (内数)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
退学/退学合計	3 (0)	1 (0)	3 (1)	2 (1)	1 (0)	10 (2)
合計						
休学/退学 (内数)						0 (0)
留年/退学 (内数)						0 (0)
仮進/留年 (内数)						0 (0)
退学/退学合計						0 (19)

- ・「休学：退学 (内数)」は「休学により原級に留まった者の数：その内の退学者数(a)」を表す。
- ・「留年：退学 (内数)」は「成績不振により原級に留まった者の数：その内の退学者数(b)」を表す。
- ・「仮進：留年 (内数)」は「仮進級者の数：その内の留年者数」を表す。
- ・「退学：退学合計」は、「上記(a)と(b)以外の退学者数(c)：(a)+(b)+(c)」を表す。

(出典 学生課資料)

科目「特別学修」の案内文

1-11 特別学修

特別学修とは、選択科目として一般科目と専門科目の両方に開設された授業科目です。履修数に上限はありませんが、一般及び専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修（1-12 及び学則第 13・14 条を参照）を合わせて最大 10 単位までが、選択科目としての扱いを受けます。

特別学修は他の科目と大きく異なる部分もあるため、その履修方法等について以下に示します。

(1) 技能審査・資格試験等

技能検定・資格試験等合格に関する特別学修の単位認定を申請する場合、学生は該当する検定・試験等に合格した年度内に、それを証する書類を添付して特別学修による単位認定願を担当教員（教育課程表（1-16）中の特別学修一覧表参照）に提出しなくてはなりません。ただし、資格取得日が年度末（2 月下旬～3 月末日）に当たる場合、翌年度の単位認定となります。

なお、本校を通して受験し合格した漢字検定、実用英検、工業英検、TOEIC IP に関しては、特別学修による単位認定願を提出する必要はありません。その他、不明な点は、

事前（資格取得前）に担当教員と相談するようにしてください。

(2) ロボコンなどの創造的活動、教育支援活動、ボランティア活動

これらの特別学修は、事前に履修登録をする必要があります。原則として、4 月末日までにシラバスに記載された指導教員のところに行き、指示を受けてください。

授業方法や単位認定方法については各科目によって異なるためシラバスで確認してください。

（出典 平成 24 年度学生便 24～25 頁）

平成 24 年度 特別学修による単位認定一覧 (抜粋)

平成 24 年度 特別学修による単位認定申請一覧 1 年生～4 年生

数	科	年	学籍番号	氏 名	表記(項目分野試験名等:合格級等)	合格等年月日	評価	評語	単位数	一般/専門	備考(認定省庁・代替等)
1		4			工業英検	4級			1	一般	
2		4			実用英検	準2級			1	一般	2級合格に伴う同時認定
3		4			実用英検	2級			2	一般	
4		4			工業英検	4級			1	一般	
5		4			工業英検	4級			1	一般	
6		4			工業英検	4級			1	一般	
7		4			危険物取扱者	乙種第4類			1	専門	
8		4			工業英検	4級			1	一般	
9		4			実用英検	準2級			1	一般	
10		4			工業英検	4級			1	一般	
11		4			実用英検	準2級			1	一般	
12		4			工業英検	4級			1	一般	
13		4			工業英検	4級			1	一般	
14		4			危険物取扱者	乙種第4類			1	専門	
15		4			工業英検	4級			1	一般	
16		4			実用英検	準2級			1	一般	
17		4			工業英検	4級			1	一般	
18		4			工業英検	4級			1	一般	
19		4			実用英検	準2級			1	一般	
20		4			工業英検	4級			1	一般	
21		4			実用英検	準2級			1	一般	
22		4			工業英検	4級			1	一般	
23		4			工業英検	3級			2	一般	
24		4			工業英検	4級			1	一般	
25		4			ドイツ語検定	4級			1	一般	ドイツ語学文学振興会
26		4			工業英検	4級			1	一般	
27		4			工業英検	4級			1	一般	
28		4			実用英検	準2級			1	一般	
29		4			工業英検	4級			1	一般	
30		4			工業英検	4級			1	一般	
31		4			工業英検	4級			1	一般	
32		4			実用英検	準2級			1	一般	
33		4			工業英検	4級			1	一般	
34		4			工業英検	4級			1	一般	
35		4			電気工事士	2種			1	専門	
36		4			実用英検	準2級			1	一般	
37		4			工業英検	4級			1	一般	
38		4			工業英検	4級			1	一般	
39		4			工業英検	4級			1	一般	
40		4			実用英検	準2級			1	一般	
41		4			工業英検	4級			1	一般	
42		4			実用英検	準2級			1	一般	
43		4			工業英検	4級			1	一般	
44		4			工業英検	4級			1	一般	
45		4			工業英検	3級			2	一般	
46		4			工業英検	4級			1	一般	
47		4			ドイツ語検定	3級			1	一般	ドイツ語学文学振興会
48		4			国際ドイツ語検定	A2			1	一般	Goethe-Institut
49		4			日本漢字能力検定	2級			1	一般	
50		4			ドイツ語検定	4級			1	一般	ドイツ語学文学振興会
51		4			実用英検	準2級			1	一般	
52		4			工業英検	4級			1	一般	
53		4			工業英検	4級			1	一般	
54		4			実用英検	準2級			1	一般	
55		4			工業英検	4級			1	一般	
56		4			工業英検	4級			1	一般	
57		4			工業英検	3級			2	一般	
58		4			実用英検	準2級			1	一般	
59		4			工業英検	4級			1	一般	
60		4			工業英検	3級			2	一般	
61		4			工業英検	4級			1	一般	
62		4			工業英検	4級			1	一般	
63		4			工業英検	3級			2	一般	
64		4			工業英検	4級			1	一般	
65		4			工業英検	4級			1	一般	
66		4			実用英検	準2級			1	一般	

(出典 成績審査(修了認定)会議資料, 現地閲覧資料 18)

準学士課程及び専攻科課程の学生の学協会等での発表状況

(主に電気電子工学科及び機械・電子システム工学専攻科の電気電子工学科出身者によるもの)

準学士課程				
No.	氏名	タイトル	発表学会雑誌名等	発表年
1		遺伝的アルゴリズムを用いたSIR型UWBフィルタの設計	電気学会東京支部千葉支所研究発表会	2010
2		多相整流法式により制御した低歪み正弦波発振回路の検討	電気学会, 電子回路研究会	2011
3		遺伝的アルゴリズムによるSIR型UWBフィルタの設計と実験的検討	平成22年度電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	2011
4		ノイズ抑制シートを配置したマイクロストリップ線路の透過特性に関する解析	電子情報通信学会総合大会	2011
5		遺伝的アルゴリズムによる平行結合線路を用いたSIR型UWBフィルタの一設計に関する検討	電気学会東京支部第3回学生研究発表会	2012
6		FDTD法によるノイズ抑制シートと伝送路間の空隙に関する検討	電気学会東京支部第3回学生研究発表会	2012
7		導波管透過法における試料厚と複素比誘電率の推定精度に関する検討	電気学会東京支部第3回学生研究発表会	2012
8		ノイズ抑制シートにおける粘着剤の厚みに対するマイクロストリップ線路の透過特性に関する解析的検討	平成24年度電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	2013
9		X帯導波管を用いた誘電率測定に適する試料厚に関する検討	平成24年度電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	2013
10		FDTD Study on Transmission Characteristics Affected by Air-gap between Noise Suppression Sheet and Strip Conductor	Progress In Electromagnetics Research Symposium 2013	2013
11		A Design for Ultra-wideband Bandpass Filter Using Parallel-coupled Line and Stepped Impedance Resonator by Genetic	Progress In Electromagnetics Research Symposium 2013	2013
12		A Study on Thickness of High Loss Material for Determining Accurate Complex Permittivity in Transmission Line Method Using Rectangular Waveguide	Progress In Electromagnetics Research Symposium 2013	2013
専攻科課程				
No.	氏名	タイトル	発表学会雑誌名等	発表年
1		無線制御による空中移動ロボットの自動運転の検討	第7回電気学会東京支部千葉支所研究発表会講演論文集	2011
2		NbN/AlN/NbN接合によるSIS素子の作製プロセス	電気学会東京支部千葉支所第7回研究発表会講演論文集	2011
3		ヒステリシスコンパレータを制御回路に用いた降圧コンパータの並列運転	電気学会東京支部千葉支所研究発表会, 第7回	2011
4		導波管透過法における複素比誘電率と試料厚に関する検討	第7回電気学会東京支部千葉支所研究発表会	2011
5		1セル燃料電池用コンパータの大電流化	電気学会東京支部千葉支所研究発表会, 第7回	2011
6		多相整流法式により制御した低歪み正弦波発振回路の検討	豊橋技術科学大学, 平成22年度分高専連携教育研究プロジェクト成果報告会	2011
7		接合型FETを用いた電圧制御可変抵抗における歪みに関する検討	電気学会東京支部千葉支所研究発表会	2011
8		空中移動ロボットの無線通信を用いた高度制御システムの構築	電気学会東京支部学生会研究発表会	2012
9		ヒステリシスコンパレータを制御回路に用いた降圧コンパータの並列運転	電気学会産業応用部門大会YPC	2012
10		Suitable Thickness of Material in Determination of Complex Permittivity from Transmission Measurements	Progress in Electromagnetics Research Symposium 2012	2012
11		導波管透過法における試料厚と複素比誘電率の推定精度に関する解析的検討	第17回電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会	2012
12		低電圧電源のための昇圧コンパータの大電流化	電気学会産業応用部門大会YPC	2012
13		正弦波発振回路における制御回路の検討	電気学会, 電子回路研究会	2012
14		正弦波発振回路における制御回路の検討	豊橋技術科学大学, 平成23年度分高専連携教育研究プロジェクト成果報告会	2012
15		正弦波発振回路における制御回路の検討(2)	電気学会, 電子回路研究会	2012
16		Complex Permittivity Measurement for Thin Sample Using Rectangular Waveguide Filled with Supporting Materials	Progress in Electromagnetics Research Symposium 2013	2013

(出典 電気電子工学科資料)

各種コンテスト等の受賞状況

準学士課程

No.	受賞年度	学科・学年	受章者氏名	表彰団体	受賞内容
1	2007	—	演劇部	千葉県高等学校演劇春季地区発表会	優秀賞・創作脚本賞
2	2007			千葉県高等学校演劇春季地区発表会	審査員特別賞
3	2007			第22回関東信越地区高専英語弁論大会	3位
4	2007			松下政経塾第3回立志論文コンテスト	最優秀賞
5	2008		4人	第19回プログラミングコンテスト	競技部門優勝
6	2009			2010二輪車安全運転千葉県大会(ベストライダーコンテスト)	高校生等クラス優勝
7	2009	—	地盤研究同好会	平成21年度地盤工学会	創立60周年 地盤工学会関東支部創立5周年記念大会 第4回学校対抗ソイルタワーコンテスト Aチーム:1
8	2009			2009年度未踏IT人材発掘育成事業(未踏コース)	採択
9	2009			第23回東洋大学現代学生百人一首	入選
10	2009			社団法人建設コンサルタンツ協会	2009年度学生懸賞論文佳作
11	2009			第37回土木学会関東支部技術研究発表会	優秀発表者
12	2010			ボーイスカウト日本連盟	富士章
13	2010			ボーイスカウト日本連盟	富士章
14	2010			第81回工業英検4級	最優秀文部科学大臣奨励賞
15	2010			2010二輪車安全運転千葉県大会(ベストライダーコンテスト)	高校生等クラス優勝
16	2010			財団法人 全日本交通安全協会 第43回二輪車安全運転全国大会	高校生等クラス 第2位
17	2010			技術士	一次試験合格
18	2010			公益社団法人日本工業英語協会主催	平成22年度 工業英語能力検定(4級) 文部科学大臣賞
19	2011			2011二輪車安全運転千葉県大会	高校生クラス 優勝
20	2011		4人	全国高等専門学校第22回プログラミングコンテスト	課題部門 特別賞
21	2011			平成23年度 第26回関東信越地区 高等専門学校英語弁論大会	スピーチ部門 第2位
22	2012	—	吹奏楽部	第54回千葉県吹奏楽コンクール	大学C部門 金賞
23	2012		3人	第20回国際学生対抗バーチャルリアリティーコンテスト	国際学生対抗ユース部門 銀賞
24	2012			電気学会東京支部	学生研究発表会 優秀発表賞
25	2012			電子情報通信学会東京支部	学生研究発表会 電子情報通信学会 東京支部学生奨励賞

専攻科課程

No.	受賞年度	学科・学年	受章者氏名	表彰団体	受賞内容
1	2007			平成20年度高専連携教育研究プロジェクト 学生成果発表会	学長表彰
2	2008			アプリ・オブ・ザ・イヤー2008コンテスト	3位
3	2009			日本機械学会関東支部第15回総会講演会	優秀講演賞
4	2009			日本ゲーム大賞	佳作(3位)
5	2010			財団法人 エヌ・エス知覚科学振興会	奨学育英助成金採択
6	2010			土木学会関東支部	第38回土木学会関東支部技術研究発表会 優秀発表者
7	2010			土木学会関東支部	第38回土木学会関東支部技術研究発表会 優秀発表者
8	2011			応用生態工学会	応用生態工学会第15回研究発表会口頭発表表彰
9	2011			2011年度 日本高専学会論文奨励賞	最優秀賞
10	2011			情報処理学会第73回全国大会	学生奨励賞
11	2011			情報処理学会第74回全国大会	学生奨励賞
12	2012			電気学会東京支部	学生研究発表会 優秀発表賞
13	2012			創立100周年記念基金学術振興助成	平成24年度優秀論文発表

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得状況、特別学修の状況、一般特別研究、卒業研究、専攻科特別研究等の内容・水準、各種コンテスト等の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっている。

観点 6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

準学士課程と専攻科課程の最近の進学・就職先一覧を学校要覧2012（資料 6-1-③-1）の引用により示す。また、2011年度までの3年間の就職実績を（資料 6-1-③-2）に示す。また、最近の準学士課程卒業生の進路状況、就職先一覧、大学編入学状況、高等専門学校専攻科入学状況、専攻科修了生の進路状況及び進路先一覧を（資料 6-1-③-1）に示す。準学士課程と専攻科課程の就職希望者の就職率はほぼ100%である。

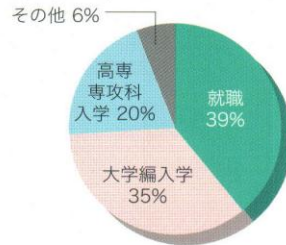
資料 6-1-③-1 (1/2)

準学士課程と専攻科課程の最近の進学・就職先一覧

卒業後の進路 Course after Graduation

平成23年度卒業生の進路状況(準学士課程) Graduates of the College (2011)

学 科 Dept. of	卒業生数 Graduates	就職者数 Employed	進学者数 Entrance into Univ.	その他 Others
機 械 工 学 科 Mechanical Eng.	42	16	26	0
電 気 電 子 工 学 科 Electrical and Electronic Eng.	37	19	17	1
電 子 制 御 工 学 科 Control Eng.	35	15	19	1
情 報 工 学 科 Information Eng.	35	10	18	7
環 境 都 市 工 学 科 Civil Eng.	40	15	23	2
合 計 Total	189	75	103	11



平成23年度卒業生の就職先一覧(準学士課程) Employment (2011)

機械工学科		電気電子工学科		電子制御工学科		情報工学科		環境都市工学科	
Mテック	1	ANAアビオニクス	1	JUKI	1	大崎CE	1	NTT-ME	2
NTT-ME	1	Meiji Seikaファルマ	1	NTT-ME	1	NTT-ME	1	NIPPO	1
ジャパンエンジニアリング	1	NTT-ME	1	ダイキン工業	1	NTTコムウェア	1	NTTインフラネット	2
フジゲンエンジニアリング	1	NTTファシリティーズ	1	ツムラ	1	NTTデータ	1	テツゲン	1
リコー	1	TOTOバスクリエイト	1	ドコモエンジニアリング	1	Y2S	1	宇部マテリアルズ	1
鷺宮製作所	1	ジュビターコーポレーション	1	三菱電機エンジニアリング	1	アドバンテスト	1	山九	1
出光興産	1	ドコモエンジニアリング	1	山田電器工業	1	ケイシーシー	1	若築建設	1
新日本製鐵	1	メタウォーター	1	出光興産	1	ドワンゴ	1	小川製作所	1
森精機	1	君津共同火力	1	雪印メグミルク	1	ニフティ	1	西松建設	1
成田空港給油施設	1	三菱電機システムサービス	1	大崎電気システムズ	1	吉野工業所	1	千葉県	1
東京ガスパイプライン	1	住友化学千葉工場	1	東レ	1			東京水道サービス	1
日鉄鉱業	1	森永乳業	1	東芝エレベータ	1			藤田金物店	1
日本ビソー	1	東日本電気エンジニアリング	1	日比谷コンピュータシステム	1			木更津市	1
日立メディコ	1	東洋インキ製造	1	日本光電工業	1				
富士重工業	1	日本たばこ産業	1	富士重工業航空宇宙カンパニー	1				
妙中鉱業	1	日本海洋掘削	1						
		日本精工	1						
		日本板硝子	1						
		不二製油	1						
計	16	計	19	計	15	計	10	計	15

(注)企業名は略称で記載しています。

卒業生の大学編入学状況(準学士課程) Entrance into Universities

入学年度	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度	平成24年度	合計	入学年度	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度	平成24年度	合計
北海道大学	16	1		1	18	静岡大学	6				6
室蘭工業大学	5			1	6	名古屋工業大学	1				1
北見工業大学	3				3	豊橋技術科学大学	169	7	3	8	187
弘前大学	4				4	三重大学	3				3
岩手大学	36				36	京都大学	5				5
東北大学	10		2	1	13	京都工芸繊維大学	7			1	8
秋田大学	32	1			33	大阪大学	2				2
山形大学	32				32	神戸大学	4		1	1	6
茨城大学	38	1	1	2	42	和歌山大学	4	1			5
筑波大学	35	3	3		41	鳥取大学	2				2
宇都宮大学	31	1	2		34	島根大学	4				4
群馬大学	28			1	29	岡山大学	2				2
埼玉大学	9			1	10	山口大学	5				5
千葉大学	213	8	9	7	237	山梨大学	8				8
東京大学	10	2	1		13	徳島大学	2				2
東京農工大学	84	3	3	2	92	愛媛大学	2				2
東京工業大学	10		1	1	12	香川大学	2				2
東京海洋大学	19	1	1		21	高知大学	1		1		2
お茶の水女子大学	2	1			3	九州大学	5	3			8
電気通信大学	59	4	1	2	66	九州工業大学	21				21
横浜国立大学	12				12	佐賀大学	5				5
新潟大学	22	1			23	熊崎大学	5	1			6
長岡技術科学大学	281	15	14	22	332	熊本大学	7				7
富山大学	3		1	1	5	宮崎大学	2				2
金沢大学	3				3	鹿児島大学	2			1	3
福井大学	7	1	1	1	10	琉球大学	5			2	7
山梨大学	48	2	4	2	56	その他の大学	91	8	7	5	111
信州大学	32				32	合 計	1462	68	56	66	1652
岐阜大学	6	3			9						

(出典 木更津工業高等専門学校 学校要覧 2012 35 頁)

資料 6-1-③-1 (2/2)

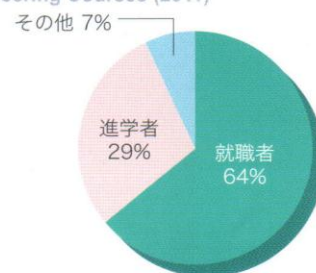
準学士課程と専攻科課程の最近の進学・就職先一覧

■卒業生の高等専門学校専攻科入学状況 Entrance into Advanced Courses of National College of Technology

高専名	入学年度				
	平成21年度以前 ~2009	平成22年度 2010	平成23年度 2011	平成24年度 2012	合計
木更津工業高等専門学校専攻科	282	39	40	37	398
八戸工業高等専門学校専攻科	1				1
鶴岡工業高等専門学校専攻科	1				1
福島工業高等専門学校専攻科	1				1
東京工業高等専門学校専攻科	1				1
豊田工業高等専門学校専攻科	2				2
鈴鹿工業高等専門学校専攻科	1				1
奈良工業高等専門学校専攻科	1				1
舞鶴工業高等専門学校専攻科	1				1
松江工業高等専門学校専攻科	1				1
久留米工業高等専門学校専攻科	1				1
都立産業技術高等専門学校専攻科	1				1
合計	294	39	40	37	410

■平成23年度専攻科修了生の進路状況 Graduates of the Advanced Engineering Courses (2011)

専攻 Course	修了者数 Graduates	就職者数 Employed	進学者数 Entrance into Univ.	その他 Others
機械・電子システム工学専攻 Mechanical and Electrical Course	16	10	6	0
制御・情報システム工学専攻 Control and Information Course	18	14	2	2
環境建設工学専攻 Civil and Environment Course	7	2	4	1
合計 Total	41	26	12	3



■平成23年度専攻科修了生の進路先一覧 Students' Career Paths of the Advanced Engineering Courses (2011)

	機械・電子システム工学専攻	制御・情報システム工学専攻	環境建設工学専攻
就職先	日本海洋掘削	1 NTTデータアイ	1 千葉県
	ニコン	1 ジュビターコーポレーション	1 セブンイレブンジャパン
	マブチモーター	1 パナソニックシステムソリューションズ	
	TDCソフトウェアエンジニアリング	1 マグネスケール	
	森精機	1 ヤフー	
	河村産業	1 東日本旅客鉄道	2
	日鐵テクノリサーチ	2 前川試験機製作所	1
	KCCSモバイルエンジニアリング	1 アイシンク	1
	市原市役所	1 日鉄エレックス	1
		1 富津市役所	1
	1 オデッセイヒューマンシステム	1	
	1 富士電機	1	
	1 ミクシィ	1	
	計 10	計 14	計 2
進学先	筑波大学大学院[推薦]	1 長岡技術科学大学大学院[推薦]	1 筑波大学大学院[推薦]
	東北大学大学院	1 千葉工業大学大学院	1 埼玉大学大学院
	横浜国立大学大学院		1 東京大学大学院
	千葉大学大学院		1 東北大学大学院[推薦]
	北陸先端大学院大学		
	計 6	計 2	計 4
合計	合計 16	合計 16	合計 6

(注)企業名は略称で記載しています。

(出典 木更津工業高等専門学校 学校要覧2012 36頁)

2011年度までの3年間の就職実績

過去3年間の主な就職実績

機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境都市工学科
JFE スチール	JAL 航空機整備東京	JUKI	CIJ ネクスト	NIPPO
アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド	NEC ネットエスアイエンジニアリング	NHK アイテック	NTT-ME	木更津市
アイシン精機	NTT-ME	NOK	NTT コミュニケーションズ	日立プラントテクノロジー
コスモ石油	NTT コミュニケーションズ	イトーキ	NTT データ	日鉄パイプライン
サントリーホールディングス	NTT ファシリティーズ	ジュビターコーポレーション	TID	東日本旅客鉄道
シチズン時計	ドコモエンジニアリング	ダイキン工業	アドバンテスト	東電工業
テルモ	ニコン	チッソエンジニアリング	キャノンマーケティングジャパン	東京電力
メタウォーター	リコーテクノシステムズ	安西メディカル	クラリオン	東京水道サービス
リコー	レンゴー	国立印刷局	ドワンゴ	東京ガスパイプライン
三菱電機ビルテクノサービス	京セラ佐倉事業所	三菱電機エンジニアリング	ニフティ	東海旅客鉄道
丸善石油化学	三菱重工業	山田電器工業	パナソニック ITS	袖ヶ浦市
出光興産	三菱電機システムサービス	出光興産	リコーテクノシステムズ	前田道路
宇部興産	住友化学千葉工場	成田エアポートテクノ	沖電気カスタマアドテック	千葉県
富士重工業	新日本製鐵	成田空港給油施設	山武	西松建設
山武	森永乳業	大崎電気システムズ	大崎コンピュータエンジニアリング	新日本製鐵
新日本製鐵	電気化学工業	東レ	東京ガス	若築建設
日本貨物鉄道	東海旅客鉄道	東海旅客鉄道	東芝 IT サービス	駒井鉄工
日立メディコ	東京エレクトロン FE	東京電力	日鉄エレックス	宮地鐵工所
曙ブレーキ工業	東京電力	東芝エレベータ	日立 INS ソフトウェア	宮地建設工業
東京電力	東芝エレベータ	東邦化学工業	日立メディコ	環境管理センター
東洋エンジニアリング	東芝電機サービス	日鉄エレックス	日立東日本ソリューションズ	開発虎ノ門コンサルタント
東海旅客鉄道	日本たばこ産業	日比谷コンピュータシステム	任天堂	テツゲン
森精機	日本海洋掘削	日本海洋掘削	富士ソフト	コーセツコンサルタント
荏原エリオット	日本板硝子	日本光電工業	富士通	NTT インフラネット
電気化学工業	富士通	富士重工業航空宇宙カンパニー	富士通アドバンストソリューションズ	NTT-ME

(出典 キャンパスガイドブック (進学志望の手引 2013) 5 頁)

(分析結果とその根拠理由)

就職や進学後の進路の状況から判断して、これら進路先は本校の教育の目的に相応しいものである。また、準学士課程と専攻科課程の就職希望者の就職率はほぼ100%である。教育の成果や効果が十分上がっている。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

[準学士課程]

平成24年度に、本校準学士課程卒業時における学生自身による学習・教育目標達成度評価のアンケートを実施した。これは、学習・教育目標の項目ごとに、学生が自身の達成度を5段階評価したものであり(数字が小さいほど達成度が高いとする)、その集計結果を資料6-1-④-1に図示する。これによれば、目標3(2)を除く全ての項目で3(「目標をほぼ(6割程度)達成できた」)以上とする回答が7割から9割に達する。目標3(2)についても、過半数の学生が評価を3以上としている。

[専攻科課程]

専攻科入学時に、各学生に「自己評価点検表」(資料6-1-④-2)を配布し、在学中の3つの時期に、学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検(資料6-1-④-3)を実施している。平成24年度修了生を対象とした自己評価点検の結果を資料6-1-④-4にまとめた。それによると、ほとんどの項目で4以上の評価を与えている学生が7割を上回るが、とりわけ、自身の専門とする分野の能力、プレゼン能力、創造力の項目に高い評価を与えており、これは観点6-1-②で述べた、研究・発表等の状況に基づく学校としての評価と符合する。また、専攻科入学後、学生が立てた学習目標に対して指導教員が助言を与えるための学習助言シート(資料6-1-④-5)を作成しており、各学生の研究が深化している様子を確認できる。

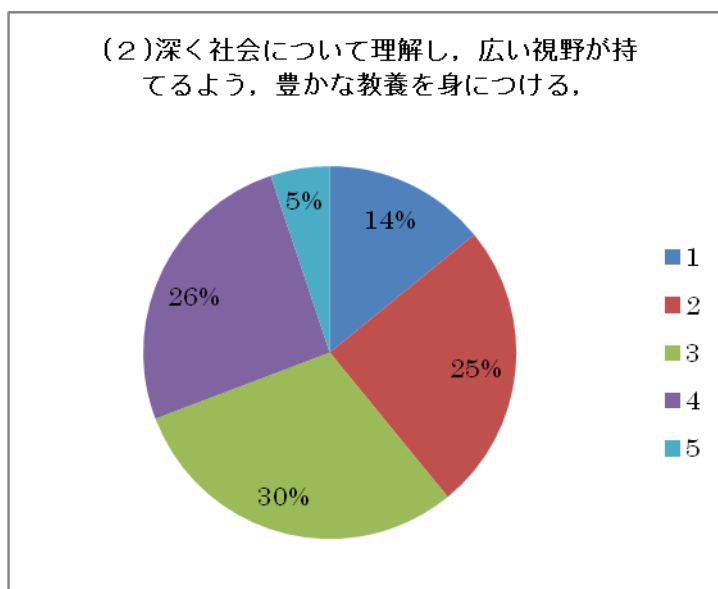
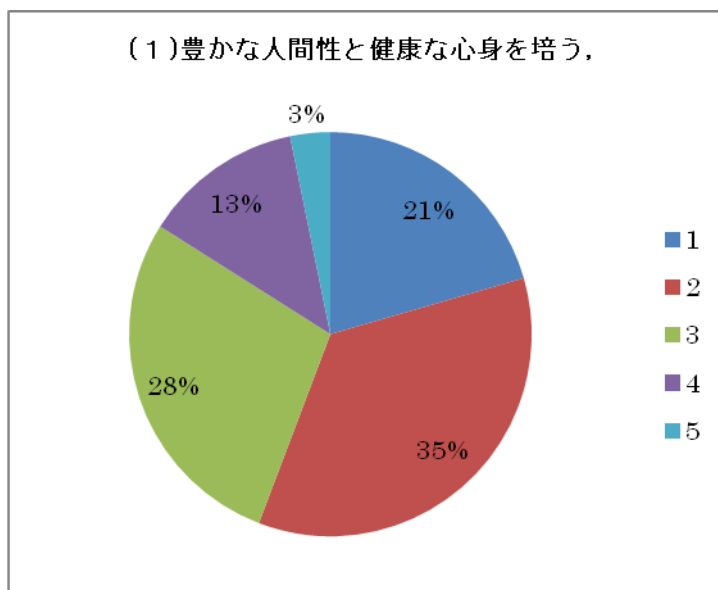
資料 6-1-④-1 (1/5)

木更津工業高等専門学校準学士課程卒業時における 学生自身による学習・教育目標達成度評価アンケートの結果

すべての項目に関する選択肢は以下のようにになっている。

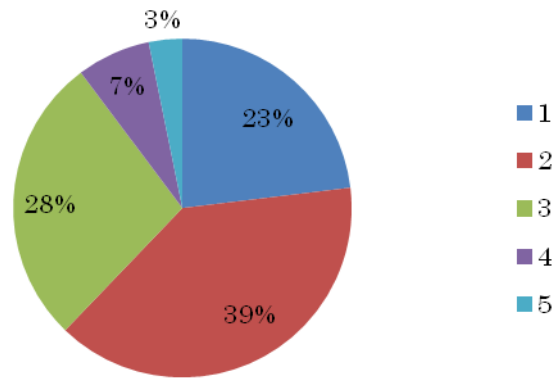
1. 目標を十二分に達成できた, 2. 目標を達成できた, 3. 目標をほぼ(6割程度)達成できた
4. 目標を一部達成した, 5. 目標を全く達成できなかった

1. 人間形成



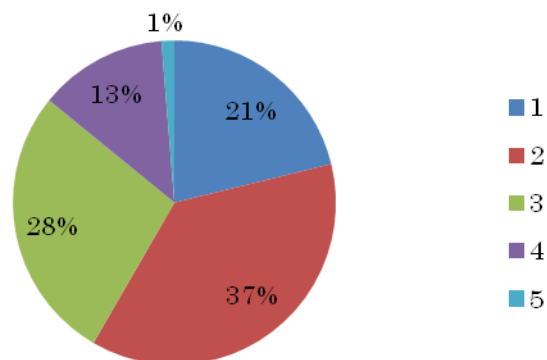
資料 6-1-④-1 (2/5)

(3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果
を理解し、技術者としての責任を自覚す
る、



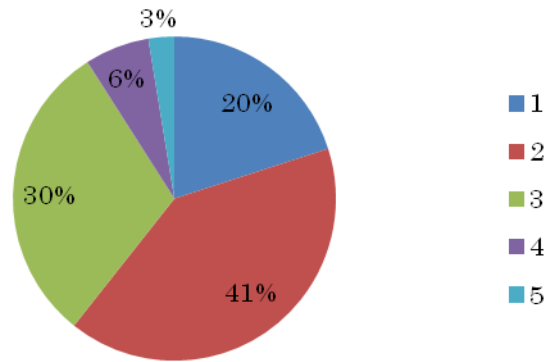
2. 科学技術の修得

(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれら
を用いた論理的思考能力を身につける、

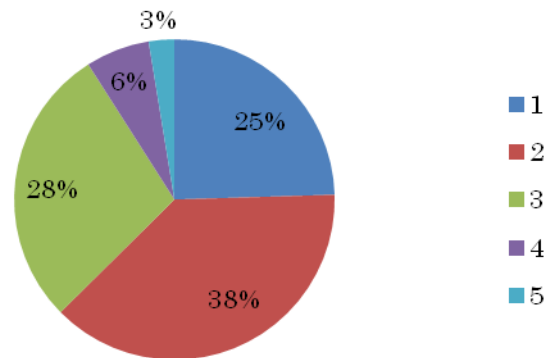


資料6-1-④-1 (3/5)

(2)専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける,



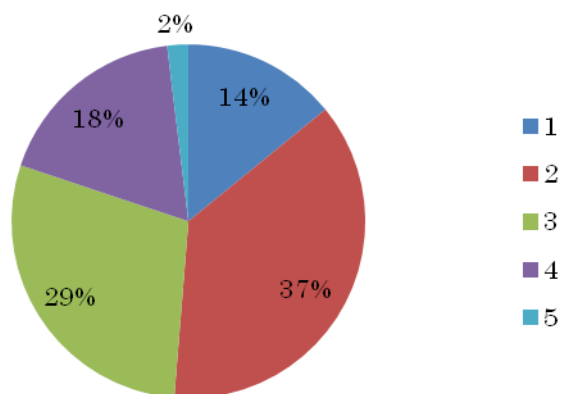
(3)実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける,



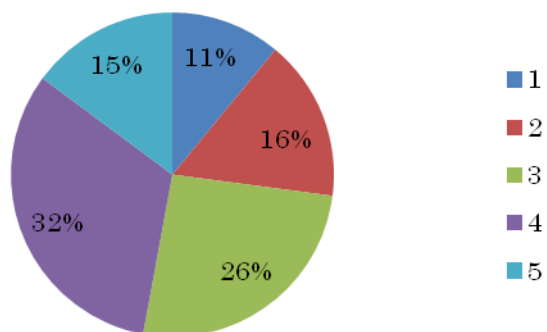
資料 6 - 1 - ④ - 1 (4 / 5)

3. コミュニケーション能力

(1) 日本語の記述能力を身につける,

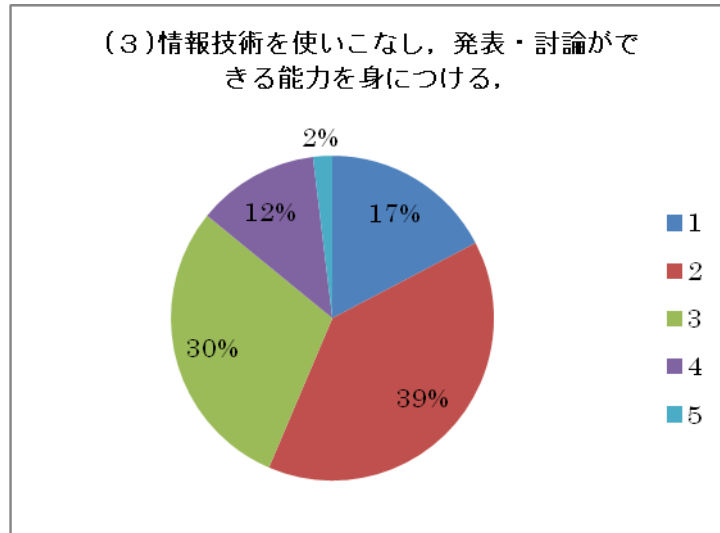


(2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける,



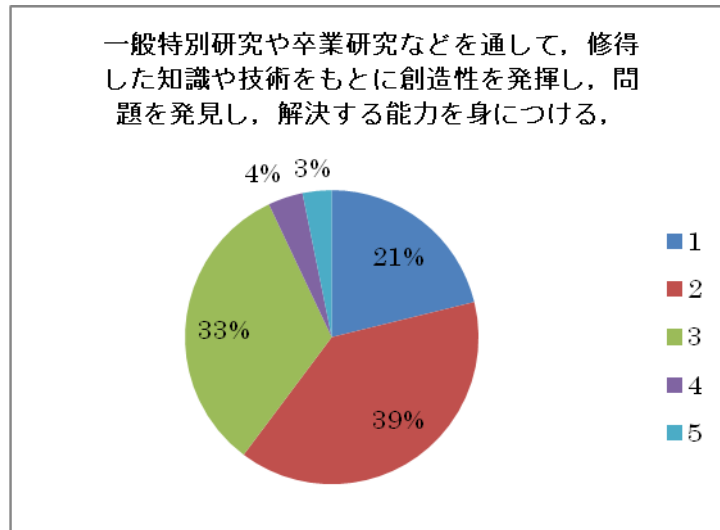
資料6-1-④-1 (5/5)

(3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。



4. 創造力

一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。



(出典 点検・評価委員会資料)

「生産システム工学」教育プログラム，学習・教育目標達成度に関する
学生自身による自己評価点検の内容と記入例

「生産システム工学」教育プログラム
学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検表

【目的】
この自己評価点検表は、学習・教育目標に関する達成度について学生が自己点検等を行い、その後の学習に役立てるためのものです。各段階で自己点検等を重ね、プログラム修了時には全ての項目に「3以上」がつくことが望まれます。

【記入上の注意】

- 1) 「生産システム工学」教育プログラム 履修の手引」を参照しながら、下表の右欄に以下の数字を記入して下さい。
 5 目標を十二分に達成できた。
 4 目標を達成できた。
 3 目標をほぼ(6割程度)達成できた。
 2 目標を一部達成した。
 1 目標を達成すべく努力中である。
 - 履修前または履修中である。
- 2) 「今後の学習目標」の欄には、その後の学習計画等について、具体的に記入して下さい。
- 3) 「指導教員の助言」の欄は、特別研究指導教員に記入を依頼してください。

学習・教育目標	評価基準	点検項目	専1年 6月	専2年 4月	プログラム 修了時
(A) 人間形成：健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を履行しうる技術者	(A-1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。	・健康や体力についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、生涯スポーツの関心を喚起できること ・文芸作品を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを傾められること	3	4	5
	(A-2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。	・歴史学習を通して技術者が持つべき社会観を構築できること ・技術に関連する事故等の検討を通して、技術者としての社会的な責任と使命について理解できること ・環境問題と社会の関係についての概観を理解できること ・自然環境に関する基礎的事項を理解できること	3	4	4
(B) 科学技術の修得と応用：自らの専門とする科学技術について、その基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にちすんで活躍しうる技術者	(B-1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。	・数学および自然科学の基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題を解けること ・実験を通して現象を理解できること	2	3	4
	(B-2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。	・各分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて実際の工学的な現象を理解できること	3	4	4
	(B-3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。	・異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合するために、専門分野以外の工学の基礎知識を身につけること	3	4	4
	(B-4) 実験や実習を通して実践的技術を身につける。	・実験・実習を通して、実際の工学現象を理解し、実践的技術を身につけること	3	4	4
(C) コミュニケーション能力：国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者	(C-1) 日本語の記述能力を身につける。	・国際表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉で表現できること	2	3	3
	(C-2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。	・コンピュータによる情報処理や情報収集等ができること ・コンピュータを用いて、卒業研究や専攻科特別研究の内容を発表・討論できること	3	3	4
	(C-3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。	・国際的に活躍するための基礎的な語学力、特に英語力を身につけること	2	3	3
(D) 創造力：自ら工夫して新しいものを作り出す研究開発型の技術者	(D-1) 問題解決のための修得した専門知識を応用できる。	・卒業研究や専攻科特別研究などを通して、修得した専門知識を用いること	3	3	4
	(D-2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察及び整理ができる。	・卒業研究や専攻科特別研究などを通して、問題を解決するために、その計画立案、実行、結果の考察、整理ができること	3	4	4

(出典 専攻科委員会資料)

**学習・教育目標達成度に関する
学生自身による自己評価点検の結果（回答数 36）**

(A) 人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献する優れた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者

(A-1) 豊かな人間性と健康や身体を培う。

(A-2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

(B) 科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者

(B-1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。

(B-2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。

(B-3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。

(B-4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

(C) コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者

(C-1) 日本語の記述能力を身につける。

(C-2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。

(C-3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

(D) 創造力（デザイン能力）

自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者

卒業研究や専攻科特別研究などを通して、次の能力を身につける。

(D-1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。

(D-2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察および整理ができること。

専攻科修了生による到達度自己評価結果

目標	1	2	3	4	5
A-1			8	18	10
A-2			5	22	9
B-1			9	18	9
B-2			3	20	13
B-3		2	8	19	7
B-4			6	19	11
C-1		1	11	18	6
C-2		1	3	19	13
C-3		1	11	17	7
D-1			7	17	12
D-2			5	18	13

（出典 専攻科委員会資料）

専攻科学習助言シートの記入例

今後の学習目標／指導教員の助言

学 生 名 XXXXXXXXXX

指導教員名 XXXXXXXXXX

点検 時期	今後の学習目標：学生が記入	
	指導教員の助言：教員が記入	
専攻科 1年 6月	学 生	本科時における専門科目の復習と、研究での実験計画 が整理できた。原理的な解析ができたので試作実験を 行い、方向性を見出していきたい
	指 導 教 員	卒研の内容をもう一度整理して、不十分な点を 補ない。そこから負ってくる改善点について検討 しよう
専攻科 2年 4月	学 生	研究会などでの発表でいただいた質問やアドバイスをもとに 検討すべき内容を発見していきたい。特に理想整流回路 については、自らの有効性を感じた TOEICスコアは50点ほど伸びたので、今後継続的に学習してい
	指 導 教 員	学会での発表は、良い刺激になったと思います。 頂いた意見を参考に、研究を進め、発表を行 うようにしよう。
専攻科 修了時	学 生	共振回路の伝達関数について 共振回路部を中心に、極と零点 を名づけた。方角的な検討を行い、類似多相交流を用いる方法にか 組む。また、ゲート回路理想整流回路に変更して伝達関数を導出 創発性としての実験的考察の結果とならしたため、今後検討が必要
	指 導 教 員	後輩のために、レポート等を整理に残して下さい。 仕事に関しても、研究する気持ちと志士気には活躍して 下さい。

(出典 専攻科委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の卒業時に、学生自身による学習・教育目標達成度評価のアンケートを実施し、全ての項目で多くの学生が「目標をほぼ(6割程度)達成できた」と回答する、良い結果を得た。また、専攻科入学後に学生が立てた学習目標に対して指導教員が助言を与えるための学習助言シートを作成し、修了時に、学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検も実施している。それらを踏まえると、自身の専門とする分野の能力やそれに基づく創造力の育成について、修了生が高い自己評価を与えていることが確認される。

以上のように、各種アンケートや助言シートにより教育の成果や効果を確認しており、それらの結果により教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

平成24年度に、準学士課程卒業生と専攻科課程修了生に対して、上記意見を聴取するアンケート(資料6-1-⑤-1)を実施した。その集計結果(資料6-1-⑤-2)によれば、多くの項目で良い回答を得ている。また、進学先として、主に長岡技術科学大学に、就職先として企業に、それぞれアンケートを実施した。その結果の一部を(資料6-1-⑤-3)に示す。特に、長岡技術科学大学の全教員にアンケートを依頼し、多くの回答があった。

更に、平成21年度には、本校における教育・研究活動及び地域連携等の状況の自己点検及び評価についての学外の有識者による外部評価を行い、報告書としてまとめた。それを(資料6-1-⑤-4)に示す。各項目について、貴重な評価・提言を頂いた。これらの評価が適切に反映されているかを検証し、改善が必要な事項への取り組み状況を(資料6-1-⑤-5, 現地閲覧資料19)に示す。

上記達成度評価アンケートの結果や、卒業生、修了生、大学、企業等及び外部評価委員からの意見・提言によれば、例えば英語等で改善を求める声があることが分かる。これらに関しては、具体的な目標になる英検・工業英検やTOEIC等の外部試験を導入・推奨するなどして力を注いでいる。

卒業生と修了生に対するアンケート用紙

木更津工業高等専門学校「卒業生・修了生アンケート」

H24.10.25

本アンケートは木更津高専の教育改善に用いるために行っております。Q1～7の回答は該当項目の番号を右の回答欄にご記入ください。
Q8・9は記述式回答となっております。項目が多くお手数をおかけいたしますが、ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

回答欄

Q1 ご卒業または修了後、何年経っていますか。
①-9年以下、②-10～19年、③-20～29年、④-30年以上

Q2 本科(準学士課程)卒業の方へお聞きします。木更津高専の卒業学科を教えてください。
①-機械工学科 ②-電気電子工学科(電気工学科) ③-電子制御工学科 ④-情報工学科 ⑤-環境都市工学科(土木工学科)

Q3 専攻科修了の方へお聞きします。修了時の専攻を教えてください。
①-機械・電子システム専攻、②-制御・情報システム専攻、③-環境建設工学専攻

Q4 現在の職種等を教えてください。
①-会社員・公務員 ②-大学生・高専専攻科生 ③-大学院生 ④-自営業 ⑤-その他

Q5 現在の業種と職種を教えてください。
【業種】
(1)産業 (2)建設業 (3)食料品 (4)繊維製品 (5)パルプ・紙 (6)化学 (7)医薬品 (8)石油・石炭製品
(9)ゴム製品 (10)ガラス・土石製品 (11)鉄鋼業 (12)非鉄金属製品 (13)金属製品 (14)機械 (15)電気機器 (16)輸送用機器
(17)精密機器 (18)電気・ガス・水道業 (19)運輸業 (20)情報・通信業 (21)小売業 (22)サービス業 (23)公務員 (24)その他
【職種】
(1)研究開発 (2)製造・生産技術 (3)設計 (4)生産・品質管理 (5)システムエンジニア (6)サービスエンジニア (7)営業 (8)経営・管理 (9)その他

Q6 次にあげる学力、能力等について、木更津高専での勉学での程度身に付けることができましたか。
4段階で評価してください。
①-十分に身に付けることができた、②-概ね身に付けることができた、③-あまり身に付けることができなかった、
④-全く身に付けることができなかった

(1) 専門分野に関する基礎力
(2) 専門分野に関する応用力
(3) 専門分野に関する技術力
(4) 人文社会系の一般教養
(5) 自然科学系の一般教養
(6) 英語をはじめとする語学力
(7) コミュニケーション能力
(8) コンピュータ利用能力
(9) 問題解決力
(10) 創造力
(11) プレゼンテーション能力

Q7 木更津高専で受けた授業カリキュラムの中で、以下の関連科目が十分な内容と時間数が確保されていたと思いますか。
4段階で評価してください。
①-十分、②-概ね、③-やや不十分、④-不十分、⑤-該当なし

(1) 国語
(2) 英語
(3) 数学
(4) 物理・化学
(5) 一般特別研究(3年次、平成3年度以降開講)
(6) その他一般科目
(7) 情報技術・コンピュータ基礎
(8) 専門科目の講義
(9) 専門科目の演習・実験実習
(10) 卒業研究・特別研究
(11) インターンシップ(学外実習)(4年次、機械・電気・電子制御工学科平成4年度以降開講、土木工学科平成元年度以降開講)
(12) 同専攻他学科の専門科目(専攻科修了生のみ回答)
(13) 他専攻の専門科目(専攻科修了生のみ回答)

Q8 木更津高専で受けた教育について、良かったと思う点と良くなかったと思う点をお聞かせください。

良かった点:

良くなかった点:

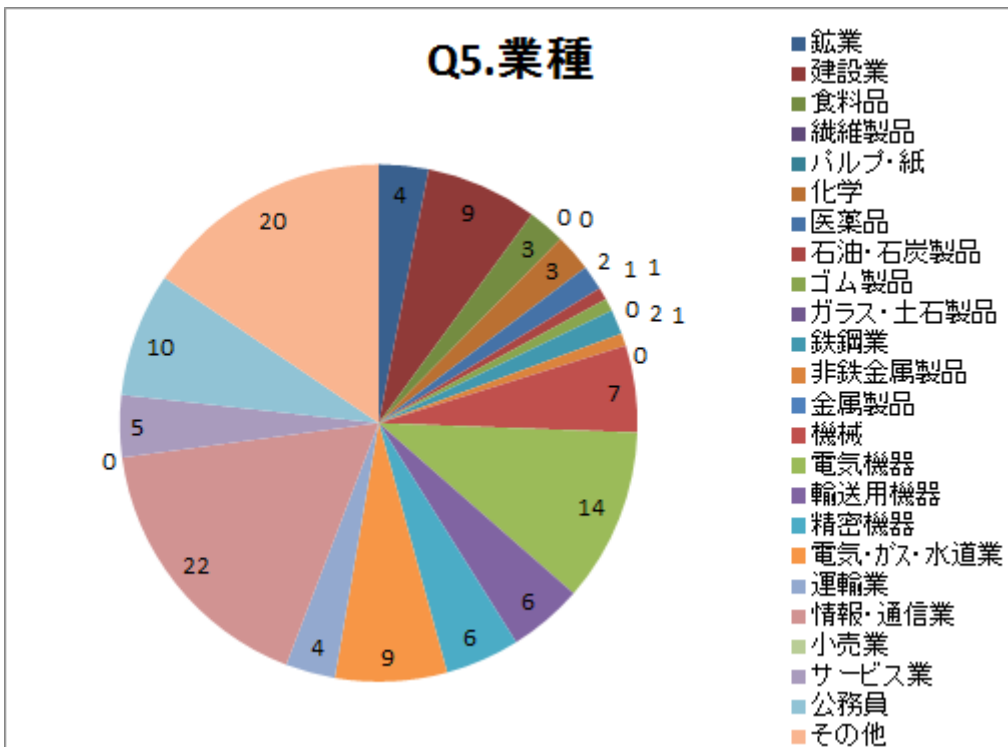
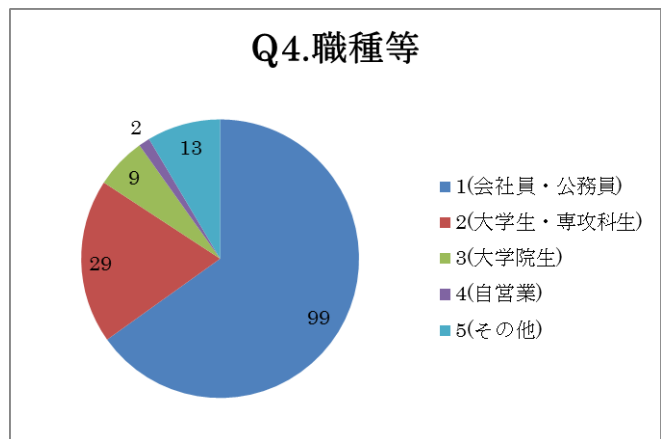
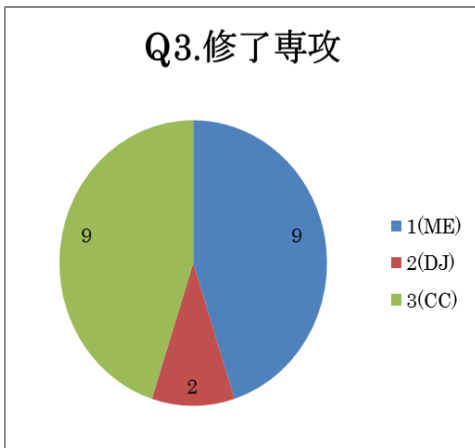
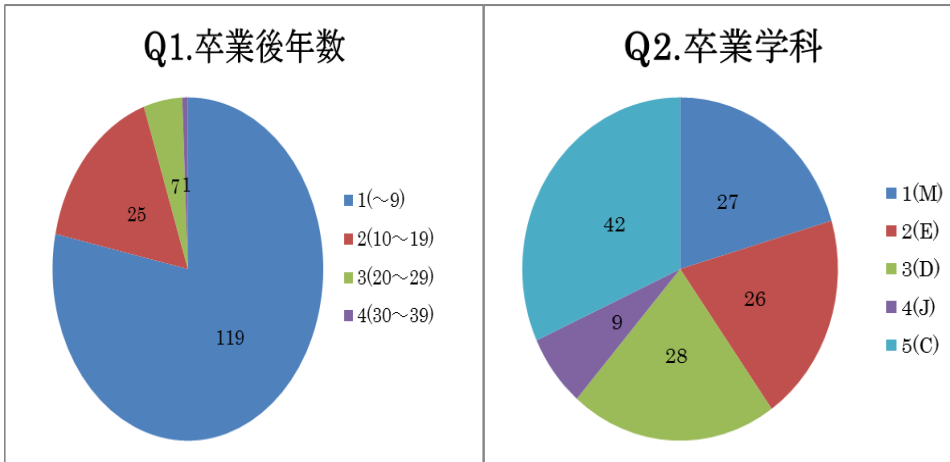
Q9 木更津高専への提言があれば、ご記入ください。

回答は以上です。ご協力ありがとうございました。
点検・評価委員会

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 6-1-⑤-2 (1/5)

卒業生と修了生に対するアンケート結果

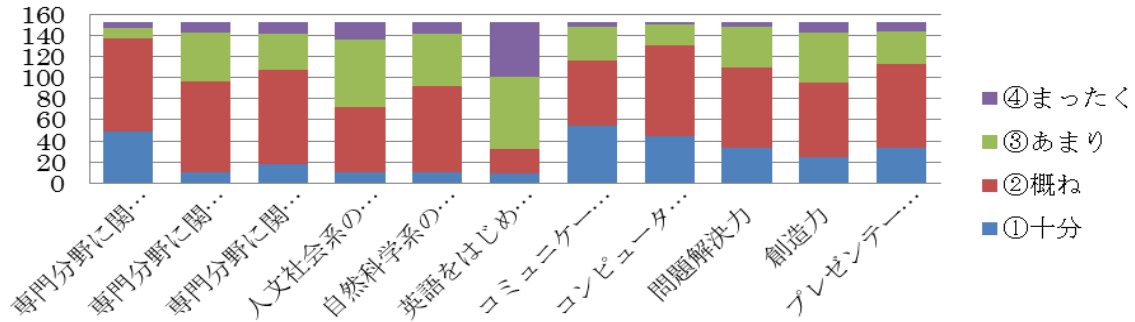


(出典 点検・評価委員会資料)

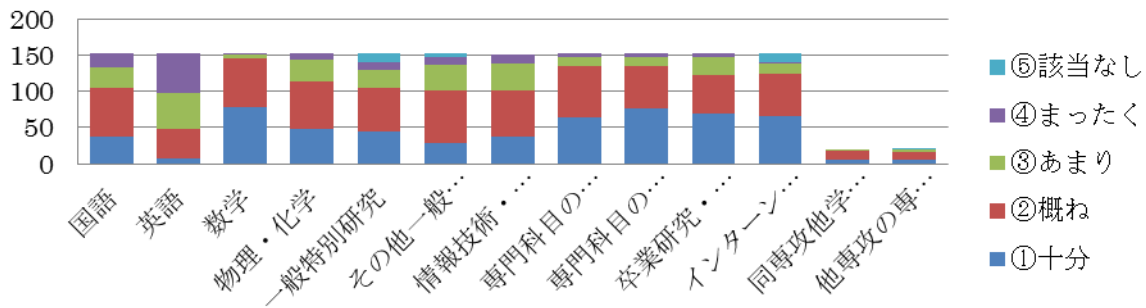
資料 6-1-⑤-2 (2/5)

卒業生と修了生に対するアンケート結果

Q6.木更津高専での勉学でどの程度身に付けることができましたか。



Q7.関連科目が十分な内容と時間数が確保されていたと思いますか。

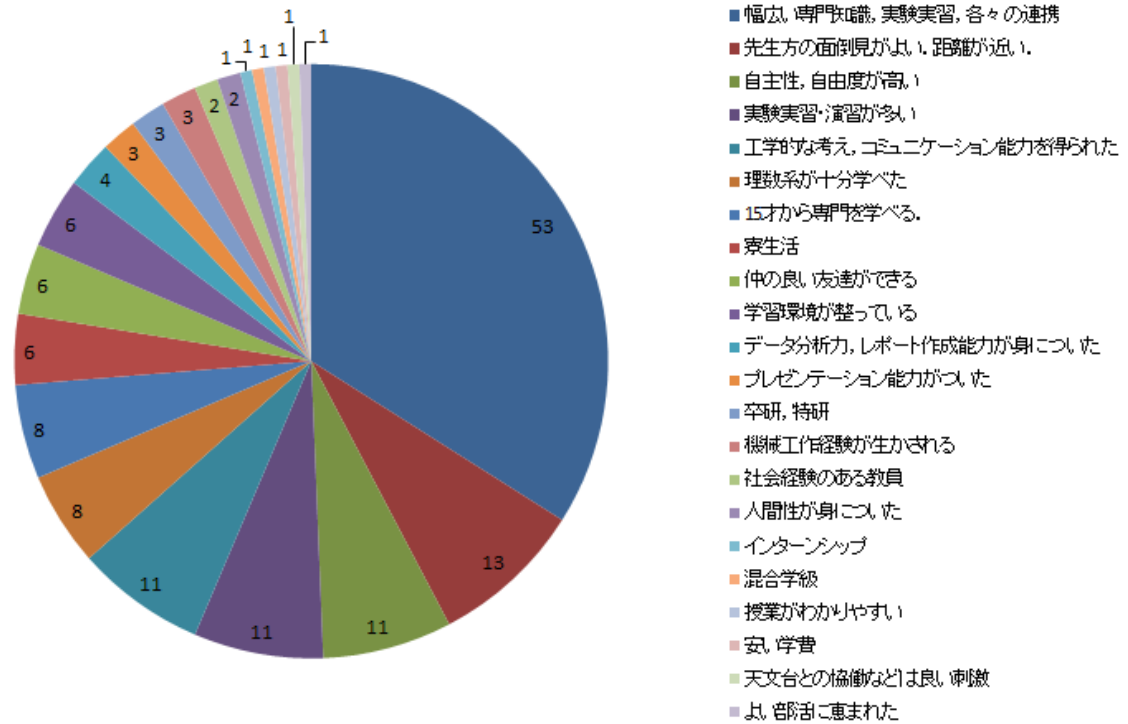


(出典 点検・評価委員会資料)

資料6-1-⑤-2 (3/5)

卒業生と修了生に対するアンケート結果

Q8. 木更津高専で受けた教育について、良かった点

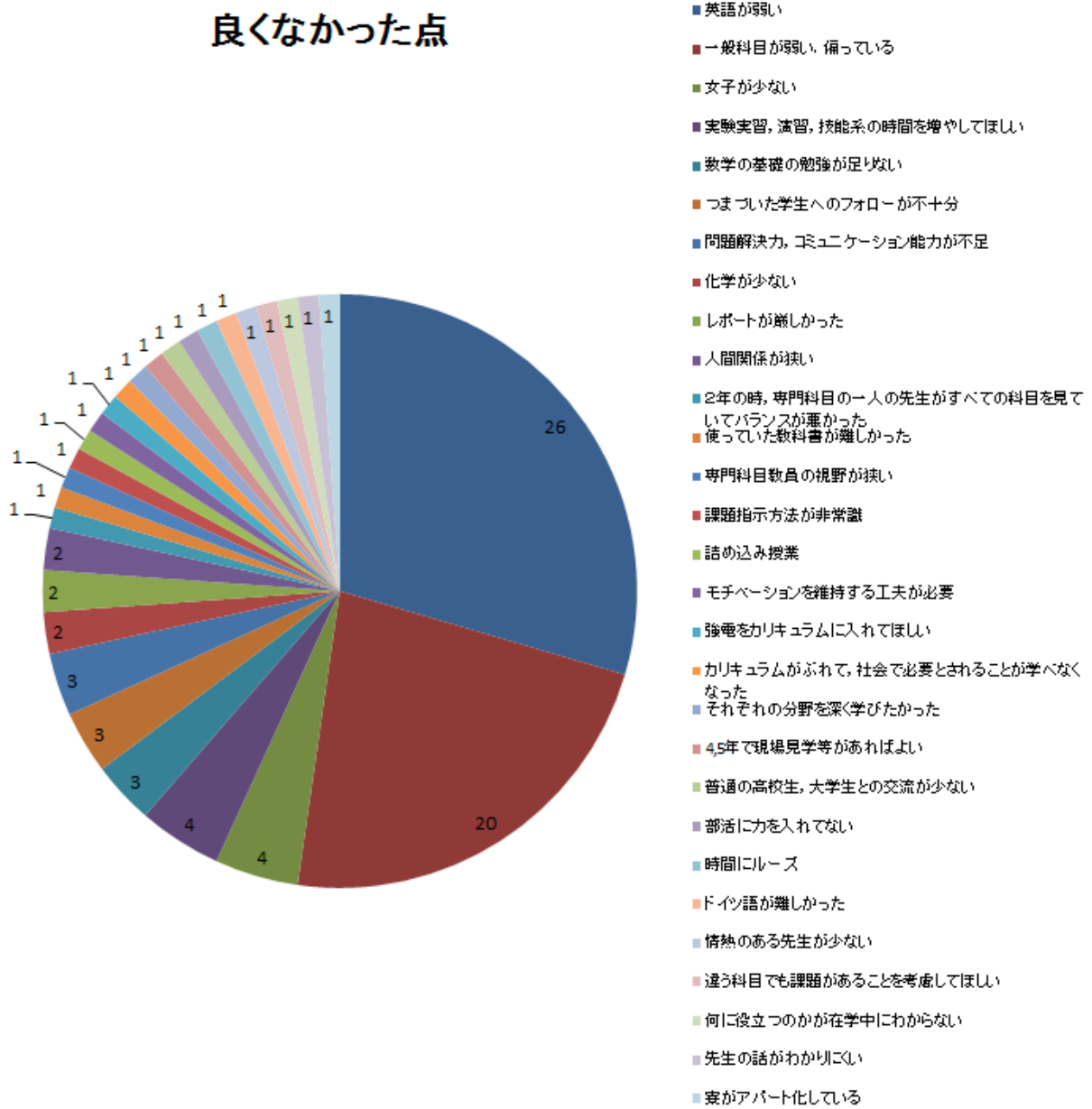


(出典 点検・評価委員会資料)

資料 6 - 1 - ⑤ - 2 (4 / 5)

卒業生と修了生に対するアンケート結果

Q8. 木更津高専で受けた教育について、良くなかった点

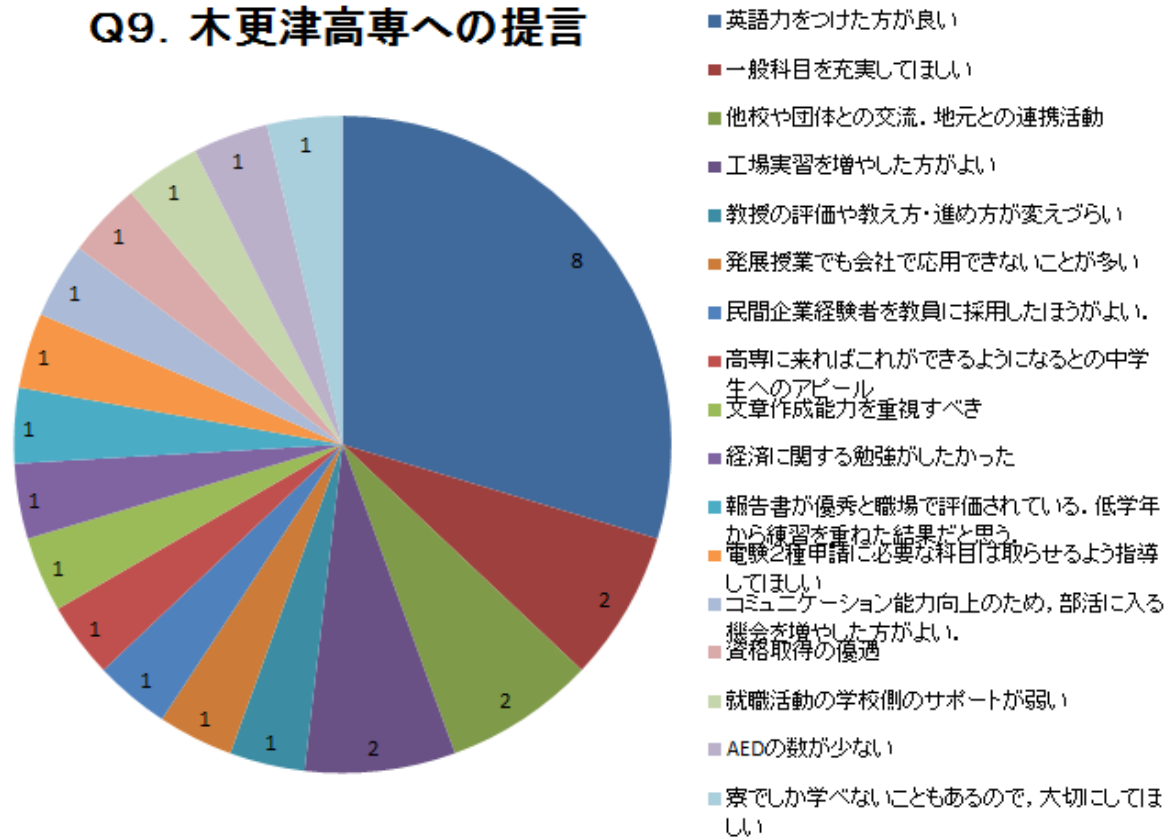


(出典 点検・評価委員会資料)

資料 6-1-⑤-2 (5/5)

卒業生と修了生に対するアンケート結果

Q9. 木更津高専への提言



(出典 点検・評価委員会資料)

資料 6-1-⑤-3 (1/8)

大学へのアンケート用紙

長岡技術科学大学教員の皆様へアンケートのお願い

木更津工業高等専門学校
点検・評価委員会

木更津高専では、本校の教育活動の改善のために、大学教員の皆様にアンケートをお願いしております。大学教員の皆様のご要望を活かし、より良い学生を育成するためにも、忌憚のない御意見をお聞かせいただけますよう、お願い申し上げます。

1. 所属されている系（機械系、電気系など）をご記入下さい。

(_____)

2. 先生（ご回答者）の年齢区分について、該当する番号を○で囲んで下さい。

1 : 20～29 歳 2 : 30～39 歳 3 : 40～49 歳 4 : 50 歳以上

3. 高専生に求める人材（能力、人柄など）とはどのようなものでしょうか？

4. 今までに、先生の研究室に配属され直接指導を行った本校卒業生の人数について、該当する番号を○で囲んで下さい。

1 : 0～4 名 2 : 5～9 名 3 : 10～14 名 4 : 15～19 名 5 : 20 名以上

5. 設問 3 のご回答を踏まえ、貴大学に入学した本校のこれまでの卒業生に対する満足度を教えて下さい。該当する番号を○で囲んで下さい。

1 : 非常に満足している 2 : 満足している 3 : あまり満足していない 4 : 不満である

6. 次にあげる学力、能力等について、木更津高専の卒業生（修了生）は、どの程度身に付いていると思えますか。該当する番号を○で囲んで下さい。

	十分に身に 付いている	概ね身に 付いている	あまり身に 付いていない	全く身に 付いていない
(1) 専門分野に関する基礎力	1	2	3	4
(2) 専門分野に関する応用力	1	2	3	4
(3) 専門分野に関する技術力	1	2	3	4
(4) 人文社会系の一般教養	1	2	3	4
(5) 自然科学系の一般教養	1	2	3	4
(6) 英語をはじめとする語学力	1	2	3	4
(7) コミュニケーション能力	1	2	3	4
(8) コンピュータ利用能力	1	2	3	4
(9) 問題解決力	1	2	3	4
(10) 創造力	1	2	3	4
(11) プレゼンテーション能力	1	2	3	4

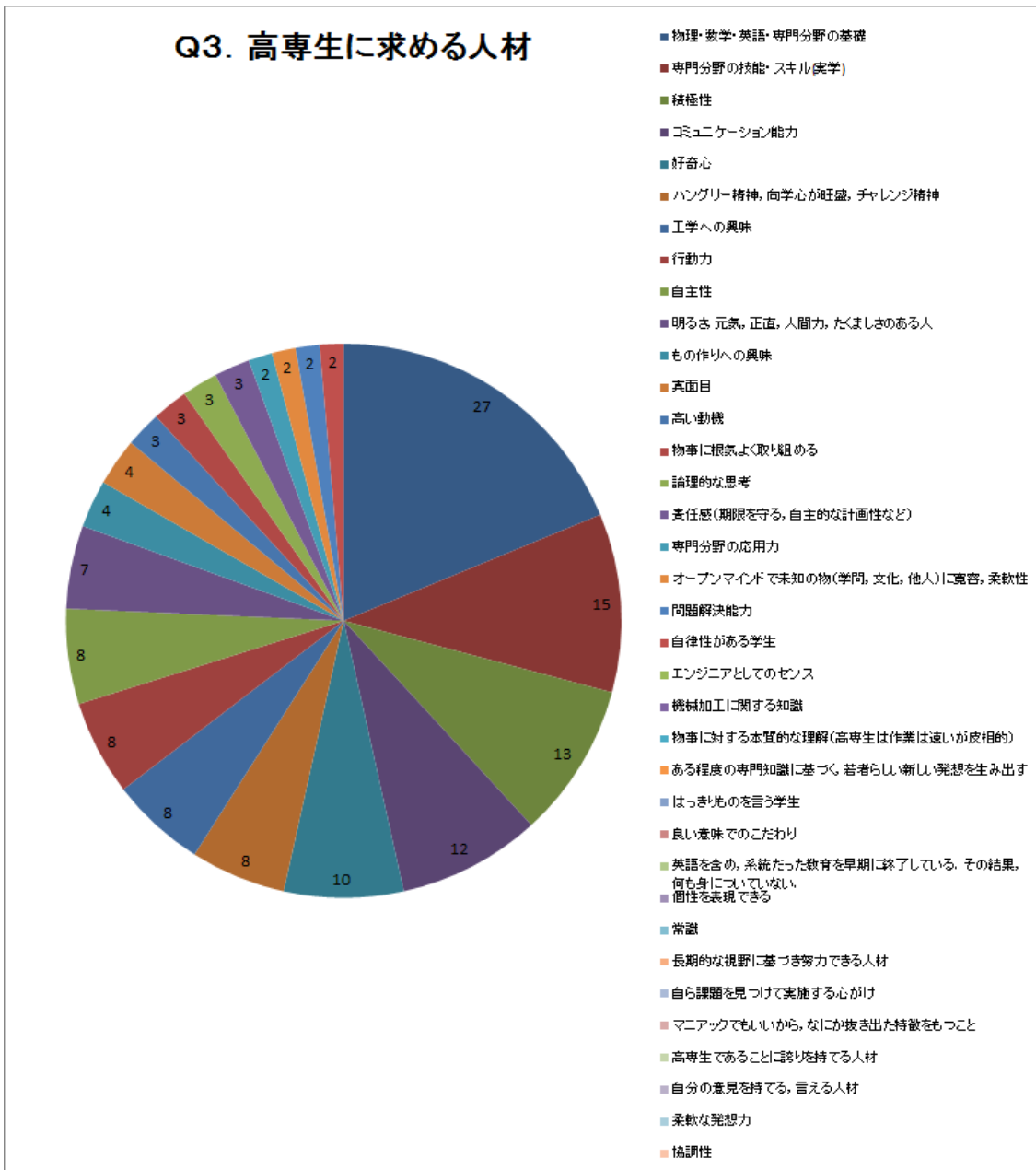
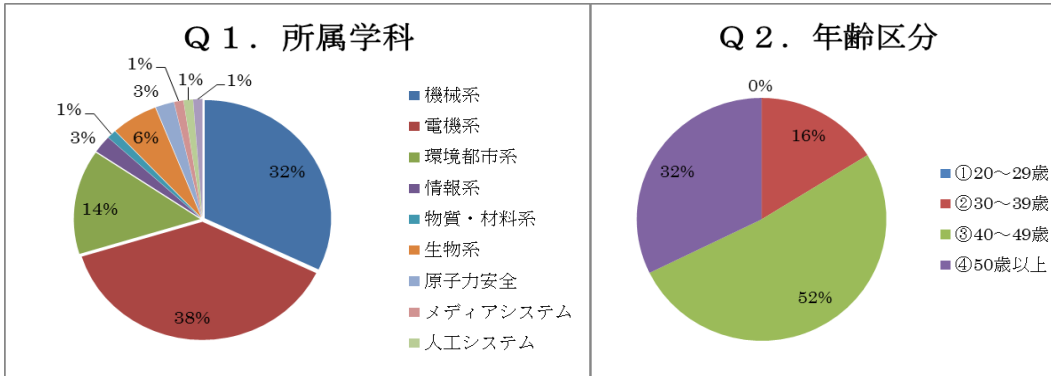
7. その他、高専教育に対するご要望がありましたら、忌憚なくご記入ください。

ご協力、誠にありがとうございました。

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 6 - 1 - ⑤ - 3 (2 / 8)

大学へのアンケート結果

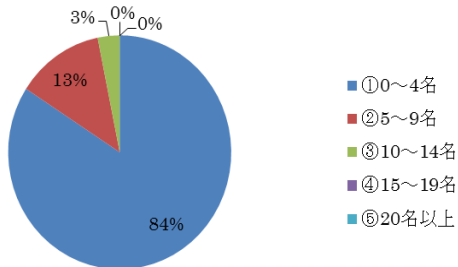


(出典 点検・評価委員会資料)

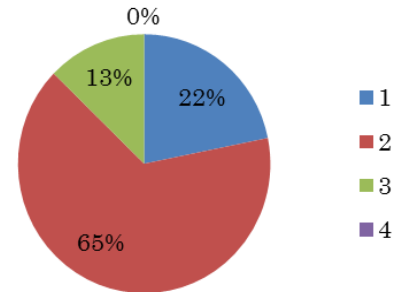
資料6-1-⑤-3 (3/8)

大学へのアンケート結果

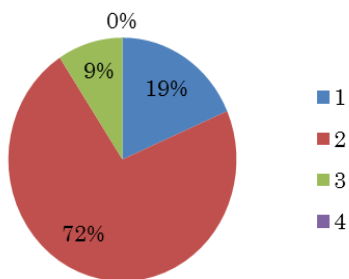
Q 4. これまでに指導した学生数



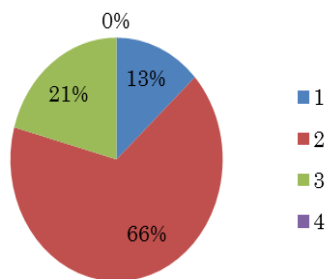
Q 5



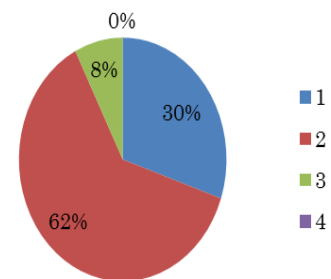
Q 6 (1)



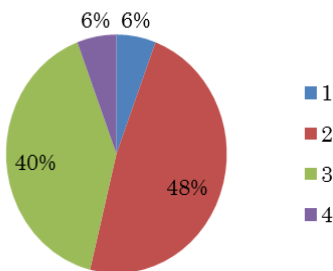
Q 6 (2)



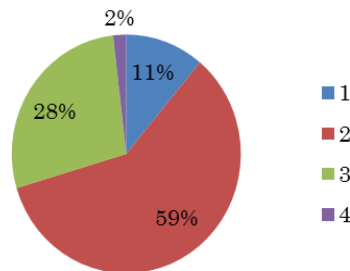
Q 6 (3)



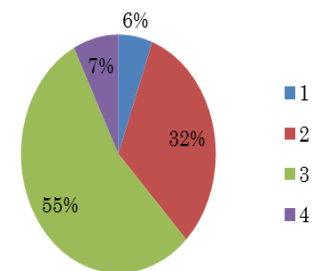
Q 6 (4)



Q 6 (5)



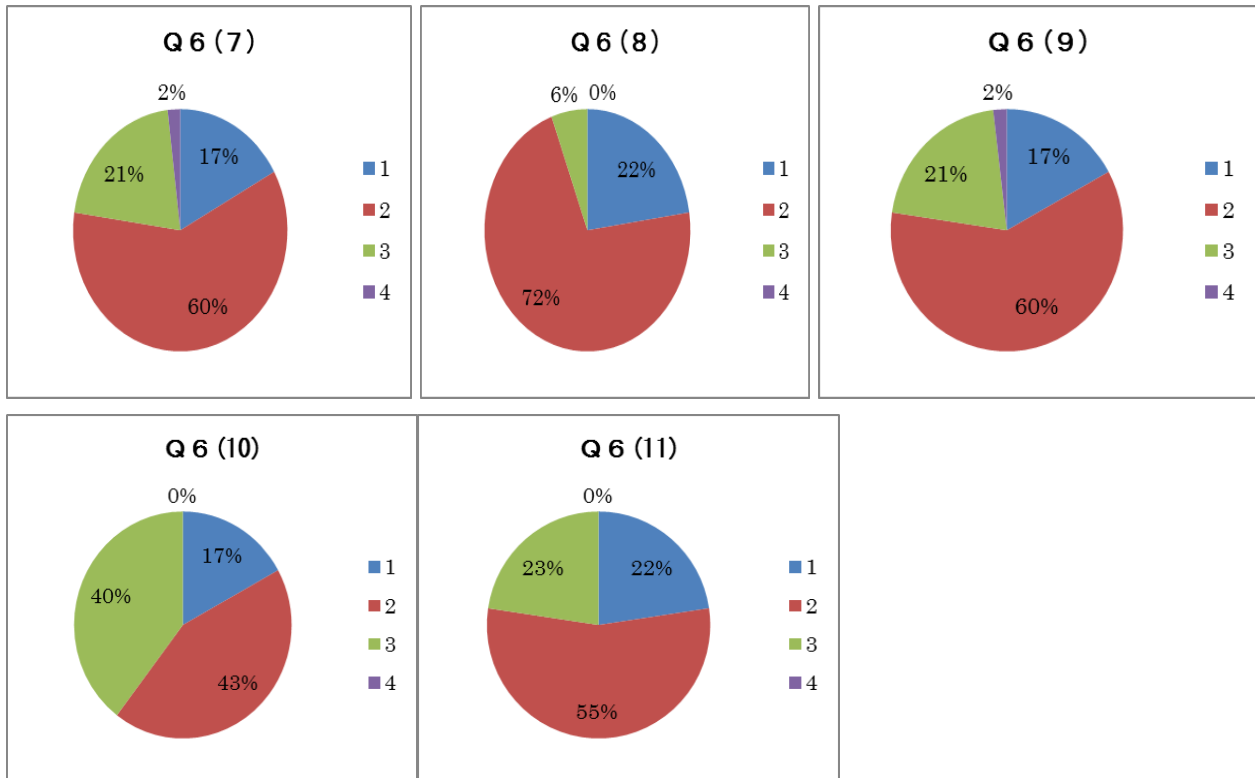
Q 6 (6)



(出典 点検・評価委員会資料)

資料 6 - 1 - ⑤ - 3 (4 / 8)

大学へのアンケート結果



<p>Q7. その他</p> <p>エンジニアとしての基礎、現場意謝などのキーコンピテンシーを身に付けさせてほしい</p> <p>ロジカルシンキングなども今後は取り組むべきだと考える</p> <p>高専教員が自信を持てるような仕組みの構築</p> <p>高専生の特徴がなくなっている。(実学より座学が通信となる傾向がある。元気がなくなってきた)</p> <p>バイタリティーのある人材を育成してほしい</p> <p>「挑戦する意思」を高めてほしい(たとえば海外研修など積極的に応募してほしい)</p> <p>文章により自らの考えを伝える力を養う教育(日本語力)</p> <p>正規分布、平均値、標準偏差の意味を理解させる教育(実験実習)</p> <p>エリート意識を持ったリーダー的地位をめざそうとするアクティブな行動力を養うようにご配慮いただけるとよい</p> <p>進学率が40~80%となっている今日において大学で必要となる学力の養成にも力を入れていただきたい</p> <p>国語力、英語力を強化していただきたい</p> <p>英語力の強化</p> <p>上昇志向の育成(粘り強さ)</p> <p>統計学を学んでほしい</p> <p>専門分野に関する基礎的な知識、スキル(オシロスコープの使い方など)</p> <p>さまざまなことに挑戦する心</p> <p>生活指導を大学でしなくて済むようお願いします。</p> <p>根拠のない自信がある学生の指導が困難です(指導内容を理解しようとせず、自明な間違いをする)</p> <p>過度の指導をせず、学生の自主性を伸ばしてください。社会の厳しさのご指導をお願いします。</p> <p>全入時代を迎え、より強い大学との連携がほしい。研究の協力が授業以外での学生の行き来を多くし、志のある学生を大学・大学院へ導いてほしい。</p> <p>高等学校から大学初年度くらいまでの範囲の基礎数学力の向上をお願いします。</p> <p>語学が苦手な学生が多いようです。プレゼンできるような実用的な英語や、長文読解などをやっておくとよいかと思ひます。</p> <p>高専卒業生は卒業研究を履修していることから、大学の卒業研究にスムーズに取り組むことができ、高い業績を上げています。</p> <p>専門能力が高いが、英語が苦手という学生が多いように感じます。</p> <p>機械工学科への編入は機械工学科出身の学生が望ましいと思ひます。異なる学科からの編入の場合、学生も教員も苦勞することがあります。</p> <p>1年次入学の学生にも負けない人文社会系の基礎的素養を身に着ける、もしくは少なくとも、その重要性を認識できるよう指導願ひます。</p> <p>概ね高評価です。コミュニケーションや英語能力をつけると更によい学生になります。</p> <p>良い学生とそうでない学生の差が大きいと感じる。</p>

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 6 - 1 - ⑤ - 3 (5 / 8)

企業へのアンケート用紙

企業の皆様へのアンケート

木更津工業高等専門学校
点検・評価委員会

ご協力いただける企業の皆様へ

木更津高専では、本校の教育活動の改善のために、企業の皆様にアンケートをお願いしております。企業の皆様のご要望を活かし、より良い学生を育成するためにも、以下のアンケートにお答えいただけますよう、お願い申し上げます。

1. 貴社の業種をご記入ください。例：(I T)関係 など

() 関係

2. 求人の対象となる学科および専攻に○をお付けください。複数の学科の学生を求人される場合は、対象とされる学科全てにご記入ください。

- () 機械工学科 () 電気電子工学科 () 電子制御工学科
 () 情報工学科 () 環境都市工学科
 () 機械・電子システム工学専攻 () 制御・情報システム工学専攻
 () 環境建設工学専攻

3. 貴社には、これまで本校の卒業生が就職していますでしょうか？YES または NO に○を付けて下さい。

YES

NO

***YES と答えられた方は 4 番より、NO の方は 4 番と 7 番のみお答え下さい。**

4. 貴社が高専生に求める人材（能力、人柄など）とはどのようなものでしょうか？

5. 上記 4 を踏まえ、貴社で働く本校のこれまでの卒業生に対する満足度を教えて下さい。該当する番号を○で囲んで下さい。

- ① 非常に満足している ② 満足している ③ あまり満足していない ④ 不満である

6. 次にあげる学力、能力等について、木更津高専の卒業生（修了生）は、どの程度身に付いていると思われませんか。該当する番号を○で囲んで下さい。

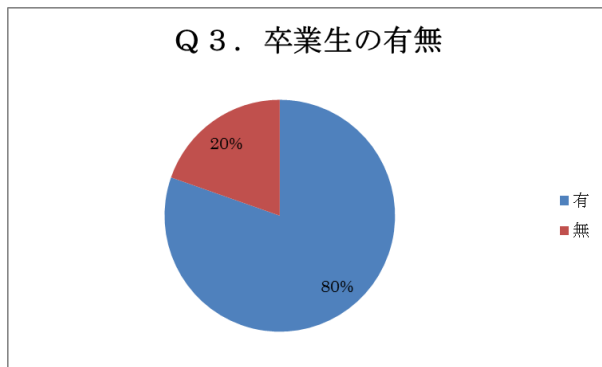
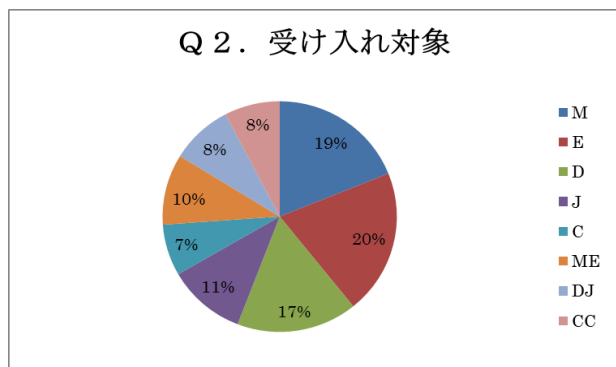
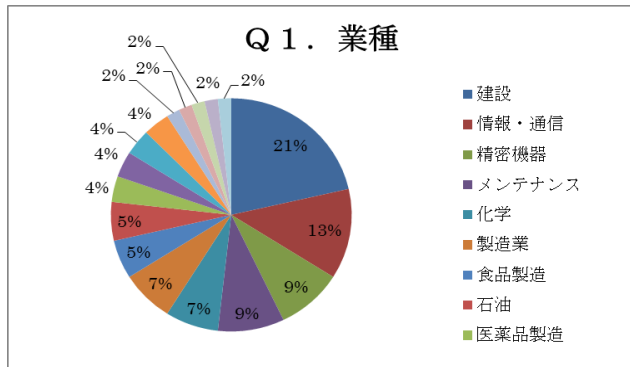
	十分に身に 付いている	概ね身に 付いている	あまり身に 付いていない	全く身に 付いていない
(1) 専門分野に関する基礎力	1	2	3	4
(2) 専門分野に関する応用力	1	2	3	4
(3) 専門分野に関する技術力	1	2	3	4
(4) 人文社会系の一般教養	1	2	3	4
(5) 自然科学系の一般教養	1	2	3	4
(6) 英語をはじめとする語学力	1	2	3	4
(7) コミュニケーション能力	1	2	3	4
(8) コンピュータ利用能力	1	2	3	4
(9) 問題解決力	1	2	3	4
(10) 創造力	1	2	3	4
(11) プレゼンテーション能力	1	2	3	4

7. その他、高専教育に対するご要望がありましたら、忌憚なくご記入ください。

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 6-1-⑤-3 (6/8)

企業へのアンケート結果

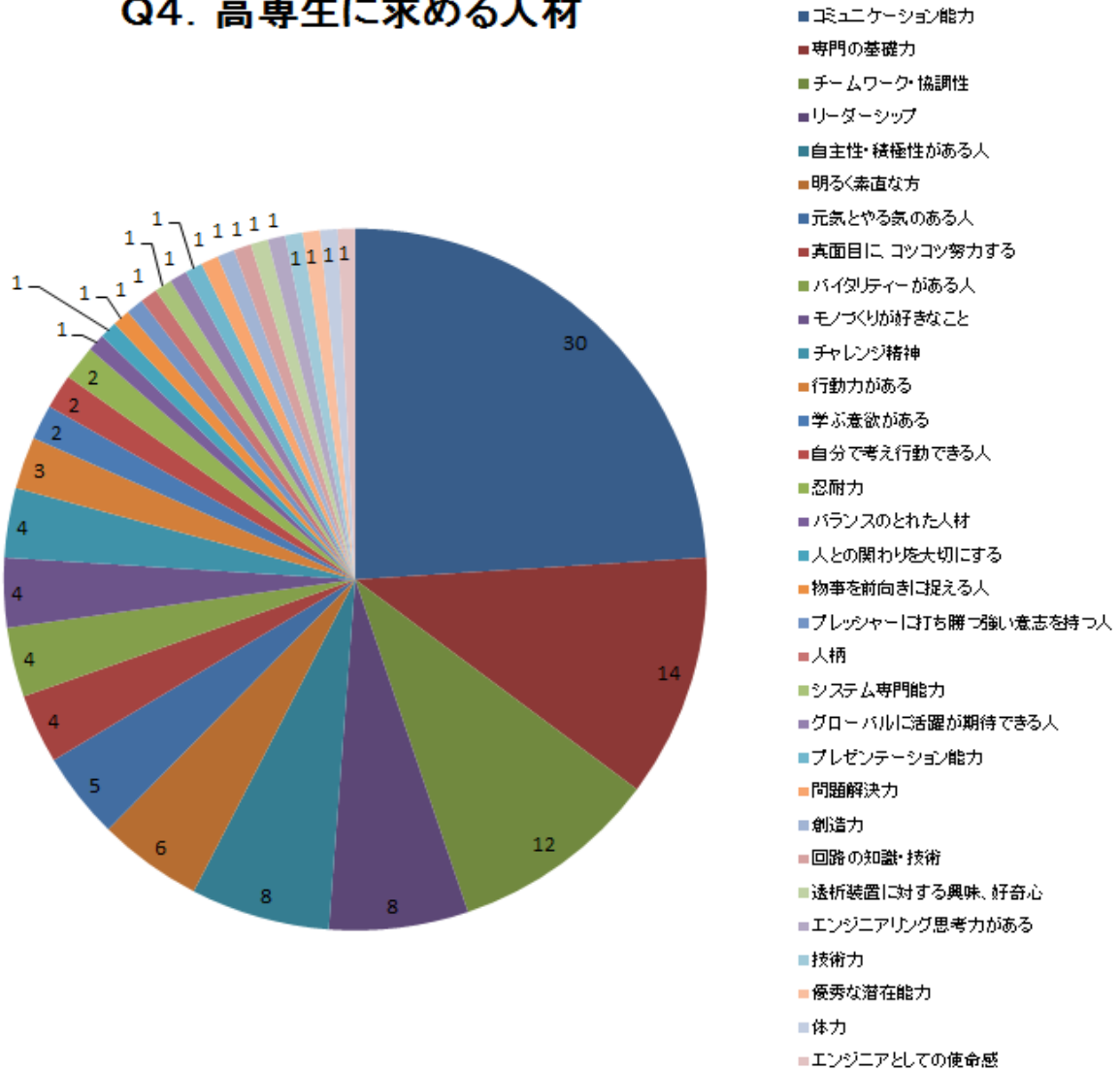


(出典 点検・評価委員会資料)

資料 6-1-⑤-3 (7/8)

企業へのアンケート結果

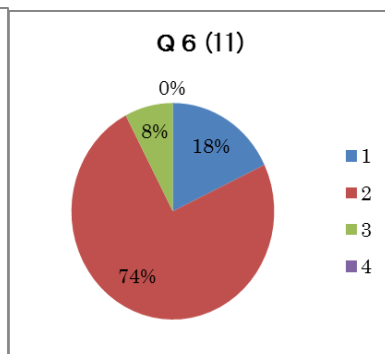
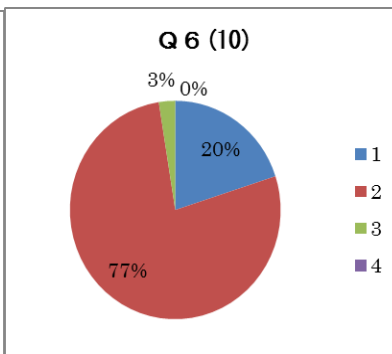
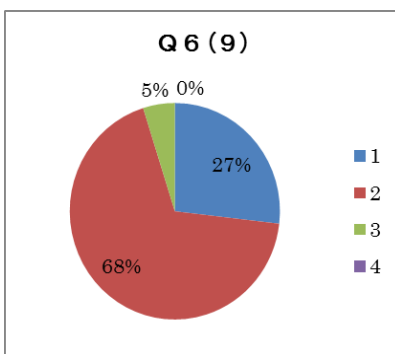
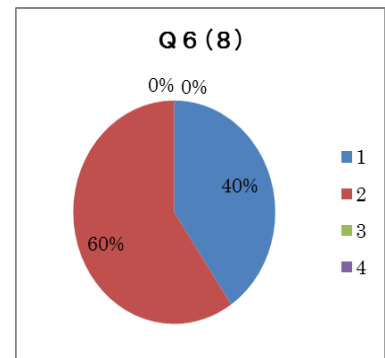
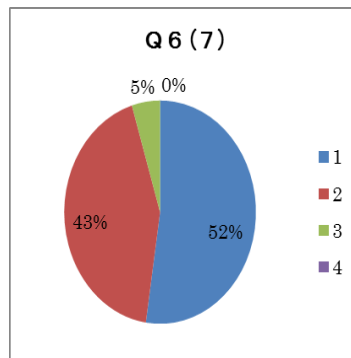
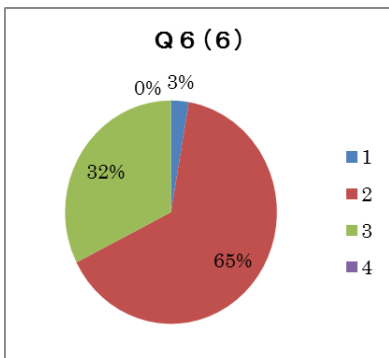
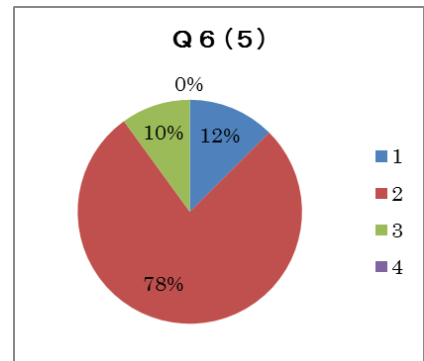
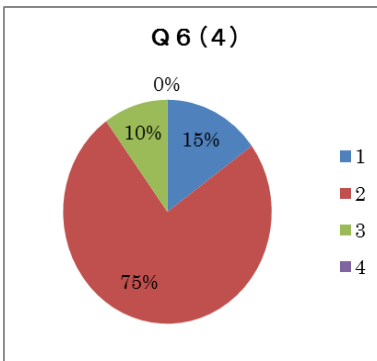
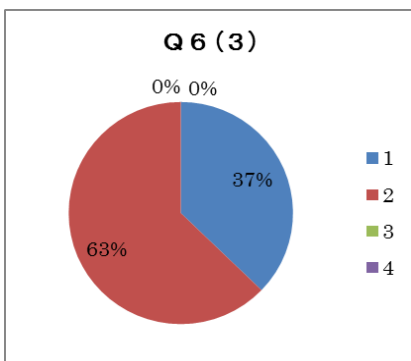
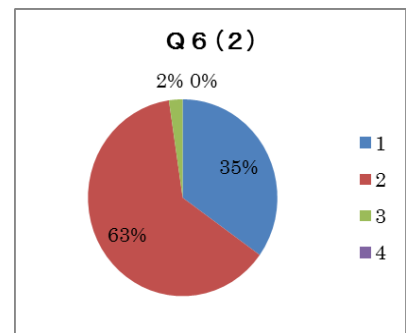
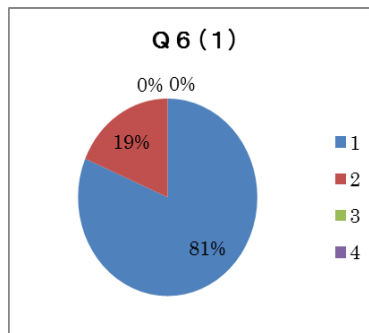
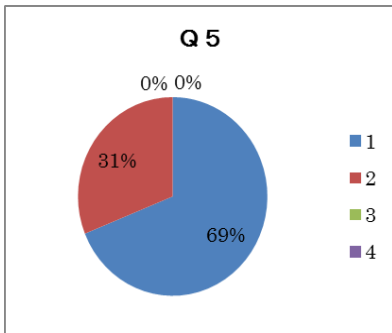
Q4. 高専生に求める人材



(出典 点検・評価委員会資料)

資料 6-1-⑤-3 (8/8)

企業へのアンケート結果



(出典 点検・評価委員会資料)

平成21年度外部評価報告書目次

目 次

1. 木更津工業高等専門学校外部評価実施要領	1
2. 平成21年度木更津工業高等専門学校外部評価委員名簿	2
3. 平成21年度木更津工業高等専門学校外部評価の実施方法及び項目	3
4. 木更津工業高等専門学校外部評価委員会等日程	4
5. 平成21年度木更津工業高等専門学校外部評価委員会日程表	5
6. 外部評価委員会委員に配布した資料一覧	6
7. 外部評価に際して	7
8. 外部評価委員会等風景	8
9. 外部評価委員の評価内容	
—教育に関すること—	10
—研究に関すること—	16
—地域社会との連携に関すること—	19
—国際交流に関すること—	22
—その他管理運営に関すること—	24
10. 木更津工業高等専門学校外部評価書様式	26

(出典 平成21年度外部評価報告書)

資料 6-1-⑤-5

平成21年度外部評価委員会委員の各評価項目についての
課題及び提言に対する対策等の進捗状況

平成 21 年度外部評価委員会委員の 各評価項目についての課題及び提言 に対する対策等の進捗状況



平成 2 4 年 1 1 月

木更津工業高等専門学校
点検・評価委員会

(出典 点検・評価委員会資料, 現地閲覧資料 19)

(分析結果とその根拠理由)

卒業生，修了生，大学及び企業等の関係者や外部評価委員から，卒業生や修了生が在学時に身につけた学力や資質・能力等に関して，意見を収集し，評価及び提言を頂いている。これらの各方面からのさまざまな意見等の結果によれば，おおむね高い評価を得ており，教育の成果や効果が上がっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学生が卒業時に身に付ける学力・能力を明示した学習・教育目標の達成状況が第3学年終了時，準学士課程卒業時，専攻科課程修了時と定期的に把握されている。また，創造力については第3学年の通年必修科目「一般特別研究」及び卒業研究や専攻科特別研究等を中心に育成を図っている。前者では小人数の課題研究を実施し，最後に全員が一般特別研究論文としてまとめ，2月の発表会で会場等の制約の許す限り多くの学生に発表させ，プレゼンテーション能力の向上に役立てている。後者では電気学会，電子情報通信学会や国際学会等で発表されるものもあり，各種コンテスト等で受賞する者もいる。準学士課程と専攻科課程の就職希望者の就職率はほぼ100%である。準学士課程の卒業時に，学生自身による学習・教育目標達成度評価のアンケートを実施し，全ての項目で「目標をほぼ(6割程度)達成できた」という良い結果を得た。専攻科課程の修了時に，学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検のためのアンケートも実施した。卒業生，修了生，大学及び企業等の関係者や外部評価委員から，卒業生や修了生が在学時に身につけた学力や資質・能力等に関して，意見を収集している。さらに，頂いた評価及び提言に対する改善の取り組みを具体的に実行している。これらの結果によれば教育の成果や効果が上がっている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準6の自己評価の概要

準学士課程においては，教務委員会，修了認定会議及び卒業認定会議があり，専攻科課程においては，専攻科委員会と専攻科修了認定会議があり，学生が卒業(修了)時に身につける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。高等専門学校における比較的長期にわたる学園生活の節目となるものとして，準学士課程に特別学修，一般特別研究，卒業研究があり，専攻科課程に専攻科特別研究がある。専攻科課程では，学生が立てた学習目標に対して指導教員が助言を与えるための学習助言シートを作成している。就職や進学後の進路先は本校の教育の目的に相応しいものであり，準学士課程と専攻科課程の就職希望者の就職率はほぼ100%である。また，準学士課程の卒業時に，学生自身による学習・教育目標達成度評価のアンケートを実施し，全ての項目で「目標をほぼ(6割程度)達成できた」という良い結果を得ている。専攻科課程の修了時にも，学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検を実施している。卒業生，修了生，大学及び企業等の関係者や外部評価委員から意見を収集し，評価及び提言を頂き，適切に改善に結びつけている。それらの結果によれば，教育の成果や効果が上がっている。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

年度当初に全学生に学生便覧、シラバス等を配布し、ホームルームで学級担任が説明を行っている(資料7-1-①-1~2)。準学士課程においては、新入生を対象として学生生活についての話、学生相談室長の話や専門学科の紹介等のガイダンスを行っている(資料7-1-①-2)。また、毎年度初めに新入生合宿研修を実施し、学生間のコミュニケーションの拡大を図るとともに、高専生活に適應するための研修を行っている(資料7-1-①-3)。第3学年末には生産システム工学教育プログラム履修の手引を配布し、学科毎に点検・評価委員がガイダンスを行っている(資料7-1-①-4~5)。専攻科課程においては、年度当初に専攻科ガイダンス及び授業ガイダンスを行い、また、定期的に専攻科連絡会を開催している(資料7-1-①-6)。

全教員がオフィスアワーを開設し、学生の自主的学習を支援している(資料7-1-①-7)。また、シラバスに電子メールアドレス等の連絡先を記載し、学生からの相談に対応できる体制を整えている(資料7-1-①-8)。専攻科課程においては、学生自身による自己評価点検表により学習・教育目標達成度を自己評価し、また、学習目標を設定して指導教員の助言を受け自主的な学習に役立っている(資料7-1-①-9)。

学級担任の業務

学級担任の業務詳細事項

【共通業務】

A. 学年当初のホームルーム（特別活動の時間、以下「HR」と略称）で行う事項

1: 学級役員を選出（4月上旬）

学級の学級委員その他の役員を決め、学生係経由で校長に報告する。この場合、なるべく学生の合議で決めさせ、担任は指導する。

2: 学年始行事の説明

学生課より配布される学年始めのスケジュール等の資料を予め整理し、確実に伝える。

3: 諸規程の説明

特に、学生に関係する学則、成績審査規程等の改訂のあった場合は、詳しく解説する。また、諸手続きに手落ちのないように指導する。

（特に再履修、再試験等については学生便覧を参照のこと。）

4: 留年者の指導

留年者には、C以上の科目は既修得となるので再履修する必要はないことを周知するとともに、願い出れば再履修も出来ることを指導する。（科目の開講後、2週間以内）

5: 再履修（再試験）の指導（科目の開講後、2週間以内）

未修得科目を持ちながら進級した者でD評価の科目のある者には再試験（履修免除）の道があることを周知する。ただし、実技科目は特別補講（学生便覧の「学習案内」参照）となる。

6: 再評価の指導（後期開始後2週間以内）

前期終了科目で評価Dである場合は、再評価があることを周知する。

（学生便覧の「学習案内」参照）

7: その学年の行事及び重要事項の説明

（出典 平成 25 年度学級担任の手引 23 頁）

学年始めのホームルーム等のスケジュール

平成25年度入学式等日程表(本科)

4月7日(日)		4月8日(月)		4月9日(火)		4月10日(水)	4月11日(木)	
寮生	保護者	新入生	保護者	新入生	在校生	新入生・在校生	新入生	在校生
(4月6日) 13:00～ 2年生以上入寮		新1年生 転入学生 編入学生		新1年生 新入生ホームルーム (各教室) 9:15～10:00 9:15 1年生入場 始業式 (第1体育館)	転入学生 編入学生 2年生以上 ホームルーム(各教室) 9:10 集合 (第1体育館)	転入学生 編入学生 平常授業	新1年生 ホームルーム(各教室) 9:00～ 健康診断 (保健室他) 担任は学生付添い	転入学生 編入学生 ホームルーム(各教室) 9:00～ 健康診断 (保健室他) 及び ホームルーム
		10:00～10:20 新入生ホームルーム (各教室)	10:15 保護者集合 (第1体育館)	10:00～10:20 入寮式(全寮生) (第1体育館)			11:00までに検尿提出	
		10:30～11:15 入学式 (第1体育館)		10:30～12:00 ホームルーム (各教室)	10:30～12:00 ホームルーム (各教室) 終了後教科書購入 以下、血圧測定 (コミュニティA) 10:30～11:00 専攻科生 11:00～12:00 5年生		各教室にて健康診断の合間で ホームルーム	
		11:20～12:00 新入生ホームルーム (各教室) 血圧測定	11:20～12:00 新入生保護者 懇談会 (第1体育館) 学生相談室の案内 カウンセラー紹介					
		12:00～13:00 昼食(寮生と保護者は寮食堂) (通学生は学生食堂利用可)		12:00～13:00 昼 食		12:10～13:00 昼 食	12:00～13:00 昼 食	12:00～13:00 昼 食
13:00～15:00 新入生入寮 (新たに入寮する者)		13:10～13:50 学生生活について の話(学生主事) (第一講義室)	13:10～14:10 学級担任・学科主任 との懇談会 (各教室)	13:00～15:00 ホームルーム及び専門学科の紹介 (各教室)	但し、2年生又は 3年生は 13:00～14:00 血圧測定 (コミュニティA) 終了後教科書購入		13:00～15:00 健康診断 担任は学生付添い	13:00～15:00 健康診断 及び ホームルーム
13:00～ 荷物整理		13:55～14:25 学生相談室長の話 (第一講義室) カウンセラー紹介 ※終わり次第、 女子更衣室 ロッカー割振り	14:10～ 学級担任との 個別面談 (各教室)				ホームルーム終了後下校(全学生)	
	15:30～16:30 新入寮生保 護者懇談会 (寮生食堂)			15:10～17:10 新入生歓迎会 (第1体育館)	15:10～17:10 新入生歓迎会 (第1体育館)			
16:30～ 寮生活諸注意		16:00～ 寮生活について の話(寮務主事) (寮食堂)						

学生食堂開放11:30～13:30
在寮生は、13:20～昼食

※注意 2年生又は3年生・4年生は、4/10(水)17時
までの空いている時間で血圧測定をして、その記録を
4/11(木)まで保管しておくこと
血圧測定場所:コミュニティA

(出典 学生課資料)

新入生合宿研修の手引

新入生合宿研修について

1. 目標

- (1) 仲間作り (2) 高専生活への適応 (3) 心身の鍛練

この研修を良いものにするためには、学生諸君一人一人の努力が必要である。諸君が主体的に取り組むことで、この研修が有意義な、そして楽しいものになることを期待する。

2. 参加者

1年生全員 208名 (男子176名, 女子32名) + 教職員22名 = 合計230名

新入生：M科43名, E科41名, D科40名, J科43名, C科41名
(女子1名), (女子0名), (女子3名), (女子12名), (女子16名)

校長：工藤敏夫

事務部長：原英毅

副校長：鴫田正俊 (教務主事)

総責任者：荒木英彦 (学生主事)

実行委員長：湯谷賢太郎 (学生主事補)

副実行委員長：加藤達彦 (学生主事補)

第1学年学級担任 (5名)：清野哲也 (M), 鈴木道治 (E), 伊藤操 (D), 山下哲 (J), 五十嵐讓介 (C)

専門学科教員 (5名)：板垣貴喜 (M), 浅野洋介 (E), 沢口義人 (D), 丸山真佐夫 (J), 島崎彦人 (C)

サポート教員 (1名)：高谷博史 (基)

事務職員 (5名)：御園信昭, 大坪竹雄, 正木昭弘, 中田雄太, 坂本翔吾

3. 研修日程概要 (詳細は後述)

◎1日目 (5月1日 (火))

晴天・雨天時：鴨川市内でハイキング (約20 km) 後、鴨川青年の家に入所

雷雨時：映画鑑賞と偏愛マップ

夕食および入浴後：クラス別活動 (コミュニケーション作り)

◎2日目 (5月2日 (水))：クラス別企画

M, E：飯盒炊爨 (鴨川青年の家)

D, J, C：野外調理 (清和県民の森)

4. 研修場所の住所, 連絡先等

木更津高専：

みんなみの里：

鴨川青年の家：

清和県民の森：

実行委員長携帯：

(出典 平成24年度新入生合宿研修の手引 1頁)

「生産システム工学」教育プログラム履修の手引

1. はじめに

いま、「ものづくり」の現場では、技術の急速な発展、環境・福祉等ニーズの多様化、生産工程の国際化など、さまざまな波が押し寄せてきています。技術者には、これら生産システムに関する諸問題を発見し、複合化した知識により解決し、国際化に対応する能力が求められています。これに応えるため、本校では、準学士課程(本科)4年次から専攻科2年次まで4年間一貫の「生産システム工学」教育プログラムを開設し、技術者教育を実施しています。

本プログラムでは、最も得意とする専門分野を修得し、異なる分野をも理解し、両者を複合する能力を身につけます。すなわち、準学士課程で、機械・電気電子・電子制御・情報・環境都市のうちの一分野を学修し、専攻科では、これらを深めるとともに、他分野をも学修して複合的な視野を獲得します。

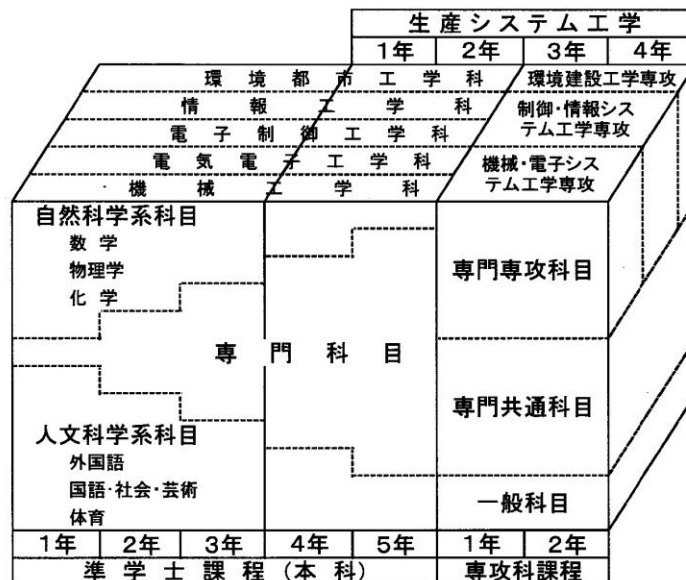
本プログラムは、2005年度に日本技術者教育認定機構(JABEE)により認定されました。学生の皆さんは、この手引を読み、学習・教育目標と修了要件を理解し、勉学に励んで下さい。

2. 履修対象者

プログラム開始前の3年次に、この手引を配布し、プログラムを説明します。

準学士課程卒業後に専攻科へ入学する学生は、本プログラムの履修対象者ですから、専攻科入学時にプログラム履修申請書を提出して下さい。

準学士課程卒業後に一旦就職してから専攻科へ入学する場合もありますので、就職希望者も、本プログラムの履修対象者となる可能性があります。準学士課程卒業後に大学編入する学生も、大学の技術者教育プログラムの履修対象者となる可能性が高いです。したがって、準学士課程の学生全員が技術者教育プログラムの履修対象者となる可能性を持っていることを自覚しながら、本手引を読んで下さい。



「生産システム工学」教育プログラムの説明の実施状況報告

平成24年度第9回点検・評価委員会 議事要旨

1. 日時 2013年3月4日（火）15：00～16：00
2. 場所 会議室B
3. 出席者 福地委員長，岡本（峰）主査，歸山委員，大野委員，鈴木（聡）委員，丸山委員，岩崎委員，御園学生課長，大坪課長補佐，金巻係長

4. 配付資料

- 資料 13/03/04-1 アンケートの集計状況
- 資料 13/03/04-2 本校 Web 情報の確認について

5. 議事

(3) 「生産システム工学」教育プログラムの説明の実施状況報告

各学科の実施状況が報告された。実施状況は以下の通り。

機械工学科 2月22日実施（37名）。欠席者（3名）は進級したものに限り来年度に説明する予定。

電気電子工学科 2月20日実施（37名）。欠席者（2名）は個別対応予定。

電子制御工学科 3月1日実施（27名）。欠席者（11名）は進級したものに限り来年度に説明する予定。

情報工学科 2月20日実施（42名）。欠席者（2名）は進級したものに限り来年度に説明する予定。

環境都市工学科 2月7日実施（41名）。欠席者なし。

次回は4月3日10:00から開催予定。なお、次回会議では執筆中間報告を予定。

以上

議事要旨作成 歸山智治

（出典 平成24年度第9回点検・評価委員会議事要旨 一部抜粋）

専攻科ガイダンス等のスケジュール

平成25年度 専攻科 行事予定表

月	日(曜)	本科行事予定	専攻科行事予定	
			1年	2年
4	1(月)	春季休業(～7日)	春季休業(～7日)	
	8(月)	入学式	入学式	
	9(火)	始業式	専攻科ガイダンス	授業ガイダンス
	10(水)	授業開始		授業開始
	11(木)	健康診断		健康診断
	30(火)	月曜授業		月曜授業
5	1(水)	球技大会(3～5年) 新入生(～2日)・2年合宿研修		金曜授業
	2(木)	臨時休業(2～5年)		臨時休業
	7(火)	月曜授業		月曜授業
	14(火)			推薦選抜入学試験
	31(金)			専攻科研究所見学(東京大学生産研究所)
6	1(土)	開校記念日		開校記念日
	10(月)	前期中間試験(～6月14日)		
	中旬		放送大学出願期間(6/15～8/31)	
	中旬			学位授与申請ガイダンス
	17(月)			学力選抜入学試験
7	17(水)	月曜授業		月曜授業
	19(金)	5限よりHR・大掃除	5限より専攻科連絡会・大掃除	
	20(土)	夏季休業(～9月1日)		夏季休業(～9月1日)
8		夏季休業中		夏季休業中
9	2(月)		学位申請の学修成果レポート予備審査	
	10(火)			学位申請書類学生課提出
	17(火)	前定期試験(～9月24日)		
	20・21(金土)		専攻科合同セミナー(1泊2日)	
	30(月)	後期授業開始		後期授業開始
10	10(木)	体育祭	スポーツデー(体育館)	
	中下旬			小論文試験の準備開始(～12月)
	16(水)	月曜授業		月曜授業
11	1(金)	臨時休業(学園祭準備)		臨時休業
	2(土)	学園祭(～3日)		学園祭(～3日)
	16(土)			社会人特別選抜入学試験
	25(月)	後期中間試験(～29日)		
12	中旬		放送大学出願期間(12/13～2/28)	
	15(日)			学位授与小論文試験(日程推測)
	中下旬		特別研究中間発表会	
	17(火)	駅伝大会	午前・スポーツデー(体育館)、午後・進路懇談会	
	19(木)	7限よりHR・大掃除	7限より専攻科連絡会・大掃除	
21(土)	冬季休業(～1月5日)		冬季休業(～1月5日)	
1	6(月)	授業開始		授業開始
	17(金)			特別研究抄録原稿提出
	21(火)			特別研究審査用本論文提出
	22(水)	臨時休業(推薦入学試験)		臨時休業(推薦入学試験)
	23(木)	臨時休業		臨時休業
	29(水)		特別研究論文発表会出席	特別研究論文発表会
2	5(水)		専攻科成績締切り	
	7(金)	後定期試験(～14日)		
	中旬			学位授与可否通知
	13(木)			専攻科修了認定会議
	16(日)	学力入学試験		
	17・18(月火)	臨時休業		臨時休業
28(金)	7限からHR大掃除・終業式	7限から専攻科連絡会・大掃除		
3	14(金)	成績審査会議(修了)	成績審査会議	
	15(土)	進路懇談会(保護者)	進路懇談会(保護者)	
	20(木)	卒業式		修了式

(出典 平成 25 年度学生便覧 18 頁)

資料7-1-①-7

オフィスアワー対応記録の例

オフィスアワー対応記録

- ※1 当記録は、授業科目ごとではなく、教員ごとに作成してください。
 ※2 進路相談等も含め、オフィスアワーに行った全ての対応を記録してください。
 ※3 当記録は、「授業実施記録」と併せ、資料室の指定のファイルに保存してください。

所 属 人 文 学 系
 教員氏名 岩 崎 洋 一

日 時	学生氏名等	対 応 内 容
平成24年5月18日 13:50～14:20		進路相談
平成24年5月30日 10:00～10:30		女子寮運営についての相談
平成24年6月6日 10:00～10:30		部活動の相談
平成24年6月7日 14:45～15:05		英文法についての質疑応答
平成24年6月15日 10:00～10:30		女子寮運営についての相談
平成24年6月19日 10:00～10:20		女子寮運営についての相談
平成24年6月29日 17:20～17:40		英語学習についての相談
平成24年7月2日 16:00～16:20		英検2次試験についての解説
平成24年9月10日 16:30～17:00		英文法についての質疑応答
平成24年9月14日 16:30～17:00		英文法学習についての相談

(出典 平成24年度オフィスアワー対応記録)

シラバスの一例

授 業 科 目		英語 I B	
開設学科学系	人文学系	区分・単位数	必修・2単位
受講年科・学期	1年全学科・通年	授 業 形 態	講義と演習
キーワード	Listening Comprehension, Vocabulary Building, Communicative Competence		
関連科目	英語 I A、英文法 I		
担当教員	岩崎洋一		
連絡先(オフィスアワー)	iwasaki@h.kisarazu.ac.jp(事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。)		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 野村和宏著『Voice Oral Communication I NEW EDITION』第一学習社, 425円(定価) 第一学習社編集部編『Voice Oral Communication I WORKBOOK』第一学習社, 640円(定価) 		
補助教科書等	<ul style="list-style-type: none"> 谷戸涼子著『シグマベスト Listening Trial stage 1』文英堂, 730円(定価) 亀山太一監修『COCET 2600 理工系学生のための必修英単語2600』成美堂(英語 I Aで購入) 		
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 「英文法 I」で使用する補助教科書 電子辞書を含む各種辞典 		
プログラム目標			
達成目標(合格点)		各達成目標の評価方法(評価の割合/重み)	
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の身近な話題について英語を聞き、情報や考えなどを理解することができる。 		前・後期の中間試験、定期試験(40%)及びリスニング小テスト(20%)で評価する。	
<ul style="list-style-type: none"> 英語によるコミュニケーションに必要な基本的な語彙力を身につけることができる。 		前・後期の中間試験及び定期試験(10%)で評価する。	
<ul style="list-style-type: none"> 英語によるコミュニケーションに必要な基本的な文法力を身につけることができる。 		前・後期の中間試験及び定期試験(10%)で評価する。	
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることができる。 		授業中の質疑応答や課題等(20%)で評価する。	
履修上の注意	英語の4技能のうち「聞く」技能の向上を主な目的とする。授業中はリスニング活動を中心に行うので積極的に授業に参加することが重要である。さらに、授業中に学習した事項を常に復習し、継続的に英語の学習を進めることが大切である。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等	時間数	
<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス Lesson 1 Nice to Meet You Lesson 2 What Subject Do You Like the Best? リスニング小テスト(10回) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業についての概要説明を行う。 各レッスンで左記の話題に関する英語を聞き、内容を理解する。また、質疑応答等を行い、左記の話題についての自分自身の考えを表現する練習や定着を行う。 毎回授業の開始時に行う。日程はガイダンス時に伝える。 	1 7 6	
前期中間試験	前期中間試験までの学習内容	2	
<ul style="list-style-type: none"> Lesson 3 Are You Doing Anything This Sunday? Lesson 4 I'll Show You the Way Lesson 5 On the Telephone リスニング小テスト(10回) 	<ul style="list-style-type: none"> 各レッスンで左記の話題に関する英語を聞き、内容を理解する。また、質疑応答等を行い、左記の話題についての自分自身の考えを表現する練習や定着を行う。 毎回授業の開始時に行う。 	6 4 4	
前期定期試験	前期中間試験以降の学習内容	—	
<ul style="list-style-type: none"> Lesson 6 At a Restaurant Lesson 7 At a Department Store Lesson 8 What's "Miso" Soup? リスニング小テスト(10回) 	<ul style="list-style-type: none"> 各レッスンで左記の話題に関する英語を聞き、内容を理解する。また、質疑応答等を行い、左記の話題についての自分自身の考えを表現する練習や定着を行う。 毎回授業の開始時に行う。 	6 4 4	
後期中間試験	前期定期試験以降の学習内容	2	
<ul style="list-style-type: none"> Lesson 9 What's the Matter? Lesson 10 Talking about the Future Lesson 11 Have a Nice Flight! リスニング小テスト(10回) 	<ul style="list-style-type: none"> 各レッスンで左記の話題に関する英語を聞き、内容を理解する。また、質疑応答等を行い、左記の話題についての自分自身の考えを表現する練習や定着を行う。 毎回授業の開始時に行う。 	6 4 4	
後期定期試験	後期中間試験以降の学習内容	—	
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)		60	
成績の算出方法	前・後期とも、中間試験および定期試験を実施し、試験成績(4回の試験の平均点)を60%、小テストの成績を20%、授業への積極的な参加状況及び課題の提出状況を20%として総合評価する。		

(出典 平成 25 年度シラバス)

資料7-1-①-9 (1)

「生産システム工学」教育プログラム

学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検表の例

「生産システム工学」教育プログラム

学習・教育目標達成度に関する学生自身による自己評価点検表

【目的】

この自己評価点検表は、学習・教育目標に関する達成度について学生が自己点検等を行い、その後の学習に役立てるためのものです。各段階で自己点検等を重ね、プログラム修了時には全ての項目に「3以上」がつけことが望まれます。

【記入上の注意】

1) 『「生産システム工学」教育プログラム 履修の手引』を参照しながら、下表の右欄に以下の数字を記入して下さい。

- 5 目標を十二分に達成できた。
- 4 目標を達成できた。
- 3 目標をほぼ(6割程度)達成できた。
- 2 目標を一部達成した。
- 1 目標を達成すべく努力中である。
- 履修前または履修中である。

2) 「今後の学習目標」の欄には、その後の学習計画等について、具体的に記入して下さい。

3) 「指導教員の助言」の欄は、特別研究指導教員に記入を依頼してください。

学習・教育目標	評価基準	点検項目	専1年 6月	専2年 4月	プログラム 修了時
(A) 人間形成：健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を履行する技術者	(A-1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。	・健康や体力についての理解を深めるとともに、スポーツの実践を通して心身の調和的な発育・発達を促し、生涯スポーツの礎を構築できること ・文芸作品を通して、人々の生活を見つめ、他者の心を理解し、自分の考えを深められること	4	4	5
	(A-2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。	・歴史学習を通して技術者が持つべき社会観を構築できること ・技術に関係する事故等の検討を通して、技術者としての社会的な責任と使命について理解できること ・環境問題と社会の関係についての概略を理解できること ・自然環境に関する基礎的事項を理解できること	3	4	5
(B) 科学技術の修得と応用：自らの専門とする科学技術について、その基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすんで活躍する技術者	(B-1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。	・数学および自然科学の基礎知識を身につけ、それらを用いて応用問題を解けること ・実験を通して現象を理解できること	3	3	4
	(B-2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。	・各分野の基礎知識を身につけ、それらを用いて実際の工学的な現象を理解できること	4	4	5
	(B-3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。	・異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合するために、専門分野以外の工学の基礎知識を身につけること	3	4	4
	(B-4) 実験や実習を通して実践的技術を身につける。	・実験・実習を通して、実際の工学現象を理解し、実践的技術を身につけること	3	4	4
(C) コミュニケーション能力：国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現する技術者	(C-1) 日本語の記述能力を身につける。	・国語表現の技法を身につけるとともに、語彙力を高め、場面や状況に応じた言葉で表現できること	4	4	4
	(C-2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。	・コンピュータによる情報処理や情報収集等ができること ・コンピュータを用いて、卒業研究や専攻科特別研究の内容を発表・討論できること	3	4	4
	(C-3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。	・国際的に活躍するための基礎的な語学力、特に英語力を身につけること	3	3	4
(D) 創造力：自ら工夫して新しいものを造り出す研究開発型の技術者	(D-1) 問題解決のための修得した専門知識を応用できる。	・卒業研究や専攻科特別研究などを通して、修得した専門知識を用いること	3	4	4
	(D-2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察及び整理ができる。	・卒業研究や専攻科特別研究などを通して、問題を解決するために、その計画立案、実行、結果の考察、整理ができること	3	4	4

今後の学習目標／指導教員の助言

学 生 名 _____

指導教員名 _____ 浅野 洋介 _____

点検 時期	今後の学習目標：学生が記入	
	指導教員の助言：教員が記入	
専攻科1年 6月	学 生	システムを構築するに当たって、C言語やlinuxにおけるプログラムの扱い方への理解が不足していた。 今後は、それらの理解を深めていくとともに、送信信号を詳細に解析し、システムを構築する。そして、マイコンをシステムに組み込み、プログラムの変更を行っていく。また、有線で飛行ロボットの制御を行う。
	指導 教員	C言語などを学び直すことは、今は遠回りに感じるかもしれませんが、今後の研究生活に必ず生きてきます。
専攻科2年 4月	学 生	引き続き、思うようにシステムを構築するため、C言語についての理解をさらに深めていく。また、マイコンのハード部分や電気回路の知識も習得し、システムを最適化する。 今後は無線通信によるシステムに変更し、PID制御を用いて飛行ロボットの制御を行う。
	指導 教員	以前に比べ、技術力がついていると思います。今後は、制御理論を実機に適用することを目標に研究を進めて下さい。
専攻科 修了時	学 生	今後は、今まで学んだ制御技術や、プログラミング知識、回路知識を用いて社会に貢献していきたい。また、回路などの知識については不十分なところもあり、今後も学んでいきたい。
	指導 教員	特別研究だけでなく、研究室のセキュリティシステムなども開発し、十分な研究力・技術力が備わったと思います。これまでに学んだ知識を生かし、企業でも活躍することを期待しています。

(出典 「生産システム工学」教育プログラム 学習・教育目標達成度に関する学生自身による
自己評価点検表 2011年度版)

(分析結果とその根拠理由)

全学生に学生便覧，シラバスが配布され学級担任により説明が行われている。準学士課程においては，学年に応じた複数のガイダンスが実施されている。専攻科課程は，定期的にガイダンスや連絡会が開催され，学習を進める上でのガイダンスが適切に実施されている。全教員によりオフィスアワーが開設され，電子メールアドレス等の連絡先が学生に公開されており，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備されている。

観点7-1-②： 自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

図書館には十分な蔵書や視聴覚資料があり，閲覧スペースやマルチメディアコーナーを整備し，学生の自主的学習の場として提供している(資料7-1-②-1～2)。利用方法は，学生便覧や本校ウェブページ，図書館利用のしおりで案内している(資料7-1-②-2)。アンケートの結果を見ても，多くの学生が利用し，満足していることが分かる(資料7-1-②-3)。平成24年度には改修工事を行い，ネットワーク情報センターと合併してより充実した自主的学習環境を学生に提供している。

ネットワーク情報センター演習室には48台のパソコン及び2台のプリンタを整備し，授業以外の時間にも学生が利用できる。利用方法は，利用の手引やウェブページで案内している(資料7-1-②-4)。アンケートの結果から，多くの学生が利用し，満足していることが分かる(資料7-1-②-5)。また，図書館との合併に伴い，平成25年度からは演習室の利用時間を平日午後8時まで延長している。

学生の自主的学習やコミュニケーションの場としてコミュニティルームや共通ゼミ室を設置している(資料7-1-②-6)。コミュニティルームは常時開室しており，教員の管理の下，学生は自由に利用できる。アンケートの結果を見ても，多くの学生が利用し，満足していることが分かる(資料7-1-②-7)。

福利厚生施設としては，学生食堂・売店，課外活動館，学友会館を整備している(資料7-1-②-8)。

図書館の概要

図書館

Library

学習と情報のセンター的役割を果たしているのが図書館です。この図書館は、昭和52年に開館し、全面開架式を採用し、利用者が希望する図書や雑誌を自由に書架から選び出して利用できる方式になっています。

平成13年度から学外者にも開放しています。

The library collects and keeps books, periodicals, and other items to serve professors, staff, students and citizens in their educational and research activities.

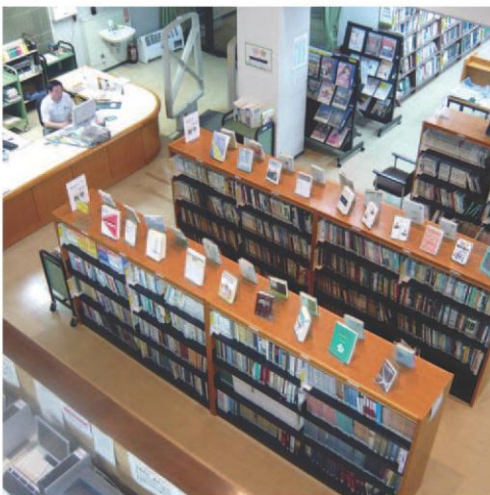
The library keeps over 74,000 volumes of books and subscribes to about 300 periodicals.

The library employs an entirely open stack system so that the users have free access to the collections.

■蔵書数 The Library's Collection (vols.)

(平成24年4月1日現在) As of April 2012

分類	区分	和書 Japanese	洋書 Foreign	計 Total
総記 General		5,980	187	6,167
哲学 Philosophy		3,586	173	3,759
歴史 History		4,872	125	4,997
社会科学 Social Science		4,822	215	5,037
自然科学 Natural Science		11,732	1,152	12,884
工学 Engineering		18,152	767	18,919
産業 Industry		570	16	586
芸術 Arts		4,059	134	4,193
語学 Language		3,801	1,142	4,943
文学 Literature		12,557	677	13,234
計 Total		70,131	4,588	74,719



■受入雑誌数 Periodicals (titles)

(平成24年4月1日現在) As of April 2012

和雑誌 Japanese	洋雑誌 Foreign	計 Total
331	5	336

■視聴覚資料 Audio-Visual Materials

(平成24年4月1日現在) As of April 2012

種類	合計 Total
ビデオテープ Video Tape	273
C D	292
レーザーディスク Laser Disk	58
カセットテープ Cassette Tape	40
レコード (LP)	81
C D - R O M	33
D V D	59



図書館の利用案内

木更津工業高等専門学校
図書館

- > HOME
- > 利用案内
- > 開館日程一覧
- > 新着図書・蔵書概要
- > 論文・蔵書検索
- > 電子ジャーナル
- > リンク



独立行政法人 国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校
ホームページ

HOME > 利用案内

受付カウンター

閲覧スペース

マルチメディアコーナー





今月の開館予定

2013年3月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

黒 9:00-20:00 青 12:00-17:00
 緑 9:00-17:00 赤 閉館

月曜日から金曜日	09:00 ~ 20:00 (長期休業期間中は 09:00 ~ 17:00)
土曜日	12:00 ~ 17:00 (長期休業期間中は 終日閉館)

閉館日

日曜日、国民の祝日、年末年始、長期休業中の土曜日、その他図書館長が必要と認めた日

貸出冊数と期間

- ・ひとり4冊まで、貸出期間は、2週間以内。
- ・図書購入のリクエストがある学生は、図書館カウンターにて申し出てください。

注意事項

- ・閲覧室での飲食、喫煙、携帯電話、雑談等はできません。
- ・図書の無断持ち出し、読後の放置、ページの切り取りは厳禁です。
- ・返却期限は厳守してください。
- ・転貸は絶対にしないでください。
- ・紛失した場合は、速やかに連絡してください。場合によっては、弁償していただきます。

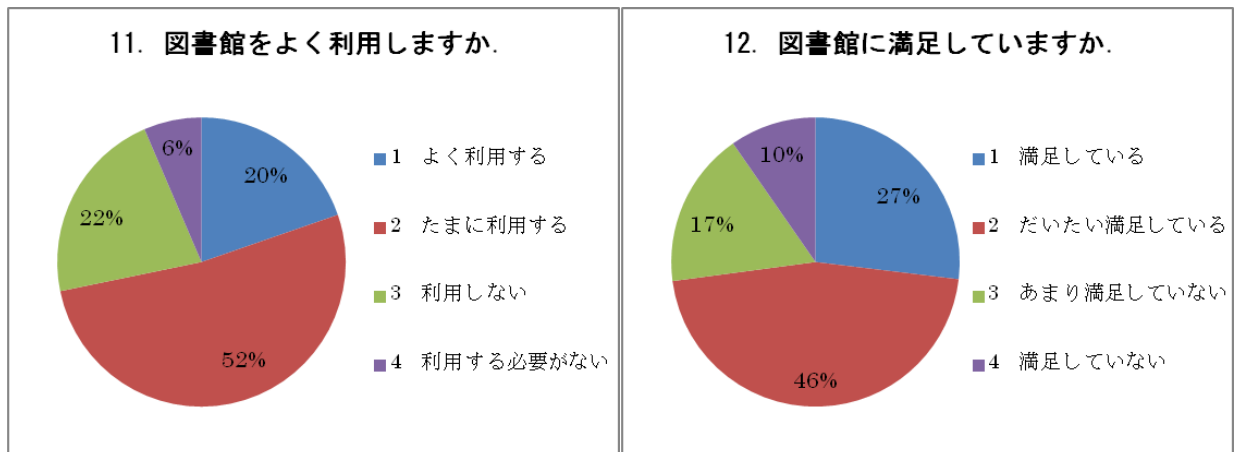
学外の方へ

中学生以上であれば、学外の方もご利用いただけます。貸出冊数、期間および注意事項は、本校学生の場合と同様です。
 なお、初めてご利用になる際には、身分を証明できるもの(免許証や保険証など)が必要となります。

住所：〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1 木更津工業高等専門学校 図書館
 電子メール：atosyo (@) s.kisarazu.ac.jp 電話：0438-30-4009

(出典 図書館ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/lib/guide.html>)

図書館利用に関するアンケート結果



(出典 点検・評価委員会資料)

ネットワーク情報センターの利用案内

INFORMATION NETWORK CENTER

お知らせ

授業アンケート(WEBキャリアカルテ)はこちらから 2012.6.8

演習室・特別教室・図書館のPC利用マナーについて

- ・ **学術情報以外の目的で使用しないこと**
- ・ **飲食の禁止**
- ・ **整理整頓を心がける**

守れない場合授業時間以外の開放が出来なくなります。

- ・ 学生課のホームページが新しくなりました。パスワードは携帯のサイトと同じです
- ・ 教育用システムが**図書館**で利用できるようになりました。17:00以降閉館まで利用可能です。
- ・ 教育用電子計算機システム管理者から
 - 次のユーザーは**利用可能なディスク容量**を超えています。ただろに、**1GB未満**にしてください。
 - 各ユーザーの利用可能なディスク容量は1GBです。学習・研究に必要なファイルを削除およびメールの整理を願います。なお、容量が1GBを超えたユーザーはファイルが保存できない、PCにログインできない、メールが利用できない等の不都合が生じます。その場合はサーバファイル削除により全ファイルを消去しアカウントを復活させますが、削除されたファイルの復活はしませんので注意願います。
 - メールが保存されている**デレクタ(Maildir)**は**削除しないでください**。
 - 本システムを学術研究以外の目的で使用しないでください。違反者に對し、アカウントを停止する場合があります。
 - 不意のハードディスクの障害に備え、バックアップを心がけていただきますようお願いいたします。
 - メールは定期的にチェックし、不要なメールはメールクライアント(サンダーバード等)で整理してください。
- ・ パソコンや外部記憶媒体等の取扱について(通知) 2007.7.19
- ・ 高速キャンパス情報ネットワーク
- ・ 演習室関係(開放予定・PC設定)
 - 右のメニューに着目されている日は、演習室で授業以外の予定があることを示します。開放時刻・制限がありますので、上のリンクをたどって詳細をご確認ください。Time Table
- ・ ネットワークを守ってください
- ・ Web Mailが利用できます
 - ログインには**センターのID**及び**パスワード**が必要です。
- ・ 英語学習システム **ALC NetAcademy2**
 - NetAcademyが**親レバ**なりました。ただしレバ以外では利用できません。利用に関する問い合わせは英語科教員まで。
- ・ 関連リンク

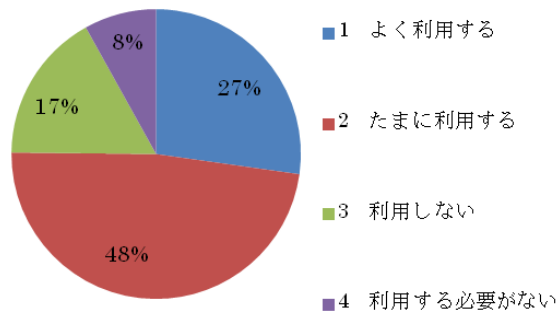
2013.3	2013.4	2013.5
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
1 2	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4
3 4 5 6 7 8 9	7 8 9 10 11 12 13	5 6 7 8 9 10 11
10 11 12 13 14 15 16	14 15 16 17 18 19 20	12 13 14 15 16 17 18
17 18 19 20 21 22 23	21 22 23 24 25 26 27	19 20 21 22 23 24 25
24 25 26 27 28 29 30	28 29 30	18 19 20 21 22 23 24
31		26 27 28 29 30 31

使用不可 予約

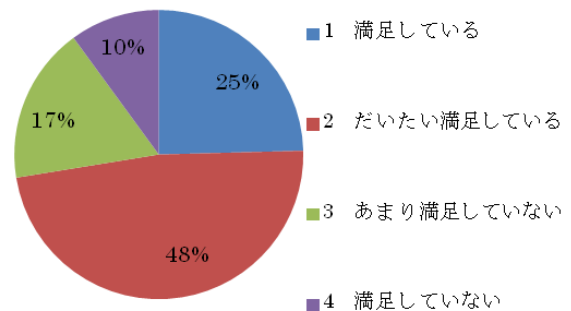
(出典 ネットワーク情報センターウェブページ <http://www.inc.kisarazu.ac.jp/>)

ネットワーク情報センター利用に関するアンケート結果

15. ネットワーク情報センターを授業以外でよく利用しますか。

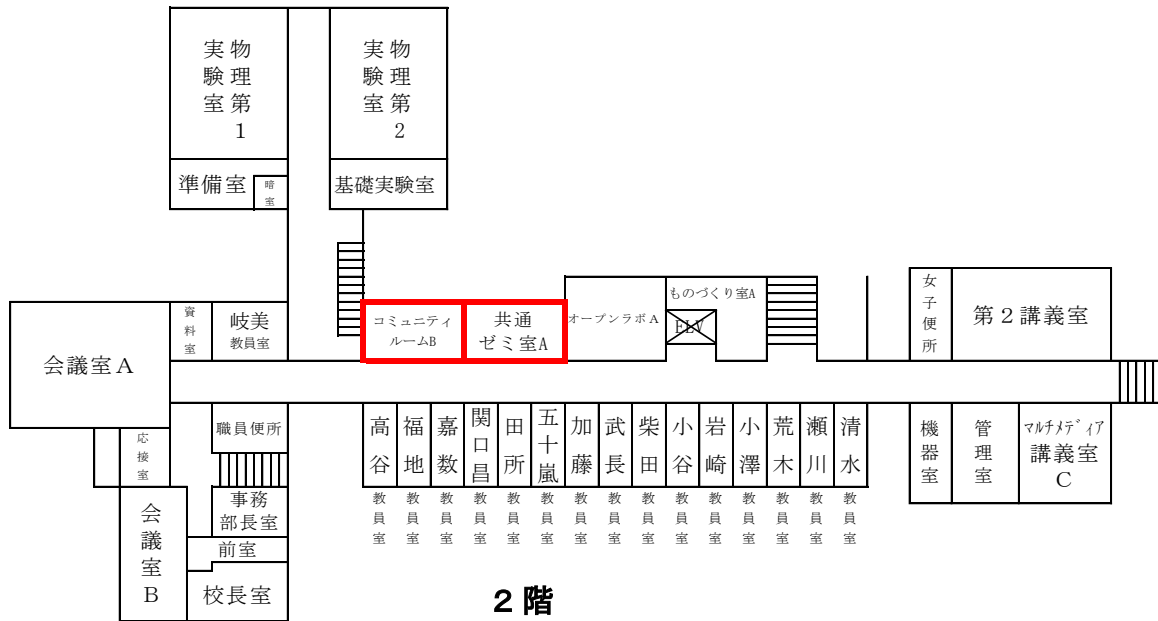


16. ネットワーク情報センターに満足していますか。

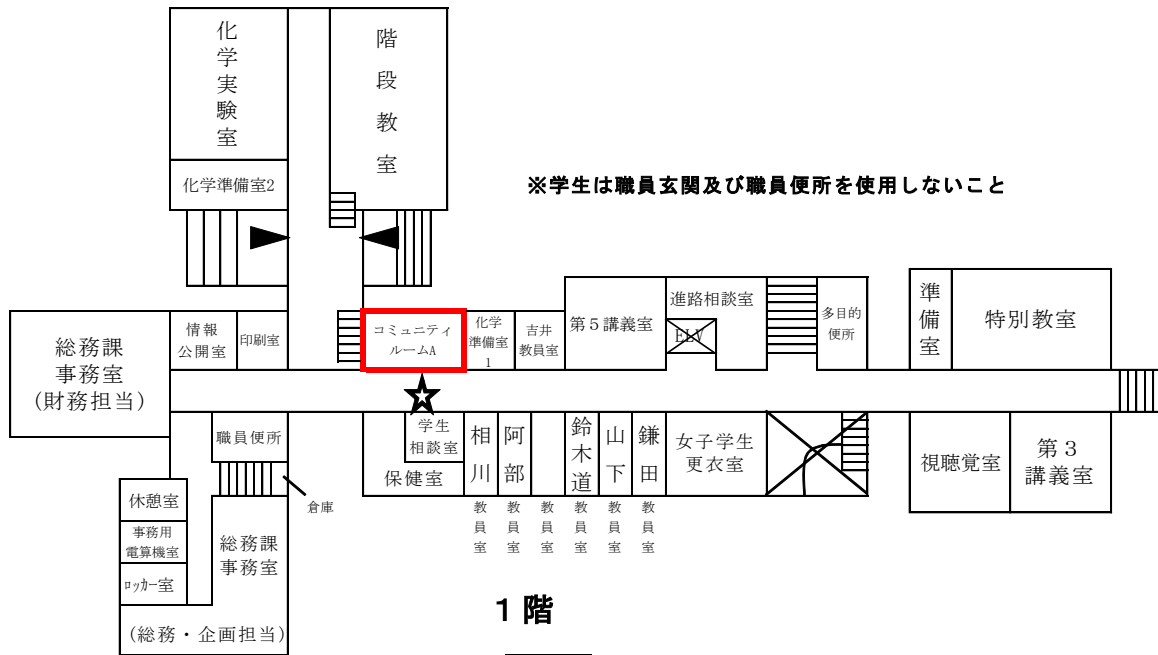


(出典 点検・評価委員会資料)

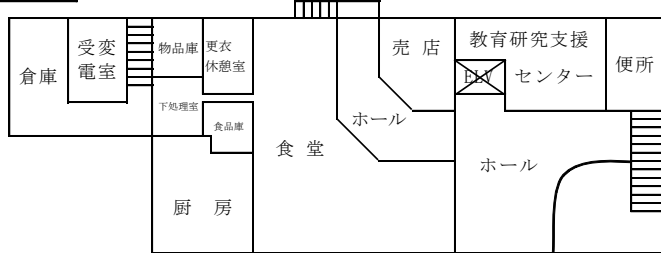
コミュニティルーム及び共通ゼミ室の配置例



2階



1階



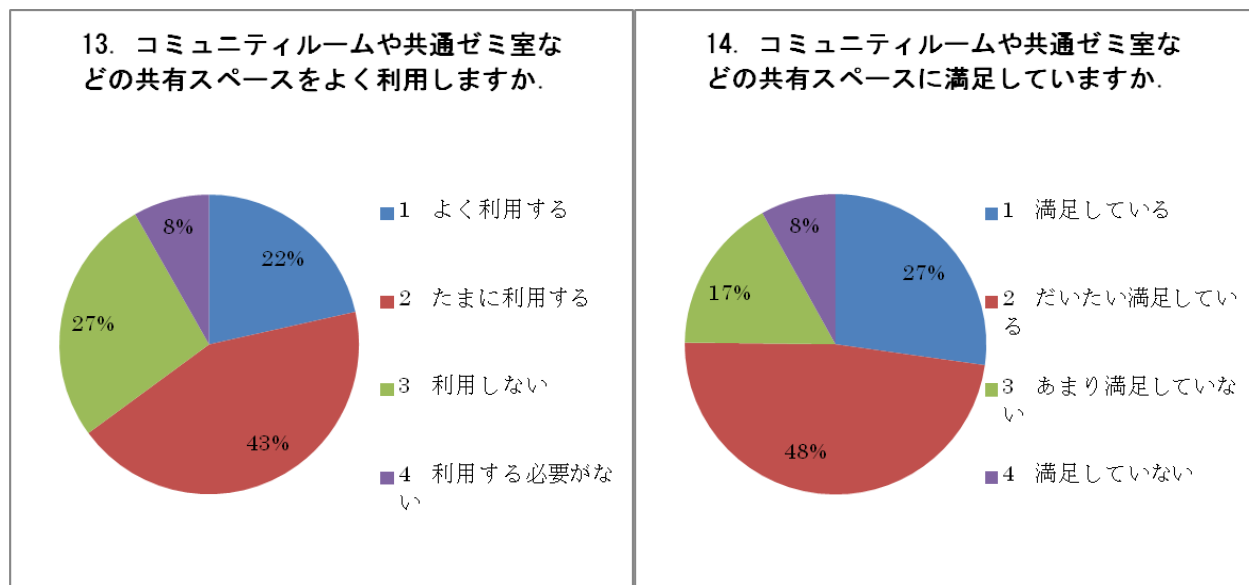
地階

★ … AED(自動体外式除細動器)設置場所

(出典 平成 25 年度学生便覧 170 頁)

資料7-1-②-7

コミュニティルーム利用に関するアンケート結果



(出典 点検・評価委員会資料)

資料7-1-②-8

福利厚生施設の概要

福利厚生施設

Welfare Facilities



■ 学生食堂・売店

School Cafeteria and Store

学生の福利厚生のため、200人収容の学生食堂や、文房具等を販売している売店があります。

Our college has a school cafeteria to accommodate 200 people, and a school store to sell stationery.



■ 課外活動館

Extra-Curricular Activity Facility

課外活動館は課外活動の為に施設として2011年に建てられました。課外活動館にはものづくり展示室、トレーニングルームと倉庫があります。

The Extra-Curricular Activity Facility was built in 2011 for extra-curricular activities. This building consists of an exhibition hall, a training room, and a storehouse.



■ 学生会館

Student's Hall

学生会館は学生の福利厚生施設として1982年に建てられました。この2階建ての建物には学生会室、奏室、課外活動や合宿用の部屋があります。

The Student's hall was built in 1982 as a welfare facility for students. This two-stored building has a room for the Student Association, a soundproof room, and rooms for extracurricular activities and training camps.

(出典 学校要覧 2012 30 頁)

(分析結果とその根拠理由)

自主的学習やコミュニケーションの場として図書館，ネットワーク情報センター演習室，コミュニティルーム，共通ゼミ室が整備され，多くの学生に利用されている。また，福利厚生施設として学生食堂・売店，課外活動館，学友会館が整備されている。

観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生の声、授業評価アンケート、学級担任の指導、学級委員長会（以下、級長会という）等の多様な手段により学習支援に関する学生のニーズの把握に努めている。

学生の声はアンケート等では吸い上げきれない学生の種々の意見や要望を聞くための投書箱として設置している。投書された要望等について対応策を検討し、結果を意見提出者へ報告したり、掲示したりしている（資料7-1-③-1）。

授業評価アンケートについては、WEBキャリアカルテを利用し（資料7-1-③-2）、全教員がアンケート結果を閲覧できる。

学級担任は学生とのふれあいを大切に、常に学生の状況を把握するよう努めている（資料7-1-③-3）。

また、級長会を定期的で開催し、意見や要望を学生委員会に報告してもらい、学生のニーズを把握している。（資料7-1-③-4）

資格試験や検定試験については、TOEIC IPテスト、実用英語技能検定、工業英語能力検定をそれぞれ年3回本校で実施し、学生の英語学習を支援している（資料7-1-③-5）。また、資格取得等による授業への振替（資料7-1-③-6）や特別学修による単位認定を行っている（資料7-1-③-7～10）。

外国留学については、「留学規程」（資料7-1-③-11）及び「留学取扱要領」（資料7-1-③-12）を定め、留学中に修得した単位を本校の単位として認定する等の配慮を行っている。平成18年12月には台湾国立聯合大学と国際交流協定を締結し、両校の間で教育研究活動の相互交流を行っている（資料7-1-③-13）。平成20年12月からはドイツ外務省のプロジェクト「パートナーシューレ（PASCH）」に参加し、ドイツでの研修・交流活動を行っている（資料7-1-③-14）。

学生の声

「学生の声」について

1. 「学生の声」は、アンケート等では吸い上げ切れない学生の種々の意見や要望を聞くために設置されたものです。
2. 意見等を提出する場合は、以下のいずれかの方法に従ってください。
 - (1) 「意見等の提出用紙」に必要事項を記入し、「学生の声」のポストに入れる(当用紙の裏が「意見等の提出用紙」になっています)。
 - (2) gakuseinokoe@kisarazu.ac.jp 宛にメールを出す(当メールの利用方法等については、本校のホームページを参照してください)。
- ※ 「学生の声」のポストへの投書は、学生課長が取り出し、副校長に渡しますが、同上のアドレスに出されたメールは直接副校長のところに行きます。
3. 提出された意見等は、副校長の判断により、要望および内容等に応じ関係者に送られます。対処結果等については、副校長より意見等の提出者に報告されます。
4. 匿名等を希望する場合は、秘密を厳守します。なお、内容により、掲示等により対処結果について公表することもあります。

意見等の提出用紙

※1 意見等の行先は以下のようになります。 意見 → 副校長 → 関係者 → 対処 → 副校長 → 意見提出者等	
※2 意見等を伝えて欲しい具体的な関係者等がある場合には、以下に示してください。	
提出者：内容にもよりますが、当欄への記載がなく、事実の確認の出来ないものは、虚偽の意見または信憑性の低い意見として処理されます。	
____年 ____工学科 学籍番号____ 氏名____	
回答方法：対処結果等の回答通知方法について、以下に示してください。	
<input type="checkbox"/> 掲示で <input type="checkbox"/> メールで(アドレス____) <input type="checkbox"/> 回答は不要 <input type="checkbox"/> その他：____	
公開の可否：当件への対処結果等について掲示等により公開することの可否について示してください。	
掲示等による <input type="checkbox"/> 公開可 <input type="checkbox"/> 公開は一切不可 <input type="checkbox"/> その他：____	
意見等：可能な限り具体的に、また事実の確認が行えるように記述してください。	
副校長記入(対処日、対処結果等)	整理番号____

(出典 本校ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/zaigaku/koe/yousi.pdf>)

WEB キャリアカルテを利用した学生による授業評価アンケートの入力画面

メインメニュー ログイン ID :

ログアウト

アンケート回答

アンケート : 英語 II B

No.	質問	回答
1	あなたは予習・復習・課題にしっかり取り組みましたか.	強くそう思う
2	あなたは授業時間中, 熱心に授業に取り組みましたか.	強くそう思う
3	あなたは授業内容を修得できましたか.	強くそう思う
4	ガイダンス時に教員から授業内容の説明がありましたか.	強くそう思う
5	教員の声は聞き取りやすかったですか.	強くそう思う
6	板書, 指導方法 (実技, 実験実習科目など) は分かりやすかったですか.	強くそう思う
7	説明は分かりやすかったですか.	強くそう思う
8	教科書・資料・教材は適切でしたか.	強くそう思う
9	教員は熱心に指導しましたか.	強くそう思う
10	あなたはこの授業に満足していますか.	強くそう思う
11	その他, 意見等あれば書いてください.	
12	この授業で改善が必要と思われる点は何ですか? なるべく具体的に書いてください	
13	この授業で満足を感じる点は何ですか? なるべく具体的に書いてください	

送信

戻る

WEBキャリアカルテ

WEB Career Cards

(出典 WEB キャリアカルテ)

学級担任の基本姿勢

2. 学級担任の基本姿勢

- (1) 日常のコミュニケーションの大事さを学生に実感させ、互いに励行することに努める。まずは、コミュニケーションの基本である挨拶の励行から始める。
- (2) 学級担任は、学生との人間的な触れ合いを大切にし、できる限りコミュニケーションの時間を多くとるよう心掛ける。
- (3) 学級担任は、Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の結果も参考にしつつ、個々の学生の特質をよく理解して、発達過程を見守りながら、きめの細かい適切な指導を進める。
- (4) 学級担任は、学生に接する際に、問題によっては毅然たる態度も必要であるが、偏見にとらわれず公平な態度で、受容の心をもって接する。
- (5) 学級担任は、学生の日常の生活態度にも十分に配慮し、学生が意欲的、積極的に学生生活に取り組めるよう指導助言を与える。
- (6) 『シラバス』等をよく読むよう指導し、時には助言と相談に当たり、学業不振の学生にとどまらず、すべての学生を対象に学業指導を行い、積極的な学習態度の育成に努める。
- (7) 学習指導上の問題や生活指導上の問題に関して、独り学級担任だけでなく、科目担当教員、所属学科の教員、前担任などから情報を入手し、密接な連携をとりながら協力して適切な指導を進める。
- (8) 学級担任は、学生の家庭との緊密な連携を保ちつつ、相互に協力し合うことが大切である。特に、低学年指導においてはこの配慮を忘れてはならない。
- (9) 常に学級集団の育成に視点を据え、学生相互の健全な連帯感に支えられた学級形成に努める。
- (10) 学級担任の独自性を発揮しつつも、全体として統一ある指導を展開するために学年主任を中心とした学年会で情報共有や助言を十分に受けながら指導にあたる。特に、学年の特質を生かした指導計画、指導方針を学年会で話し合うことが必要である。
- (11) 「特別活動」の教育的価値を認識し、学生自身の実践活動を助長することに留意して、充実した特別活動を展開する。
- (12) 学級担任は、常に自己評価しつつ、PDCA サイクルの中でホームルーム及び学生指導等に当たる。

→ 資料 1 (p34) 参照

(出典 平成 25 年度学級担任の手引 6 頁)

級長会報告書の例

級長会議報告書

以下のとおりに報告を致します。

1.出席者 級長

2.会議名 級長会

3.場 所 第5講義室

4.日 時 平成 24 年 5 月 17 日 (15:00 から 16:00)

5.議事内容

1)級長顔合わせ(簡単な自己紹介等)

2)今年度活動方針

今年度は、行事前などを含め定期的に級長会を開催する方針(5回/年)

3)祇園祭について

現段階のクラスの状況などを話し合った。なるべく購買やお化け屋敷、縁日などかぶらないように調整が必要ということで意見が一致した。また、3年生を中心に、学科ごとに協力して企画を作っていこうということになった。

4)学校生活について

特に活発な意見交換がなされ、日ごろの学校についての考えが1年生を始めたたくさんの級長から出た。また級長会で変えていきたい主なこととして、以下のような発言がなされた。

・テスト日程が英語の資格試験と近くてきつい

本校の奨励している英語系の資格試験が、テスト日程によって受けにくいという意見が多く寄せられた。

・掲示板の場所が寮生や、二階の駐輪場から学校に入る人にとって見にくい。掲示板の内容がスマートフォンに対応していない

掲示板のみに掲載される重要な情報を見逃してしまう学生が多い。これは級長以外からも多く聞く意見である。

・スクールバス

木更津のバスは運賃が高く、単純計算で年に 10 万近く一人の学生が払っていることになる。また、バスの時間非常に混み合い、一般の人にも迷惑が掛かっている。これをスクールバスとすることで少しでも学生や一般の方々への影響が減るのではないか。

・赤点が 60 点できつい

特にテスト日程と掲示板に関することに力を入れていきたいということで意見が一致した。

5.連絡

次回会議は、7 月上旬を予定

(出典 学生委員会資料)

英語各種検定試験等の実施スケジュール

平成25年度 英語各種検定試験等 日程表 (平成25年 4月1日現在)

※ 実用英検の一次試験は2級, 準2級, 3級を全回準会場として実施します。団体申し込みは, 全ての級の志願者の総人数が10名以上の場合に成立します。(不成立の場合は書店等より個人で申し込むこととなります)。

※ 第3回工業英検(第98回)は, 団体受験のみの実施のため, 全ての級の志願者の総人数が10名以上の場合に成立となります。

※ 英語各種検定試験等の事務的な担当(集計および単位認定の申請等)は次のとおりです。
実用英検: 岩崎洋一 / 工業英検: 荒木英彦 / TOEIC IP: 小澤健志

月	日(曜)	試験	申込日時等(重要)
5月	7日(火) 8日(水)	専攻科 推薦選抜 募集受付	
	14日(火)	専攻科 推薦選抜	
	18日(土)	第1回 TOEIC IP	4月16日(火)または4月23日(火) 14時30分~15時30分, 総合教育棟2階にて
	26日(日)	第1回 工業英検(第95回)	4月下旬の火木に申込(後日決定) 詳細は2週間程度前に学生課前に掲示
6月	4日(火) 5日(水)	専攻科 学力選抜 募集受付	
	8日(土)	第1回 実用英検 一次試験(準会場) ※ 本会場試験は翌9日(日)実施	5月上旬の火木に申込(後日決定) 詳細は2週間程度前に学生課前に掲示
	17日(月)	専攻科 学力選抜	
7月	7日(日)	第1回 実用英検 二次試験	
9月	28日(土)	第2回 TOEIC IP	9月上旬の火木に申込(後日決定) 詳細は2週間程度前に学生課前に掲示
10月	12日(土)	第2回 実用英検 一次試験(準会場) ※ 3年生の準2級未合格者は原則全員受験 ※ 本会場試験は翌13日(日)実施	9月中旬の火木に申込(後日決定) 詳細は2週間程度前に学生課前に掲示
11月	10日(日)	第2回 実用英検 二次試験	
	17日(日)	第2回 工業英検(第97回)	10月中旬の火木に申込(後日決定) 詳細は2週間程度前に学生課前に掲示
1月	11日(土)	第3回 TOEIC IP	12月上旬の火木に申込(後日決定) 詳細は2週間程度前に学生課前に掲示
	25日(土)	第3回 実用英検 一次試験(準会場) ※ 本会場試験は翌26日(日)実施	12月中旬の火木に申込(後日決定) 詳細は2週間程度前に学生課前に掲示
		第3回 工業英検(第98回)	1月上旬の火木に申込(後日決定) 詳細は2週間程度前に学生課前に掲示
2月	23日(日)	第3回 実用英検 二次試験	注: 木更津高専は会場にはなりません。

(出典 英語科資料)

資格試験等の合格による授業への単位振替

区分	授業科目	単位数	学年別配当単位数										備考	
			1年		2年		3年		4年		5年			
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
必修 選択 科目	数学演習 A	1						1						同時開講 うち1単位選択
	数学演習 B	1					1							
	生物学	1					1							
	地学	1					1							
	英語演習 I	2							2				同時開講 [注1] うち2単位選択	
	英会話 I	2						2						
	英語演習 II	1									1		同時開講 [注1] うち1単位選択	
	英会話 II	1								1				
	哲学	2							2				同時開講 うち2単位選択 B [注2]	
	経済学	2							2					
社会学	2							2						
開設単位計	16	0	0	4	10	2						学修単位数 6		
選択 科目 目	国文学	1									1		同時開講	
	心理学	1									1			
	法学	1									1			
	ドイツ語 II	2							2				同時開講	
	中国語 I	2							2				同時開講	
	ドイツ語 III	2									2			
	中国語 II	2									2			
	日本文化論	1			1								集中講義	
	開設単位計	12	0	1	0	4	7							
特別学修	一般および専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修をあわせて最大 10 単位まで有効										[注 3]			
本校以外の教育施設における学修											[注 4]			
開設単位合計	97	28	24	19	16	10							特別学修および 本校以外の教育施設における学修は含まない	

注 1：英語科目に関し、次のような振替措置を行う。なお、詳細については、英語の授業時に説明される。

資格試験（合格/得点）	振替を行う授業科目	単位数	評点
実用英検準 2 級	英語演習 I	2	90
工業英検 4 級			
TOEIC400 点以上※	英語演習 II	1	80～※

※ TOEIC 400～424 点：80 点、425～449 点：90 点、450～469 点：100 点。
470 点以上得点の場合は「特別学修」による単位認定も併せて行われる。

注 2：B（1 単位：22.5 時間＋自学自習 22.5 時間） 1 履修単位→1 学修単位

注 3：特別学修の内容は、別に定める。

注 4：本校以外の教育施設における学修の手続きは、別に定める。

（出典 平成 25 年度学生便覧 29 頁）

資料 7-1-③-7

木更津工業高等専門学校特別学修に関する規則

平成 13 年 4 月 1 日

規 則 第 2 3 号

- 1 この規則は、木更津工業高等専門学校学則（昭和 43 年 6 月 14 日制定学則第 1 号）第 13 条第 6 項の規定に基づく、別表第 1 及び別表第 2 の特別学修について定める。
- 2 特別学修は、別表の一覧表のとおりとする。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 13 年 4 月 1 日規則第 23 号）

資料 7-1-③-8

特別学修の案内

1-11 特別学修

特別学修とは、選択科目として一般科目と専門科目の両方に開設された授業科目です。履修数に上限はありませんが、一般及び専門の特別学修と本校以外の教育施設における学修（1-12 及び学則第 13・14 条を参照）を合わせて最大 10 単位までが、選択科目としての扱いを受けます。

特別学修は他の科目と大きく異なる部分もあるため、その履修方法等について以下に示します。

(1) 技能審査・資格試験等

技能検定・資格試験等合格に関する特別学修の単位認定を申請する場合、学生は該当する検定・試験等に合格した年度内に、それを証する書類を添付して特別学修による単位認定願を担当教員（教育課程表（1-16）中の特別学修一覧表参照）に提出しなくてはなりません。ただし、資格取得日が年度末（2 月下旬～3 月末日）に当たる場合、翌年度の単位認定となります。

なお、本校を通して受験し合格した漢字検定、実用英検、工業英検、TOEIC IP に関しては、特別学修による単位認定願を提出する必要はありません。その他、不明な点は、事前（資格取得前）に担当教員と相談するようにしてください。

(2) ロボコンなどの創造的活動，教育支援活動，ボランティア活動

これらの特別学修は、事前に履修登録をする必要があります。原則として、4 月末日までにシラバスに記載された指導教員のところに行き、指示を受けてください。

授業方法や単位認定方法については各科目によって異なるためシラバスで確認してください。

（出典 平成 25 年度学生便覧 24 頁）

特別学修の一例

特別学修一覧表

1. 木更津工業高等専門学校学則第 13 条第 6 項の規程に基づく、別表第 1 及び別表第 2 の特別学修についてはこの定めによる。
2. 特別学修は以下の一覧表とする。
3. この定めは平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

特別学修一覧表

一般（全学科共通）				
項目	表記	単位数	主催団体	窓口教員名
日本漢字能力検定 1 級	漢字検定:1 級	1	日本漢字能力検定協会	五十嵐謙介 加藤達彦
日本漢字能力検定 準 1 級	漢字検定:準 1 級	1		
日本漢字能力検定 2 級	漢字検定:2 級	1		
実用英語技能検定 1 級	実用英検:1 級	2	日本英語検定協会	岩崎洋一
実用英語技能検定 準 1 級	実用英検:準 1 級	2		
実用英語技能検定 2 級	実用英検:2 級	2		
実用英語技能検定 準 2 級	実用英検:準 2 級	1		
工業英語能力検定 1 級	工業英検:1 級	2	日本工業英語協会	荒木英彦
工業英語能力検定 2 級	工業英検:2 級	2		
工業英語能力検定 3 級	工業英検:3 級	2		
工業英語能力検定 4 級	工業英検:4 級	1		
TOEIC 730 点以上	TOEIC:上級	4	(財)国際ビジネスコミュニケーション協会	小澤健志
TOEIC 470 点以上	TOEIC:中級	1		
TOEIC 400 点以上	TOEIC:初級	1		
ドイツ語基礎統一試験(ZD)	国際ドイツ語検定:B1	2	ゲーテ・インスティテュート	柴田育子
スタート・ドイツ語Ⅱ(SD2)	国際ドイツ語検定:A2	1		
スタート・ドイツ語Ⅰ(SD1)	国際ドイツ語検定:A1	1	(財)ドイツ語文学振興会	
ドイツ語技能検定 2 級	ドイツ語検定:2 級	2		
ドイツ語技能検定 3 級	ドイツ語検定:3 級	1		
ドイツ語技能検定 4 級	ドイツ語検定:4 級	1	(社)日本技術士会	
技術士補	技術士補	4		
技術イベント活動	技術イベント活動:ロボコン	1		坂元周作
技術イベント活動	技術イベント活動:プロコン	1		白木厚司
ボランティア活動	ボランティア活動:社会福祉	1		加藤達彦 岡本保 湯谷賢太郎
ボランティア活動	ボランティア活動:地域支援	1		加藤達彦 岡本保 湯谷賢太郎
国際交流	国際交流:外国人留学生支援	1		関口昌由

(出典 平成 25 年度学生便覧 44 頁)

特別学修による単位認定申請一覧の一例

平成24年度 特別学修による単位認定申請一覧 1年生～4年生

数	科	年	学籍番号	氏名	表記(項目分野試験名等:合格級等)	合格等年月日	評価	評語	単位数	一般/専門	備考(認定省庁・代替等)	
1	M	4			工業英検	4級	平成23年11月21日	90	A	1	一般	
2	M	4			実用英検	準2級	平成24年2月24日	90	A	1	一般	2級合格に伴う同時認定
3	M	4			実用英検	2級	平成24年2月24日	90	A	2	一般	
4	M	4			工業英検	4級	平成24年2月3日	90	A	1	一般	
5	M	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
6	M	4			工業英検	4級	平成22年6月7日	90	A	1	一般	
7	M	4			危険物取扱者	乙種第4類	平成24年3月7日	90	A	1	専門	
8	M	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
9	M	4			実用英検	準2級	平成22年7月16日	90	A	1	一般	
10	M	4			工業英検	4級	平成24年2月3日	90	A	1	一般	
11	M	4			実用英検	準2級	平成22年11月19日	90	A	1	一般	
12	M	4			工業英検	4級	平成24年2月3日	90	A	1	一般	
13	M	4			工業英検	4級	平成24年2月3日	90	A	1	一般	
14	M	4			危険物取扱者	乙種第4類	平成24年3月7日	90	A	1	専門	
15	M	4			工業英検	4級	平成23年11月21日	90	A	1	一般	
16	M	4			実用英検	準2級	平成24年7月13日	90	A	1	一般	
17	M	4			工業英検	4級	平成24年2月3日	90	A	1	一般	
18	M	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
19	M	4			実用英検	準2級	平成22年11月19日	90	A	1	一般	
20	M	4			工業英検	4級	平成23年11月21日	90	A	1	一般	
21	M	4			実用英検	準2級	平成24年7月13日	90	A	1	一般	
22	M	4			工業英検	4級	平成24年2月3日	90	A	1	一般	
23	M	4			工業英検	3級	平成23年6月13日	90	A	2	一般	
24	M	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
25	M	4			ドイツ語検定	4級	2013年2月3日	90	A	1	一般	ドイツ語学文学振興会
26	E	4			工業英検	4級	平成23年2月3日	90	A	1	一般	
27	E	4			工業英検	4級	平成23年11月21日	90	A	1	一般	
28	E	4			実用英検	準2級	平成21年7月17日	90	A	1	一般	
29	E	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
30	E	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
31	E	4			工業英検	4級	平成23年2月3日	90	A	1	一般	
32	E	4			実用英検	準2級	平成24年7月13日	90	A	1	一般	
33	E	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
34	E	4			工業英検	4級	平成23年11月21日	90	A	1	一般	
35	E	4			電気工事士	2種	平成24年11月1日	90	A	1	専門	
36	E	4			実用英検	準2級	平成24年7月13日	90	A	1	一般	
37	E	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
38	E	4			工業英検	4級	平成23年11月21日	90	A	1	一般	
39	E	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
40	E	4			実用英検	準2級	平成24年7月13日	90	A	1	一般	
41	E	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
42	E	4			実用英検	準2級	平成24年7月13日	90	A	1	一般	
43	E	4			工業英検	4級	平成23年11月21日	90	A	1	一般	
44	E	4			工業英検	4級	平成24年2月3日	90	A	1	一般	
45	E	4			工業英検	3級	平成23年6月13日	90	A	2	一般	
46	E	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
47	D	4			ドイツ語検定	3級	2012年7月8日	90	A	1	一般	ドイツ語学文学振興会
48	D	4			国際ドイツ語検定	A2	2012年4月11日	90	A	1	一般	Goethe-Institut
49	D	4			日本漢字能力検定	2級	平成25年2月4日	90	A	1	一般	
50	D	4			ドイツ語検定	4級	2012年7月8日	90	A	1	一般	ドイツ語学文学振興会
51	D	4			実用英検	準2級	平成23年7月15日	90	A	1	一般	
52	D	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
53	D	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
54	D	4			実用英検	準2級	平成22年7月16日	90	A	1	一般	
55	D	4			工業英検	4級	平成22年6月7日	90	A	1	一般	
56	D	4			工業英検	4級	平成23年11月21日	90	A	1	一般	
57	D	4			工業英検	3級	平成24年5月31日	90	A	2	一般	
58	D	4			実用英検	準2級	平成22年11月19日	90	A	1	一般	
59	D	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
60	D	4			工業英検	3級	平成24年2月3日	90	A	2	一般	
61	D	4			工業英検	4級	平成24年2月3日	90	A	1	一般	
62	D	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
63	D	4			工業英検	3級	平成24年2月3日	90	A	2	一般	
64	D	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
65	D	4			工業英検	4級	平成23年6月13日	90	A	1	一般	
66	D	4			実用英検	準2級	平成22年2月26日	90	A	1	一般	

留学規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、木更津工業高等専門学校学則第 26 条の 2 第 4 項の規定に基づき、本校学生の外国の高等学校又は大学への留学（以下「留学」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(許可基準)

第 2 条 留学は、次の各号に該当する場合に許可するものとする。

- (1) 留学先の高等学校又は大学が、正規の教育機関であり体系的な教育課程を有していること。
- (2) 前号の高等学校又は大学に在籍することを許可されていること。
- (3) 留学の目的、理由等が当該学生にとって教育上有益であると認められること。

(申請及び許可)

第 3 条 留学しようとする者は、原則として、出国 3 か月前までに留学願（別紙様式 1）に、次に掲げる書類を添えて校長に提出しなければならない。

- (1) 留学希望先の学校規模、沿革、教育方針、教育課程等が記載されている書類
- (2) その他校長が必要と認める書類

2 前項の願い出があったときは、校長は、教務委員会の議に付し前条各号の基準を満たしているものについて、これを許可するものとする。

3 前項の許可をした場合において、出国前に留学の許可基準に該当しなくなったときは、その許可を取り消すことがある。

(期間)

第 4 条 留学の期間は、10 か月以上 1 年以内とする。ただし、特別の理由があると認められる場合は、留学期間の短縮及び 1 年以内の延長を認めることがある。

2 留学期間を短縮又は延長しようとするときは、留学期間変更願（別紙様式 2）を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

(終了及び復学)

第 5 条 留学期間が終了したときは、すみやかに復学願（別紙様式 3）に、次に掲げる書類を添えて校長に提出し、その許可を受けなければならない。

- (1) 留学先の高等学校又は大学の発行する教科科目の履修、出欠の状況及び成績等の証明書等の証明書
- (2) 本人の留学に関する報告書

第 6 条 復学の際の学年については、教務委員会の審査の結果に基づき、校長が決定するものとする。

(単位の認定)

第 7 条 留学中の履修に係る単位の認定は、個々の科目について行わず、当該留学生在が高等学校又は大学において良好に履修したと認められる場合は、一括して 30 単位を認め、評価は行わない。

2 留学期間の短縮を許可した場合において、当該留学期間が第 4 条第 1 項本文に定める期間に満たなくなったときは、前項の単位認定は行わない。

資料 7-1-③-11 (2)

(卒業時の修得単位の特例)

第 8 条 留学中の履修に係る単位の認定を受けた者について、卒業時に 167 単位以上の単位を修得しているときは、卒業を認めることができるものとする。

(雑則)

第 9 条 この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成元年 9 月 14 日から施行する。

(出典 平成 25 年度学生便覧 110～111 頁)

資料 7-1-③-12

留学取扱要領

1. 本校における留学に関する取扱いについては、木更津工業高等専門学校留学規程（以下「規程」という。）第 9 条の規定に基づき、この要領の定めるところによるものとする。
2. 留学の許可は、当分の間、第 1 学年から第 3 学年までに在籍するものを対象とする。
3. 復学後の学生は、原則として留学時の学年の 1 年上の学年とする。
4. 規定第 7 条に定める単位の認定は、留学当初に在籍する学年について、認定するものとする。
5. 許可された留学の期間は、出席扱いとする。
6. 学籍簿には留学先、期間及び認定単位のみ記載する。

附 則

この取扱要領は、平成元年 9 月 14 日から適用する。

(出典 平成 25 年度学生便覧 112 頁)

台湾国立聯合大学と国際交流協定

台湾国立聯合大学との国際交流協定締結！

2006年12月13日(水)

日台シンポジウムの期間中である12月13日(水)に、台湾国立聯合大学(聯合大学)の李隆盛学長以下14名の先生方が本校を訪問しました。校内施設見学後、河上校長、黒田副校長及び鶴田教授から日本の教育システムから本校の教育システムや JABEE受審に関する講演が行われました。その後、台湾代表団の来賓同席の内、両校の間に「教育研究活動の相互交流に関する協定書」が締結されました。今後、両校間での情報交換、人材交流、共同研究における今後の進展が期待されことになりました。



李学長(左)と河上校長(右)



記念品贈呈



交流協定締結歓迎会

(出典 本校ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/kokusai/COOP2006.html>)

ドイツ外務省のプロジェクト「パートナーシュール (PASCH)」への参加

木更津高専が「パートナーシュール (PASCH)」に参加
(日本で最初の参加校)

2008年12月4日(木)

ドイツ外務省が進めているプロジェクトである「パートナーシュール」(Partnerschule 略: PASCH)に木更津工業高等専門学校(校長:河上恭雄)が参加することに決まりました。このプロジェクトは世界各国でドイツ語を学習している学校500校、ドイツ人学校500校、合計1000校がパートナー校として協定を結び、交流活動を通してドイツ語能力を向上させるとともに、ドイツ語学習者を拡大しようとするものです。木更津高専は日本における最初のパートナー校に決まり、12月4日(木)午後、「PASCH」協定の調印式およびパーティーが木更津高専にて開催されました。

パーティーでは「PASCH」の実施団体であるゲーテ・インスティテュートから本場ドイツのソーセージやパン(プレーツェル)が用意され、VW(フォルクスワーゲン)車の展示や、VWの最新技術のプレゼンテーションなどが行われました。さらに学生には図書や記念Tシャツが贈呈されました。

今後、木更津高専はゲーテ・インスティテュートが提供するパートナー校の様々な特典を活用して、学生がドイツ語能力を向上させ、ドイツ語検定試験に合格し、奨学金を得てドイツでの研修・交流活動に参加することを目指していきます。



調印式での記念撮影



記念パーティ

(出典 本校ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/kokusai/pasch2008.html>)

(分析結果とその根拠理由)

学級担任の指導や学生の声，授業評価アンケート，学級委員長会を通して学生のニーズが適切に把握されている。複数の資格試験や検定試験が実施され，授業振替や単位認定も行われており，学生の学習支援が適切に行われている。外国留学中に修得した単位を本校の単位として認定する等の支援体制が整備されている。また，台湾国立聯合大学との国際交流協定締結やPASCHへ参加により，学生の国際交流活動の支援が機能している。

観点7-1-④： 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

留学生については「外国人留学生特例規程」に基づき、特別な授業科目を開設し単位の振替を行っている(資料7-1-④-1)。更に、留学生に対する専門科目の指導を一貫して行うため、留学生指導教員を配置している(資料7-1-④-2)。また、学校生活及び個人生活について留学生に助言を与えるための学生相談員(チューター)を配置している(資料7-1-④-2)。チューターには円滑に支援ができるようチューターマニュアルを配布し(資料7-1-④-3)、定期的に留学生指導報告書を提出させている(資料7-1-④-4)。

第4学年への編入生については、入学時にガイダンスを行い、学習を支援している(過去4年間該当事例がなかったため資料の提示はなし)。

身体に障がいのある学生については、現在該当学生は在籍していないが、「身体障害学生の教育課程に関する特例規程」(資料7-1-④-5)に基づき、支援できる体制を整えている。また、重度の障がいを持つ学生については「身体に特に重度の障がいを持つ学生の支援に関する要項」(資料7-1-④-6)に従い、サポートチームを設置して支援を行う体制となっている。発達障がいのある学生に対しては、物理や数学の特別補講を行っている(資料7-1-④-7)。

外国人留学生特例規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、学則第 50 条の規定に基づき、外国人留学生（以下「留学生」という。）の入学、教育課程その他に関する特例を定めたものである。

(入学)

第 2 条 留学生は、定員外として、第 3 学年に入学を許可するものとする。

(教育課程)

第 3 条 留学生のために、別表に定める授業科目を必要に応じて開設するものとする。個々で修得した単位は、学則別表第 1 のうち、第 3 学年、第 4 学年及び第 5 学年における自然の分野及び英語、保健・体育に関する授業科目を除く各授業科目と振替えることができる。

2 留学生の第 3 学年における教育課程は、特別活動のほか、第 3 学年までに修得すべき専門科目の履修に特に必要な基礎学力を養うため、別表並びに学則別表第 1 及び別表第 2 に定める授業科目により特別に編成するものとする。

3 留学生の第 4 学年及び第 5 学年における教育課程は、別表並びに学則別表第 1 及び別表第 2 に定める授業科目により編成するものとする。

(授業料等)

第 4 条 国費外国人留学生については、授業料、入学料及び検定料は徴収しない。

(留学生指導教員)

第 5 条 留学生に対する専門科目に関する学習指導を一貫して行うため、各留学生に対して、留学生指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。

2 前項の指導教員は、当該学科の教員の中から、学科主任の推薦に基づき、校長が指名する。

(学生相談員)

第 6 条 学校生活及び個人生活について留学生に助言を与えるため、入学後最初の二年間について各留学生に対して、学生相談員を置く。

2 前項の学生相談員は、当該留学生と同一学科の第 3 学年以上の学生の中から、学科主任及び指導教員の推薦に基づき、校長が委嘱する。

3 学生相談員は、その職務に関し、必要に応じて学生主事、寮務主事または指導教員に連絡し、その指導を受けるものとする。

(住居)

第 7 条 留学生は、原則として学寮に居住するものとする。この場合には、前条の学生相談員は原則として寮生である者とする。

(世話係)

第 8 条 留学生の補導と生活上の世話をを行うため、学生課の職員の中から、校長が指名する。

2 前項の世話係は、学生課の職員の中から、校長が指名する。

附 則

この規程は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

資料 7-1-④-1 (2)

附 則

この規程は、昭和 61 年 6 月 20 日から施行し、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、昭和 63 年 3 月 12 日から施行し、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

別表

(各学科共通)

授 業 科 目	単 位 数	備 考
日 本 語 I	2	
日 本 語 II	2	
日 本 語 III	2	
日 本 事 情 I	2	
日 本 事 情 II	2	
日 本 事 情 III	2	

(出典 平成 25 年度学生便覧 109～110 頁)

チューターマニュアルの一部抜粋

1. はじめに

皆さん、このたびは留学生のチューター(学生相談員)をおひきうけいただき、ありがとうございます。皆さんは、チューター活動に大きな抱負を抱き、積極的に取り組もうとしておられるでしょう。しかし、おそらく皆さんの多くがチューターは初めての経験ではないかと思われます。チューターとして何をしたらよいのか、あれこれと思いをめぐらせ、一抹の不安を抱いておられるかも知れません。

チューター制度は文部科学省の制度によって定められております。本校では、外国人留学生特例規程第6条に学生相談員として定められています。(学生便覧を参照してください)

チューターとなった皆さんが、このチューター制度の目的を理解され、その役目を不安や迷い、大きな負担を感じることなく果たせるよう、少しでも参考になり、指針となればと思っています。このマニュアルを活用し、この制度を実りあるものにするよう、願っています。

ここに記された事項は、あくまでも参考にすぎませんので、これにとらわれる必要はありません。若い皆さんの情熱、知性、感性と創意工夫を活かした活動を期待するとともに、チューター活動を通じて得た皆さんの貴重なご意見等を遠慮なく、お聞かせください。

2. チューター制度とその目的

外国人留学生(以下、「留学生」といいます)が、来日後(又は、自国において)短期間に日本語を習熟し、日本の習慣に慣れ、学習、研究の効果を上げるためには、学習はいうに及ばず、日常生活にもきめ細かい長時間にわたる対話、助言、指導等交流が必要です。このような助言、又は個別指導を行うのは教員だけでは、困難な面もあり、これを補助するために、このチューター制度が設けられています。

したがって、本校では留学生が、授業に関する理解や学生生活、あるいは地域の社会生活に一日も早く慣れるように積極的に、助言し、または悩みごと等の相談に乗ってあげたりするのが、チューター活動の目的と考えています。

以上述べた制度の目的から明らかなように、チューター活動の対象となる留学生は、編入学後の2年間となっています。

以下具体的に述べてみましょう。

案内者として

本校での学習生活が円滑に進められるように手助けをする。カリキュラムに従って単位が修得できるように、また、種々の校内手続きの書類作成などについて、自らの経験を踏まえて助言する。

さらに、図書館をはじめとする校内施設の利用方法を教える。また、外部機関(図書館、運動施設、博物館等)の利用方法等を必要に応じて案内する。

先生として

身近にいて、同じ専門分野で、同じクラスで教科を勉強している者として、家庭教師的に、あるいは一緒に学習する者として、友人として、留学生が十分に理解できない箇所を説明し、教える。また、実験、実習レポートの作成の際には助言者として、文章表現などの日本語能力を向上させる。専門的な学習を効果的に行うために、適当な参考書を紹介する。

友人として

同世代の友人として、日本の文化や社会についてわかりやすく説明し、時には一緒に考える。できれば留学生の出身国の文化、社会と比較し話し合い、相互理解を深めるよう努力する。

留学生に日本の友人を多数紹介し、留学生が様々な日本人を知る機会を設ける。

学生生活の諸問題について相談に乗る。また、日常生活面では、公共交通機関、電話、買い物などについて、機会があれば手助けする。

この制度は留学生、指導教官そしてチューターの三者の間に、信頼と協力関係が築かれた時、最もその効果を発揮しますので、お互いの連絡を密にするよう心掛けましょう。

皆さんが留学生の諸問題について困った時、迷った時には、すぐに留学生の指導教員に連絡、相談し指示を仰いでください。

(出典 チューターマニュアル 1頁)

資料7-1-④-4(1)

留学生指導報告書の例

留学生指導報告書

平成24年 4月27日

指導教官自署

上 打 芳 明

学生相談員 環境都市 工学科・第3学年

氏 名 _____ (自著)

留学生氏名 _____ (自著) 確認サイン _____

平成24年4月分の指導を下記のとおり実施したので報告します。

記

日	曜	指導時間	時数	指導内容
9	月	15:00 ~ 17:00	120分	談話室で自己紹介・学校のこについてなどの談話
11	水	18:00 ~ 19:00	60分	足りない教科書の確認
18	水	19:00 ~ 21:00	120分	寮のパーティー
26	木	19:30 ~ 20:30	60分	談話室で勉強(測量学)
20	金	19:30 ~ 20:30	60分	談話室で勉強(構造力学)
14	土	19:00 ~ 21:00	120分	居室で異文化交流・談話・交友
16	月	20:00 ~ 21:00	60分	談話室で勉強(解析Ⅲ)
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		計	600分 (10h)	

- (注意) ①指導時間欄は、実際に指導した時間を記入すること。
- ②指導内容は、実際に指導した内容を具体的に記入すること。
- ③指導報告書は、当月分を必ず翌月の2日までに指導教員へ提出すること。また、指導教員はすみやかに総務課ポスト下段の学寮ポストまたは学寮事務室まで提出してください。

留学生指導報告書付表

<p>1.学習面の助言・指導について感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> •何でも素直に聞いてくれて、学習面でも覚えるのが早くとも助かった。 •持っていき教科書とか宿題とかを確認したくらいで、後は特に教えていなくても自分でできることが多かったため、びっくりした。
<p>2.日常生活での助言・指導について感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> •特に指導をたくさんしなくても、周りの人に合わせて動いたり、していたのであまり助言することがなかった。 •何かアドバイスをしてもらって素直に聞いてくれたのでとても良かった。

〔指導教員記入欄〕

<p>1.留学生及び学生相談員の指導等について感じたこと</p> <p>さんは大変良くがんばっています。</p> <p>また さんも良く さんの面倒を見てくれます。</p> <p>特に今のところは注文もなく大変満足しています。</p> <p style="text-align: right;">(印)</p>

資料 7-1-④-5

木更津工業高等専門学校身体障害学生の教育課程に関する特例規程

昭和 58 年 6 月 17 日

規 則 第 3 号

第 1 条 この規程は、木更津工業高等専門学校学則第 13 条第 6 項の規定に基づき、身体障害学生の教育課程に関する特例を定めたものである。

第 2 条 校長は、次の各号に該当する学生について、特別の授業科目及び履修単位数を定めることができる。

- (1) 第 3 学年以上の課程を修了した者
- (2) 事故又は疾病により身体の機能に障害を生じ、学則第 13 条第 1 項及び第 2 項に規定する教育課程によって履修することが困難となった者
- (3) 特別の教育課程及び学習指導により、職業に必要な専門的能力を修得して卒業する見込みのある者

附 則

この規程は、昭和 58 年 6 月 17 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和 58 年 6 月 17 日規則第 3 号)

資料7-1-④-6

身体に特に重度の障がいを持つ学生の支援に関する要項

〔平成19年9月20日〕
校 長 裁 定

- 1 校長は、身体に特に重度の障がいを持つ学生に対する支援の一環として、個別の諸問題に対応し、関係委員会等との連絡調整を図り、当該学生の学校内における学習、学生生活等の円滑化を図るため、必要に応じて、学生主事のもとに関係教職員による支援チーム（以下「サポートチーム」という。）を設置するものとする。
- 2 サポートチームは、次に掲げる事項を調査、検討し、必要に応じて関係委員会等との調整を図る。
 - ① 学習を行う上で生じる諸問題に関すること
 - ② 学生生活を行う上で生じる諸問題に関すること
 - ③ 学寮生活を行う上で生じる諸問題に関すること
 - ④ その他当該学生が本校における学校生活を行う上で生じる諸問題に関すること
- 3 サポートチームは、次に掲げる者とする。
 - ① 教務主事補 1人
 - ② 学生主事補 1人
 - ③ 寮務主事補 1人（当該学生が学寮に入寮している場合又は入寮を希望する場合）
 - ④ 当該学生が所属する学科の教員 1人
 - ⑤ 学生相談員 1人
 - ⑥ 当該学生の学級担任（第4号で指名された教員が当該学生の学級担任でない場合）
 - ⑦ 学生課長
 - ⑧ その他校長が必要と認める者
- 4 サポートチームにチームリーダーを置き、サポートチームの中から校長が指名する。
- 5 サポートチームが必要と認めた場合は、サポートチーム以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。
- 6 サポートチームに関する事務は、学生課において処理する。

附 則

この要項は、平成19年9月20日から施行する。

（出典 学生課資料）

資料7-1-④-7

発達障がい学生のための物理数学の特別補講

2012年4月24日

学生課長殿

学生相談室

発達障害学生のための物理数学特別補講 2012年度計画

昨年度に引き続き、発達障害学生のための特別補講を以下に計画しています。計画内容を以下に示しますので、宜しくお取りはからい願います。

講師：清水耕二 先生

日程案：

回数	日程	備考	回数	日程	備考
1	5月17日		16	10月4日	
2	5月24日		17	10月18日	
3	5月31日		18	10月25日	
4	6月7日		19	11月1日	
5	6月14日		20	11月8日	
6	6月21日	中間試験最終日	21	11月15日	
7	6月28日		22	11月22日	中間試験初日
8	7月5日		23	11月29日	中間試験最終日
9	7月12日		24	12月6日	
10	7月19日		25	12月13日	
11	7月26日	夏休み	26	1月10日	3年学習到達度試験
12	8月30日	夏休み	27	1月17日	
13	9月6日		28	1月24日	
14	9月13日		29	1月31日	
15	9月20日	定期試験最中	30	2月7日	

全日程 木曜日、15:00～16:30 の予定

また都合により日程の変更の可能性もあります。

対象の学生：外部診療所の診断書がある学生。または本校カウンセラーの推薦がある学生。

以上

(出典 学生相談室資料)

(分析結果とその根拠理由)

留学生のための授業科目を開設して単位振替が行われ、また留学生指導教員とチューターが配置されて学習支援が行われている。身体に障がいのある学生に対しては、教育課程の特例規程が定められ、サポートチームを設置して支援する体制が整備されている。発達障がいを持つ学生に対しては、物理や数学の特別補講により学習支援が行われている。

観点7-1-⑤： 学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生主事の指導の下に学友会が組織され，その活動機関として31の部（文化部11部，運動部20部）と24の同好会が置かれている（資料7-1-⑤-1）。全教員がクラブ指導教員として各部，同好会の指導に当たっている（資料7-1-⑤-2）。クラブ指導教員は学生主事の総括の下，課外活動についての諸問題を検討したり情報を共有したりして支援体制を整えている（資料7-1-⑤-3）。また，技術向上を目的としてクラブ技術指導員を置くこともできる（資料7-1-⑤-4）。

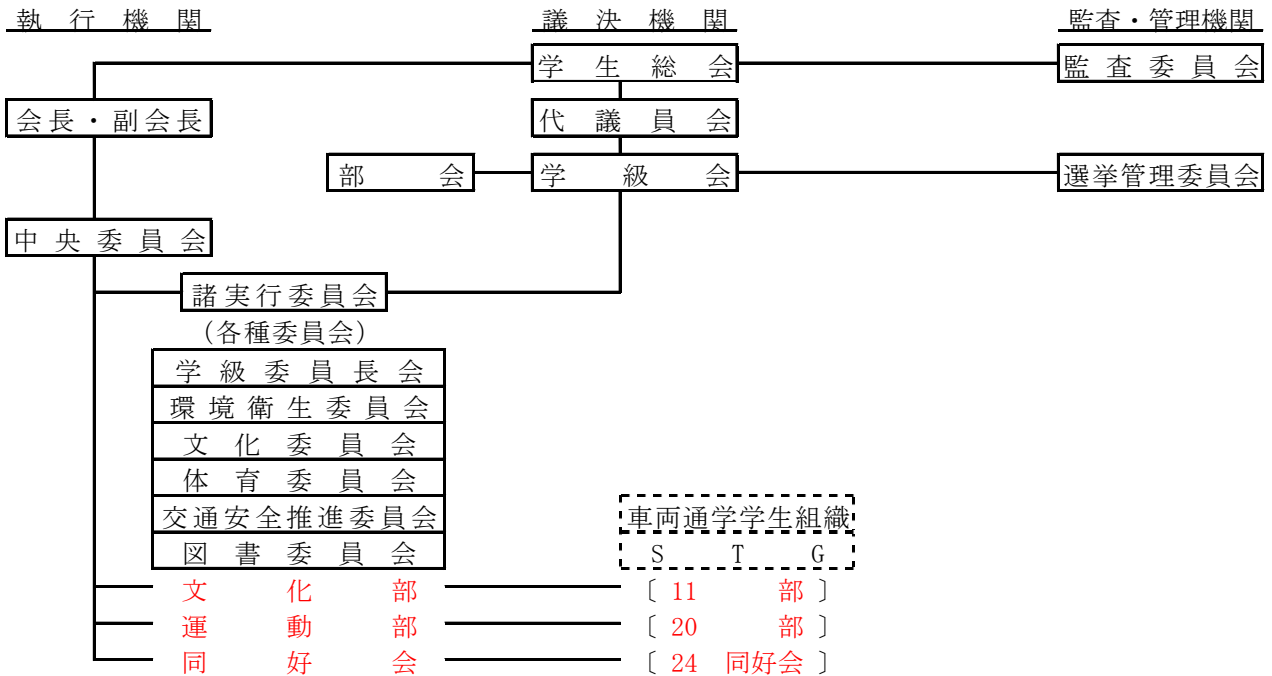
経費面では，学友会の予算で課外活動を運営するほか（資料7-1-⑤-5），後援会が旅費や物品購入の援助をしている（資料7-1-⑤-6）。

施設面では，学友会館内に合宿研修施設を整備し，指導教員の監督の下，長期休業中等も課外活動を行える環境となっている（資料7-1-⑤-7）。

資料 7 - 1 - ⑤ - 1

学友会組織と課外活動

学友会機構図



(出典 平成 25 年度学生便覧 135 頁)

平成25年度学友会クラブ等指導教員一覧

平成25年度 学友会クラブ等指導教員一覧

文化系クラブ

	ク ラ ブ 名	指 導 教 員	
1	電 気 部	石川雅之	泉 源
2	写 真 部	小田 功	丸岡邦明
3	自 動 車 部	鈴木聡	大木正喜
4	吹 奏 楽 部	大澤 寛	瀬川直美
		齋藤康之	
5	合 唱 部	佐藤恒明	
6	華 道 部	関口昌由	栗本 育三郎
7	茶 道 部	柏木康秀	小澤健志
		鎌田 勝	
8	演 劇 部	武長 玄次郎	加藤達彦
		清水公男	
9	囲 碁 部	黄野銀介	丸山 真佐夫
		石出忠輝	
10	美 術 部	関口昌由	渡邊孝一
11	軽 音 部	福地健一	柴田育子

同 好 会

	ク ラ ブ 名	指 導 教 員	
1	化学研究同好会	相川正美	吉井文子
2	文 芸 同 好 会	武長玄次郎	加藤達彦
3	ロボット研究同好会	嶋田正俊	伊藤裕一
		坂元周作	内田洋彰
4	RPG 研究同好会	吉井文子	
5	地盤研究同好会	鬼塚信弘	
6	見呂工房同好会	五十嵐譲介	
7	土木技術研究同好会	鬼塚信弘	
8	ドイツ語研究同好会	柴田育子	荒木英彦
9	プログラミング研究同好会	丸山真佐夫	白木厚司
10	建 築 同 好 会	石川雅朗	
11	電子創作同好会	和崎浩幸	
12	生物研究同好会	湯谷賢太郎	黄野銀介
		上村繁樹	
13	洋楽研究同好会	清水公男	
14	し っ と こ 隊	大野貴信	
15	自 転 車 同 好 会	坂元周作	鈴木道治
16	スポーツチャンバラ同好会	武長玄次郎	
17	地中海研究同好会	関口昌由	柏木康秀
18	歴史研究同好会	武長玄次郎	
19	山 岳 同 好 会	白井邦人	
20	護身術同好会	島崎彦人	
21	音楽研究同好会	齋藤康之	
22	ダ ー ツ 同 好 会	島崎彦人	
23	ダンス同好会	岐美 宗	高谷博史
24	書 道 同 好 会	加藤達彦	鬼塚信弘

運動系クラブ

	ク ラ ブ 名	指 導 教 員	
1	野 球 部	高橋秀雄	鈴木 聡
		板垣貴喜	白木厚司
2	バスケットボール部	加藤達彦	岩崎洋一
		飯田聡子	大枝真一
3	バレーボール部	篠村朋樹	石井孝一
		大野貴信	米村恵一
4	卓 球 部	栗本 育三郎	黄野銀介
		丸山 真佐夫	伊藤裕一
5	ソフトテニス部	山下 哲	島崎彦人
		岡本 保	
6	サ ッ カ ー 部	泉 源	岡本峰基
		米村恵一	
7	柔 道 部	清野哲也	鈴木道治
8	陸 上 競 技 部	坂田洋満	沢口義人
		岐美 宗	
9	空 手 道 部	浅野洋介	大野貴信
		島崎彦人	
10	水 泳 部	大橋太郎	荒木英彦
11	バドミントン部	歸山智治	上原正啓
		嘉数祐子	
12	ホ ッ ケ ー 部	大久保努	白木厚司
		石井建樹	
13	ラ グ ビ ー 部	大木正喜	
14	テ ニ ス 部	伊藤 操	田所勇樹
15	ゴ ル フ 部	高谷博史	大木正喜
16	剣 道 部	内田洋彰	
17	女子バレーボール部	篠村朋樹	石井孝一
		米村恵一	
18	女子ホッケー部	大久保努	白木厚司
		石井建樹	
19	女子バスケットボール部	加藤達彦	岩崎洋一
		飯田聡子	大枝真一
20	女子テニス部	阿部孝之	田所勇樹

STG 指 導 教 員

鈴木 聡	(電子制御工学科)
大木 正喜	(環境都市工学科)

(出典 平成25年度学生便覧 181頁)

クラブ指導教員会議議事要旨の一部
クラブ顧問（学友会クラブ等指導教員）会議議事要旨

H24.5.8

実施日時：2012年5月17日 15:50～16:45

実施場所：管理棟2階会議室A

参加者：学生主事：荒木，学生主事補：加藤（人文），黄野（M），湯谷（C）

クラブ顧問各教員

学生課：中田

1. 後援会クラブ助成費について

- ・物品援助費
- ・休日指導手当
- ・合宿手当
- ・引率旅費

→後援会からクラブ関係について、助成されている旨報告があった。また、クラブ指導費5,000円の請求をするように依頼があった。

2. 学友会クラブ活動費について

- ・報告書類

3. 事故対策について

- ・熱中症，他についての予防及び応急処置について
- ・AED講習会（6月26日〔火〕，7月2日〔火〕15:00～16:30）
- ・負傷した場合の保険（日本スポーツ振興センター）の手続きについて
- ・任意保険の加入について

→熱中症，他についての予防及び応急処置については，パンフレットに従い説明があった。AED講習会については，寮生の1年生も含めて実施予定である旨，告知があった。

4. 大会引率時の交通手段について

- ・原則として公共交通機関利用
- ・借り上げバスの利用について

→大会引率時の交通手段については，原則として公共交通機関を利用し，バス利用時は一人当たりの鉄道賃より安い場合に使用するなどの依頼があった。

5. 公用車の使用について

- ・学校行事優先
- ・原則として1クラブ1台
- ・1カ月前までに予約～予約が重なる場合は話し合いで

（出典 学生課資料 一部抜粋）

資料 7 - 1 - ⑤ - 4

平成 25 年度クラブ技術指導員一覧

平成 25 年度クラブ技術指導員依頼者名一覧

	コ ー チ 氏 名	ク ラ ブ 名	住 所	電 話 番 号	備 考
1	■■■■■■■	陸上競技部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	卒業生(H10 年度) 11 年
2	■■■■■■■	女子ホッケー部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	本校元教員 3 年
3	■■■■■■■	ホッケー部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	卒業生(H20 年度) 1 年
4	■■■■■■■	バレーボール部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	卒業生(H10 年度) 3 年
5	■■■■■■■	女子バレーボール部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	卒業生(H20 年度) 2 年
6	■■■■■■■	バスケットボール部 女子バスケットボール部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	1 年
7	■■■■■■■	空手道部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	卒業生(H14 年度) 8 年
8	■■■■■■■	華道部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	15 年
9	■■■■■■■	茶道部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	7 年
10	■■■■■■■	囲碁部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	8 年
11	■■■■■■■	ソフトテニス部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	(新規)
12	※嶋野慶次	テニス部 女子テニス部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	
13	※清水牧夫	テニス部 女子テニス部	■■■■■■■■■■■■■	■■■■■■■	

① ※は本校職員で謝金はなし。

② 指導期間は、平成 9 年度から平成 24 年度間のものである。

(出典 学生課資料)

学友会予算による課外活動の運営

平成23年度学友会費収支決算報告

収入額計 14,259,309 円
 支払額計 11,850,264 円
 差引残額 2,409,045 円

収入の部

摘要	予算額	収入額	増減額	備考
繰越額	3,330,558	3,330,558	0	
入会金	209,000	216,000	7,000	216名×1,000円
会費	10,430,000	10,300,000	-130,000	1,030名×10000円
雑収入	0	412,751	412,751	利息1,061円、コピー機売上411,690
計	13,969,558	14,259,309	289,751	

支出の部

摘要	予算額	支払額	残額	備考
中央委員会 計	11,152,158	9,032,864	2,119,294	
中央委員会	150,000	66,209	83,791	
学友会館運営費	500,000	388,472	111,528	
交流会費	400,000	277,000	123,000	関東信越地区高専学生交流会旅費
大会遠征費	3,500,000	3,412,241	87,759	各種大会旅費、保険料
祇園祭	4,500,000	3,858,780	641,220	
体育祭	150,000	111,465	38,535	
コピー機	200,000	407,563	-207,563	コピー機売上411,690
球技大会	30,000	30,000	0	
文化発表会	400,000	93,713	306,287	
高文連加盟費	94,760	97,040	-2,280	学校規模負担金、部負担金
石灰代	100,000	84,210	15,790	ライン用
プール維持費	110,000	162,180	-52,180	次亜塩素酸ソーダ
予備費	1,017,398	43,991	973,407	入会金・会費振込手数料、退職教員花束代他
部活動費 部活動費	2,817,400	2,817,400	0	未清算金37,484円(6団体分) 24年度に繰入
計	13,969,558	11,850,264	2,119,294	

(部活動費詳細)

摘要	部活動名	予算額	決算額	差額	
体育系	野球部	181,100	199,400	-18,300	連盟加盟費等
	バスケットボール部	72,700	101,908	-29,208	登録費、大会参加費等
	ハレーホール部	234,400	234,898	-498	登録費、大会参加費等
	卓球部	52,900	52,800	100	登録費、大会参加費等、差額未清算につき24年度に繰入
	ソフトテニス部	199,300	233,158	-33,858	登録費、大会参加費等
	サッカー部	151,300	228,295	-76,995	登録費、大会参加費等
	柔道部	80,200	80,397	-197	登録費、大会参加費等
	陸上競技部	265,900	345,717	-79,817	登録費、大会参加費等
	空手部	26,400	117,830	-91,430	登録費、大会参加費等
	水泳部	69,800	71,300	-1,500	登録費、大会参加費等
	ハトミントン部	219,800	229,259	-9,459	登録費、大会参加費等
	ホッケー部	235,900	237,110	-1,210	登録費、大会参加費等
	ラケット部	101,200	99,368	1,832	登録費、大会参加費等、差額未清算につき24年度に繰入
	テニス部	194,100	194,160	-60	登録費、大会参加費等
	ゴルフ部	64,000	71,650	-7,650	大会参加費等
	剣道部	32,600	24,717	7,883	大会参加費等、差額未清算につき24年度に繰入
	女子ハレーホール部	60,500	60,652	-152	登録費、大会参加費等
	女子ホッケー部	94,500	97,570	-3,070	登録費、大会参加費等
	女子バスケットボール部	76,900	77,478	-578	登録費、大会参加費等
	女子テニス部	85,900	85,900	0	登録費、大会参加費等
文化系	電気部	27,200	29,160	-1,960	電波使用料、登録料
	写真部	8,500	8,735	-235	フィルム代等
	自動車部	109,600	112,448	-2,848	大会参加費等
	吹奏楽部	66,000	68,090	-2,090	定期演奏会費等
	合唱部	0	0	0	
	華道部	33,000	21,210	11,790	花代、差額未清算につき24年度に繰入
	茶道部	31,000	30,121	879	差額未清算につき24年度に繰入
	演劇部	34,700	19,700	15,000	登録費、大会参加費等、差額未清算につき24年度に繰入
	囲碁部	8,000	10,258	-2,258	
	軽音楽部	0	0	0	
美術部	0	0	0		

以上内容に相違ないことを確認しました

監査委員長

(出典 学生課資料)

資料 7 - 1 - ⑤ - 6

後援会による課外活動の援助

平成 24 年 5 月 25 日

教 員 各 位

後 援 会

後援会クラブ活動助成費関係等の支出基準について（通知）

このことについて、学生保護者より後援会会費（入会金15,000円 年会費18,000円）を原資として従来より下記のとおり各方面にわたり補助等をしておりますので、お知らせいたします。

記

	項 目	備	考	
ク ラ ブ 活 動 助 成 費	クラブ指導費	1部・1同好会の指導に対して部同好会当たり 5,000円	後援会職員（学生課）に請求	
	クラブ物品援助費	体育系 20,000円 文化系 15,000円 同好会 10,000円	希望物品一覧を学生課学生係へ提出	
	課外活動指導費	休日に3時間以上の部活動の指導を行った場合 1回につき 2,400円	部活動指導業務実施報告書を学生課 学生係へ速やかに提出	
	合宿指導費	1泊の勤務につき 3,000円		
	クラブ引率旅費	交通費 実費 宿泊料 実費	活動計画に合致しているものに限る ただし、予算の範囲で調整あり	
	地区大会遠征費等顧問 学生	交通費 実費 宿泊料 実費		
		負担割合	交通費・宿泊料及び弁当代の総額を後援会、学友会、学生で各1/3 乗車券は参加人数により団券・学割適用	
	全国体育大会遠征費	同 上		
	英語弁論大会旅費	同 上		
	文化発表会旅費	同 上		
その他の旅費等	交通費 実費 宿泊料 実費 その他 実費 (ホッケー部東日本大会、棋 道部全国将棋大会、自動車部エコラン大会等)			
厚 生 補 導 関 係 等	学生指導費	主事(3名) 主事補 (9名) 金額 10,000円 専攻科長・副専攻科長 金額 10,000円	各主事、専攻科長が代表して学生課 後援会職員へ請求	
	担任経費	学級担任経費	1クラス 10,000円	学年主任が代表して学年分を一括 して学生課の後援会職員へ請求
		学年共通経費	各学年 20,000円	領収書を後援会職員（学生課）へ
	新入生歓迎会		各学科 10,000円	学生課学生係へ領収書を提出
	卒業生追出会		各学科 10,000円	学生課学生係へ領収書を提出
	弔慰金	学生の父母（生計を同一にしている者）が死亡 した場合 金額 10,000円		担任教員は、学生課学生係へ連絡
	表彰関係	表彰規程に定める表彰該当者に表彰状及び記 念品		各種大会等で上位入賞の場合は学 生課学生係へ連絡（推薦書提出）
	卒業生との就職懇談会		各学科 20,000円	領収書を学生課学生係へ提出
	就職依頼旅費	就職開拓旅費	各学科 30,000円	
	卒業研究資料代	卒業研究資料代	各教員 10,000円	領収書を後援会職員（学生課）へ
専攻科等研究補助	論文発表1回につき10,000円上限（交通費実費）1人年2回限度 5年生も可		後援会職員へ請求（専攻主任から）	
専攻科ティーチングアシスタント	1人週4時間、年48時間上限		後援会職員へ請求（専攻科長から）	

(出典 木更津工業高等専門学校後援会資料)

資料 7-1-⑤-7 (1)

合宿研修施設の案内

4-2 学友会館内合宿研修施設（以下、合宿研修施設）

合宿研修施設は、本校の学生が規律ある共同生活をとおして人間形成の向上を図ることを目的として設置されました。

利用は、指導教員の監督・指導のもと**クラブ**（同好会含む）・**クラス**・**学生有志**で利用でき、原則として利用期間は、**4泊5日以内**、人数は**80名以内**です。

○**利用日（期間）**については、下記期間は原則として利用できません。

- ① 試験期間中及び試験開始 1 週間前
- ② 年末・年始（12 月 28 日～1 月 3 日）
- ③ 入学試験当日及び前日

なお、長期休業期間中（夏季・春季）は、学生委員会により**合宿研修施設の利用調整**を行いますので、掲示に留意してください。

○**利用手続き**については、次の手順に従ってください。

- ① 学生課学生係窓口で、合宿研修施設の利用状況を確認してください。
- ② **利用 5 日前**までに、**合宿願・参加者名簿・日課表**を指導教員等自署の上、学生課学生係に提出してください。

※指導教員の宿泊が伴わない場合は許可されません。

- ③ 寝具及び食事（1 回の食事数によっては、対応出来ないこともあります）の申込みは、所定の用紙に記入して、合宿願と一緒に提出してください。寝具のレンタル料金は次のとおりです。

使用料金の目安

	1 日	2 日	3 日	4 日	備 考
敷布団 1 枚 掛布団 1 枚 シーツ 1 枚 枕 1 ヶ	600 円 (1 組当たり の料金)	800 円 (1 組当たり の料金)	900 円 (1 組当たり の料金)	1,000 円 (1 組当たり の料金)	料金は消費税込み、 手数料無し。 毛布 1 枚追加の場合 1 日目は 100 円 以後 1 日延長される 毎に 50 円増。

- ④ 合宿研修施設の鍵は、合宿当日、学生課学生係において指導教員に合宿日誌とともに渡します。なお、**食器等の貸与**を受けたいクラブ等は 3 日前までに申し出てください。

※合宿期間中、クラブ等の指導教員は、必ず宿泊し監督・指導を行ってください。

- ⑤ 合宿終了後、整理清掃の上、指導教員による点検を受けてください。

○**合宿研修施設を利用する場合**、次に掲げる事項を遵守してください。

- ① 火気の取扱い、保健衛生には、充分注意してください。

資料7-1-⑤-7 (2)

- ② 施設・設備の取扱いは、充分注意し、利用期間中は整理・整頓・清掃を行い施設の保全につとめてください。
 - ③ 他より暖房器具及び電気器具を持ちこまないでください。
 - ④ 盗難には十分注意し、合宿研修施設を離れる場合は、必ず施錠してください。
- ※合宿終了後、指導教員は、鍵を返却し**合宿日誌**及び**部活動指導業務実施報告書**を学生課学生係に提出し点検を受けてください。
- ⑤ 学友会館は土足禁止です。入口は8時から20時まで解放されます。
 - ⑥ **非常口は2階洗面所**にあります。非常時以外は使用できません。
- 合宿研修施設の備品**は以下の通りです。
- ① フリースペース：TV，ホワイトボード
 - ② 湯沸室：IHクッキングヒータ，電子レンジ，IH器具（フライパン，鍋，やかん），食器棚，冷蔵庫，給湯器，食器類
 - ③ シャワー室：洗濯機2台，乾燥機1台（2階ルーフテラスに物干し台2セット）
 - ④ 研修室4：TV，電話（内線のみ）

（出典 平成25年度学生便覧 82～83頁）

(分析結果とその根拠理由)

学生主事の指導の下，学友会の活動機関として部，同好会が置かれ，全教員がクラブ指導教員として活動を支援している。また，技術向上のためのクラブ技術指導員を招聘できる体制が整えられている。経費面では，後援会から支援を受ける体制が整備されている。施設面では，合宿研修施設を整備し活動を支援している。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

生活面では、学級担任が学科主任等と綿密な連携をとりながら協力して学生指導に当たっている(資料7-1-③-3)ほか、学生委員会を中心に学生の生活に係わる指導を行っている(資料7-2-①-1)。また、学生相談室を設け、カウンセラーを中心に学生の個人的な悩みに対する相談や助言を行っている(資料7-2-①-2~3)。キャンパス・ハラスメントに関する学生の相談窓口として相談員を配置し、いつでも相談できる体制を整えている(資料7-2-①-4)。更に、再雇用教員を活用した「なんでも相談室」を開設し、気軽に相談できる場として学生に提供している(資料7-2-①-5)。

経済面では、授業料免除や奨学金制度の活用等の支援を行っている。授業料免除については、経済的理由により授業料の納入が困難で、かつ学業成績優秀と認められる学生に対して授業料の全額又は半額を免除している(資料7-2-①-6)。奨学金については、日本学生支援機構の奨学金制度を案内するとともに、その他の奨学金制度についても学校推薦等をしている(資料7-2-①-7)。平成24年4月1日現在、資料7-2-①-8に示す数の学生が日本学生支援機構からの奨学金を受給している。

資料 7 - 2 - ① - 1

木更津工業高等専門学校学生委員会規則

平成 13 年 4 月 1 日

規 則 第 5 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 28 条第 3 項の規定に基づき、学生委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 学生の生活指導に関すること。
- (2) 学生の課外活動に関すること。
- (3) 学校行事（教務委員会が所掌する事項を除く。）に関すること。
- (4) 学生の保健管理に関すること。
- (5) 学生の福利厚生に関すること。
- (6) 授業料及び奨学金に関すること。
- (7) その他学生に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学生主事
 - (2) 学生相談室長
 - (3) 学生主事補
 - (4) 学科・学系（以下「学科等」という。）から選出された教員各 1 名（ただし、学生主事補を選出された学科等は除くものとする。）
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第 1 項第 4 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、学生主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させその意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 13 年 4 月 1 日規則第 5 号)

学生相談室の利用案内

3-5 学生相談室の利用

人は皆それぞれに、さまざまな問題を抱えて生きています。まして、多感な青春時代はなおさらです。勉学や友人関係、クラブ活動、兄弟や親子関係、健康や性の悩み等々、私達の悩みや不安、心配の種はいつも尽きることはありません。人は青春時代に、さまざまな難関に遭遇し、もがき苦しむ、それを乗り越えて、内面的な成長を遂げてゆきます。

しかし、どんなに努力してみても、自分一人の力では容易に解決しないばかりか、ますます混乱が深まり、ついには立ち上がれないほどに疲れ切ってしまうこともあります。

学生相談室は、青春時代のさまざまな疑問や問題を学生と共に考え、学生が心身共に健康で充実した学生生活を送れるよう、手助けをさせてもらうところです。自分一人ではどうすることも出来ないと思うような時、ほんの少し、勇気を出して学生相談室に足を向けてみませんか。プライバシーは一切、堅く守ります。どうか、学生相談室の存在を心のどこかに留めておいてください。

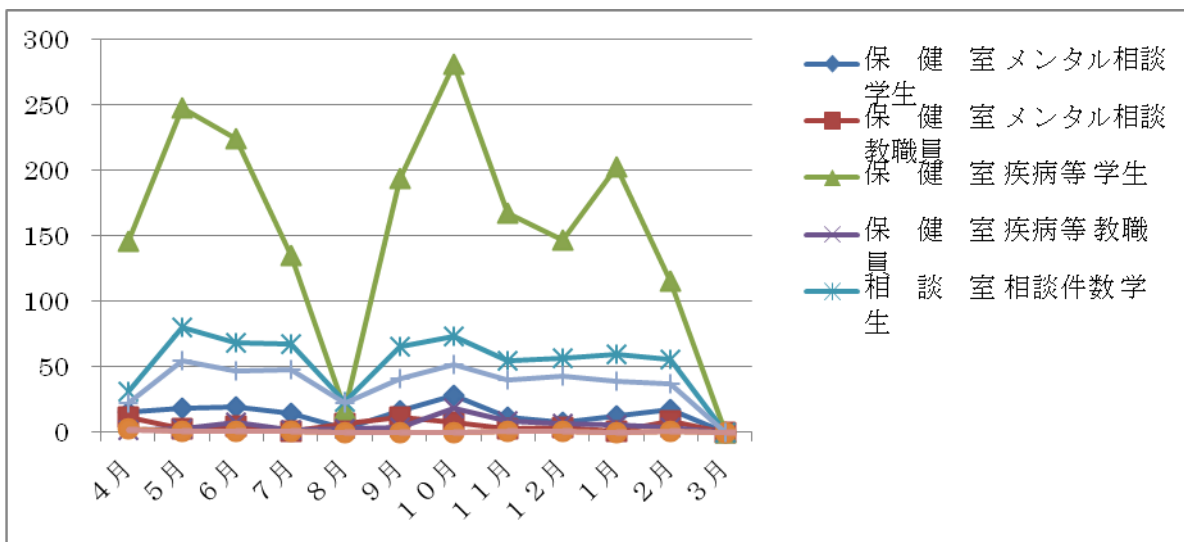
担当者	相談場所	相談日
愛 甲 修 子 (カウンセラー)	学生相談室 (一般研究棟1階)	毎週火曜日 (10:00～12:00) (13:00～17:00) 毎週木曜日 (13:00～17:00) 毎週金曜日 (13:00～18:00)
大 澤 寛 (学生相談室長)	大 澤 教 員 室	随 時
田 村 真 弓 (看護師)	保 健 室	

(出典 平成25年度学生便覧 76頁)

平成24年度学生相談室の利用状況

学生相談室利用状況(平成24年度)

	保健室				相談室			
	メンタル相談		疾病等		相談件数		相談人数	
	学生	教職員	学生	教職員	学生	教職員	学生	教職員
4月	15	11	146	2	31	3	22	2
5月	18	3	248	3	80	1	55	1
6月	19	5	224	8	68	1	47	1
7月	14	1	135	2	67	1	48	1
8月	3	7	17	3	23	0	22	0
9月	16	11	194	4	65	0	41	0
10月	28	8	281	18	73	0	52	0
11月	11	3	167	9	55	1	40	1
12月	8	4	147	7	57	1	43	1
1月	12	1	203	6	60	0	39	0
2月	17	9	115	4	56	1	37	1
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	124	49	1,412	49	462	7	327	6



(出典 学生相談室資料)

資料7-2-①-4 (1)

キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談の案内

3-6 キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談について

キャンパス・ハラスメントとは、相手側の意に反する不適切な発言、行為等をおこなうことによって、相手側に不快感や不利益を与え、人権を侵害し、教育研究・学修環境を悪化させることをいいます。本人の意図に関わらず、相手側が不快に思ったり、不利益を受けたと感じた場合、それはキャンパス・ハラスメントとみなされます。キャンパス・ハラスメントは、人権侵害です。キャンパス・ハラスメントには、以下のハラスメントがあります。

○セクシュアル・ハラスメント

性的な言動によって相手に不利益を与えたり、性的要求や性的な言動を繰り返すことによって相手方に不快感を与え、就学や教育・研究・課外活動の環境を悪化させることを指します。

セクシュアル・ハラスメントになりうる言動は？

- ① 性的な発言や性的行動（例えば、聞くに耐えない卑猥な冗談を交わす。雑誌等の卑猥な写真・記事等を部屋、研究室等に貼る。食事やデートにしつこく誘う。等）
- ② 性別による差別（例えば、「男のくせに根性がない」、「女には任せられない」などと発言する。性別により仕事や教育の内容、評価、指導等に差をつける。等）

○アカデミック・ハラスメント

教育・研究上の場面において発生する問題で、指導を受ける者の修学・研究の権利を侵害したり、人格的尊厳を傷つけたりする不適切な言動や行為を指します。

○モラル・ハラスメント

言葉や態度などいわゆる「みえない暴力」によって支配下に置いたり、精神的に追いつめたりする行為を指します。

それぞれのハラスメントは、定義や区分は厳格でなく、実際には原因を区分することが不可能だったり、2つ以上のハラスメントが原因になることもあります。

ハラスメントの被害を深刻にしないために

- ① 嫌なことは相手に対しはっきりと拒否の意思を伝えることが望まれます。
- ② 信頼できる人に相談してみましょう。

本校からハラスメントに関する問題の被害者や加害者を出さないためには、周囲に対する気配りをし、友人又は同僚として注意するなど必要な行動をとるようにしましょう。

本校では、キャンパス・ハラスメントに関する学生の苦情の申し出や相談のために、次のリストに示す相談員を配置しています。相談等は本人だけではなく、友人でも可能です。所属学科に関わらず、どの相談員でも受け付けています。

資料7-2-①-5

再雇用教員を活用した「なんでも相談室」の開設

平成25年4月18日
教員会議資料3

再雇用教員における学校全体業務（学生相談）について

再雇用教員の全体業務のうち、学生相談業務については、下記の趣旨により、業務を行う。

記

趣 旨： 現在、学生には悩み等について、学生相談室を利用するように周知している。しかしながら、学生にとっては学生相談室を利用するほどではないが、ちょっとした話を聞いてくれるような気軽な場所が必要と考える。そこで、再雇用教員を配置し、どんな疑問にも気軽に話ができる場を開設する。

何でも相談担当教員及び相談時間：

- (1) 人文学系 平安隆雄 嘱託教授 木曜日 3～4時限
- (2) 電子制御工学科 橘川五郎 嘱託教授 火曜日 7～8時限
- (3) 情報工学科 東 雄二 嘱託教授 水曜日 7～8時限
- (4) 環境都市工学科 大木正喜 嘱託教授 金曜日 1～2時限

実施場所： 図書・情報メディア棟 3階図書館 グループ学習室「なんでも相談室」

業務内容： 「気軽に何でも相談」

1. グループ学習室に相談時間のおり常駐し、学生が訪問した場合に対応を行う。
2. 気軽に相談できるような形態をとる。コミュニティルームのような空間とし、学生が気軽に訪れる場所とする。
3. 何でも相談として、できる限りの対応を行う。
4. 相談内容について、必要に応じカウンセラー及び学生相談室長に引き継ぎを行う。
5. 学生相談室の要請により、学習支援等を行うことがある。
(レポート等の指導)

周知方法： 学生委員会だよりに掲載、HRでの連絡も行う。

(出典 教員会議資料)

資料7-2-①-6

授業料免除の案内

3-1 授業料の免除等

経済的理由により、授業料の納付が困難であり、かつ学業成績優秀と認められる場合は、願い出（**授業料免除願**）に基づき選考のうえ、その期に納付すべき授業料の全額あるいは、半額が免除されます。

授業料免除を希望する4・5学年及び専攻科学生は、2月及び9月に申請方法を掲示しますので期日までに「**授業料免除願**」を学生課学生係に提出してください。

また、授業料納付期限までに授業料の納付が困難な場合は、「**授業料徴収猶予願**」、特別な事情がある場合には、「**授業料月割分納願**」がありますので、学生課学生係へ申し出てください。

（出典 平成25年度学生便覧73頁）

資料7-2-①-7 (1)

奨学金制度の案内

3-3 奨学金制度

日本学生支援機構

学業・人物ともに優秀で、かつ健康であり、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる者に対し、学資を貸与します。

① 奨学生の種類と貸与の月額

第一種奨学金（無利子）

（平成22年4月現在）

種 類	貸 与 月 額（いずれかの金額を選択）			
	1～3年	4～5年	専攻科1年	専攻科2年
自 宅 通 学	10,000円	30,000円	30,000円	30,000円
	21,000円	45,000円	45,000円	45,000円
自 宅 外 通 学	10,000円	30,000円	30,000円	30,000円
	22,500円	51,000円	51,000円	51,000円

その他に**第二種奨学金（有利子）**があります。

② 出願の手続

奨学生の募集は、**4月**に行います。出願時期・要領等については、掲示等により通知します。また、家計が急変し、修学が困難になった場合は、定期外で**緊急採用**の制度もありますので、学生課学生係に相談してください。

③ 採否の決定

提出された願書により審査選考し、日本学生支援機構に推薦します。採用の可否は日本学生支援機構が決定し、校長を経て本人に通知します。

資料 7-2-①-7 (2)

④ 奨学金の交付

奨学金は、申込者が指定した本人名義の金融機関口座へ原則として 1 ヶ月分ずつ振込まれます。休学・退学・転居等により異動が生じた場合は、速やかに学生課学生係に連絡してください。

⑤ 奨学金継続願の提出

奨学金継続願手続きに関する説明書を配布（12 月）しますので、インターネットにより手続きをしてください。（掲示により通知）

この手続きをしないと、奨学金が継続されませんので注意してください。

⑥ 奨学金の返還

奨学金は、貸与です。卒業後 6 ヶ月後から月賦等の方法により必ず返還しなければなりません。この返還された奨学金が、後輩の奨学金として貸与されるので規則を守り、確実に返還する義務があります。

その他の奨学金制度

地方公共団体・民間団体の育英事業等の奨学金制度がありますが、いずれもその団体所在地の出身学生に限る場合が多く、出願採用時期もまちまちで本人が直接手続きをすることが多いです。なお、学校推薦を必要とする場合や、採用になった時は、学生課学生係へ申し出てください。

（出典 平成 25 年度学生便覧 73～74 頁）

資料 7-2-①-8

日本学生支援機構奨学金の受給者数

■ 奨学生数 Number of Scholarship Students

（平成24年4月1日現在）
As of April 2012

奨学生の種類 及び貸与月額 Monthly loan	日本学生支援機構(第一種) Japan Scholarship Students			日本学生支援機構(第二種) Japan Scholarship Students		合計 Total
	自宅通学 Externs	自宅外通学 Others	自宅・自宅外共通	30,000円	50,000円 80,000円 100,000円 120,000円	
学年 Year	21,000円(1～3年) 45,000円(4～5年) 45,000円(専攻科)	22,500円(1～3年) 51,000円(4～5年) 51,000円(専攻科)	10,000円(1～3年) 30,000円(4～5年)			
第1学年・1st	4	3	0	0		7
第2学年・2nd	5	4	2	0		11
第3学年・3rd	4	7	1	0		12
第4学年・4th	6	7	2	2		17
第5学年・5th	9	7	1	1		18
専攻科1年 Advanced Engineering Courses 1st	3	2	0	1		6
専攻科2年 Advanced Engineering Courses 2st	1	1	0	0		2
合計 Total	32	31	6	4		73

（出典 学校要覧 2012 34 頁）

(分析結果とその根拠理由)

学級担任や学生委員会，学生相談室を生活面の指導の中心として位置づけ，連携を取り合いながら指導・相談・助言が適切に行われている。経済面においても授業料免除や奨学金の案内が適切に行われている。

観点7-2-②： 特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点に係る状況)

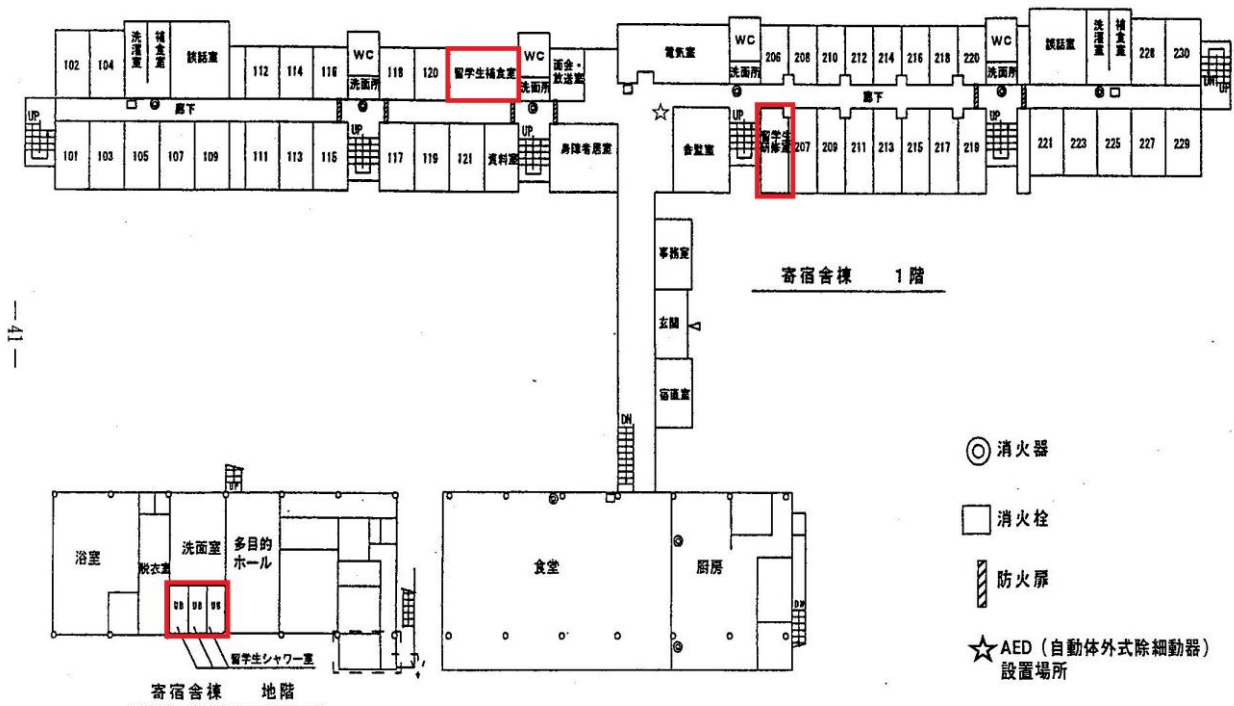
留学生の生活支援については、資料7-1-④-1～4に示したように、留学生指導教員及びチューターを配置して生活の支援を行っている。また、留学生は原則として学寮に居住しているが、男子寮と女子寮それぞれに留学生補食室と留学生シャワー室を用意している。また、留学生同士の交流を深めるため、男子寮に留学生研修室を設けている(資料7-2-②-1)。

障がいのある学生の生活支援については、重度の障がいを持つ学生が在籍する場合は資料7-1-④-6に示したように、サポートチームを設置して生活支援を行う体制を整えている。施設面では、全ての建物の入り口にスロープを設置してバリアフリー化するとともに、エレベーターや障がい者用のトイレを設置し、生活支援をしている(資料7-2-②-2)。また、男子寮1階には身体障がい者用の風呂とトイレを完備した身障者居室を用意している(資料7-2-②-3)。

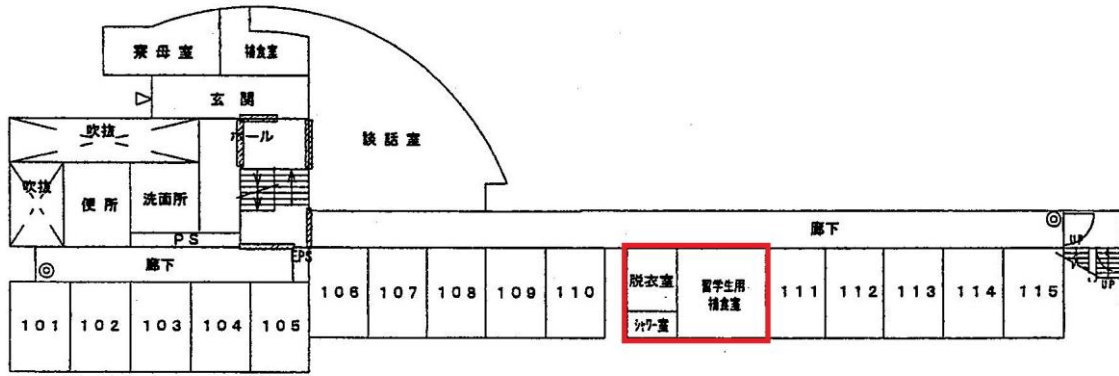
発達障がいの学生に対しては、本校カウンセラーによるソーシャルスキルトレーニングを行っている(資料7-2-②-4)。

資料 7-2-②-1

学寮内の留学生補食室, シャワー室, 研修室の配置



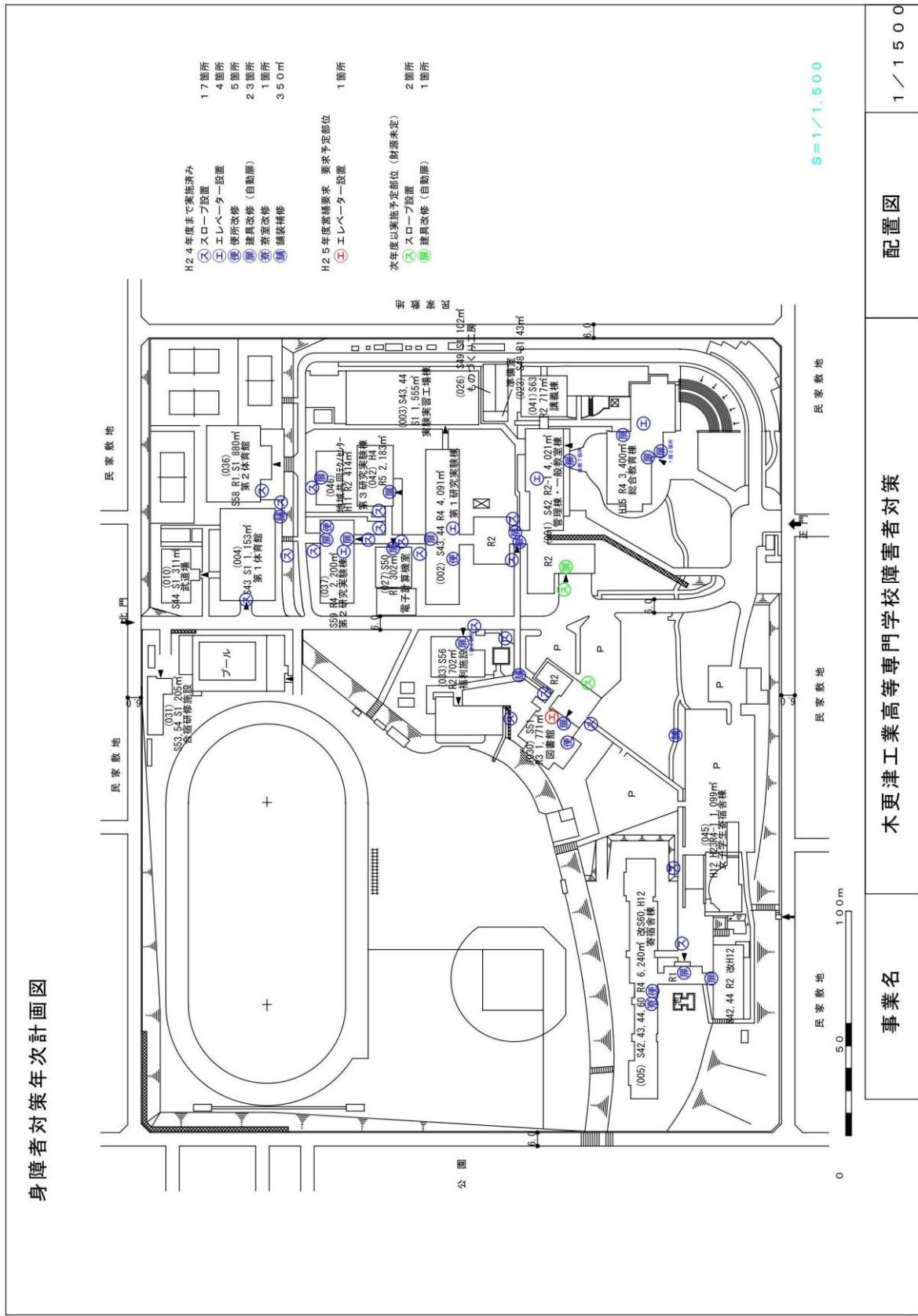
男子寮平面図



女子寮平面図

(出典 平成 25 年度寮生便覧 41~42 頁)

身障者対策年次計画図



(出典 総務課資料)

資料7-2-②-3

学寮身障者居室の設備（写真）



身障者居室内の風呂



身障者居室内のトイレ

（出典 学寮内身障者居室の写真）

発達障がい学生のためのソーシャルスキルトレーニング

2011年度 木更津工業高等専門学校発達障害学生への支援

ソーシャルスキルトレーニング Social Skill Training :SST

<目的>発達障害のある学生の社会生活能力を向上させ、コミュニケーションの力を育むことで、卒業後の自立生活を可能にする

<方法>認知行動療法のひとつである SST プログラムを活用しながら、ボトムアップ、ロールプレイ、ホームワーク、フィードバックなど日常生活に直結する形で行う。

① 自己選択・自己決定能力育成のために、「食」を中心にした活動を行う。

A; 皆の前で話をする

B; 活動計画づくり

C; 役割決め

D; メニュー決め

E; 買い物

F; クッキング活動

G; 会食

H; 後かたづけ

I; 反省会

② S.S.T カードを使って、ロールプレイングを行い、ソーシャルスキルを身につける（ボトムアップ、ロールプレイ）

③ 家庭で家族のためにお料理をする（ホームワーク、フィードバック）

<対象者>木更津高専在籍中の発達障害のある学生

<期間> 2011年8月～2012年2月までの計30時間

第1回 8月4日（木）午前10時～午後3時

第2回 8月11日（木）午前10時～午後2時

第3回 8月18日（木） "

第4回 8月25日（木） "

第5回 9月1日（木） "

第6回 12月29日（木） "

第7回 1月5日（木）午前10時～午後3時

<場所> 木更津高専相談室、教室

（出典 学生相談室資料）

(分析結果とその根拠理由)

留学生には指導教員及びチューターが配置され、また学寮において留学生補食室、留学生シャワー室、留学生研修室が整備され生活支援が行われている。重度の障がいがある学生にはサポートチームを設置して生活支援が行われるとともにバリアフリー化も進められている。発達障がいの学生に対してはソーシャルスキルトレーニングにより生活支援が行われている。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

本校の課外教育施設として学寮を設けている。学寮には男子寮「雄峰寮」と女子寮「なのはな寮」があり、平成25年4月現在、雄峰寮は315名の定員に対して283名、なのはな寮は60名の定員に対して53名が在寮している。寮生は、学寮共通日課に従い、規則正しい共同生活を送れるよう努めている(資料7-2-③-1)。

管理運営については、寮務主事を責任者として寮務委員会を中心に全教員が指導に当たり、寮友会と連携して運営を行っている(資料7-2-③-2)。寮友会は寮生相互の親睦を深めるとともに寮生の自主的な活動を通じて、充実した寮生活を送ることを目的とした寮生組織である(資料7-2-③-3)。また、本校独自の「群制度」を導入し、各群の群長をリーダーとして生活規範を定め、共同生活を送っている(資料7-2-③-4)。毎週火曜日には群長会を開催し、寮務主事、主事補と寮役員の間で寮生活の状況確認や意見交換を行っている(資料7-2-③-5)。更に、円滑な学寮運営を目指して年2回学寮リーダー研修会を開催している(資料7-2-③-6)。中間試験や定期試験前には寮友会主催の勉強会を開催し寮生の学力向上に努めている(資料7-2-③-7)。寮生の違反行為等については、寮務主事、主事補と寮役員がポイント制に基づいて検討して指導に当たっている(資料7-2-③-8)。また、授業の欠課が多い学生については、定期的に指導を行っている(資料7-2-③-9)。

雄峰寮、なのはな寮ともに充実した共同生活を送れるよう談話室やサービスエリア(補食コーナー、洗濯コーナー)等の共用の施設・設備を整備している(資料7-2-③-10)

学寮の共通日課

4. 学寮共通日課

寮で快適に過ごすためには、多数の寮生とともに共同して、規律ある生活を正しく守ることから始まります。

寮生全員が共通して守るべき日課を「生活日課の励行事項」として次のとおり定めていますので、時間を厳守し、励行に努めてください。

生活日課	雄峰寮(男子寮)		なのはな寮(女子寮)	
	登校日	休業日	登校日	休業日
起床	7:20		7:20	
点呼	7:30		7:30	
朝食	7:30～8:30	8:00～9:00	7:30～8:30	8:00～9:00
登校	8:40		8:40	
昼食	12:00～12:55	12:00～12:55	12:00～12:55	12:00～12:55
入浴	17:00～21:00	17:00～21:00	17:00～21:00	17:00～21:00
夕食	18:00～19:30	17:30～19:00	18:00～19:30	17:30～19:00
学習時間	20:00～21:30		20:00～21:30	
門限	22:00	22:00	21:30	21:30
点呼	22:00	22:00	21:30	21:30
玄関施錠	22:00～7:00	22:00～7:00	21:30～7:00	21:30～7:00
消灯	0:00 (2:00電源切)	0:00 (自主消灯)	0:00 (自主消灯)	0:00 (自主消灯)

※ コイン式シャワー室利用時間は別途定める。

1) 起床・点呼

(1) 平日の起床時間は7時20分です。早起きを励行し、居室の清掃など軽く体を動かしてその日の健康状態をチェックする習慣を身に付けてください。

また、必ず朝(7時30分)の点呼を受け、相互の健康状態を確認してください。

(2) 学習などで定刻前に起床した者は、同室者や他の迷惑にならないように注意してください。

2) 朝食

平日の朝食時間は、7時30分から8時30分(土・日・祝日は、8時から9時)までです。朝食は1日の生活のエネルギー源となるものです。規則正しい生活のリズムを作り、不規則な間食・夜食をやめ、必ず朝食を摂る習慣をつけてください。

(出典 平成 25 年度寮生便覧 8 頁)

学寮の運営組織

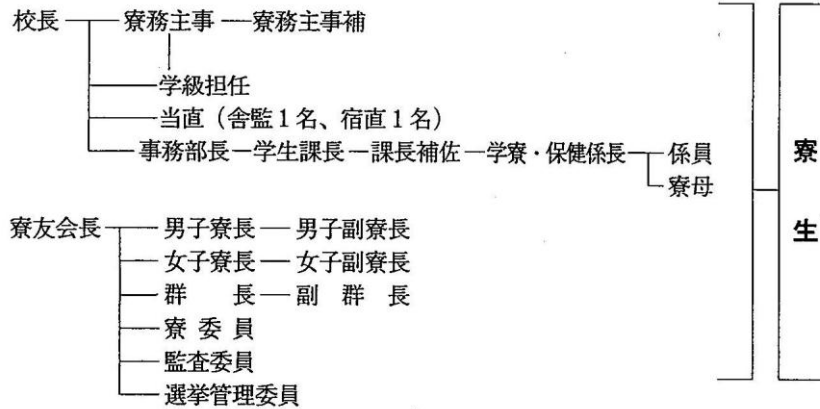
3) 組織

学寮は下図の組織によって運営されています。寮生の指導については全教員が、また施設設備の維持管理、寮費等については学生課学寮・保健係が担当します。

寮友会は、学寮規程第15条に基づき、学寮における日常生活上の具体的な問題を共同で処理し、自主的にこれを規律します。

〔 運 営 組 織 図 〕

寮務委員会（寮務主事1名、寮務主事補3名、各学科学系の教員）



(出典 平成25年度寮生便覧 2頁)

寮友会について

12. 寮友会について

1) 寮友会活動

学寮には男女寮生全員で構成する「寮友会」という組織があります。

男子寮・女子寮はそれぞれ独立して選出された役員により運営されますが、学寮全体の運営に関与するときには上部組織の寮友会がその運営に当たります。

寮友会規約（後に掲載）に基づく目的、活動等の概要は次のとおりです。

(1) 寮友会の目的

学寮規程（後に掲載）の趣旨に則り、学校の指導と助言のもとに寮生相互の親睦を深めるとともに、寮生の自主的な活動を通じて、日常生活上の具体的問題を共同で処理し、充実した学寮生活を送れるようにすることを目的としています。

(2) 主な寮友会の行事・活動

4月「新入生歓迎会」・「寮生総会」、10月「リーダー研修会」・「寮祭」、12月「クリスマスパーティー」、1月「餅つき大会」、2月「リーダー研修会」などがあります。また、清掃分担の割り振り、全寮集会の開催も行います。

(3) 「寮友会」会費

寮友会の諸活動・行事の実施経費として、寮友会費（月額500円）が徴収され、毎年度始めに予算、収支決算報告と監査報告がなされます。

2) 群生活

(1) 「群長」について

男子寮では、運営方法として、昭和60年度から「群」制度が設けられました。また、平成12年度にできた女子寮も同様の制度で運営され、現在は、男子寮8群、女子寮1群の計9群体制となっています。

群のリーダーとなる寮生を群長といい、選挙により選出された9名が学校長の委嘱を受け、その任に当たります。各群長は、リーダーとして指導力を発揮し、最善と考える共同生活の実現に努力しています。

毎週火曜日に群長会が開かれ、寮友会長をはじめとする役員・群長により、学生課学寮・保健係や舎監からの注意事項の伝達や生活上の問題点を話し合います。

引き続き各群毎に定例群集会（群点）が開かれます。

定例群集会は、男子寮では各群の談話室に群員全員が、女子寮では女子寮談話室に全員が集合し、それぞれ群長の指導を受けます。

(2) 運営の流れ

寮の運営については、次のようなところで議論されています。

①寮生総会

寮運営に必要な重要事項を審議する最高議決機関。寮生全体に特に周知すべき事項などの伝達及び指導。

②群長会（毎週火曜日開催）

行事の具体的な実施計画、週毎の清掃報告、各種当番の割り振り、学生課学寮・保健係、舎監からの注意事項の伝達、規則違反者の指導。

③定例群集会（群点）

群員への群長会報告、群員の意見の吸い上げ、群長・女子寮長による群員の指導。

④各種委員会（適時開催）

編集・美化・健康衛生・防災・レクリエーション・ネットワーク管理・車輛など。

⑤春、秋リーダー研修会

年次計画、群生活規範の作成と評価、諸問題の討議。

(3) 相談窓口

- ①舎監、寮務委員、学生課学寮・保健係（個人的な寮での悩みなどの相談）
- ②留学生懇談会（留学生の諸問題について隔月で開催）
- ③寮務委員の群指導教員（各群・女子寮の指導教員として群長・女子寮長の顧問となる）
- ④意見箱（寮生活に関する相談、意見、要望等投書によるもの）

(4) 地域への貢献活動

クリーンデー（学寮周辺ならびに学校近隣の清掃）

（出典 平成25年度寮生便覧 21～22頁）

資料7-2-③-4

学寮の群制度について

2)「群制度」の内容

学寮が課外教育施設としての目的を十分に果たすため、独自の群制度を導入しています。群とは、居室・談話室及びサービスエリアをもって構成される単位であり、各群は1年生から5年生までの寮生30～40名程度で構成されます。男子寮は1階から4階までの各フロアを東西に分けて8群、女子寮は全体でひとつの群となります。各群は、群長をリーダーとして自分達で定めた「生活規範」に従い、より自由な雰囲気の中で各自が責任を持って、その最善と考える共同生活の実現に努力します。

(出典 平成25年度寮生便覧2頁)

資料7-2-③-5

メールでの群長会の報告例

寮務主事・主事補，学寮・保健係 各位

情報工学科の白木です。

2月19日（火）の群長会について報告いたします。

白木より

- ・テストは終わったが、はめをはずしすぎないように。
特に、賞罰にかかるようなことがないように注意。
- ・3月2日（土）の閉寮では12：00にはチェックを終えて全員出れるようにする。
- ・全ての荷物を持ち帰るので、週末などに帰省する場合少しずつ荷物を持ち帰った方がよい。
- ・2月23日（土）にリーダー研修会を開催する。男子、女子ともに議題をまとめ、進行の確認などのために、岩崎先生を訪ねるように指示。

須賀さんより

- ・テストから閉寮までの期間に問題が起こりやすい。寮生以外を寮に入れないように注意。
- ・5年生へ「住民票」，「郵便の配送先」「自転車の名義など」を自分で変更するように指示。
- ・閉寮時に禁制品などは必ず持ち帰ること。
- ・食堂業者はユーレストに決まった。
- ・リーダー研修会の議題を提出するように。

■■副寮長より

- ・来年度の部屋割りを各群で考えてほしい。
- ・リーダー研修会の議題をこれから詰める。

以上です。

よろしく願いいたします。

(出典 寮務委員会資料)

平成24年度学寮リーダー春季研修会実施要項

1. 目的

- (1) リーダーの自治能力の助長
- (2) 望ましい共同生活の探求
- (3) 学寮のモラル向上
- (4) 寮役員と寮務委員教員の親睦と融和

2. 日時

平成25年2月23日(土) 9:30~15:30

3. 会場

木更津高専 会議室A・会議室B

4. 参加者(予定)

寮役員：男子(寮友会長, 寮長, 副寮長, 群長, 副群長, 委員長, 副委員長)

女子(寮長, 副寮長, 群長, 副群長, 副委員長) 計47名

教職員：寮務主事, 平成24・25年度寮務主事補, 平成24・25年度寮務委員, 学寮・保健係

計16名

5. 研修項目

第一部

- (1) 自己紹介
- (2) 学寮運営方針(寮務主事)
安全で円滑な寮運営について
- (3) 平成25年度年間行事予定の提示(寮務主事補：白木)

第二部

- (1) 各群の生活規範の作成(群別討議)
各群長による生活規範の発表及び討議
- (2) 各委員会の年間活動内容作成・・・委員会名の変更について(委員会別討議)
各委員長による活動内容の発表及び討議
- (3) 男子・女子寮別討議
(男子寮：会議室A)
①清掃合宿について・・・清掃指導と姿勢指導について(新1年生への指導内容とその程度)
②挨拶について
③立会点呼の廃止(見直し)について・・・いつまで行うのか
④禁制品の見直しについて・・・冷蔵庫を認めてもらえないか
(女子寮：会議室B)
①新年度マニュアルの作成について
②新1年生の指導について
③外泊簿の受領確認について

第三部(全体討議)

- (1) ポイント制の一部修正について
寮務主事が説明し討議に入る。
- (2) 遅刻欠席対策について
- (3) エアコンの正しい使い方について
- (4) その他
①3月13日(水)の入寮説明会への寮役員参加について
②平成25年度寮友会予算編成について
③車輛許可者のSTG参加について

(出典 学生課資料)

寮友会主催「勉強会」の案内例

勉強会

1. 日時

「勉強会」 9月4日（火）～9月24（月）まで
8時～9時

「期末テスト」
9月18日（火）～9月25（火）

2. 場所

食堂

3. 内容

期末テストの寮生の学力向上を目的とし、勉強を推進する。具体的には、食堂で勉強をして、わからないところの教えあいをする。

4. 参加者

1年生は極力参加をしてもらい、上級生は担当を除き、自由参加

5. 担当群

担当の群のひとは、下記の仕事をしてください。

- ・開始の放送
- ・戸締りの確認
- ・エアコンの on/off を確認

担当日

1群	2群	3群	4群	5群	6群	7群	8群	女子
4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日
13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日
22日	23日	24日						

6. お願い

- ・消しゴムのカス、ゴミは持ち帰りましょう。
- ・勉強会中は他人に迷惑をかける行為はやめましょう。

7. 注意

成績不振者は、罰ゲームがあります。

(出典 寮友会資料)

学寮のポイント制度

5) ポイント制について

1. ポイント制

ポイント制は各違反・指導に対して「一回につき何点」とポイントを付け、その合計点で指導内容を決める方法です。

24時間学校で生活する寮生を、このポイント制ですべて指導できるわけではありませんので、基本的なことのみを例示します。したがってこのポイント制に明記されていない事柄についての指導は、その都度寮務主事、寮務主事補、寮長、群長等が話し合い決定することになります。

また、寮生は本校の学生でもありますから、ポイント制による指導が困難とされる問題、あるいは学校としての指導のほうが望ましいと思われる事項については、寮務委員会の議を経て、賞罰審査会議に諮ることになります。

なお、ポイント制もしくは賞罰審査会議等で何らかの指導もしくは処分を受けた際にはポイントは0となります。

1. 1 ポイント制のルール

ポイント加算時期は次のとおりです。

- 1) 寮規則違反・指導などが発生したとき。
- 2) 無断外泊数、欠課時数、全寮集会欠席回数を前期末及び学年末の年2回集計したとき。ただし学年末については次年度の入寮許可の際に考慮する。また公欠や病欠で、所定の記入手続きを行った数は除く。

違反項目とポイントの関係を表1に示します。

表1. 違反項目とポイント

違反項目	ポイント
通生及び部外者無断立入、宿泊補助	7
閉寮中の無断入寮	7
暴力行為	7
寮務委員の指導無視	7
他者への不当な要求	4
寮役員の指導無視	2
5%を越える欠課	2
点呼時不在	1
点呼後の外出	1
飲酒・喫煙・麻雀	各1
全寮集会の無断欠席	一回につき0.5
寮周辺不法駐車	各0.5
禁制品の持ち込み	各0.5

〈注〉同時に複数件あった場合は各ポイントを合算します。

※ その他の規律違反行為については、寮友会役員と寮務主事・主事補で協議して最終決定します。

1. 2 総ポイントと指導内容

ポイントは入寮時から累積されたポイントを総ポイント数とします。

指導は、1ポイント以上に達した時に行われます。総ポイント数と指導内容の対応を表2に示します。期間は指導日から起算して実施されます。

表2. 総ポイント数と指導内容

総ポイント	指導内容	総ポイント	指導内容
1	1週間退寮	5	6ヶ月退寮
2	2週間退寮	6	1年間退寮
3	1ヵ月退寮	7以上	無期限退寮
4	2ヵ月退寮		

(出典 平成25年度寮生便覧 18～19頁)

欠課時数の多い寮生への指導

10. 修学に関する留意事項

自己管理ができなくて、欠課時数が著しく多い者や留年・仮進級になった者、あるいは健康管理等ができない者について、以下のとおり指導することとします。

- 1) 試験ごとの一定の期間において欠課時数が10%を超える者についてヒアリングを行います。正当な理由がないと認められる場合には、次期の入寮を原則として認めません。ただし、退寮後の出席状況や授業態度が良好と認められた場合は指導を解除し、復寮を許可します。
- 2) 留年・仮進級になった者、あるいは健康管理等ができない者については、自己管理ができているかについて、本人、保護者、担任の意見を聞いた上で、寮生活が本人に向いていないと判断された場合は、次年度の入寮を認めないことがあります。

(出典 平成 25 年度寮生便覧 16 頁)

学寮の主な共用施設・設備

10) 学寮の主な共用施設・設備について

学寮には、居室の他に次に掲げる各種の共用施設・設備が整備されています。利用する場合は、共用であることを認識し、使用規則を遵守して大切に利用ください。なお、居室及び各種の施設・設備に工作を加えたり、目的以外に使用してはいけません。

(1) 雄峰寮(男子寮)

①談話室

各群ごとに、寮生が自由に語り合ったり、テレビを見たり、また居室消灯後の勉強にも使用できます。

備品として、テレビ・座机が設置されています。

②サービスエリア

各群ごとに、補食コーナー及び洗濯コーナーとしての「サービスエリア」があります。

「補食コーナー」には、流し台とガス台が設置されています。

「洗濯コーナー」には、全自動洗濯機(5台)と乾燥機(5台)が設置されています。

これらの施設設備は、共同利用ですから、各自ルールやマナーを守って清潔・整頓を励行するとともに、ガス栓の確認や節水に心がけて使用してください。

③浴室

浴室は食堂棟地階にあり、一度に40人位が入浴できます。

④シャワー室

シャワー室は浴室隣りの多目的ホールにコイン式のシャワー室があり利用できます。

⑤学習室

2階に学習をするための学習室があり24時まで利用できます。

(2) なのはな寮(女子寮)

①談話室

備品として、テレビ・テーブル・ソファが設置されています。空調設備もあり、ソファに座ってテレビを見たり雑誌をしたりできます。

なお、点呼や女子寮生会も談話室で行います。

②補食室

1から3階に補食室があります。それぞれ流し台とガス台、電子レンジが設置されています。

③洗面所・洗濯機コーナー

地階から3階には、それぞれ洗面台(3~4台)、全自動洗濯機(2台)、ガス衣類乾燥機(2台)が設置されています。共同利用するものですから、清潔・整頓に留意してください。

④浴室

浴室は地階にあり、一度に5人くらいが入浴できます。

⑤シャワー室

個室のシャワー室が2室あり利用できます。

⑥多目的室

2から4階に多目的室があります。学習やミーティングに利用できます。

(出典 平成25年度寮生便覧 6~7頁)

(分析結果とその根拠理由)

学生寮は課外教育施設として位置づけられ、寮生は「群制度」の下で日課表に従い規則正しく共同生活を送っている。寮務委員会を中心に寮友会と協力して学寮運営が行われ、授業の欠課が多い学生に対しては定期的に指導が行われている。共同生活に必要な設備が整備され、試験前には勉強会が開催されるなど学生の生活及び勉学の間として機能している。

観点7-2-④： 就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校における進路指導は各学科主任、専攻主任及び学級担任が学生課と協力、連携して行っている。低学年学生の進路変更については、学級担任の手引に基づき、適切な進路選択ができるよう指導している(資料7-2-④-1)。卒業後の進路については、主に第4、5学年の学級担任が中心となり指導を行い(資料7-2-④-2)、OB懇談会(資料7-2-④-3)や保護者対象の進路懇談会(資料7-2-④-4)を開催している。就職については、就職担当教員を本校ウェブページで紹介(資料7-2-④-5)し、容易に連絡が取れるようにしている。就職関連の資料は、全て学科毎に分類して各就職担当教員が管理し、学生がいつでも閲覧できるようにしている(資料7-2-④-6)。また、企業が主催するセミナーに教員及び学生が参加し、就職活動に役立てている(資料7-2-④-7)。進学については、大学編入案内や大学院入学案内を学生課で保管し、学生が自由に閲覧できるようになっている(資料7-2-④-8)。本校ウェブページや学校要覧、学生便覧に進路先を掲載し、進路情報を提供している(資料7-2-④-9~10)。

低学年における進路変更への対応

全般的な注意事項

1. 適性等に関する悩みは正に千差万別であり、各学生の状況に応じ、完全な個別対応を行うことになる。
2. 最優先されるべきは学生の意志であるが、これと同時に、保護者の意向等の確認と調整を十分に行う必要がある。
3. 休・退学の手続きは、授業料納入の事務的処理の関係から、前・後期の開始約2週間前までに済ませなければならない。よって、「後期のことは9月半ばまでに」、「次年度のことは3月半ばまでに」結論を出さなければならない。
4. 休学する場合、「3ヶ月以上の休学」が条件になっているため、学年末に休学する場合は、12月中旬までに「休学願」を提出する必要がある。

I 第1学年における進路変更(高校再受験/高等学校卒業程度認定試験受験)

1. 年度内の高校への転入学は、通信制等で極めて例外的に受け入れる場合もあるが、原則としてありえない。よって、夏期休業前に慌てて何かを決めさせる必要はない。
 2. ただし、以下の理由から、夏期休業期間中に何らかの結論を出す必要がある。
 - (1) 高校を再受験をすることになった場合の準備のため(中学3年生は夏期休業の時から受験モードで頑張っている)。
 - (2) 9月中旬以降になると、後期の授業料を払い込むことになってしまう。
 3. 結論としては、以下の三つが考えられる。
 - (1) 後期を休学とする(身分は本校の学生として残るが、気分が緩む心配がある)。
 - (2) 前期で退学する(決意を新たにするためにも、「後がない」状況を作り出す)。
 - (3) 後期を休学とし、12月で退学とする(折衷的な方法)。
 4. 高校としては高専在籍のままの受験となっても問題はなく、また、高専としても本校に在籍したままの受験となっても問題とはされないで、上記のいずれでも可能である。
 5. 高校再受験に際しての出願書類は、全て「出身中学」で作成することになる。よって、再受験が決定した場合には、早急に担任が出身中学に連絡を取り、当該学生への対処をお願いする必要がある(その後の手続は全て当該学生と中学校とが行うことになる)。
- ※ 高校再受験は「浪人＝1年遅れ確定」の形での高校入学となり、最も負担の大きな進路変更となるが、本人が高専への不適応を強く感じており、具体的に入学したい高校がある場合には、十分な選択肢となる。
- ※ 将来的に大学進学を目指すのであれば「高等学校卒業程度認定試験」受験を考える。この制度を利用すれば、遅れずに済む。ただし、高専生の場合は「受験＝合格」となる可能性が高いので、逆に「どのように大学受験までの時間を費やすのか」が問題となろう。

II 第2学年における進路変更

- ※ 県立高校の場合、高校等に在籍しながら学校を移る場合は「転入学」といい、退学などにより高校等から一度離れた後に再入学する場合は「編入学」という。
1. 全日制高校の再受験は年齢差が大きくなりすぎてしまい、現実的には不可能であろう。

資料7-2-④-1 (2)

2. 次のような選択肢が考えられるが、全日制高校への転入学は制度的に難しく、また通信制等に転入学した場合、卒業まで時間がかかる可能性もあり、あまり勧められない。よって、「高等学校卒業程度認定試験」受験の選択が最も現実的であろう。
- (1) 高等学校卒業程度認定試験を受験する。
 - (2) 単位制(千葉県立市原八幡高等学校など)、通信制(千葉県立千葉大宮高等学校通信制課程およびNHK学園など)、定時制(千葉県立千葉工業高等学校定時制課程など)の高校に転入学する。
- ※ 「高等学校卒業程度認定試験」(平成17年度以降)は、以前の「大学等を受験するための資格」である「大学入学資格検定」(平成16年度以前)とは異なり、以下(枠内)のように「高卒として認める」よう定義されている。
- ※ 「高等学校卒業程度認定試験」は、高校や高専に在籍したままでの受験が可能であり、また、これに合格したからといって高校や高専を退学する必要もない。
- ※ 留年している場合には、ともかく当該年度第1回の試験を受験させることが重要であり、9月中旬に締め切られる第2回の受験申込を逃してしまうと、遅れを取り戻すことが出来なくなってしまう。

高等学校卒業程度認定試験は、様々な理由で、高等学校を卒業できなかった者等の学習成果を適切に評価し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるかどうかを認定するための試験です。合格者は大学・短大・専門学校の受験資格が与えられます。また、高等学校卒業者と同等以上の学力がある者として認定され、就職、資格試験等に活用することができます。(文部科学省ウェブページより)

Ⅲ 第3学年における進路変更

1. 「80単位修得」による「第3学年修了」を目指させる。
2. ただし、この達成が難しいこともあるので、当該年度第1回の「高等学校卒業程度認定試験」を受験させ、合格して精神的に落ち着かせることが重要である。
3. 「高等学校卒業程度認定試験」に合格していれば、結果的に80単位が修得できず本校で「第3学年修了」とならなくとも、「高卒」として、遅れることなく、多様な進路の選択が可能となる。
4. 大学等を受験する場合は、「退学願」を提出させることになるが、結果が出るまで、担任の段階で留めておき、大学等への進学が決定したら退学の手続きを進め、高専に残ることが決定したら破棄することになる。
5. 文系の大学への入学を希望している場合には、「5年まで行ってから文系学部への編入」を考えさせても良い。「5教科7科目のセンター試験+二次試験」と「2～3科目の編入試験」の違いについて具体的に示すと、「5年まで行ってから文系学部への編入」を選択する可能性が高い。

(出典 平成25年度学級担任の手引 35～37頁)

第4, 5学年学級担任による進路指導

D. 第4学年

<省略>

56: 卒業生との進路懇談会 (12~1月頃)

卒業後数年経過した人を数人選んで要請し, 来校して実社会の経験を話して貰い, 進路先決定の参考にする。

E. 第5学年

<省略>

58: 大学編入学の推薦

各大学から教務係経由で編入学案内がくるので学生に周知する。編入学には, 推薦と一般がある。学生から希望が出たら手続用紙を渡し記入させる。推薦書の必要な場合は, 作成して教務係経由で校長に提出する。

(推薦の場合は, 願書提出前に校長の面接を行う。)

59: 就職の斡旋

5年担任の主要業務である。就職斡旋の項のNo.63以降に詳述する。

<省略>

【就職の斡旋】

求人・就職の窓口事務は, 学生係で行う。求人票・パンフレット等企業から来る就職関係の書類は, すべて学生係で登録した後, 各学科就職担当教員の所に回る。直接各教員の手へ渡ったものは, 学生係に登録しないと正式な受付とならない。

64: 概要説明

3月までに年間の就職・進学指導の概略日程を学生に説明する。また, 進路について自己の特性・志向等を充分考慮に入れて, おおまかには, 1~2ヶ月のうちに決めるように話す。

65: 希望調査

就職希望のおおまかな方向(業種・規模の大小・給与条件・縁故の有無・地域指定の有無・保護者の就職に対する方針等)のアンケートをとる。

このアンケートは, 後に学生の就職希望調査表としてまとめる。

66: 進路懇談会 (3月: 合同及び各学科別)

懇談会について, 教員の面接分担計画, 質問事項の記録用紙の作成や保護者の世話等業務がある。

資料7-2-④-2 (2)

67: 学生個別面接 (4月)

各学科では、教員全員と学生一人との面接を学生全員について行いう。これによって各人の就職の方針を決め、会社からの正式求人があればすぐ手続き出来る所まで詰めておく。

その為の資料として、学生の就職希望調査・身上調査概要・過去の成績一覧等を一覧表で用意する。

68: 企業の訪問者との対応

多くの企業から求人の訪問者がある。学生係から連絡があったら面接して就職に際して知っておきたい事項をなるべく詳しく聞いておく。(進路相談室)

なお、担任不在の場合もあるので、他の教員にも使えるよう、求人アンケート用紙を準備しておくことをお勧めする。

69: 求人資料の整備

学生係に送られて来た求人票、パンフレット類は、登録の上各学科に回される。これを一括整理し、学生の見やすい場所に展示する。

求人者が直接持参したものは、一旦学生係に送り、登録の上、整理展示する。

70: 就職手続きの指導と推薦書の作成

具体的な就職試験の手続きは、学生本人と学生係の間で行われるが、その願書作成上の指導をしたり、推薦書を書く等の仕事がある。場合によっては、教員が自分で送ることもある。

71: 入社内定の連絡

正式には、入社内定は10月以降になるが、実際はその前に内々定の電話(文書)が担任の所に来るので、本人に連絡する。

(出典 平成25年度学級担任の手引 30~33頁)

OB 懇談会開催の例

環境都市工学科卒業生とのOB 懇談会

1. 開催日時

日 時：平成25年1月29日火曜日 15:00～17:00 (14:55集合)

会 場：第1講義室

参加者：環境都市工学科4年生，環境建設専攻1年および教職員

2. 講演者（卒業生）

氏 名	卒 業 年	所 属
		前田建設工業株式会社
		東海旅客鉄道株式会社
		八千代エンジニアリング株式会社
		千葉ガス株式会社
		千葉県庁

3. 進行

学科主任あいさつ，5名の個人講演・質疑応答，グループ懇談，担任の話

(出典 環境都市工学科卒業生とのOB 懇談会資料)

進路懇談会の案内

進路懇談会次第

日 時 平成25年3月16日(土) 13:00～

場 所 本校総合教育棟1階第1講義室

対 象 者 4年生保護者

次 第 (司会・進行：学生課長)

1. 校長あいさつ 第1講義室
2. 担任等紹介 "
3. 全体説明 (機械工学科主任) "
4. 専攻科について (専攻科長) "

〔各会場へ移動〕

各学科別説明および個別懇談 (各学科の指定教室及び教員室)

1. 各学科別説明 各学科指定教室
2. 個 別 懇 談 各教員室

〔個別懇談終了後解散〕

- 配布資料**
- (1) 平成25年度大学, 短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について(申合せ) [資料1]
 - (2) 採用選考に関する企業の倫理憲章 [資料2]
 - (3) 大学, 短期大学及び高等専門学校の就職内定状況調査の推移 [資料3]
 - (4) 平成24年度卒業予定者進路状況 [資料4]
 - (5) 年度別・学科別進路状況一覧 [資料5]
 - (6) 求人倍率の推移 [資料6]
 - (7) 大学等進学(編入学)状況一覧 [資料7]
 - (8) 各学科別進路状況一覧 [資料8]
 - (9) 専攻科修了生進路状況一覧 [資料9]

(出典 学生課資料)

専攻科進路懇談会次第

日 時 平成 25 年 3 月 16 日 (土) 14 : 00 ~

場 所 本校 総合教育棟 2 階 マルチメディア講義室 B

対 象 者 専攻科 1 年生保護者

次 第 (司会・進行 : 副専攻科長)

1. 校長あいさつ
2. 専攻科長あいさつ
3. 進路状況, 進路指導方針と主な日程の説明
4. 質疑応答
(保護者との個別懇談はありません)

- 配布資料 (1) 平成 25 年度大学, 短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について(申合せ) [資料 1]
- (2) 採用選考に関する企業の倫理憲章 [資料 2]
- (3) 大学, 短期大学及び高等専門学校の就職内定状況調査の推移 [資料 3]
- (4) 平成 24 年度修了予定者進路状況 [資料 4]
- (5) 平成 24 年度修了予定者進路先状況一覧 [資料 5]
- (6) 平成 21~23 年度専攻科修了生進路先状況一覧 [資料 6]

(出典 学生課資料)

就職担当教員の紹介



独立行政法人国立高等専門学校機構

木更津工業高等専門学校

Google WWWを検索 kisarazu.ac.jpを検索[学校概要](#) | [交通案内](#) | [採用情報](#) | [入札公示](#) | [サイトマップ](#) | [お問合せ](#) | [English](#)[ホーム](#)[直行メニュー](#)[利用者別メニュー](#)[学科・学系・専攻科](#)[教育・研究・福利施設](#)

求人企業へのご案内

求人票について

本校では所定の求人票はありません。様式は適宜なもので結構です。
 送付先は学生課学生係または就職担当教員宛ご送付願います。
 なお、複数学科の求人の場合、会社案内等は該当学科部数ご送付願います。

就職担当教員

木更津工業高等専門学校の就職担当教員は次のとおりです。
来校を希望されるときは、あらかじめ担当教員にご連絡をとり、アポイントメントをお取りくださいますようお願いいたします。
 メールアドレスの後に @akisarazu.ac.jp をつづけてください。

平成25年度卒業予定者担当

学科名	教員名	電話番号	メールアドレス
機械工学科	小田 功	0438-30-4083	m-career
電気電子工学科	大澤 寛	0438-30-4099	e-career
電子制御工学科	坂元 周作	0438-30-4123	d-career
情報工学科	米村 恵一	0438-30-4139	j-career
環境都市工学科	鬼塚 信弘	0438-30-4161	c-career
専攻科	伊藤 揆	0438-30-4117	a-career

連絡先

木更津工業高等専門学校
 学生課学生係(事務担当)
 TEL 0438-30-4044
 FAX 0438-98-5403

[▲このページの先頭に戻る](#)[学校概要](#) | [交通案内](#) | [採用情報](#) | [入札公示](#) | [サイトマップ](#) | [お問合せ](#) | [English](#)

〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1 電話0438-30-4000(代表) FAX0438-98-5717

Copyright (C) 2008 Kisarazu National College of Technology. All rights reserved.

(出典 本校ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/kigyo/kyujin.htm>)

就職関連資料の保管例（環境都市工学科の例）



（出典 就職関連資料保管例の写真（コミュニティルームC内））

就職セミナーへの参加

□学研・高専生のための業界研究セミナー〔東京会場〕

2013. 1. 26 (土) 会場・ベルサール秋葉原B1

参加企業様一覧 [ブースNo.ではありません。]

1	東芝	24	東京ガス
2	フジテック	25	セイコーエプソン
3	日本信号	26	ポラ化成工業
4	アルプス電気	27	CTCシステムサービス
5	理想科学工業	28	日本原子力研究開発機構
6	プレテック	29	ソニーDNA
7	矢崎総業	30	安全自動車
8	NTTドコモ	31	奈良機械製作所
9	新生テクノス	32	エヌ・ティ・ティ・エムイー
10	リンク情報システム	33	日水コン
11	日立ビルシステム	34	パイロットコーポレーション
12	東海理化	35	日立ハイテクフィールドディング
13	明電舎	36	池上通信機
14	横浜市役所	37	東急建設
15	富士アイティ	38	サントリープロダクツ
16	丸紅情報システムズ	39	全日本空輸
17	ジョンソンコントロールズ	40	富士電機
18	三田エンジニアリング	41	日立アロカメディカル
19	日東紡績	42	NTTファシリティーズ
20	アンリツ産機システム	43	ナブコシステム
21	アドヴィックス	44	大同特殊鋼
22	大成ネット	45	JBCC
23	三菱電機ビルテクノサービス	46	太平エンジニアリング

(株)、(独)を省略します。

※ソニーDNA=ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ

※全日本空輸=ANA

※エヌ・ティ・ティ・エムイー=NTT-ME

(出典 第4学年学級担任資料)

進学資料の保管



(出典 進学資料保管の写真 (学生課内))

各学科の進路実績

学科の卒業生の数は、約 6,300 人に達し、それぞれに大企業や特色ある中小の企業などの産業界、あるいは官公庁など、社会の様々な分野で目覚ましい活躍をしています。

本校創立以来、毎年の就職は 100% で、24 年度の求人社数は全体で約 1,900 社に及んでいます。次表に、過去 3 年間の卒業生の就職先を示します。

機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境都市工学科
JNC石油化学 Mテック NTT-ME アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド 曙ブレーキ工業 出光興産 宇部興産 宇部マテリアルズ 荏原エリオット 小川香料 君津共同火力 コスモ石油 鷺宮製作所 サントリープロダクツ ジャパンエンジニアリング 新日鐵住金 ダイセキ 妙中鋳業 竹田設計工業 タマディック テルモ 東海旅客鉄道 東京ガスパイプライン 東京電力 東洋エンジニアリング 成田空港給油施設 日鐵運輸 日鉄鋳業 日本ビソー 日本OTISエレベータ 日本貨物鉄道 ネクスコ東日本エンジニアリング パイオニア 東鋼 日立建機日本 日立メディコ 富士重工業 フジキン フジケンエンジニアリング 富士電機 マブチモーター ミヨシ油脂 メタウォーター 山武 リコー 鷺宮製作所 森精機	ANAアビオニクス Meiji Seikaファルマ NECネットエスアイエンジニアリング NTT-ME NTTファシリティーズ TOTOバスクリエイト 出光興産 宇部マテリアル 大阪ガス 大崎電設 君津共同火力 京セラ佐倉事業所 国光施設工業 黒田精工 サッポロビール サントリーホールディングス ジュビターコーポレーション 新日鐵住金 住友電設 ソフトウイング 千葉共同サイロ 東海旅客鉄道 東京エレクトロンFE 東京電力 東芝エレベータ ドコモエンジニアリング ニコン 日本製粉 不二製油 富士石油 三菱重工業 メタウォーター 吉野機械製作所 リコーテクノシステムズ レンゴ 君津共同火力 三菱電機システムサービス 住友化学千葉工場 森永乳業 電気化学工業 東芝電機サービス 東日本電気エンジニアリング 東洋インキ製造 日本たばこ産業 日本海洋掘削 日本精工 日本電設工業 日本板硝子 不二製油 妙中鋳業	JNCエンジニアリング JUKI KLab NOK NTT-ME 旭ダイヤモンド工業 イシダ 出光興産 イトーキ 大崎電気システムズ カシオテクノ シミズオクト ジュビターコーポレーション ダイキン工業 ツムラ テツゲン 東海旅客鉄道 東京ガスSTコミュニティ 東京電力 東芝エレベータ 東邦化学工業 東レ ドーシス ドコモエンジニアリング 成田エアポートテクノ 成田空港給油施設 日本海洋掘削 日本光電工業 日比谷コンピュータシステム 東日本旅客鉄道 富士重工業 富士重工業航空宇宙カンパニー ホソカワミクロン 三菱電機ビルテクノサービス 矢崎総業 山田電器工業 三菱電機エンジニアリング 山田電器工業 雪印メグミルク	CIJネクスト Jストリーム NTT-ME NTTコミュニケーションズ NTTコムウェア NTTデータ NTTぷらら TID Y2S アクト アドバンテスト 安西製作所 大崎コンピュータエンジニアリング 大崎電気システムズ 沖電気カスタマアドテック キャノン電子 キャノンマーケティングジャパン 京セラコミュニケーションシステム クラリオン ケイシーシー 鷺宮製作所 シーテック セイコーエプソン ゼネラルエンジニアリング セルシス 東京電機産業 東芝ITサービス ドワンゴ 日鉄エレックス ニフティ 日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア 日立メディコ 富士ソフト 富士通 富士テクノサービス マック リコーテクノシステムズ 吉野工業所	NIPPO NTT-ME NTTインフラネット 宇部マテリアルズ 小川製作所 開発虎ノ門コンサルタン 環境管理センター コーセツコンサルタン 山丸 新日鐵住金 テツゲン テツゲン君津支店 東海旅客鉄道 東京ガスパイプライン 東京水道サービス 東京電力 東電工業 西松建設 東日本旅客鉄道 藤田金物店 前田道路 宮地鉄工所 若築建設 千葉県 木更津市 君津市役所

資料7-2-④-9 (2)

本校は、創造性豊かな工業技術者を社会に送り出すことを目的に設立されましたが、近年では、高専を卒業して更に大学へ進学し勉学を続けたいという学生も多くなりました。そのため大学編入という道が開かれており、150以上の大学が高専からの編入学を受け入れています。

近年高専に専攻科が設けられ、本校にも平成13年度に設置されました。これにより、さらに進学の道が広がっています。

卒業後の約半数が高専専攻科及び大学に進学しています。

詳しくは学生課の「掲示板」及び「進学関係資料コーナー」で閲覧してください。

高専専攻科入学先

木更津工業高等専門学校	鈴鹿工業高等専門学校	久留米工業高等専門学校
豊田工業高等専門学校	松江工業高等専門学校	舞鶴工業高等専門学校
八戸工業高等専門学校	福島工業高等専門学校	奈良工業高等専門学校
鶴岡工業高等専門学校	都立産業技術高等専門学校	

大学編入学先

北海道大学	金沢大学	佐賀大学
室蘭工業大学	福井大学	長崎大学
北見工業大学	山梨大学	熊本大学
弘前大学	信州大学	宮崎大学
岩手大学	岐阜大学	琉球大学
東北大学	静岡大学	前橋工科大学
秋田大学	豊橋技術科学大学	首都大学東京
山形大学	三重大学	はこだて未来大学
茨城大学	京都大学	愛知県立大学
筑波大学	京都工芸繊維大学	大阪府立大学
宇都宮大学	大阪大学	埼玉工業大学
群馬大学	神戸大学	千葉工業大学
埼玉大学	和歌山大学	大正大学
千葉大学	鳥取大学	東京造形大学
東京大学	島根大学	東京電機大学
東京農工大学	岡山大学	東京理科大学
東京工業大学	広島大学	日本大学
東京海洋大学	山口大学	明治大学
お茶の水女子大学	徳島大学	神奈川大学
電気通信大学	愛媛大学	長岡造形大学
横浜国立大学	香川大学	京都造形芸術大学
新潟大学	九州大学	長崎総合科学大学
長岡技術科学大学	鹿児島大学	東京情報大学
富山大学	九州工業大学	武蔵工業大学

(出典 平成25年度学生便覧 157～158頁)

資料7-2-④-10(1)

専攻科の進路実績

本校の専攻科は、平成13年4月に設置されました。本科5年間の一貫教育という特徴を活かしながらその上級コースとして、地域・産業界との密接な協力・連携のもとで、より高度な教育・研究指導を行い、研究開発能力や創造能力を備えた新しい型の実践的専門技術者の育成を目指しています。

現在、1期生から11期生までを合わせて、361名が専攻科を修了しています。

次表に、過去3年間の修了生の就職先の一覧を示します。専攻科11期生の就職率は約65.8%です。

修了年	9期生 (平成23年3月卒)	10期生 (平成24年3月卒)	11期生 (平成25年3月卒)
修了者	34名	41名	37名
就職先	I H I	日本海洋掘削	日本海洋掘削 (2)
	J F E スチール	ニコン	NTT ファシリティーズ (2)
	J F E 電制	マブチモーター	NTT-AT システムズ
	東日本旅客鉄道 (2)	TDC ソフトウェアエンジニアリング	NTT-ME
	オリンパス	森精機	NTT データ
	カネカ	河村産業	ニコン
	黒田精工	日鐵テクノリサーチ (2)	日立オートモティブシステムズ
	ジュピターコーポレーション	KOCS モバイルエンジニアリング	KH ネオケム
	ソフト技研	セブンイレブンジャパン	パナソニック ITS
	東京エネシス	NTT データアイ	朝日工業社
	東京電力	ジュピターコーポレーション	日鐵エレックス
	ニコン	パナソニックシステムソリューションズ	東京機械製作所
	西日本旅客鉄道	マグネスケール	住友精化
	日本軽金属	ヤフー	イノテック
	バンダイナムコゲームス	東日本旅客鉄道 (2)	アールシーソリューション
	フォーラムエイト	前川試験機製作所	大崎コンピュータエンジニアリング
	プレジジョン・システム・サイエンス	アイシンク	東日本旅客鉄道
	大崎コンピュータエンジニアリング	日鉄エレックス	キヤノン
		ミクシィ	協立化学工業
		オデッセイヒューマンシステム	グローリー
	富士電機	ネットワンシステムズ	
	富津市役所	三菱電機ビルテクノサービス	
	市原市役所	レーザック	
	千葉県上級土木職		
計	19名	26名	25名

資料7-2-④-10(2)

次表に、過去3年間の修了生の進学先を示します。専攻科11期生の大学院進学率は約31.6%です。

修了年	9期生 (平成23年3月卒)	10期生 (平成24年3月卒)	11期生 (平成25年3月卒)
修了者	34名	41名	38名
進 学 先	筑波大学大学院(6)	筑波大学大学院(2)	筑波大学大学院(5)
	千葉大学大学院(3)	千葉大学大学院(2)	千葉大学大学院
	東京工業大学大学院	東京大学大学院	東北大学大学院
	山梨大学大学院(2)	東北大学大学院(2)	埼玉大学大学院
	木更津高専研究生	横浜国立大学大学院	横浜国立大学大学院
	淑徳大学看護学部	長岡技術科学大学大学院	豊橋技術科学大学大学院
		北陸先端科学技術大学院大学	青山学院大学大学院
		埼玉大学大学院	
	千葉工業大学大学院		
計	14	12	12
その他	大学院進学	大学院進学(2)	木更津高専研究生
計	1	2	1

(出典 平成25年度学生便覧 159～160頁)

(分析結果とその根拠理由)

学科主任，専攻主任及び学級担任が中心となり，学生課と協力，連携して進路指導が行われている。OB懇談会や進路懇談会を開催したり，企業が主催するセミナーに参加したりするなどして進路指導に役立てられている。その結果，準学士課程の就職率は毎年100%となっている。進路状況についても広く情報を提供し，準学士課程卒業生の約半数が進学しており，十分機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

図書館及びネットワーク情報センター演習室では時間外にサービスを提供したり、コミュニティルームを常時開室したりするなど自主的学習環境が整備されている。

資格試験や検定試験への支援体制が整い、授業振替や単位認定も適切に行われている。また台湾国立聯合大学との国際交流協定締結やPASCHへの参加により国際交流活動が積極的に行われている。

留学生に対しては、特別な授業科目を開設して単位振替を行う等の学習支援やチューターによる生活支援が行われている。身体に障がいのある学生に対しては、バリアフリー化等の環境整備を行い、サポートチームを設置する体制が整っている。

準学士課程においては就職率が毎年100%であり、進学についても毎年約半数が大学や高専専攻科に進学しており、優れた進路実績を残している。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準7の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスとして年度当初に全学生に学生便覧、シラバス等が配付され、学級担任により説明が行われている。シラバスには科目担当教員の連絡先が記載され、また、全教員によりオフィスアワーが開設されており、学生の自主的学習を支援する体制が整備されている。

自主的学習環境として図書館、ネットワーク情報センター、コミュニティルーム、共通ゼミ室が整備され、時間外の利用が可能となっている。福利厚生施設として学生食堂・売店、課外活動館、学友会館が整備されている。

学習支援に関する学生のニーズは、学生の声、授業評価アンケート、学級担任の指導、学級委員長会等を通して積極的に把握されている。資格試験や検定試験については、複数の試験が実施され、授業への振替や単位認定が適切に行われている。また、海外大学との国際交流協定締結やプロジェクト参加により学生の国際交流活動が積極的に支援されている。

留学生には特別な授業科目が開設され、また、留学生指導教員やチューターを配置することにより、学習支援の体制が整えられている。身体に障がいのある学生に対しても、サポートチームを設置して支援を行う体制が整っている。

学生主事の指導の下で課外活動が行われ、全教員がクラブ指導教員として部、同好会の指導に当たっている。また、技術向上を目的とした外部コーチを招聘できる体制も整備されている。

学生の生活面の指導・相談・助言については、学級担任や学生委員会、学生相談室が中心となり、それぞれが連携を取り合いながら適切に行われている。

留学生の生活面の支援については、留学生指導教員やチューターが行い、学寮には留学生用の設備が整備される等の配慮が行われている。

学生寮は課外教育施設として共同生活を行う上で必要な施設・設備が整備され、寮務委員会が中心となり、寮生組織である寮友会が協力して運営している。本校独自の「群制度」が導入され、生活及び勉学の場として機能している。

進路指導については、学科主任、専攻主任、学級担任が学生課と協力、連携して行われている。OB懇談会や進路懇談会等が開催され、適切な進路選択ができるよう支援体制が整っている。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

本校の建物配置図ならびに施設の概要を資料 8-1-①-1 に示す。また、各学科、各専攻の学年ごとの在学者数を資料 8-1-①-2 に示す。

前回の認証評価受審後、以下のような施設の改修や増築を行い(資料 8-1-①-3)、より快適で利便性のよい学生生活が送れるように配慮している。平成 20 年度に学友会館を改修して合宿施設の機能を持たせ、元の合宿所は課外活動館として有効利用している。平成 21 年度には実習工場がある実験実習棟の改修を行い、平成 23 年度には女子寮の増築を行った。直近では、平成 25 年 3 月に図書館の大規模改修が完了した。これにより、図書館の老朽・耐震の問題が解決されただけでなく、ネットワーク情報センターの機能を持たせることにより図書・ネットワークセンター棟として有機的な活用が可能となった。また、不要になったボイラー施設の跡地を講義棟 B と名付けて有効利用を考え、さらにネットワークセンター跡地も講義棟 C として多目的スペースを持つ建物に改修する予定である(資料 8-1-①-4)。

資料 8-1-①-5 に学習教育目標と教育研究設備との関係を示す。本校では全ての学習教育目標が達成できるように施設を整備している。

本校の講義室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8-1-①-6 に示す。第 1、第 2 講義室、階段教室等の大型教室を除くいずれの講義室においても、学生一人当たり 2.0m² 程度の面積が確保されている。また、どの講義室も空調・換気設備、映写用スクリーン、LAN コンセントが完備されており、収容人数が多い講義室はさらに液晶プロジェクタが設置され、卒業研究や一般特別研究および専攻科特別研究の発表会などで同時に使用できるようにしている。

基礎科目系及び各学科に属する実験室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8-1-①-7～12 に示す。いずれの実験室も目的の実験を行うに十分な面積が確保され、各種設備も充実している。

演習室とゼミ室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8-1-①-13 と 14 に示す。いずれの部屋も学生一人当たり 2.0m² 以上の面積が確保されており、空調・換気設備、各種専用機器、LAN コンセントが完備されている。

本校のモノづくりの拠点となる実習工場(資料 8-1-①-15)では、授業において実践的な教育研究活動を展開しているだけでなく、教員研究や産学連携で用いる実験装置の製作、ロボコンなどの課外活動、小中学生対象の公開講座などが行われている。なお、実習工場の管理・運営は実習工場運営委員会が行っている。

図書館の概要を資料 8-1-①-16 に示す。空調・換気設備、蔵書検索用パソコンが完備されている。改修前の利用状況を資料 8-1-①-17～18 に示す。改修後は、利用率が上がることを期待できる。なお、図書館の管理・運営は、図書館運営部会の主導により行われている。

本校の基幹情報施設であるネットワーク情報センターの概要を資料 8-1-①-19 に示す。学生一人当たり 3.7m² 程度の面積が確保され、広く学生に利用されている(資料 8-1-①-20)。空調・換気設備が備えられ、各種アプリケーションを導入した学生用パソコンが 49 台完備されている。なお、システムの管理・運営はネットワーク情報センター運営部会の主導により行われている。

体育施設の広さ、利用形態、設備を資料 8-1-①-21 に示す。いずれの体育施設も十分な広さを有している。各体育施設には器具庫、トイレなどが設置されている。

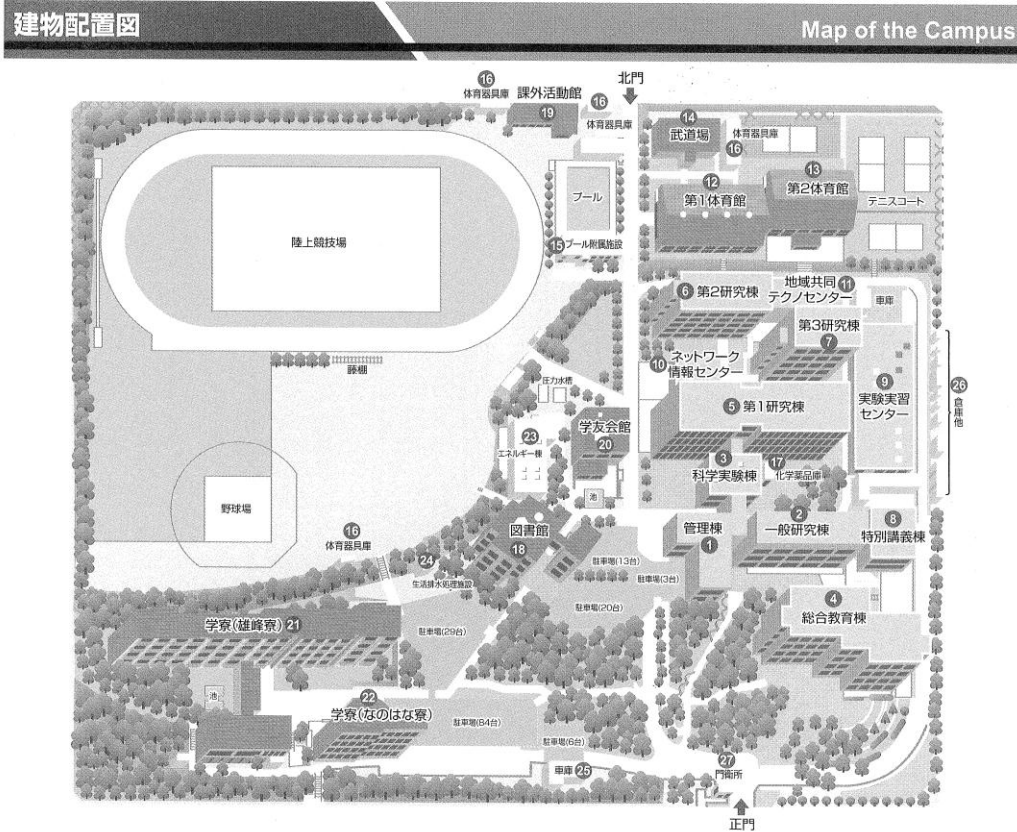
本校では、学生と教員が自由に使用できるコミュニティールームというものがあり、ここには流し台、電磁調理器、机、椅子などが用意されていて、休憩、食事、自学自習、ミーティング、学生や保護者との面談など、多目的にかつ有効に使用されている。また、同じような共通スペースとしてオープンラボが用意されており（資料 8-1-①-22）、十分な面積が確保された各部屋は共同研究などに活用されている。

上記各種施設には管理者が決められ、日常的な管理が行われている。安全管理のために、安全衛生委員会（資料 8-1-①-23）が設置され、安全衛生に係る調査や改善の検討がなされている。資料 8-1-①-24～25 に当委員会の活動計画と議事録の例を示す。また、安全衛生管理規則（資料 8-1-①-26）を定め全学生・職員に通達するとともに、実験実習安全必携（資料 8-1-①-27）を配付し、事故時の救急措置法、危険物等の取扱方法などを周知している。さらに、緊急災害マニュアル（資料 8-1-①-28）を作成し、学生・教職員に周知を図っている。

バリアフリーに関しては、平成 14 年度から計画的に進め（資料 8-1-①-29）、スロープ、エレベータ、自動扉の設置および身障者用トイレへの改修を行ってきた（資料 8-1-①-30）。平成 24 年度末では、計画された身障者対策のほとんどが終了している。

環境面では、新しい施設・設備に関しては低炭素排出量、低消費電力など環境負荷の軽いものを導入している。一方、既存施設・設備に対しても環境方針（資料 8-1-①-31）を定め、全学的に「環境との調和」と「環境負荷の低減」に努めている。また、環境専門委員会を立ち上げ、ここが主導して資料 8-1-①-32 で示す体制で環境マネジメントを行い、環境報告書を毎年発行している。具体的には、資料 8-1-①-33 で示す年次計画を進め、平成 23 年度末には資料 8-1-①-34 のように、電気・ガス・水道・ガソリンの使用量の低減という成果を上げている。

建物配置図と施設の概要



施設の概要 Facilities

校地 College Area 100,054㎡ ■職員宿舎 Staff Housing 祇園1,736㎡/高砂2,760㎡ ■総面積 Land Area 104,550㎡ (平成24年4月1日現在) As of April 2012

■建物 Buildings

区分	構造・階数	面積	建築年
① 管理棟 Administration Building	R・2		
② 一般研究棟 General Research Building	R・2 -1	4,090㎡	昭和42
③ 科学実験棟 Science Laboratory	R・2		
④ 総合教育棟 Education Building	R・4	3,522㎡	平成15
⑤ 第1研究棟 Research Building No.1	R・4	4,091㎡	昭和43・44
⑥ 第2研究棟 Research Building No.2	R・4	2,200㎡	昭和59
⑦ 第3研究棟 Research Building No.3	R・5	2,183㎡	平成4
⑧ 特別講義棟 Special Lecture Building	R・2	717㎡	昭和63
⑨ 実験実習センター Manufacturing Center	S・1	1,561㎡	昭和43・44
⑩ ネットワーク情報センター Information Technology Center	R・1	302㎡	昭和50
⑪ 地域共同テクノセンター Cooperative Technology Center	R・2	414㎡	平成12
⑫ 第1体育館 Gymnasium No.1	S・1	1,153㎡	昭和43
⑬ 第2体育館 Gymnasium No.2	S・1	880㎡	昭和58
⑭ 武道場 Martial Art Center	S・1	311㎡	昭和44

※R=鉄筋コンクリート造 / S=鉄骨造り / B=ブロック造り

区分	構造・階数	面積	建築年
⑮ プール附属施設 Dressing and Shower Room	R・1	258㎡	平成6
⑯ 体育器具庫 Warehouse	R・1	258㎡	昭和45・46
⑰ 化学薬品庫 Chemical & Pharmaceutical Store Room	R・1	30㎡	昭和51
⑱ 図書館 Library	R・3	1,771㎡	昭和51
⑲ 課外活動館 Extra-Curricular Activity Facility	S・1	205㎡	昭和52・53
⑳ 学生会館 Students' Hall	R・2	702㎡	昭和56
㉑ 学寮(雄峰寮) Boys' Dormitory (Yuho-Ryo)	R・4 -1	6,233㎡	昭和42~44・60
㉒ 学寮(なのはな寮) Girls' Dormitory (Nanohana-Ryo)	R・4 -1	1,099㎡	平成12・23
㉓ エネルギー棟 Boiler House	R・1	398㎡	昭和42
㉔ 生活排水処理施設 Sewage Disposal Plant	R・1	30㎡	昭和54
㉕ 車庫 Garage	S・1	112㎡	昭和44
㉖ 倉庫他 Storehouse	B・1	351㎡	昭和45~60
㉗ 門衛所 Gatekeeper house	S・1	24㎡	平成16
計		32,895㎡	

(出典 学校要覧 2012 38 頁)

各学科・専攻の学年ごとの在学者数

■学生定員・現員 Number of Students

(平成24年4月1日現在)
As of April 2012

準学士課程 Semi-Advanced Courses

区分 Classification 学科 Dept. of	総定員 Capacity Statutory Total	現 員 Present Number					
		1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	合計 Total
機 械 工 学 科 Mechanical Eng.	200	43 (1)	43 (2)	40 (1)	45 (2)[1]	40 (1)[3]	211 (7)[4]
電 気 電 子 工 学 科 Electrical and Electronic Eng.	200	41	45 (7)	39 (5)[1]	45 (2)[1]	43 (4)[2]	213 (18)[4]
電 子 制 御 工 学 科 Control Eng.	200	40 (3)	44 (5)	40 (5)	40 (4)[2]	36 (1)[1]	200 (18)[3]
情 報 工 学 科 Information Eng.	200	43 (12)	44 (5)	45 (11)[1]	41 (9)[2]	35 (10)	208 (47)[3]
環 境 都 市 工 学 科 Civil Eng.	200	41 (16)	43 (13)	42 (9)[1]	42 (8)[1]	34 (17)	202 (63)[2]
合計 Total	1,000	208 (32)	219 (32)	206 (31)[3]	213 (25)[7]	188 (33)[6]	1034 (153)[16]

専攻科 Advanced Engineering Courses

区分 Classification 専攻 Course	総定員 Capacity Statutory Total	現 員 Present Number		
		1年 1st	2年 2nd	合計 Total
機 械 ・ 電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻 Mechanical and Electrical Course	16	17	16 (1)	33 (1)
制 御 ・ 情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻 Control and Information Course	16	17 (2)	18	35 (2)
環 境 建 設 工 学 専 攻 Civil and Environmental Course	8	7 (1)	7 (2)	14 (3)
合計 Total	40	41 (3)	41 (3)	82 (6)

(注) () は女子学生を内数で示す。

(注) () は女子、[] は留学生で内数

(出典 学校要覧 2012 33 頁)

改修・増築した施設



学友会館

学生自治活動の場に合宿施設の機能を統合した。(改修)



課外活動館

トレーニングルームとものづくり展示室がある。(合宿所を改修)



実験実習棟

部屋の配置を換えるなど全面的に使いやすくなった。(改修)



女子寮

収容数増で遠隔地や留学生の女子の入寮が可能となった。(増築)



図書・ネットワークセンター棟

図書館とネットワークセンターを統合した。(改修)

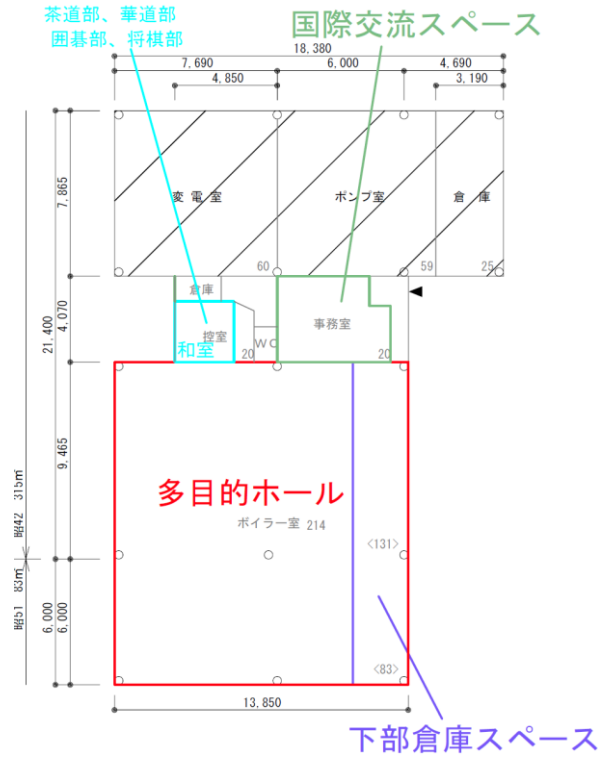


講義棟B

音楽や美術で使える講義室に改装中である。(ボイラー室を改修)

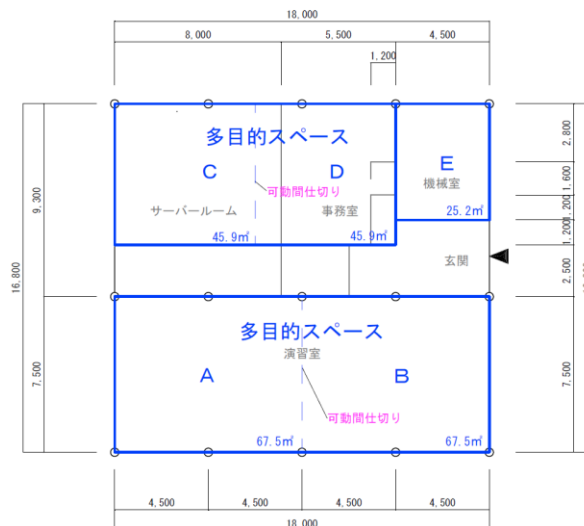
(出典 当該施設の現況写真)

エネルギー棟とネットワーク情報センター跡地の利用



エネルギー棟 平面図 398㎡

講義棟 B



ネットワークセンター 平面図 302㎡

講義棟 C

(出典 平成 24 年 6 月 6 日施設整備専門委員会配布資料)

資料 8 - 1 - ① - 5

学習教育目標と対応する施設

学習到達目標		対応する施設
1. 人間形成 健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。	(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。	講義室, 図書館, 体育施設, 学友会館, 合宿研修施設, コミュニティールーム
	(2) 深く社会について理解し広い視野が持てるよう、豊かな教養を身につける。	講義室, ネットワーク情報センター, 図書館
	(3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, オープンラボ, 実習工場
2. 科学技術の修得 自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論及び原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。	(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, ネットワーク情報センター, ゼミ室
	(2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, ネットワーク情報センター, ゼミ室, 実習工場
	(3) 実験・実習を通して、ものづくりに必要な力を身につける。	実験室, 演習室, ものづくり室, ネットワーク情報センター, 実習工場, オープンラボ, 地域共同テクノセンター
3. コミュニケーション能力 高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。	(1) 日本語の記述能力を身につける。	講義室, 図書館
	(2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。	講義室, 演習室, ゼミ室, ネットワーク情報センター
	(3) 情報技術を使いこなし、発表・討論ができる能力を身につける。	講義室, 演習室, ゼミ室, ネットワーク情報センター
4. 創造力 自ら工夫して新しいものを造り出す問題発見・解決型の技術者。	(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して、修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、問題を発見し、解決する能力を身につける。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, ゼミ室, オープンラボ, ものづくり室, 地域共同テクノセンター, 実習工場, ネットワーク情報センター

(出典 施設整備専門委員会資料)

資料 8-1-①-6

講義室の概要

名 称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	設 備 等
講義室 (20 室)	84	40	2.1	総合教育棟 2～4 F	スクリーン, LANコンセント, 無線LANア クセスポイント, 空調・換気設備
第1講義室	201	200	1.0	総合教育棟 1 F	スクリーン, 液晶プロジェクタ, 音響設備, ビ デオ・DVDプレーヤ, LANコンセント, 無 線LANアクセスポイント, 空調・換気設備
第2講義室	129	100	1.3	講義棟A 2 F	スクリーン, 液晶プロジェクタ, ビデオ・ DVDプレーヤ, 音響設備, 空調・換気設備
第3講義室	80	50	1.6	講義棟A 1 F	スクリーン, 液晶プロジェクタ, ビデオ・ DVDプレーヤ, 音響設備, 空調・換気設備
第4講義室	84	40	2.1	総合教育棟 2 F	スクリーン, 液晶プロジェクタ, ビデオ・ DVDプレーヤ, 無線LANアクセスポイン ト, 音響設備, 空調・換気設備
第5講義室	64	40	1.6	一般研究棟 1 F	スクリーン, 液晶プロジェクタ, ビデオ・ DVDプレーヤ, LANコンセント, 音響設 備, 空調・換気設備
マルチメディア 講義室A	84	40	2.1	総合教育棟 2 F	電源・LANコンセント付机, スクリーン, ビ デオ・DVDプレーヤ, 液晶プロジェクタ, 音 響設備, 空調・換気設備
マルチメディア 講義室B	84	40	2.1	総合教育棟 2 F	電源・LANコンセント付机, スクリーン, ビ デオ・DVDプレーヤ, 液晶プロジェクタ, 音 響設備, 空調・換気設備
マルチメディア 講義室C	98	50	2.0	講義棟A 2 F	背面投射型ディスプレイ, ビデオ・DVDプレ ーヤ, 教材提示装置, パソコン, LANコンセ ント, 音響設備, 空調・換気設備
特別教室 ^{*1}	129	48	2.7	講義棟A 1 F	LAN接続パソコン (49 台), 音響・映像設 備, 教材提示装置, LANコンセント, 空調・ 換気設備
階段教室	140	140	1.0	科学実験棟 1 F	スクリーン, 液晶プロジェクタ, 音響設備, ビ デオ・DVDプレーヤ, LANコンセント, 無 線LANアクセスポイント, 空調・換気設備
視聴覚室 ^{*2}	80	40	2.0	講義棟A 1 F	スクリーン, 液晶プロジェクタ, 音響設備, ビ デオ・DVDプレーヤ, 教材提示装置, 空調・ 換気設備
専攻科講義室A	74	40	1.9	第3研究棟 1 F	スクリーン, 液晶プロジェクタ, LANコンセ ント, ビデオ・DVDプレーヤ, 空調・換気設 備
専攻科講義室B	75	40	1.9	第3研究棟 1 F	スクリーン, 液晶プロジェクタ, LANコンセ ント, ビデオ・DVDプレーヤ, 空調・換気設 備

※1 マルチメディアを用いた授業を想定。主に語学教育に使用。

※2 視聴覚教材を用いる授業を想定。

(出典 施設整備専門委員会資料)

資料 8-1-①-7

基礎科目系実験室の概要

名 称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	主 な 設 備 等
化学実験室	104	40	2.6	科学実験棟 1 F	純水製造装置, 恒温真空乾燥炉, 電子天秤, 電気炉, ドラフトチャンバ
物理第 1 実験室	104	20	5.2	科学実験棟 2 F	旋光計, 線膨張率測定装置, 光度計, 分光器 剛性率測定装置, ヤング率測定装置
物理第 2 実験室	104	20	5.2	科学実験棟 2 F	紫外分光光度計, GM計数管, 電気炉, 人工 気象室, 霧箱
基礎実験室	36	5	7.2	科学実験棟 2 F	マルチ分光測定システム, UVレーザ装置, 蛍光画像解析装置, ハイパースペクトラルイ メージング装置

(出典 施設整備専門委員会資料)

資料 8-1-①-8

機械工学科実験室の概要

名 称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	主 な 設 備 等
流体実験室	134	14	9.6	第 1 研究棟 1 F	エッフェル型三次元風洞装置, P I V解析シ ステム, 熱線計測システム, 流体力測定シス テム
機械材料実験室	85	14	6.1	第 1 研究棟 1 F	インストロン式万能試験機, 硬さ試験機, シ ャルピー衝撃試験機, 光学顕微鏡
機械加工実験室	30	5	6.0	第 1 研究棟 3 F	研磨実験装置, パソコン
精密測定実験室	64	14	4.6	第 1 研究棟 3 F	レーザ干渉計, オートコリメータ, パソコ ン, 表面粗さ計, 濁度計
MEシステム 工学専攻実験室	43	5	8.6	第 1 研究棟 3 F	運動機構解析システム, 6足ロボット, パソコン
自動制御実験室	64	14	4.6	第 1 研究棟 3 F	倒立振り子実験装置, 2関節ロボットアーム実 験装置, 6脚ロボット, パソコン
自動化第 1 実験室	64	9	7.1	第 1 研究棟 3 F	FA実験装置, XYテーブル実験装置, エアハンド実験装置, パソコン
自動化第 2 実験室	21	5	4.2	第 1 研究棟 3 F	オシロスコープ, 卓上NCフライス盤, ボー ル盤, パソコン
機械要素実験室	60	14	4.3	実験実習棟 1 F	動力循環式歯車試験機, 動力吸収式プラスチ ック歯車試験機, 歯形試験機
内燃機関実験室	63	14	4.5	実験実習棟 1 F	内燃機関性能試験装置, 熱研式断熱熱量計, 引火点試験機, レッドウッド粘度計, 排ガス 計測装置, 高速度カメラ, PCクラスタ
機械力学実験室	74	14	5.3	実験実習棟 1 F	加振器, FFT分析器 3 台, 防音室 動釣り合い試験機, 赤外線サーモグラフィ

(出典 施設整備専門委員会資料)

資料 8-1-①-9

電気電子工学科実験室の概要

名 称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	主 な 設 備 等
高電圧実験室	45	6	7.5	第1研究棟 1F	雷インパルス電圧発生装置, 雷インパルス用 基準クラス分圧器, カレントトランスセット
電力実験室	107	10	10.7	第1研究棟 1F	3相交流実験装置, ATP-EMTP電力輸 送システムシミュレータ
コンピュータ 工学実験室	64	25	2.6	第1研究棟 2F	多機能汎用画像解析システム, ハイスピード カメラ, 直流安定化電源(1600W), デジタル アナライザ
電子工学実験室	112	24	4.7	第1研究棟 4F	FFT, インピーダンスアナライザ, ネット ワークアナライザ, オーディオアナライザ
電子材料実験室	128	20	6.4	第1研究棟 4F	近接昇華装置, 太陽電池特性測定装置, 容量 電圧特性測定装置, 分光感度測定装置, 蛍光 寿命測定装置, 分光光度計, マルチチャンネル 分光器, ドラフトチャンバ, 超純水製造装 置
電子計測実験室	64	18	3.6	第1研究棟 4F	マイクロ波ベクトルネットワークアナライ ザ, スペクトラムアナライザ, マイクロ波シ グナルゼネレータ, 電波暗箱装置
ミリ波実験室	32	8	4.0	第1研究棟 4F	マルチターゲット高周波スパッタ装置, シングルターゲット高周波スパッタ装置, リアクティブイオンエッチング装置
サブミリ波 実験室	32	8	4.0	第1研究棟 4F	電子ビーム露光装置, 走査型プローブ顕微 鏡, 原子間力顕微鏡, クリーンベンチ, ドラ フトチャンバ, 純水製造装置
電子情報通信 実験室	64	18	3.6	第1研究棟 4F	マイクロ波実験装置, 高感度パワーメータ, マイクロ波アナログ・シグナルゼネレータ, 定在波測定器
電子応用実験室	64	24	2.7	第1研究棟 4F	自動制御モデルプラント, オシロスコープ, デジタルアナライザ, ケルビンダブルブリッ ジ
MEシステム 工学専攻実験室	74	8	9.3	第3研究棟 2F	スペクトラムアナライザ, ガウスメータ, 電 気炉, ホットスターラー, デシケータ
電気機器実験室	103	19	5.4	実験実習棟 1F	インバータ実験システム, 誘導電動機特性測 定装置, 同期電動機特性測定装置, 直流電動 機特性測定装置
ものづくり 実験室	69	40	1.7	実験実習棟 1F	パソコン, スクリーン, プロジェクタ

(出典 施設整備専門委員会資料)

電子制御工学科実験室の概要

名 称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	主 な 設 備 等
強度・振動 実験室	90	10	9.0	第2研究棟 1 F	材料試験機, 振動実験装置, パソコン, 直流電源, ファンクションジェネレータ, デジタルオシロ, データレコーダー, 定盤, 小型 NC フライス盤, CIP 装置
計測実験室	68	10	6.8	第2研究棟 2 F	4足歩行ロボット, 5自由度マニピュレータ構造可変型移動ロボット, 2足歩行ロボットペットロボット
計算機演習室 1	60	10	6.0	第2研究棟 2 F	パソコン, 実験台, 計測機器
計算機演習室 2	60	10	6.0	第2研究棟 2 F	直流電源, オシロ, デジタルマルチメータ, ファンクションジェネレータ, 電流計, 汎用カウンタ, 照度計, 風速計
システム工学 実験室	34	6	5.7	第2研究棟 3 F	パソコン, 実験台, 計測機器, ホルタ心電計, 小型 NC フライス盤
D J システム 工学専攻実験室	68	8	8.5	第2研究棟 3 F	パソコン, 実験台, 計測機器
電子工学 第1実験室	60	8	7.5	第2研究棟 3 F	直流電源, デジタルオシロ, 発振器, ピコアンメータ, デジタルマルチメータ, 水分計, 標準マイクロホン, インサーキットデバッグ
電子工学 第2実験室	68	10	6.8	第2研究棟 3 F	ナノボルトメータ, ソースメータ, デジタルマルチメータ, 標準電圧電流源
クリーンルーム	30	4	7.5	第2研究棟 3 F	真空蒸着器, 分光分析装置, 電気炉, 極低温冷凍機, 純水生成装置, クリーンベンチ, ドラフトチャンバ, 電子天秤
電子制御 第1実験室	135	40	3.4	第2研究棟 4 F	直流電源, オシロスコープ, 電流計, 電圧計, 発振器, 標準電圧源, ペンレコーダ, シーケンス実験装置, レーザ変位計, 測長機器, 論理回路実験装置, カーブトレーサ
電子制御 第2実験室	68	20	3.4	第2研究棟 4 F	パソコン, ファイルサーバ, マイコン開発支援装置
制御工学実験室	60	10	6.0	第2研究棟 4 F	計測機器, パソコン, モーションキャプチャ装置
情報工学実験室	60	10	6.0	第2研究棟 4 F	パソコン, 基板加工機, ネットワークアナライザ, スペクトラムアナライザ, オシロスコープ, 直流安定化電源, 高周波発振器
工作室	15	3	5.0	第2研究棟 4 F	ボール盤, プリント基板加工機

(出典 施設整備専門委員会資料)

情報工学科実験室の概要

名 称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	主 な 設 備 等
計測システム 実験室	48	5	9.6	第3研究棟 2F	パソコン, プリンタ, 信号メモリ装置, シンクロスコープ
認知科学実験室	57	5	11.4	第3研究棟 2F	パソコン, プリンタ, ノートパソコン, スキ ャナ, アイマークレコーダ
画像情報 実験室	39	10	3.9	第3研究棟 3F	パソコン, ワークステーション, プリンタ, 画像評価実験装置
光学情報実験室	54	10	5.4	第3研究棟 3F	パソコン, ノートパソコン, 計算機ホログラ フィ装置, G P G P U 装置
情報回路実験室	97	50	1.9	第3研究棟 4F	パソコン, デジタルストレージオシロ, アナログオシロ, デジタルマルチメータ
回路工作室	27	6	4.5	第3研究棟 4F	ハンドソー, フライス盤, ボール盤, ハイト ゲージ, 定盤
情報数理実験室	39	11	3.5	第3研究棟 4F	パソコン, プリンタ, スキャナ
情報工学応用 実験室	36	10	3.6	第3研究棟 4F	パソコン, プリンタ, スキャナ
情報物理実験室	51	11	4.6	第3研究棟 5F	パソコン, 6自由度計測装置, プリンタ, ロ ボット, HMD, アイマークレコーダ
認識システム 実験室	46	11	4.2	第3研究棟 5F	パソコン, ワークステーション, プリンタ, スキャナ, M I D I 楽器
総合情報実験室	51	12	4.3	第3研究棟 5F	パソコン, プリンタ, 力覚提示ユニット, 3Dプリンタ, 力計測センサ
並列処理システ ム実験室	39	10	3.9	第3研究棟 5F	パソコン, サーバ, スキャナ, プリンタ
知能情報実験室	54	11	4.9	第3研究棟 5F	パソコン, プリンタ, スキャナ

(出典 施設整備専門委員会資料)

環境都市工学科実験室の概要

名 称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	主 な 設 備 等
水理実験室	149	40	3.7	第1研究棟 1F	傾斜可変開水路, 実験用管水路, 自動流量制御システム, 流量計測装置付量水槽, 開水路用模型, 基礎水理実験装置, 固定水路兼造波水槽, 回流水槽, 魚道ユニット, 魚群行動観察用カメラ, ピート管, デジタルマノメータ, 電磁流速計, タッチディスプレイ
測量リモセン 実験室	45	20	2.3	第1研究棟 1F	トータルステーション, プラニメータ, 測距儀, 製図用具
環境工学実験室 (A)	45	20	2.3	第1研究棟 2F	恒温室, 極低温保冷库
環境工学実験室 (B)	15	5	3.0	第1研究棟 2F	研究用パソコン
衛生工学分析室	64	25	2.6	第1研究棟 2F	ドラフトチャンバ, 高圧蒸気滅菌器, UV計, インキュベータ, TOC計
精密実験室	21	5	4.2	第1研究棟 2F	クリーンベンチ, 極低温保冷库
衛生工学装置 実験室	64	25	2.6	第1研究棟 2F	ガスクロマトグラフ計, マップル炉, 乾熱滅菌器, 環境試験装置, 光学顕微鏡
環境構造実験室	45	10	4.5	第2研究棟 1F	200kN 疲労試験機, 動ひずみ測定装置, データロガーシステム
CC専攻実験室	38	4	9.5	第3研究棟 2F	数値解析用パソコン, レーザープリンタ
都市創造実験室	293	50	5.3	実験実習棟 1F	土質試験装置, 正・逆断層変位試験装置, 画像計測装置, 地盤簡易支持力測定装置, 500kN 耐圧試験機, 各種加工工具, 2000kN 耐圧試験機, 50Lパン型ミキサー, 中性化促進装置, 恒温恒湿層
都市創造 レクチャー室	79	40	2.0	実験実習棟 1F	プロジェクタ, 映像音響機器 土質・コンクリート材料用各種実験器具

(出典 施設整備専門委員会資料)

資料 8-1-①-13

演習室の概要

名 称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	設 備 等
CAD室	132	42	3.1	第1研究棟 2F	製図用パソコン, プロジェクタ映写設備, 図面 印刷用大判プリンタ, LANコンセント, 空調 ・換気設備
M科製図室	175	45	3.9	第1研究棟 3F	ドラフター, LANコンセント, 空調・換気設 備, パソコン
計算機演習室	122	45	2.7	第3研究棟 3F	パソコン, プリンタ, 空調・換気設備, 映像配 信装置, 書庫カメラ, LANコンセント

(出典 施設整備専門委員会資料)

資料 8-1-①-14

ゼミ室の概要

名 称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	設 備 等
共通ゼミ室A	45	15	3.0	一般研究棟 2F	空調・換気設備, 流し台, LANコンセン ト, 机, 椅子, ホワイトボード
共通ゼミ室B	30	15	2.0	第2研究棟 1F	空調・換気設備, 流し台, LANコンセン ト, 机, 椅子, ホワイトボード
専攻科ゼミ室A	30	8	3.8	第1研究棟 2F	空調・換気設備, 流し台, LANコンセン ト, 机, 椅子, ホワイトボード
専攻科ゼミ室C	28	8	3.5	第3研究棟 1F	空調・換気設備, 流し台, LANコンセン ト, 机, 椅子, ホワイトボード

(出典 施設整備専門委員会資料)

資料 8-1-①-15

実習工場の概要

広 さ	延べ床面積 558m ²
快適さ	平成 21 年度の改修により, 自然光を取り入れながら最新の空調・排気設 備を備えた明るく快適な空間に生まれ変わった。
使いやすさ	専任の技術職員がいるので, 授業時間外であっても工作機械の使用法の 指導を受けることができる。また, 卒業研究や教員研究および実験に関 する装置や部品の製作依頼も可能である。
設 備	鋳造用LPガス溶解炉, 鋳物用砂試験設備, 被覆アーク・ガス溶接集合 装置, 旋盤, CNC旋盤, CNCフライス盤, NC平面研削盤, マシニ ングセンタ, 炭酸ガスレーザ加工機, 表面粗さ測定機, 真円度測定機
備 考	公開講座や産学連携を通して, 外部にも広く公開している。

(出典 施設整備専門委員会資料)

資料 8 - 1 - ① - 16

図書館の概要

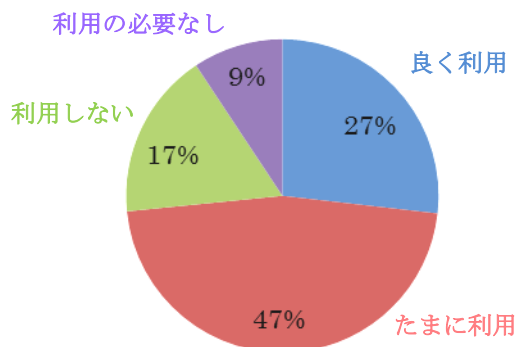
広 さ	延べ床面積 1,771m ² (図書館の国立学校建物基準面積は 1,600m ²)
快適さ	空調・換気設備完備。フリー閲覧スペースあり, インターネット・マルチメディア室あり。休憩室あり。
使いやすさ	開館時間は, 平日 8:30~20:00 土曜日 12:00~17:00 (長期休業中は 平日 8:30~17:00) オンライン蔵書検索システムが稼働している。 一般開放を行っている。
備 考	電子ジャーナルが利用できる。

(出典 施設整備専門委員会資料)

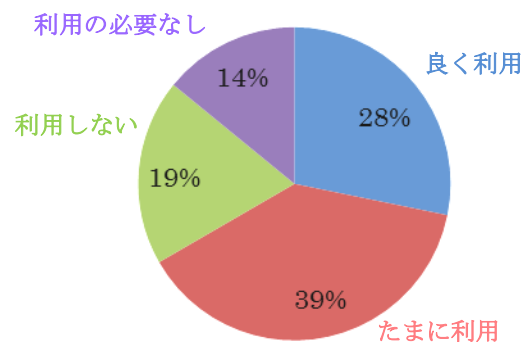
資料 8 - 1 - ① - 17

図書館利用度アンケート結果

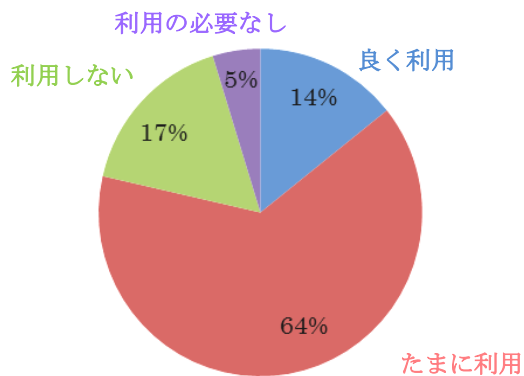
準学士課程学生



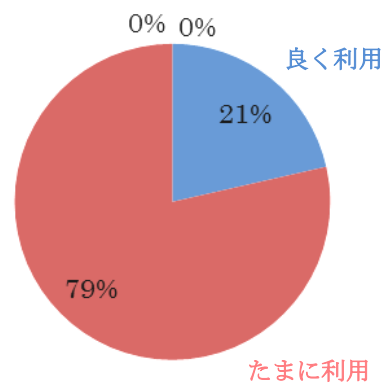
専攻科学生



教員



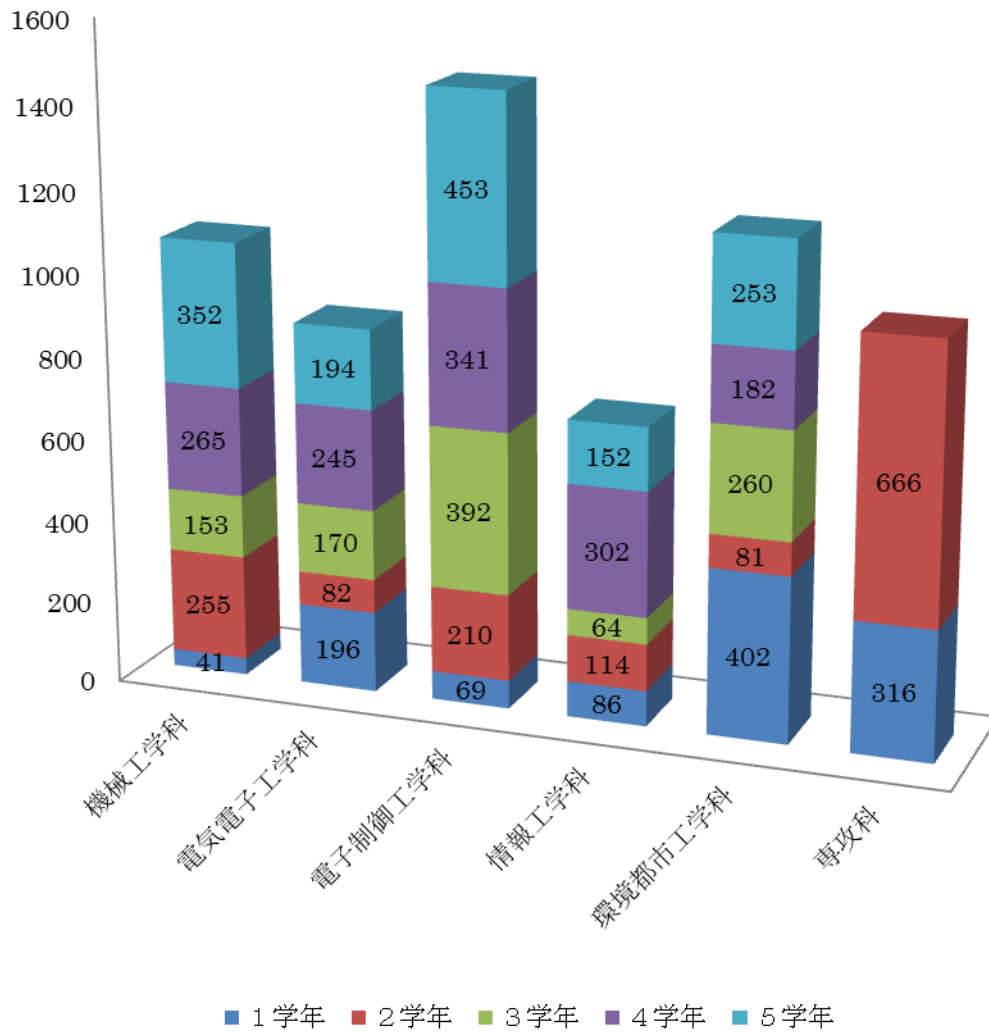
技術職員



(出典 点検・評価委員会資料)

資料 8-1-①-18

図書館蔵書の貸出数



(出典 図書館だより第 32 号 20 頁)

資料 8-1-①-19

ネットワーク情報センターの概要

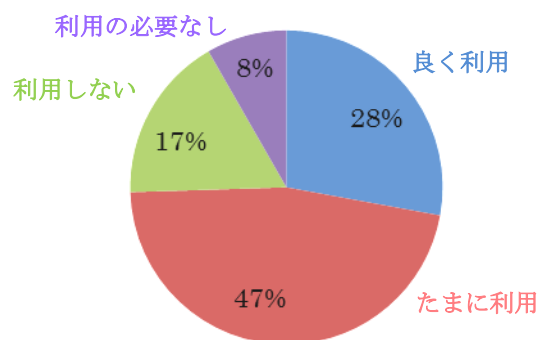
広 さ	延べ床面積 253m ² (演習室の広さは 182m ² 。学生一人当たり 3.7m ² 程度確保。)
快適さ	空調・換気設備完備。Gigabit・Ethernet で学内およびインターネットに接続可能。
使いやすさ	開館時間は、平日 8:30～20:00 授業や行事等を除けば、学生は自由に使用することができる。 パソコン系の雑誌等完備。
設 備	学生用パソコン 49 台，教員用パソコン。教材提示装置。大判プリンタ。 パソコンには情報系の授業に対応できる各種アプリケーションが導入されている。
備 考	平成 25 年 3 月末に図書館の 1 階に移転し、ネットワーク機器やサーバ類をすべて更新した。

(出典 施設整備専門委員会資料)

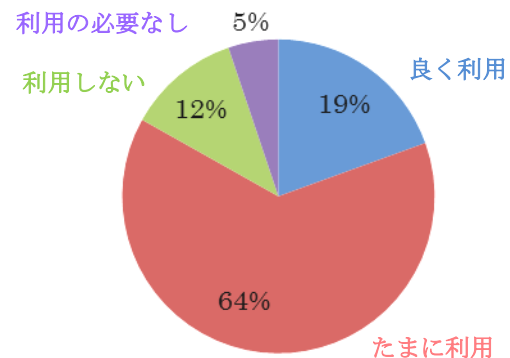
資料 8-1-①-20

ネットワーク情報センター授業外利用度アンケート結果

準学士課程学生



専攻科学生



(出典 点検・評価委員会資料)

資料 8-1-①-21

体育施設の概要

名 称	面積 (m ²)	利用条件	設備など
グラウンド	30,000	授業, 学校行事, 課外活動, 学友会 活動の優先順で使用 することができる。 これ以外については, 学生課学生係に使用 願いを 出して利用する。	400mトラック (トラック内はサッカー・ラグビー 場), 野球場, ホッケー場, 体育器具庫, トイレ
第1体育館	1,152		バスケットコート, 卓球台, トレーニング設備, 舞 台設備, シャワー, トイレ
第2体育館	879		バレーボールコート, バスケットボールコート, ト イレ
武道場	311		柔道・剣道・空手場
テニスコート (4面)	2,300		テニスコート
プール	258		25m 屋外プール, シャワー, 更衣室
トレーニングルーム	75		トレーニング設備

(出典 施設整備専門委員会資料)

資料 8-1-①-22

オープンラボの概要

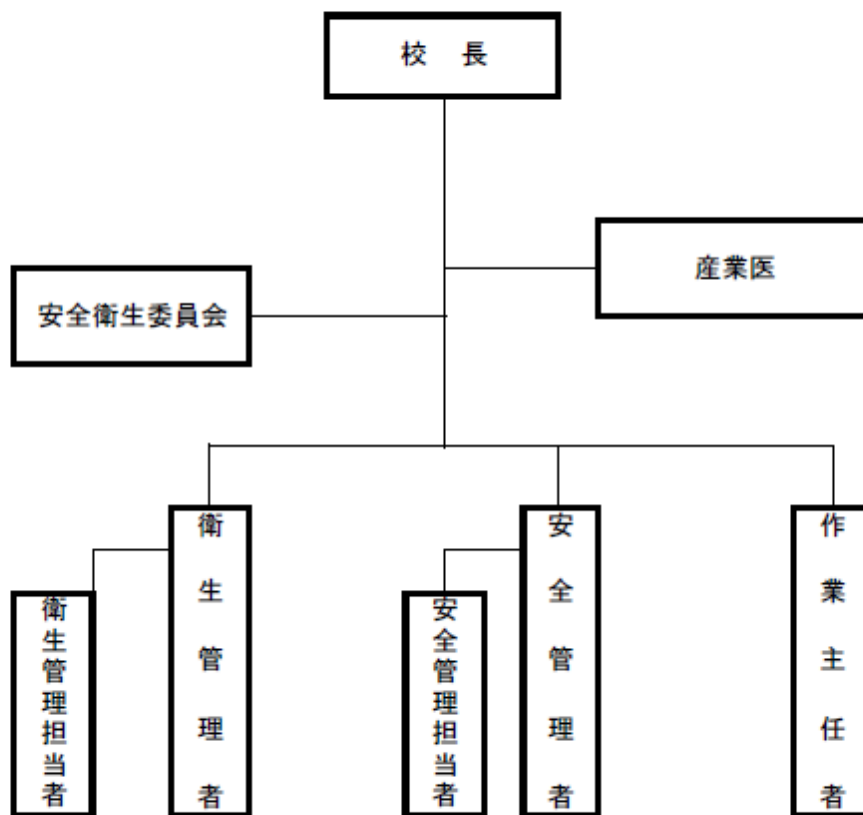
名 称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	設 備 等
オープンラボA	64	10	6.4	一般研究棟 2F	空調・換気設備, 実験台, LANコンセ ント, デジタルマイクロスコープ, イン キュベータ, オートクレーブ, 触針式表面形 状測定器, 高速冷却遠心分離器
オープンラボB	64	15	4.3	第1研究棟 2F	空調・換気設備, 流し付実験台, LANコ ンセント, ドラフトチャンバ, 乾燥炉, イ ンキュベータ, 光学顕微鏡, 作業台
オープンラボC	45	6	7.5	第1研究棟 3F	空調・換気設備, 実験機, LANコンセ ント, 衝撃試験機, 紫外線照射装置, バフ研 磨機
オープンラボD	68	11	6.2	第2研究棟 2F	空調・換気設備, LANコンセント, パソ コン, 生体情報計測装置, シールド計測ユ ニット
オープンラボE	68	20	3.4	第2研究棟 2F	空調・換気設備, 流し台, スチール棚, 作 業机, LANコンセント, パソコン, ファ イルサーバ, ルータ, レゴ・マインドスト ーム

(出典 施設整備専門委員会資料)

安全衛生管理体制

別表第1

木更津工業高等専門学校安全衛生管理体制組織



(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成16年4月1日規則第14号別表第1)

安全衛生推進に関する活動計画

平成22年度安全衛生推進計画

事業場名:木更津工業高等専門学校
 代表者氏名:工藤敏夫
 総括安全衛生管理者(代理)氏名:荒木英彦

基本方針	安全衛生管理・推進体制の確立 — 作ろう安全, 守ろう衛生 —
目 標	校内巡視及び報告の徹底により, 危険要因を取り除き, 災害を未然に防止する。

実施事項	具体的実施内容	活動日程(実施月)												備考	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		実施上の補足説明
安全衛生管理体制の確立	安全衛生委員会の開催	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4月に前年度評価, 計画作成	
	総括安全衛生管理者の職務の遂行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	安全衛生推進計画, 実施事項の調整等	
	各作業主任者の選任と職務遂行の状況確認	随時													
	安全啓蒙ポスターの掲示等	随時												安全週間, 健康週間ポスターの掲示	
職場の安全衛生と作業環境の確保	安全朝礼の実施(教育研究支援センター)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎週1回開催	
	保護具使用の励行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各作業, 作業責任者がチェック	
	作業に適した服装の励行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各作業	
	治具, 工具の選択活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各作業	
	機械, 安全装置の作業前点検の励行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各作業者が作業責任者に報告確認	
	救急用具, 薬品の常備										○			救急箱の定期点検, 常備薬の補充	
	作業環境の整備(測定等)	随時													
健康管理	定期・特殊健康診断の実施	○						○						4定期健康診断, 10成人病健康診断(人間ドック受診者は任意)	
	職場レクリエーションの実施	年度に一度												ボウリング大会	
点検パトロール	職場の安全巡視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	総括安全衛生管理者, 安全管理者・衛生管理者等による巡視	
	安全装置の使用, 有効保持の点検(毎作業時)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	各作業者が作業責任者に報告, 確認後作業	
	委員会指摘事項の点検	随時													
安全衛生教育の実施	雇い入れ, 作業内容変更に伴う安全教育の実施	随時												該当者にその都度実施	
	作業責任者教育(講習会受講)	随時												講習日程確認後, 該当者に通知	
	法定資格者の確保(免許, 技能講習, 特別教育)	随時												衛生管理者受験講習	
	危険予知教育の実施	随時												危機管理講習会, 防災訓練	
	ヒヤリハット事例, 災害事例の周知	随時												安全衛生委員会で事例収集及び周知	
その他の推進事項	各種安全講習会への参加	随時												普通救急救命講習等	

(出典 平成22年度 安全衛生委員会資料)

安全衛生委員会議事録の例

平成24 年度【第1 回】安全衛生委員会議事要旨

1. 日 時 平成24年4月24日（火） 15時10分～16時30分
2. 場 所 会議室A
3. 出席者 荒木(議長)、清野、加藤、鈴木(道)、黄野、大橋、斉藤、湯谷、中村、須賀、今村、田村
4. 議 題
 - (1) 平成24 年度安全衛生委員会委員名簿【資料1】
特になし
 - (2) 平成24 年度安全衛生委員会開催予定（案）【資料2】
議長より、原則、毎月第4木曜日としているが、学校行事等を考慮して資料のとおりとし、特段議題がない月はメール審議などで対応したい旨の説明があった。
 - (3) 平成24 年度安全衛生推進計画（案）【資料3】
議長より、資料のとおり安全衛生推進計画について説明があった。委員より、防災訓練について追記する旨の提案があり、了承された。
 - (4) 平成24 年度安全巡視について【資料4】
議長より、資料の分担表のように毎月点検することとし、改善を要する場合は、人事・労務係へメールで報告するよう提案があった。また、今年度の巡視の重点項目は「避難経路の確保」と「転落事故の防止」としたい旨提案された。
以下の施設については委員以外の協力が不可欠と思われるため、委員以外にも協力を要請した。
 - ・「体育施設」については、清野委員から体育教員に協力を要請する。
 - ・「その他の屋外」については、永井補佐・施設係に協力を要請する。
 - ・「学生寮」については、須賀係長から寮務委員に協力を要請する。
 - (5) 本校における安全管理の仕組みについて【資料5】
議長より、昨年同様、この仕組みに対する関係部署における平成23 年度の改善状況と今後の改善計画を人事・労務係から【資料5-2】により関係部署へ依頼する旨の提案があり、次回委員会で改めてまとめることとなった。
また、委員より、【資料5-1】3)③に事故発生時に必要となる設備の整備という項目を追加する旨の提案があり、了承された。
 - (6) 「緊急災害対策マニュアル」・「危機管理マニュアル」について【資料6】
昨年度修正した「緊急災害対策マニュアル」を配付し、高専機構が作成した「危機管理マニュアル」と照合していき、更に加筆修正を加えることとなった。
4. 連絡・報告
 - (1) 災害発生時における木更津市役所との連携について
現在市の方で避難所に関する協定を進めている旨報告があった。

(出典 平成24 年度 安全衛生委員会議事録)

木更津工業高等専門学校教職員安全衛生管理規則

平成 16 年 4 月 1 日

規 則 第 14 号

(目的)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員の安全衛生に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

2 この規則に定めのある場合のほか、本校における教職員の安全衛生については、労働安全衛生法（昭和 47 年法律第 57 号。以下「安衛法」という。）及びその他関係法令の定めるところによる。

(校長の責務)

第 2 条 校長は、法令及びこの規則の定めるところに従い、教職員の健康の保持増進及び安全の確保に必要な措置を講じなければならない。

(教職員の責務)

第 3 条 教職員は、校長その他の関係者が講ずる健康の保持増進及び安全の確保のための措置に従わなければならない。

(安全衛生管理体制)

第 4 条 校長は、本校における安全衛生管理の業務を統括管理する。

2 本校における安全衛生管理体制は、別表第 1 のとおりとする。

(衛生管理者)

第 5 条 校長は、安衛法第 12 条及び機構安全管理規則第 5 条の定めるところにより、衛生管理者を置く。

2 衛生管理者は、法令に定める必要な資格を有する教職員のうちから校長が選任する。

3 衛生管理者は、次の各号に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 労働者の健康障害を防止するための措置に関すること。
- (2) 労働者の衛生のための教育に関すること。
- (3) 健康診断の実施その他健康の保持増進のための措置に関すること。
- (4) 労働災害の原因の調査及び再発防止対策に関すること。
- (5) 労働災害を防止するため必要な業務で労働安全衛生規則（昭和 47 年労働省令第 32 号。以下「安衛則」という。）で定めるもの。

(安全管理者)

第 6 条 校長は、機構安全管理規則第 6 条の定めるところにより、安全管理者を置く。

2 安全管理者は、安全管理に関する知識、経験又は技能を有すると校長が認めた教職員のうちから校長が選任する。

3 安全管理者は、上司の指揮監督の下に、教職員の安全管理に関する業務の推進者として次に掲げる事務を行うものとする。

- (1) 教職員の危険を防止するための措置に関すること。
- (2) 教職員の安全のための指導及び教育の実施に関すること。
- (3) 労働災害の原因の調査及び再発防止対策に関すること。
- (4) 教職員の安全管理に関する記録及び統計の作成並びにその整備に関すること。

・・・以下省略

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成16年4月1日規則第14号)

実験実習安全必携

実験実習安全必携

独立行政法人
国立高等専門学校機構

まえがき

この冊子は、皆さんが主として実験、実習を安全に行なうために心がけておくべき基本的な事項、及び不幸にも事故や災害が起こった場合にどう対処したらよいかをまとめたものです。一度は熟読し、常に携帯して安全に心がけると共に、緊急事態が発生した場合に適切に対応できるようにしておいてください。

危険はいろんなところに潜んでいます。また、災害は何時起こるかわかりません。皆さんの中には、実験中にヒヤリとしたことはないでしょうか。まかり間違えば大事故に繋がるようなことを経験した人も多いと思います。大きな事故や災害の影には、小さな事故が 29 件、ヒヤリとかハットするような事は 300 件起きているそうです。私たちが身近に経験していることが、ほとんどヒヤリ、ハットや軽度の事故で済んでいるために、あまり深刻に考えていませんが、それはたまたま幸運だったということです。次に同じことが起きたときにはどんなに大きな災害になるかは予測できません。これまで長い間、安全だったからいいだろうではなく、もう一度、この安全必携を参考に、原則に立ち返って日常の行動を見直し、点検してみましょう。また、緊急連絡先なども確認しておき、緊急事態が発生した時に、あわてないようにしておいてください。

安全必携目次

第 I 部 共通

第 1 章 安全一般心得	1
第 2 章 学生実験・実習の心得	2
第 3 章 救護と衛生	3
第 1 節 救急処置一般	3
第 2 節 創傷	8
第 3 節 熱傷	8
第 4 節 ガス中毒	10
第 5 節 感電	11
第 6 節 その他参考事項	11
6-1 熱中症	11
6-2 鼻血	13
6-3 目の外傷	13
6-4 過換気(呼吸)症候群	14
6-5 凍傷	15
第 4 章 火災時の対応	16
第 5 章 地震時の対応	17
第 6 章 爆発時の対応	17
第 7 章 薬品漏洩時の対応	18

第 II 部 作業別安全心得

第 1 章 電気取扱い	19
第 2 章 運搬作業	20
第 3 章 高所作業	20
第 4 章 回転体取扱い作業	21
第 5 章 高熱作業	22
第 6 章 一般化学実験	23
第 7 章 危険物取扱い作業	24
第 8 章 有害物質の取扱い	24
第 9 章 バイオハザードの防止	25
第 10 章 廃棄物・廃水処理心得	26
第 11 章 高圧ガス取扱い作業	27
第 12 章 高圧電気取扱い作業	28
第 13 章 X線取扱い作業	28
第 14 章 レーザー取扱い作業	29
第 15 章 グラインダー研削作業	29
第 16 章 溶接・ガス切断作業	30
第 17 章 容器・ピット内作業	31
第 18 章 VDT(Visual Display Terminal)作業	31

(出典 高専機構安全衛生管理員会編『実験実習安全必携』)

緊急災害対策マニュアル表紙

緊急災害対策マニュアル

独立行政法人国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校

平成 25 年 1 月修正版

(出典 緊急災害対策マニュアル)

緊急災害対策マニュアル表紙裏

はじめに

様々な教育・研究活動が行われている本校では、それに携わる学生および教職員の安全について、常日頃から十分に確認・把握しておくことは極めて重要です。

このマニュアルは、高専機構から示されたガイドラインをもとに、いくつかの高専の資料を参考に、本校において発生または発生が想定される危機に関して、学生や教職員が的確な事前対応及び事中措置ができるようにと、基本的かつ実践的な内容に重点をおいて作成したものです。

なお、当マニュアルの内容は、防災に関する各種状況や、関係者からのご意見等を踏まえて、臨機応変に改善することを目指しています。

当マニュアルに関するご意見等ございましたら、お手数ですが、総務課人事・労務係（内線 4007, ajinji@a.kisarazu.ac.jp）までご連絡をお願いします。

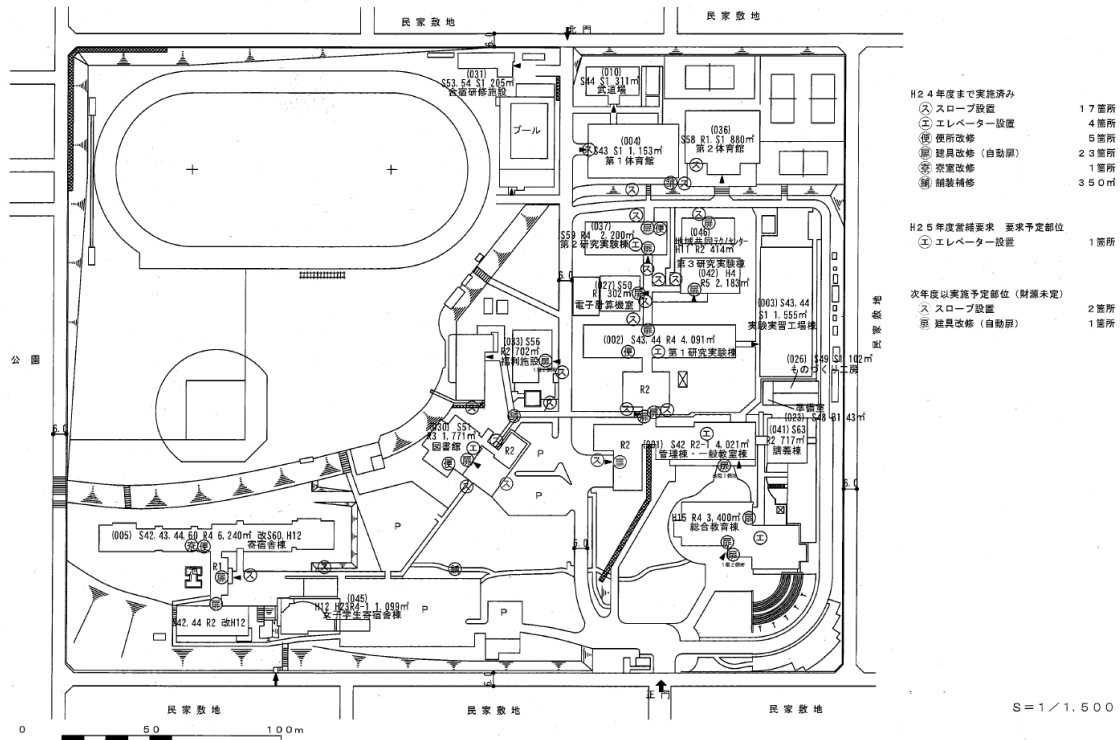
平成 23 年 1 月

安全衛生委員会委員長

(出典 緊急災害対策マニュアル)

バリアフリー化計画

身障者対策年次計画図



- H24年度まで実施済み
 - ① スロープ設置 17箇所
 - ② エレベーター設置 4箇所
 - ③ 便所改修 5箇所
 - ④ 建具改修(自動扉) 2.3箇所
 - ⑤ 窓改修 1箇所
 - ⑥ 舗装補修 35.0㎡
- H25年度着目要求 要求予定部位
 - ① エレベーター設置 1箇所
- 次年度以降実施予定部位(財源未定)
 - ① スロープ設置 2箇所
 - ② 建具改修(自動扉) 1箇所

(出典 総務課身障者対策年次計画資料)

バリアフリー化箇所



スロープ (第2研究棟)



スロープ (第1体育館)



身障者用トイレ (第2研究棟)



段差のない入口 (一般研究棟)



身障者用エレベータ (第2研究棟)



身障者用駐車場 (学生課前)

(出典 当該施設の現況写真)

環境方針

3 環境方針

1. 基本理念

木更津高専は、地球環境問題が現在における最重要課題の一つであると考えます。地域環境との共生を柱とした「環境との調和」と「環境負荷の低減」に努め、持続的発展が可能な社会の創生に貢献します。

2. 基本方針

1) 環境負荷の低減

すべての活動によって発生する地球環境に対する負荷の低減と汚染の予防に努める。

2) 人材育成と研究活動

地域社会との連携による環境保全・回復活動に積極的に参画するとともに、環境負荷の低減に関する教育・研究の推進に努める。

3) 環境関連法令等の遵守

すべての活動に関わる環境関連法規、条例、協定及び自主規制の要求事項を遵守する。

4) 環境意識の高揚

この環境方針を達成するため、環境目的及び目標を設定し、教職員及び学生が協力してこれらの達成に努める。

5) 環境マネジメント

環境マネジメント組織を確立し、環境目的及び目標の継続的改善に努める。

この環境方針は、全教職員及び全学生に周知するとともに、インターネットのホームページを用いて一般に開示します。

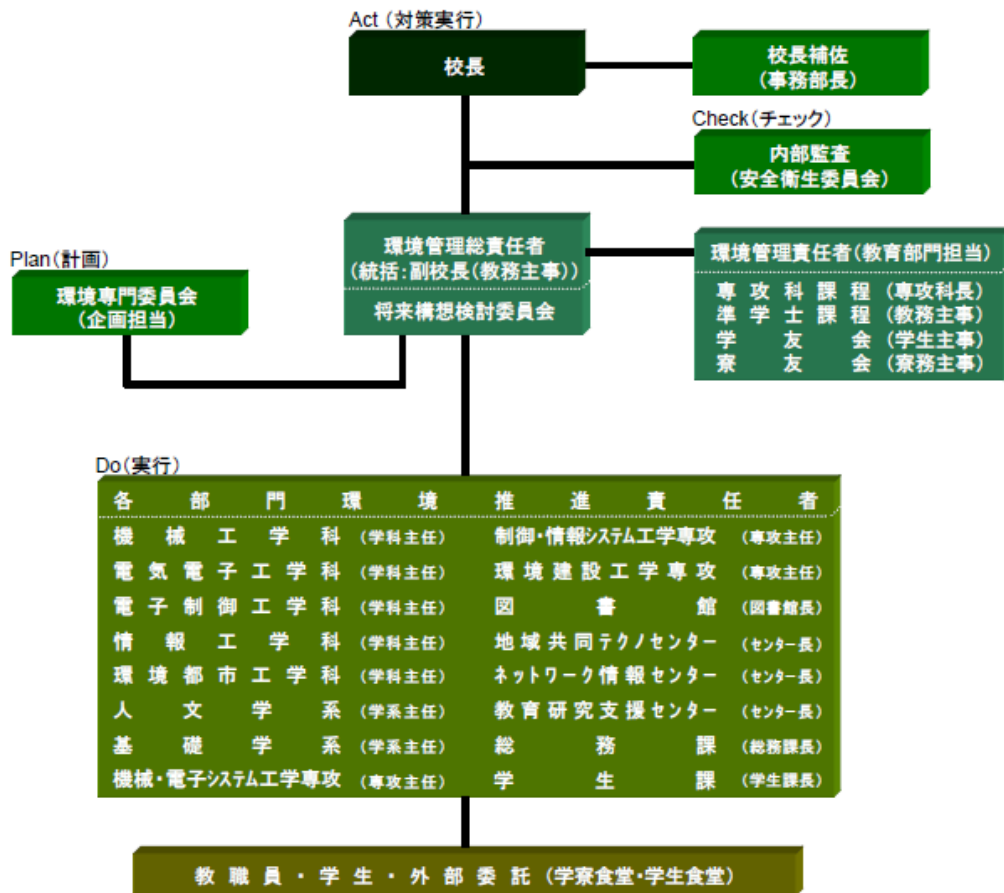
木更津工業高等専門学校
校長 工藤敏夫

(出典 木更津工業高等専門学校環境報告書2012 3頁)

環境マネジメント運用組織図

5 環境マネジメント運用組織(概念図)

本校の環境方針に基づく環境目的・目標を達成するための運用組織は次のとおりとします。各担当部署は、役割及び責任を認識し、積極的に環境問題に取り組まなければなりません。



(出典 木更津工業高等専門学校環境報告書2012 8頁)

環境マネジメント年次計画

6 環境目的・目標及び行動計画(年次計画)

区分	環境目的	環境目標	行 動 計 画					
			行 動 内 容	実 施 予 定 タイムテーブル				
				年 次 計 画	22	23	24	25
環境教育・研究の推進	環境教育の推進	環境意識の向上	環境意識の啓発	○	○	○	○	
			各室週 1 回の清掃活動の実施	○	○	○	○	
			教室週 1 回の清掃活動の実施	○	○	○	○	
			構内一斉清掃の実施(春・秋)	○	○	○	○	
			環境関連事項を取り入れた授業実施及び課外学習の依頼	○	○	○	○	
			環境関連事項を取り入れた授業実施及び課外学習	○	○	○	○	
	環境研究の推進	環境関連研究の実施	環境関連研究の実施	○	○	○	○	
			環境関連共同研究等の実施	○	○	○	○	
			研究成果の公表	○	○	○	○	
学内教員で連携した環境教育・研究プロジェクトの推進	環境関連研究の実施		○	○	○	○		
高専間で連携した環境教育・研究プロジェクトの推進	環境関連研究の実施		○	○	○	○		
地球環境に対する負荷の低減と汚染の防止	無駄なエネルギー使用量の削減	省エネ活動の推進	省エネの PR 活動等	○	○	○	○	
			電 気	不使用時の消灯の徹底	○	○	○	○
				電気機器の節電	○	○	○	○
				空調運転の温度厳守	○	○	○	○
				夏季等の一斉休業の検討	○	○	○	
				夏季等の一斉休業の実施				○
				使用実績の把握公表	○	○	○	○
				太陽光発電の把握公表	○	○	○	○
				省エネ機器への計画的切り替え	○	○	○	○
			ガ ス	配電系統の整備計画の策定	○			
				空調運転の温度厳守	○	○	○	○
				夏季等の一斉休業の検討	○	○	○	
				夏季等の一斉休業の実施				○
			水	使用実績の把握公表	○	○	○	○
				節水のよびかけ	○	○	○	○
				漏水の把握	○	○	○	○
				夏季等の一斉休業の検討	○	○	○	
				夏季等の一斉休業の実施				○
				使用実績の把握公表	○	○	○	○
			電気・ガス・水以外のエネルギー使用実績の把握公表	○	○	○	○	
全体的なエネルギー消費計画の検討	○							
エスコ [※] 導入の検討	○							
エスコ [※] 導入の実施		○	○	○				

(出典 木更津工業高等専門学校環境報告書2012 9頁)

資料 8 - 1 - ① - 33 (2 / 2)

地球環境に対する負荷の低減と汚染の防止	一般廃棄物の減量	ごみの分別の徹底	ごみの分別	○	○	○	○
			ごみ減量と分別の PR 活動	○	○	○	○
			ごみの分別環境の整備	○	○	○	○
			排出量の把握	○	○	○	○
			不要になった物品の学内 HP 上への公開	○	○	○	○
	産業廃棄物の排出量削減	排出状況・排出量の把握	排出状況、排出量の把握	○	○	○	○
			産業廃棄物の適切な管理	○	○	○	○
			排出手続きの法遵守	○	○	○	○
	紙の使用量の削減	使用済み用紙の再利用・印刷物の電子ファイル化の推進	使用済み紙の再使用のよびかけ、両面コピーの推進	○	○	○	○
			印刷物の電子ファイル化の推進				○
	総排水量の適正化	排水量・水質の把握	排水の水質監視公表	○	○	○	○
	環境配慮型製品を優先的購入の推進	環境配慮型製品の購入	実績調査	○	○	○	○
	グリーン購入の取組推進	グリーン購入製品の購入	実績調査	○	○	○	○
	化学物質等の適正管理の維持	毒物・劇物及び高圧ガス等の適切な保管・管理	毒物・劇物及び高圧ガスの適切な保管	○	○	○	○
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)状況の把握	○	○	○	○
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)の監査	○	○	○	○
			不用化学物質の廃棄	○	○	○	○
	環境に負荷の少ないキャンパスづくりの取組を推進する	環境に負荷の少ないキャンパスづくりの取組を増やす	施設・設備を長期間使用するための定期的なメンテナンス計画の検討	○			
			安全と効率化に配慮したキャンパス計画の検討	○			
			学生及び職員がゆとりある生活を送るための環境整備及び校内美化の推進	○	○	○	○
学生による活動	学生による自主的な環境活動の推進	学生による環境調査の実施	学生環境推進委員会(環境レンジャー)による環境運動の実施	○	○	○	○
		学生による自主的な環境活動の推進・支援	取組状況の把握と学内外への積極的な広報活動	○	○	○	○
地域社会との連携	社会貢献の推進	清掃活動の実施	学外清掃活動の実施	○	○	○	○
	地域社会とのコミュニケーションを積極的に行う	地域社会の意見を反映させるためのルールを整備する	地域の環境活動の把握と取組の検討	○	○	○	○
	地域社会への情報公開	環境に配慮した取組を地域に発信する	HP の公開	○	○	○	○

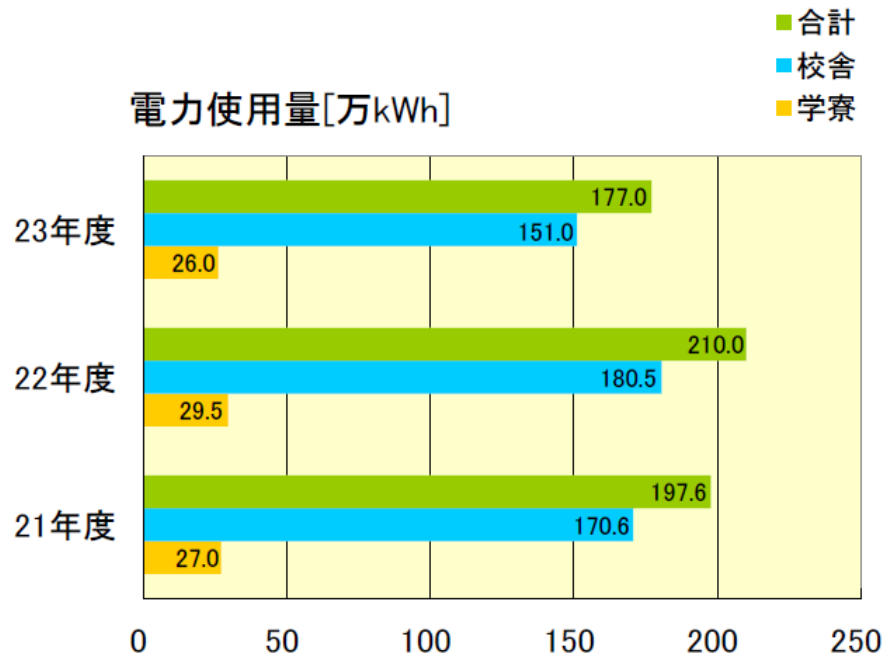
※エスコとは、工場や事務所、オフィスビルや商業施設、公的施設などに対して、エネルギー効率の改善策を提案、コスト削減効果を保証し、削減したエネルギーコストから報酬を得る事業のことです。

(出典 木更津工業高等専門学校環境報告書2012 10頁)

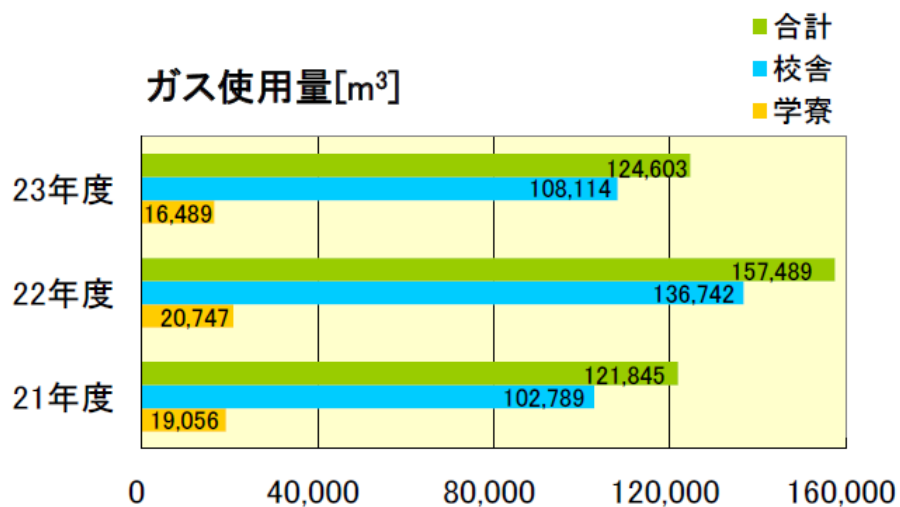
資料 8 - 1 - ① - 34 (1 / 2)

エネルギー消費量

【電力】 校舎は全館に空調を設置しており多くの電力を消費しますが、夏季には軽装で業務を行い、設定温度を適正に定めて節電に努めております。また、老朽化により電気機器を更新する場合には省エネ製品を購入するようにしております。平成 21 年度から平成 23 年度において同じ傾向にあります。



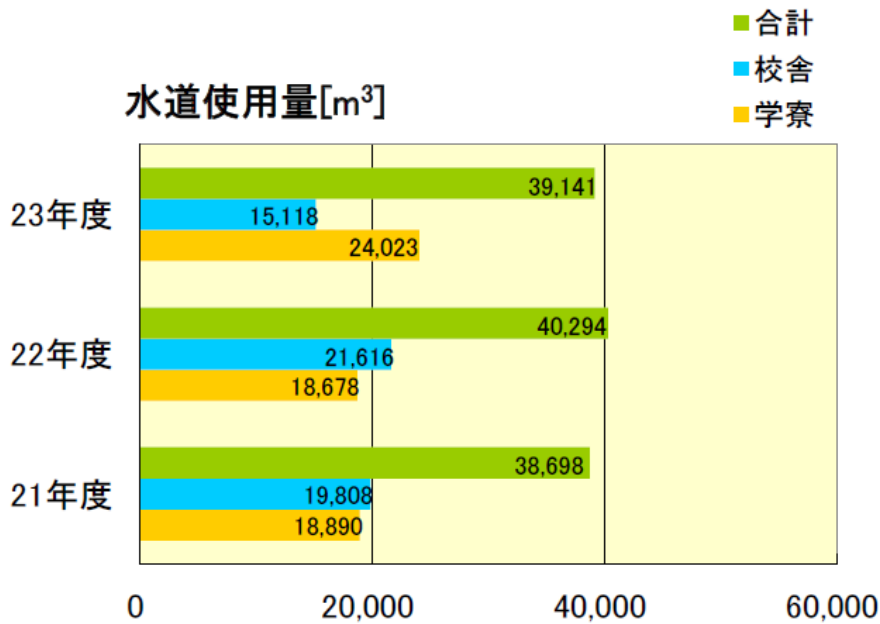
【都市ガス】 木更津高専の空調設備はガスヒートポンプ式のエアコン設備です。平成 22 年度は前年度に比べて 29.3%増加しましたが、平成 23 年度は前年度に比べて約 20.9%削減できました。今後も、不要な部分の空調設備の電源をこまめにオフにして節約に努めて行きます。



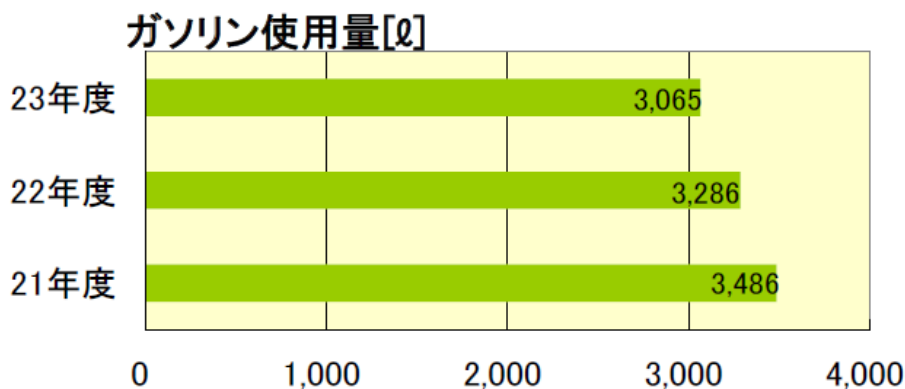
(出典 木更津工業高等専門学校環境報告書2012 13～14頁)

資料 8 - 1 - ① - 34 (2 / 2)

【水道】 水道使用量は、22 年度から 23 年度にかけて減少傾向にあり、23 年度は昨年度に比べて約 3%削減できました。総合教育棟と研究棟の改修部にあるトイレの水道は、閉め忘れによる無駄を防ぐために自動水栓になっています。自動水栓はまた衛生的でもあります。また、校舎には 30 年以上経過し老朽化した部分があります。メンテナンスを適正に行い漏水量を最小に抑えて無駄な水道の消費減に努めます。



【ガソリン】 ガソリン消費量は、21 年度から 23 年度にかけて減少傾向にあり、23 年度は昨年度に比べて約 7%削減できました。調査研究、地域共同連携活動、課外活動などでの公用車の利用に使われています。クラス単位での大勢の移動が必要な場合は、バスを借り上げて利用しております。



(出典 木更津工業高等専門学校環境報告書2012 15頁)

(分析結果とその根拠理由)

総合教育棟に集約された講義室をはじめ、他の棟の講義室や多数の実験室、演習室等が学習のために整備され、活用されている。また実習工場や体育施設も充実しており、これらにより学習教育目標が達成できると判断できる。オープンラボなどの共有スペースも広く、これにより建物の有効活用がなされている。さらには、安全衛生や施設・設備のバリアフリー化および環境面への配慮も十分なされている。

観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす ICT 環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校の ICT 環境を提供する情報ネットワーク (資料 8-1-②-1) は、平成 24 年度末に最新鋭のものに更新された。これの基幹は光ファイバーで接続され、教員室、実験室、事務室までの端末もメタルケーブルとスイッチングハブを更新することにより学内全体で Gigabit・Ethernet による情報の高速伝送が可能になった。ネットワークを管理するための中心となるネットワーク情報センターには 13 台のサーバが設置され、電子メール、ウェブページサイト、ファイルサーバ、インターネット接続等の機能を分担している。

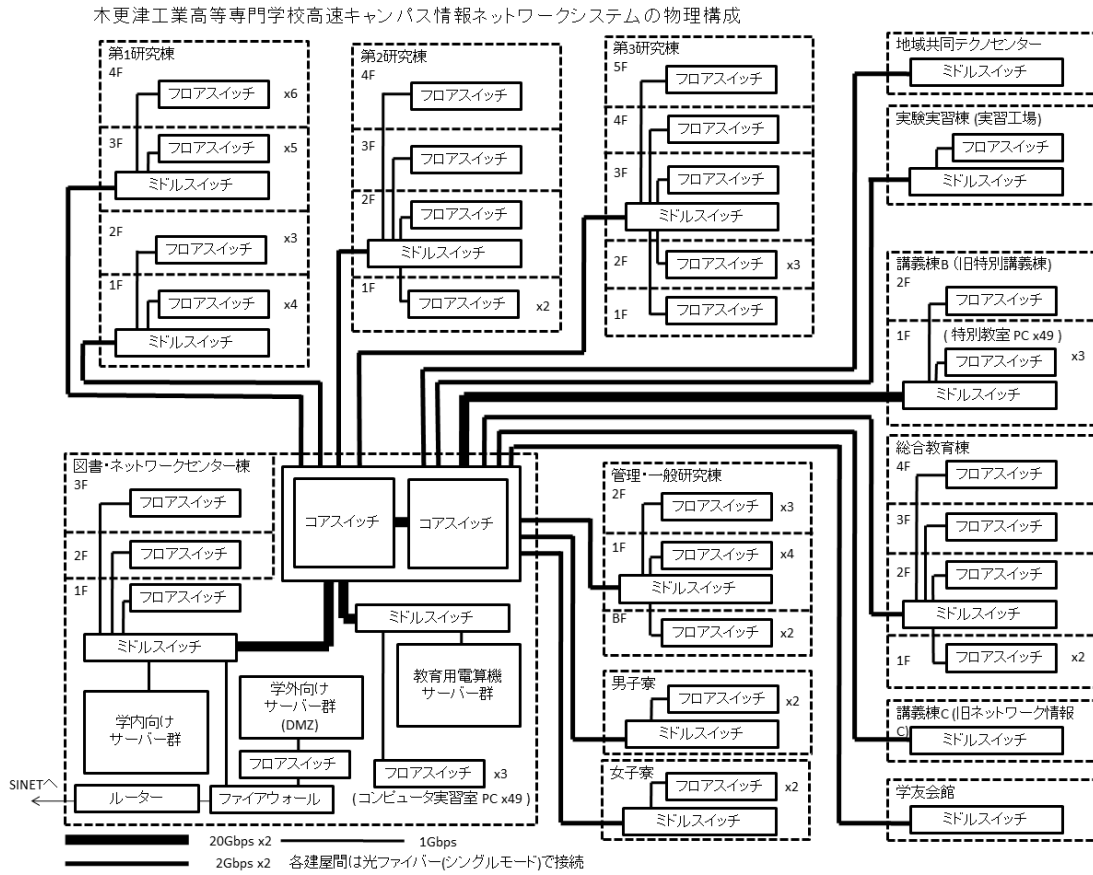
平成 25 年度からは、従来はネットワーク情報センターに設置されていたサーバールームと演習室を図書館の 1 階に移転して、統合的な情報収集ができる拠点とした (資料 8-1-②-2~3)。これにより、図書館とネットワーク情報センターの双方の利用率が上がることを期待している。

学生には年度初めにネットワーク情報センター利用の手引 (資料 8-1-②-4) 及びセキュリティポリシーに基づいて作成したネチケット (情報倫理) (資料 8-1-②-5) を配付し、センターの利用方法やネットワークのモラルについての講習を行っている。

資料 8-1-②-6 に示すように授業でも多く利用されているが、資料 8-1-①-20 で示したように、授業時間外での利用も多い。また、移転統合にともない閉館時間を図書館の 20:00 に合わせることで、ネットワーク情報センターを 17 時以降に利用したいという学生の要望に応えることが可能となった。改修前であっても、学生と教職員の利用満足度は資料 8-1-②-7 に示すように高く、利用時間延長によりさらに満足度と利用度が上がるものと思われる。

ネットワーク情報センターと学内ネットワークの管理・運営は、ネットワーク情報センター運営部会により現状の把握と今後の改善がなされている (資料 8-1-②-8~9)。また、ネットワーク情報センター機器室の利用基準 (資料 8-1-②-10) を定め、セキュリティポリシー (資料 8-1-②-11) にのっとり高度な安全性を確保するための体制を整備している。

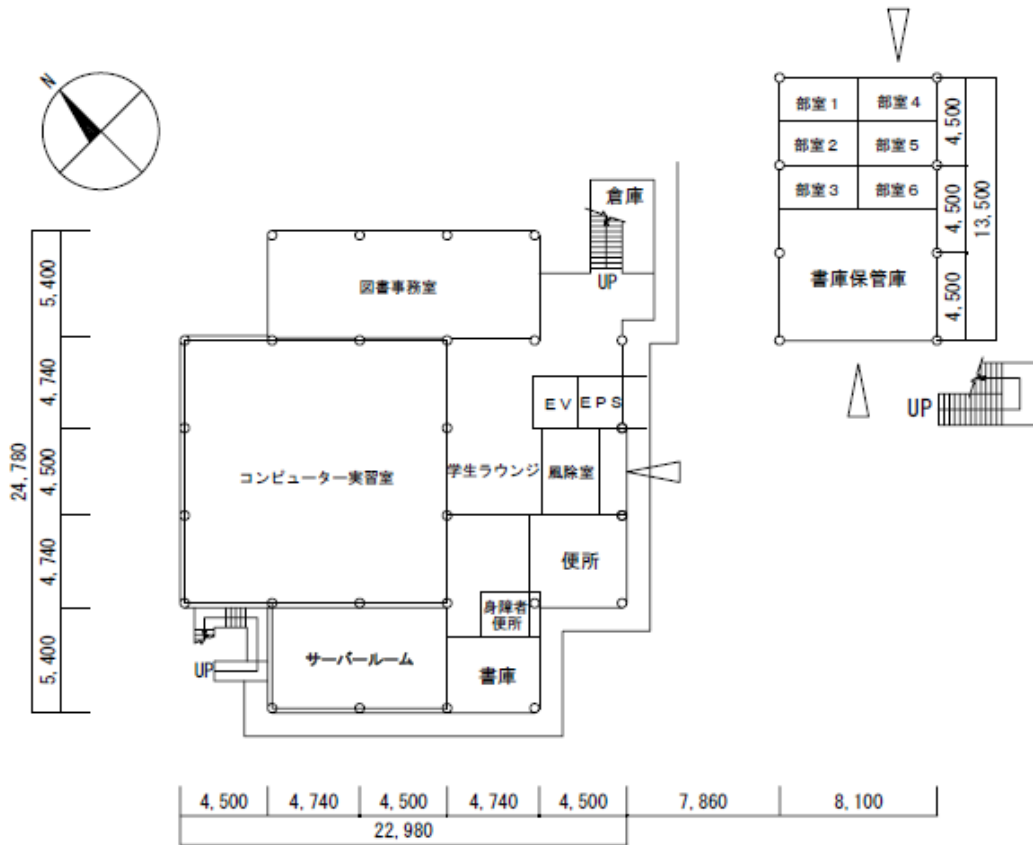
本校高速キャンパス情報ネットワークシステムの物理構成



(出典 ネットワーク情報センター運営部会資料)

資料 8-1-②-2

ネットワーク情報センター平面図



(出典 平成 24 年 5 月 15 日施設整備専門委員会配布資料)

資料 8-1-②-3

移転後のネットワーク情報センター



コンピュータ演習室



サーバールーム

(出典 当該施設の現況写真)

ネットワーク情報センター利用の手引の表紙

木更津工業高等専門学校 ネットワーク情報センター 利用の手引き

平成 25 年 4 月
ネットワーク情報センター

1. システムの特徴

- 1) コンピューター実習室（以下、「演習室」という。）のクライアント PC 上で Windows 環境の利用が可能である。
- 2) Windows サーバーには Windows 2008 Server を採用し、Windows 環境でファイルの共有ができる。（Windows ファイルサーバー file にある各ホームディレクトリを Windows 上で「マイ ドキュメント」フォルダ（H:ドライブ）としてマウントしてある。
- 3) クライアント PC の OS には Windows 7 Pro を採用し、ユーザーがログオンする毎に常に同じ環境が利用できると同時に、メーカーの設定ファイルや Web ブラウザのブックマーク等は file の各ユーザーのホームディレクトリに保存できる。
- 4) Windows サーバーでパスワード管理を行うことで、同一パスワードで各クライアント PC にログオンや各サービス（メール等）、特別教室や図書館インターネットマルチメディア室のパソコンを利用できる。
- 5) クライアント PC の電源管理をリモート操作で自動的に行う。原則として平日 8:30 に電源が入り 20:00 に電源が切れる。また、システム保護のため、手動での電源操作は厳禁とする。
- 6) ネットワークを利用して教師パソコンから各クライアント PC に画像を配信したり、教材を送受信できる。
- 7) ネットワークプリンタで Windows 環境から印字が可能。プリント用紙は各自で用意する。
- 8) 演習室内は 1Gbps のデータ通信が可能である。なお、インターネットとはファイヤウォールを介して 100Mbps で接続している。

2. クライアント PC の利用方法

1) ログオン

通常のログオン手続き

Ctrl+Alt+Del を押してログオン画面を出し、ユーザー名とパスワードを入力。

（出典 ネットワーク情報センター利用の手引）

ネチケツト (情報倫理)

ネチケツト(情報倫理)

ネットワーク情報センター

ネチケツトとは

- ネットワーク + エチケツト = ネチケツト
- ネットワーク上でのモラル
 - ・ moral 道徳(= 人のふみ行うべき道)。
 - ・ immoral 不道徳な。
 - ・ amoral (子供など)善悪の判断のない、道徳観念のない。

※知っていて悪いことをするimmoralもタチが悪いが、ある意味、amoralな状態が最も危険。

ネットワークモラルとは

- ネットワークを使う上での常識、ルール

人と話をするときも話し方がある。

電話をするときもかけ方がある。

手紙を書くときも書き方がある。

インターネットの一般ルール

- リスク、社会的責任、法的責任がある。
- 最悪の場合、逮捕もあり得る。
- 相手の立場に配慮しよう。
- 相手は自分でない。小さな誤解がけんかのもと。

情報システムポリシー(ルール)

- 校内情報システムは、学校のきわめて重要な保有財産である。
- 学生は学校の定める規則を遵守しなければならない。
- コンピュータ資源を保護する必要がある。
 - ・ ハードウェア(機器)
 - ・ ソフトウェア(プログラム、データ)

NW情報センターでの記録

- 学生が送受信した電子メールの履歴
- 学生がWWWへアクセスした履歴
- 演習室へのログイン履歴
- その他

・・・ 以下省略

(出典 ネチケツト (情報倫理))

資料 8-1-②-6

ネットワーク情報センター演習室利用状況

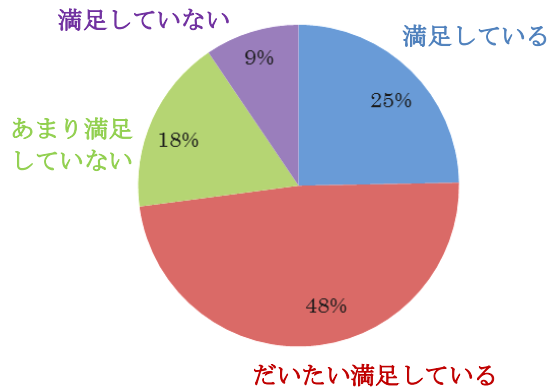
平成25年度 前期授業時間割表 コンピューター実習室（演習室）					
	月	火	水	木	金
1	C 3		D 5	DJ1	
2	島 崎		(下馬場)	大橋・泉	
3		E 1			
4		飯 田	E 2 大 野		
5	M 1		D 2	D 4	C 5
6	小 川	特 研 関 口	臼井・関口	(森)	(筒井)
7	M 2		D 4		
8	伊 藤		大 橋		

(出典 ネットワーク情報センター運営部会資料)

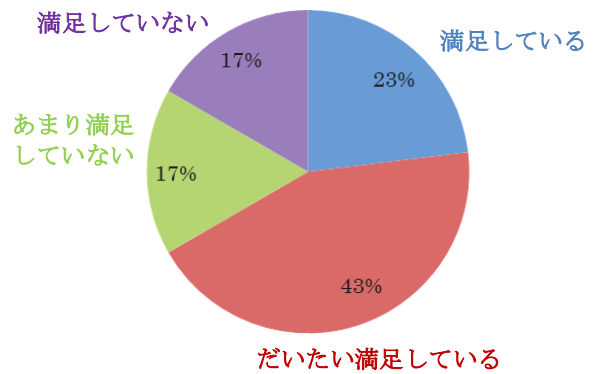
資料 8-1-②-7

ネットワーク情報センター利用満足度アンケート結果

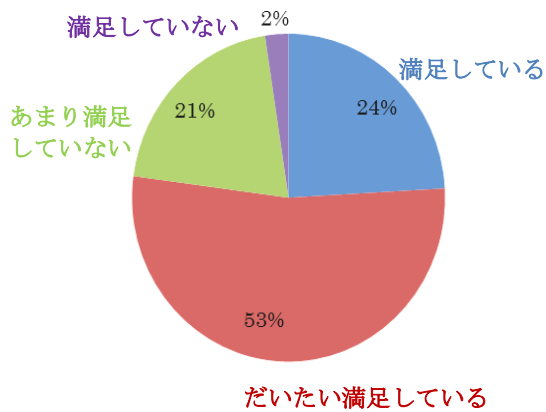
準学士課程学生



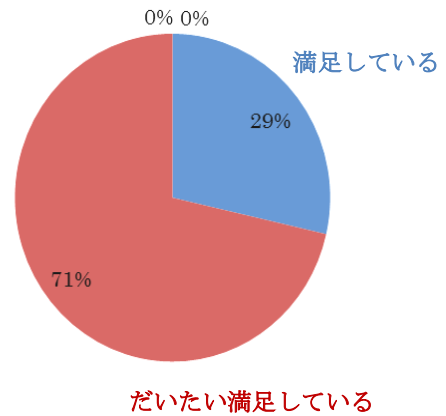
専攻科学生



教員



技術職員



(出典 点検・評価委員会資料)

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営部会規程

平成 13 年 4 月 1 日
規 則 第 14 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、木更津工業高等専門学校総合情報メディア委員会規則（平成13年4月1日規則第8号）第6条第1項第2号の規定に基づき、ネットワーク情報センター運営部会（以下「運営部会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 運営部会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) ネットワーク情報センター等の管理及び運営に関すること。
- (2) その他ネットワーク情報センターに関すること。

(組織)

第 3 条 運営部会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) 副センター長
 - (3) 学科・学系（以下「学科等」という。）から選出された教員若干名（ただし、副センター長を選出された学科等は除くものとする。）
 - (4) 学生課長
 - (5) その他校長が必要と認めた者
- 2 運営部会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第1項第3号及び第5号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(部会長)

第 4 条 運営部会に部会長を置き、センター長をもって充てる。

2 部会長は、運営部会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 運営部会が必要と認めた場合は、委員以外の者を運営部会に出席させその意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 運営部会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規程に定めるものの外、運営部会に関し必要な事項は、運営部会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成13年4月1日規則第14号)

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営部会議事録の例

第1回ネットワーク情報センター運営部会議事要旨

日時 平成 24 年 4 月 24 日 (火) 15:30~16:30

場所 ネットワーク情報センター演習室

出席者 臼井 (センター長), 丸山, 岩崎, 柏木 (副センター長), 高谷 (基), 伊藤 (M), 湯谷 (C), 御園学生課長

議事要旨

1. 平成 23 年度運営報告 (臼井)

○ 活動報告

資料に基づき報告があった。

- 高専機構情報関連説明会
- 高専情報処理教育研究発表会
- 関東信越地区高専情報処理研究委員会 (センター長会議)
- 定期保守, 停電保全作業

○ 予算報告 (別紙 1)

- 教育研究設備維持運営費 (センター経費)
- 校長裁量経費

上記経費別に別紙 1 に基づき報告があった。センター経費は老朽化した機器等を更新した。

2. 平成 24 年度運営計画 (臼井)

今年度予定しているものについて説明があった。

- 高専フォーラム
- 高専機構ネットワーク担当者研修会
- 関東信越地区高専情報処理研究委員会 (センター長会議)
- 定期保守

○ ネットワークの更新

3. 情報関連説明会報告

- 校内 LAN システム整備
- 高専機構共通認証システム

(出典 平成 24 年度木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営部会議事録抜粋)

資料 8 - 1 - ② - 10

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター機器室利用基準

平成5年4月1日

細 則 第 3 号

(趣旨)

- 1 木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営規程第5条に基づき、木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター（以下「センター」という。）の機器室の利用に関し必要な事項を定める。

(利用者の資格)

- 2 機器室を利用することができる者は、次の各号に該当するものとする。
 - (1) センター委員及びセンター職員
 - (2) その他、センター長が認めた者

附 則

この基準は、平成5年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成5年4月1日規則第3号)

木更津工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程

平成 23 年 3 月 28 日

規 則 第 17 号

目次

- 第 1 章 総則（第 1 条－第 7 条）
- 第 2 章 情報システムの利用（第 8 条－第 12 条）
- 第 3 章 情報の取扱い（第 13 条－第 16 条）
- 第 4 章 物理的及び環境的セキュリティ対策（第 17 条－第 23 条）
- 第 5 章 教育（第 24 条・第 25 条）
- 第 6 章 情報セキュリティインシデント対応及び非常時行動計画（第 26 条－第 30 条）
- 第 7 章 調達，ソフトウェア開発及び外部委託（第 31 条－第 42 条）
- 第 8 章 違反と例外措置（第 43 条・第 44 条）
- 第 9 章 評価，見直し及び監査協力（第 45 条－第 50 条）
- 第 10 章 その他（第 51 条－第 53 条）

第 1 章 総則

（目的）

- 第 1 条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項および管理的事項を定めることにより、情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。
- 2 情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については、別に定める情報セキュリティ推進規程による。

（定義）

- 第 2 条 この規程における用語の定義は、この規程で定めるものを除き、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第 98 号。以下「対策規則」という。）別表及び独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第 99 号）の定めるところによる。

（適用範囲）

- 第 3 条 この規程を適用する情報資産の範囲は、機構が扱う情報及び本校の情報システムとする。
- 2 本校の情報システムの範囲は、別表 1 のとおりとする。

※部外秘のため以下掲載せず

（出典 木更津工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程：平成 23 年 3 月 28 日規則第 17 号）

(分析結果とその根拠理由)

I C T環境が適切に整備され、全学生及び職員が学内の多数の端末機からいつでも利用できる状況にある。ネットワーク情報センター運営部会により、現状の把握と今後の改善が随時なされている。今回は、センター移転に伴い利用時間延長という学生にとって非常に有益な改善がなされた。また、センターには専門の職員が配置され、セキュリティポリシーにのっとり高度な安全性を確保するための体制を整備している。以上、I C T環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されていると判断できる。

観点 8-2-①： 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館は平成 24 年度に大規模改修され，これに合わせて図書，学術雑誌，視聴覚資料が系統的に再分類・整理された。改修後の図書館は，開架閲覧室と書庫に加えて，フリー閲覧スペース，ブラウジングコーナー，語学自習用の個人閲覧スペース，休憩スペース，インターネット・マルチメディア室，多目的に使えるグループ学習室などがある(資料 8-2-①-1～2)。インターネット・マルチメディア室には，パソコン 10 台とビデオプレーヤ，DVDプレーヤなどを設置し，洋画ソフト，日本語教材，音楽ソフトなどが再生できるようになっている。

前回の認証評価受審後に減った図書館利用者数は，図書館運営部会の努力により回復しているが(資料 8-2-①-3)，今回の改修によりさらに図書館を魅力あるものにして利用者と図書貸し出し数の増加を目指している。

蔵書，学術雑誌及び視聴覚資料の数は十分に取揃えている(資料 8-2-①-4)。これらの蔵書と学術雑誌は，図書館の端末のみならず学内の端末から検索ができる(資料 8-2-①-5)。蔵書については日本十進分類法にしたがい整理してあることは当然であるが，学科や学年に応じた学習内容を考慮して配置している。また，シラバスに書かれている参考図書もブラウジングコーナーにまとめて配置されているので，教育課程との対応がわかりやすい。さらに，英語，ドイツ語の書籍は個人閲覧スペースに独立して配置しているので，検定試験に向けた学習などもしやすい環境にある。

学生の学習レベルに合わせたきめ細かい蔵書を可能とするため，リクエスト箱を用意して学生の要望を吸い上げている(資料 8-2-①-6)。また，学科の教育課程に応じた十分な蔵書がそろえられるように，図書館運営部会により各学科・学系教員からの要望をアンケート調査している(資料 8-2-①-7)。さらに，新着図書は既存図書とは別に配置し(資料 8-2-①-8)，その案内は図書館に貼り出されるだけでなくウェブページでも閲覧可能である(資料 8-2-①-9)。

利用できる電子ジャーナルとしては，ACS，AIP，APS，Science(日本語版・英語版)，MathSciNet，Science Direct，論文データベースとしてJDream，CiNii 等があり，学内の端末から利用できるほか文献複写依頼・蔵書コピー等のサービスも充実している。資料 8-2-①-10 に本校の電子ジャーナル利用度を示す。

図書館の利用促進のため，平日は 20:00 まで夜間も開館し，土曜日も 12:00～17:00 まで開館している(長期休業期間中の平日は 8:30～17:00)。また，年に 1 回校内読書感想文・作文コンクールを行うことと「図書館だより」を発行することにより，学生の読書の動機付けと啓発を行っている(資料 8-2-①-11)。

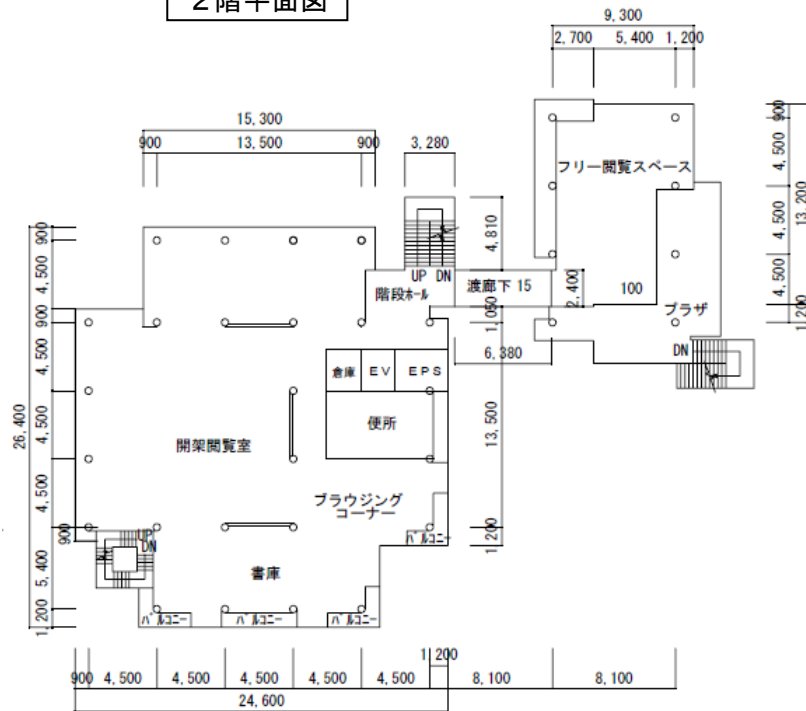
図書館の利用方法，注意事項等は図書館利用のしおりに詳しく記載されており，年度の初めに学生に配布するとともに，図書館カウンタに常時置いてある(資料 8-2-①-12)。なお，図書館利用満足度のアンケート結果より，学生，教職員ともに 70%程度以上の満足度が得られている(資料 8-2-①-13)。

学外利用者数(資料 8-2-①-14)はここ数年増えていないが，図書館改修を PR することにより利用者増を見込んでいる。

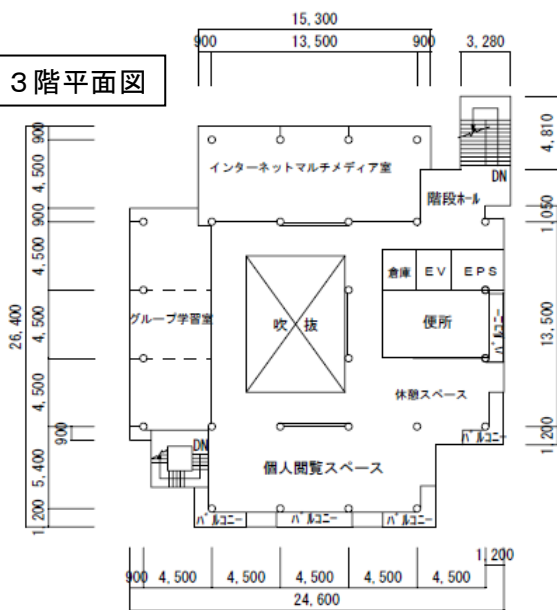
資料 8 - 2 - ① - 1

図書館見取り図

2階平面図



3階平面図



(出典 平成 24 年 5 月 15 日施設整備専門委員会配布資料)

資料 8 - 2 - ① - 2

改修後の図書館



開架閲覧室



フリー閲覧スペース



インターネット・マルチメディア室



休憩スペース



グループ学習室



ブラウジングコーナー

(出典 図書館内の現況写真)

資料 8-2-①-3

図書館利用者数の推移

年 度	入館者数	貸し出し冊数
平成 18 年度	33,811	12,820
平成 19 年度	26,168	9,140
平成 20 年度	24,679	8,361
平成 21 年度	28,312	7,946
平成 22 年度	30,960	7,331
平成 23 年度	31,467	7,288

(出典 図書館資料)

資料 8-2-①-4

図書館資料数の概要

蔵書の概要 (平成24年4月1日現在)

分類・区分	(単位:冊)		
	和書	洋書	合計
総記	5,980	187	6,167
哲学	3,586	173	3,759
歴史	4,872	125	4,997
社会科学	4,822	215	5,037
自然科学	11,732	1,152	12,884
工学	18,152	767	18,919
産業	570	16	586
芸術	4,059	134	4,193
語学	3,801	1,142	4,943
文学	12,557	677	13,234
合計	70,131	4,588	74,719

受入雑誌の概要 (平成24年4月1日現在)

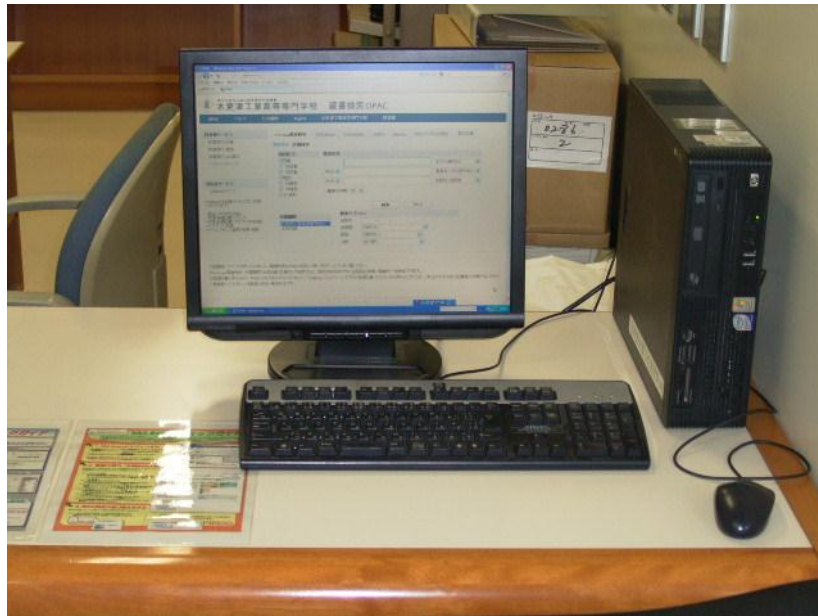
(単位:種)		
和雑誌	洋雑誌	合計
331	5	336

視聴覚資料の概要 (平成24年4月1日現在)

種 類	合 計
ビデオテープ	273
CD	292
レーザーディスク	58
カセットテープ	40
レコード(LP)	81
CD-ROM	33
DVD	59

(出典 図書館ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/lib/index.html>)

蔵書検索システム



図書館の端末

検索画面

(出典 図書館ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/lib/index.html>)

図書館リクエスト箱とリクエスト用紙



学生図書購入希望申込書

平成 年 月 日

書名			
著者名			
出版社名		金額	
本の内容			
申込者	_____工学科・専攻_____年		
	学籍番号_____	氏名_____	

※希望した本が購入できたときは、図書館閲覧室内の掲示板に掲示します。
 ※ 図書館運営部会の選定により購入できない場合もあります。

(出典 学生図書購入希望申込書及び投函箱の写真)

資料 8-2-①-7 (1/2)

各学科・学系からの推薦図書の依頼メールと回答書の例

図書館運営部会 委員各位

図書館の山田です。
お世話になります。

後援会費及び校費による学生用図書の購入につきまして、以下のとおり推薦いただきますようお願いいたします。

推薦額：学科・学系あたり 20 万円程度（6 月に依頼した後援会費による学生用図書の推薦分を含む）

推薦期限：2012 年 11 月 16 日（金）

推薦方法：別添の選書様式「sheet 第 2 回」に記入の上、メールで図書・情報係に提出してください。

なお、校費では、学生用雑誌及び学生希望図書も購入しております。その残額の状況によっては、推薦いただいた図書のすべてを購入できない場合もありますので、推薦いただく図書には必ず順位を付してください。

以上よろしく願いいたします。

木更津工業高等専門学校

学生課 図書・情報係長 山田夏弥

TEL : 0438-30-4183

FAX : 0438-30-4010

E-mail : atosyo@a.kisarazu.ac.jp

(出典 図書館資料)

資料 8-2-①-7 (2/2)

電子制御工学科推薦図書

No.	書名	著者	出版社	価格	備考
1	数学からはじめる 電磁気学	押川元重	培風館	2,730	
2	技術者入門	松島隆裕	学術図書出版社	1,890	
3	科学と技術への視角	橋本敬造・宮下三郎	学術図書出版社	2,310	
4	理工系の 確立・統計入門 増補版	服部哲也	学術図書出版社	2,100	
5	電磁場の古典論	岡真	培風館	3,360	
6	宇宙流体力学	坂下志郎・池内了	培風館	3,885	
7	感性と設計	矢川元基・吉村忍・松田聡浩	培風館	5,985	
8	アナログRF CMOS集積回路設計[基礎編]	浅田邦博・松澤昭	培風館	8,400	
9	アナログRF CMOS集積回路設計[応用編]	浅田邦博・松澤昭	培風館	10,500	
10	界面工学	大塚寛治	培風館	3,675	
11	衛星設計入門	衛星設計コンテスト実行委員会監修	培風館	4,620	
12	これが物理学だ！	Walter Lewin・東江一紀	文藝春秋	1,890	
13	面白くて眠れなくなる物理	左巻健男	PHP研究所	1,365	
14	スイッチング電源のコイル/トランス設計	戸川治朗	CQ出版社	2,940	
15	Rによるテキストマイニング入門	石田基広	森北出版	2,940	
16	デザイン思考の道具箱	奥出直人	早川書房	1,890	
17	基礎制御工学	小林伸明	共立出版	2,625	
18	はじめよう！カンタンTRIZ	長谷部光雄	日刊工業新聞社	1,680	
19	回路シミュレータLtpiceで学ぶ電子回路	渋谷道雄	オーム社	3,360	
20	図解LabVIEW入門	小澤哲也	森北出版	2,940	
21	達人と作る アナログシンセサイザー自作入門	岩上直樹	ラトルズ	2,499	
22	GPSのしくみと応用技術	トランジスタ技術編集部	CQ出版社	2,520	
23	合点！トランジスタ回路入門	庄野和宏	CQ出版社	2,835	
24	電磁波計測	岩崎俊	コロナ社	2,835	
25	FDTD法によるアンテナ/電磁波解析	宇野亨・何一偉・有馬卓司	トリケップス社	29,400	
26	RFID用アンテナ技術の基礎と応用設計事例	高橋応明	リアライズ理工センター	29,400	
27	携帯機器用小形アンテナの高密度実装設計	新井宏之・春木宏志・深沢徹	トリケップス社	29,400	
28	見てわかる高速回路のノイズ解析	前田真一	技術評論社	2,919	
29	実験で学ぶトランジスタ回路の設計	黒田徹	CQ出版社	2,310	
30	宇宙工学入門	茂原正道	培風館	3,990	
31	常微分方程式と物理現象	神田学	朝倉書店	2,415	
32	物理現象の数学的諸原理	新井朝雄	共立出版	5,985	
33	漸近級数と特異摂動法	柴田正和	森北出版	5,460	
34	Rによる統計解析ハンドブック	Brian S. Everitt, Torsten Hothorn, 大門 貴志, 吉川 俊博	メディカル・パブリケーションズ	4,515	
35	統計学の基礎	J.C.ミラー, 村上正康	培風館	2,310	
合 計				199,878	

(出典 図書館資料)

新着図書 の 掲 示



(出典 新着図書の写真)

新着図書 の 案 内

http://www.kisarazu.ac.jp/lib/books/2012_09-10.html

木更津高専図書館

新着図 書案内 2012年9月～2012年10月

KISARAZU National College of Technology Library

分類 記号	書名	著者名	出版社
007.1	情報理論・基礎と広がり	Cover T. M 1938-	共立出版
007.1	セルオートマトン	Schiff Joel L.	共立出版
007.58	情報検索の基礎	Manning Christopher D.	共立出版
007.64	C++テンプレートメタプログラミング	Abrahams David	翔泳社
007.64	KINECT for Windows SDKプログラミング	中村 薫	秀和システム
007.642	Adobe After Effectsトレーニングブック	高橋 篤史	ワークスコーポレーション
070.21	「本当のこと」を伝えない日本の 新聞	Fackler Martin	双葉社
070.253	キュリツァー賞受賞写真 全記録	Buell Hal	日経テクノロジーグラフィック社
141.2	視覚系の構造と初期機能	内川惠二総編集; 篠森敏三編集	朝倉書店
141.2	視覚系の中期・高次機能	塩入 諭	朝倉書店
141.2	聴覚・触覚・前庭感覚	内川 惠二	朝倉書店
141.2	味覚・嗅覚	近江政雄編集	朝倉書店
141.2	感覚・知覚実験法	岡嶋克典編集	朝倉書店
141.34	変えてみよう記憶とのつきあいかた	高橋 雅延	岩波書店
152.2	ほんとうは仕事よりも大切なこと、いつか結婚するあなたへ贈る37の 処方箋	吉越 浩一郎	プレジデント社
159	なぜ貯金好きはお金持ちになれないのか? 3000人のお金相談でわかった「金持ち思考」と「貧乏思考」	北川 邦弘	プレジデント社
159.4	ビジネススキル・インバージョン:「時間思考」直感」67の パワフルな技術	横田 尚哉	プレジデント社
209	世界史 上	McNeill William Hardy 1917-	中央公論新社
209	世界史 下	McNeill William Hardy 1917-	中央公論新社
221.06	日韓併合 韓民族を救った「日帝36年」の 真実 - 歴史再検証	崔 基鎭	祥伝社
289.1	女子アナ以前:あつこのわたしと、いま考えていること。	小島慶子	大和書房
290.9	社会派ちきりんの世界を歩いて考えよう	ちきりん	大和書房
291.09	イザベラ・バードの日本 紀行 上	Bird Isabella L.	講談社
291.09	イザベラ・バードの日本 紀行 下	Bird Isabella L.	講談社
312.22	日本拒絶 知ったら怖くなる中国政府と人民解放軍の実態	嶋 霞	桜の花出版
317.3	土木職公務員試験専門 問題と解答 実戦問題集 選択科目 編	米田昌弘著	
317.3	土木職公務員試験専門 問題と解答 必修科目編	米田昌弘著	
317.4	徹底攻略土木系の就職試験	就職試験研究会	オーム社
333.6	これから世界で起ること:正しく時代を読むためのヒント	中原 圭介	東洋経済新報社
333.6	世界のお金は日本を目指す:日本経済が破綻しないことばの理由	若本 沙弓	徳間書店
336.067	なぜマッキンゼーの人は 年俸1億 円でも辞めるのか?	田中 裕輔	東洋経済新報社
336.1	企業参謀ノート入門編 超訳・速習・図解	大前 研一	プレジデント社
336.3	リーダーにとって大切なことは、すべて謀略時代に学べる:(はじめて部下を持った君に贈る62の言葉)	酒巻 久	朝日新聞出版
336.82	起業のファイナンス:ベンチャーにとって一番大切なこと	磯崎 哲也	日本実業出版社
338.9	エンドゲーム:国家債務危機の警告と対策	Mauldin John	プレジデント社
361.454	聞く力 心をひらく35のヒント	阿川 佐和子	文藝春秋
368	ワーク・シフト:孤独と貧困から自由になる働き方の未来図(2025) = Work shift	Gratton Lynda	プレジデント社
402.106	理系白書:この国を静かに支える人々たち	毎日新聞科学環境部	講談社
402.106	迫るアジアどうする日本の 研究者	毎日新聞科学環境部	講談社
407	理系の子 高校生科学オリンピックの青春	Dutton Judy	文藝春秋

(出典 図書館ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/lib/index.html>)

木更津高専の電子ジャーナル利用度

MathSciNet usage statistics

Site Name: Kisarazu National College of Technology
Your IP address is: 202.17.254.5
Contact email address:

Usage statistics for Kisarazu National College of Technology. (range of months monthly)

Apr 2010 thru Nov 2012

	Sessions	Queries
Apr 2010	0	0
May 2010	11	22
Jun 2010	1	5
Jul 2010	7	27
Aug 2010	38	61
Sep 2010	19	66
Oct 2010	53	78
Nov 2010	5	9
Dec 2010	11	49
Jan 2011	28	37
Feb 2011	5	32
Mar 2011	29	37
Apr 2011	22	39
May 2011	115	133
Jun 2011	25	39
Jul 2011	2	3
Aug 2011	55	72
Sep 2011	9	37
Oct 2011	7	32
Nov 2011	20	31
Dec 2011	24	31
Jan 2012	2	2
Feb 2012	6	10
Mar 2012	9	20
Apr 2012	0	0
May 2012	16	17
Jun 2012	20	27
Jul 2012	26	37
Aug 2012	0	0
Sep 2012	4	8
Oct 2012	4	6
Nov 2012	2	13
Totals	575	980

(出典 MathSciNet ウェブページ <http://www.ams.org/mathscinet-statistics/report2.html>)

読書感想文・作文コンクール

図書館だより



読書感想文・作文コンクール表彰式(平成25年1月25日)

第36号
平成25年2月20日
木更津工業高等専門学校 図書館

目次

■ 巻頭言	
図書館長 鎌田勝	2
■ 教員から	
基礎学系 高谷博史	3
情報工学科 渡邊孝一	4
環境都市工学科 岐美宗	5
■ 学生図書委員から	
機械工学科4年 [redacted]	6
情報工学科3年 [redacted]	7

■ 読書感想文・作文コンクール入賞作

【優秀賞】	
電気電子工学科2年 [redacted]	8
電子制御工学科3年 [redacted]	8
【優良賞】	
電気電子工学科2年 [redacted]	9
電子制御工学科3年 [redacted]	10
【入選】	
電子制御工学科1年 [redacted]	10
環境都市工学科1年 [redacted]	11
情報工学科3年 [redacted]	11

(出典 図書館だより 第36号)

図書館利用のしおり

図書館利用の しおり



開館時間

平日 8:30~20:00

土曜日 12:00~17:00

長期休業期間等 8:30~17:00

休館日

日曜日・国民の祝日及び振替休日・年末年始
蔵書整理点検日等

※臨時に閉館及び閉館時間の変更を行う
ことがあります。

※詳細はホームページをご覧ください。



〒292-0041

千葉県木更津市清見台東 2-11-1

木更津工業高等専門学校

☎0438-30-4009

<http://www.kisarazu.ac.jp/lib/index.html>

入館にあたって

館内では静粛にし、他の利用者の迷惑にならない
ようにしてください。

館内では、原則として飲食はできません。ただし、
フリー閲覧スペースでは、ペットボトルでの飲用を
認めます。

【利用方法】

◎ 閲 覧

2階の開架閲覧室、ブラウジングコーナー、フリ
ー閲覧スペース、3階の個人閲覧スペース、休憩ス
ペースで自由に閲覧することができます。

閲覧に際しては、図書や備品の取扱に注意し、汚
したり、傷つけたりしないように注意してください。

◎ 貸 出

(1) 手続き

館外に図書を帯出する場合は、1階事務室カウ
ンターに貸出希望図書を持参して、手続きを行っ
てください。

(2) 貸出冊数・期間

貸出冊数は1人4冊までで、期間は2週間です。
貸出期間の延長を希望する場合は、期間内にその
図書を事務室カウンターまで持参し、手続きを行
ってください。

また貸しはしないでください！！

(3) 返却

借りた図書は返却期限までにカウンターに返
却するか、図書館入り口の図書返却ポストに入れ
てください。

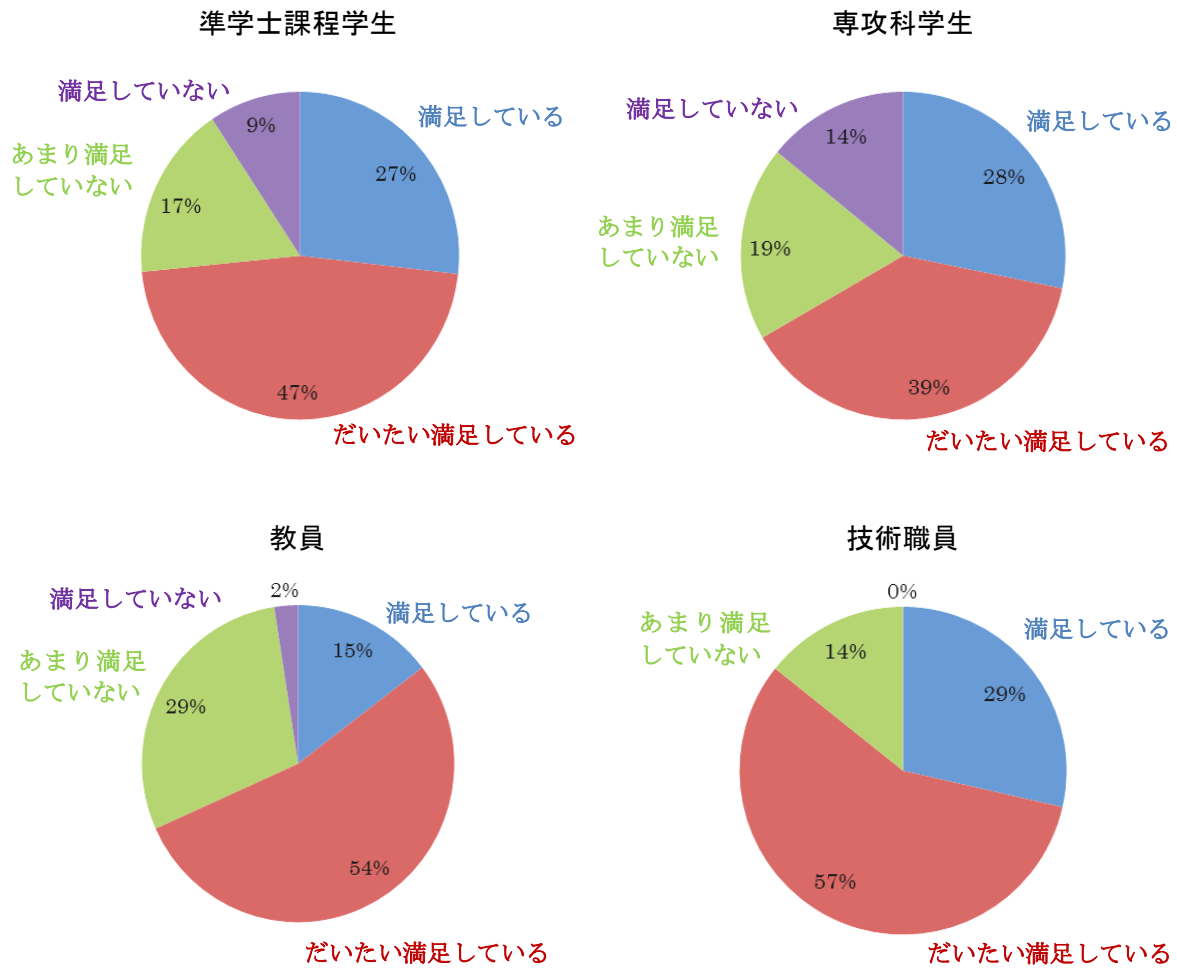
返却期限は守りましょう！！



(出典 図書館利用のしおり)

資料 8 - 2 - ① - 13

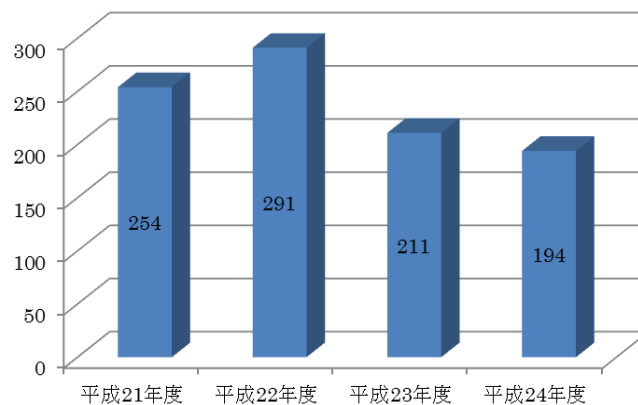
図書館利用満足度アンケート結果



(出典 点検・評価委員会資料)

資料 8 - 2 - ① - 14

図書館学外利用者数の推移



(出典 図書館資料)

(分析結果とその根拠理由)

図書、学術雑誌、視聴覚資料が系統的に収集・整理されており（受入雑誌 336 種、蔵書数 74,000 冊以上）、パソコンや視聴覚機器も整備されている。また、多くの学生や教職員に利用されており満足度も高い。リクエスト箱の配置により図書購入時に学生の要望も反映され、新着図書の周知も十分である。読書感想文・作文コンクールを毎年開催し表彰制度を設けるなど、学生の読書に対する意欲の啓発も行っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学生が一番時間を過ごす総合教育棟をはじめ、多数の実験室、演習室などが学習のために整備、活用されているとともに、安全衛生や環境面に関しても十分な配慮がなされている。また、施設のバリアフリー化も十分に施されている。さらに、ICT環境や図書、学術雑誌、視聴覚資料、パソコン、視聴覚機器が十分整備され、多くの学生に利用されている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の学習教育目標を実現するために、総合教育棟をはじめ各研究棟、講義棟などが適切に整備されている。各専門学科では実験室が多数整備され、実習教育のための実習工場が設置されるなど、充実した設備が全学校的な安全管理の下で有効に活用されている。また、環境面での配慮も十分なされており、バリアフリー対策も十分である。前回の認証評価受審後、学友会館、実習工場、合宿所、図書館などが改修、女子寮が増築され、魅力ある施設に生まれ変わった。

本校のネットワークの管理運営及び情報教育の中核としてネットワーク情報センターが設置されている。ネットワーク情報センターには専門職員が配置され、ネットワークの管理、コンピュータウイルス情報の周知、ファイアウォールの管理、メールサーバーの保守等とともに、情報処理の学習やプログラミング教育に有効に活用されている。ネットワーク情報センター運営部会により、情報教育の内容、教育方法の面からの情報ネットワークによるニーズの把握、情報セキュリティの構築に関しての現状の把握と今後の改善等がなされている。学生に対するネットワーク・モラルの教育についても十分な配慮がなされており、ICT環境が十分なセキュリティ管理下で適切に整備・活用されている。

図書館は十分な面積を有し、更に図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育上必要な資料等が系統的に整備され、学生や教職員に有効に活用されている。蔵書の検索は図書館の端末のみならず学内の端末からもできるようになっている。また読書感想文・作文コンクールを毎年開催し、学生の表彰制度を設けており、学生の読書に対する意欲の啓発も行っている。図書購入の希望は図書館運営部会により各学科・学系教員からの要望をアンケート調査して決定しているほか、リクエスト箱を用意し学生の要望も吸い上げている。新着図書の案内は図書館に貼り出されるだけでなくウェブページでも閲覧可能である。利用できる電子ジャーナルも豊富で、文献の複写依頼、蔵書コピー等のサービスも充実し、学生のみならず教職員の知識向上にも大いに役立っている。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

現在までの学籍・単位認定・成績考査に関する資料等については、学生課で管理・保存されている(資料 9-1-①-1)。

本校では、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会 (FD推進委員会) (資料 9-1-①-2) が教育の質の向上及び改善を図るため、各教員に授業方法の改善と教員の質の向上に必要な資料の保存を依頼している。平成23年度までは各教員が授業実施記録の保存を資料室において行い、平成24年度からは新しく導入したWEBキャリアカルテにおいて行い、アンケート集計結果を省みて授業改善に取り組んでいる(資料 9-1-①-3)。これらの資料保存と自己点検・評価は、教務委員会(資料 9-1-①-4)、専攻科委員会(資料 9-1-①-5)、FD推進委員会(資料 9-1-①-2)の各委員会が連携しつつ行われる。なお、学校全体の教育システムの自己点検・評価は点検・評価委員会(資料 9-1-①-6)、中期計画の点検・評価は中期計画推進委員会(資料 9-1-①-7)が行う。

資料 9-1-①-1

学業成績等の文書保存期間基準 (抜粋)

保存期間	行政文書の類型
30年	<ul style="list-style-type: none"> 学籍に関するもの 単位認定に関するもの 学生の表彰及び懲戒に関するもの その他30年保存を必要と認めるもの
10年	<ul style="list-style-type: none"> 入学者選抜及び成績考査に関するもの その他10年保存を必要と認めるもの
5年	<ul style="list-style-type: none"> 学生の生活調査及び統計に関するもの その他5年保存を必要と認めるもの
3年	<ul style="list-style-type: none"> 表彰に関するもののうち軽易なもの その他3年保存を必要と認めるもの
1年	<ul style="list-style-type: none"> その他前四条に定めるもの以外のもの

(出典 木更津工業高等専門学校文書管理規程)

資料 9 - 1 - ① - 2

木更津工業高等専門学校ファカルティ・デベロップメント推進委員会規則

平成 15 年 6 月 12 日

規 則 第 1 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年4月1日規則第1号）第19条第2項の規定に基づき、ファカルティ・デベロップメント推進委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。

- (1) 教育プログラムの点検評価と改善に関すること。
- (2) 教員の教育方法及びその他の教育活動の点検評価と改善に関すること。
- (3) 教育環境の点検評価と改善に関すること。
- (4) その他ファカルティ・デベロップメントに関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 校長が必要と認めた若干名（教務主事補1名を含む。）
- (3) 学生課長

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第1項第2号に掲げる委員の任期は、2年（教務主事補を除く。）とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 15 年 6 月 12 日規則第 2 号)

資料 9-1-①-3 (1/3)

「授業実施記録」の作成について (平成 24 年度)

「授業実施記録」(試験問題および答案等をファイルしたもの)の作成につきましては、平成 24 年度は、以下の要領でお願いいたします。

1. 保存目的

シラバスに沿った授業が行われ、成績評価等が適正かつ有効であることを、第 3 者に対し、明確に示すため。

2. 保存場所 <http://wca.kisarazu.ac.jp:8180/WCA/>

WCA の資料保存ページに電子ファイルで保存する。実験レポート等の電子ファイルでの保存が困難な資料は管理棟 2 階の「資料室」に保存する。

3. 作成方法

各教科担当教員が、WCA の資料保存ページに、関係のファイルをアップロードして保存する。

4. 保存対象科目

平成 24 年度開講の、準学士課程および専攻科課程の全ての授業科目

5. 保存すべき資料

(1) 中間試験

試験問題および模範解答と併せ、60 点台を 1~3 例程度、最高点を 1 例

※ 該当する点数のサンプル(例)が 1 つも無い場合は、ボーダー(60 点)に最も近いものから数例を選んで保存する。

(2) 期末試験

・準学士課程 1 年~3 年の科目については、試験問題および模範解答と併せ、60 点台を 1~3 例程度、最高点を 1 例

・専攻科を含み、準学士課程 4 年以上の科目については、試験問題および模範解答と併せ、60 点台を全て、最高点を 1 例

※ 該当する点数のサンプル(例)が 1 つも無い場合は、ボーダー(60 点)に最も近いものから数例を選んで保存する。

(3) 主レポート(実験レポート等、成績の算出に大きく関わるもの)

60 点台の代表例をテーマ毎に 1 例~3 例程度、最高点をテーマ毎に 1 例

※ 該当する点数のサンプル(例)が 1 つも無い場合は、ボーダー(60 点)に最も近いものから数例を選んで保存する。

(4) 成績の算出に関わる小レポートおよび小テスト

小レポート課題、小テスト問題を保存する。また可能であれば、それらの模範解答を保存する。なお、学生の答案等の保存は不要であるが、成績算出に関わる小レポートと小テストの合計成績評価比率が全体の 20%を超える場合は、全ての小レポートおよび小テストを主レポートと同等に扱い、必要な資料を保存する。

(5) ファイル等すべき資料一覧表、シラバス、成績算出のためのデータ一覧表(出欠データを含む)、事後シラバス(授業評価アンケートの結果を含む)

資料 9-1-①-3 (2/3)

6. その他

- (1) テストの答案およびレポートについては、原則としてコピーを保存する。
- (2) 再履修および年度内再評価に関しては、評価に用いた全ての答案(レポートを含む)等を保存する。
- (3) 教科書(教科書を指定していない場合は、講義ノートの写し及び配布プリント等の授業内容が分かる資料)については、資料としての提示が必要となった段階で、別途連絡する。

7. 「授業実施記録」完成の締切

前期科目は平成 24 年 10 月 5 日(金)、通年科目および後期科目は平成 25 年 3 月 8 日(金)までとする。

保存すべき答案等の一覧 (平成24年度)

区 分	学年区分	試験問題／ レポート課題	模範解答	学生答案 60点台	学生答案 最高点
中間試験	専攻科を含む 全学年	必ず保存	必ず保存	1～3例保存	1例保存
期末試験	準学士課程 3年まで	必ず保存	必ず保存	1～3例保存	1例保存
	準学士課程 4年以上	必ず保存	必ず保存	全て保存	1例保存
主レポート	専攻科を含む 全学年	必ず保存	可能であれば 保存	テーマ毎に 1～3例保存	テーマ毎に 1例保存
小レポート 小テスト	専攻科を含む 全学年	必ず保存	可能であれば 保存	保存不要	保存不要

資料 9-1-①-3 (3/3)

「授業実施記録」としてファイル等すべき資料（専攻科を含む全学年共通）

1. 授業終了時に、各資料をファイルしてください。
2. チェック欄には、以下の記号を記入してください。
 - ・資料が揃っていることの確認済み：✓
 - ・当授業では該当する資料は無い：－
 - ・紛失等により揃っていない：（空欄のまま）
3. 再履修等に関しては、必要書類をファイルしてください。

略号	チェック	内 容
一覧表		当一覧表(各「授業実施記録」の表紙のページになる)
前シラ		シラバス
教科書		教科書および参考書等(点検・評価委員会から要請があった場合のみ提出する。なお、提出方法等については、別途、通知する。)
前中1		前期中間試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
前中2		前期中間試験の60点台の 代表的な 答案のコピー(1～3例)
前中3		前期中間試験の 最高得点 の答案のコピー(1例)
前末1		前期期末試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
前末2		準学士課程3年まで：前期期末試験の60点台の 代表的な 答案のコピー(1～3例) 準学士課程4年以上：前期期末試験の60点台の 全ての 答案のコピー
前末3		前期期末試験の 最高得点 の答案のコピー(1例)
後中1		後期中間試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
後中2		後期中間試験の60点台の 代表的な 答案のコピー(1～3例)
後中3		後期中間試験の 最高得点 の答案のコピー(1例)
後末1		後期期末試験の試験問題および模範解答(配点を含む)
後末2		準学士課程3年まで：後期期末試験の60点台の 代表的な 答案のコピー(1～3例) 準学士課程4年以上：後期期末試験の60点台の 全ての 答案のコピー
後末3		後期期末試験の 最高得点 の答案のコピー(1例)
主レ1		主レポート ^{*1} の課題(可能であれば模範例等を含む)
主レ2		主レポートの60点台の 代表的な もののコピー(1～3例/テーマ毎)
主レ3		主レポートの 最高点 のコピー(1例/テーマ毎)
小テ		小テスト ^{*2} の試験問題(可能であれば模範解答を含む：学生 [*] の答案は不要)
小レ		小レポート ^{*2} の課題(可能であれば模範例等を含む：学生 [*] の答案は不要)
データ		成績算出のためのデータ一覧表(出欠データを含む)
後シラ		事後シラバス(授業評価アンケートの結果を含む)

(出典 FD 推進委員会、教務委員会、点検・評価委員会編「授業実施記録」の作成について)

資料 9 - 1 - ① - 4

木更津工業高等専門学校教務委員会規則

平成 13 年 4 月 1 日
規 則 第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 28 条第 3 項の規定に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割並びに年間行事計画に関すること。
- (2) 試験及び評価その他履修に関すること。
- (3) 学校行事（学生委員会が所掌する事項を除く。）に関すること。
- (4) その他教務に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
 - (2) 教務主事補
 - (3) 学科・学系（以下「学科等」という。）から選出された教員各 1 名（ただし、教務主事補を選出された学科等は除くものとする。）
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第 1 項第 3 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させその意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 13 年 4 月 1 日規則第 4 号)

資料 9 - 1 - ① - 5

木更津工業高等専門学校専攻科委員会規則

平成 13 年 4 月 1 日

規 則 第 7 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年4月1日規則第1号）第28条第3項の規定に基づき、専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、専攻科に関する特有な事項を審議する。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) 副専攻科長
- (3) 各専攻主任
- (4) その他校長が必要と認めた者

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第1項第4号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させその意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 13 年 4 月 1 日規則第 7 号)

木更津工業高等専門学校点検・評価委員会規則

平成 22 年 12 月 20 日
規則 第 13 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 20 条第 2 項の規定に基づき、点検・評価委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。

- (1) 自己点検評価の基本方針並びに実施基準等に関すること。
- (2) JABEE 認定及び認証評価を得るために必要となる施策に関すること。
- (3) JABEE 認定審査及び認証評価申請のための手続きに関すること。
- (4) JABEE 認定及び認証評価を継続するための施策に関すること。
- (5) 外部評価に関すること。
- (6) その他点検・評価等に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長が必要と認めた若干名
- (2) 総務課長
- (3) 学生課長
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第 1 項第 1 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 4 委員会に委員長を置き、委員の中から校長が指名する。
- 5 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 6 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

(専門委員会)

第 4 条 委員会に、特定の専門事項について調査及び検討させるため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し、必要な事項は、委員会が別に定める。

(自己点検・評価項目)

第 5 条 点検及び評価項目は、委員会の議を経て、校長が別に定める。

(学科等における点検及び評価)

第 6 条 学科等（各学科・学系、専攻科、各種委員会及び事務部をいう。以下同じ。）の主任、専攻科長又は委員長等は、委員会の諮問に応じ、当該学科等の所掌に属する項目に関し、点検・評価を行い、その結果を校長に報告するものとする。

(点検及び評価結果への対応)

第 7 条 校長は、委員会から報告された点検及び評価の結果に基づき、改善が必要と認められる事項について、その具体化に努めるものとする。

2 校長は、必要がある場合は、委員会又は学科等に改善策の検討を付託することができる。

(事務)

第 8 条 委員会に関する事務は、総務課並びに学生課において処理する。

(雑則)

第 9 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 木更津工業高等専門学校自己点検等に関する規則（平成 7 年 10 月 16 日規則第 1 号）は、廃止する。
- 3 木更津工業高等専門学校 JABEE 認定・認証評価推進委員会規則（平成 17 年 10 月 6 日規則第 4 号）は、廃止する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 22 年 12 月 20 日規則第 13 号)

資料 9-1-①-7

木更津工業高等専門学校中期計画推進委員会規則

平成 16 年 6 月 10 日

規則 第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和 56 年 4 月 1 日規則第 1 号）第 21 条第 2 項の規定に基づき、中期計画推進委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。

- (1) 評価に基づく次期中期計画案の策定に関すること。
- (2) 中期計画に沿った年次計画案の策定に関すること。
- (3) 中期計画の実施状況の調査と評価に関すること。
- (4) その他中期計画に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長が必要と認めた若干名
 - (2) 総務課長
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第 1 項第 1 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の中から校長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 16 年 6 月 10 日規則第 2 号)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、FD推進委員会が教育の質の向上及び改善を図るため、各教員に授業方法の改善と教員の質の向上に必要な資料の保存を依頼している。資料保存と自己点検・評価は、教務委員会、専攻科委員会、FD推進委員会の3つの委員会が連携して行っている。学校全体の教育システムの自己点検・評価は点検・評価委員会が行い、中期計画の点検・評価は中期計画推進委員会が行っている。

観点 9-1-②： 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

(観点に係る状況)

各教員が授業の満足度評価等を目的として、平成23年度までは学生による授業評価アンケートを担当している授業のうち1科目について実施している(資料9-1-②-1)。アンケートは教員自ら分析して自己点検・評価と授業改善としてのコメントを作成(資料9-1-②-2)し、授業実施記録を資料室に保存している。授業の満足度評価等の更なる向上を目指して、平成24年度からはWEBキャリアカルテにおいて、各教員が担当する全科目のアンケートを実施し、その集計結果を示している(資料9-1-②-3)。更に広く意見を聴取する目的で、「学生の声」の箱やメールが整備されている(資料9-1-②-4)。寄せられた意見により、副校長が各委員会等に点検・検討を依頼し、回答を掲示等により行う(資料9-1-②-5)。

学外関係者の意見は、平成21年度に企業関係有識者・教育関係有識者・その他の有識者からなる学外者による第三者評価を実施(資料9-1-②-6)し、外部評価報告書(資料9-1-②-7)が作成された。この外部評価報告書の課題及び提言に対する進捗状況の調査を行っている(資料9-②-8)。また、平成22年度に日本技術者教育認定機構(JABEE)より、認定の有効期間を継続するための認定継続審査が実施された。更に、毎年、学校として開催している保護者懇談会等を実施(資料9-②-9)し、保護者からの意見の聴取に対し、問題の解決に当たっている(資料9-1-②-10)。

平成24年度では、準学士課程卒業生・専攻科課程修了生アンケートを実施(資料9-1-②-11)し、教育の状況に関する自己点検・評価の結果を示している(資料9-1-②-12)。また、編入学先の各大学アンケートも実施(資料9-1-②-13)し、教育の状況に関する自己点検・評価の結果を示している(資料9-1-②-14)。更に、就職先の各企業アンケートを実施(資料9-1-②-15)し、同様に教育の状況に関する自己点検・評価の結果を示している(資料9-1-②-16)。

学生による授業評価アンケート実施例

学生による授業評価アンケート（既設択一6問＋既設記述3問＋担当者自由設問1問）		
※ 当アンケートは、授業方法および授業内容（科目／カリキュラム）の改善を目的として木更津高専が組織的に実施するものであり、回答した学生の成績評価等には一切関係しません。		
科目名：	クラス：	回答日： 年 月 日
教員名：	回答学生（記入は担当教員の指示による）：	
設問1：あなた自身の授業に対する取り組みは十分だと思いますか？		
5. 十分 4. やや十分 3. どちらでもない 2. やや不十分 1. 不十分		
設問2：本講義の予習または復習は週あたり平均何時間行なっていますか？		
5. 4時間以上 4. 3時間程度 3. 2時間程度 2. 1～2時間 1. 1時間未満		
設問3：板書事項はどの程度ノートに取っていますか？		
5. 板書事項以外も 4. 90%以上 3. 80%以上 2. 70%以上 1. 70%未満		
設問4：授業の進捗はどうか？		
5. 速い 4. やや速い 3. どちらでもない 2. やや遅い 1. 遅い		
設問5：内容の説明や解説について満足していますか？		
5. 満足 4. やや満足 3. どちらでもない 2. やや不満 1. 不満		
設問6：講義のレベル（難易度）についてどう思いますか？		
5. 難しい 4. やや難しい 3. どちらでもない 2. やや易しい 1. 易しい		
設問7：この授業で（最も）満足を感じる点は何ですか？		
設問8：この授業で（最も）不満を感じる点は何ですか？（なるべく具体例を）		
設問9：その他、意見等あれば書いてください。		
設問10：	（授業担当教員による自由設問）	

（出典 平成23年度授業実施記録 環境都市工学科4年土質実験）

資料 9-1-②-2

授業評価アンケートに対するコメント作成例

授 業 科 目	土質実験	区 分 ・ 単 位 数	必修・2単位
開 設 学 科 学 系	環境都市工学科	授 業 形 態	実験
受 講 年 科 ・ 学 期	4年C科・前期	担 当 教 員	鬼塚信弘
教 科 書 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土質実験室著『土質実験指導書』環境都市工学科土質実験室, 2011年 ・ (社)地盤工学会著『土質試験 -基本と手引き-』(社)地盤工学会, 2000年 ・ 河上房義著『土質力学 第7版』森北出版, 2001年 ・ 高専土質実験教育研究会著『新土質実験法』鹿島出版会, 2007年 		
学生による授業評価アンケートに対するコメント			
アンケート実施日：平成23年6月20日(月)5時限			
アンケート形式：マーク式回答10問+既設記述5問			
<p>アンケートの設問は、既設の9設問であったが、各回答において顕著なものについて、以下にコメントを行う。なお、回答者の総数は「29」である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習・課題にしっかり取り組みましたかについては、ややそう思う、強くそう思うという回答を合わせると27件あり、93%の学生は意欲的に取り組んでいる様子が窺えた。 2. 授業内容を修得できたかについては、ややそう思う、強くそう思うという回答を合わせると28件あり、97%の学生が授業の内容を修得できた。 3. 板書、指導方法は分りやすかった点は、ややそう思う、強くそう思うという回答を合わせると27件あり、93%の学生は板書及び指導方法が適切であるという結果であった。 4. 授業で満足している点は、ややそう思う、強くそう思うという回答を合わせると27件あり、ほぼ全員の学生が授業を満足しているという結果であった。 			
次回開講時に向けての改善点等			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 3, 4年次の土質力学の講義は4年次の土質実験とスパイラルで実施しており、これまでに以上に学生が理解できるように授業方法を改善したい。 2. 実験は座学とは異なり、受身の姿勢では全く理解できないので、その辺の意識改革を徹底させたい。 3. 不得意である学生に対してフォローしていきたい。 			

(出典 平成23年度授業実施記録 環境都市工学科4年土質実験)

WEB キャリアカルテの授業評価アンケートの集計結果例

[メインメニュー](#) ログインID : conizuka [ログアウト](#)

アンケート集計結果

本科 1年

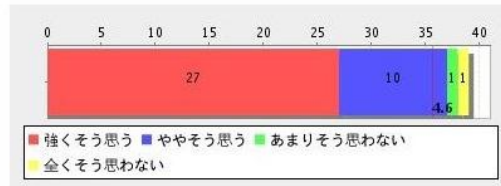
科目名:

[未回答学生一覧](#)

■ 質問1(4段階選択式)

あなたは予習・復習・課題にしっかり取り組みましたか。

(39)



■ 質問2(4段階選択式)

あなたは授業時間中、熱心に授業に取り組みましたか。

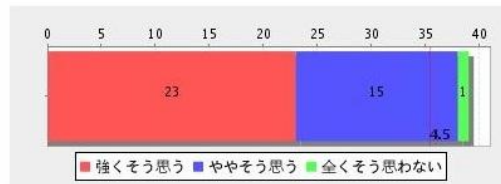
(39)



■ 質問3(4段階選択式)

あなたは授業内容を修得できましたか。

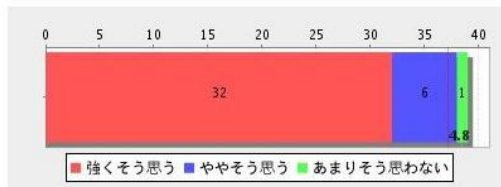
(39)



■ 質問4(4段階選択式)

ガイダンス時に教員から授業内容の説明がありましたか。

(39)



■ 質問5(4段階選択式)

教員の声は聞き取りやすかったですか。

(39)

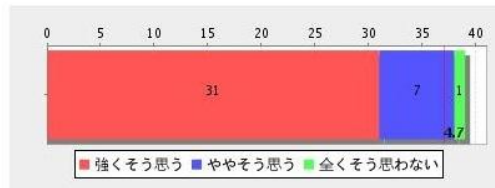


資料 9-1-②-3 (2/3)

■ 質問6(4段階選択式)

板書，指導方法（実技，実験実習科目など）
は分かりやすかったですか。

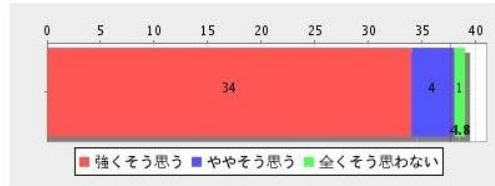
(39)



■ 質問7(4段階選択式)

説明は分かりやすかったですか。

(39)



■ 質問8(4段階選択式)

教科書・資料・教材は適切でしたか。

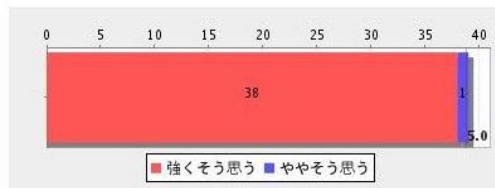
(39)



■ 質問9(4段階選択式)

教員は熱心に指導しましたか。

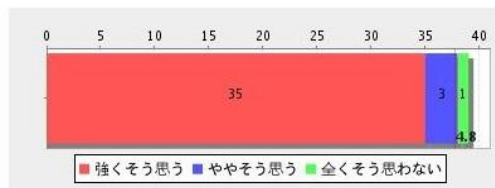
(39)



■ 質問10(4段階選択式)

あなたはこの授業に満足していますか。

(39)



資料 9 - 1 - ② - 3 (3 / 3)

■質問11(自由記述式)

この授業で満足を感じる点は何ですか？なるべく具体的に書いてください。

(39)

実験を楽しくできる点

■質問12(自由記述式)

この授業で改善が必要と思われる点は何ですか？なるべく具体的に書いてください

(39)

■質問13(自由記述式)

その他、意見等あれば書いてください。

(39)

WEBキャリアカルテ
WEB career Karte

(出典 平成 24 年度 WEB キャリアカルテの授業実施記録 環境都市工学科 4 年土質実験)

木更津高専ウェブページ「学生の声」

学生の声

index 意見等の提出フォーム

学生相談室の利用

1. 「学生の声」は、アンケート等では吸い上げ切れない学生の種々の意見や要望を聞くために設置されたものです。

2. 意見等を提出する場合は、以下のいずれかの方法に従ってください。

(1) 「意見等の提出用紙」に必要事項を記入し、学生課前に設置されている「学生の声」のポストに入れる。

なお、「意見等の提出用紙」はポストと一緒に置かれています。「提出用紙」は PDF ファイルで取り出すこともできます。ここをクリックしてください。PDF ファイルは Adobe Reader で読むことができ、キーボードから記入もできます。記入の後印刷してからポストに入れてください。印刷してから筆記用具で記入してもかまいません。

(2) gakuseinokoe@kisarazu.ac.jp 宛にメールを出す。

なおメールを出す場合は、以下の「意見等の提出フォーム」に従ってください。

※「学生の声」のポストへの投書は、学生課長が取り出し、副校長に渡しますが、同上のアドレスに出されたメールは直接副校長のところに行きます。

3. 提出された意見等は、副校長の判断により、要望および内容等に応じ関係者に送られます。対処結果等については、副校長より意見等の提出者に報告されます。

4. 匿名等を希望する場合は、秘密を厳守します。なお、内容により、掲示等により対処結果について公表することもあります。

top

意見等の提出フォーム

(不要な部分は削除し、必要な事項を記入してください)

※1 意見等の行先は以下のようになります。

意見 → 副校長 → 関係者 → 対処 → 副校長 → 意見提出者等

※2 意見等を伝えて欲しい具体的な関係者等がいる場合には、次に示してください。

具体的な関係者等：

1. 提出者

内容にもよりますが、当欄への記載がなく、事実の確認の出来ないものは、虚偽の意見または信憑性の低い意見として処理されます。

年 工学科 学籍番号 氏名

2. 回答方法

対処結果等の回答通知方法について、以下に示してください。

掲示で メールで(アドレス) 回答は不要

その他：

3. 公開の可否

当件への対処結果等について掲示等により公開することの可否について示してください。

掲示等による公開可 公開は一切不可 その他：

4. 意見等

可能な限り具体的に、また事実の確認が行えるように記述してください。

副校長記入(対処日, 対処結果等) 整理番号：

(出典 木更津高専 学生の声 <http://www.kisarazu.ac.jp/zaigaku/koe/koe.html>)

「学生の声」の回答例

24. 5. 14

「学生の声」への回答

提出者 3年生
回答者 国際交流委員長

【いただいたご意見の概要】

本校は、台湾への短期海外留学を行っていますが、その他の国への短期海外留学は行わないのでしょうか？

英語圏やドイツ語圏への短期海外留学の実施を希望します。

【回答】

本校は2008年からドイツ文化センター（ゲーテ・インスティテュウト）と提携しており、毎年4名程度の学生をドイツに派遣してきました。夏休みに3週間です。資格は18歳以下で、ドイツ語能力の高い学生の中から選ばれます。ぜひ挑戦してください。

英語圏への派遣については、現在準備を進めている段階ですが、外部機関が公募していますので、その情報を提供しています。電子掲示板でも情報提供しています。現在公募中のプログラムが2件あります。

また、学生課脇のマガジンラックにも公募情報を展示してありますので見てください。

高専機構本部は専攻科の学生を対象に海外インターンシップの参加者を公募しています。派遣先は主にアジアですが、欧米もあります。

英語圏とは限りませんが、英語でのコミュニケーションを前提としています。

また、本校と機構本部が公募する研究発表の機会もあります。開催地によらず、英語での発表が前提となっています。

いずれも高い語学力を必要としますので、よく勉強して下さい。

(出典 学生課資料)

木更津工業高等専門学校外部評価実施要領

(趣旨)

第1 高等専門学校は、学校教育法並びに独立行政法人通則法により評価機関による評価を受けることが定められている。同時に日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定には、学外有識者による評価が求められていることから、本校における教育・研究活動及び地域連携等の状況の自己点検及び評価の結果について学外有識者による評価を行い、教育・研究活動の改善とその水準の向上並びに地域連携の活性化に資するものとする。

(外部評価委員会)

第2 本校に第1の外部評価を実施するため、学外の有識者による外部評価委員会を置く。

(外部評価委員会委員)

第3 外部評価委員会の委員は、次の構成員とし、校長が別紙のとおり委嘱する。

①企業関係の有識者 2名

②教育関係の有識者 2名

③その他有識者 3名

(外部評価の実施方法及び項目)

第4 外部評価委員会による外部評価実施方法及び項目は、別に定める。

(外部評価報告書のとりまとめ)

第5 校長は、外部評価委員会による外部評価の結果を外部評価報告書としてとりまとめる。

(事務)

第6 外部評価に関する事務は、総務課において処理する。

(出典 木更津工業高等専門学校外部評価実施要領)

木更津工業高等専門学校外部評価の実施方法及び項目

1. 外部評価の実施方法

(1) 資料調査

木更津工業高等専門学校第1期中期計画（平成16年度～平成20年度）に係る実績評価表

(2) 実地調査及び視察

校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，地域共同テクノセンター長，学科・学系主任，JABEE認定・認証評価推進委員長，中期計画推進委員長等からのヒアリング及び学内施設の視察

(3) 外部評価書の作成

(1) 及び (2) の調査，視察に基づく各委員の外部評価書の作成

(4) 外部評価報告書

(3) の外部評価書に基づく外部評価報告書の作成

2. 外部評価の項目

- ①教育に関すること
- ②研究に関すること
- ③地域社会との連携に関すること
- ④国際交流に関すること
- ⑤その他管理運営に関すること

【木更津工業高等専門学校外部評価委員会等日程】

平成21年12月9日 外部評価委員の委嘱依頼文書を各委員候補者等に送付

平成22年1月1日 外部評価委員委嘱辞令作成

平成22年1月6日 外部評価委員会の開催通知

平成22年1月26日 外部評価委員会開催

平成22年2月26日 外部評価委員から評価書を受領

平成22年3月 外部評価報告書作成

(出典 木更津工業高等専門学校平成21年度外部評価報告書 3～4頁)

資料 9-1-②-8

外部評価委員会からの教育に関する課題及び提言に対する対応

指摘事項	対応
技術教育支援センターの一般科目への支援を検討	一般特別研究における実験の支援を行った。
科目系統図は非常に分かりやすいので、学生が活用できるようにしてはどうか。	シラバス（学生配布用及びウェブ掲載版）に「学習目標を達成するため必要な授業科目の流れ図」を掲載した。
ネットワーク情報センターの開放時間が17時までなので、低学年の学生は不自由を感じているようだ。	図書館（開放時間20時まで）にネットワーク情報センターに設置したPCと同等のものを配備した。

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 9-1-②-9

平成 24 年度保護者懇談会等一覧

開催年月日	保護者懇談会等名	参加者数
平成 24 年 4 月 9 日	新入生保護者懇談会	
平成 24 年 4 月 9 日	1 年生寮生保護者懇談会	72 名
平成 24 年 5 月 18 日	後援会総会	59 名
平成 24 年 5 月 18 日	寮生保護者懇談会	84 名
平成 24 年 7 月 2 日 ～7 月 8 日	1, 2 年生保護者個別懇談会	
平成 24 年 10 月 29 日 ～11 月 4 日	保護者個別懇談会	
平成 24 年 11 月 3 日	保護者全体懇談会	
平成 25 年 3 月 11 日	平成 25 年度 1 年生寮生保護者懇談会(説明会)	71 名
平成 25 年 3 月 16 日	進路懇談会(全体)	本科 141 名 専攻科 18 名
	進路懇談会(学科ごと)	本科 141 名 専攻科 18 名

(出典 総務課・学生課資料)

資料 9 - 1 - ② - 10

保護者からの要望に対して改善した事例

開催年月日	保護者懇談会等名	保護者等からの要望	左記を踏まえて取り組まれた改善策の事例
平成 24 年 4 月 9 日	新入生保護者懇談会	なし	
平成 24 年 4 月 9 日	1年生寮生保護者懇談会	特になし(ただし, 既往症等の相談は個別に受付ける)	
平成 24 年 5 月 18 日	後援会総会	なし	
平成 24 年 5 月 18 日	寮生保護者懇談会	休日の部活動等で, 早出するときの朝食準備	事前に申し込み, 朝6:45分以降の時間帯であれば用意可能(パン食と飲物)とした。
平成 24 年 7 月 2 日~7 月 8 日	1, 2年生保護者個別懇談会	2年生なのでまだ少し早いとは思いますが, 就職や進学についての情報・資料が欲しい	
平成 24 年 10 月 29 日 ~11 月 4 日	保護者個別懇談会	なし	
平成 24 年 11 月 3 日	保護者全体懇談会	なし	
平成 25 年 3 月 11 日	平成 25 年度1年生寮生保護者懇談会(説明会)	主に入寮に際しての説明会であるため特になし	
平成 25 年 3 月 16 日	進路懇談会(全体)	なし	なし
	進路懇談会(学科ごと)	受験勉強の進め方について学校から働きかけて欲しい(J科)	課題研究, 卒業研究の担当教員が基本的に働きかけ, その後必要に応じて, 各科目の教員が対応する形を既に取っているのので, その旨回答

(出典 総務課・学生課資料)

準学士課程卒業生・専攻科課程修了生アンケートのフォーマット

木更津工業高等専門学校「卒業生・修了生アンケート」

H24.10.25

本アンケートは木更津高専の教育改善に用いるために行っております。Q1～7の回答は該当項目の番号を右の回答欄にご記入ください。Q8・9は記述式回答となっております。項目が多くお手数をおかけいたしますが、ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

回答欄

Q1 ご卒業または修了後、何年経っていますか。
①-9年以下、②-10～19年、③-20～29年、④-30年以上

Q2 本科(準学士課程)卒業の方へお聞きします。木更津高専の卒業学科を教えてください。
①-機械工学科 ②-電気電子工学科(電気工学科) ③-電子制御工学科 ④-情報工学科 ⑤-環境都市工学科(土木工学科)

Q3 専攻科修了の方へお聞きします。修了時の専攻を教えてください。
①-機械・電子システム専攻、②-制御・情報システム専攻、③-環境建設工学専攻

Q4 現在の職種等を教えてください。
①-会社員・公務員 ②-大学生・高専専攻科生 ③-大学院生 ④-自営業 ⑤-その他

Q5 現在の業種と職種を教えてください。
【業種】
(1)繊維 (2)建設業 (3)食料品 (4)繊維製品 (5)パルプ・紙 (6)化学 (7)医薬品 (8)石油・石炭製品
(9)ゴム製品 (10)ガラス・土石製品 (11)鉄鋼業 (12)非鉄金属製品 (13)金属製品 (14)機械 (15)電気機器 (16)輸送用機器
(17)精密機器 (18)電気・ガス・水道業 (19)運輸業 (20)情報・通信業 (21)小売業 (22)サービス業 (23)公務員 (24)その他
【職種】
(1)研究開発 (2)製造・生産技術 (3)設計 (4)生産・品質管理(5)システムエンジニア (6)サービスエンジニア(7)営業 (8)経営・管理 (9)その他

Q6 次にあげる学力、能力等について、木更津高専での勉学でどの程度身に付けることができましたか。
4段階で評価してください。
①-十分に身に付けることができた、②-概ね身に付けることができた、③-あまり身に付けることができなかった、
④-全く身に付けることができなかった

Q7 木更津高専で受けた授業カリキュラムの中で、以下の関連科目が十分な内容と時間数が確保されていたと思いますか。
4段階で評価してください。
①-十分、②-概ね、③-やや不十分、④-不十分、⑤-該当なし

Q8 木更津高専で受けた教育について、良かったと思う点と良くなかったと思う点をお聞かせください。

Q9 木更津高専への提言があれば、ご記入ください。

回答は以上です。ご協力ありがとうございました。
点検・評価委員会

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 9-1-②-12 (1/4)

準学士課程卒業生・専攻科課程修了生アンケートからの
教育の状況に関する自己点検・評価の分析

Q1	卒業・修了後, 何年
1(~9)	119
2(10~19)	25
3(20~29)	7
4(30~39)	1

152

Q2	卒業学科
1(M)	27
2(E)	26
3(D)	28
4(J)	9
5(C)	42

132

Q5[業種]		現在の業種と職種
1	鉱業	3
2	建設業	7
3	食料品	3
4	繊維製品	0
5	パルプ・紙	0
6	化学	3
7	医薬品	2
8	石油・石炭製品	1
9	ゴム製品	1
10	ガラス・土石製品	0
11	鉄鋼業	2
12	非鉄金属製品	1
13	金属製品	0
14	機械	6
15	電気機器	12
16	輸送用機器	5
17	精密機器	6
18	電気・ガス・水道業	7

Q3	修了時の専攻
1(ME)	9
2(DJ)	2
3(CC)	9

20

Q4	現在の職種等
1(会社員・公務員)	99
2(大学生・専攻科生)	29
3(大学院生)	9
4(自営業)	2
5(その他)	13

152

19	運輸業	4
20	情報・通信業	16
21	小売業	0
22	サービス業	4
23	公務員	9
24	その他	17

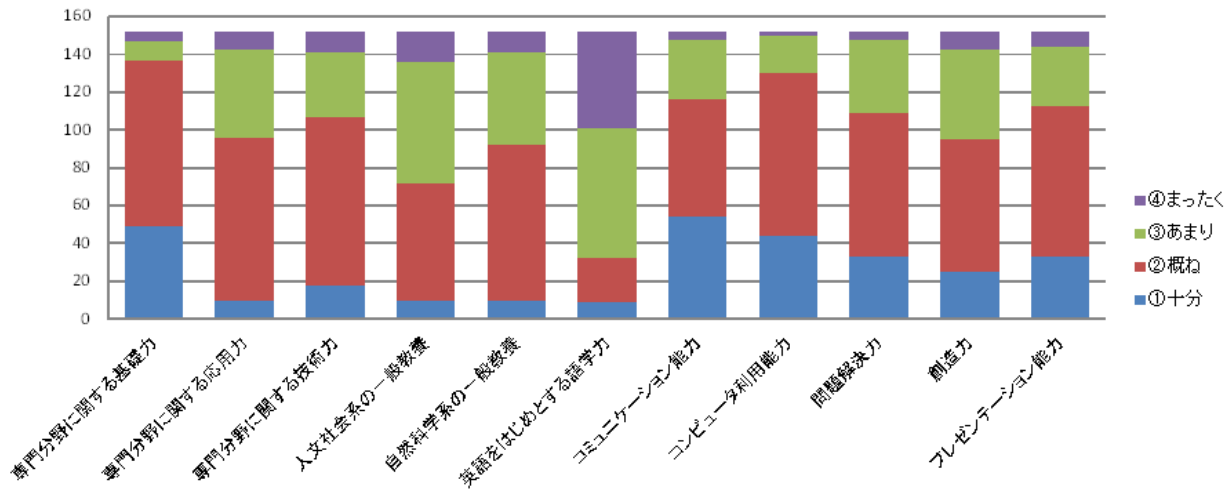
59

Q5[職種]		現在の業種と職種
1	研究開発	12
2	製造・生産技術	13
3	設計	23
4	生産・品質管理	7
5	システムエンジニア	12
6	サービスエンジニア	13
7	営業	1
8	経営・管理	3
9	その他	25

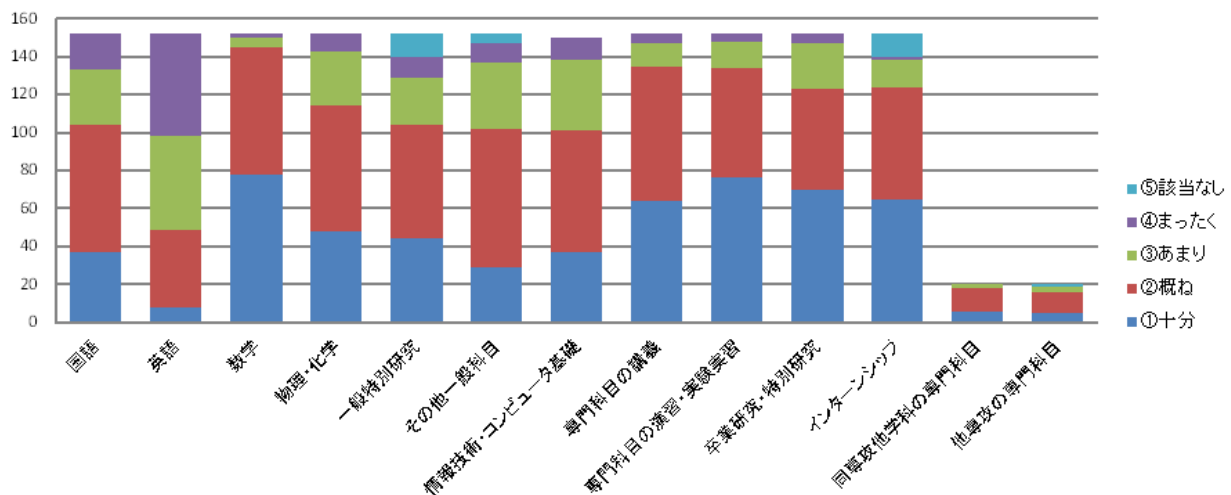
109

資料 9 - 1 - ② - 12 (2 / 4)

Q6.木更津高専での勉学でどの程度身に付けることができましたか。



Q7.関連科目が十分な内容と時間数が確保されていたと思いますか。



Q8.木更津高専で受けた教育について、良かった点

幅広い専門知識, 実験実習, 各々の連携	53
インターンシップ	1
理数系が十分学べた	8
混合学級	1
授業がわかりやすい	1
自主性, 自由度が高い	11
寮生活	6
プレゼンテーション能力がついた	3
社会経験のある教員	2
安い学費	1
天文台との協働などは良い刺激	1

資料 9 - 1 - ② - 12 (3 / 4)

人間性が身についた	2
データ分析力, レポート作成能力が身についた	4
15 才から専門を学べる.	8
卒研, 特研	3
仲の良い友達ができる	6
機械工作経験が生かされる	3
先生方の面倒見がよい. 距離が近い.	13
実験実習・演習が多い	11
工学的な考え, コミュニケーション能力を得られた	11
学習環境が整っている	6
よい部活に恵まれた	1

Q8.木更津高専で受けた教育について, 良くなかった点	
化学が少ない	2
2年の時, 専門科目の一人の先生がすべての科目を見ていてバランスが悪かった.	1
使っていた教科書が難しかった.	1
英語が弱い	26
一般科目が弱い. 偏っている	20
レポートが厳しかった	2
専門科目教員の視野が狭い	1
女子が少ない	4
課題指示方法が非常識	1
詰め込み授業	1
人間関係が狭い	2
モチベーションを維持する工夫が必要	1
数学の基礎の勉強が足りない	3
強電をカリキュラムに入れてほしい	1
カリキュラムがぶれて, 社会で必要とされることが学べなくなった	1
つまづいた学生へのフォローが不十分	3
実験実習, 演習, 技能系の時間を増やしてほしい	4
それぞれの分野を深く学びたかった	1
問題解決力, コミュニケーション能力が不足	3
4.5 年で現場見学等があればよい	1
普通の高校生, 大学生との交流が少ない	1
部活に力を入れてない	1
時間にルーズ	1
ドイツ語が難しかった	1

資料 9 - 1 - ② - 12 (4 / 4)

情熱のある先生が少ない	1
違う科目でも課題があることを考慮してほしい	1
何に役立つのかが在学中にわからない	1
先生の話がわかりにくい	1
寮がアパート化している	1

Q9.木更津高専への提言

英語力をつけた方が良い	8
教授の評価や教え方・進め方が変えづらい	1
発展授業でも会社で応用できないことが多い	1
民間企業経験者を教員に採用したほうがよい.	1
一般科目を充実してほしい	2
高専に来ればこれができるようになるとの中学生へのアピール	1
文章作成能力を重視すべき	1
経済に関する勉強がしたかった	1
報告書が優秀と職場で評価されている. 低学年から練習を重ねた結果だと思う.	1
他校や団体との交流. 地元との連携活動	2
電験2種申請に必要な科目は取らせるよう指導してほしい	1
工場実習を増やした方がよい	2
コミュニケーション能力向上のため, 部活に入る機会を増やした方がよい.	1
資格取得の優遇	1
就職活動の学校側のサポートが弱い	1
AED の数が少ない	1
寮でしか学べないこともあるので, 大切にしてほしい	1

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 9 - 1 - ② - 13

編入学先の各大学アンケートのフォーマット

長岡技術科学大学教員の皆様へアンケートのお願い

木更津工業高等専門学校
点検・評価委員会

木更津高専では、本校の教育活動の改善のために、大学教員の皆様にアンケートをお願いしております。大学教員の皆様のご要望を活かし、より良い学生を育成するためにも、忌憚のない御意見をお聞かせいただけますよう、お願い申し上げます。

1. 所属されている系（機械系、電気系など）をご記入下さい。

回答（ ）

2. 先生（ご回答者）の年齢区分について、該当する番号を回答欄に記入して下さい。

① 20～29 歳 ② 30～39 歳 ③ 40～49 歳 ④ 50 歳以上 回答（ ）

3. 高専生に求める人材（能力、人柄など）とはどのようなものでしょうか？

4. 今までに、先生の研究室に配属され直接指導を行った本校卒業生の人数について、該当する番号を回答欄に記入して下さい。

① 0～4 名 ② 5～9 名 ③ 10～14 名 ④ 15～19 名 ⑤ 20 名以上 回答（ ）

5. 設問 3 のご回答を踏まえ、貴大学に入学した本校のこれまでの卒業生に対する満足度を教えて下さい。該当する満足度を選択肢より選び、番号を回答欄に記入して下さい。

① 非常に満足している ② 満足している ③ あまり満足していない ④ 不満である
回答（ ）

6. 次にあげる学力、能力等について、木更津高専の卒業生（修了生）は、どの程度身に付いていると思われますか。該当する評価を選択肢より選び、番号を各項目の回答欄にご記入下さい。

① 十分に身に付いている ② 概ね身に付いている ③ あまり身に付いていない ④ 全く身に付いていない

(1) 専門分野に関する基礎力 回答（ ）

(2) 専門分野に関する応用力 回答（ ）

(3) 専門分野に関する技術力 回答（ ）

(4) 人文社会系の一般教養 回答（ ）

(5) 自然科学系の一般教養 回答（ ）

(6) 英語をはじめとする語学力 回答（ ）

(7) コミュニケーション能力 回答（ ）

(8) コンピュータ利用能力 回答（ ）

(9) 問題解決力 回答（ ）

(10) 創造力 回答（ ）

(11) プレゼンテーション能力 回答（ ）

7. その他、高専教育に対するご要望がありましたら、忌憚なくご記入ください。

ご協力、誠にありがとうございました。

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 9-1-②-14 (1/4)

編入学先の各大学アンケートからの教育の状況に関する自己点検・評価の分析

Q1	所属学科	Q2	年齢区分
機械系	27	①20～29 歳	0
電機系	32	②30～39 歳	10
環境都市系	12	③40～49 歳	32
情報系	2	④50 歳以上	20
物質・材料系	1		
生物系	5		
原子力安全	2		
メディアシステム	1		
人工システム	1		
経営情報	1		

84

Q3. 高専生に求める人材	
エンジニアとしてのセンス	
物理・数学・英語・専門分野の基礎	27
ハングリー精神, 向学心が旺盛, チャレンジ精神	8
工学への興味	8
コミュニケーション能力	12
もの作りへの興味	4
専門分野の応用力	2
行動力	8
好奇心	10
オープンマインドで未知の物(学問, 文化, 他人)に寛容, 柔軟性	2
積極性	13
機械加工に関する知識	
物事に対する本質的な理解(高専生は作業は速いが皮相的)	
自主性	8
専門分野の技能・スキル(実学)	15
高い動機	3
ある程度の専門知識に基づく, 若者らしい新しい発想を生み出す	
明るさ, 元気, 正直, 人間力, たくましさのある人	7
真面目	4
問題解決能力	2
物事に根気よく取り組める	3

資料9-1-②-14 (2/4)

論理的な思考	3
はっきりものを言う学生	
良い意味でのこだわり	
英語を含め、系統だった教育を早期に終了している。その結果、何も身につけていない。	
個性を表現できる	
常識	
長期的な視野に基づき努力できる人材	
責任感(期限を守る, 自主的な計画性など)	3
自ら課題を見つけて実施する心がけ	
マニアックでもいいから、なにか抜き出た特徴をもつこと	
高専生であることに誇りを持てる人材	
自分の意見を持てる, 言える人材	
自律性がある学生	2
柔軟な発想力	
協調性	

Q4	これまでに指導した学生数
①0~4名	53
②5~9名	8
③10~14名	2
④15~19名	0
⑤20名以上	0

設 問	1	2	3	4	平均
Q5. 設問3のご回答を踏まえ、貴大学に入学した本校のこれまでの卒業生に対する満足度を教えてください。 ①非常に満足している ②満足している ③あまり満足していない ④不満である	12	36	7	0	1.9

資料 9-1-②-14 (3/4)

設 問	1	2	3	4	平均
Q6. 次にあげる学力, 能力等について, 木更津高専の卒業生(修了生)は, どの程度身についていると思われますか. ①十分に身についている ②概ね身についている ③あまり身についていない ④全く身についていない					
(1) 専門分野に関する基礎力	10	39	5	0	1.9
(2) 専門分野に関する応用力	7	35	11	0	2.1
(3) 専門分野に関する技術力	16	33	4	0	1.8
(4) 人文社会系の一般教養	3	25	21	3	2.5
(5) 自然科学系の一般教養	6	32	15	1	2.2
(6) 英語をはじめとする語学力	3	17	29	4	2.6
(7) コミュニケーション能力	9	32	11	1	2.1
(8) コンピュータ利用能力	12	38	3	0	1.8
(9) 問題解決力	9	32	11	1	2.1
(10) 創造力	9	23	21	0	2.2
(11) プレゼンテーション能力	12	29	12	0	2.0

7. その他

エンジニアとしての基礎, 現場意識などのキーコンピテンシーを身に付けさせてほしい

ロジカルシンキングなども今後は取り組むべきだと考える

高専教員が自信を持てるような仕組みの構築

高専生の特徴がなくなっている。(実学より座学が中心となる傾向がある。元気がなくなってきた)

バイタリティのある人材を育成してほしい

「挑戦する意思」を高めてほしい(たとえば海外研修など積極的に応募してほしい)

文章により自らの考えを伝える力を養う教育(日本語力)

正規分布, 平均値, 標準偏差の意味を理解させる教育(実験実習)

エリート意識を持ったリーダー的地位をめざそうとするアクティブな行動力を養うようにご配慮いただけるとよい

進学率が 40~80%となっている今日において大学で必要となる学力の養成にも力を入れていただきたい

国語力, 英語力を強化していただきたい

英語力の強化

上昇志向の育成(粘り強さ)

統計学を学んでほしい

専門分野に関する基礎的な知識, スキル(オシロスコープの使い方など)

さまざまなことに挑戦する心

資料 9 - 1 - ② - 14 (4 / 4)

生活指導を大学でなくて済むようお願いします。

根拠のない自信がある学生の指導が困難です(指導内容を理解しようとせず、自明な間違いを
する)

過度の指導をせず、学生の自主性を伸ばしてください。社会の厳しさのご指導をお願いします。

全入時代を迎え、より強い大学との連携がほしい。研究の協力や授業以外での学生の行き来を多
くし、志のある学生を大学・大学院へ導いてほしい。

高等学校から大学初年度くらいまでの範囲の基礎数学力の向上をお願いします。

語学が苦手な学生が多いようです。プレゼンできるような実用的な英語や、長文読解などをやってお
くとよいかと思います。

高専卒業生は卒業研究を履修していることから、大学の卒業研究にスムーズに取り組むことがで
き、高い業績を上げています。

専門能力が高いが、英語が苦手という学生が多いように感じます。

機械工学科への編入は機械工学科出身の学生が望ましいと思います。異なる学科からの編入の
場合、学生も教員も苦勞することがあります。

1年次入学の学生にも負けない人文社会系の基礎的素養を身に着ける、もしくは少なくとも、その
重要性を認識できるよう指導願います。

概ね高評価です。コミュニケーションや英語能力をつけると更によい学生になります。

良い学生とそうでない学生の差が大きいと感じる。

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 9 - 1 - ② - 16 (1 / 2)

就職先の各企業アンケートからの教育の状況に関する自己点検・評価の分析

Q1.業種		
1	建設	12
2	情報・通信	7
3	精密機器	5
4	メンテナンス	5
5	化学	4
6	製造業	4
7	食品製造	3
8	石油	3
9	医薬品製造	2
10	サービス	2
11	鉄道	2
12	電力・エネルギー	2
13	運輸	1
14	化粧品製造	1
15	昇降機	1
16	商社	1
17	鉄鋼	1

Q2.受け入れ対象	
M	42
E	45
D	37
J	24
C	16
ME	22
DJ	19
CC	17

Q3.卒業生の有無	
有	45
無	11

Q4.高専生に求める人材	
コミュニケーション能力	30
チームワーク・協調性	12
専門の基礎力	14
リーダーシップ	8
自主性・積極性がある人	8
明るく素直な方	6
元気とやる気のある人	5
真面目に、コツコツ努力する	4
バイタリティーがある人	4
モノづくりが好きなこと	4
チャレンジ精神	4
行動力がある	3
学ぶ意欲がある	2
自分で考え行動できる人	2
忍耐力	2
バランスのとれた人材	1
人との関わりを大切にする	1
物事を前向きに捉える人	1
プレッシャーに打ち勝つ強い意志を持つ人	1
人柄	1
システム専門能力	1
グローバルに活躍が期待できる人	1
プレゼンテーション能力	1
問題解決力	1
創造力	1
回路の知識・技術	1
透析装置に対する興味, 好奇心	1
エンジニアリング思考力がある	1
技術力	1
優秀な潜在能力	1
体力	1
エンジニアとしての使命感	1

資料 9-1-②-16 (2/2)

設問	1	2	3	4	平均
Q5. 上記 Q4.を踏まえ、貴社で働く本校のこれまでの卒業生に対する満足度を教えてください。 ①非常に満足している ②満足している ③あまり満足していない ④不満である	31	14	0	0	1.3
Q6. 次にあげる学力、能力等について、木更津高専の卒業生(修了生)は、どの程度身についていると思われるか。 ①十分に身についている ②概ね身についている ③あまり身につけていない ④全く身につけていない					
(1) 専門分野に関する基礎力	35	8	0	0	1.2
(2) 専門分野に関する応用力	15	27	1	0	1.7
(3) 専門分野に関する技術力	16	27	0	0	1.6
(4) 人文社会系の一般教養	6	30	4	0	2.0
(5) 自然科学系の一般教養	5	31	4	0	2.0
(6) 英語をはじめとする語学力	1	24	12	0	2.3
(7) コミュニケーション能力	22	18	2	0	1.5
(8) コンピュータ利用能力	17	25	0	0	1.6
(9) 問題解決力	11	28	2	0	1.8
(10) 創造力	8	31	1	0	1.8
(11) プレゼンテーション能力	7	29	3	0	1.9

Q7. その他, 要望

特にないが、基礎的な技術の知識を習得してあると、会社に入ってからへの適応が早い。

企業と御校が継続した良好な関係を維持させていただきたい

インターン等、企業経験の要望がございましたら受け入れさせていただきます。

専門的知識、問題解決力、創造力

高専、大学、院と区別なく採用活動を行っておりますので、今後ともよろしく願います。

就職候補企業としてのみではなく、各種コンテストや講座などを企画し、パートナーとして「すごいこと」を共創したいですね。

社会人としての心構えが大切だと思います。

仕事で CAD を使うことが多く、勉強していれば即戦力になる。

コンクリート試験、鋼材の試験など材料試験を多く行い、特性を理解する教育が、実際に働く際に知識として大切であると感じる。

(出典 点検・評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学校の構成員である、教職員（非常勤を含む）及び学生からの意見を授業評価アンケート

ト、WEBキャリアカルテ他から意見の聴取をし、学外関係者の意見は、企業関係有識者・教育関係有識者・その他の有識者からなる第三者評価、学校として開催している保護者懇談会等、準学士課程卒業生・専攻科課程修了生、編入学先の各大学、就職先の各企業から幅広く意見の聴取を行っている。これらの結果をもとに、学校として策定した基準に基づいて教育の状況に関する点検・評価を行っている。

観点 9-1-③： 各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

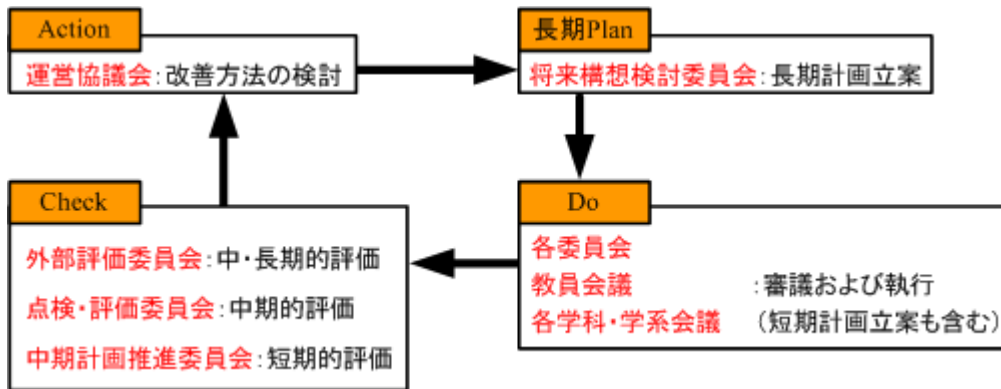
(観点に係る状況)

学校全体の教育システム改善の仕組みを以下に示す(資料 9-1-③-1)。本校の継続的教育改善は、短期から長期までの視野に立ち、PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルに基づき実行される。将来構想検討委員会(資料 9-1-③-2)は本校の将来構想等について審議し、様々な課題についての調査・検討や執行を各委員会に依頼するなど、長期計画を立案している。各委員会は短期から長期までの計画立案を審議し、その内容が運営協議会、教員会議、各学科・学系会議において検討され、執行している。教育課程の見直しなどの大きな教育方法の改定については、このシステムの中で教務委員会、専攻科委員会が中心的な役割を果たす。

点検・評価委員会(資料 9-1-①-6)は教育改善サイクルを点検するために設置され、本校全体の活動について中・長期的な視野からの外部評価を適宜受ける(資料 9-1-②-6)仕組みとなっている。また、中期計画推進委員会(資料 9-1-①-7)は、中期的視点に立ち、中期計画とその年次計画の策定及び実施状況の評価(資料 9-1-③-3)を行う。このような学校全体のシステムにより、全教員が全体的な流れを理解しつつ、各委員会が独自の判断により機動的に業務を遂行し、教育活動を継続的に改善することが可能となっている。

一方、授業改善を推進する委員会はFD推進委員会(資料 9-1-①-2)であり、教育改善に関する短・中期的な計画立案・実施と諸活動の実施援助を行う。すなわち、授業計画となるシラバス作成、授業公開・授業参観、授業評価アンケートの実施、授業評価アンケートに対する改善を教員に促し、具体的な授業改善を推し進める。これら一連のFD活動を教員が次回の授業計画に生かすことでPDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを機能させ、教育改善を具体的かつ継続的に行うことを可能としている(資料 9-1-③-4)。

継続的教育改善システム図



(出典 点検・評価委員会資料)

資料 9-1-③-2 (1/2)

木更津工業高等専門学校将来構想検討委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年4月1日規則第1号）第28条第3項の規定に基づき、将来構想検討委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学科の設置及び改組等に関すること。
- (2) 組織及び管理運営の改善方策に関すること。
- (3) 施設・設備の整備及び充実に関すること。
- (4) その他将来構想等に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
 - (2) 教務主事
 - (3) 学生主事
 - (4) 寮務主事
 - (5) 専攻科長、地域共同テクノセンター長及び特定の業務を担当する副校長
 - (6) 各学科主任、学系主任
 - (7) 事務部長
 - (8) 総務課長及び学生課長
 - (9) その他校長が必要と認めた者
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第1項第9号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

(委員以外の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第6条 委員会に専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。ただし、前条に規定する専門委員会の事務は、当該所掌課において処理する。

資料 9-1-③-2 (2/2)

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 13 年 4 月 1 日規則第 2 号)

教育改善に関する中期計画の自己評価（平成 24 年度）

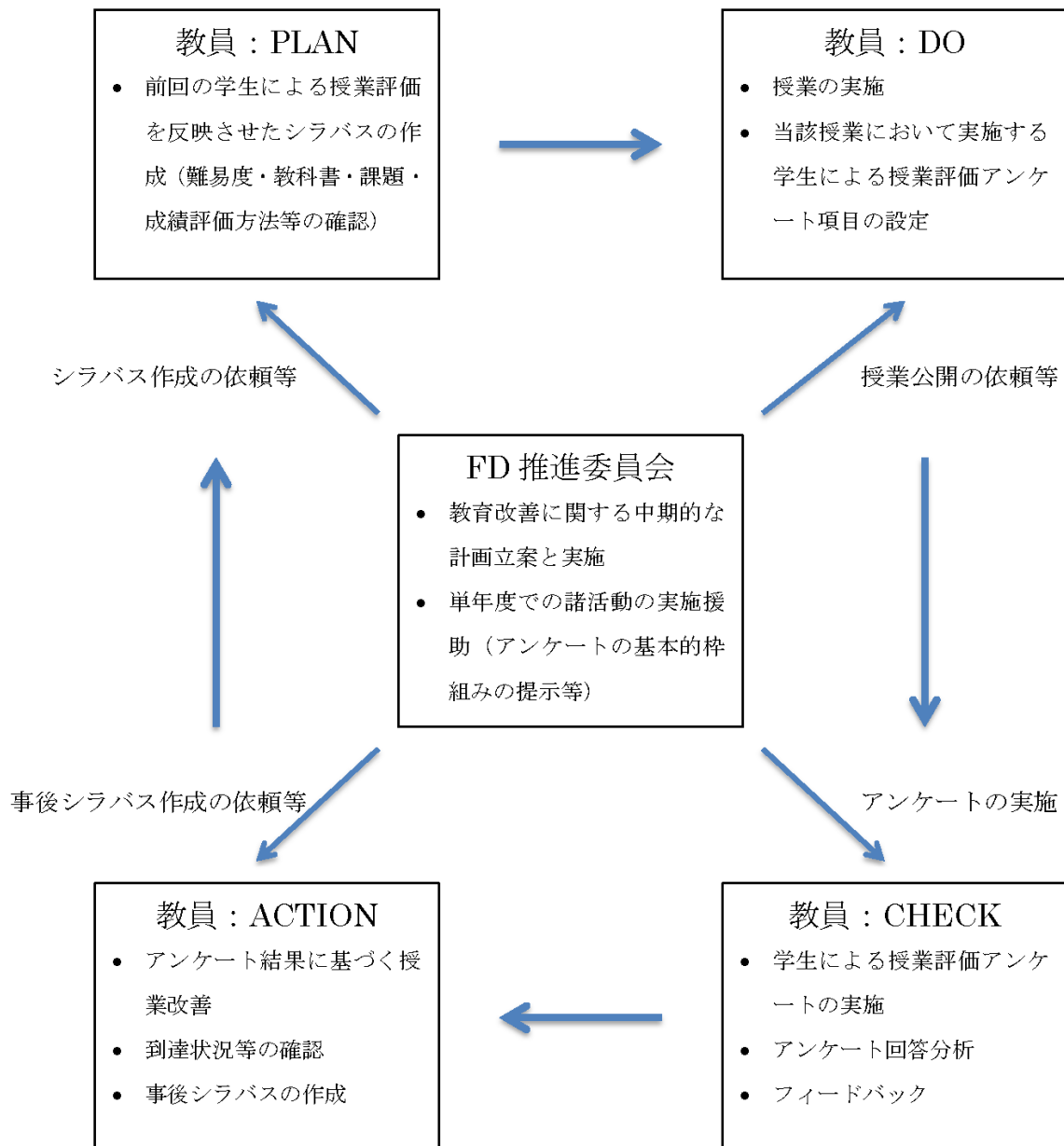
木更津高専による自己評価				
中期計画 (年度計画)	評価項目・評価指標等	評価項目・評価指標等に対する実績	左記実績についての自己評価	自己 評定
<p>中期目標中の期間に、各学校の枠を越え、校長や教員の教育研究の経験や能力を活用した研究会や委員会などの組織において決定した5つ以上の分野について、国立高等専門学校の特性を踏まえた教材や教育方法の開発を推進する。 (年度計画)</p> <p>高等専門学校の特性を活かした教材や教育方法の開発を推進するとともに、開発した教材や教育方法をデータベース化し、各学校において利活用を推進する。</p>	<p>【教材や教育方法の開発状況】</p> <p>(1) 授業評価アンケートなどの結果を参考にし、教材開発に努める。 (2) 専門教員と一般科目教員の意見交換を積極的におこない、教育手法について検討する。 (3) 開発した教材や教育手法を積極的に公表する。 (4) 授業評価アンケートなどの結果を参考に、実験実習などの授業内容を精査する。 (4) 教材及び教育方法の改善及び開発に努める。また、前年度と同様工学実験に関する学生アンケートを実施し、実験及び指導書の内容向上に努める。【M科】</p> <p>・実験実習の内容の向上について、検討を行う。【E科】</p> <p>・平成 23 年度の検討結果を踏まえ、実験実習のテーマや内容の改善を継続して実施する。特に高学年次において授業との対応づけを高め授業内容の定着を計る。【D科】</p> <p>・「ED 能力向上のための実オブジェクト創成実験実習環境」では、個別ワークベンチ(開発用コンピュータ、オシロスコープ、電源、発信器、半田ゴテ等)形成可能な実験実習環境を用いて、各種計算機、インターフェースの設計製作を行った。「高度計算機演習環境」では、最新式のコンピュータを用いて、ソフトウェア開発環境を整備し、実験・演習・授業の連携を計った。さらに先端設備化への計画を実施した。【J科】</p> <p>・レポート作成方法、論文作法の指導を強化して、学生のレポートの質的な向上をはかるとともに、プレゼンテーション能力の更なる向上に努める。教職員が連携して学生の指導にあたり、学生のものづくり意識の向上に努める【C科】。</p>	<p>【教材や教育方法の開発状況】</p> <p>(1) 本格的に運用開始となった WEB キャリアシステムによって、全教員の授業評価アンケートを相互に見ることができるようになり、教材開発を行う動機づけができた。【教務】</p> <p>(2) 「教科と学科の懇談会」を開催し、一般科目と専門科目間の意見交換を行った。【教務】</p> <p>(3) 一般特別研究会などで開発した教材や教育手法を積極的に公表するよう努めた。【教務】</p> <p>(4) 授業評価アンケートなどの結果を参考に、実験実習などの見直しに努めた。【教務】</p> <p>・授業評価アンケート結果を参考にし、教材の開発及び教育方法の改善に努めた。また、前年度と同様工学実験に関する学生アンケートを実施し、学科内で作成した実験及び指導書の内容改善を行った。【M科】</p> <p>・実験実習の内容について、WG を組織して検討を行った結果、平成 25 年度から 5 年生の実験実習の実施形態を改善し、実験テーマを精選することになった。【E科】</p> <p>・4 学年の実験実習において、従来の電気・電子系、計測・制御系の実験テーマに加え、それらの技術を支える機械材料に関する実験およびシミュレーションを新たに取り入れ、より実践的な技術教育を行った。また、それぞれのテーマにおいて、座学での知識が体得できるような工夫を施し、授業内容が定着するように努めた。【D科】</p> <p>・「ED 能力向上のための実オブジェクト創成実験実習環境」では、個別ワークベンチ(開発用コンピュータ、オシロスコープ、電源、発信器、半田ゴテ等)形成可能な実験実習環境を用いて、各種計算機、インターフェースの設計製作を行った。「高度計算機演習環境」では、最新式のコンピュータを用いて、ソフトウェア開発環境を整備し、実験・演習・授業の連携を計った。さらに先端設備化への計画を実施した。【J科】</p> <p>・講義、実験実習において、学生へのプレゼンテーション、レポート作成指導を強化した。研究発表会などの評価結果を見るとある程度の効果が得られた。教員の再雇用制度を活用して、特に実験実習における学生指導方法のノウハウの継承に努めた【C科】。</p>	<p>WEB キャリアシステムを利用し、教員間でも学生からのニーズを広く共有することができるとは大変評価できる。また、教員間で詳細な情報交換を行うために、教科と学科の懇談会を継続して開催することも評価に値する。</p> <p>実験実習について、アンケート結果を有効に利用し、タイムリーな教材開発や教育方法の改善に努めていることは評価できる。</p> <p>実験実習のテーマの検討を継続的に行っていること、実験実習により授業内容が定着する試みを行っていることは評価できる。</p>	A
<p>実践的技術者養成の観点から、在学中の資格取得を推進するとともに、日本技術者教育認定機構(JABEE)によるプログラム認定を通じて教育の質の向上を図る。 (年度計画)</p> <p>JABEE 認定プログラムの更新・拡充を行うとともに、教育の質の向上に努める。また、在学中の資格取得について調査し、各高専に周知する。</p>	<p>【JABEE の認定審査状況】</p> <p>・平成 28 年度の JABEE 継続審査に向けて、教育プログラムの更なる向上を検討する。</p>	<p>【JABEE の認定審査状況】</p> <p>・現在、JABEE 認定を受けている「生産システム工学教育プログラム」の円滑な実施と、平成 28 年度の JABEE 審査に向け継続的に準備を行うために、点検・評価委員会の中に JABEE 推進専門委員会を設置した。</p> <p>・平成 24 年度日工教主催の JABEE 審査講習会(複合融合・新領域)、に参加し 2012 年の改訂について情報収集を行った(平成 24 年 7 月 21 日)。</p> <p>・本校において日本技術士会千葉県支部長等と面談し、情報交換を行った(平成 24 年 11 月 21 日)。</p> <p>・平成 25 年度より第 4 学年で実施される人文学系開設科目のキャリアプログラム改訂に対応して、「生産システム工学教育プログラム履修の手引」を改訂した。</p> <p>・教育プログラムの更なる向上に向けて、卒業生・就職先の企業、進学先の大学に対して広く意見を募り、本校のプログラム改善の基礎資料とするため、アンケートを実施した。</p>	<p>JABEE 推進専門委員会を設置して着実に平成 28 年度の JABEE 継続審査に向けての準備を行い、積極的な情報収集のもと教育プログラムの向上を目指していることは評価できる。</p>	A
<p>各学校における特色ある教育方法の取組みを促進するため、優れた教育実践例をとりまとめ、総合データベースで共有するとともに、毎年度まとめて公表する。 (年度計画)</p> <p>各高専の優れた教育実践例や取組例を、総合データベース「KOALA」を活用して収集・公表し、各高専における教育方法の改善を促進する。</p>	<p>【優れた教育実践の推進】</p> <p>・「全授業の常時公開」を継続して実施する。</p> <p>・「授業公開特別期間」を、「授業方法改善研究会」のために活用する。</p> <p>・「授業方法改善研究会」として、授業方法の実態の把握、工夫の抽出等、授業方法の改善方法について継続して検討する。</p> <p>・「授業担当者の手引-平成 24 年度版-」を作成する。</p> <p>・「担任の手引-平成 24 年度版-」を作成する。</p> <p>・教育実践例を収集し公表する。</p>	<p>【優れた教育実践の推進】</p> <p>・「全授業の常時公開」を継続し、外部からの訪問者に対して公開した。</p> <p>・「授業公開特別期間」として、前期：6 月 18 日(月)～6 月 22 日(金)、後期：12 月 3 日(月)～12 月 7 日(金)を設定した。</p> <p>・「授業方法改善研究会」として、「教科と学科の懇談会」のスケジュールが平成 28 年度分まで組まれた。また、授業の実態の把握、工夫の抽出、授業方法の改善等について検討した。</p> <p>・「授業担当者の手引-平成 24 年度版-」を作成した。</p> <p>・「担任の手引-平成 24 年度版-」を作成した。</p> <p>・一般特別研究では、他高専の教員も交えた研究会を実施し、本校における実践事例の公表を行った。</p>	<p>授業公開等が継続的に実施されていることは評価できる。一般特別研究において、他高専教員を交えた研究会を実施したことも評価できる。</p>	A

(出典 総務課資料)

授業評価等に関する年間サイクル

木更津工業高等専門学校における教育改善の流れ図

… 授業評価等に関する年間サイクル …



（出典 FD 推進委員会資料）

(分析結果とその根拠理由)

本校では、立案－実施－評価－改善のサイクルに基づいて学校全体の教育システム改善の仕組みを策定し、運営協議会、教員会議、学科・学系会議、各委員会を整備し、教育活動全般を継続的に改善している。FD推進委員会が授業改善を含む教育改善に関する短・中期的な計画立案・実施と諸活動の実施援助を行い、PDCA (Plan-Do-Check-Action) のサイクルを機能させて、教育改善を具体的かつ継続的に行っている。

観点 9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

個々の教員の改善は、授業評価アンケート等に基づき、事後シラバスとして作成し、保存している。また、個々の教員は、年間を通してPDCAサイクルによる継続的な授業改善を行っている(資料 9-1-③-4)。

授業実施記録の作成・保存が確実にされるように、点検・評価委員会において授業実施記録の確認を行っている。更に平成24年度では、授業内容、教材、教授技術等の継続的による改善例の様子の把握を容易にするため、各教員から具体的な改善例の報告をアンケート形式で収集・保存している(資料 9-1-④-1, 2)。

資料 9-1-④-1 (1/6)

FD 活動に基づいて、授業内容・教材・教授技術等の改善を行った事例

学科・学系	FD 活動種類	概要	科目	年度
人文	教科と学科の懇談会	環境都市工学科と人文学系社会科の教員懇談会において、環境都市工学科学生に対する一般科目「技術と社会」の授業改善の必要性を感じ内容を充実した。 具体的には、Civil engineering の civil とは military に対する語であり、土木工学は強固な近代社会を形成する上で国家の基幹をなす工学であるという重要性を授業で強調し、学生に自分の専門性と社会及び歴史との関連性を強く認識させるようにした。	技術と社会	2010
基礎	独自アンケートの結果	上越教育大学の西川教授の提唱する『学び合い』による授業を実践している。	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ	2008 ～ 2010 2012
		上越教育大学の西川教授の提唱する『学び合い』による授業を実践している。	代数幾何	2010 2012
		上越教育大学の西川教授の提唱する『学び合い』による授業を実践している。	解析Ⅱ	2008 2012
		上越教育大学の西川教授の提唱する『学び合い』による授業を実践している。	応用数学 A	2008 ～ 2010 2012
		上越教育大学の西川教授の提唱する『学び合い』による授業を実践している。	解析Ⅰ A 解析Ⅰ B	2009
	数学科の懇談会 KETpic 関係のセミナー	同僚の勧めで「学び合い」の授業方法を紹介された。今までも、講義中に演習を多く取り入れていたが、この演習で「学び合い」の手法を取り入れるようになった。また、KETpic 関係のセミナーを主催することで、より良い図入り教材を追究するようになり、講義内容をコンパクトで的確に要点をまとめることで、演習時間を十分に確保することができるようになった。	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 基礎数学Ⅲ 代数幾何 解析Ⅰ A 解析Ⅰ B 解析Ⅱ 解析Ⅲ	2010 ～ 2012

資料 9-1-④-1 (2/6)

学科・学系	FD 活動種類	概要	科目	年度
基礎	授業評価アンケートの結果	問題を解く機会が少ないというアンケート結果を受けて、授業で説明するべき部分を整理し、今まで説明していた部分をうまく演習問題に取り込んで、学生が自分で問題を解くことで理解を深められるように改善した。	応用物理Ⅱ	2012
		授業評価アンケートに基づき、独自のプリントを用いて毎週授業時間ごとに演習の時間を設けることで、授業内容の定着に効果があった。また毎回プリントを使うことで、試験前などの復習を効果的におこなうことができたようである。	物理学Ⅱ	2008
	学習到達度試験「物理」の実施結果	2009年度：「熱」分野の出題に添った単位系を用いて教えるように改善した。 2010年度～2012年度：3年生に対し、長期休業中に1～2年生の復習を兼ねた総合問題演習を課題として与えて、レポート提出させた。 2012年度：新領域である「微積分を用いた力学」に十分に対応できるように、授業内容及び教材を充実させた。	物理学Ⅲ	2009 ～ 2012
機械	授業評価アンケートの結果	板書(図)が読み取りづらいとアンケートにあったため、コンパスを使用するようにした。また、数学力不足が懸念される内容が含まれる場合に、数学の教科書の該当箇所を指示し、復習してくるよう促した。	機械運動学	2010 ～ 2011
		従来までは、書かせた実験レポートを受け取るだけであり、レポートの内容に間違いがあったとしても、それを学生に伝えることができなかった。授業評価アンケートでも、レポートの内容に対してフィードバックしてほしいという意見があった。そこで学生と1対1で面談し、実験レポートの内容を確認して修正点を指摘した上で、その時間中にレポートを修正させてからレポートを受け取るようにした。	工学実験Ⅰ 工学実験Ⅲ 工学実験Ⅳ	2011
		授業評価アンケートや数学や物理教科との懇談会の内容を踏まえて大幅ではないが、学生が理解しやすい内容となるように授業方法を見直した。	機械力学 工業力学 工学実験Ⅲ 工学実験Ⅳ 工学実験Ⅴ	2008 ～ 2012

資料 9-1-④-1 (3/6)

学科・学系	FD 活動種類	概要	科目	年度
機械	授業評価アンケートの結果	学科全体として授業アンケートにおける学生からのリクエストやコメントを考慮し、テキスト（指導書）を更新した。 実験の内容を改善・更新，テキストの分かりにくいところを改善など行った。	工学実験Ⅲ 工学実験Ⅳ	2012
		「授業中に使ったスライドがほしい」「もう一度みたい」という声が多かったので，学内専用サーバに蓄積し，学生が閲覧できるようにした。	材料学Ⅱ	2010
		アンケート回答の中に「演習問題等の充実の希望」があり，これを受け，講義中に配付する演習問題を拡充した。	熱力学	2012
		板書の場合字と図表の説明については見づらいつの意見があったため，「Power Point」で説明により，改善された。	機械工作法	2013
	過去の授業内容の反省	従来までは，設計製図で設計した製作物が保存に耐えうるほど堅牢に作られていなかったため，分解して再利用可能な部品を取り外した後，製作物を処分していた。これではあまりに勿体無いと感じていた。そこで製作物を半永久的に展示し，学園祭やオープンキャンパスなどのPRで活用できるように，設計する製作物の内容を変更した。 2012年度に設計と製図を行い，製作は2013年度に実施する予定である。	設計製図Ⅱ	2012
電気電子	授業評価アンケートの結果	アンケートにより，次年度に適宜改善をしている。どの年度のどの科目かは記憶していないが，代表例を以下に列記する。 ・板書が速いとの指摘があり，ゆっくり書くようにした。 ・レポートによる成績評価を加味して欲しいと指摘され，レポートを増やした。 ・配布資料の式番号と板書の式番号が一致しないと言われ，一致させた。 ・授業中の私語が気になると指摘され，私語を注意する回数を増やした。 ・「ばかにもわかる授業を」との要望があり，いつも努力している。	電気回路 電気磁気学 電磁波工学 他	2008 ～ 2012

資料 9-1-④-1 (4/6)

学科・学系	FD 活動種類	概要	科目	年度
電気電子	授業評価アンケートの結果	実験実習や課題研究・卒業研究などに必要なソフトウェア (Excel, Tex, Matlab など) の使用方法や, ハードウェア (マイコン, 基板加工機, 各種センサなど) の設定・使用方法などのノウハウを公開し, 学生が自由に閲覧できるようにした。	実験実習Ⅱ 課題研究 卒業研究	2011
		機器の現実的な大きさを教えてほしい。また, 現実的な数字を使った問題を作ってほしい。との要望があり, 以後気をつけている, など細かい改善のみ。	電気機器	2008
	公開授業	講義形式のみだった授業形態を講義+プロジェクト実習として実際にデジタル回路を設計・製作する力を養うものに改善した。	コンピュータ工学Ⅲ	2010
電子制御	授業評価アンケートの結果	板書を消すのが早すぎる, 板書の字が乱雑との指摘を受けて, 板書を学生の様子を観ながら, 消すように, また, 出来だけ丁寧な板書を心がけた。	材料力学Ⅰ 材料力学Ⅱ 制御機器	2007
		これまでⅠで静電界, Ⅱで静磁界という流れで講義をおこなっていたが, 用語からイメージが湧かないという回答がいくつかあった。逆にⅡでは磁石と関連がある内容が多いので, Ⅰよりも理解できたと回答をいくつかもらった。 この回答からⅠとⅡの内容を入れ替えることにした。 低学年(2年)からの専門講義なので, 身近なものに置き換えやすい静磁界をⅠで扱うことで苦手意識をなくしてもらおうとした。 現在もこの流れで講義を進めている。	電磁気学Ⅰ 電磁気学Ⅱ	2008
		解析だけでは, 回路の挙動がわからない, 実技に役立てたいという要望から講義内容を絞り込んで, 4人1組の実験班により解析結果と実験結果の検証ができるような講義形態をおこなった。検証には回路シミュレータの結果も同時に提示して直感的に現象把握の一助をおこなった。 実験室の確保の問題があるが, 可能な限り実験をおこなっている。	電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ	2008

資料 9-1-④-1 (5/6)

学科・学系	FD 活動種類	概要	科目	年度
電子制御	授業評価アンケートの結果	「板書が見づらい」「板書を色分けして欲しい」という意見があったため、色による強調を心掛けて、手持ち資料および板書を改善した。また、「教科書が難しい」「教科書が不適切」という意見があったため、候補となる書籍を精査し、翌年度に採用する教科書を変更した。	機械制御入門 電子計算機 I	2012
		具体的な応用例を通じて理論の理解を深めるためプログラミングによる演習（レポート課題）を単元ごとに提出させていたが、そのフォローをしていなかった。 授業評価アンケートで演習のフォローを望む声が多く、次の年度より、課題提出後に全体の評価やミスの多かった点の解説等を行うようにした。	計算機制御工学	2009
情報	教科と学科の懇談会	2008 年度に英語科と情報工学科の懇談会が開催された。これまで TOEIC 小テストは後期になってから実施していたが、英語力のさらなる向上を目指し、前倒しして前期中間試験以降から実施するように拡大した。	工業英語演習	2009
	普段の他教員との議論の中で	以前からプログラミングレベルの高い学生をどう伸ばすかを議論していて、今回各種コンテストへ参加するように促すことができた。	プログラミング言語 プログラミング演習 I	2012
	授業評価アンケートの結果	授業評価アンケートを受けて、授業教材（パワーポイントスライド）の文量や提示速度を再検討し、配布資料を穴埋め形式にして板書速度と提示速度を揃え、全体として提示の時間を長めにすることで対応した。	信号処理工学 計算機システム	2012
これまでの授業アンケートの中で、「座学だけでは興味がわからない」や「実習を交えて講義をしてほしい」などの意見があったため、LAN ケーブルの作成やルーティングテーブルの作成など、実習を交えて講義をするよう工夫した。		ネットワーク入門	2011	
環境都市	授業評価アンケートの結果	アンケートで不評であった教科書を変更。	計算工学	2011

資料 9-1-④-1 (6/6)

学科・学系	FD 活動種類	概要	科目	年度
環境都市	授業評価アンケートの結果	授業評価アンケートの結果については参考にし、少しではあるが改善に役立っている。主に、講義の進捗のペースの調整、パワーポイントの改変（見やすさの調整、学生の興味がある事項の追加）など。	水環境工学 I 廃棄物管理 他	2008 ～ 2012
		アンケート結果の中に「黒板の文字が見えづらい」と記載がされていたため、毎回の授業で提示する例題を必要最小限の数にするとともに、より大きな文字でキーワードや単位を黒板に記入するようにした。	構造力学 I (第 2 学年 および第 3 学年)	2011
		①授業評価アンケートの「授業内容を修得できたか」で「強くそう思う」が 63%にとどまったため、テキストや板書だけでは理解しづらいかと評価し、発砲スチロールで立体模型を作製して視覚的に投影法が理解できるよう改善した。さらに、グループワークをしながら投影図面の製図演習を行う工夫をした。 ②基礎製図検定の問題を練習に取り入れることで、基礎的な図法を習得するように配慮した。	図学	2012
	学生との話し合い	生活に根ざした卒業研究になるよう身近な自然環境をテーマとし問題の解決を図った。	卒業研究	2008 ～ 2012

(出典 点検・評価委員会資料)

資料 9-1-④-2 (1/2)

**教育方法等の研究から得られた知見や成果等を教育内容・方法の
改善に生かされている具体的な事例**

学科・学系	概要	科目	年度
基礎	『学び合い』による授業実践により成績もあがり、授業への取り組みも積極的になったことがアンケートにより明らかとなった。	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 解析ⅠA 解析ⅠB 代数幾何 解析Ⅱ 応用数学A	2008 ～ 2012
	演習中に「学び合い」の授業方法を導入することで、独力では解決できない学生が友人と協力し合って課題を解決するようになっていった。	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 基礎数学Ⅲ 代数幾何 解析ⅠA 解析ⅠB 解析Ⅱ 解析Ⅲ	2010 ～ 2012
	入学後初めての授業の際に、中学で習う程度の基本的な物理・化学（合わせて30分）についてのテストを行い、学科ごとや各個人の結果などを分析して、その後の授業や指導に利用している。	基礎科学 物理学Ⅰ	2012
	自習ノートというものを設けた。提出は任意。家庭における物理学Ⅱについての学習はすべてこのノートに作成させ、試験ごとに提出させ平常点に加える。提出させたものは内容の確認と押印の他、前回からどれくらいの量をやったかをマーカーで印をつける。その結果、ノート提出率とクラス平均値の順位は概ね一致し自主勉強による学力の向上がみられた。また、学生の感想も達成感があるなど良かった。	物理学Ⅱ	2012
	既存の描画ソフトでは、LaTeXで作成されることが多い数学教材中に正確な図を挿入することが困難であった。我々が開発した数式処理マクロパッケージKETpicを利用することにより、二項分布の正規近似など、正確な図が要求される授業場面で、高精細なグラフを教材中に挿入することができるようになり、一定の効果を上げたと考えられる。	統計学	2012

資料 9-1-④-2 (2/2)

学科・学系	概要	科目	年度
基礎	平成 22 年度文部科学省人材育成事業「機関連携による実践的原子力基礎技術者育成のフュージビリティスタディの実施」に参加し、応用物理実験における放射線計測に関するテーマのマニュアルを改善し、高専機構の作成した「原子力・放射線教育教材集」にも資料提供を行った。	応用物理実験	2010
機械	M4 の後期科目なので、卒業研究を行う前の仮配属等で各研究室に配属し、「課題研究」という方法で実施したら、M5 の卒業研究がスムーズに繋がる。	工学演習	2010
情報	学生の home directory は学科の 1 台のサーバで一元管理していたが、ネットワークおよび HDD アクセスがボトルネックになって、特に一斉起動直後のレスポンスの低下が著しかった。そこで、home directory を複数のサーバに分散させ、さらに各サーバとも複数のネットワークカードをあたかも 1 つのネットワークインタフェースであるかのように扱える bonding 技術を適用して帯域幅を広げることにより、アクセスが劇的に改善された。	プログラミング科目全般	2012
環境都市	「教育方法等の研究」というほどではないが、この講義で教育論文も書いており、野外調査の方法や、室内実習の方法を、随時、試行錯誤して改変している。	環境工学実験	2008 ～ 2012
	力の分担の理解に向けたトラスの模型教材づくりを行った。教室内の教卓上で引張力と圧縮力を視覚的に理解できるとともに、力の分担について支点反力の値から理解を深めることができ、教育内容の改善に活かした。	構造力学 I (第 2 学年 および第 3 学年)	2010 ～ 2011
	グループで研究を進行するうえで、PDCA サイクルによってマネジメントする方法を教授し、学生企画による出前講義を題材として計画・実行・評価・見直しを実践させた。	課題研究	2012

(出典 点検・評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、常勤及び非常勤講師の教員が授業評価アンケート他を実施し、自己点検・評価と授業実施記録の作成・保存を行い、授業改善のPDCAサイクルによる継続的な改善を行っている。点検・評価委員会が授業実施記録の確認を行い、授業内容、教材、教授技術等について、各教員からの具体的な改善例の報告をアンケート形式で収集し、学校として教員の改善活動状況を把握している。

観点 9-1-⑤： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

教員の研究活動は、準学士課程の一般特別研究や課題研究、卒業研究、専攻科課程の特別研究等に数多く生かされている(資料 9-1-⑤-1)。これは教員の研究テーマを教育に取り入れるためには、ある程度の学力や知識が前提として必要であり、十分な指導時間が取れる準学士課程の卒業研究、専攻科課程の特別研究等の授業科目に取り入れやすいためである。

また、高専の準学士・専攻科課程と大学院等の講義とを比較すると、教育水準の違いから高専の講義科目の中に専門的な研究内容を全て取り込むことは困難であるが、各教員の努力に基づき、授業に応じた可能な範囲で行われている(資料 9-1-⑤-2)。

**教員の専門の研究を学生を交えて行うなど、研究過程を教育に
役立てている具体的な事例**

例 1	教員の研究テーマ	科目等
	中東史教育研究	
	学生の研究テーマ	
	「イスラム教徒の生活とシャリーア」「エジプトのデモとアメリカの政治介入」	一般特別研究
例 2	教員の研究テーマ	科目等
	運動と血圧	
	学生の研究テーマ	卒業研究
	舗装硬さの違いが人体の循環応答に及ぼす影響について (*環境都市工学科・卒業研究共同指導)	
例 3	教員の研究テーマ	科目等
	グラフ理論, 数式処理	
	学生の研究テーマ	一般特別研究
	ネットワーク理論, KETpic による図入り教材作成	
例 4	教員の研究テーマ	科目等
	ハミルトン力学系	
	学生の研究テーマ	一般特別研究
	渦糸系の 2. 5 次元モデル, 点渦系の非等方モデル	
例 5	教員の研究テーマ	科目等
	6脚ロボットの姿勢制御	
	学生の研究テーマ	特別研究
	仮想インピーダンスを用いた 6脚ロボットの姿勢制御	
例 6	教員の研究テーマ	科目等
	6脚ロボットの全方向歩行制御	
	学生の研究テーマ	卒業研究
	最適サーボ系による 6脚ロボットの全方向歩行制御 3D シミュレーション	
	仮想インピーダンスを設定した 6脚ロボットの全方向歩行制御	
例 7	教員の研究テーマ	科目等
	光応用計測	
	学生の研究テーマ	卒業研究 特別研究
	半透明体の濁度測定に関する研究	
	液面を用いた干渉計に関する研究	

他, 計 38 件

(出典 点検・評価委員会資料)

教員の専門の研究から得られた知見や成果等を教育内容・方法の 改善に活かされている具体的な事例

- ・木更津高専紀要第 43 号において、『中東史教育の基本的視点と問題点』を執筆したが、そこでの研究の成果を「歴史Ⅱ」の授業内容に反映させた。
 - ・生活習慣病（動脈硬化）に関する授業について、動脈硬化が血圧上昇を引き起こす機序に関する知見を授業内容に反映させた。
 - ・KETpic の開発に携わることで、講義で効果的な図入り教材を開発し、学生の理解度を高める工夫をしてきた。
 - ・「海の中を知る」というタイトルで海洋学に関する講座を開設。基礎的な項目を学習したのち、各自で海について興味のあることを調査・研究する。
 - ・平成 21 年度「原子力人材育成プログラム 原子力研究促進プログラム」において、一般特別研究「放射線の物理学」における原子力研究の促進を実施した。原子力発電所における実習及び専門家による招聘講演を行い、総合的な授業改善に取り組んだ。
 - ・学会発表等で得られた知見を、専攻科特別研究のテーマ設定の参考にしている。
 - ・講義中に紹介する事例は、その多くが研究の成果や研究を通じて得た他社の研究成果である。
 - ・最新の研究結果（機械要素：歯車、ベルト及びチェーン）を講義中に紹介している。
- また、原案作成委員と成っている JIS 規格の最新情報を示している。
- ・容器材料の研究過程で調査したアルミ缶用アルミニウム合金の開発経緯および材質特徴を、授業の中で、材料開発の事例のひとつとして紹介している。
 - ・プラスチック材料のシャルピー衝撃試験の研究結果により工学実験_シャルピー衝撃試験の実験手順の見直しが見直しができた。
 - ・学会などで最新の情報を把握し、フィードバックしている。
 - ・基本的に教員研究の一部が卒業研究テーマであり、学会などで得られた知見がそのまま反映される。
 - ・材料力学が活用されている、具体例を挙げるようにした。また、材料力学分野で現在問題となっている事項についても述べるようにした。
 - ・専門であるアンテナ工学を活かして、学生にアンテナの設計からシミュレーションによる設計値の妥当性の評価、製作から測定器を使用してシミュレーション値との比較評価をおこなった。
 - ・前年度のアンテナ製作のほかに高周波フィルタの設計・製作・評価をおこなった。
 - ・ゲルマニウムラジオ製作、ストレートラジオ製作を講義の中に取り入れて電波伝搬工学の基礎、アンテナ工学の基礎、電子回路の実践的講義をおこなった。
 - ・学会等で話題になっている最先端の技術の紹介や、研究室や企業で開発されているロボットのビデオ映像を入手し紹介している。
 - ・開発途上国で撮影した環境問題に係る写真（水環境や廃棄物等）を、現地の実情を交えながら講義のスライドに用いた。

他、計 7 件

(出典 点検・評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教員の研究活動が、準学士課程の一般特別研究や課題研究、卒業研究、専攻科課程の特別研究等に数多く生かされ、同時に教育にも取り入れられており、研究活動が教育の質の改善に大きく寄与している。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

全教員を対象とした授業改善は、平成23年度までは前期中間・後期中間試験実施後に授業評価アンケートを実施し、平成24年度からは前期中間・前期期末・後期中間試験実施中に授業評価アンケートを実施し、各教員自らが結果を分析して授業改善に結びつけている(資料9-1-③-1~4)。

授業公開については全教員・全授業常時公開であるが、採用初年度の教員に対し、授業公開特別期間を設けて授業参観を奨励している。

また、授業方法改善研究会では、平成24年度では人文・基礎学系と専門学科との間で年4回の懇談を行い、科目内容の摺り合わせや学生の状況等についての情報交換が行われている(資料9-2-①-1)。関連をもつ一般科目及び専門科目の授業の内容や進度について、担当する教員間で意見の交換や調整等が行われている(資料9-2-①-2)。

厚生補導研究会は、全教員を対象に平成23年度までは学外で毎年8月または9月に2日にわたり実施し、平成24年度からは学内で8月に実施し、教育の諸問題を討論・研究する研修活動が目的で、テーマを教員から募集して開催された(資料9-2-①-3)。

更に高専教員間の情報交換や教育研究目的の各種研修会・研究会が実施されており、毎年積極的に参加している(資料9-2-①-4)。また、高専技科大教員交流、内地研究員、在外研究員として派遣され、学術の進展に沿うように教員の質の向上を図っている(資料9-2-①-5)。

継続的な授業改善については、授業評価アンケート等に基づき、事後シラバスとして作成し、保存している(資料9-1-③-1~4)。また、授業公開や授業方法改善研究会等が実施されており、教育改善に結びついている。これらは、授業実施記録内の授業改善としてのコメントと教員に対するアンケート収集によって確認できる(資料9-1-①-3)。

また、高専技科大教員交流、内地研究員・文部科学省大学教育の国際化推進プログラム制度により教員の質の向上を図り、その成果が学生の授業等(主に卒業研究や特別研究等)に生かされている(資料9-1-⑤-1)。

資料 9-2-①-1 (1/7)

人文学系（英語科）と電気電子工学科との懇談会

平成 24 年度 英語科と電気電子工学科の懇談会 議事要旨

開催日時：平成 24 年 11 月 29 日(木) 15:10～16:00

開催場所：コミュニティルーム E

出席者：【英語科】荒木，小澤

：【電気電子工学科】石井，柏木，上原(議事要旨作成)

配布資料：英語科作成「木更津高専における英語学習について」

議 事：

初めに，小澤先生から，入学時に配布する「木更津高専における英語学習について」の資料が配布され，説明があった。5年修了時までに英検準2級または TOEIC400 点を取ることを目標としており，学生の英語力が年々低下しているが，今の目標は維持したいとのことであった。

次に，荒木先生から，最近は極端に英語の出来ない学生が入学して来ているとの話があった。中学で文法を教えなくなったことや，単語を覚える訓練をしていないことも，英語力低下の原因であり，大学でも同じ状況が生じている。3年修了時に英検準2級を取るよう指導しているが，今年は取得率が7割を切りそうである。準2級取得後に TOEIC を受けさせるが，それができなくなって来た。準2級では目標が高すぎる学生には，3級から受験させることも必要になって来るかもしれない。

石井先生から，5年生で航空会社を受ける予定だった学生が，英語力に自信がなくて，受けるのを諦めたとの話題提供があった。また，1年の概論で，英語は将来必要になることを学生に話しているとのことであった。

学生の英語の単位取得状況について質問があり，英語では基本的に単位を落とさないよう，追試を繰り返して単位を取得させているとの回答があった。それでも，クラスで1名程度は救えない学生がいる。

柏木先生から，国際交流関連から，英語で授業を実施する可能性について質問があったが，学生の英語力がばらつき過ぎているので，専攻科はともかく本科では無理であるとの回答があった。

英検準2級を取って入学する者も1年生の中に10名程度いる。英語力がばらつき過ぎているのが問題であるとの指摘があった。

最後に，英語科から専門学科への要望として，英語が出来る学生には国際交流への積極的な参加を勧めて欲しいこと，概論等の授業で低学年の内に英検を取ることを勧めて欲しいことの2点の要望があった。

以上

(出典 FD 推進委員会資料)

資料 9-2-①-1 (2/7)

人文学系（体育科）と環境都市工学科との懇談会

平成24年度 体育科と環境都市工学科の懇談会 議事録

開催日時：平成24年1月15日(火) 15:10～16:10

開催場所：コミュニティルームC

出席者：【体育科】篠村，清野，坂田

：【環境都市工学科】石川，上村，島崎，石井，湯谷，青木(議事録作成)

議 事：

環境都市工学科より体育科への質問とその回答

①各学年の環境都市工学科学生の授業状況について

- 1年：態度もよく，授業はやりやすい。レポートも出来がいい。やや受け身。
- 2年：特に問題はない。少々子供っぽい部分がある。
- 3年：非常勤の先生が担当している。
- 4年：前期はふざけた態度が目に残った。後期は遅刻が多い。甘く考えている。
- 5年：男女が分かれてしまっている。授業内容も男女別になっている。

②各学年での授業方針について

たとえば1年生については，授業態度はよいが，クラス全体のまとまりやリーダーシップといった点で物足りなさを感じる。分け隔てなくグループをつくったり，リーダーシップをとったりするなどの要素を組み入れていくことで，さらにより授業を実施できると考えている。他にも5年生については，生涯スポーツに関する意識づけや自主性の養成をねらった授業内容とするなど，各学年，各クラスの特性に合わせた授業方針をとっている。

③科目の評価方針について

「足が速い」などの身体的技能ではなく，目標・課題に対する努力や授業に取り組む姿勢などに評価の重点を置いている。これらは将来の社会人として要求される重要な素養だと考えている。

④環境都市工学科からの要望

今後も同様の授業方針，評価方針を継続していただきたい。

体育科より環境都市工学科への質問とその回答

①授業態度などの指導について

環境都市工学科でも，実験・実習を中心に，遅刻や無断欠席などに対する厳しい指導を行っている。指導が難しい場面もあるが，本気でアピールすれば，学生らは態度を改めるようである。

②体育科からの要望

(環境都市工学科に限らない問題だが) 体育科では学生らの授業態度や持込遊具などについて厳しく指導している。しかし，専門学科の方では特に問わないということでは，学校全体としての指導軸がぶれる。教室配置も変わり，下級生から上級生の様子がよく見えるようになったこともある。上級生も含めて，継続的な指導が必要だと考えられる。

以上

(出典 FD 推進委員会資料)

資料 9-2-①-1 (3/7)

基礎学系（数学科）と機械工学科との懇談会

「平成 24 年度 機械工学科と数学科の懇談会」議事要旨

日時：2013 年 1 月 17 日（木）16：30～17：30

会場：第 1 研究棟コミュニティルーム D

出席者：[機械工学科] 高橋秀，板垣，石出，丸岡，内田，小田，伊藤裕，歸山

[数学科] 山下，鎌田，関口，金子，阿部

※臨時学生委員会（賞罰審査関係）による欠席者：黄野，鈴木道

議題：

1. 新入生の入試成績と前期中間試験成績の相関（鈴木道）

平成 23 年度までは新入生に一斉テストを実施し，数学の学力が不足している学生をピックアップして経過観察をしてきたが，平成 24 年度から入試成績（推薦選抜の適性試験及び一般選抜の入学試験）で成績不振者をピックアップして経過観察した．結論としては，これまでの一斉テストと同様に相関がなかった．本校での成績は本校での学習の取り組みによるところが大きいと考えられる．

2. 機械工学科 1 年生の数学の履修状況に関する報告（関口）

数名の学生が学習障害の傾向があるが，概ね学習態度も成績も良好であり，問題はない．

3. 機械工学科 2 年生の数学の履修状況に関する報告（鎌田，阿部）

数名の学生以外は概ね学習態度も成績も良好であり，問題はない．

4. 機械工学科 4 年生の数学の履修状況に関する報告（山下，鎌田，阿部）

授業や課題には真面目に取り組むが，試験ができない者が多く，結果的に年度内再評価や再履修しなければならない学生が多かった．

5. 数学と専門科目の摺合せについて

数名の学生以外は概ね学習態度も成績も良好であり，問題はない．

6. その他

- 気になる学生について意見交換を行った．
- 「複素関数論」については本科から専攻科へ移行することを検討する．ただし，他学科との懇談会の結果を踏まえる．

(文責：数学科主任 山下哲)

(出典 FD 推進委員会資料)

資料 9-2-①-1 (4/7)

基礎学系（理科）と情報工学科との懇談会

理科と J 科の懇談会 議事録

日時：平成 25 年 2 月 14 日（木） 15:45～16:50

場所：会議室 A

出席者：（化学）相川，吉井，（物理）福地，嘉数，高谷，（J 科）東，栗本，和崎，丸山，齋藤，米村，白木，渡邊

1. 学習内容の確認

（物理学）

1 年：基礎科学（前期），物理学 1（後期）：高谷

中学での復習を行った上で，ベクトル，グラフ，運動，エネルギーについて学習している。

2 年：物理学 2：嘉数

前期に，慣性力，円運動，単振動，惑星について学習し，後期に，音波，光といった波について学習している。

3 年：物理学 3（前期）：福地

前期に，単位系，熱力学について学習し，後期に剛体力学を学習している。剛体力学の内容は，高校の物理学で習う範囲外で，大学課程の内容である。なお，次年度は，演習の計算する分量の関係から，先に剛体力学を実施する予定である。

3 年：応用物理 1：白木

微分・積分を用いた力学を学習している。また，センター試験の内容（力，エネルギー，運動量，円運動，単振動，慣性モーメントなど）を取り上げている。

4 年：応用物理 2：非常勤講師

電磁気学を学習している。

5 年：応用物理 3：非常勤講師

量子力学を学習している。

（化学）

1 年：基礎化学：吉井

高校で使うような教科書，演習書，図解書を用いている。

物質の構造，イオン結合，化学反応，酸・塩基，電池，有機化合物について学習している。実験では，ガラス器具の取り扱い方，モル濃度，中和滴定，電気分解などを学習しており，実験結果などを書き込んでいく記入式の実験書を配布している。

2 年：化学：相川

高校の検定本を使用している。化学結合，物質の状態（気体・液体・個体），有機化学（天然物・人工物の高分子化学），化学反応速度，化学平衡について学習している。モノを作るときに化学がどう活かされているのかも話している（触媒，合成樹脂）。

資料 9-2-①-1 (5/7)

1 年・2 年とも、5 学科共通の内容にしている。以前は編入学試験に向けて大学の教養課程の内容も含む広い範囲を扱っていたが、実際にはかなり一生懸命学習しないと試験では太刀打ちできない。50 分授業から 45 分授業になったことも内容の見直しに影響している。

2. 意見交換

(白木) 力の分解において、三角関数の理解は大丈夫か。

(高谷) 数学で三角関数を扱う前に物理で扱うので、理解が十分でない学生もいる。ベクトルの示しているものが少し違うだけで解けなくなる場合もある(連想力の欠如)。

(丸山) 数学が足りていないのか。

(高谷) 三角形を描くと分かる学生もいる。

(嘉数) 2 年生も三角関数が苦手な学生がいる。どこの角度を対象にしているのか分かっていないこともある。

(高谷) 事例を挙げてもピンとこない学生がいる。キャッチボールをしたことがない学生がおり、ボールを受けるときの力積の話が通じない。ボールとバットで例を挙げても理解の助けにならないこともある。

(丸山) レポートは書けているか。配布した指導書の管理すらきちんとしていない学生がいる。

(吉井) 指導書への記入式なので、いわゆるレポートの形式ではない。大半の学生は必要事項をきちんと記入できている。

(相川) 実験は座学の理解の補助と位置付けており、レポートは厳しく指導していない。専門のレポートは苦労しているようだ。

(高谷) 計算課題を与えている。基本的に授業時間内で完結している。

(嘉数) 未提出者は教室に掲示しており、遅れてでもきちんと提出されている。

(福地) 専門科目を教える上で、物理で重点的に教えて欲しいことはあるか。

(和崎) 電気回路を教えているが、物理的なイメージがない。数学と結びついておらず、少し変数名が違えば応用が効かない。連立方程式が解けない。未知の変数を別の未知の変数を用いて表すこともある。

(高谷) 記号が違うだけで分からなくなる。x, y なら分かるようだ。

(福地) 単位の表記は、JIS 規格に従っている。ただし、学科によって流儀があるので変えている(回転の正・負の向きも)。

(和崎) 極座標になると分からなくなる学生がいる。

(栗本) 記号、イメージ、現実をつなげられない学生がいる。情報工学の分野では、これらを置き換える力が必要だ。リサーチ図形などの可視化、四端子回路のマトリクス表現などが良い例である。

(渡邊) 制御工学、信号処理工学を教えているが、物理現象の例の話が通じない。力を矢印で表すなど、モデル化ができない。微分概念が重要だが、数学での表記と現実の現象(時間変化)の表現が繋がっていない。

(和崎) 数式の表している意味が分かっていない。

(高谷) 全てのパターンを暗記しようとする。

資料 9-2-①-1 (6/7)

(嘉数) 単振動を例に挙げると, \sin を微分して \cos になるということが理解できていない. 数学の進み具合による. 物理学を教える上での数学の壁を感じる.

(福地) 計算において, 単位を意識させている. 一方, 数学では基本的に無名数しか扱わない. 最近の数学では, 例題において単位のある値の事例を扱っている.

(和崎) 検算をする上で, 単位を意識していない. 身長と体重の値をそのまま足すような, おかしな計算を平気でしていることも. 単位を () で囲む場合がある. [] ではないのか.

(福地) 変数の記号が単位を含んでいる場合には単位はつけない. 基本的な考え方として【物理量 = 数値 × 単位】であり, 物理量を数値で表す場合は, 5.0m のように表現し, [] は付けない. 物理量を文字で表す場合は, $L=5.0m$ のようになり, L は既に単位を含んでいるので, あえて単位を付けない. しかし, 単に距離 L と書いた場合, 単位が m であるのか, km であるのか不明なので, $L [m]$ と表示して単位を補う. この場合, 括弧を付けずに $L m$ と書いてしまうと, $5.0m \times m$ となり $5.0m^2$ と面積の次元になってしまう.

(高谷) 受験のテクニックなのかもしれない.

(福地) 学習達成度試験でも電卓は使わせない. 他高専では使わせているようだが. 指数も電卓で計算して, 出てきた答えを鵜呑みにする. 概算ができない.

(嘉数) 概数の感覚が欠如している. 1 未満の数値をかけたら元の値よりも小さくなるなど, 案外分かっていない.

(栗本) 実際に測定して体感している.

(福地) かつては 50 km ハイキングがあり, 50 km という距離がどの程度が体感していた.

(和崎) 専攻科生でさえ, 小数点以下の長い桁数をそのまま表記する. 精度の見積もりができていない. アナログのメータだと誤差があるという感覚があるが, デジタル表示だと誤差がないかのごとく値を信じ込む.

(相川) 小数の表記と指数表記の両方を用いている.

(吉井) 実験では電卓の使用を許可しているが, 試験では手計算としている.

(高谷) 指数表記をいちいち小数に直して計算している学生がいる.

(嘉数) 指数表記の計算の容易さが分かっていない.

(福地) 関数電卓が高機能になったため, 公式通りに値をずらずら入力する学生がいる.

(嘉数) 途中の計算が不明. どこが間違っているのか判断できない.

(和崎) 途中計算も書くように指示をすると, 暗記しているのが見て取れる.

(白木) 自由落下運動と鉛直投げ上げ運動を全く別の式として覚えるようだ. また, 途中計算とその意味を書かせても, ただ単に数式を言葉にしているだけという学生がいる.

(和崎) プログラムのコメント文も同じことが言える. 意味が書けない.

(嘉数) 数式の展開についていけなくなる学生がいる.

(渡邊) 式展開すら暗記に頼りがち.

(和崎) 少し変形すれば導出できるような式まで暗記している.

(齋藤) 理科離れが叫ばれて久しいが, 学生の様子はどうか.

(福地) やはり実体験がない点が教えにくい.

資料 9-2-①-1 (7/7)

(吉井) 中学とのギャップがあるようだ。中学では化学の実験が楽しかったのが、高専に来たら分からなくなる・ついていけなくなることもあるようだ。自分で勉強せずに、常に誰かに聞くという方法で学んでいる学生が見受けられる。

(相川) 能力が低下しているのだろうか。しかし、理科そのものが嫌いという話は聞かない。文系に強く、理数系に向いていない学生も入学している。

3. 総括

意見交換の内容を総括すると、以下の3点が主な論点である。

- ・実体験の欠如
- ・数式（記号）と現象に対する、連想や認識の乖離
- ・単位を含めた数値の扱い方や感覚の欠如

これらの素養は、物理学、化学においては常識的・基礎的な事項であるが、それらの学問に立脚している情報工学の学問を修める上でも、もちろん非常に重要な事項である。

今回の懇談会を通じて、これらについて改めて確認できた。

(文責：J学科 齋藤)

(出典 FD 推進委員会資料)

**関連をもつ一般科目及び専門科目の授業の内容や進度について、
担当する教員間で意見の交換や調整等が行われている例**

- ・数学科では、授業時間数の関係で同一科目を複数の教員で担当するため、中間・定期試験直前など随時お互いの進度を確認し合い、調整してきた。
- ・数学について、1年生で使用する教科書を入手し、また担当教員から進度などを確認している。基礎科学および物理学Ⅰで必要な部分や将来も見据えて、授業および質問に訪れたときに必ず数学の授業との関連についても言及している。
- ・数学の進度を確認し、物理Ⅱでの授業で使用する数式に注意した。特に三角関数は苦手とする学生が多く、物理学Ⅱでも年度初めに確認テストを行うなどした。
- ・情報工学科と理科教員の間で、平成24年度「教科と学科の懇談会」の一環として、意見交換会を実施した。
- ・情報処理Ⅰの内容や進度、学生の様子を確認して、内容を見直すことを実施している。
- ・両科目で重なる部分の詳細を確認し、物理学Ⅲ（の一部の単元）の発展となる熱力学への円滑な接続をはかった。
- ・M4の前期科目なので、15週のうち7週（中間テスト）まで、自分が担当で、残った。後半は別の教員が担当することにより、学生の評価の客観性があったといえる。
- ・基本的に前後期の担当が異なるので、調整を行っている。
- ・授業内容に合わせて調整を行っている。
- ・電気電子工学科教員と英語科教員との懇談会を実施した。英語科教員から電気電子工学科教員に、「1年の概論などで、英語は将来必要になることを強調して欲しい」と依頼があり、適宜実行している。英語科教員より、最近の学生の英語力が低下しているとの情報提供があり、このことを考慮しながら専門学科の授業を進めることになった。
- ・数学（代数幾何、解析ⅠA、ⅠB）の授業進度にあわせて、授業で使用する数式（ベクトル、微分、積分）の内容を考慮し授業をしている。
- ・J2実験実習Ⅱにおいて、プログラム開発環境について習熟しておく必要があるが、時間が足りないため、J2プログラミング演習Ⅰの時間に説明、演習を行うようにして補っている。
- ・どの学年ではどの程度の習得度をめやすか、習得度の高い学生をどう伸ばすか、習得度の低い学生をどうケアするかを常に議論してきた。
- ・分散情報システムにおいて、並列処理の単元をどちらがどの程度説明するかを調整し、分散情報システムにて座学中心とした詳細を、計算機システムではマルチスレッドプログラミング演習という形で実施する形を取った。
- ・環境工学実験（湯谷教員、大久保教員） 顕微鏡観察の導入など
- ・環境都市工学概論Ⅰ（湯谷教員） 外部講演者の決定 学生のプレゼン方法の改良
- ・人文学系の体育担当教員と環境都市工学科教員との間で、学生達の授業態度や課題に対する取り組み状況について意見交換を行い、集中力の弱い学生に対する指導に関して今後も協力して取り組むことを確認した。
- ・担当する教員および技術職員の合同で適宜打ち合わせを行い、実習の進行を調整している。

（出典 点検・評価委員会資料）

資料 9 - 2 - ① - 3

厚生補導研究会の実施記録

年度	実施期間	場所	参加者	企画内容	講義内容
18	平成 18 年 8 月 28 日 (月) ~ 29 日(火)	国民宿舎 清和	67 名	低学年教育の現状とあり方	「入学生の数学学力の変化と、本校低学年における数学教育について」 「中学校における理数系教育の現状」
19	平成 19 年 8 月 27 日 (月) ~ 28 日(火)	国民宿舎 清和	64 名	学生指導と学校における危機管理	「1 年生の学習指導について」 「本校における危機管理の事例報告」
20	平成 20 年 9 月 1 日 (月) ~ 2 日(火)	国民宿舎 清和	63 名	学生指導 (特に低学年の勉強・生活)	「混合学級実施について」 「スタディーアワー実施について」
21	平成 21 年 9 月 17 日 (木) ~ 18 日(金)	君津の森	69 名	「魅力ある高専づくり」 - 学生の能力・適性をさらに伸ばす方策について	「混合学級の現状と課題」 「魅力ある高専づくり」 「ポートフォリオ教育」
22	平成 22 年 9 月 21 日 (火) ~ 22 日(水)	君津の森	64 名	学業成績不振者の指導の在り方について	「発達障害・学習障害を抱える学生の支援体制について」 「留年学生の現状と進路指導」
23	平成 23 年 8 月 29 日 (月) ~ 30 日(火)	君津の森	69 名	学寮の諸課題について	「学寮における対学年指導の課題と保護者意識について」 「欠課率に着目した寮生指導について」
24	平成 24 年 8 月 28 日 (火)	木更津工業高等専門学校	65 名	学生指導とクラス運営について	「学生相談室の現状について」 「Q - U による学生理解とクラス経営」

(出典 学生課資料)

各種研修会・研究会への参加状況

平成 24 年度 研修等一覽(教員)

名 称	期 間	参 加 者	内 容	主 催 者
オムロン株「制御技術セミナー」	平24. 5. 29~5.30	電子制御工学科准教授 大橋 太郎	オムロン社製のマシンオートメーションコントローラに関する上級者向けコース。	オムロン株
第1回ネットワーク管理者研修会	平24. 6. 4~6. 5	電子制御工学科NWセンター長 図書・情報係長 日井 邦人 山田 夏弥	情報ネットワークシステム管理業務の適切かつ効率的な運用を推進するため、情報共有を図り必要な技術的知識の習得。	高専機構総務課情報企画係
留学生・国際交流実務担当者研究会	平24. 7. 23~7.24	基礎学系教授国際交流課係長 学生課長 総務主任 関口 昌由 御園 徳昭 向角 綾子 小澤 健志	留学生の派遣・受入、国際交流に関する体制の整備、担当者のスキルアップ、及びネットワーク形成を図る。	高専機構 留学生交流促進センター
高等専門学校教員研修 (クラス経営・生活指導研修会)	平24. 9. 11~9.13	入文学系教授 石川 雅之	青年期における複雑化する学生の心理や行動を理解し、円滑なクラス経営を営む資質能力の向上を図る。	高専機構入事課人事課第二係
高等専門学校教員研修(管理職研修)	平24. 9. 24~9.25	電気電子工学科教授専攻科長 小田 功	学校管理能力、教育課程等に関する高度・専門的な知識を修得させ、各部署の中核となる管理職の経営能力の育成・向上を図る。	高専機構入事課人事課第二係
高等専門学校教員を対象とした「JAIST体験会」	平24. 10. 18~10.20	機械工学科准教授	全国の高等専門学校教員を対象として、「JAISTを知ってもらう」ための体験会。	北陸先端科学技術大学院大 入学支援課
学生生活にかかるリスクの把握と対応に関するセミナー	平24. 10. 25~10.26	学生主事 学生相談室長 荒木 英彦 大澤 寛	学生生活にかかるリスクの把握と対応に関し、自殺・飲酒・カカトに関する講演及び事例紹介、意見交換し、取組みの促進を図る。	文部科学省高等教育局学生・留学生 課課生係
第9回国立高等専門学校メンタルヘルス研修会	平24. 11. 1~11.2	電気電子工学科教授学生相談室長 看護師 田村 真弓	学生のメンタルヘルスを担当する教職員資質の向上及び情報の交換を行う。	高専機構学務課
国立高等専門学校機構 情報担当者研修会	平25. 1.9~1.11	電子制御工学科NWセンター長 電子制御工学科NW副センター長 図書・情報係長 日井 邦人 丸山 真佐夫 山田 夏弥	認証サーバ、ファイアーウォール、学務、ネットワーク技術、情報セキュリティ、ソフトウェアの管理に関する研修。	高専機構総務課情報企画係

(出典 総務課資料)

資料 9 - 2 - ① - 5 (1 / 2)

高専技科大教員交流，内地研究員，在外研究員の派遣状況

25. 4. 1現在

高専・両技科大間教員交流者一覧

1. 派遣

派遣日	所属・職名	氏名	派遣先	派遣期間
18. 4. 1	人文学系 教授	平安隆雄	明石工業高等専門学校	18. 4. 1～20. 3. 31
19. 4. 1	機械工学科 准教授	板垣貴喜	佐世保工業高等専門学校	19. 4. 1～20. 3. 31
20. 4. 1	電気電子工学科 准教授	柏木康秀	東京工業高等専門学校	20. 4. 1～21. 3. 31
23. 4. 1	基礎学系 教授	鈴木道治	長野工業高等専門学校	23. 4. 1～24. 3. 31
25. 4. 1	環境都市工学科 准教授	青木優介	八戸工業高等専門学校	25. 4. 1～26. 3. 31

(出典 総務課資料)

資料 9 - 2 - ① - 5 (2 / 2)

高専技科大教員交流，内地研究員，在外研究員の派遣状況

在外研究員・内地研究員派遣一覧（平成 20 年度～平成 24 年度）

【在外研究員】

年度	派遣教員名	学科・職名	派遣先	派遣期間
平成 20 年度	なし			
平成 21 年度	なし			
平成 22 年度	石出忠輝	機械工学科 教授	パース大学（英国）及び ミシガン大学（米国）	H22.4.10～ H23.3.21
平成 23 年度	なし			
平成 24 年度	田所勇樹	基礎学系 准教授	オーフス大学モジュライ空 間の量子幾何学センター （デンマーク）	H24.4.10～ H25.3.15

【内地研究員】

年度	派遣教員名	学科・職名	派遣先	派遣期間
平成 20 年度	なし			
平成 21 年度	なし			
平成 22 年度	齋藤康之	情報工学科 准教授	東京大学大学院情報理工学 系研究科	H22.5.6～ H23.2.28
平成 23 年度	米村恵一	情報工学科 准教授	東京大学先端科学技術研究 センター	H23.5.6～ H24.2.28
平成 24 年度	大枝真一 飯田聡子	情報工学科 准教授 電気電子工学科 准教授	東京大学大学院情報理工学 系研究科 信州大学 工学部	H24.5.1～ H25.2.28 H24.5.1～ H25.2.28

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、全教員が授業評価アンケート他により授業改善に取り組み、採用初年度の教員に対し、授業公開特別期間を設けて授業参観を実施している。一般と専門の教員が連携して、授業方法改善研究会を開催し、科目内容の摺り合わせや学生の状況等についての情報交換を盛んに行っている。これらを行うことで、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

観点 9-2-②： 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

本校の教育支援者の組織は、事務職員から構成されている事務部、技術職員から構成されている教育研究支援センターに分けられ(資料 9-2-②-1)、教育研究支援センターは教育の資質向上を図るために、教員の支援を行う体制ができている(資料 9-2-②-2)。

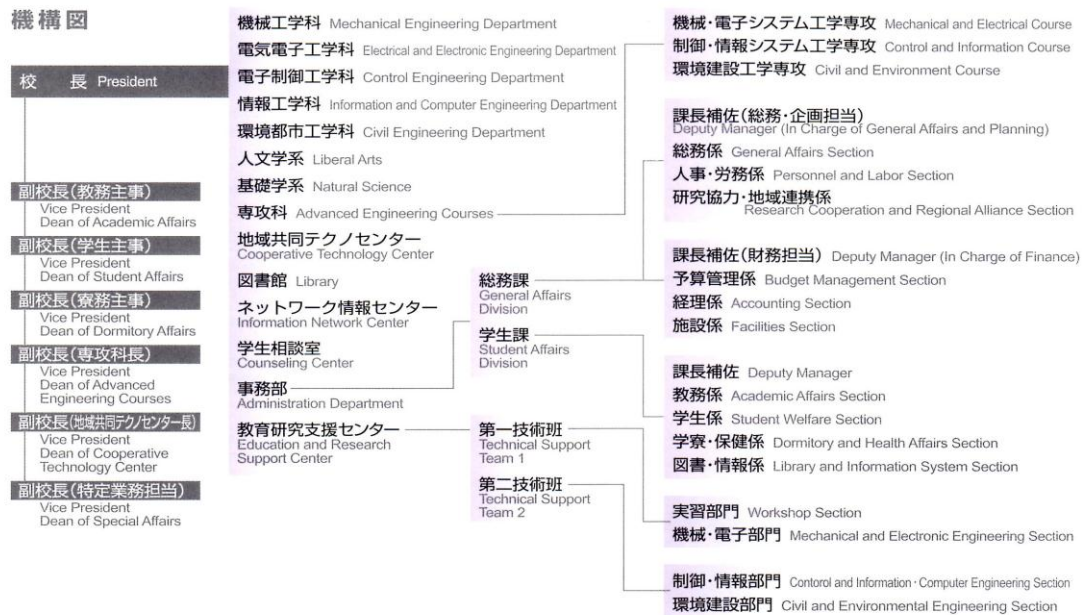
学校として継続した教育の資質向上を図るために、教育支援者を対象とした各種研修会・研究会が実施されており、これらの研修会等に、教育支援者が毎年積極的に参加している(資料 9-2-②-3, 4)。教育研究支援センター職員の自己研鑽として、「技術職員セミナー」を定期的に年 2 回開催している。また、技術職員の資質向上と技術教育の充実を目的とし、「高専技術教育研究発表会 in 木更津」を全国高専に呼びかけて開催している。その他、校長裁量経費による、教育研究支援や科学研究費助成事業(奨励研究)採択のための支援を行っている。

教育支援者の組織

組織

Organization

機構図



職員現員

Number of Staff Members

(平成24年4月1日現在)
As of April 2012

職名等区分	校長 President	教授 Professor	特任教授 Research Professor	准教授 Associate Professor	講師 Lecturer	助教 Assistant Professor	助手 Research Assistant	小計 Subtotal	事務職員 Administrative Personnel	技術職員 Technical Personnel	合計 Total
現員 Present Number	1	31	3	31	8	1	1	76	30	14	120
男女数 Number by Sex	男 Male	1	31	3	27	7	1	71	20	13	104
	女 Female				4	1		5	10	1	16
年齢構成 Number by Age	60代 Sixties		6	3			1	10			10
	50代 Fifties	1	18		2			21	10	3	34
	40代 Forties		7		18	1		26	6	6	38
	30代 Thirties				11	7	1	19	7	4	30
	20代 Twenties								7	1	8

役職名一覧

Administration Staff

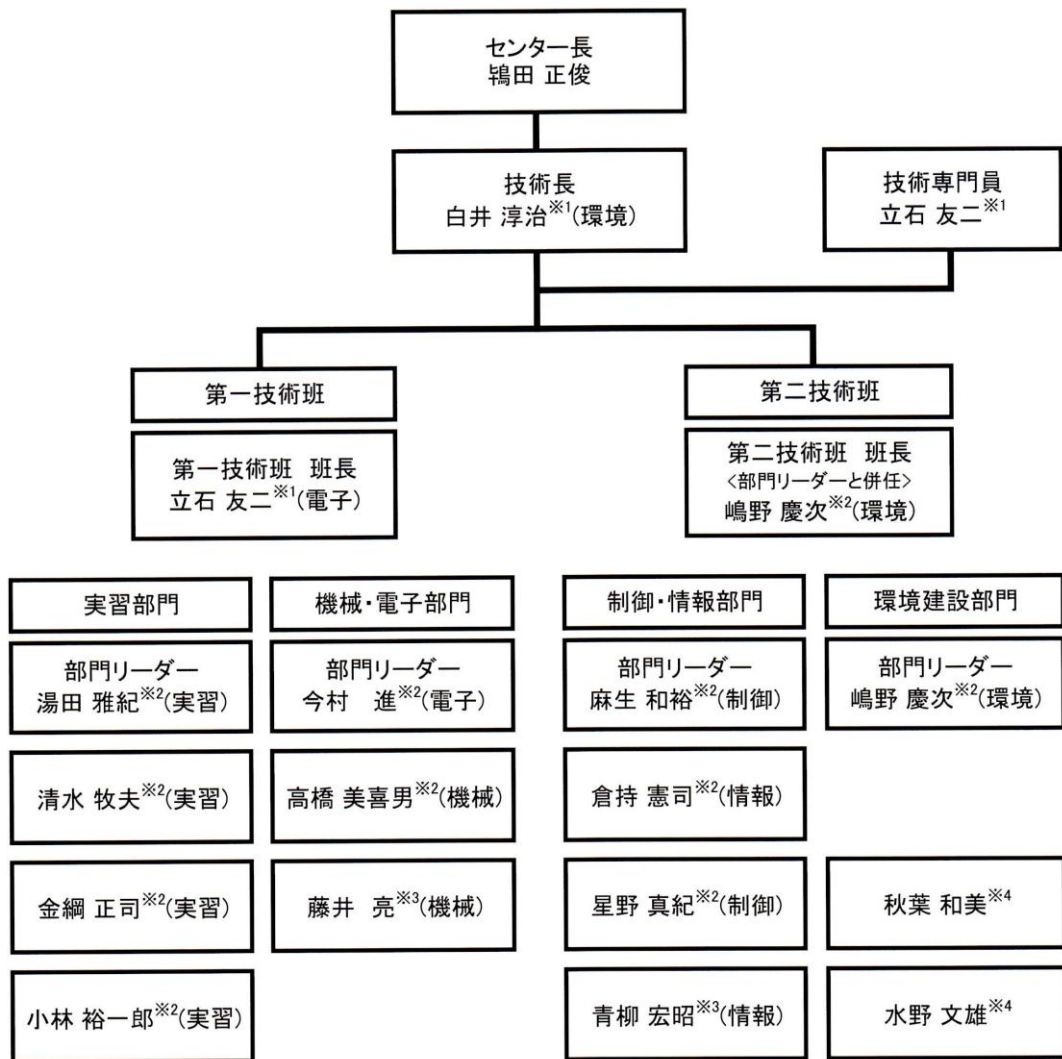
(平成24年4月1日現在)
As of April 2012

校長 工藤 敏夫	機械工学科主任/機械・電子システム工学専攻主任 高橋 秀雄	図書館長 鎌田 勝	事務部長 原 英毅
副校長(教務主事) 嶋田 正俊	電気電子工学科主任 上原 正啓	ネットワーク情報センター長 臼井 邦人	総務課長 萩原 隆一
副校長(学生主事) 荒木 英彦	電子制御工学科主任/制御・情報システム工学専攻主任 鈴木 聡	学生相談室長 大澤 寛	学生課長 御園 信昭
副校長(寮務主事) 佐藤 恒明	情報工学科主任 栗本育三郎	教育研究支援センター長 嶋田 正俊	
副校長(専攻科長) 石川 雅之	環境都市工学科主任/環境建設工学専攻主任 石川 雅朗	実習工場長 石出 忠輝	
副校長(地域共同テクノセンター長) 石出 忠輝	人文学系主任 小澤 健志		
	基礎学系主任 福地 健一		

資料 9 - 2 - ② - 2

教育研究支援センターの組織

教育研究支援センター 組織図



※1 技術専門員
 ※2 技術専門職員
 ※3 技術職員
 ※4 再雇用職員

()内は担当分野の略称

(出典 国立木更津工業高等専門学校 教育研究支援センター年報 第12号 2013年)

教育研究支援センターの各種研修会・研究会への参加状況

第30回	平成 24 年 6 月 13 日	<input type="checkbox"/> 平成 23 年度科学研究補助金奨励研究報告 「小学生高学年・中学生を対象とした音の実験から科学の楽しさを学ぶ 試み」 @第一技術班 立石友二 <input type="checkbox"/> 平成 23 年度科学研究補助金奨励研究報告 「レーザ切断による傾斜面を用いて組み合わせた新しいアクリル表示板 の開発」 @第一技術班 湯田雅紀 <input type="checkbox"/> 平成 23 年度科学研究補助金奨励研究報告 「フルモールド鋳造法における鋳込みの可視化」 @第一技術班 清水牧夫 <input type="checkbox"/> 平成 23 年度科学研究補助金奨励研究報告 「神経難病患者のための相互ケア空間システムにおける視線入力感性伝 達人工物の開発」 @第二技術班 青柳宏昭 <input type="checkbox"/> 出張報告 「鹿児島高専の技術職位組織の現状について」 @第二技術班 嶋野慶次 <input type="checkbox"/> 情報系研修報告 @第二技術班 麻生和裕 <input type="checkbox"/> 平成 23 年度神戸大学実験・実習技術研究会参加 @技術長 白井淳治、技術専門員 立石友二、第一技術班 小林裕一郎 <input type="checkbox"/> 平成 23 年度高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウムにつ いて @技術長 白井淳治
第31回	平成 24 年 11 月 22 日	<input checked="" type="checkbox"/> 講演「連携による地域教育の実践 -地域イノベーションの創出-」 @環境都市工学科 岐美 宗 <input type="checkbox"/> 第 11 回関東信越地区国立工業高等専門学校技術室長等会議報告 @技術長 白井淳治、技術専門員 立石友二、第一技術班長 今村 進 <input type="checkbox"/> 東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（環境・建設系）報告 @第二技術班 嶋野慶次 <input type="checkbox"/> 関東信越地区技術職員研修＜電子・機械系＞報告 @第二技術班 星野真紀 <input type="checkbox"/> 高専機構 IT 人材育成研修会報告 @第二技術班 倉持憲司

(出典 国立木更津工業高等専門学校 教育研究支援センター年報 第 12 号 2013 年 42 頁)

資料 9 - 2 - ② - 4

継続した教育の資質向上に関わる職員の各種研修会・研究会への参加状況

平成 24 年度 研修等一覧(事務・技術)

名称	期間	参加者		内容	主催者
東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(建設・環境系)	平 24. 8. 22 ～8. 24	教育研究支援センター	嶋野 慶次	技術職員に対し、その職務の遂行に必要な高度で専門的な知識を修得させ、資質の向上を図る。	高専機構(担当校 秋田高専)
IT人材育成研修会 コース②「インターネットセキュリティ技術」	平 24. 8. 30	教育研究支援センター	倉持 憲司	情報システム及び情報ネットワーク等の運営に携わる教職員の専門的知識や技術力の向上を図るとともに人材の育成や人的ネットワークの構築。	高専機構総務課情報企画係
障害学生修学支援事例研究会	平 24. 8. 31	学生係員	坂本 翔吾	障害学生支援のテーマを設け、専門的見地からの情報提供、または個別事例についての解決の研修会の実施で、障害学生の修学支援の充実に資する。	日本学生支援機構
関東信越地区国立高等専門学校技術職員研修会(電子制御系)	平 24. 9. 12 ～9. 14	教育研究支援センター	星野 真紀	技術職員に対し、その職務の遂行に必要な知識の習得により資質の向上を図る。	関東甲信越地区高専 (担当校茨城高専)
関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修	平 24. 11. 14～16	教務係長	中根 幹子	関東・甲信越地区国立大学法人等の係長及び係長相当の職にある者に対し、職務の遂行に必要な基礎的、一般的知識を習得させるとともに、係長としての能力及び見識を確立させ、国立大学法人等の管理運営の担い手としての資質向上を図る。	国立大学協会関東・甲信越地区支部及び東京地区支部 (担当校東京農工大、東京芸術大)
学務関係職員研修会	平 24. 12. 4 ～12. 5	教務係員	長尾 庸子	学務関係業務に関わる職員の実務能力向上を図る。	高専機構学務課

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育支援者の組織は、事務職員と技術職員で構成し、技術職員は教育研究支援センターの職員として、教育の資質向上を図るために、教員の支援を行っている。学校として継続した教育の資質向上を図るために、事務職員と技術職員を各種研修会・研究会に派遣し、教育支援者に対して、資質

の向上を図るための取組が実施されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校では、学校全体の教育システム改善の仕組みについて、立案－実施－評価－改善のサイクルに基づき、運営協議会、教員会議、学科・学系会議、各委員会を整備し、教育活動全般を継続的に改善している。

FD推進委員会が授業改善を含む教育改善に関する短・中期的な計画立案・実施と諸活動の実施援助を行い、PDCA (Plan-Do-Check-Action) のサイクルを機能させて、教育改善を具体的かつ継続的に行っている。教育の質の向上及び改善を図るため、各教員に授業方法の改善と教員の質の向上に必要な資料の保存を依頼している。

教務委員会、専攻科委員会、FD推進委員会の3つの委員会が連携して、資料保存及び自己点検・評価を行っている。

点検・評価委員会が学校全体の教育システムの自己点検・評価を行っている。具体的には、授業実施記録の確認を行い、授業内容、教材、教授技術等について、各教員からの具体的な改善例の報告をアンケート形式で収集し、学校として教員の改善活動状況を把握している。また、教員の研究活動が準学士課程の一般特別研究や課題研究、卒業研究、専攻科課程の特別研究等に数多く生かされ、同時に教育にも取り入れられ、研究活動が教育の質の改善に大きく寄与していることも把握している。

中期計画推進委員会が教育に関わる中期計画の点検・評価も行っている。

学生が授業評価アンケート、WEBキャリアカルテに記載し、教職員がその結果を意見聴取している。また、企業関係有識者・教育関係有識者・その他の有識者からなる第三者評価、学校として開催している保護者懇談会等、準学士課程卒業生・専攻科課程修了生、編入学先の各大学、就職先の各企業から幅広く意見の聴取を行い、学校として学外関係者の意見を把握している。これらの結果をもとに、学校として策定した基準に基づいて教育の状況に関する分析を行い、改善している。

常勤及び非常勤講師の教員自身が授業評価アンケート、WEBキャリアカルテなどを実施し、自己点検・評価と授業実施記録の作成・保存を行い、授業改善のPDCAサイクルによる継続的な改善を行っている。採用初年度の教員は、授業公開特別期間を設けて授業参観を実施している。一般と専門の教員が連携して、授業方法改善研究会を開催し、科目内容の摺り合わせや学生の状況等についての情報交換を盛んに行っている。これらを行い、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付けている。

本校の教育支援者の組織は、事務職員と技術職員で構成し、学校として継続した教育の資質向上を図るため、事務職員と技術職員を各種研修会・研究会に派遣し、教育支援者の教育の資質が向上している。

(改善を要する点)

なし。

(3) 基準 9 の自己評価の概要

本校では、FD推進委員会が教育の質の向上及び改善を図るため、各教員に授業方法の改善と教員の質の向上に必要な資料の保存を依頼し、資料保存及び自己点検・評価を教務委員会、専攻科委員会、FD推進委員会が連携して行っている。学校全体の教育システムの自己点検・評価を点検・評価委員会が行い、中期計画の点検・評価を中期計画推進委員会が行っている。

学校の構成員である学生からの意見を授業評価アンケート、WEBキャリアカルテなどから意見の聴取をし、学外関係者の意見は、企業・教育・その他の有識者からなる第三者評価、保護者、準学士課程卒業生・専攻科課程修了生、編入学先の各大学、就職先の各企業から幅広く意見の聴取を行い、これらの結果を踏まえて、学校として策定した基準に基づいて教育の状況に関する分析を行っている。

学校全体の教育システム改善の仕組みが、立案－実施－評価－改善のサイクルに基づき整備され、教育活動全般を継続的に改善している。FD推進委員会が授業改善を含む教育改善に関する短・中期的な計画立案・実施と諸活動の実施援助を行い、PDCAのサイクルを機能させて、教育改善を具体的かつ継続的にしている。

非常勤を含む教員自身が自己点検・評価と授業実施記録の作成・保存を行い、PDCAサイクルによる継続的な授業改善を行っている。点検・評価委員会が授業実施記録の確認を行い、授業内容、教材、教授技術等について、各教員からの具体的な改善例の報告をアンケート形式で収集し、教員の改善活動状況を把握している。

教員の研究活動を、準学士課程の一般特別研究、卒業研究、専攻科課程の特別研究等に数多く生かされ、同時に教育にも取り入れられており、研究活動が教育の質の改善に大きく寄与している。

採用初年度の教員を対象に、授業公開特別期間を設けて授業参観を実施している。一般と専門の教員が連携して授業方法改善研究会を開催し、科目内容の摺り合わせや学生の状況の情報交換を行い、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付けている。

教育支援者の組織は事務職員と技術職員で構成され、技術職員は教育研究支援センターの職員として、教育の支援を行っている。学校として継続した教育の資質向上を図るために、事務職員と技術職員を各種研修会・研究会に派遣し、資質の向上を図るための取組を実施している。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。
また、債務が過大ではないか。

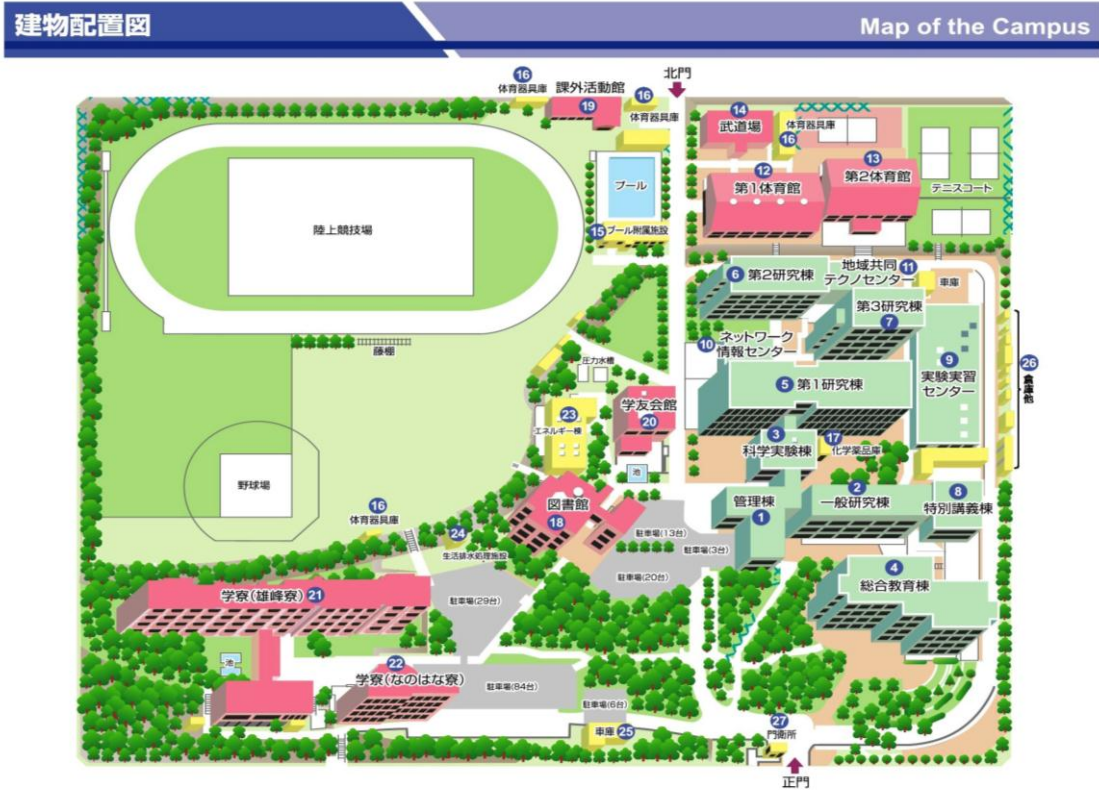
(観点に係る状況)

土地、建物、設備等の主なものは、国から承継を受けたものである。

土地総面積は 104,550 m²、管理棟・一般教育棟や体育設備等の建物延べ面積は 32,895 m²となっている(資料10-1-①-1)。

それぞれの資産額は、土地 1,871,500 千円、建物及び建物附属設備 4,303,638 千円、教育設備(工具器具備品及び車両運搬具) 647,457 千円であり、教育活動を安定して随行できる資産を有している。また債務については、貸借対照表に示すとおり運営費交付金等の範囲内で健全に行っている(資料10-1-①-2)。

建物配置図及び設備の概要



施設の概要 Facilities

(平成24年4月1日現在) As of April 2012

■校地 College Area 100,054㎡ ■職員宿舎 Staff Housing 祇園1,736㎡/高砂2,760㎡ ■総面積 Land Area 104,550㎡

■建物 Buildings

区分	構造・階数	面積	建築年
1 管理棟 Administration Building	R・2		
2 一般研究棟 General Research Building	R・2 -1	4,090㎡	昭和42
3 科学実験棟 Science Laboratory	R・2		
4 総合教育棟 Education Building	R・4	3,522㎡	平成15
5 第1研究棟 Research Building No.1	R・4	4,091㎡	昭和43・44
6 第2研究棟 Research Building No.2	R・4	2,200㎡	昭和59
7 第3研究棟 Research Building No.3	R・5	2,183㎡	平成4
8 特別講義棟 Special Lecture Building	R・2	717㎡	昭和63
9 実験実習センター Manufacturing Center	S・1	1,561㎡	昭和43・44
10 ネットワーク情報センター Information Technology Center	R・1	302㎡	昭和50
11 地域共同テクノセンター Cooperative Technology Center	R・2	414㎡	平成12
12 第1体育館 Gymnasium No.1	S・1	1,153㎡	昭和43
13 第2体育館 Gymnasium No.2	S・1	880㎡	昭和58
14 武道場 Martial Art Center	S・1	311㎡	昭和44

※R=鉄筋コンクリート造 / S=鉄骨造り / B=ブロック造り

区分	構造・階数	面積	建築年
15 プール附属施設 Dressing and Shower Room	R・1	258㎡	平成6
16 体育器具庫 Warehouse	R・1	258㎡	昭和45・46
17 化学薬品庫 Chemical & Pharmaceutical Store Room	R・1	30㎡	昭和51
18 図書館 Library	R・3	1,771㎡	昭和51
19 課外活動館 Extra-Curricular Activity Facility	S・1	205㎡	昭和52・53
20 学生会館 Students' Hall	R・2	702㎡	昭和56
21 学寮(雄峰寮) Boys' Dormitory (Yuho-Ryo)	R・4 -1	6,233㎡	昭和42~44・60
22 学寮(なのはな寮) Girls' Dormitory (Nanohana-Ryo)	R・4 -1	1,099㎡	平成12・23
23 エネルギー棟 Boiler House	R・1	398㎡	昭和42
24 生活排水処理施設 Sewage Disposal Plant	R・1	30㎡	昭和54
25 車庫 Garage	S・1	112㎡	昭和44
26 倉庫他 Storehouse	B・1	351㎡	昭和45~60
27 門衛所 Gatekeeper house	S・1	24㎡	平成16
計		32,895㎡	

資料 10-1-①-2

過去5年間の貸借対照表(1/7)

資産科目	(単位:円)				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
[資産の部]	4,748,685,490	5,096,987,514	4,907,860,278	4,872,512,953	4,947,848,489
流動資産	8,756,448	85,382,119	9,407,605	9,869,217	20,027,648
現金及び預金	8,611,619	7,557,041	5,153,820	6,408,382	7,918,735
現金	0	0	0	0	0
当座預金	0	0	0	0	0
普通預金	8,611,619	7,557,041	5,153,820	6,408,382	7,918,735
定期預金	0	0	0	0	0
その他預金	0	0	0	0	0
有価証券	0	0	0	0	0
有価証券	0	0	0	0	0
受取手形	0	0	0	0	0
受取手形	0	0	0	0	0
未収学生納付金収入	84,600	169,200	194,300	109,700	25,100
未収学生納付金収入 (授業料)	0	0	0	0	0
未収学生納付金収入 (入学金)	84,600	169,200	194,300	109,700	25,100
棚卸資産	0	9,384,165	0	3,325,588	12,075,503
未成研究支出金	0	0	0	3,325,588	12,011,770
未成事業支出金	0	9,384,165	0	0	63,733
貯蔵品	0	0	0	0	0
未収入金	0	68,232,255	4,020,800	0	0
未収入金	0	68,232,255	4,020,800	0	0
前渡金	0	0	0	0	0
前渡金	0	0	0	0	0
前払費用	43,179	39,458	38,685	25,547	8,310
前払費用	43,179	39,458	38,685	25,547	8,310
法定福利費	0	0	0	0	0
未経過賃借料	0	0	0	0	0
未経過保険料	43,179	39,458	38,685	25,547	8,310
未経過支払利息	0	0	0	0	0
その他の前払費用	0	0	0	0	0
未収収益	0	0	0	0	0
未収収益	0	0	0	0	0
短期貸付金	0	0	0	0	0
短期貸付金	0	0	0	0	0

(出典 平成20年度から平成24年度決算報告書)

資料 10-1-①-2

過去5年間の貸借対照表(2/7)

資産科目

(単位:円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
その他の流動資産	17,050	0	0	0	0
仮払金	17,050	0	0	0	0
仮払消費税	0	0	0	0	0
旅費仮払	17,050	0	0	0	0
立替金	0	0	0	0	0
その他流動資産	0	0	0	0	0
徴収不能引当金	0	0	0	0	0
徴収不能引当金	0	0	0	0	0
貸倒引当金	0	0	0	0	0
貸倒引当金	0	0	0	0	0
固定資産	4,739,929,042	5,011,605,395	4,898,452,673	4,862,643,736	4,927,820,841
有形固定資産	4,739,679,705	5,011,096,737	4,897,824,726	4,861,517,715	4,926,030,835
建物	3,705,707,376	3,956,755,114	3,999,490,108	4,134,518,173	4,303,637,935
建物	2,347,445,462	2,446,714,760	2,458,499,731	2,542,408,952	2,606,957,440
建物附属設備	1,358,261,914	1,510,040,354	1,540,990,377	1,592,109,221	1,696,680,495
建物減価償却累計額	△1,044,789,708	△1,174,155,750	△1,330,230,878	△1,489,518,010	△1,598,217,240
建物減損損失累計額	0	0	0	0	0
構築物	281,343,429	281,343,429	284,488,179	284,488,179	300,052,376
構築物減価償却累計額	△166,881,595	△179,795,917	△192,140,693	△202,087,311	△210,626,536
構築物減損損失累計額	0	0	0	0	0
機械装置	0	0	0	0	0
機械装置減価償却累計額	0	0	0	0	0
機械装置減損損失累計額	0	0	0	0	0
船舶	0	0	0	0	0
船舶減価償却累計額	0	0	0	0	0
船舶減損損失累計額	0	0	0	0	0
車両運搬具	9,618,274	9,618,274	12,326,439	12,326,439	12,326,439
車両運搬具減価償却累計額	△7,444,079	△8,557,493	△8,417,004	△9,250,231	△10,040,311
車両運搬具減損損失累計額	0	0	0	0	0
工具器具備品	299,081,006	495,729,009	528,948,913	583,378,877	635,130,432
工具器具備品減価償却累計額	△213,796,858	△245,601,929	△282,377,338	△328,532,901	△387,204,260
工具器具備品減損損失累計額	0	0	0	0	0

(出典 平成20年度から平成24年度決算報告書)

資料 10-1-①-2

過去5年間の貸借対照表(3/7)

資産科目

(単位:円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
土地	1,871,500,000	1,871,500,000	1,871,500,000	1,871,500,000	1,871,500,000
土地減損損失累計額	0	0	0	0	0
建設仮勘定	1,079,860	0	9,975,000	682,500	5,460,000
その他の有形固定資産	4,262,000	4,262,000	4,262,000	4,012,000	4,012,000
その他の有形固定資産 減価償却累計額	0	0	0	0	0
その他の有形固定資産 減損損失累計額	0	0	0	0	0
無形固定資産	215,329	458,329	573,698	1,097,351	1,761,336
特許権	0	0	0	0	0
借地権	0	0	0	0	0
商標権	0	0	0	0	0
実用新案権	0	0	0	0	0
意匠権	0	0	0	0	0
ソフトウェア	0	0	0	0	0
電話加入権	99,000	99,000	99,000	99,000	99,000
その他の無形固定資産	0	0	0	0	0
著作権	0	0	0	0	0
特許権仮勘定	116,329	359,329	474,698	998,351	1,662,336
投資その他の資産	34,008	50,329	54,249	28,670	28,670
投資有価証券	0	0	0	0	0
長期貸付金	0	0	0	0	0
長期前払費用	7,478	23,799	25,579	0	0
未収財源措置予定額	0	0	0	0	0
長期性預金(H24 から)	0	0	0	0	0
敷金・保証金	0	0	0	0	0
長期未収入金	0	0	0	0	0
破産債権, 再生債権, 更正債権	0	0	0	0	0
その他の投資 その他の資産	26,530	26,530	28,670	28,670	28,670
貸倒引当金	0	0	0	0	0
貸倒引当金	0	0	0	0	0
[資産の部]合計	4,748,685,490	5,096,987,514	4,907,860,278	4,872,512,953	4,947,848,489

(出典 平成20年度から平成24年度決算報告書)

資料 10-1-①-2

過去5年間の貸借対照表(4/7)

資産科目

(単位:円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
[本支店勘定]	271,354,230	322,186,978	234,979,273	102,628,436	226,294,252
[本支店]機構本部	△ 438,228	△ 324,075	△ 319,629	△ 16,942,069	△ 14,651,363
[本支店]機構本部管理課	271,792,458	322,511,053	235,298,902	119,570,505	240,945,615
[本支店勘定]合計	271,354,230	322,186,978	234,979,273	102,628,436	226,294,252
[負債の部]	454,797,750	713,014,436	567,838,090	590,092,915	774,013,079
流動負債	305,926,317	439,127,314	275,834,012	161,145,908	295,779,250
運営費交付金債務	0	0	391,405	0	0
授業料債務	0	0	0	0	0
承継剰余金債務	0	0	0	0	0
預り施設費	0	0	0	0	0
預り補助金等	0	0	0	0	0
預り寄附金	16,170,009	19,321,391	18,409,102	14,365,997	15,655,176
前受受託研究費等	0	0	0	9,500,000	15,846,000
前受受託研究費	0	0	0	7,500,000	15,846,000
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	7,500,000	15,846,000
前受共同研究費	0	0	0	2,000,000	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	2,000,000	0
前受受託事業費等	0	10,988,192	0	0	63,733
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	10,988,192	0	0	63,733
短期借入金	0	0	0	0	0
長期借入金	0	0	0	0	0
未払金	263,586,603	382,929,984	234,450,001	113,296,342	248,467,952
退職金	186,147,610	178,061,539	210,198,739	0	0
リース債務	0	5,835,960	5,728,550	5,352,233	9,556,284
その他未払金	77,438,993	199,032,485	18,522,712	107,944,109	238,911,668
未払消費税等	0	0	0	0	0
未払費用	6,227,901	7,172,159	6,847,674	4,444,667	3,631,866
給与	2,957,052	4,496,074	4,576,423	881,320	619,066
法定福利費	81,371	114,010	121,041	0	0

(出典 平成20年度から平成24年度決算報告書)

資料 10-1-①-2

過去5年間の貸借対照表(5/7)

資産科目

(単位:円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
賃借料	0	0	0	0	0
水道光熱費	3,189,478	2,562,075	2,030,885	3,453,525	2,912,645
未払利息	0	0	39,005	29,502	19,835
その他未払費用	0	0	80,320	80,320	80,320
前受金	0	0	0	0	0
預り金	19,849,030	18,715,588	15,735,830	19,538,902	12,114,523
科学研究費	211,960	157,740	71,860	15,340	1,304,645
社会保険料	0	0	0	0	0
労働保険料	0	0	0	0	0
源泉所得税	3,986	0	0	3,554	139,339
住民税	0	0	0	0	0
職員宿舍貸付料	0	0	0	0	0
補助金等返還	0	175,807	0	0	0
その他預り金	19,633,084	18,382,041	15,663,970	19,520,008	10,670,539
前受収益	0	0	0	0	0
前受利息	0	0	0	0	0
その他前受収益	0	0	0	0	0
引当金	92,774	0	0	0	0
賞与引当金	92,774	0	0	0	0
修繕引当金	0	0	0	0	0
損害補償損失引当金	0	0	0	0	0
その他の引当金	0	0	0	0	0
その他の流動負債	0	0	0	0	0
仮受金	0	0	0	0	0
その他の流動負債	0	0	0	0	0
固定負債	148,871,433	273,887,122	292,004,078	428,947,007	478,233,829
資産見返負債	148,871,433	251,029,612	274,631,131	414,523,721	451,220,242
資産見返運営費交付金等	128,011,765	173,953,898	201,919,205	355,279,246	399,842,051
資産見返運営費交付金	95,322,994	130,995,331	132,779,555	273,389,194	294,228,051
資産見返授業料	32,688,771	42,958,567	69,139,650	81,890,052	105,614,000
資産見返補助金等	0	63,262,102	53,971,125	50,518,148	39,767,671
資産見返寄附金	7,014,265	6,869,356	4,238,782	4,833,964	3,982,451
資産見返物品受贈額	12,649,214	6,584,927	4,052,321	2,211,512	505,733

(出典 平成20年度から平成24年度決算報告書)

資料 10-1-①-2

過去5年間の貸借対照表(6/7)

資産科目

(単位:円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
建設仮勘定見返 運営費交付金等	0	0	9,975,000	682,500	5,460,000
建設仮勘定見返運営費交付金	0	0	9,975,000	0	5,460,000
建設仮勘定見返授業料	0	0	0	682,500	0
建設仮勘定見返施設費	1,079,860	0	0	0	0
建設仮勘定見返補助金等	0	0	0	0	0
建設仮勘定見返寄附金	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返 運営費交付金等	116,329	359,329	474,698	998,351	1,662,336
特許権仮勘定見返 運営費交付金	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返授業料	116,329	359,329	474,698	998,351	1,662,336
特許権仮勘定見返補助金等	0	0	0	0	0
特許権仮勘定見返寄附金	0	0	0	0	0
長期預り金補助金等	0	0	0	0	0
長期預り金寄附金	0	0	0	2,402,572	2,402,572
長期前受受託研究費等	0	0	0	0	0
長期前受受託研究費	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
長期前受共同研究費	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
長期前受受託事業費等	0	0	0	0	0
国又は地方公共団体	0	0	0	0	0
その他長期借入金	0	0	0	0	0
長期未払金	0	0	0	0	0
引当金	0	0	0	0	0
退職給付引当金	0	22,857,510	17,372,947	12,020,714	24,611,015
追加退職給付引当金	0	0	0	0	0
その他の引当金	0	0	0	0	0
その他の固定負債	0	0	0	0	0
[負債の部]合計	454,797,750	713,014,436	567,838,090	590,092,915	774,013,079

(出典 平成20年度から平成24年度決算報告書)

資料 10-1-①-2

過去5年間の貸借対照表(7/7)

資産科目

(単位:円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
[純資産の部]	4,565,241,970	4,706,160,056	4,575,001,461	4,385,048,474	4,400,129,662
資本金	5,776,534,859	5,776,534,859	5,776,534,859	5,776,534,859	5,776,534,859
政府出資金	5,776,534,859	5,776,534,859	5,776,534,859	5,776,534,859	5,776,534,859
その他出資金	0	0	0	0	0
資本剰余金	△1,211,178,736	△1,070,370,357	△1,218,155,838	△1,389,195,679	△1,376,392,611
資本剰余金	19,286,438	327,072,093	352,034,666	351,784,666	557,662,413
資本剰余金施設費	14,694,438	322,480,093	347,442,666	347,442,666	553,320,413
資本剰余金運営費 交付金	0	0	0	0	0
資本剰余金授業料	0	0	0	0	0
資本剰余金補助金等	0	0	0	0	0
資本剰余金寄附金	0	0	0	0	0
資本剰余金目的 積立金	0	0	0	0	0
資本剰余金譲与	4,592,000	4,592,000	4,592,000	4,342,000	4,342,000
その他の資本剰余金	0	0	0	0	0
損益外減価償却 累計額	△1,230,234,174	△1,371,365,769	△1,539,452,607	△1,708,259,352	△1,818,495,459
損益外減損損失 累計額	△ 231,000	△ 231,000	△ 231,000	△ 231,000	△ 231,000
損益外固定資産 除売却差額	0	△ 25,845,681	△ 30,506,897	△ 32,489,993	△ 115,328,565
損益外利息費用 累計額	0	0	0	0	0
減資差益	0	0	0	0	0
利益剰余金	△ 114,153	△ 4,446	16,622,440	△ 2,290,706	△ 12,586
前中期目標期間繰越 積立金	0	0	0	0	0
目的積立金	0	0	0	0	0
教育研究・福利厚生・ 地域貢献充実積立金	0	0	0	0	0
目的積立金 (H24 積立金)	0	0	0	0	0
目的積立金 (H24 国庫納付金)	0	0	0	0	0
積立金	0	0	0	0	0
当期末処分利益	△ 114,153	△ 4,446	16,622,440	△ 2,290,706	△ 12,586
繰越欠損金	0	0	0	0	0
当期末処理損失	0	0	0	0	0
その他の有価証券 評価差額金	0	0	0	0	0
[純資産の部]合計	4,565,241,970	4,706,160,056	4,575,001,461	4,385,048,474	4,400,129,662
資本・負債の部合計	5,020,039,720	5,419,174,492	5,142,839,551	4,975,141,389	5,174,142,741

(出典 平成20年度から平成24年度決算報告書)

(分析結果とその根拠理由)

本校における資産は、法人移行の際に国から承継を受けた土地、建物、設備が主であり、本校の教育研究活動を遂行していくために十分である。債務については、借入金は無く、その他の債務も運営費交付金等の範囲内で行っているため、債務の状況が過大とはなっていない。

観点10-1-②：学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

教育研究活動を遂行するための収入については、国からの運営交付金による恒常的な収入が確保されている。

施設整備費補助金と国立大学財務・経営センター施設費交付事業費については、本校からの要求に基づき高専機構から採択配分され教育活動を安定して遂行するために必要な校舎等の改築・改修経費である。

自己収入は、授業料収入、入学料・検定料収入、その他雑収入がある。

安定的な自己収入は不可欠である。入学志願者の積極的な獲得のため、学校要覧の配布やウェブページの充実等によるPR活動の推進や、進学説明会への積極的な参加、中学校訪問、中学生及びその保護者を対象とした学校説明会・オープンキャンパス・公開講座等を計画的に実施するとともに、入学試験会場を本校と東京会場を設け受験者増加を図るなど、安定した自己収入の確保に努めている

(資料10-1-②-1)。

資料10-1-②-1

過去5年間の自己収入

(単位：円)

区 分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
収 入				※	※
運営費交付金	1,185,021,001	1,221,066,359	1,172,950,023	262,894,871	143,088,977
施設整備費補助金	1,079,860	316,637,140	0	0	245,781,000
国立大学財務・経営センター施設費交付事業費	3,276,000	34,454,000	27,090,000	0	5,166,000
自己収入	289,181,106	286,679,941	291,789,496	293,248,657	289,481,051
授業料収入	249,256,500	248,476,500	251,903,900	252,776,950	249,527,400
入学料収入	21,031,000	21,190,900	21,883,500	21,454,000	20,623,800
検定料収入	6,395,300	5,898,500	5,906,500	5,933,300	5,908,300
雑収入	12,498,306	11,114,041	12,095,596	13,084,407	13,421,551
産学連携等研究収入	46,412,475	35,240,192	21,519,753	23,070,633	15,764,533
寄附金収入	10,409,000	14,188,438	9,355,000	8,460,000	12,656,000
その他補助金	0	69,555,378	3,464,100	11,197,500	1,000,000
目的積立金取崩	0	0	0	0	0
計	1,535,379,442	1,977,821,448	1,526,168,372	598,871,661	712,937,561

※運営費交付金減は給与一元化による人件費分(約9億円)

(出典 平成20年度から平成24年度決算報告書)

(分析結果とその根拠理由)

教育研究活動を遂行するための収入については、国からの運営交付金による恒常的な収入が確保されている。

入学志願者の積極的な獲得を行い、安定した自己収入の確保に取り組んでいる。

観点10-1-③：学校の目的を達成するために外部の財務資源の活用策を策定し、実施されているか。

(観点に係る状況)

国からの運営費交付金は、必要とされる最低限の教職員給与及び教育研究経費等を除き、毎年削減されている。このため、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するために、外部資金等の獲得に努めている。

外部資金の導入を積極的に推進することにより自己収入の増加を図り、第2期中期計画(2 研究に関する事項)においては、科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスを開催した(資料10-1-③-1)。

このほかに公募情報の周知等の取り組みを強化するとともに、研究者情報の配信に努め、競争的資金獲得額の増加、共同研究、受託研究及び奨学寄附金の受入件数の増加を図る。

外部資金獲得のための体制として、平成16年度より、地域共同テクノセンターとセンターを所掌する事務部担当係が中心となって、様々な競争的資金による自己収入の増加に努めている。過去5年間の競争的資金による自己収入を示す(資料10-1-③-2)。

収入額については、20年度を境に減少傾向であったが、回復の兆しがみられる。特に奨学寄附金による収入が増加している。

外部資金の確保策

高専機構小畑理事長を招いた科研費獲得のための講演会を開催しました

2012年8月28日

8月23日(木)、国立高等専門学校機構小畑理事長を講師に招き、「平成25年度科研費獲得のための講演会」を開催しました。

この講演会は、本校における科研費獲得の増進を目指して昨年度も開催したもので、今年度は特に小畑理事長の参加をいただきました。工藤校長の挨拶に続き、「科研費採択に向けた取り組み」と題して、科研費が採択された教員3名から、申請に至るまでの取り組み状況や、申請書作成時の留意事項など、具体的な報告がありました。

続いて、小畑理事長より「科研費採択率25%＝50%の教員が科研費採択者—上位半分—のグループに加わろう」と題し、科研費の申請・採択の動向や、社会から認知されている高専教育のレベルを維持することと高等教育における研究の重要性などについて講話がありました。

その後、和崎地域共同テクノセンター副センター長より、昨年度に学内で実施した科研費申請に関するアンケートの分析報告があり、最後に、石出地域共同テクノセンター長のコーディネートにより、小畑理事長、事例報告者、分析報告者によるパネルディスカッション形式での活発な意見交換が行われ、参加者にとって科研費獲得の重要性を改めて認識する機会となりました。

なお、講演会終了後、小畑理事長による校内視察を実施しました。



講話をする小畑理事長

(出典 本校ウェブページ http://www.kisarazu.ac.jp/news/2012/0828_3.html)

資料 10-1-③-2

過去5年間の外部収入

科学研究費補助金採択状況 *Grant-in-Aid for Scientific Research*

単位(千円)

研究題目 年度	基盤研究C		奨励研究		若手研究B		若手研究(スタートアップ)		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成20年度	5	5,200	2	1,160	4	2,000	1	1,330	12	9,690
平成21年度	3	3,800	2	770	3	1,600	1	1,200	9	7,370
平成22年度	4	2,500	3	1,500	2	1,200	1	1,140	10	6,340
平成23年度	4	3,600	4	2,100	3	3,300	1	1,120	12	10,120
平成24年度	5	6,500	2	1,000	1	400			8	7,900

※ 他機関からの分担金は含まず

民間との共同研究受入状況 *Research Cooperation with Industry*

単位(千円)

平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
15	20,525	11	10,450	7	7,800	9	4,064	8	654

受託研究受入状況 *Commissioned Research*

単位(千円)

平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
5	11,331	3	11,498	3	12,653	5	17,550	4	12,494

奨学寄附金受入状況 *Grants and Endowment*

単位(千円)

平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
18	9,409	17	14,188	16	9,355	18	8,760	22	13,876

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

外部の財務資源の活用策を策定し、実行するための体制を整備して、外部資金獲得による自己収入の増加を図る。しかし、一昨年起こった東日本大震災の関係で、共同研究、受託研究ともに横ばいの状態である。さらなる獲得増加に向けた方策として、機構本部の企業技術者活用経費を活用し連携コーディネーターを配置した。具体的には地元市町村及び企業との連携を図り外部資金獲得に務めている。

観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る企画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、校長のリーダーシップの下、高専機構中期計画及び本校中期計画及び年次計画に基づき、予算編成の基本方針が立てられる(資料10-2-①-1)。その方針に基づいて学内予算配分基準(案)を将来構想検討委員会で策定される(資料10-2-①-2)。これを運営協議会で審議し決定されて、各学科主任・センター長・課長に通知される(資料10-2-①-3)。

予算配分方針

平成 24 年 5 月 24 日

平成 24 年度 学 内 予 算 配 分 基 準

物件費の配分基準について

次のⅠ～Ⅳの経費について配分する。

Ⅰ 教育研究経費

① 教育研究経費(学科等教育研究費)

・〔教育経費＋学生支援経費〕

各学系・学科等への配分額は、授業科目により配分指数を一般：1、実験：3.5、専門：4として、当該年度年間単位数を学系・学科等別(一般・実験・専門)に集計し、それぞれの配分指数を乗じて得た指数の計に、1指数当たりの単価を乗じた額を、計数整理のうえ配分する。

・〔研究経費〕

各学系・学科等への配分額は、授業科目により配分指数を校長：4、一般：1、実験：3.5、専門(助教)：4、助手：1、として、教員定員に、それぞれの配分指数を乗じて得た指数の計に、1指数当たりの単価を乗じた額を、計数整理のうえ配分する。

② 教育研究設備維持運営費

光熱水料調整額を差し引いた額を各教育研究設備(特別設備維持費)設置の学科等へ配分する。

③ 特別事業経費

教員研修等経費(内地研究員等旅費)、厚生補導経費(学生指導・学寮運営・寄宿舎・学生会館・課外施設等)、公開講座経費、入学試験経費を配分する。

但し、厚生補導経費からは、光熱水料調整額を差し引いた額を配分する。

④ 非常勤職員等経費

(1)非常勤講師手当は、平成24年度機構本部からの配分基準額を配分し、所要見込額の不足額を追加配分する。

⑤ 重点化経費(校長裁量経費)

中期目標・中期計画等を確実に実施するための経費及び本校の特色を最大限に活かした教育・研究プロジェクト等を実施するための経費として、校長のイニシアティブによって配分する。

Ⅱ 教育研究支援経費

全学共同利用施設として、実習工場、地域共同テクノセンター、教育研究支援センター、図書館、ネットワーク情報センターに配分する。

Ⅲ 一般管理費

(1)固定的維持費(消耗品費・光熱水料・通信運搬費・保守委託費等)として、学校共通経費の所要見込額に基づき配分する。

(2)医員手当(学校医等)は、平成24年度機構本部からの配分基準額を配分し、所要見込額の不足額を追加配分する。

(3)非常勤講師等旅費は、所要見込額に基づき配分する。

(4)国際交流活動の推進を図るための国際交流関係経費を配分する。

(5)今年度限りの措置として、図書館改修附带事業費及び教務システムハード購入経費を配分する。

(6)今年度限りの措置として、在外研究員旅費を配分する。

Ⅳ 予備費

不測の事態に対応するための経費を留保する。

(出典 平成 24 年 5 月 24 日運営協議会資料)

将来構想検討委員会議事要旨

将来構想検討委員会（議事要旨）

1. 日 時 平成24年5月24日（木）10：45～10：55
2. 場 所 会議室B
3. 出席者 校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、地域共同テク/センター長、小澤、福地、高橋秀、上原、鈴木聡、栗本、石川（C）、事務部長、総務課長、学生課長
4. 議 事
 - （1）平成24年度予算配分（案）について
教務主事から、資料に基づき説明があり、了承された。

（出典 平成24年5月24日将来構想検討委員会議事要旨）

資料 10-2-①-3

予算配分通知書例

予算総務課第1号
平成24年5月24日

機械工学科主任 殿

事務部長
原 英 毅 (公印省略)

平成24年度学内予算配分について(通知)

このことについて、下記のとおり配分いたします。

記

配 分 年 月 日	金 額	平成24年5月24日	備考
科 目	(千円)	内訳	
その他経費			
物件費	5,945		
教育研究経費	4,586		
教育研究経費(学科等教育研究費)	4,586		
教育研究設備維持運営費	1,359		
硬度計(ロックウェル、シヨア)	160		
小型表面粗さ測定機一式	304		
機械工学科自動制御実験室の実験環境構築	192		
万能試験機	193		
風洞装置一式	382		
燃料多様化対応内燃機関実験装置一式	128		

(出典 平成24年総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

各年度の予算に係る収支計画については、将来構想検討委員会で定めた方針を、運営協議会等を通じて教職員に明示している。

観点10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

高専機構理事長は、毎事業年度開始前に独立行政法人通則法第31条第1項に定める年度計画に基づいて予算実施計画を作成し、これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。また作成した予算実施計画に基づく予算額を各高専契約担当役及び出納命令役に通知するものとされている(資料10-2-②-1)。

本校は、高専機構からの収支予算額以上の支出は出来ない構造となっている。

資料10-2-②-1

高専機構会計規則第34号抜粋

(予算実施計画の作成)

第17条 理事長は、毎事業年度開始前に通則法第31条第1項に定める年度計画に基づいて、予算実施計画を作成し、これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。

2 理事長は、機構の効率的、効果的な運営に常に配慮するものとする。

(予算実施計画の通知)

第18条 理事長は、前条で作成した予算実施計画に基づく予算額を契約担当及び出納命令役に通知するものとする。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号)

(分析結果とその根拠理由)

高専機構会計規則第 18 条により通知された予算額を以って執行計画を策定し、収支はバランスの取れたものとなっており、過大な支出超過とはなっていない。

観点10-2-③：学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

資料 10-2-①-1 に記載の通り校内予算配分方針を定めている。教育研究上特に必要とされる設備経費については、校長裁量経費を設けて重点的に配分している。各学科・学系教員等からの申請を各選考委員会等が選考し、将来構想検討委員会において審議する。これを運営協議会にて協議した結果を校長裁量経費として効率的な配分を行っている（資料 10-2-③-1）。

特別研究経費及び教育設備充実経費の申請においても全学的に検討した後、将来構想検討委員会及び運営協議会で諮られ、設備の整備計画を行っている。

施設整備のための概算要求・営繕要求についても、施設整備専門委員会において全学的に検討した後、将来構想検討委員会での諮られ、施設の整備計画を行っている（資料 10-2-③-2）。

資料 10-2-③-1

平成 24 年度校長裁量経費申請及び選定結果

(重点研究推進経費)

C-1 新任教員研究支援(予算総額200万円:上限50万円/1人,今回配分額100万円)公募型

No.	学科・学系名	事業名	公募金額	査定金額	今回配分額
1	人文・基礎学系	新しい放射線検出器の開発とその応用に関する基礎研究	500千円	500千円	500千円
2	情報工学科	植物工場のためのトレイグジスタンス環境計測制御システムの開発	500千円	500千円	500千円
申請金額・査定金額合計			1,000千円	1,000千円	1,000千円

C-2 萌芽・挑戦的研究の支援(予算総額350万円:上限7件,今回配分額250万円)公募型

No.	学科・学系等名	事業名	公募金額	査定金額	今回配分額
1	人文・基礎学系	図入り教材の作成過程記録に基づいた教材開発システムKETpicの改善	500千円	340千円	340千円
2	機械工学科	6脚ロボットの全方向歩行制御に関する研究	500千円	280千円	280千円
3	機械工学科	視感に基づいた黒色の評価手法の開発	833千円	230千円	230千円
4	機械工学科	チェーンおよびベルト伝動の性能評価	817千円	500千円	500千円
5	情報工学科	人物の魅力判断と記憶時の顔の向きの効果	500千円	400千円	400千円
6	環境都市工学科	下水利用を目的とした健康影響シナリオの作成	605千円	400千円	400千円
7	環境都市工学科	高アルカリ性の上澄水で練り混ぜた高炉セメントコンクリートの基礎物性	493千円	250千円	250千円
8	機械工学科	可視光レーザーを用いた筒内可視化エンジンのレーザー計測	550千円	400千円	0千円
9	環境都市工学科	岩石のひび割れ進展方向に関する数値解析的検討	664千円	500千円	0千円
10	電気電子工学科	電気自動車に搭載可能な人物検知・警報システムの開発	490千円	200千円	0千円
11	電気電子工学科	円筒空洞共振器を用いた誘電体材料の複素比誘電率測定	620千円	400千円	0千円
12	人文・基礎学系	植物工場における植物生育診断と環境制御に関する基礎研究	850千円	500千円	0千円
13	人文・基礎学系	香りの組み合わせ効果の測定とその構造活性相関の解明 (2)	300千円	100千円	0千円
14	機械工学科	光学ガラスの高効率・高品質・低価格鏡面仕上げの研究	650千円	0千円	0千円
15	環境都市工学科	災害残土の放射線量モニタリング及び有効利用に関する研究	500千円	0千円	0千円
16	電子制御工学科	タブレット型Android端末を利用した学内案内システムの構築	486千円	0千円	0千円
申請金額・査定金額合計			9,358千円	4,500千円	2,400千円

(出典 平成 24 年 7 月 5 日 運営協議会資料)

施設整備専門委員会議事録

平成24年度 第4回施設整備専門委員会議事要旨

1. 日 時 平成25年2月26日（火）13:10～13:50
2. 場 所 会議室B
3. 出席者 原 事務部長（委員長）、篠村（人文）、相川（基礎）、高橋（M）、石井（E）、
鈴木聡（D）、東（J）、上村（C）、萩原総務課長、御園学生課長、
事務部：永井課長補佐、渡邊施設係長、斉藤業務支援室員

4. 議 事

① 平成26年度概算要求事業について（資料1）

委員長より機構本部施設課より概算要求事業については、年度当初に意見交換会を行い、その結果をもとに文部科学省要求事業を選定しているところですが、平成26年度概算要求事業については、事前に要求内容を把握して仙台高専施設課又は香川高専施設課と事業内容を調整の上、3月19日までに提出するよう依頼があった旨の説明があり、資料1に基づきすべての事業名についての内容が説明され、原案通りの順位で要求することです承された。

② 図書館等改修の進捗状況について（資料2）

委員長より資料2に基づき図書館等改修工事に伴う進捗状況及び今後の課外活動場所について説明があり、講義棟Bが改修された後のものづくり室B（第2研究棟1F）を電子制御工学科に配分することです承された。

③ その他

無し。

以上

(出典 平成24年第4回施設設備専門委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

予算配分の方針の明示がされ、議論がなされた上で決定されている。校長裁量経費などの学内採択経費を設けることにより柔軟な予算執行を行っている。また施設の整備については、施設整備専門委員会において全学的な見地から検討し、経費の効率的な配分を行っている。

観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

独立行政法人国立高等専門学校機構としての財務諸表等は、主務大臣の承認を受け、官報公告や高等専門学校機構ウェブページ等により公表されている。本校は、当該財務諸表に係る一構成機関である。本校単独の財務諸表については、学校要覧に掲載し公表している(資料 10-3-①-1~2)。

資料 10-3-①-1

高専機構会計規則 第34号抜粋

(年度末決算)

第44条 年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行つて、所定の手続きに従つて決算数値を確定しなければならない。

2 理事長は、前項の整理を行った後、翌事業年度5月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

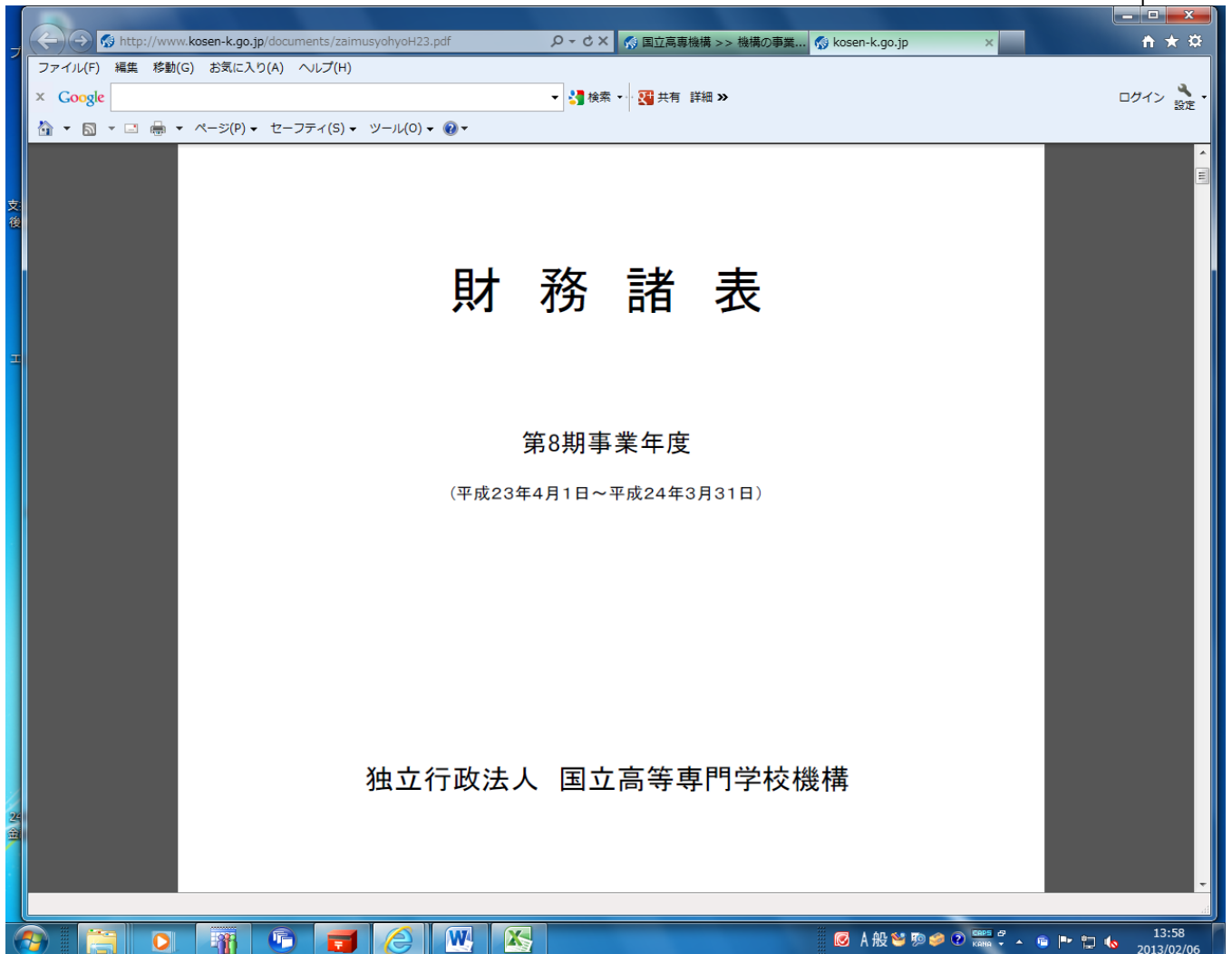
- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に関する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書
- 六 附属明細書

3 前項各号の書類の様式は、別に定めるものとする。

(出典 独立行政法人国立高専機構規則第34号)

資料 10-3-①-2

高専機構財務諸表 高専機構ウェブページでの公表の例



(出典 独立行政法人国立高専機構ウェブページ)

<http://www.kosen-k.go.jp/documents/zaimusyohyoH23.pdf>

(分析結果とその根拠理由)

高専機構会計規則第34条により、当該年度における資産負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って所定の手続きに従って決算数値を確定している。

また高専機構理事長は、翌事業年度末までに財務諸表を作成し広く公表している。

観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

財務に対する会計監査としては、会計監査人監査、高専機構監事監査、高専間相互監査及び内部監査が挙げられる。会計監査人による外部監査については、主務大臣に選任された監査法人により、当該監査人の監査計画に基づき実施されており、毎事業年度、機構本部と全高専の財務内容を監査している。また、高専機構監事監査及び内部監査は、高専機構本部の監査計画に基づき3年に一度、毎年機構本部と各高専で実施されており、本校も平成23年6月に受審した（資料10-3-②-1）。

その他、高専間において相互に行う会計監査を毎年実施しており、直近では平成24年12月に実施した（資料10-3-②-2）。

資料10-3-②-1

「独立行政法人通則法」 会計監査に関する条文抜粋

（会計監査人の監査）

第三十九条 独立行政法人（その資本の額その他の経営の規模が政令で定める基準に達しない独立行政法人を除く。）は、財務諸表、事業報告書（会計に関する部分に限る。）及び決算報告書について、監事の監査のほか、会計監査人の監査を受けなければならない。

（会計監査人の選任）

第四十条 会計監査人は、主務大臣が選任する。

（会計監査人の資格）

第四十一条 会計監査人は、公認会計士（公認会計士法（昭和二十三年法律第百三号）第十六条の二第五項に規定する外国公認会計士を含む。）又は監査法人でなければならない。

2 公認会計士法 の規定により、財務諸表について監査をすることができない者は、会計監査人となることができない。

（出典 独立行政法人通則法 平成11年法律第103号）

資料 10-3-②-2

高専機構会計規則 第34号抜粋

(内部監査)

第45条 理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

2 内部監査について必要な事項は、別に定めるものとする。

(会計機関の義務及び責任)

第46条 会計機関は、機構の財務及び会計に関し、適用又は準用される法令並びにこの規則に準拠し、かつ、予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって、その職務を行わなければならない。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号)

(分析結果とその根拠理由)

本校単独の決算についても、本校を含む全高専からの財務報告に基づき、機構本部が機構全体の財務諸表を作成することで、会計監査人による外部監査が毎事業年度機構本部と全高専で実施される体制となっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育研究上特に必要とされる設備経費については、校長裁量経費を設けて重点的に配分している。各学科・学系教員等からの申請を各選考委員会等が選考し、将来構想検討委員会において審議する。これを運営協議会にて協議した結果を校長裁量経費として効率的な配分を行っている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準10の自己評価の概要

本校における資産は、法人移行の際に国から承継を受けた土地、建物、設備等が主であり、本校の教育研究活動を安定して遂行するうえで十分である。また、債務額については、保有している現金及び預金（[本支店]機構本部管理課含む）の範囲内となっており、借入金もなく、債務の状況が過大とはなっていない。

教育研究活動を遂行する為の収入については、国からの運営費交付金の措置により恒常的な収入が確保されている。外部の財務資源の活用策を策定し、実行するための体制を整備して、外部資金獲得による自己収入の増加を図っている。学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な予算計画等が策定され、本校教職員に明示されている。支出超過を判断する損益計算書では、プラスの値を示しており、過大な支出超過とはなっていない。

校内予算配分に当たって、配分方針を定め教育研究費の確保を図っている。重点配分及び校長裁量経費により、中期計画の年次計画を実現するための財源を確保し適切な予算配分がなされている。特別研究経費及び教育設備充実経費の申請や教育研究活動に関連した施設整備・設備関連の要求を行う体制が整備され継続的に行われている。

本校の財務状況も含んだ形で、国立高等専門学校機構としての財務諸表等は、官報公告や高等専門学校ウェブページ等により、広く公表されている。本校単独の財務諸表については、本校ウェブページへの掲載を行っている。本校単独の決算についても、本校を含む全高専からの財務報告に基づき、機構本部が機構全体の財務諸表を作成することで、会計監査人による外部監査が毎事業年度機構本部と全高専で実施される体制となっている。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到に係る状況)

本校では、「木更津工業高等専門学校学則」(以下、学則という。)(資料11-1-①-1)において、校長及び各主事の役割が定められている。また、「木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則(以下、組織運営規則という。)」(資料11-1-①-2)において、主事以外の副校長(組織運営規則第5条の2)、事務部長、学科学系主任(組織運営規則第9条、第10条)及び各委員会等の役割が定められている。

管理運営に関する事項は、組織運営規則第22条の2に基づき校長が招集し主宰する運営調整会議(毎週火曜日開催)(資料11-1-①-3)で審議され、校務執行に関する重要事項については、組織運営規則第23条で定めた運営協議会(第1、第3木曜日開催)(資料11-1-①-4)において、各学科・学系主任を交えて合議決定される。特に、学生教育に関する重要事項のうち運営協議会が認めたものについて、校長は組織運営規則第22条で定めた教員会議(毎月第2木曜日開催)(資料11-1-①-5)に諮問することとなっている。主な審議機関の役割と意思決定のプロセスを資料11-1-①-6に示す。また、全ての委員会は、副校長及び事務部長が所掌し(資料11-1-①-7)、運営調整会議等によって情報が集約され、校長が迅速且つ的確な意思決定が行える態勢(資料11-1-①-8)となっている他、各学科・学系主任に対して年2回(資料11-1-①-9)、各委員会の長に対して年1回(資料11-1-①-10)、全教員に対して年1回(資料11-1-①-11)の校長ヒアリングを実施し、校長が的確に各学科・学系、各委員会の運営状況及び各教員の教育研究活動を把握している。さらに、学内予算配分においては、校長裁量経費(資料11-1-①-12)を設け、校長の強いリーダーシップの下、効率的且つ効果的な予算措置が図られている。

木更津工業高等専門学校学則（抜粋）

（目的）

第1条 木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（自己評価等）

第1条の2 本校は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価の結果について、本校の職員以外の者による検証を行うものとする。

3 前項の点検及び評価についての必要な事項は、別に定める。

（情報の積極的な提供）

第1条の3 本校は、教育活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

2 前項の情報の積極的な提供についての必要な事項は、別に定める。

第5条 休業日は、次のとおりとする。ただし特別の必要があるときは、**校長**はこれらの休業日を授業日に振り替えることがある。

第6条 授業終始の時刻は、**校長**が別に定める。

第7条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

2 **校長**は、教育上有益と認めるときに、前項の規定にかかわらず、異なる学科の学生をもって学級を編制することができる。

第9条 本校に教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

2 **教務主事**は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3 **学生主事**は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

4 **寮務主事**は、校長の命を受け、寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。

第11条 この学則又は他の法令に別段の定めのあるものを除くほか、本校の内部組織については、**校長**が定める。

第14条 **校長**は、教育上有益と認めるときは、他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第14条の2 **校長**は、教育上有益と認めるときは、高等専門学校以外の教育施設等における学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

第17条 **校長**は、入学志望者について、学力検査の成績、出身学校の長から送付された調査書その他必要な書類等を資料として入学者の選抜を行う。

2 前項の選抜方法にかかわらず、**校長**は、入学定員の一部に限り、学力検査を免除し、出身学

校の長から送付された推薦書及び調査書を主な資料として入学者の選抜を行うことができる。

3 **校長**は、前2項の選抜の結果に基づき、第29条に規定する入学料を納付した者、又は入学料免除及び入学料徴収猶予の申請書を受理された者に対して、入学を許可する。

第18条 第1学年の途中又は第2学年以上に入学を希望する者があるときは、**校長**は、その者が相当年齢に達し、当該学年に在学する者と同等以上の学力があると認めた場合に限り、前条の規定に準じて、相当学年に入学を許可することができる。

第19条 入学を許可された者は、所定の期日までに在学中の保証人と連署した誓約書及び**校長**が定めた書類を提出しなければならない。

2 前項の手続きを終了しない者がある場合には、**校長**は、その入学の許可を取り消すことができる。

(転科)

第20条 転科を希望する者があるときは、**校長**は、学年の初めにおいて、選考の上第4学年までに限り、転科を許可することができる。

第24条 学生に伝染病その他の疾病があるときは、**校長**は、出席停止を命ずることがある。

第25条 学生は、疾病その他やむを得ない理由により退学しようとするときは、**校長**の許可を受けて、退学することができる。

2 前項の規定により退学した者が再入学を希望するときは、**校長**は、学年の初めにおいて選考の上相当学年に入学を許可することができる。

第26条 他の学校に入学、転学又は編入学を志望しようとする者は、**校長**の許可を受けなければならない。

第26条の2 **校長**は、教育上有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2 **校長**は、前項の規定により留学することを許可された学生について、外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし、30単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3 **校長**は、前項の規定により単位の修得を認定された学生について、学年の途中においても、各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。

第27条 **校長**は、所定の授業科目を履修し、全教育課程を修了した者に卒業を認定する。

3 **校長**は、卒業を認定した者に卒業証書を授与する。

第52条 学生として表彰に値する行為があったときは、**校長**はこれを表彰することがある。

第53条 教育上必要があるときは、学生に退学、停学、訓告その他の懲戒を加えることがある。

2 懲戒のうち退学、停学及び訓告の処分は**校長**がこれを行う。

第54条 次の各号の一に該当する者は、**校長**がこれを除籍する。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和43年6月1日学則第1号)

木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則

昭和56年4月1日

規則第1号

第1章 総則

(この規則の目的)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の管理運営のため独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（以下「機構規則」という。）第5条の規定による本校の内部組織を定め、併せて本校の管理運営に関する主要な校務の処理手続を明らかにすることを目的とする。

(管理運営の目標)

第2条 この規則による本校の管理運営は、すべての教職員が、学則第1条に規定する本校の目的の達成をめざし、明確な方針の下に、それぞれの創意を発揮しながら互いに協力して職務を遂行できるようにすることを目標とする。

(執行機関と審議機関)

第3条 この規則第2章に規定する執行機関は、その職務上の権限に基づいて有効適切に校務を処理することについて校長に対して責任を負い、第3章に規定する審議機関は、その構成員の創意と判断を生かし、それぞれの役割に応じて執行機関の職務の遂行が公正妥当なものとなるよう援助するものとする。

(校務の処理手続)

第4条 この規則に定める2以上の機関に関連のある重要な校務の処理手続については、この規則に定めるものの外、それぞれの事項ごとに、内規又は要項として別に定める。

(危機管理)

第4条の2 校長は、本校において発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、リスク管理室を設置する。

2 危機管理に関する必要な事項は、別に定める。

第2章 内部部局及び執行機関

(主事)

第5条 学則第9条に基づき本校に教務主事、学生主事及び寮務主事を置き、教務主事は教授をもって充て、学生主事及び寮務主事は教授又は准教授をもって充てる。

2 教務主事、学生主事及び寮務主事の任期は2年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副校長)

第5条の2 本校に副校長を置き、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長及び地域共同テクノセンター長をもって充てる。

2 副校長は、校長の命により校長の職務を補佐し、校務を分担する。校長が不在の時は、教務

主事がその職務を代行する。

3 前2項に定めるもののほか、特定の業務を担当する副校長を置くことができるものとし、教授又は准教授をもって充てる。

4 副校長は、委員会を所掌する。所掌する委員会については、別に定める。

(主事補)

第6条 前条に規定する各主事の職務を助けるため、教務主事補、学生主事補及び寮務主事補を置き、教授、准教授、専任講師又は助教をもって充てる。

2 各主事補は、校長が任命し、その任期は2年とする。

3 各主事補は、主事に事故があるときは、その職務を代理する。

(専攻科長及び副専攻科長並びに専攻主任)

第7条 学校教育法(昭和22年3月31日法律第26号)の規定により特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする組織として、本校に機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻を置き、専攻科長及び副専攻科長並びにそれぞれの専攻に専攻主任を置く。

2 専攻科長は、教授をもって充て、校長の命を受け、専攻科を総括する。副専攻科長は、教授、准教授をもって充て、専攻科長を補佐する。

3 専攻主任は、各専攻ごとに第9条に規定する学科主任のうちから校長が任命し、当該専攻に関する諸事項を処理する。

4 専攻科長及び副専攻科長並びに専攻主任の任期は2年とする。

(事務部)

第8条 学則第10条に基づき本校に事務部を置き、事務部に総務課及び学生課を置く。各課の組織及び所掌事務については、別に定める。

2 事務部に、事務部長及び課長を置き、職員をもって充てる。

3 **事務部長**は、校長の命により委員会を所掌する。所掌する委員会については、別に定める。

(教育研究支援センター)

第8条の2 学則第10条の2に基づき本校に教育研究支援センター(以下「センター」という。)を置き、センターの組織及び運営その他必要な事項については、別に定める。

2 技術職員(施設系技術職員を除く。)は、教育研究に係る技術的支援に関する業務を処理するため、センターに所属する。

(学科主任)

第9条 工業に関する専攻分野を教育するための組織として、本校に機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科及び環境都市工学科を置き、それぞれの学科に学科主任を置き、その学科の教授又は准教授をもって充てる。

2 学科主任は、当該学科に属する教員の総意に基づき校長が任命し、その任期は2年以内とする。

3 学科主任は、当該学科に関し、教育課程の編成、授業科目の分担その他学科内の教育研究活動の調整、学生の教育指導、就職あっせん及び進路指導並びに学科に供用される施設及び設備の管理に関する校務を掌る。

(学系及びその主任)

第10条 一般科目に関する授業科目のうち国語，社会，保健・体育，芸術及び外国語に関するものを担当する教員組織を人文学系，一般科目に関する授業科目のうち数学及び理科に関するもの並びに専門科目に関する授業科目のうち応用数学，応用物理及び各学科に共通する情報処理に関するものを担当する教員組織を基礎学系とし，それぞれの学系に学系主任を置き，その学系の教授又は准教授をもって充てる。

2 前条第2項及び第3項の規定は，学系主任に，これを準用する。

(学年主任及び学級担任)

第11条 本校の各学年に対応して，学年主任，各学級に対応して，学級担任を置き，専任教員(助手を除く。)をもって充てる。

2 学年主任及び学級担任は，教務主事及び学生主事の推薦に基づき校長が任命し，その任期は1年とする。ただし，学年主任については，学級担任の中から任命するものとする。

3 学年主任は，学級担任との連絡会を招集し，当該学年の学級担任及び各主事との連絡調整に当たるものとする。

4 学級担任は，各学級の運営及び特別活動等に関する指導並びに学生各個人の厚生補導に関する校務を分担実施する。

(指導教員)

第12条 本校学友会の各部及び各同好会に対応して，指導教員を置き，専任教員をもって充てる。

2 指導教員は，学生主事の推薦に基づき校長が任命し，その任期は1年とする。

3 指導教員は，学生主事の総括のもとに部及び同好会の活動について指導と助言を与える。

(舎監)

第13条 学則第60条に基づき，本校の学寮に舎監を置く。

2 舎監の当直勤務は，寮務主事の定める割り振りに基づき，専任教員について校長が命ずる。

3 舎監は，寮務主事の総括のもとに寮生の共同生活の指導に当る。

(図書館及びその長)

第14条 本校に図書館を置く。図書館の運営その他必要な事項は，別に定める。

2 図書館に館長を置き，教授又は准教授をもって充てる。

3 館長は，校長が任命し，任期は2年とする。

4 館長は，図書館の管理運営に関することを総括する。

(ネットワーク情報センター及びその長)

第15条 本校にネットワーク情報センターを置く。ネットワーク情報センターの運営その他必要な事項は，別に定める。

2 ネットワーク情報センターにセンター長及び副センター長を置く。センター長は，教授又は准教授をもって充て，副センター長は，教授，准教授，専任講師又は助教をもって充てる。

3 センター長及び副センター長は，校長が任命し，任期は2年とする。

4 センター長は，ネットワーク情報センターの管理運営に関することを総括し，副センター長は，センター長を補佐する。

(地域共同テクノセンター及びその長)

第16条 本校に地域共同テクノセンターを置く。地域共同テクノセンターの運営その他必要な事

項は、別に定める。

- 2 地域共同テクノセンターにセンター長及び副センター長を置く。センター長は、教授又は准教授をもって充て、副センター長は、教授、准教授、専任講師又は助教をもって充てる。
- 3 センター長及び副センター長は、校長が任命し、任期は2年とする。
- 4 センター長は、地域共同テクノセンターの管理運営に関することを総括し、副センター長は、センター長を補佐する。

(実習工場及びその長)

第17条 本校に実習工場を置く。実習工場の運営その他必要な事項は、別に定める。

- 2 実習工場に工場長を置き、機械工学科に属する教授又は准教授をもって充てる。
- 3 工場長は、機械工学科主任の推薦に基づき校長が任命し、任期は2年とする。
- 4 工場長は、機械工学科主任の指導の下に、実習工場の管理運営に関することを総括する。

(広報委員会)

第18条 本校の広報誌その他の広報資料の作成について企画及び編集を行うため、本校に広報委員会を置く。

- 2 この委員会の運営その他必要な事項については、別に定める。

(ファカルティ・ディベロップメント推進委員会)

第19条 本校の教育全般に対し、質の保証と向上を図る施策を審議し執行するため、本校にファカルティ・ディベロップメント推進委員会を置く。

- 2 この委員会の運営その他必要な事項については、別に定める。

(点検・評価委員会)

第20条 本校の教育研究水準の向上を図ることを目的として、教育研究活動等の状況について点検・評価等を行うため、本校に点検・評価委員会を置く。

- 2 この委員会の運営その他必要な事項については、別に定める。

(中期計画推進委員会)

第21条 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標・中期計画に基づく本校の中期計画を策定し執行するため、本校に中期計画推進委員会を置く。

- 2 この委員会の運営その他必要な事項については、別に定める。

第3章 審議機関

(教員会議)

第22条 本校の運営に関する重要事項であって学生の教育にかかわるものについて審議し、教員の教育研究活動に必要な情報について連絡し、及び本校における校務の執行について総括的に評価するため、本校に教員会議を置く。

- 2 校長は、次の各号に掲げる事項を決定しようとする場合には、あらかじめ教員会議に諮問するものとする。

- (1) 入学者の選考基準
- (2) 学業成績の評価基準
- (3) 学生の賞罰基準
- (4) 学生に対する教育指導方針

(5) 学校の運営に関する基本的な規則等の制定又は改廃

- 3 この会議は、**校長及び専任教員**をもって構成し、議長は、校長、副校長以外の教員の互選によって定める。
- 4 この規則で定めるものの外、教員会議の招集、運営その他必要な事項は、教員会議が定める。
- 5 この会議の事務は、総務課において処理する。

(運営調整会議)

第22条の2 本校の学校運営に関する連絡調整を行うため、運営調整会議を置く。

- 2 この会議の運営その他必要な事項は、別に定める。

(運営協議会)

第23条 本校の校務の執行に関する重要事項について合議決定するため、本校に運営協議会を置く。

- 2 前項の重要事項のうち、学生の教育にかかわるものであって、あらかじめ教員会議の議を経ることが適当であると運営協議会が認めたものについては、案を付してこれを校長が教員会議に諮問するものとする。
- 3 運営協議会は、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、地域共同テクノセンター長、特定の業務を担当する副校長、事務部長、各学科主任及び各学系主任をもって構成し、校長が主宰する。
- 4 運営協議会の運営に関する必要な事項は、別に定める。
- 5 運営協議会の事務は、総務課において処理する。

(入学者選考会議)

第24条 第22条第2項第1号に基づき、入学者の選考について合議決定するため、本校に入学者選考会議を置く。

- 2 この会議は、次に掲げる教職員をもって構成し、校長が主宰する。
 - (1) 校長
 - (2) 教務主事、学生主事、寮務主事及び教務主事補
 - (3) 専攻科長（専攻科生の場合に限る。）
 - (4) 各学科・学系主任及び各専攻主任（専攻科生の場合に限る。）
 - (5) 入試委員会委員
 - (6) 面接担当教員
 - (7) 適性検査担当教員（推薦入学者の選抜の場合に限る。）
 - (8) 問題作成委員（専攻科生、編入学生の場合に限る）

3 前項の構成員以外の専任教員も会議に出席し、発言を求められることができる。

- 4 この会議の事務は、学生課において処理する。

(成績審査会議)

第25条 第22条第2項第2号に基づき、学生の各学年の課程修了及び卒業の認定について合議決定するため、本校に成績審査会議を置く。

- 2 この会議は、校長及び専任教員（助手を除く。）をもって構成し、校長が主宰する。
- 3 前項の構成員以外の者を会議に出席させ、発言を求められることができる。

4 この会議の事務は、学生課において処理する。

(賞罰審査会議)

第26条 第22条第2項第3号に基づき、学生の表彰又は懲戒について合議決定するため、本校に賞罰審査会議を置く。

2 この会議は、次に掲げる教職員をもって構成し、校長が主宰する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事、学生主事、寮務主事（寮生の場合に限る。）及び学生主事補
- (3) 専攻科長（専攻科生の場合に限る。）
- (4) 当該学科主任及び当該専攻主任
- (5) 当該学級担任

3 この会議の表彰の審査については、校長は必要に応じて表彰候補者の推薦者を会議に出席させることができる。

4 この会議の事務は、学生課において処理する。

(人事諮問会議)

第27条 校長の諮問に応じて、教員の人事に関する事項（個別的な案件を除く。）について校長に助言するため、本校に人事諮問会議を置く。

2 この会議は、専任教員の互選により選出された3名の委員と校長をもって構成し、校長が主宰する。

3 委員の任期は、1年とする。

4 委員は、この会議の審議事項について、秘密を守る義務を負うものとする。

(委員会)

第28条 本校に運営協議会の諮問に応じて答申し、これに建議するため、本校に次に掲げる委員会を置く。

- (1) 入試委員会
- (2) 教務委員会
- (3) 学生委員会
- (4) 寮務委員会
- (5) 専攻科委員会
- (6) 将来構想検討委員会
- (7) 総合情報メディア委員会
- (8) 国際交流委員会

2 前項に定める委員会の外、必要に応じ、委員会を置くことができる。

3 各委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(主任会議)

第29条 各学科主任及び学系主任が、担当事項について連絡協議するため、本校に主任会議を置く。

2 この会議に議長を置き、構成員の互選によって定める。

3 この会議の運営その他必要事項については、主任会議が定める。

4 この会議の事務は、総務課において処理する。

(学級担任会議)

第30条 各学級担任が、担当事項について連絡協議するため、本校に学級担任会議を置く。

- 2 この会議に議長を置き、構成員の互選によって定める。
- 3 この会議の運営その他必要事項については、学級担任会議が定める。
- 4 この会議の事務は、学生課において処理する。

(学科会議及び学系会議)

第31条 学科主任及び学系主任の所掌する校務に関して連絡協議するため、各学科及び学系に、それぞれ学科会議又は学系会議を置く。

- 2 これらの会議は、当該学科又は学系に属する専任教員又は関係職員をもって構成し、当該学科主任又は学系主任が主宰する。

(調査研究会)

第32条 運営協議会の諮問に応じて、特定課題について調査研究を行い、これに報告書を提出するため、調査研究会を置く。

- 2 調査研究会の委員は、教職員の申出に基づき校長が任命する。
- 3 各課題ごとの調査研究会の存続期間と委員の任期は、その都度定める。
- 4 調査研究会の代表者は、委員の互選によって定める。
- 5 調査研究会の事務は、その都度指定する事務部の部局で処理する。

(雑則)

第33条 この規則に定めるものの外、この規則の実施に必要な事項は、別に定める。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和56年4月1日規則第1号)

木更津工業高等専門学校運営調整会議規則

平成24年2月20日

規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第22条の2の規定に基づき、運営調整会議（以下「会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 学校運営に関すること。
- (2) 運営協議会に付議する議題等に関すること。
- (3) その他管理運営に関すること。

(組織)

第3条 会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長
- (3) 事務部長
- (4) 各課長

(会議)

第4条 会議は、毎週火曜日を定例とし、校長が招集し、主宰する。

(事務)

第5条 会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成24年2月20日規則第13号)

木更津工業高等専門運営協議会の運営に関する内規

昭和56年4月16日

細則第3号

- 1 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第23条第4項に基づき、運営協議会の運営に関する必要な事項について定める。
- 2 運営協議会は、毎月第1、第3木曜日を定例とする。ただし、必要のある場合は、臨時に開催することができる。
- 3 校長に事故あるときは、教務主事が校長の代理となって主宰する。
(2) 主事、専攻科長、地域共同テクノセンター長又は主任に事故あるときは、それぞれの主事補、副専攻科長、副センター長又はそれぞれの学科・学系の専任教員（助手を除く。）のうちから代理に出席させることができる。
- 4 議案の提出は、校長が行う。
(2) 主事、専攻科長、地域共同テクノセンター長、特定の業務を担当する副校長又は主任がそれぞれの所掌事項で議案の提出を必要とする場合は、あらかじめ校長に申し出るものとする。
(3) 図書館長、ネットワーク情報センター長、実習工場長及び学生相談室長がそれぞれの所掌事項で議案の提出を必要とする場合は、あらかじめ校長に申し出るものとする。
- 5 校長は、必要ある場合は、構成員以外の者を会議に出席させることができる。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和56年4月16日細則第3号)

資料11-1-①-5

木更津工業高等専門学校教員会議の運営に関する内規

昭和56年4月9日

細則第2号

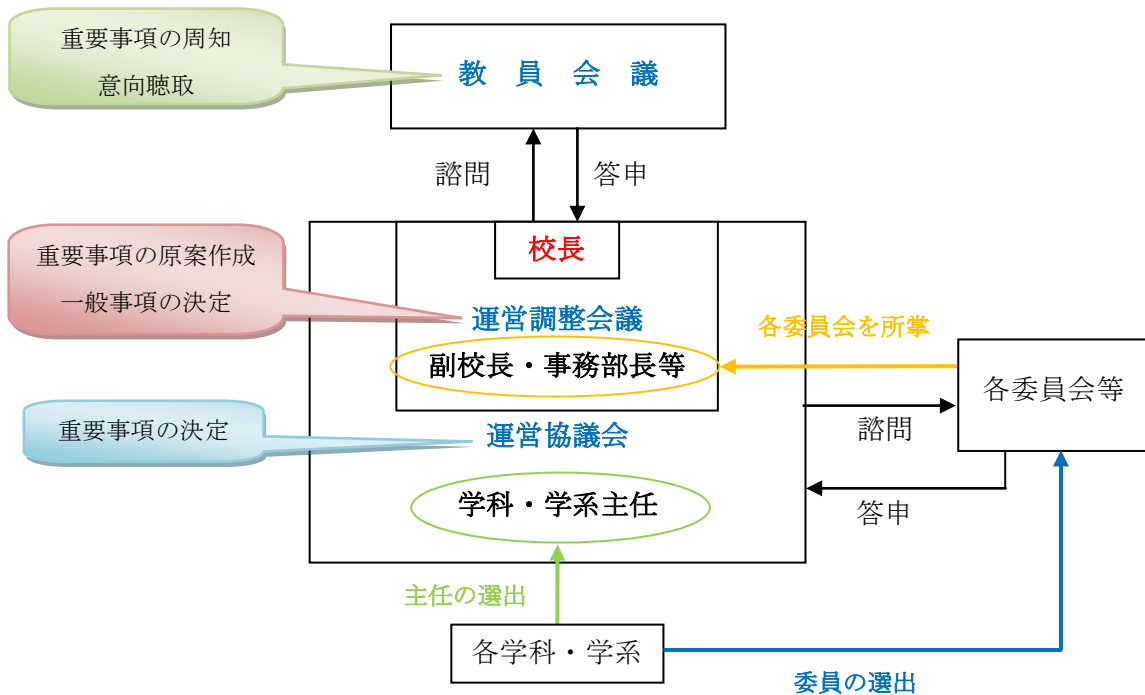
- 1 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（以下「規則」という。）第22条第4項に基づき、教員会議の運営に関する必要な事項について定める。
- 2 教員会議は、毎月第2木曜日を定例とし、校長が招集する。ただし、必要のある場合は、臨時に開催することができる。
- 3 議長は、議案の整理及び会議の進行と運営を行う。
 - (2) 教員会議に副議長を置く。副議長は、議長の職務を助け、議長に事故あるときは、副議長がその職務を行う。副議長は、校長、副校長及び議長以外の構成員の互選によって定める。
 - (3) 議長及び副議長の任期は1年とし再任を妨げない。
- 4 教員会議の審議事項に関する議案は、規則に定めるもののほか、3名以上の専任教員が連帯して提案する議案とする。
 - (2) 前項の専任教員の提案する議案は、教員会議開催日の3日前までに案を附して総務課に提出するものとする。
- 5 事務部の事務部長及び課長は、教員会議に常時出席し、議長の許可を得て意見を述べることができる。
 - (2) 教員会議は、議長が特に指定した場合以外は、本校の全ての教職員に公開されるものとする。

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和56年4月9日細則第2号）

主な審議機関の役割と意思決定のプロセス

審議機関	構成員	審議事項	関連規則
運営調整会議 (原則毎週1回)	・校長 ・副校長 ・事務部長 ・各課長(総務課長, 学生課長)	・学校運営に関すること ・運営協議会に付議する議題等に関すること ・その他管理運営に関すること	・木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第22条の2 ・木更津工業高等専門学校運営調整会議規則
運営協議会 (原則毎月2回)	・校長 ・副校長 ・事務部長 ・各学科学系主任	本校の校務の執行に関する重要事項	・木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第23 ・木更津工業高等専門学校運営協議会の運営に関する内規
教員会議 (原則毎月1回)	・校長 ・専任教員	本校の運営に関する重要事項であって学生の教育にかかわるもの	・木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第22 ・木更津工業高等専門学校教員会議の運営に関する内規

※副校長:教務主事, 学生主事, 寮務主事, 専攻科長, 地域共同テクノセンター長, その他特定の業務を担当する者



(出典 点検・評価委員会資料)

木更津工業高等専門学校の副校長及び事務部長が所掌する委員会規則

平成 24 年 2 月 20 日

規 則 第 14 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第 5 条の 2 第 4 項及び第 8 条の第 3 項の規定に基づき、副校長及び事務部長（以下「副校長等」という。）が所掌する委員会（以下「所掌」という。）を定める。

(教務主事の所掌)

第 2 条 **副校長（教務主事）**は、次の委員会を所掌する。

- (1) 入試委員会
- (2) 教務委員会
- (3) 総合情報メディア委員会
- (4) FD 推進委員会
- (5) 教育研究支援センター運営委員会
- (6) 図書館運営部会
- (7) ネットワーク情報センター運営部会
- (8) 中期計画推進委員会

(学生主事の所掌)

第 3 条 **副校長（学生主事）**は、次の委員会を所掌する。

- (1) 学生委員会
- (2) 安全衛生委員会
- (3) 学生相談室委員会

(寮務主事の所掌)

第 4 条 **副校長（寮務主事）**は、次の委員会を所掌する。

- (1) 寮務委員会

(専攻科長の所掌)

第 5 条 **副校長（専攻科長）**は、次の委員会を所掌する。

- (1) 専攻科委員会
- (2) 点検・評価委員会
- (3) 国際交流委員会

(地域共同テクノセンター長の所掌)

第 6 条 **副校長（地域共同テクノセンター長）**は、次の委員会を所掌する。

- (1) 地域共同テクノセンター運営委員会
- (2) 知的財産委員会
- (3) 実習工場運営委員会

(事務部長の所掌)

第 7 条 **事務部長**は、次の委員会を所掌する。

- (1) 施設整備専門委員会
- (2) 広報委員会
- (3) 環境専門委員会

(委員会への出席)

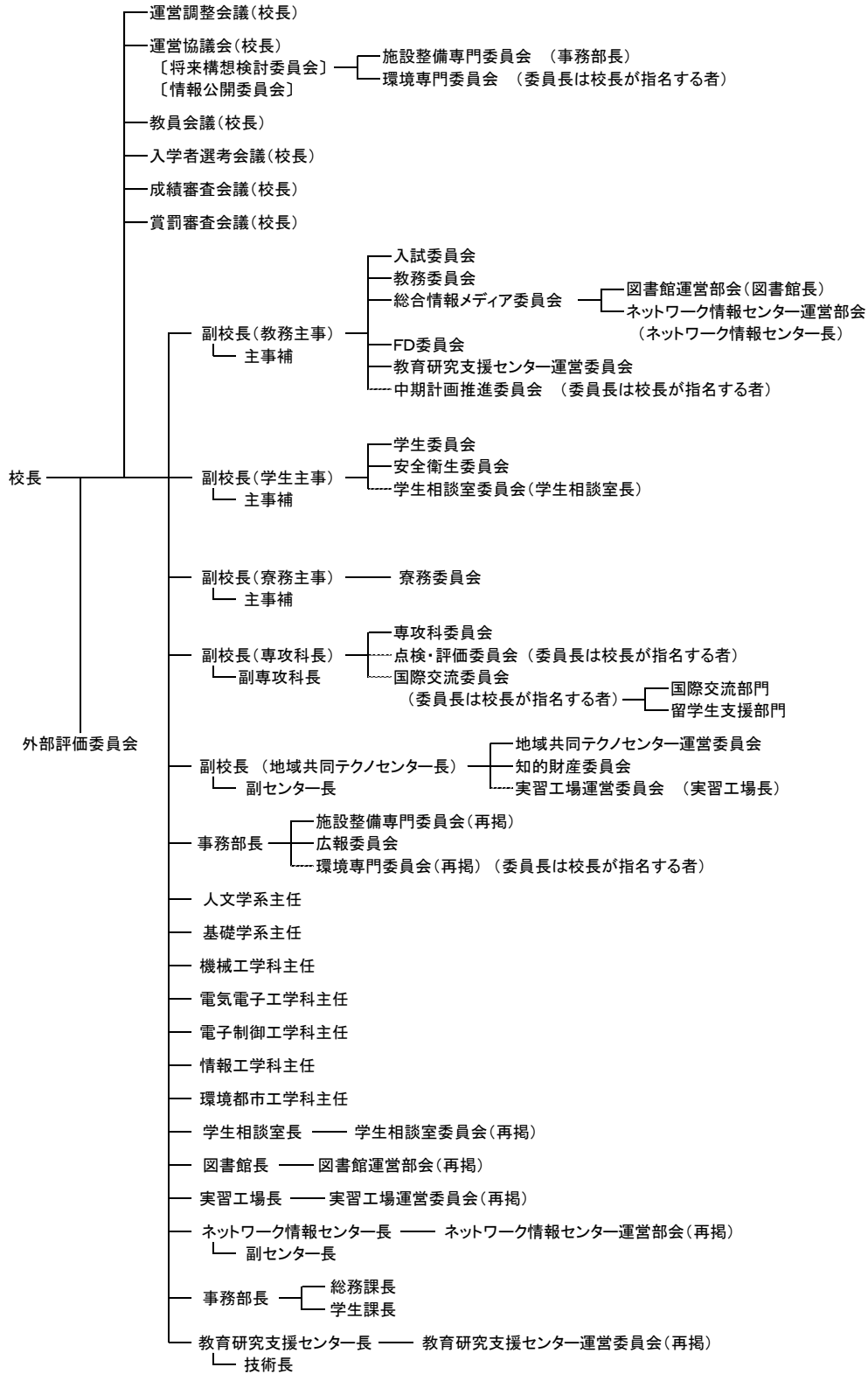
第 8 条 副校長等は、所掌している委員会に出席し、委員会を掌理するものとする。

(雑則)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、委員会所掌に関し、必要な事項は、校長が別に定める。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成 24 年 2 月 20 日規則第 14 号)

委員会等組織図



(出典 平成25年1月31日平成24年度第18回運営協議会資料)

資料11-1-①-9

学科・学系主任に対する校長ヒアリングの実施

平成24年11月22日

各学科・学系主任 各位

総務課長

校長と学科・学系主任とのヒアリングについて

このことについて、下記のとおり時間を設定しましたのでお知らせいたします。
なお、ご都合が悪くなった場合はご連絡願います。

記

1. 期日

(1) 12月17日(月)

10:00～ 人文学系主任(小澤教授)

11:00～ 基礎学系主任(福地教授)

11:30～ 電気電子工学科(上原教授)

(2) 12月19日(水)

10:30～ 電子制御工学科主任(鈴木教授)

11:00～ 機械工学科主任(高橋教授)

14:30～ 環境都市工学科主任(石川教授)

15:00～ 情報工学科主任(栗本教授)

2. 場所

校長室

3. その他

ヒアリング開始時間の5分前までに応接室に集合ください。

(出典 総務課資料)

年度計画に係る校長ヒアリング

平成25年度計画に係る校長ヒアリングについて

1. 期 日 平成25年4月11日（木）及び4月16日（火）《予備日4月18日（木）》
2. 場 所 会議室B
3. 出席者 副校長，関係委員長，事務部長，中期計画推進委員長
4. 陪席者 総務課長，学生課長，3補佐，総務係長
5. 日程
 - ①4月11日（木）（教務主事・学生主事・寮務主事・地域共同テクノセンター長・専攻科長・事務部長所掌委員会）
 - 10：00～ 教務主事（入試・教務・総合情報メディア・FD委員会）
 - 10：20～ 図書館長（図書館運営部会）
 - 10：30～ ネットワーク情報センター長（ネットワーク情報センター運営部会）
 - 10：40～ 学生主事（学生・安全衛生委員会）
 - 11：00～ 学生相談室長（学生相談室委員会）
 - 11：10～ 寮務主事（寮務委員会）
 - 11：20～ 地域共同テクノセンター長（テクノセンター運営・知的財産委員会）
 - 11：30～ 専攻科長（専攻科委員会）
 - 11：40～ 点検・評価委員長（点検・評価委員会）
 - ②4月16日（火）（専攻科長・事務部長所掌委員会）
 - 10：15～ 国際交流委員長（国際交流委員会）
 - 10：25～ 事務部長（広報委員会，施設設備専門委員会）
 - 10：35～ 環境専門委員長（環境専門委員会）
 - ③4月18日（木）《予備日》

（出典 総務課資料）

資料11-1-①-11

教員個人に対する校長ヒアリングの実施

平成 24 年 6 月 1 日

各学科・学系主任 殿

総務課長

校長と教員個人とのヒアリングについて（依頼）

このことについて、各教員から提出いただいた研究業績等を基に、各教員とのヒアリングを下記の日程で行いますので、所属学科（学系）教員のヒアリング希望時間を調整し、メールにて6月8日（金）までに総務課補佐までご連絡願います。後日調整のうえ連絡いたします。なお、教員室・実験室での面接を希望される場合方は、その旨記載ください。

記

1. 期日

- | | |
|----------|-------------------|
| ①人文学系 | 6月19日（火）～6月21日（木） |
| ②基礎学系 | 6月22日（金）～6月26日（火） |
| ③機械工学科 | 6月27日（水）～6月29日（金） |
| ④電気電子工学科 | 7月2日（月）～7月4日（水） |
| ⑤電子制御工学科 | 7月5日（木）～7月9日（月） |
| ⑥情報工学科 | 7月10日（火）～7月12日（木） |
| ⑦環境都市工学科 | 7月13日（金）～7月18日（水） |

2. ヒアリング開始時間，終了時間等

10：00～12：00，13：30～16：30

3. ヒアリング時間

1人15分程度

4. 1日の人数

4人程度

（出典 総務課資料）

資料11-1-①-12

校長裁量経費

平成 24 年 5 月 11 日

各学科・学系主任

技術教育支援センター長 殿

将来構想検討委員会

委員長 工 藤 敏 夫

平成 24 年度校長裁量経費事業計画書の提出について

平成 24 年 5 月 10 日に開催された運営協議会で承認されましたこのことについて、以下の日時までにご提出願います。

なお不明な方は予算管理係(4023)までお問い合わせください。

記

提出期限 5月25日(金)15:00 メールにて

提出書類 別紙「校長裁量経費事業計画書」

提出先 予算管理係

(応募経費)

	区 分	目 的	申請方式	予算額	選考委員会等
B	教育改善等推進経費 (B-1) 一般教育の推進	人文・基礎学系の一般 特別研究などを支援	申請型	総額：100万円	教務委員会及び FD 委員会
	(B-2) 教育研究支援センター の技術教育推進	技術教育を支援	申請型	総額：100万円	
C	重点研究推進経費 (C-1) 新任教員研究支援	教授を除く新任教員 着任後2年間	公募型 個人申請	総額：200万円 上限50万円/1人	副校長 (研究担当)
	(C-2) 萌芽・挑戦的研究の 支援	萌芽研究の発掘及び 挑戦的研究の推進	公募型 (条件付：科研 費等の申請者 に限る)	総額：350万円 上限7件	

※区分 A(中期計画及び地域連携推進経費)、B-3(教育設備の充実)、D(教育研究推進経費)に関しては、予算留保措置により、本年度は募集しない。

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学校の目的を達成するための諸規則が整備されており、校長、各主事、委員会等の役割が明確に定められている。管理運営に関する事項の審議手続きも規則で決められており、全ての委員会を副校長等が所掌し、校長に迅速且つ的確に情報が集約できる仕組みとなっている。さらに校長が各学科・学系主任及び全教員に対して定期的に面談を実施し、的確に組織の運営状況及び教員の教育研究活動を把握することで、組織を掌握していることから、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢が整っていると判断できる。

観点11-1-②： 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

本校の管理運営に関しては、「学則」をはじめとする関係諸規則によって詳細に定められ、規則集としてまとめられている(目次を資料11-1-②-1に示し、全文は現地閲覧資料20とする)。管理運営上必要な委員会は、「組織運営規則」(資料11-1-①-2)で定められ、その業務内容については規則集第2章組織運営の各委員会規則で定められている。例として点検評価委員会規則を示す(資料11-1-②-2)。また、主事、主事補、センター長、主任、学級担任、委員会委員等の役職は、年度ごとに全教職員による最適な分担を行い、前年度の1月上旬頃にはほとんど決定し、観点11-1-①で述べた通り、校長のリーダーシップの下に効率的な運営を行っている(資料11-1-②-3)。

事務組織については、事務部長のもと総務課・学生課の2課体制で業務に当たっており(資料11-1-②-4)、各課の組織構成及び所掌事務については「木更津工業高等専門学校事務組織規程」(資料11-1-②-5)及び「木更津工業高等専門学校事務分掌細則(資料11-1-②-6)」において詳細に定められている。これらの運営状況については、機構監事監査・内部監査により、支障無く機能的に活動していることが確認されている(平成23年度機構監事監査・内部監査関係資料を現地閲覧資料21とする)。

本校において発生しうる様々な事象に伴う危機に、迅速かつ的確に対処するため、木更津工業高等専門学校危機管理規程(資料11-1-②-7)において、本校における危機管理体制及び対処方法等を定めている。本規程の下、校長、副校長、各学科・学系主任、事務部長、総務課長及び学生課長等で構成されるリスク管理室を設置し、普段から緊急災害マニュアル(目次を資料11-1-②-8に示し、本文は現地閲覧資料22とする)の整備、防災訓練(資料11-1-②-9)及び普通救命講習会(資料11-1-②-10)等の実施、災害時備蓄品の管理(資料11-1-②-11)、緊急時の情報伝達体制の整備(資料11-1-②-12)等を統括し、危機管理体制の充実に努めている。

また、多くの学生が生活している学寮では、災害発生時の教職員及び学生それぞれの役割を示した学寮避難マニュアル(資料11-1-②-13)を整備し、定期的に避難訓練(資料11-1-②-11)を実施している。

木更津工業高等専門学校規則集（目次）

第1章 学則

- 木更津工業高等専門学校学則（昭和43年6月1日）
 - 別表1 一般科目教育課程表
 - 別表2 専門科目教育課程表（機械工学科）
 - 別表2 専門科目教育課程表（電気電子工学科）
 - 別表2 専門科目教育課程表（電子制御工学科）
 - 別表2 専門科目教育課程表（情報工学科）
 - 別表2 専門科目教育課程表（環境都市工学科）
 - 別表3 特別活動
 - 別表4 専攻科教育課程表（機械電子工学専攻）
 - 別表4 専攻科教育課程表（制御情報工学専攻）
 - 別表4 専攻科教育課程表（環境都市工学専攻）

第2章 組織運営

- 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校運営調整会議規則（平成24年2月20日）
- 木更津工業高等専門学校の副校長及び事務部長が所掌する委員会規則（平成24年2月20日）
- 木更津工業高等専門学校教員会議の運営に関する内規（昭和56年4月9日）
- 木更津工業高等専門学校運営協議会の運営に関する内規（昭和56年4月16日）
- 木更津工業高等専門学校点検評価委員会規則（平成22年12月20日）
- 木更津工業高等専門学校教育研究支援センター規則H20年10月1日）
- 木更津工業高等専門学校入試委員会規則（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校教務委員会規則（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校学生委員会規則（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校寮務委員会規則（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校専攻科委員会規則（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校将来構想検討委員会規則（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校施設整備専門委員会規程（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校総合情報メディア委員会規則（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校国際交流委員会規則（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校広報委員会規則（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校情報公開委員会規程（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校ファカルティデベロップメント推進委員会規則（平成15年6月12日）
- 木更津工業高等専門学校安全衛生委員会規則（平成16年4月15日）
- 木更津工業高等専門学校中期計画推進委員会規則（平成16年6月10日）

- 木更津工業高等専門学校事務組織規程（平成19年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校事務分掌細則（平成19年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校Webページの管理及び運用に関する規則（平成19年9月20日）
- 木更津工業高等専門学校環境専門委員会規則（平成20年2月7日）
- 木更津工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程（平成23年3月28日）
- 木更津工業高等専門学校情報セキュリティ推進規程（平成23年3月28日）
- 木更津工業高等専門学校情報セキュリティ教職員規程（平成23年3月28日）
- 木更津工業高等専門学校情報セキュリティ利用者規程（平成24年1月1日）
- 木更津工業高等専門学校危機管理規程（平成23年5月26日）

第3章総務（総務人事）

- 木更津工業高等専門学校学則等の制定に関する規程（昭和44年11月7日）
- 木更津工業高等専門学校文書処理規程（昭和44年11月20日）
- 木更津工業高等専門学校教員の採用候補者及び昇任候補者選考に関する内規（昭和57年10月28日）
- 木更津工業高等専門学校教員の昇任選考基準（平成24年4月5日）
- 木更津工業高等専門学校名誉教授称号授与規程（昭和49年3月9日）
- 木更津工業高等専門学校名誉教授称号授与細則（昭和60年2月21日）
- 木更津工業高等専門学校宿日直勤務規程（昭和60年3月1日）
- 木更津工業高等専門学校学寮宿日直者服務要領（昭和60年3月1日）
- 木更津工業高等専門学校外国人受託研修員規程（昭和60年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校知的財産権取扱規則（平成22年7月27日）
- 木更津工業高等専門学校文書決裁規程（昭和61年10月1日）
- 木更津工業高等専門学校財形貯蓄等関係事務取扱要領（昭和63年6月1日）
- 木更津工業高等専門学校公印規程（平成元年7月1日）
- 木更津工業高等専門学校非常勤講師の任用に関する内規（平成5年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校における技術専門員及び技術専門職員に関する規程（平成10年1月28日）
- 木更津工業高等専門学校における技術専門員及び技術専門職員選考基準（平成10年1月28日）
- 木更津工業高等専門学校ハラスメントに関する苦情相談等実施要領（平成12年2月8日）
- 木更津工業高等専門学校文書管理規程（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校情報公開取扱要項（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校教職員の休日）及び労働時間の割振り等に関する規程（平成16年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校教職員安全衛生管理規則（平成16年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校教職員顕彰規則（平成16年12月2日）
- 木更津工業高等専門学校個人情報管理規則（平成20年2月7日）
- 木更津工業高等専門学校防犯カメラ運用内規（平成21年5月27日）
- 木更津工業高等専門学校旅費取扱要領（平成21年6月18日）

- 木更津工業高等専門学校寄附金取扱規程（昭和56年10月1日）
- 木更津工業高等専門学校保有個人情報の開示等に関する取扱要項（平成23年2月3日）
- 木更津工業高等専門学校学外者表彰規則（平成24年2月16日）

第4章総務（財務）

- 木更津工業高等専門学校宿舍使用規程（昭和43年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校不動産事務取扱規程（昭和46年12月27日）
- 木更津工業高等専門学校校舎等管理規程（昭和47年2月7日）
- 木更津工業高等専門学校受託研究取扱規程（昭和47年3月31日）
- 木更津工業高等専門学校教職員に対する給与の口座振込実施要領（昭和57年12月8日）
- 木更津工業高等専門学校教職員駐車場使用規程（昭和58年9月9日）
- 木更津工業高等専門学校における民間等との共同研究取扱規程（昭和61年3月15日）
- 木更津工業高等専門学校防災規程（昭和63年12月15日）
- 木更津工業高等専門学校会計監査実施規程（平成8年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校教育研究施設の有効活用に関する規程（平成14年1月23日）
- 木更津工業高等専門学校授業料の納付を怠る者に係る取扱要領（平成14年3月7日）
- 木更津工業高等専門学校授業料等徴収事務取扱要領（平成14年3月7日）
- 木更津工業高等専門学校非常勤講師来校旅費支給取扱要領（平成14年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校飲料水の安全管理に関する実施要領（平成15年8月19日）
- 木更津工業高等専門学校取引金融機関選定委員会規程（平成15年12月1日）
- 木更津工業高等専門学校建設コンサルタント選定委員会規則（平成18年11月9日）
- 木更津工業高等専門学校競争参加資格等審査委員会規則（平成18年11月9日）
- 木更津工業高等専門学校公正入札調査委員会規則（平成18年11月9日）
- 木更津工業高等専門学校電子入札システム官職規則（平成20年7月24日）
- 木更津工業高等専門学校における文部科学省電子入札システム運用規則（平成20年7月24日）
- 木更津工業高等専門学校契約事務取扱規則（平成19年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校物品購入等契約に係る公正入札調査委員会規則（平成19年6月13日）
- 木更津工業高等専門学校総合評価審査委員会規則（平成19年6月15日）
- 木更津工業高等専門学校受託試験取扱規則（平成19年7月25日）
- 木更津工業高等専門学校会計機関の事務の一部委任に関する細則（平成23年10月31日）
- 木更津工業高等専門学校会計機関の補助者等の指定に関する細則（平成23年10月31日）

第5章教務学生

- 木更津工業高等専門学校授業料免除徴収猶予及び寄宿料免除に関する規程
（昭和42年10月19日）
- 木更津工業高等専門学校学生準則（昭和42年11月2日）
- 木更津工業高等専門学校学生の身分の取り扱いに関する規程（昭和45年3月4日）
- 木更津工業高等専門学校学生服装基準（昭和45年3月25日）
- 木更津工業高等専門学校職業紹介業務運営規程（昭和45年10月7日）

- 木更津工業高等専門学校学友会運動部器具庫の使用心得（昭和47年6月15日）
- 木更津工業高等専門学校入学料の免除及び徴収猶予に関する規程（昭和51年1月23日）
- 木更津工業高等専門学校合宿規程（昭和53年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校合宿研修施設使用要領（昭和53年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校学友会部同好会技術指導員要領（昭和56年9月17日）
- 木更津工業高等専門学校学友会館使用規程（昭和57年3月6日）
- 木更津工業高等専門学校職業紹介業務取扱要領（昭和57年3月12日）
- 木更津工業高等専門学校外国人留学生特例規程（昭和58年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校身体障害学生の教育課程に関する特例規程（昭和58年6月17日）
- 木更津工業高等専門学校学生心得（昭和59年4月20日）
- 木更津工業高等専門学校学業成績審査規程（昭和59年5月8日）
- 木更津工業高等専門学校教務事務処理要領（昭和60年2月21日）
- 木更津工業高等専門学校学業成績審査内規（昭和60年3月26日）
- 木更津工業高等専門学校学生車両等通学規程（昭和60年4月23日）
- 木更津工業高等専門学校車両通学生組織に関する要項（昭和60年4月23日）
- 木更津工業高等専門学校研究生規程（昭和61年2月20日）
- 木更津工業高等専門学校学生相談室規程（昭和61年2月20日）
- 木更津工業高等専門学校転科に関する内規（昭和62年1月22日）
- 木更津工業高等専門学校学生の表彰に関する内規（平成元年3月9日）
- 木更津工業高等専門学校留学規程（平成元年9月14日）
- 木更津工業高等専門学校科目等履修生規程（平成4年1月23日）
- 木更津工業高等専門学校特別学修に関する規則（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校専攻科授業科目の履修等に関する規程（平成13年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校入学者選抜規程（平成13年12月20日）
- 木更津工業高等専門学校入学者選考基準内規（平成13年12月20日）
- 木更津工業高等専門学校授業料免除選考基準（平成14年2月7日）
- 木更津工業高等専門学校プール使用内規（平成14年2月7日）
- 木更津工業高等専門学校プール使用心得（平成14年2月7日）
- 木更津工業高等専門学校入学料免除及び徴収猶予選考基準（平成15年3月18日）
- 木更津工業高等専門学校以外の教育施設における学修に関する規程（平成16年2月5日）
- 木更津工業高等専門学校「生産システム工学」教育プログラムの履修等に関する規則（平成19年1月18日）
- 木更津工業高等専門学校における学生の懲戒に関する内規（平成20年12月24日）

第6章図書館

- 木更津工業高等専門学校紀要規程（昭和43年1月18日）
- 木更津工業高等専門学校図書館運営規程（昭和56年4月30日）
- 木更津工業高等専門学校図書館運営細則（昭和56年4月30日）
- 木更津工業高等専門学校図書館運営部会規程（平成13年4月1日）

- 木更津工業高等専門学校紀要体裁及び編集要綱（平成16年3月18日）
- 木更津工業高等専門学校紀要執筆要綱（平成16年3月18日）
- 木更津工業高等専門学校図書館文献複写規則（平成16年11月15日）

第7章ネットワーク情報センター

- 木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営規程（平成3年1月24日）
- 木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター利用細則（平成5年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター機器室利用基準（平成5年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営部会規程（平成13年4月1日）

第8章地域共同テクノセンター

- 木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営規程（平成12年11月15日）
- 木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンター利用細則（平成13年11月5日）
- 木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンター利用心得（平成13年11月5日）
- 木更津工業高等専門学校電子顕微鏡室利用細則（平成16年4月1日）

第9章実習工場

- 木更津工業高等専門学校実習工場運営規程（平成13年4月1日）

第10章学寮

- 木更津工業高等専門学校学寮規程（昭和42年11月30日）
- 木更津工業高等専門学校舎監服務内規（昭和47年12月27日）
- 木更津工業高等専門学校学寮運営要項（昭和60年4月1日）
- 木更津工業高等専門学校学寮運営費管理取扱要領（平成23年7月22日）

第11章その他

- 懲戒処分の公表基準（平成15年4月1日校長裁定）
- 実力認定試験の申し合わせ（平成16年2月5日運営協議会申合せ）
- 入学者選抜に係る情報の開示について（平成18年1月18日校長裁定）
- 学生の表彰に関する申し合わせ（平成19年3月22日運営協議会申合せ）
- 木更津工業高等専門学校における競争的資金に係る間接経費の取扱いについて（平成19年6月21日校長裁定）
- 木更津工業高等専門学校における公用車等の使用に関する要項（平成19年3月1日校長裁定）
- 身体に特に重度の障害を持つ学生の支援に関する要項（平成19年9月20日校長裁定）
- 校舎等の一時使用に際する基本的取り決め（平成24年2月28日）

（出典 木更津工業高等専門学校規則集目次，現地閲覧資料20）

木更津工業高等専門学校点検・評価委員会規則

平成22年12月20日

規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年4月1日規則第1号）第20条第2項の規定に基づき、点検・評価委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。

- (1) 自己点検評価の基本方針並びに実施基準等に関すること。
- (2) JABEE認定及び認証評価を得るために必要となる施策に関すること。
- (3) JABEE認定審査及び認証評価申請のための手続きに関すること。
- (4) JABEE認定及び認証評価を継続するための施策に関すること。
- (5) 外部評価に関すること。
- (6) その他点検・評価等に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長が必要と認めた若干名
- (2) 総務課長
- (3) 学生課長

2 委員会の委員は、校長が委嘱する。

3 第1項第1号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 委員会に委員長を置き、委員の中から校長が指名する。

5 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

6 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

(専門委員会)

第4条 委員会に、特定の専門事項について調査及び検討させるため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し、必要な事項は、委員会が別に定める。

(自己点検・評価項目)

第5条 点検及び評価項目は、委員会の議を経て、校長が別に定める。

(学科等における点検及び評価)

第6条 学科等（各学科・学系，専攻科，各種委員会及び事務部をいう。以下同じ。）の主任，専攻科長又は委員長等は，委員会の諮問に応じ，当該学科等の所掌に属する項目に関し，点検・評価を行い，その結果を校長に報告するものとする。

(点検及び評価結果への対応)

第7条 校長は、委員会から報告された点検及び評価の結果に基づき、改善が必要と認められる事項について、その具体化に努めるものとする。

2 校長は、必要がある場合は、委員会又は学科等に改善策の検討を付託することができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、総務課並びに学生課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成22年12月20日規則第13号)

平成24年度学内役職員一覧

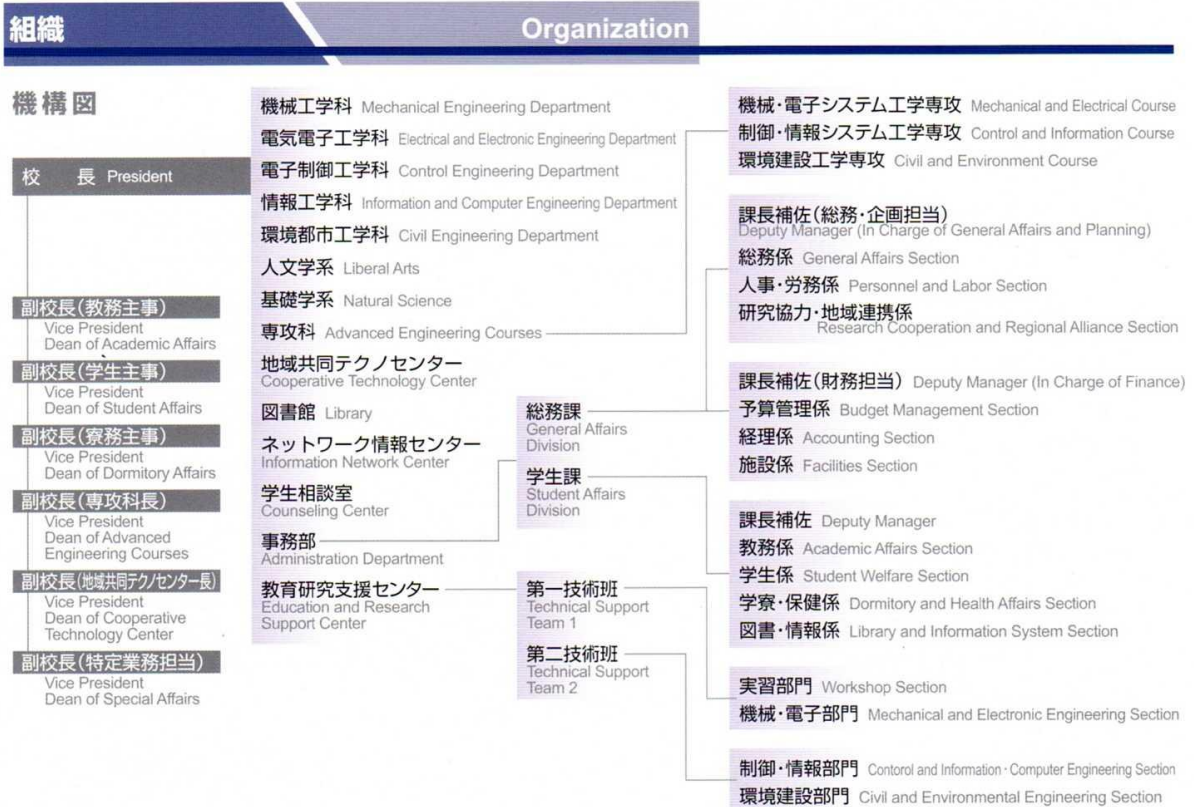
任期等 役職名	役 職 者							
	任期(平成23年4月～平成25年3月)	任期(平成24年4月～平成26年3月)						
副校長	荒木英彦・石川雅之	錦田正俊・佐藤恒明・石出忠輝						
主事	荒木英彦(学生)	錦田正俊(教務)・佐藤恒明(寮務)						
主事補	泉 源(教務)	嘉数祐子(教務)・大野貴信(教務)						
	加藤達彦(学生)・湯谷賢太郎(学生)	黄野銀介(学生)						
	阿部孝之(寮務)・白木厚司(寮務)	岩崎洋一(寮務)						
専攻科長	石川雅之(専攻科長:E)	石井建樹(副専攻科長:C)						
学科・学系主任	小澤健志(人)・福地健一(基)・栗本育三郎(J)	高橋秀雄(M)・上原正啓(E)・鈴木 聡(D)・石川雅朗(C)						
専攻主任		高橋秀雄(ME)・鈴木 聡(DJ)・石川雅朗(CC)						
教育研究支援センター長		錦田正俊(教務)						
図書館長	鎌田 勝(基)							
ネットワーク情報センター長	白井邦人(センター長:D)・丸山真佐夫(副センター長:J)	岩崎洋一(副センター長:人)・柏木康秀(副センター長:E)						
実習工場長	石出忠輝(M)							
学生相談室長		大澤 寛(相談室長:E)						
地域共同テックセンター長	和崎浩幸(副センター長:J)・大久保努(副センター長:C)	石出忠輝(センター長:M)・吉井文子(副センター長:基)						
学年主任	1年 山下 哲	2年 坂田洋満	3年 和崎浩幸	4年 鬼塚信弘	5年 石井孝一	専攻1年	専攻2年	任期: H24.4~ H25.3
	M1 清野哲也	M2 坂田洋満	M3 伊藤裕一	M4 小田 功	M5 丸岡邦明	ME1 上原正啓	ME2 高橋秀雄	
	E1 鈴木道治	E2 金子真隆	E3 柏木康秀	E4 大澤 寛	E5 石井孝一			
	D1 伊藤 操	D2 相川正美	D3 柴田育子	D4 坂元周作	D5 大橋太郎	DJ1 栗本育三郎	DJ2 鈴木 聡	
	J1 山下 哲	J2 鎌田 勝	J3 和崎浩幸	J4 米村恵一	J5 齋藤康之			
	C1 五十嵐謙介	C2 篠村朋樹	C3 上村繁樹	C4 鬼塚信弘	C5 青木優介	CC1 島崎彦人	CC2 石川雅朗	
留学生指導教員	小田(M)・丸岡(M)・柏木(E)・大澤(E)・岡本(D)・米村(J)・上村(C)・鬼塚(C)						(任期:H24.4~H25.3)	
セクハラ相談員	学生主事・学生相談室長・総務課長・愛甲(カウンセラー)・田村(看護師)・柴田・中根						(任期:H24.4~H26.3)	

任期等 役職名	委 員	
	役職指定	任期(平成23年4月～平成25年3月)
運営調整会議	◎校長・教務主事・学生主事・寮務主事・専攻科長・テックセンター長・事務部長・総務課長・学生課長	
入試委員会	◎教務主事・嘉数(補)・大野(補)・泉(補)	篠村(人)・岡本(E)・上村(C)
教務委員会	◎教務主事・嘉数(補)・大野(補)・泉(補)	坂田(人)・鬼塚(C)
学生会委員会	◎学生主事・学生相談室長・黄野(補)・加藤(補)・湯谷(補)	大橋(D)・齋藤(J)
寮務委員会	◎寮務主事・岩崎(補)・阿部(補)・白木(補)	山下(基)・柏木(E)・岡本(D)・大枝(J)
専攻科委員会	◎専攻科長・石井(副科長)・高橋(ME)・鈴木(DJ)・石川(CC)	関口(基)・栗本(J)
将来構想検討委員会	◎校長・教務主事・学生主事・寮務主事・専攻科長・テックセンター長・小澤(人)・福地(基)・高橋(M)・上原(E)・鈴木(D)・栗本(J)・石川(C)・事務部長・総務課長・学生課長	
総合情報アドバイザー委員会	◎教務主事・図書館長・ネットワークセンター長・学生課長	岩崎(人)・坂元(D)・鬼塚(C)
国際交流委員会	留学生指導教員・総務課長・学生課長	柴田(人)・武長(人)・瀬川(人)・黄野(M)・沢口(D)
施設整備専門委員会	◎事務部長・総務課長・学生課長	相川(基)・高橋(M)・石井(E)・鈴木(D)・東(J)・上村(C)
広報委員会	◎事務部長・総務課長・学生課長	嘉数(基)・吉崎(E)・入試委員
フカドテック・デベロップメント推進委員会	◎教務主事・大野(補)・学生課長	相川(基)・大澤(E)・齋藤(J)・青木(C)
点検・評価委員会	総務課長・学生課長	
中期計画推進委員会	総務課長	
情報公開委員会	◎校長・教務主事・学生主事・寮務主事・専攻科長・テックセンター長・小澤(人)・福地(基)・高橋(M)・上原(E)・鈴木(D)・栗本(J)・石川(C)・事務部長・総務課長・学生課長	
学生相談室委員会	◎学生相談室長・学生課長・カウンセラー・看護師	
地域共同テックセンター運営委員会	◎テックセンター長・吉井(テ副長)・和崎(テ副長)・大久保(テ副長)・総務課長	五十嵐(人)・小田(M)
実習工場運営委員会	◎実習工場長	石井(E)・伊藤(D)
教育研究支援センター運営委員会	◎教務主事(支長)・専攻科長・テックセンター長・小澤(人)・福地(基)・高橋(M)・上原(E)・鈴木(D)・栗本(J)・石川(C)・実習工場長・ネットワークセンター長・事務部長・技術長	
図書館運営部会	◎図書館長・学生課長	泉(D)・和田(J)
ネットワーク情報センター運営部会	◎ネットワークセンター長・丸山(ネ副長)・岩崎(ネ副長)・柏木(ネ副長)・学生課長	清水(人)・高谷(基)・丸岡(M)・吉崎(E)・石井(C)
環境専門委員会	総務課長・学生課長	高谷(基)・伊藤(M)・湯谷(C)
知的財産委員会	◎テックセンター長・吉井(テ副長)・和崎(テ副長)・大久保(テ副長)・総務課長	永井(総務課)・正木(学生課)・技術長
安全衛生委員会	◎校長(代理)・学生主事・清野(衛管)・総務課長(安管)・大日方(産医)	石井(E)・坂元(D)

◎は委員長、○は委員、◇は校長が必要と認めた者、(補)は主事補、(副科長)は副専攻科長、(テ副長)はテックセンター副センター長、(ネ副長)はネットワーク情報センター副センター長、(衛管)は衛生管理者、(安管)は安全管理者、(産医)は産業医、(支長)は教育研究支援センター長の略

(出典 平成24年度学内役職員一覧)

木更津工業高等専門学校組織図



(出典 木更津工業高等専門学校学校要覧 2012 4頁)

資料11-1-②-5

木更津工業高等専門学校事務組織規程

平成19年4月1日

規則第2号

(趣旨)

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校規則第1号）及び独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号）第9条並びに木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年規則第1号）第8条第1項の規定に基づき、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及びその所掌事務について定める。

(事務組織)

第2条 本校の事務部に総務課及び学生課並びに別に定めるところにより係その他これに準ずる組織を置く。

- 2 総務課及び学生課に課長を置く。
- 3 課長は、上司の命を受け、当該課の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 4 課に課長補佐を置く。
- 5 課長補佐は、上司の命を受け、課長を助け、課の事務を整理する。
- 6 係に係長を置く。
- 7 係長は、上司の命を受け、当該係の事務を処理する。

(総務課の所掌事務)

第3条 総務課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 本校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
- (2) 機密に関すること。
- (3) 儀式その他諸行事及び会議に関すること。
- (4) 学則その他諸規則等の制定及び改廃に関すること。
- (5) 自己点検・評価に関すること。
- (6) 国際交流に関すること。
- (7) 公文書類の接受、発送及び整理・保管に関すること。
- (8) 公印の作成、改刻、廃止及び保管に関すること。
- (9) 情報公開に関すること。
- (10) 個人情報保護に関すること。
- (11) 広報、渉外に関すること。
- (12) 構内警備に関すること。
- (13) 教職員の任免、分限、懲戒及び服務に関すること。
- (14) 教職員の給与に関すること。
- (15) 教職員の退職手当に関すること。
- (16) 所得税及び住民税等の徴収に関すること。

- (17) 教職員の研修及び勤務評定に関する事。
 - (18) 教職員の労働安全衛生に関する事。
 - (19) 教職員の福利厚生及び共済組合に関する事。
 - (20) 教職員の栄典、表彰に関する事。
 - (21) 人事記録に関する事。
 - (22) 労使協議に関する事。
 - (23) 研究協力に関する事。
 - (24) 地域連携に関する事。
 - (25) 公開講座等の生涯教育に関する事。
 - (26) 受託研究、共同研究、寄付金その他の外部資金の受付及び契約に関する事。
 - (27) 科学研究費補助金その他各種研究助成金の申請・報告等に関する事。
 - (28) 内地研究員及び在外研究員に関する事。
 - (29) 予算及び決算に関する事。
 - (30) 財務の監査に関する事。
 - (31) 財務機関の公印の管守に関する事。
 - (32) 支出決議及び契約に関する事。
 - (33) 収入・支払に関する事。
 - (34) 計算証明に関する事。
 - (35) 所得税等の徴収に関する事。
 - (36) 物品の調達・管理及び役務に関する事。
 - (37) 不動産の管理に関する事。
 - (38) 土地、建物の借入に関する事。
 - (39) 宿舍の管理及び入退去に関する事。
 - (40) 防火に関する事。
 - (41) 土地、建物及び工作物の維持保全に関する事。
 - (42) 学校環境の整備保全に関する事。
 - (43) その他財務及び営繕に関する事務を処理すること。
 - (44) 調査統計、その他諸報告に関する事。
 - (45) その他学生課の所掌に属さない事務を処理すること。
- (学生課の所掌事務)

第4条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関する事。
- (2) 学生の修学指導に関する事。
- (3) 教育課程の編成及び授業に関する事。
- (4) 学生の学業成績の整理に関する事。
- (5) 学生の学籍に関する事。
- (6) 学生募集等の広報に関する事。
- (7) 学生課に属する公印の管守に関する事。
- (8) 学生の課外活動に関する事。

- (9) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
- (10) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
- (11) 学生の旅客運賃割引証その他証明に関すること。
- (12) 学生の奨学金に関すること。
- (13) 学生の進路指導に関すること。
- (14) 外国人留学生に関すること。
- (15) 学生の賞罰に関すること。
- (16) 学生の入学料，授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関すること。
- (17) 学生寮の管理運営に関すること。
- (18) 寮生の入退寮に関すること。
- (19) 寮生の生活相談等に関すること。
- (20) 学生の健康管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (21) 学生のカウンセリングに関すること。
- (22) 事務の情報化推進及び情報管理に関すること。
- (23) ネットワーク情報センターの事務に関すること。
- (24) 図書の選定に関すること。
- (25) 図書館資料の受入れ，整理及び保管等に関すること。
- (26) 図書館資料の閲覧，貸出し等利用に関すること。
- (27) 図書館における参考奉仕（検索指導，読書相談等）に関すること。
- (28) その他学生課に関する事務を処理すること。

(細則)

第5条 この規程に定めるもののほか，課の組織及び事務分掌については，別に定める。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成19年4月1日規則第2号)

木更津工業高等専門学校事務分掌細則

平成19年4月1日

細則第2号

(趣旨)

第1条 この細則は、木更津工業高等専門学校事務組織規程（平成19年4月1日規則第2号）第5条の規定に基づき、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務部の課に置く課長補佐及び係の事務分掌等について定める。

(総務課)

第2条 総務課に課長を補佐し、その事務を分掌整理させるため、次の課長補佐を置く。

(1) 課長補佐（総務・企画担当）

(2) 課長補佐（財務担当）

2 総務・企画担当に次の3係を置く。

(1) 総務係

(2) 人事・労務係

(3) 研究協力・地域連携係

3 財務担当に次の3係を置く。

(1) 予算管理係

(2) 経理係

(3) 施設係

4 **総務係**においては、次の事務をつかさどる。

(1) 機密に関する事。

(2) 儀式その他諸行事及び会議に関する事。

(3) 高専の将来計画に関する事。

(4) 学則その他諸規則等の制定及び改廃に関する事。

(5) 自己点検・評価に関する事。

(6) 国際交流に関する事。

(7) 個人情報保護に関する事。

(8) 情報公開に関する事。

(9) 公文書類の接受、発送及び整理保管に関する事。

(10) 公印の制定、改刻及び廃止並びに保管に関する事。

(11) 渉外に関する事。

(12) 学校要覧等刊行物の発行に関する事。

(13) 教職員の旅行命令、海外渡航に関する事。

(14) 身分証明書の発行に関する事。

(15) 教職員の勤労者財産形成貯蓄に関する事。

(16) 自動車及び電話交換の運用に関する事。

- (17) 宿日直に関すること。
- (18) 指定統計並びに所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (19) その他他の係等の所掌に属さない事務に関すること。

5 **人事・労務係**においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 教職員の任免，分限，懲戒及び服務に関すること。
- (2) 教職員の給与及び諸手当に関すること。
- (3) 所得税及び住民税等に関すること。
- (4) 教職員の定員及び級別定数の管理に関すること。
- (5) 教職員の研修及び勤務評定に関すること。
- (6) 労働安全衛生に関すること。
- (7) 教職員の健康管理に関すること。
- (8) 教職員の災害補償に関すること。
- (9) 教職員のレクリエーションに関すること。
- (10) 教職員の併任・兼業に関すること。
- (11) 教職員の勤務時間及び休暇に関すること。
- (12) 退職手当に関すること。
- (13) 教職員の福利厚生に関すること。
- (14) 共済組合に関すること。
- (15) 教職員の栄典，表彰に関すること。
- (16) 名誉教授の称号授与に関すること。
- (17) 人事記録の作成及び保管に関すること。
- (18) 労使協議に関すること。
- (19) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (20) その他人事・労務に関すること。

6 **研究協力・地域連携係**においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 公開講座に関すること。（収入・支払を除く）
- (2) 受託研究，共同研究，寄附金その他の外部資金の受付及び契約に関すること。
- (3) 知的財産に関すること。
- (4) 地域との連携及び技術相談等に関すること。
- (5) 地域共同テクノセンターに関すること。
- (6) 内地研究員及び在外研究員に関すること。
- (7) 科学研究費補助金その他各種研究助成金の申請に関すること。
- (8) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (9) その他研究協力・地域連携に関すること。

7 **予算管理係**においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 予算及び決算に関すること。
- (2) 支出契約決議書の確認に関すること。
- (3) 収入及び支払に関すること。
- (4) 財務事務の内部監査に関すること。

- (5) 不動産の管理に関すること。
- (6) 宿舍の管理及び入退去に関すること。
- (7) 教職員の駐車場に関すること。
- (8) 財務事務の諸規則に関すること。
- (9) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (10) その他財務担当の所掌で他の係に属さない事務に関すること。

8 **経理係**においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 物件費，旅費及び謝金の経理に関すること。
- (2) 物品の調達に関すること。
- (3) 物品の管理に関すること。
- (4) 物品の寄附受入れに関すること。
- (5) 科学研究費補助金，共同研究，受託研究及び寄附金等外部資金の経理に関すること。
- (6) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (7) その他物品に関すること。

9 **施設係**においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 施設設備の整備に関すること。
- (2) 工事の計画及び設計・積算に関すること。
- (3) 工事の契約及び監督に関すること。
- (4) 工事費の経理に関すること。
- (5) 土地，建物及び工作物の維持保全に関すること。
- (6) 電気，電話，給排水，空調設備，ガス等の維持保全に関すること。
- (7) 防火に関すること。
- (8) 長期計画に関すること。
- (9) 環境整備に関すること。
- (10) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (11) その他施設・設備に関すること。

(学生課)

第3条 学生課に課長を補佐し，その事務を分掌整理させるため，課長補佐を置く。

2 学生課に次の4係を置く。

- (1) 教務係
- (2) 学生係
- (3) 学寮・保健係
- (4) 図書・情報係

3 **教務係**においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学，進級，卒業，その他学生の身分の異動に関すること。
- (2) 入学者の募集及び選抜に関すること。
- (3) 入学者選抜の広報に関すること。
- (4) 入学者の選抜に関すること。
- (5) 教育課程の編成及び実施に関すること。

- (6) 学生の修学指導に関する事。
- (7) 学生の学籍に関する事。
- (8) 専攻科に関する事。
- (9) 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。
- (10) 授業及び試験に関する事。
- (11) 学生の出席等に関する事。
- (12) 学生の進路に関する事。
- (13) 学外実習に関する事。
- (14) 教科書及び教材に関する事。
- (15) 学生の身分、学業成績及び卒業等の諸証明に関する事。
- (16) 研究生、科目等履修生に関する事。
- (17) 学生課に属する公印の管守に関する事。
- (18) ネットワーク情報センターの事務に関する事。
- (19) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。
- (20) その他学生課の所掌で他の係に属さない事務に関する事。

4 **学生係**にあつては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の就職斡旋に関する事。
- (2) 学生の課外活動及び行事に関する事。
- (3) 学生の奨学に関する事。
- (4) 学生の旅客運賃割引証に関する事。
- (5) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (6) 学生便覧に関する事。
- (7) 学生の入学料・授業料免除及び徴収猶予に関する事。
- (8) 学生の表彰及び懲戒に関する事。
- (9) 学友会、その他の学生団体に関する事。
- (10) 学生の集会、刊行物及び掲示に関する事。
- (11) 学生の施設及び設備の使用に関する事。
- (12) 所掌事務の調査統計及び報告に関する事。
- (13) その他学生の厚生補導に関する事。

5 **学寮・保健係**にあつては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学寮の管理運営に関する事。
- (2) 学生の入寮及び退寮に関する事。
- (3) 寮生の厚生補導に関する事。
- (4) 寮生の栄養管理及び保健衛生に関する事。
- (5) 寄宿料の免除に関する事。
- (6) 寮友会に関する事。
- (7) 教員の宿日直に関する事。
- (8) 外国人留学生（学生課の他の係に属さない事務）に関する事。
- (9) 学生の健康管理及び安全保持に関する事。

- (10) 学生のカウンセリングに関すること。
- (11) 日本スポーツ振興センターの災害給付に関すること。
- (12) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (13) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (14) その他学寮・保健に関すること。

6 **図書・情報係**にあつては、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書館資料の受入れ，整理及び保管等に関すること。
- (2) 図書館資料の収集，選定に関すること。
- (3) 図書館資料の閲覧及び貸出等利用に関すること。
- (4) 図書館資料の検索指導及び読書相談等参考奉仕に関すること。
- (5) 図書館資料の寄附受入れに関すること。
- (6) 図書購入費の経理に関すること。
- (7) 図書の契約に関すること。
- (8) 紀要の発行に関すること。
- (9) 図書館の広報に関すること。
- (10) 学術情報システムの構成に係る関連機関との連絡調整に関すること。
- (11) 情報化推進に関すること。
- (12) 事務用電子計算機のシステムの運用及び維持管理に関すること。
- (13) 情報関係の広報に関すること。
- (14) 電子計算機の利用にかかる知識及び技術の普及に関すること。
- (15) 電子計算機の事務処理のための調査，分析及び資料収集に関すること。
- (16) 所掌事務の調査統計及び報告に関すること。
- (17) その他図書・情報に関すること。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成19年4月1日細則第2号)

木更津工業高等専門学校危機管理規程

平成23年5月26日

規則第1号

(目的)

第1条 この規程は、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、本校における危機管理体制、対処方法等を定めることにより、本校の学生、教職員及び近隣住民等の安全確保を図るとともに、本校の社会的な責任を果たすことを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、危機管理とは次条に定める危機事象の原因と状況を把握、予知又は分析し、その事象によってもたらされる事態を想定することにより、被害や影響を回避又は軽減し、最小限に抑制するための適切な対応を行うことをいう。

(危機管理の対象)

第3条 第1条の目的を達成するため、この規程に定める危機管理の対象とする事象（以下「危機事象」という。）は、次の各号の一に該当するものであって、組織的・集中的に対処することが必要な事態とする。

- (1) 学生及び教職員の安全にかかわる重大な事態
- (2) 本校の教育研究等の活動の遂行に重大な支障がある事態
- (3) 本校に対する社会的信頼を損なう事態
- (4) 施設管理上の重大な事態
- (5) その他前各号に類するような事態

(危機管理のための校長等の責務)

第4条 校長は、本校における危機管理を統括する責任者であり、危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。

- 2 副校長は、校長を補佐し、危機管理の推進に努めなければならない。
- 3 学科・学系主任は校長、副校長と連携し全学的な危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。
- 4 教職員は、危機管理意識をもって、その職務の遂行に当たるものとする。

(リスク管理室の設置)

第5条 本校にリスク管理室を設置する。

- 2 リスク管理室は、本校の危機管理に関して総括し、危機管理体制の充実に努め、対処に必要な危機管理に当たる。
- 3 リスク管理室の構成は、次のとおりとする。
 - (1) 校長
 - (2) 副校長
 - (3) 各学科・学系主任

(4) 事務部長，総務課長及び学生課長

(5) その他校長が指名する者

4 リスク管理室に室長を置き，校長をもって充てる。室長に事故があるときは，副校長（教務主事）がその職務を代行する。

5 第3項第2号から第5号に掲げる者をリスク管理員とする。

（リスク管理室の業務等）

第6条 リスク管理室は，次に掲げる業務を行うものとする。

(1) 危機管理対応組織となり，危機事象における情報収集，対応方針，対応方法，対応担当者等の決定及び指示

(2) 重大な損失を伴う事態が発生したときの緊急対策

(3) 必要に応じて，機構本部リスク管理対策本部，関係行政機関及び保護者等との連携

(4) 必要に応じて，教員会議，保護者会等を開催し，情報収集，事態等を説明

(5) 想定される危機事象に関する検討，情報収集，分析及び対応策の立案と実施

(6) 危機管理マニュアル等の作成，見直し及び周知

(7) 教職員及び学生への教育及び訓練の実施

(8) 緊急時の情報伝達体制の整備

(9) その他危機管理に係る事項

（リスク管理員以外の出席）

第7条 リスク管理室長が必要と認めたときは，リスク管理員以外の者を会議に出席させ，当該事項の意見を述べさせることができる。

（危機事象に関する通報等）

第8条 教職員及び学生は，緊急に対処すべき危機事象が発生又は発生する恐れがあることを発見した場合は，リスク管理員に通報しなければならない。

2 リスク管理員は，前項の通報を受け，又は自ら危機事象を察知した場合は，直ちに室長に連絡するとともに，当該危機事象の状況を確認し，室長と対処方針を協議しなければならない

3 前項の協議により対処方針等を決定したときは，次条により対策本部を設置する場合を除き，リスク管理室が対処に当たるものとする。

（対策本部の設置）

第9条 校長は，危機事象の対処のために必要と判断する場合は，速やかに当該事象に係る対策本部を設置するものとする。

2 対策本部の構成は，次のとおりとする。

(1) 本部長は，校長をもって充て，対策本部の業務を統括する。

(2) 副本部長は，副校長（教務主事）及び事務部長をもって充て，本部長を補佐する。

(3) 本部長は，教務主事以外の副校長，総務課長及び学生課長をもって充てる。ただし，必要に応じて本部長の指名する者を加えることができる。

3 対策本部は，危機事象への対処の終了をもって解散する。

（対策本部の権限等）

第10条 対策本部は，本部長の指揮の下に，迅速に危機事象に対処しなければならない。

2 教職員及び学生は，対策本部の指示に従わなければならない。

3 対策本部は、危機事象の対処終了後に、必要事項をリスク管理室に報告しなければならない。

(機構本部リスク管理本部等との連携)

第11条 対策本部は、危機管理を総合的かつ有機的に実施するため、機構本部リスク管理本部と相互連携を図るものとする。必要に応じて関係行政機関及び保護者等と連携して対応するものとする。

(校長が不在の場合の措置)

第12条 校長が出張等により不在の場合は、校長が指名する副校長が、この規程に基づき、危機管理に対処するものとする。

(秘密保持の義務)

第13条 本校のリスク管理又は危機対策に関する業務に従事する職員は、その業務に関して知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(事務)

第14条 危機管理に関する事務は、総務課が行う。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、危機管理に関し必要な事項は、別に定める。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成23年5月26日規則第1号)

緊急災害対策マニュアル（目次）

- 第1章 災害発生時における緊急連絡先
 - 1. 勤務時間内の場合
 - 2. 勤務時間外の場合（夜間，休日，祝日）
 - 3. 連絡方法の注意
 - 4. 災害発生後の安否等連絡先
- 第2章 災害に対する事前の対策
 - 1. 共通項目（日常の留意事項）
 - 2. 火災に対する事前の対策
 - 3. 地震に対する事前の対策
 - 4. 風水害に対する事前の対策
- 第3章 災害発生から避難までの対応
 - 1. 火災発生時の対応
 - 2. 地震発生時の対応
 - 3. 風水害発生時の対応
 - 4. 学校内への周知及び避難誘導
 - 5. 災害時の避難について
 - 6. 避難場所及び避難状況等の報告
- 第4章 災害対策本部の対応
 - 1. 災害対策本部の設置について
 - 2. 災害対策本部等における組織及び任務について
 - 3. 災害対策本部等構成員の招集
- 第5章 緊急時の応急手当
 - 1. 手当の順序
 - 2. 人工呼吸の仕方
 - 3. 心臓マッサージの仕方
 - 4. 止血の仕方
 - 5. AEDの使用法
 - 6. 避難場所及び避難状況等の報告
- 第6章 関係機関連絡先及び防災・災害等情報先
 - 1. 本校（木更津工業高等専門学校）
 - 2. 国立高等専門学校機構
 - 3. 文部科学省
 - 4. 千葉県
 - 5. 木更津市
 - 6. 君津健康福祉センター（君津保健所）
 - 7. ライフライン関係機関
 - 8. 交通機関
 - 9. 防災・災害等情報

（出典 木更津工業高等専門学校緊急災害マニュアル「平成25年1月修正版」，現地閲覧資料22）

防災訓練の実施

平成24年9月24日

教職員各位

安全衛生委員会 委員長代理（荒木英彦）

平成24年度防災訓練の実施について（通知）

このことについて、下記のとおり実施しますので、ご協力くださるようお願いいたします。

当日の誘導担当教員及び点呼担当教員については、別紙一覧のとおりです。

詳細資料「防災訓練実施要領」については、教職員ローカルウェブサイトに掲載しております。

※別添の避難経路全体図については、特に初期避難場所（総合教育棟前）からの避難経路および推奨できない避難経路については、事前に充分確認のうえ避難・誘導願います。

記

1. 訓練日時：10月9日（火）14時25分から15時45分（予定）（雨天の場合は、10月23日）
2. 目的：本校防災規程第12条及び教職員安全衛生管理規則第28条第2項に基づき、地震及び火災の発生を想定し、情報伝達訓練を通じて、学生・教職員の災害に対する普段の心構えと防災意識の向上を図ることを目的とする。
3. 訓練項目：①情報伝達訓練 ②避難誘導訓練 ③消火訓練、放水訓練、煙体験

【注意】

◎昨年度と同様に、学生に開始時刻を事前に告知せずに行います。

◎学級担任は、学生に「学生の災害時の避難要領（学生便覧135頁）」を熟読させ、訓練当日は速やかにかつ安全に行動できるよう事前に指導願います。

【煙体験について】

対象：準学士課程1年生

場所：特別講義棟1階「第3講義室」

○体験場所までの学生の誘導は、学級担任（不在の場合は、別紙一覧の点呼担当教員）が行う。

○第2研究棟北側→実験実習センター裏を通過し、特別講義棟1階「第3講義室」で煙体験を行い講義棟西側から渡り廊下へ出て解散してください。

○呼吸器系疾患を患っている学生や当日体調がすぐれない学生については、体験をひかえるよう指導してください。

4. 事前打合せについて日 時：10月4日（木）運営協議会終了後

場 所：会議室B

構成員：災害対策本部員（校長、三主事、専攻科長、学科学系主任、事務部長）、自衛防災隊長（総務課長）、自衛防災隊副長（学生課長、財務担当補佐）、自衛防災隊各班の班長（総務係長、予算管理係長、学生課長補佐、技術長、看護師）

（出典 平成24年度防災訓練の実施通知文）

資料11-1-②-10

普通救命講習会の実施

平成24年 7月18日

教職員各位

安全衛生委員会委員長

普通救命講習会の開催について（通知）

実験・実習時等における不慮の事故によるけが人や急病人が発生した場合、落ち着いて傷病者や周囲の状況を判断し、医師や救急隊員が来るまでの間、一時的に救命措置、応急措置を行う必要があります。

そこで、救命に対する理解及びAEDを用いた心肺蘇生の実技習得のため、木更津市消防本部の協力により教職員を対象に下記のとおり講習会を開催しますので参加願います。

参加を希望される方は、別紙の受講申込書を8月8日（水）までに総務課人事・労務係へ提出（メール可）願います。（過去に受講されたことのある方で参加を希望される場合も、受講申込書を提出してください。）

なお、本講習は3年に1度受講することが目安とされております。参考までに、過去3年間の参加者一覧を添付します。特に、一度も受講されたことがない方は積極的に受講されるようお願いいたします。

記

1. 講習内容 AED（自動体外式除細動器）の使用方法や心臓マッサージ・人工呼吸・止血法など行う実技講習です。一定の技能が習得できた方には木更津市消防本部から修了証が発行されます。（平成22・23年度受講済みで修了証を交付されている方は発行されません。）
2. 日時 平成24年9月26日（水）13：30～16：30
3. 場所 会議室A（管理棟2階）
4. 受講定員 20名程度（希望者多数の場合は、初めて受講される方を優先します。）
5. 対象者 教職員
6. 集合時間 当日13時20分（時間厳守）

（出典 平成24年度普通救命講習会の開催通知文）

平成24年度危機管理関係年間スケジュール（案）について

1. 平成24年4月以降 機構の防災対策経費（備蓄品等整備200万円程）
《資料：各高専備蓄物品等リスト》
2. 平成24年4月以降 木更津市より避難所施設利用に関する協定書の作成依頼
《資料：災害発生時における避難所の開設について（平成24年1月30日付け 木更津市長から協議文章（写））》
3. 平成24年5月中旬 学寮防災訓練及び消火器訓練（火災に備えて）
《平成23年5月15日実施》
4. 平成24年5月中旬 AED講習会（学生向け）
《平成23年5月17日実施》
5. 平成24年8月下旬 災害備蓄品購入（100人分）【後援会費】
《平成23年8月30日購入，資料：平成23年度未災害用（非常用）備蓄品配置場所・配置数》
6. 平成24年9月下旬 普通救命講習会（職員向け）
《平成23年9月30日実施》
7. 平成24年10月中旬 学寮避難訓練（大地震に備えて）
《平成23年10月16日実施》
8. 平成24年10月中旬 防災訓練
《平成23年10月18日実施》

（出典 平成24年度第1回リスク管理室会議資料1）

メールー斉配信システムを利用した緊急情報伝達体制の整備

運営協議会資料

平成24年10月25日

メールー斉配信システムによる情報配信について

学生委員会

I 配信する情報の制限

配信するメールによる情報は、緊急度、重要度で以下のように分類できる。

1. 緊急的な情報でグループ全員に確実に伝えなければならない情報（従前の緊急連絡網で連絡していたような情報）
 - 携帯を所持していない学生や登録していない学生には、電話などによる何らかの方法で同時にその情報を伝える。

例：急な予定の変更、緊急的な注意喚起

注：次の日に学校でその該当グループに連絡すれば済むような情報は配信しない。

2. グループ全員に確実に伝えなければならない情報で、早急に全員から回答を集める必要がある情報
 - メール配信システムにより確認メールや回答メールをもらう。
 - 携帯を所持していない学生や登録していない学生には、電話などによる何らかの方法で同時にその情報を伝え、回答を得る。

例：緊急的な情報収集

注：グループ内の何人かにだけ伝える必要がある情報は配信しない。

3. 上記以外の情報
上記以外で急を要しない情報
例：掲示板等での伝達事項やレポート提出期限等の徹底など。

当面の間、上記の1と2に該当する情報のみをメール配信システムで配信する。

II メールアドレスの利用

1. メールアドレスの利用については、上記の配信以外に利用しない。

(出典 平成24年度第12回運営協議会 資料5)

学寮避難マニュアル

●学寮避難マニュアル（修正版）舎監室用（平成24年7月3日）

1. 警報が鳴る（あるいは寮生が舎監室または宿直室へ報告）
2. 宿直が警報場所を一斉放送し、現場を見に行く
3. 宿直が初期消火を行う・・・宿直者自身の安全を最優先
4. 宿直が「場所」と「初期消火の状況」を舎監に報告
5. 舎監は「場所は○群△△ 全員避難せよ！」と宿直室から一斉放送
(宿直は舎監を補佐するとともに宿直室内の各群居室一覧表を持ち出す)
6. 寮生は隣部屋と正面の部屋に声をかけあい、専攻科駐車場へ避難
7. 舎監 又は 宿直は消防署に通報（119番）、舎監は点呼簿を持ち出す
8. 寮生は専攻科駐車場で同じ群の学生がいるかどうかを確認し合う
9. 確認できた群から防災委員または群長が舎監に点呼結果を報告
10. 舎監は宿直の協力を得て点呼簿情報から不在者確認作業を行い、不在者が在寮中と判断される場合には居室位置を消防署員へ伝え、寮務主事(XXX-XXXX-XXXX)へ状況報告
(以上)

●学寮避難マニュアル（修正版）宿直室用（平成24年7月3日）

1. 警報が鳴る（あるいは寮生が舎監室または宿直室へ報告）
2. 宿直は警報場所を一斉放送し、現場を見に行く
3. 宿直は初期消火を行う・・・宿直者自身の安全を最優先
4. 宿直は「場所」と「初期消火の状況」を舎監に報告
(宿直は舎監を補佐するとともに宿直室内の各群居室一覧表を持ち出す)
5. 舎監が「場所は○群△△ 全員避難せよ！」と宿直室から一斉放送
6. 寮生は隣部屋と正面の部屋に声をかけあい、専攻科駐車場へ避難
7. 舎監 又は 宿直は消防署に通報（119番）、舎監は点呼簿を持ち出す
8. 寮生は専攻科駐車場で同じ群の学生がいるかどうかを確認し合う
9. 確認できた群から防災委員または群長が舎監に点呼結果を報告
10. 宿直は各群居室一覧表を使って舎監の不在者確認作業を助けるとともに総務課長(XXX-XXXX-XXXX)または学生課長(XXX-XXXX-XXXX)へ報告
(以上)

●地震時の対応マニュアル（修正版）舎監室用・宿直室用（平成24年10月10日）

1. 舎監は「地震発生！ドアを開け、揺れがおさまるまで動かないように。火の使用は直ちにやめること。」と数回にわたり一斉放送する。

2. 揺れがおさまったら、舎監は被害状況に応じて電気錠を一斉解錠し、「寮生は声をかけあい、近い出口を通り専攻科駐車場へ避難・集合しなさい。」と数回一斉放送する。
(放送機器が使用不能の場合は、宿直室常備のハンドマイクで宿直者と一緒に呼びかける。)
 3. 揺れがおさまったら、舎監は被害状況に応じて各群点呼簿を持ち出す。宿直は宿直室内にある各群居室一覧表を持ち出す。
 4. 専攻科駐車場（第一次避難場所）に避難したあと、同じ群の学生がいるかどうかを確認し合う。
 5. 確認できた群から防災委員または群長が舎監に点呼結果を報告する。
 6. 舎監と宿直は群長等の協力を得て点呼結果から不在者確認作業を行う。携帯電話が繋がる場合は寮務主事(XXX-XXXX-XXXX)へ状況を報告する。
 7. 宿直は各群居室一覧表を使って舎監の不在者確認作業を助ける。携帯電話が繋がる場合は総務課長(XXX-XXXX-XXXX)または学生課長(XXX-XXXX-XXXX)へ状況を報告する。
- *通話不能時：寮務主事(XXXX@XXX.ne.jp)へメール連絡を試みる。
(以上)

避難マニュアル（寮生用）2012.4.25

火災発生時

(警報器作動時)

- > 窓を閉め廊下に出る
- > 夜間時には、懐中電灯を持つ
- > 群長の誘導に従い、避難する
- > 煙、足元には十分注意する

※もし火災を発見したら…

- ・付近の人と舎監または宿直に知らせる
- ・出火直後だった場合、初期消火活動を行う。

地震発生時

- > ドアを解放状態にする
- > 懐中電灯を持ち、電気を消す
- > 枕などで頭を保護する
- > 火気の使用をやめ、ガスの元栓を閉める
- > 群長の誘導に従い、避難する

※もし居室に閉じ込められたら…

- ・発見されやすいように、大声などで合図を送る
- ・救助が来た場合、周りや自分の状況を伝える

- ・駐車場へ避難するときは、同部屋と隣部屋の仲間に声をかける
- ・駐車場で同部屋と隣部屋の仲間がいるか、もう一度確認する
- ・群長また防災委員点呼をとり、舎監に点呼結果を報告する

避難場所

専攻科駐車場

※災害時にすぐ連絡がとれるよう、各群の同学年内で連絡先を交換しておいて下さい。

(出典 学寮緊急時対応マニュアル)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、各種規則等に基づき各種委員会及び事務組織が組織され、規則通りに業務分担を行い、管理運営にあたっている。活動内容も外部監査結果から適切かつ機能的と判断できる。また、危機管理規程によりリスク管理室を設置し、普段より緊急時マニュアルの整備、緊急時に備えた教育訓練、情報伝達体制の整備等が計画的に実施されていることから、危機管理に係る体制が適切に整備されていると判断できる。

観点11-2-①： 自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されているか。

(観点に係る状況)

本校では、中期計画推進委員会を中心として各委員会、組織と連携しつつ、本校の活動の総合的な状況に対して、中期計画の策定、年次計画の策定、計画の実施状況調査及び実績の評価を実施している(資料11-2-①-1)。計画の策定に関しては、高専機構本部の示した中期計画及び年度計画に沿って、資料11-1-②-4で示した各組織が評価項目及び評価指標を設定し、中期計画推進委員会での審議を経て運営協議会において決定される(資料11-2-①-2)。実績の評価に関しては、各組織が示した実績について中期推進計画委員会で評価を行い、運営協議会の協議を経て確定される(資料11-2-①-3)。また、平成25年度より、本校独自の項目を設定し、それらに関しても自己点検・評価を実施することとなった(資料11-2-①-4)。

中期計画、年度計画及び実績評価結果等は、全教職員が学内から閲覧可能なローカルウェブサイトに「本校に係る業務の実績に関する項目別評価表」(現地閲覧資料23)として掲載している他、概要を本校ウェブページ上で公表している(資料11-2-①-5)。

木更津工業高等専門学校中期計画推進委員会規則

平成16年6月10日

規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則（昭和56年4月1日規則第1号）第21条第2項の規定に基づき、中期計画推進委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。

- (1) 評価に基づく次期中期計画案の策定に関する事。
- (2) 中期計画に沿った年次計画案の策定に関する事。
- (3) 中期計画の実施状況の調査と評価に関する事。
- (4) その他中期計画に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長が必要と認めた若干名
 - (2) 総務課長
- 2 委員会の委員は、校長が委嘱する。
- 3 第1項第1号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の中から校長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第5条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴取することができる。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるものの外、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が別に定める。

(出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：平成16年6月10日規則第2号)

中期計画策定の流れ

第37回中期計画推進委員会議事要旨（抜粋）

1. 日時 平成24年12月25日（火）15：00～16：00
2. 場所 会議室B
3. 出席者 高橋，小澤（代理），鈴木（代理），沢口，白木，青木（岡本保欠席）
4. 議事
（2）平成24年度業務実績及び平成25年度計画の策定スケジュール等について大坪補佐から，平成24年度業務実績及び平成25年度計画の策定スケジュールについて以下のとおり説明があり，了承された。

- ・ 12月下旬

- 各委員長等へ資料4・5のフォーマットにて記入依頼

- ・ 1月末日

- 各委員長は，実績（案），計画（案）をまとめ役に提出

- ・ 2月上旬

- まとめ役から委員に確認依頼

- ・ 2月中旬

- 委員からまとめ役に提出

- ・ 2月下旬

- 委員会にて実績（案），計画（案）を審議

- ・ 3月中旬

- 運営協議会に実績（案），計画（案）を協議題として提出

- ・ 3月下旬

- 機構に平成24年度実績報告書を提出

- ・ 4月下旬

- 機構に平成25年度計画概要，年度計画を提出

また，平成24年度実績及び平成25年度計画の分担項目，担当者について，資料6のとおり決定した。

（出典 第37回中期計画推進委員会議事要旨：平成24年12月25日）

中期計画の実績評価

第34回中期計画推進委員会議事要旨

1. 日時 平成24年2月28日（火）9：00～12：30
2. 場所 会議室B
3. 出席者 栗本，加藤，金子，小田，上原，沢口，白木，青木
3. 議題

1. 平成23年度業務実績評価について

年度計画に対する各主事・委員会等から提出された実績について，各事項の内容について審議し，評価・評定を行い，S評価3件，A評価48件，B評価2件とした。

- (1) S評価

- ・「学生の授業評価アンケート」について，全教員がマークシート及び新規に構築したWEBキャリアシステムを利用し，アンケート結果を「教職員ローカルウェブサイト」上に公表し，全教職員が閲覧できるようにしたこと。

- ・女子寮の増築が認められ，工事が完成したこと，また，男子寮の生活環境の改善に向けた改修をしたこと。

- ・学生の海外での語学研修や交流協定締結大学等との学生・教員の交流が着実に図られていること。

- (2) B評価

- ・中学校訪問，各種体験入学などが積極的に行われ，これまでの参加者の状況を踏まえて継続的に改善が図られ，入学者志願者の増加が図られていることは評価できるが，学科間の志願状況にアンバランスが見られることについては，今後対応を要す。

- ・学外でのメンタルヘルスを中心とした講習会や研修会を複数回参加し，学内での同様の催し（自殺予防）等を積極的に実施していることは評価できるが，学生の急激な質的変更に必ずしも充分に対応できていない面もあり，今後対応を要する。

2. 平成24年度計画について

各主事・委員会等から提出された年度計画について，各事項毎の内容等について，機構の年度計画及び本校の23年度計画を比較し，審議した。また，一部記載漏れ等については，委員から各主事等に連絡し，記載することとした。

3. 今後の予定

3月2日：校長に説明。（委員長，大坪）

3月5日：運営協議会打ち合わせ

3月7日：運営協議会（委員長説明）

3月23日：平成23年度実績，機構提出締め切り。

（出典 第34回中期計画推進委員会議事要旨：平成24年2月28日）

本校独自の評価項目の策定

第38回中期計画推進委員会議事要旨

1. 日時 平成25年1月29日（火）15：10～16：45
2. 場所 会議室A
3. 出席者 高橋，清野，関口，岡本，沢口，丸山（代理），青木
4. 議事

（1）中期計画に基づいた本校独自の評価項目について

委員長から，平成25年度機関別認証評価受審に伴い，点検・評価委員長の依頼に基づき，各委員会から評価項目が資料のとおり提出されたため，その評価項目について，実現できるか，また，実現に向けて相当の労力がかからないかなどについて，副校長所掌委員会ごとに検討を行い，修正を要する評価項目については，コメントを付けて再度委員長に検討を依頼し，検討結果を2月15日（金）までに提出していただくこととした。

（出典 第38回中期計画推進委員会議事要旨平成25年1月29日）

ウェブページによる評価結果の公表



独立行政法人国立高等専門学校機構

木更津工業高等専門学校



WWWを検索 kisarazu.ac.jpを検索

HOME | 交通案内 | 採用情報 | 入札公示 | サイトマップ | お問い合わせ | English

学校概要 | 入試情報 | 学科紹介 | スクールライフ | 卒業生の進路 | 産学連携 | 公開講座等

中期計画・年度計画

木更津工業高等専門学校の中期計画と年度計画を掲載しています。

【第2期(平成21年度～平成25年度)】

[木更津工業高等専門学校の中期計画](#)

【平成21年度】

[木更津工業高等専門学校の年度計画](#)

【平成22年度】

[木更津工業高等専門学校の年度計画及び実績](#)

【平成23年度】

[木更津工業高等専門学校の年度計画及び実績](#)

【平成24年度】

[木更津工業高等専門学校の年度計画及び実績](#)

【平成25年度】

[木更津工業高等専門学校の年度計画](#)

[▲このページの先頭に戻る](#)

HOME | 交通案内 | 採用情報 | 入札公示 | サイトマップ | お問い合わせ | English

〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1 電話0438-30-4000(代表) FAX0438-98-5717

Copyright (C) 2009 Kisarazu National College of Technology. All rights reserved.

(出典 木更津工業高等専門学校ウェブページ <http://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/chuki.html>)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、中期計画推進委員会を中心として各委員会及び組織が連携をとりながら、中期計画及び年次計画の策定、計画の実施状況調査及び実績の評価を実施しており、結果をローカルウェブサイト及び本校ウェブページに掲載していることから、高等専門学校としての活動の総合的な状況に対して、自己点検・評価が行われ、結果が適切に公表されていると判断できる。

観点11-2-②： 自己点検・評価の結果について、外部有識者等による検証が実施されているか。
(観点に係る状況)

本校では、学則第1条の2の第2項において「点検及び評価の結果について、本校の職員以外の者による検証（以下、外部評価と言う）を行うものとする。」と規定している（資料11-2-②-1）。「木更津工業高等専門学校外部評価実施要領」（資料11-2-②-2）により、学外の有識者による外部評価委員会を設置し、実施方法及び項目を定め、本校における教育・研究活動及び地域連携等の状況の自己点検及び評価の結果について検証を行い、教育・研究活動の改善とその水準の向上並びに地域連携の活性化に努めている。

直近では、平成16年度から平成20年度に実施した第1期中期計画に係る自己点検・評価結果をもとに、平成21年度に第3回目となる外部評価を実施した（資料11-2-②-3）。外部評価委員の名簿、評価の実施方法及び評価結果の詳細については、平成21年度外部評価報告書（資料11-2-②-4）を現地閲覧資料24として示す。尚、次回の外部評価は、平成21年度から平成25年度に実施している第2期中期計画に係る自己点検・評価に関して平成26年度に実施する予定である。

資料11-2-②-1

木更津工業高等専門学校学則（抜粋）

（自己評価等）

第1条の2 本校は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価の結果について、本校の職員以外の者による検証を行うものとする。

3 前項の点検及び評価についての必要な事項は、別に定める。

（情報の積極的な提供）

第1条の3 本校は、教育活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

2 前項の情報の積極的な提供についての必要な事項は、別に定める。

（出典 木更津工業高等専門学校『規則集』：昭和43年6月1日学則第1号）

資料11-2-②-2

木更津工業高等専門学校外部評価実施要領

（趣旨）

第1 高等専門学校は、学校教育法並びに独立行政法人通則法により評価機関による評価を受けることが定められている。同時に日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定には、学外有識者による評価が求められていることから、本校における教育・研究活動及び地域連携等の状況の自己点検及び評価の結果について学外有識者による評価を行い、教育・研究活動の改善とその水準の向上並びに地域連携の活性化に資するものとする。

（外部評価委員会）

第2 本校に第1の外部評価を実施するため、学外の有識者による外部評価委員会を置く。

（外部評価委員会委員）

第3 外部評価委員会の委員は、次の構成員とし、校長が別紙のとおり委嘱する。

- ① 企業関係の有識者 2名
- ② 教育関係の有識者 2名
- ③ その他有識者 3名

（外部評価の実施方法及び項目）

第4 外部評価委員会による外部評価実施方法及び項目は、別に定める。

（外部評価報告書のとりまとめ）

第5 校長は、外部評価委員会による外部評価の結果を外部評価報告書としてとりまとめる。

（事務）

第6 外部評価に関する事務は、総務課において処理する。

（出典 木更津工業高等専門学校外部評価実施要領）

平成21年度木更津工業高等専門学校外部評価の実施方法

1. 外部評価の実施方法

(1) 資料調査

木更津工業高等専門学校第1期中期計画（平成16年度～平成20年度）に係る実績評価表

(2) 実地調査及び視察

校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，地域共同テクノセンター長，学科・学系主任，JABEE認定・認証評価推進委員長，中期計画推進委員長等からのヒアリング及び学内施設の視察

(3) 外部評価書の作成

(1) 及び (2) の調査，視察に基づく各委員の外部評価書の作成

(4) 外部評価報告書

(3) の外部評価書に基づく外部評価報告書の作成

2. 外部評価の項目

- ①教育に関すること
- ②研究に関すること
- ③地域社会との連携に関すること
- ④国際交流に関すること
- ⑤その他管理運営に関すること

【木更津工業高等専門学校外部評価委員会等日程】

- 平成21年12月9日 外部評価委員の委嘱依頼文書を各委員候補者等に送付
- 平成22年1月1日 外部評価委員委嘱辞令作成
- 平成22年1月6日 外部評価委員会の開催通知
- 平成22年1月26日 外部評価委員会開催
- 平成22年2月26日 外部評価委員から評価書を受領
- 平成22年3月 外部評価報告書作成

(出典 平成21年度外部評価報告書 3～4頁)

平成21年度木更津工業高等専門学校外部評価報告書（目次）

1. 木更津工業高等専門学校外部評価実施要領	1
2. 平成21年度木更津工業高等専門学校外部評価委員名簿	2
3. 平成21年度木更津工業高等専門学校外部評価の実施方法及び項目	3
4. 木更津工業高等専門学校外部評価委員会等日程	4
5. 平成21年度木更津工業高等専門学校外部評価委員会日程表	5
6. 外部評価委員会委員に配布した資料一覧	6
7. 外部評価に際して	7
8. 外部評価委員会等風景	8
9. 外部評価委員の評価内容	
—教育に関すること—	10
—研究に関すること—	16
—地域社会との連携に関すること—	19
—国際交流に関すること—	22
—その他管理運営に関すること—	24
10. 木更津工業高等専門学校外部評価書様式	26

（出典 平成21年度外部評価報告書目次，現地閲覧資料24）

(分析結果とその根拠理由)

本校では学則に従い、学外の有識者による外部評価委員会を設置し、本校における教育・研究活動及び地域連携等の状況の自己点検及び評価の結果について検証を行い、教育・研究活動の改善とその水準の向上並びに地域連携の活性化に努めていることから、自己点検・評価の結果について、外部有識者等による検証が適切に実施されていると判断できる。

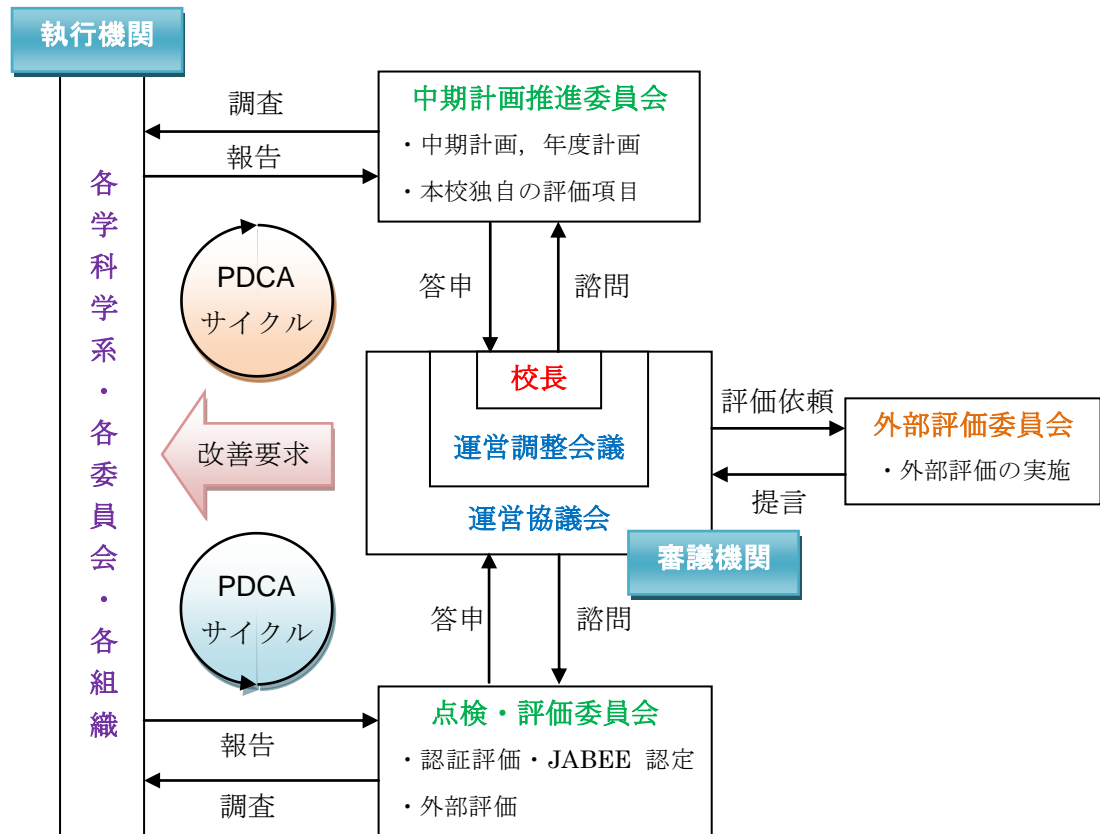
観点11-2-③： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

本校における点検・評価業務は、観点11-2-①で述べた通り、中期計画及び年度計画に関しては、中期計画推進委員会を中心として、また、資料11-1-②-2に示した通り、機関別認証評価・JABEE認定・外部評価に関しては、点検・評価委員会を中心として執り行われ、評価結果は、審議機関（運営調整会議、運営協議会）に答申される。校長は、答申に基づき、改善が必要と認められる事項について、その具体化に努めるとともに、必要がある場合は、各学科学系、各委員会、各組織等の執行機関に対して改善策の検討を付託することとなっている（資料11-1-②-2）。自己点検・評価結果のフィードバックに関する組織間の関連を資料11-2-③-1に示す。中期計画推進委員会では、年度計画に対する各学科学系、各委員会、各組織の実績報告に基づき、全評価項目に対する自己評価と自己評定（現地閲覧資料23：本校に係る業務の実績に関する項目別評価表）及びそれらの分析結果（資料11-2-③-2）を運営協議会等に報告し、審議の結果承認が得られたのちに、学内のローカルウェブサイトで全教職員に対して公表している。また、具体的な改善方策の例としては、中期計画推進委員会において実績評価をもとに改善を要する事項を精査し、該当する委員会等に対して十分なヒアリングを行い（資料11-2-③-3）具体的な改善策を引き出すとともに、運営協議会での審議を経て校長裁量経費を配分して対応にあたる場合もある（資料11-2-③-4）。

尚、点検・評価委員会の事例については観点11-3-①で述べる。

自己点検・評価等の結果のフィードバックシステム



(出典 点検・評価委員会資料)

中期計画推進委員会による実績評価結果の報告例

運営協議会資料 4

平成 25 年 3 月 13 日

校長・副校長 殿

中期計画推進委員会委員長 高橋秀雄

平成 24 年度実績評価について

1. 平成 24 年度実績の評価について

(1) 評価の概要

- S：特に優れた実績を上げている
- A：中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている
- B：中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かっておおむね成果を上げている
- C：中期計画を十分には履行しておらず、中期目標達成のためには業務の改善が必要である
- F：業務改善の勧告を行う必要がある

評価	該当数 (H19)	該当数 (H20)	該当数 (H21)	該当数 (H22)	該当数 (H23)	該当数 (H24)
S	2	4	3	4	3	1
A	52	53	50	49	48	51
B	3	0	0	0	2	1
C,F	0	0	0	0	0	0
計	57	57	53	53	53	53

- ・校長裁量経費の拡充
- ・博士取得率目標達成

- ・科研費説明会
- ・博士取得率目標達成
- ・教員・学生交流
- ・防犯カメラの設置等

- ・学生による授業評価アンケート
- ・女子寮の増築予算化
- ・台湾聯合大学との学生・教員交流活動、
- 「PASCH」協定の各種研修参加

- ・ウェブキャリアシステム
- ・女子寮増築
- ・海外交流(ドイツ・台湾・タイ)

- ・国内外研究員への派遣
- ・図書購入冊数、入館者数の減少
- ・特許等の出願状況(継続)

- ・プロコン主管校、「大会運営要領」整備、第一回国際大会開催
- ・交流協定締結大学、「PASCH」協定による学生派遣等
- ・危機管理の体制整備、外部評価委員の評価による業務改善

- ・学科間の入学志願者状況のアンバランスへの対応
- ・学生の急激な質的变化に伴う問題行動への対応

- ・図書館改修
- ・混合学級廃止に伴う対応

(2) S 評価

- 図書館の改修が行われ、図書・ネットワーク情報センター棟としての工事が完成したことは大いに評価できる。

(3) B 評価

- 混合学級廃止に伴う第 2 学年充実のための方策及び改善策の検討が不十分である。

(出典 平成24年度第22回運営協議会資料 4)

中期計画推進委員会によるヒアリングの実施

第24回 中期計画推進委員会議事要旨（抜粋）

1. 日 時 平成21年4月21日（火）15：00-16：00
2. 場 所 コミュニティールームG
3. 参加者 鴫田委員長，加藤，福地，板垣，上原，東，青木委員，大坪課長補佐
4. 議 事

(3) その他

- ・校長裁量経費が配分された場合，以下のプロセスを経て，配分額等を決めることとした。
 - ① 過去の実績と今年度の計画を見る。
 - ② 配分する候補の委員会とおおまかな配分額を仮決めする
 - ③ 配分決定以前に，候補の委員会委員長に十分にヒアリングする
 - ④ ヒアリング結果を受けて，本委員会にて配分委員会と配分額を正式決定する

（出典 第24回中期計画推進委員会議事要旨）

資料11-2-③-4

実績評価に基づく校長裁量経費の重点配分

中期計画推進委員会による配分案

順位	配分先	選定理由	配分額	配分額の根拠
1	図書館運営部会	H19 年度の実績において予算削減の影響で図書購入冊数や入館者数が減少し、総合的に「B」評価となった為。	50 万円	「後援会からの補助金が 150 万円から 100 万円に減額された」ことから、それを補填する目的で 50 万円を配分。
2	広報委員会	災害時等の緊急連絡方法は以前より問題となっていたが、今回の麻しん発生で更に重要度が増した。広報委員会の H20 年度計画で、「緊急時の Web 更新の方法を検討」とあり、急を要することから、予算配分を行い関係委員会（教務、NW センタ）と協力して、計画の実現を促すこととした。	20 万円	計画の遂行には Web サーバの機能強化が考えられる。それについて、ワークステーション一式の購入額として 20 万円を配分。
3	入試委員会	H18 は入学志願者の減少から「B」評価となり、改善の為 H19 に当委員会より 20 万円の予算配分を行った。入試委員会では配分予算を有効利用し入学者の確保の為の様々な改善を行い、結果として入学志願者が増加したことが H19 の実績報告より明らかとなった。しかしながら、志願倍率は依然として低く、中期計画の柱である「 入学者の確保 」については、継続して改善していく必要があると判断し、昨年度に引き続き予算を配分することとした。	30 万円	入試委員会より「入試活動 PR 用」として教育改善 B-1 に 49 万円の申請があったが、査定 0 であった。その金額をベースとし、他の委員会とのバランスも考慮し配分額を 30 万円とした。

(出典 平成20年度第22回中期計画推進委員会 資料3)

平成 20 年度校長裁量経費中期計画選考結果
(中期計画推進経費)

A 中期計画 (予算総額 1,000 千円)

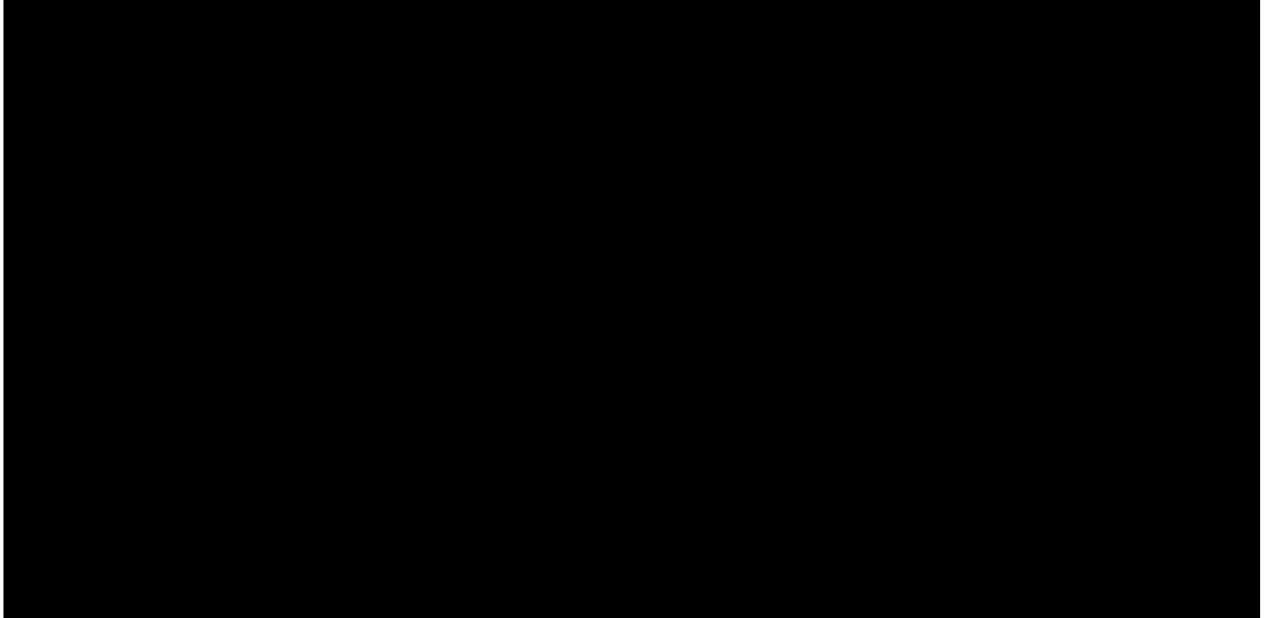
No.	委員会等名	配分先	事業名	配分金額	備考 (配分目的)
1	入試委員会	学生課	入学志願者確保のため	300 千円	入試活動 PR 用
2	広報委員会	総務課	緊急を要する Web 更新のため	200 千円	Web サーバ機能強化
3	図書館運営部会	学生課	図書館における学内利用者増加確保のため	500 千円	図書館蔵書増加
配 分 金 額 合 計				1,000 千円	

(出典 平成20年 7 月 3 日 運営協議会 資料1)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、中期計画推進委員会及び点検・評価委員会が、審議機関と執行機関を有機的に結び付け、評価結果をフィードバックして改善に結びつけるシステムが整備されており、実際に改善が必要な事項を精査し公表するとともに、校長裁量経費の重点配分を行うなどの改善に向けた具体的措置がとられており、有効に運営されていると判断できる。

資料11-3-①-1



(出典 点検・評価委員会資料)

資料11-3-①-2

外部評価における指摘事項に対する対応例

指摘事項	対応
授業評価がどのように授業改善につながっているかが見えない。	WEBキャリアカルテシステムを導入し、改善状況を全教員が確認できるようにした。
混合学級による教育効果に関する調査・分析が必要。	混合学級制度検討ワーキンググループを発足し検討を重ね、混合学級制度を廃止した。
高専間の人事交流制度において、成果が不明。	教員交流報告会の実施及び教員交流報告書の提出により、成果を公表した。
図書館入館者数の減少に歯止めをかける対策が必要。	新入生ガイダンスの充実、蔵書検索システムの稼働により、利用者数が若干回復した。
教員の評価に関して上司/部下が対話するシステム構築を提案する。	全教員に対して校長面談を実施することとした。
科学研究費の採択件数、獲得資金の減少が懸念される。	科研費申請アンケートを実施し問題点の抽出を行った。科研費審査で良好な結果を得た者に学内予算を優先配分することとした。

(出典 点検・評価委員会資料)

平成21年度外部評価委員会委員の各評価項目についての
課題及び提言に対する対策等の進捗状況報告書

表 紙

平成21年度外部評価委員会委員の
各評価項目についての課題及び提言
に対する対策等の進捗状況

目 次



平成24年11月

木更津工業高等専門学校
点検・評価委員会

(1) 教育に関する事	1
(2) 研究に関する事	61
(3) 地域社会との連携に関する事	92
(4) 国際交流に関する事	134
(5) その他管理運営に関する事	137
付録	144

(出典 平成21年度外部評価委員会委員の各評価項目についての課題及び提言に対する対策等の
進捗状況報告書, 現地閲覧資料27)

高専校長間ピアレビューの実施

校長間ネットワークによる実地調査を実施しました

2011年11月15日

高等専門学校においては、学校運営の改善のため、特に校長どうしで知識・経験の交換や相互評価を行う「校長間ネットワーク」の必要性が指摘されていますが、本校ではこれを受けて、他校に先駆けて、校長の仕事了他高専校長（経験者）により点検・評価してもらう「校長間ピアレビュー」を実施しており、11月1日（火）にその実地調査を行いました。

これは、本校の工藤校長が作成した「校長の自己点検報告書」に基づき、レビューアーである古屋一仁東京高専校長及び角田幸紀前茨城高専校長が本校を訪問し、校長面談や、副校長等の学内関係者との面談等を行ったものです。関係者面談では、「カリキュラムの高度化や学生の課外活動の助長のため、校長はどのようにリーダーシップを発揮しているか」「学校の特色や強みをどのように伸ばそうとしているか」などについて意見交換が行われ、また校内視察では、共同研究施設の利用率向上策などについて質疑応答がありました。

同日の実地調査では、和気藹々とした雰囲気の中にも、学校運営の改善のため真摯な意見交換が行われ、レビューアーから、本校の特色や優れた点、今後の改善点等、多岐にわたる助言が行われました。「校長間ピアレビュー」は、この後報告書を作成する見込みです。



レビューアーと工藤校長の面談の様子

（出典 木更津工業高等専門学校ウェブページ）

http://www.kisarazu.ac.jp/news/2011/1115_1.html

(分析結果とその根拠理由)

本校では、点検・評価委員会を介して外部有識者の意見及び第三者評価の結果をフィードバックし、改善に向けた対応の進捗状況調査も実施している。また、校長自らが自身の仕事を点検・評価する為のピアレビューも実施している。これらの活動を通して適切な改善が行われいることから、外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されていると判断できる。

観点11-3-②： 学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用しているか。
(観点に係る状況)

本校では、資料11-3-②-1に示す通り、地域企業、他機関、卒業生、退職教員、近隣住民等の様々な外部教育資源を積極的に活用して学外実習、招聘講演、地域交流等を実施し、学生の人間形成、科学技術の修得、コミュニケーション能力や創造力の向上等に役立てている。特に公募型の外部プログラムを活用した事例では、平成21年度原子力人材育成プログラムに採択され2回の招聘講演会と原子力発電所での実習を行った(資料11-3-②-2)他、企業技術者等活用プログラムでは平成20年度から平成22年度の3年間で48件の特別講義を実施(資料11-3-②-3)、平成23年度には本校退職教員がコーディネータとなり専攻科生が42社の地域企業を訪問し技術力やニーズを探る取り組みを行った(資料11-3-②-4、現地閲覧資料29:「千葉匠の力」)。外部機関との提携例としては、平成18年12月には台湾国立聯合大学と学術交流協定を締結(資料11-3-②-5)し、相互の学生派遣や国際シンポジウムの共催を行っている他、平成20年12月にはドイツ外務省と協定を締結し、日本初のドイツ政府認定校としてパートナーシュールに参加し学生派遣等(資料11-3-②-6)を行っている。また、学友会の部活動においては、本校卒業生や退職教員等を積極的に技術指導員として採用(資料11-3-②-7)し、学生の技能向上と本校教員の負担軽減に努めている。さらに一般科目においても、ユニークな取り組みとして一般特別研究発表会で、他高専教員、他高専卒業生、本校卒業生等を招聘し、講演会を企画(資料11-3-②-8)している他、国語の集中講義として「日本文化論」を開講し、地域の職人を学生が取材し記事としてまとめること(資料11-3-②-9、現地閲覧資料30:「職人を訪ねてI」)を行っている。

資料11-3-②-1

外部教育資源の活用事例

No.	分類	実施時期	対象	外部資源	内容	備考	資料番号
1	学外実習	平成21年9月	3年生一般特別研究受講生	東京電力福島第一原子力発電所	原子力発電所の見学及び実習	平成21年度原子力人材育成プログラム	11-3-②-2
2	学外実習	平成24年12月	環境都市工学科4年	石坂産業株式会社	環境教育支援活動等に関する研修		
3	学外実習	毎年度	全学科4年生、専攻科1年	地域企業	インターンシップ		
4	学外実習	毎年度	全学科4年生	国内企業	見学旅行		
5	学外実習 地域交流	平成23年度	専攻科生	・地域企業 ・本校OB教員	OB教員がコーディネータとなり、学生が42社の地域企業を訪問し取材	企業技術者等活用プログラム	11-3-②-4
6	学外実習 地域交流	平成23年度～	全学科2年生以上	・地域職人	地域の職人を学生が取材し、記事としてまとめた	日本文化論(国語科集中講義)	11-3-②-9
7	学外指導員	毎年度	部・同好会	・本校卒業生 ・本校退職教員 ・地域住民	学友会部活動の技術指導を委託		11-3-②-7
8	招聘講演等	平成21年8月	全学生	東京電力(本校卒業生を含む)	日本の原子力発電 -考えよう、日本のエネルギー-(東電技術者)	平成21年度原子力人材育成プログラム	11-3-②-2
9	招聘講演等	平成21年12月	全学生	東大宇宙線研究所	ニュートリノで解き明かす宇宙の謎 -スーパーカミオカンデ実験最前線-(神岡宇宙素粒子研究施設特任研究員)	平成21年度原子力人材育成プログラム	11-3-②-2
10	招聘講演等	平成20年11月	電気電子工学科4年	新日鐵在籍の本校卒業生	製鉄所で使われている回転機の技術について		
11	招聘講演等	平成24年9月	情報工学科4年生	ニフティ株式会社の情報技術者(本校卒業生を含む)	新しいWebサービスの提供を、チームに分かれ検討し、プレゼンを行い情報技術者としての質を高めた。実際に現場で使われているプログラミング言語を用いて実践的なアプリケーション開発の基礎を学んだ。		
12	招聘講演等	平成24年12月	情報工学科学生	日本マイクロソフト株式会社の情報技術者	情報化社会の最先端技術に触れるためにWindows8のアプリ開発を学び、アプリ開発コンテストへの参加を通じて、実践的な技術力を身に着ける。		
13	招聘講演等	平成22～24年度	環境都市工学科1年	・木更津市役所都市計画部 ・県内環境NGO	授業科目の時間内で学生向けに講演を行っていただいている	環境都市工学概論1	
14	招聘講演等	平成20年～22年度	全学生	・地域企業 ・本校卒業生	技術振興交流会等を活用した実践的工学教育、3年間で48件の特別講義を実施	企業技術者等活用プログラム	11-3-②-3
15	招聘講演等	平成18年度～	全学科3年生	・他高専教員 ・本校及び他高専の卒業生	年度末の一般特別研究発表会で他高専で活躍している教員及び、ユニークな経験を持つ高専卒業生を招聘し、講話を聴く	一般特別研究	11-3-②-8
16	招聘講演等	毎年1月	各学科4年生	本校の卒業生	産業界の技術者を講師として招聘し講演を行う	進路指導講演会	
17	他機関との協定	平成18年度12月～	全学生、教員	台湾聯合大学教員及び学生	学生、教員の相互派遣 学術シンポジウムの共催	国際交流	11-3-②-5
18	他機関との協定	平成20年度12月～	全学生	ドイツ文化センター	学生派遣、ドイツ語教育	国際交流	11-3-②-6
19	地域交流	毎年7月	外国人留学生(3年生)	木更津市国際交流協会 市内のボランティア家庭	1泊2日のホームステイ		
20	地域交流	平成24年10月	吹奏楽部、ダンス同好会	千葉県、木更津市、地元高等学校	アクアライン・マラソンの沿道応援及びその準備		

(出典 点検・評価委員会資料)

原子力人材育成プログラムによる招聘講演と学外実習

一般特別研究「放射線の物理学」
における原子力研究の促進

○福地 健一・嘉数(大野) 祐子・高橋 邦夫 (木更津高専 基礎学系)

1. はじめに

木更津高専の一般特別研究(第3学年必修科目)で開設している「放射線の物理学」¹⁾において、平成21年度原子力研究促進プログラム(文科省)による補助事業を実施した。

本事業では講座受講生全員が、原子力発電所における実習を体験することで、その後の自由研究における原子力研究を促進することを主目的としている。さらに全学生を対象とした招聘講演及び1年生、4年生を対象とした放射線測定実験実習を通して、全校的に原子力に対する興味・関心を喚起し、関連した物理現象の理解を深めることをねらいとした。

本報告では、事業申請から完了に至るまでの経緯及び事業概要について述べる。

2. 事業申請から完了まで

平成21年2月19日に公募申請書を提出し、3月31日に採択通知ならびに審査委員からの要望及び助言書が送付された。この要望・助言に従って事業内容を大幅に見直し、4月9日、補助金交付申請書(案)を財団法人エネルギー総合工学研究所原子力人材育成プログラム事務局(以下、事務局と言う)に提出した。

補助金交付申請書(案)の書式及び購入物品の用途に関して事務局より5回の質問・回答書のやり取りがあり、その都度修正を加えて5月20日に補助金交付申請書(正式版)を文科省に提出した。その後、文科省より消耗品の要求理由について、数回にわたって質問・回答書のやり取りがあり、6月10日ようやく交付決定がなされ事業開始となった。補助金は、事業実施計画に厳密に従って予算を執行した後、3ヶ月毎に概算払で本校に入金された。

事業実施中は、10月13日に事業進捗状況及び予算執行状況を報告、平成22年1月14日には事業に参加した学生の実人数を報告した。

事業終了後、4月9日までに実績報告書(実施状況が分かる写真及び実績に関するエビデンスを添付)、事業成果報告書(ほぼ実績報告書と同じ書式)、アンケート調査票の提出を行う必要があった。中でもアンケート調査票が重要であり、目標の達成度、

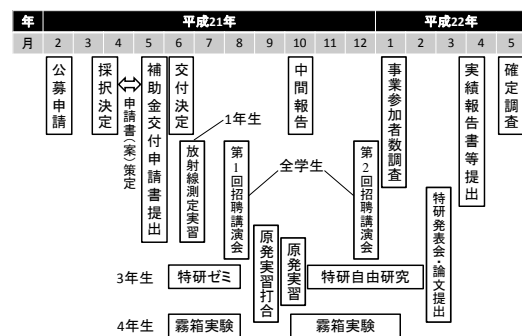


図-1 事業の流れ

特筆すべき成果、事業の継続・定着状況、成果の公表状況、審査委員からの要望・助言事項の対応状況、事業に参加した学生・教員数、原子力産業への就職者数、原子力関連の公的資格取得者数などを詳細に記述した。

事業終了後(平成5月13日)、本校において文科省行政調査員らによる確定調査が実施され、成果報告書を基に申請書に記載した計画通りに事業が実施されたかどうか、3時間近くヒアリングが行われた。経理面はもちろんのこと、事業内容に関してもエビデンスを揃え丁寧に説明を行った。その際、事業計画と実施内容の矛盾点(実施時期、参加人数など)については、その理由について詳しく尋ねられた。

3. 事業の実施概要

(1) 環境放射線の測定実習

第1学年基礎科学の授業において、校内の様々な条件下(屋内では構造物や場所による違い、屋外では土壌や地表からの高さによる違い)での γ 線量を測定した。測定にはポケットサーベイメータ(アロカPDR-101)を使用した。既存品4台に加え本補助金で3台を追購入し、5~6人のグループ毎に実習を実施した。また、実習に先立ち、放射線の基礎知識を含めた1時間のガイダンスを行った。

実習後は、測定値を年間積算量(mSv/y)に換算し全国データとの比較を行わせ、考察を加えてレポートとして全員に提出させた。

(2) 招聘講演会の実施

第1回目（平成21年8月6日）は「日本の原子力発電～考えよう，日本のエネルギー～」と題して東京電力（株）の技術者2名（内1名は本校OB）による講演を実施した。第1部は2年生のHR企画（45分）として183名が参加，第2部は上級生向けの内容（90分）で23名が参加した。

第2回目（平成21年12月22日）は「ニュートリノで解き明かす宇宙の謎～スーパーカミオカンデ実験最前線～」と題して，東大宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設特任研究員による講演を実施した。全学生を対象とした75分の講演を実施し，210名が参加した。また，講師の紹介で事前に女子学生3名がスーパーカミオカンデ施設の見学ツアー（東京大学女子中高生理系進路支援企画）に参加した。

(3) 原子力発電所における実習

平成21年9月29，30日の2日間，本特研受講生全員（13名）が福島第一原子力発電所において実習および施設内の見学等を行った。本補助金で借上げバスを調達できたが，学生の宿泊費は実費となった。

実習前に放射線の基本性質，工学，医療における放射線の応用，放射線の人体影響，核分裂反応，原子力発電の基本原則と原子炉の種類に関してゼミ形式で学習した。また，8月28日，現地にて実習に関する打ち合わせを行い，事前学習用の資料（原子力2008，原子力2009コンセンサス等）を受領した。

実習1日目は身元確認の後，原発敷地内の諸施設を見学した。今回，特別な許可を得て，放射線管理区域内である原子炉建屋に入ることができ，学生の満足度も高かった。実習2日目は発電モータの分解実習（図-2），Ge検出器による敷地内土壌の γ 線スペクトル分析（図-3）を実施し，最後に所長による講義（原子力発電所における環境対策について，福島第一原子力発電所の高経年化技術評価について）を受講した。

実習後は，関連する事項について約半年間の自由研究を行った。自由研究の成果は全て論文としてまとめられ，平成22年2月26日に行われた木更津高専一般特別研究発表会において，3件のポスター発表及び4件の口頭発表を行った。



図-2 モータの分解実習



図-3 土壌の γ 線分析

(4) 応用物理実験での放射線測定実験

第4学年の応用物理実験では，以前より「霧箱による α 線・ β 線飛跡の観察」及び「GM管による β 線量の測定」を行ってきた。本補助金によりデジタル一眼レフカメラ，ノートパソコン，カラーレーザープリンタを整備し，霧箱での放射線飛跡を鮮明な画像として記録し， α 線・ β 線の特性について定量的な解析を行うことが可能となった。

4. 事業成果と分析

本特研受講生を対象とした原子力発電所実習は，その後の自由研究における大きな原動力となり，研究内容の充実，質の向上という点で予想以上の成果が得られた。この理由として，ゼミでの学習内容を実体験できたこと，高セキュリティの原子炉建屋内に立入るといった特別な体験をすることができたこと，学生が各専門分野で学んだ最新技術が現場で活かされていることが分かったこと等が挙げられる。また，事前に綿密な打合わせを行い，実習先で満足いく指導を受けられたことも重要と考える。

招聘講演会では，アンケート結果から原子力の有用性と安全性に対する意識改革及び原子力に関連する物理現象に対する興味関心の大幅な向上が見られた。理由としては，講師に本校OBが含まれていたこと，本校学生が事前に先方施設の見学に行き講師と親睦を深めていたことなどが挙げられる。尚，この招聘講演会をきっかけとして，平成22年度の一般特別研究で「放射線の物理学」を第一希望とした学生が増加したため，講座定員を1名増員し，講座名を「原子力と放射線の物理学」と変更した。

5. まとめ

本プログラム参加学生実数は561名におよび，まさに全校的プロジェクトであった。計画通りに事業を実施することができ，本講座受講生の原子力研究の促進及び全校的な原子力への関心を喚起するという計画目標は十分に達成できたと考える。また，外部委員による成果評価においては最高ランクのA評定を受け，本教育プログラムによって原子力基礎教育を体系的に行ったことが高く評価された。補助金という予算措置がなくなった後，いかに本事業に継続性を持たせるかが今後の課題である。

参考文献

- 1) 福地健一，木更津高専一般特別研究・「放射線の物理学」について，高等専門学校の教育と研究，Vol.14，p.119-124（2009.10）。

企業技術者等活用プログラムによる招聘講演会

企業技術者等を活用した実践的工学教育

木更津工業高等専門学校 ○石川雅之, 橘川五郎, 高橋秀雄

1. まえがき

高専が目指す実践的工学教育を進めるにあたり、企業の技術者や経営者等による特別講義を聴かせることは、企業や技術者の姿を知らせる有効な手段の一つである。そこで、本校技術振興交流会の会員企業等の技術者・経営者による「ものづくり」教育に関する特別講義プログラム「技術振興交流会等を活用した実践的工学教育」を専攻科長を中心に計画し、国立高専機構の「企業技術者等活用プログラム」に採択され、H20年度からの3年間で48件の特別講義を開催した。本発表の内容はその活動報告である。

2. 講義形式・内容

高専の教育目標であるデザイン能力や問題解決能力は、主に卒業研究や専攻科特別研究にて育成される。しかし、通常は研究分野が絞られるため、融合・複合型技術者の育成という観点からは、更に広い視野を持つことが求められる。そこで、幅広い分野と職種の技術者・経営者によるオムニバス方式の講義を実施することで、視野の拡大と産業界への理解を深めることを目的とした。

以下に、考慮した事項を列挙する。

- 1) 各学科を主担当とした全学科共通講義の他に、各学科単独講義も取り入れたが、H22年度は原則全学科共通講義とした。
- 2) 全学科共通講義は、原則として火曜日6時限終了後に開催したが、講師の都合や学校行事の関係で、他の曜日の放課後等でも開催した。各学科単独講義では、この他に授業の空き時間等も利用した。
- 3) 対象学生は、本科高学年～専攻科生を主体としたが、全科全学年に呼びかけ、一部は低学年対象の講義も開催した。
- 4) 講師には、企業の歴史・現況・将来展望、技術開発状況、ものづくりの工夫、学生へのメッセージなど幅広い内容から選んでの講義をお願いした。

3. 地域連携交流と本校OB

木更津高専は、千葉県南部では唯一の理工系高等教育機関として地域連携を重視し、H12年に共同利用施設である地域共同テクノセンターを開設し、H16年に近隣の企業や商工会議所と連携した木更津高専技術振興交流会を設立した。日頃から、共同研究、公開講座、出前授業などの拡充に努めている。また、本校では、H23年春までに本科5906名、専攻科283名のOBを送り出し、幅広い企業で活躍している。

しかし、学生は、地域企業やOBと接する機会が

多くはないため、活躍状況を深く理解しているとは言いがたい。そこで、産業界への理解を深めるためにも、技術交流振興会会員企業を中心とする地域企業や本校OBを、主な講師依頼先とすることとした。

4. 実施状況

講義は、技術交流振興会副会長である地域企業経営者の熱弁(図1)を皮切りに、表1の様に実施した。講師依頼には苦労したが、本校OBや県内企業には50%近くを、会員企業には25%を依頼できた。

パワーポイントを用いた講義(図2)が多かったが、プレゼン資料を使わない講義や、後半にデモ実験を行う講義(図3)など多様であった。

文末の資料に示すように内容も多様で、創業者や市会議員の講義は専門外でも分かりやすく説得力があった。また、OBの講義は、学生にとって将来をイメージし易いせいか質問も多かった。

参加学生数は、30名～150名とバラツキが大きかった。特に火曜放課後は、他の行事と重なりやすく、参加学生数に影響が出た。学生の他に、技術振興交流会会員や教職員の参加もあった。

表2に月毎の開催件数を示す。H20～H21年度は開催月による差が大きく、H22年度になって平均して開催できるようになった。



図1 第1回は地域企業経営者の熱弁

表1 講義件数とその講師内訳

	H20	H21	H22	計
特別講義件数	20	16	12	48
会員企業 (内数)	7	4	1	12
県内企業 (内数)	11	8	2	21
本校OB (内数)	9	7	4	20



図2 パワーポイントを用いたOBの講義



図3 講義後半の飛行ロボットのデモ実験

表2 実施月毎の講義件数

	H20	H21	H22	計
6月	0	0	1	1
7月	0	1	2	3
8月	0	0	2	2
10月	3	1	0	4
11月	2	2	0	4
12月	3	2	2	7
1月	7	2	2	11
2月	5	8	3	16
計	20	16	12	48

5. あとがき

企業や本校OBの協力を得て、ものづくり実践教育のための特別講義を、オムニバス型式で実施することができた。依頼先企業、件数、日程などを検討し、継続開催に努めたい。学生は産業界に対する理解が深まったが、今後は、学生からの改善提案や共同研究に発展することを期待したい。

6. 資料

【20年度タイトル】

- ・わが社の経営における研究開発と多角化戦略
- ・ブロードバンド社会の映像処理技術

- ・トータルなIT環境を提供する総合インテグレータ
- ・東京湾を語る
- ・国際宇宙ステーションを担うわが社の製造技術
- ・商品設計を支えるテクノロジー
- ・デジタルものづくり
- ・夢のあるエンジニアライフ
- ・ものづくりを支える材料評価技術・計測システム技術
- ・宇宙と地球を繋ぐ技術
- ・技術の我が社 太陽電池・ハイブリッドカー、LED、材料に注力
- ・企業技術者によるものづくり実践教育
- ・高速回転機の動向とかずさ AP への展開
- ・もの創り、「開発から商品化へ」
- ・システムエンジニアリング (SE) の仕事
- ・地元工務店経営者としての地元と共に歩んで38年 ー今地域に何ができるかー
- ・進路決定への自覚
- ・金型加工におけるCAMの実状
- ・企業技術者・経営者によるものづくり実践教育
- ・英語で生活、英語で仕事

【21年度タイトル】

- ・鉄鋼メーカーの技術者、研究者として感じること
- ・鋼橋へのアプローチ
- ・仕事の道具：英語
- ・君たちが起業するとき
- ・社会での技術者の心構え
- ・産業排水処理技術者の先輩として
- ・洞窟の外の赤い火
- ・コンサルタント業務を通じた社会基盤づくり
- ・好奇心の火を絶やさない
- ・製品開発と設備開発のコンカレントなものづくりについて
- ・在学中に自分がやりたいことを見つけましょう
- ・企業（技術現場）が新人技術者に期待するもの
- ・時代を支える技術者とは
- ・知的財産と日本
- ・デジタルカメラ業界の現状と今後の展望
- ・我が社におけるシステム制御関連業務のご紹介

【22年度タイトル】

- ・エンジニアリングと海外プロジェクト
- ・空撮用自律飛行ロボットの紹介
- ・商用車の開発と品質保証
- ・特許について
- ・東京港臨海大橋の製作
- ・森づくりは人づくり
- ・航空機設計に憧れて
- ・工学と国際協力
- ・機械技術者として30年超
- ・ディペンダブルコンピューティング
- ・トラブル大好き！ in アジア
- ・未来をつくる化合物半導体

(出典 平成23年度全国高専教育フォーラム教育研究活動発表概要集)

企業技術者等活用プログラムによる企業訪問

目次



IT トロン (木更津市)	1
飯田パッキン工業 株式会社 (市原市)	2
出光興産 株式会社 (市原市)	3
株式会社 イハラ (君津市)	4
株式会社 上総環境調査センター (木更津市)	5
有限会社 葛飾製作所 (市原市)	6
京美 株式会社 (市原市)	7
共立化成 株式会社 (市原市)	8
株式会社 極東石油 (市原市)	9
株式会社 ケーアイテクノ (袖ヶ浦市)	10
有限会社 京葉ダイカスト (市原市)	11
弘洋電子機器 株式会社 (君津市)	12
株式会社 さわや (木更津市)	13
産機エンジニアリング 株式会社 (君津市)	14

株式会社 写楽館 (木更津市)	15
株式会社 ジュピターコーポレーション (富津市)	16
株式会社 鈴三テクノ (袖ヶ浦市)	17
ソニーイーエムシーエス株式会社 木更津テック (木更津市)	18
株式会社 たくみ工房 (木更津市)	19
株式会社 千葉オイレッシュ (君津市)	20
T・D・S 株式会社 (市原市)	21
株式会社 東邦化学研究所 (市原市)	22
株式会社 豊産マシナリー (市原市)	23
有限会社 トレス環境システム (市原市)	24
株式会社 中西電機工業 (市原市)	25
株式会社 長野建設 (木更津市)	26
ナブソン 株式会社 (市原市)	27
株式会社 日伸精機 (君津市)	28

株式会社 日鉄エレックス (君津市)	29
日本データマテリアル 株式会社 (市原市)	30
羽田大豊工業 株式会社 (君津市)	31
春川鉄工 株式会社 (木更津市)	32
株式会社 不二越製作所 (富津市)	33
株式会社 藤田製作所 (茂原市)	34
富洋観光開発 株式会社 (富津市)	35
株式会社 前田製作所 (市原市)	36
株式会社 正木設計 (君津市)	37
有限会社 ミツ矢精密 (袖ヶ浦市)	38
株式会社 リプラス (袖ヶ浦市)	39
六幸電気工業 株式会社 (木更津市)	40
有限会社 YNS エラストック (君津市)	41
ワッケン 株式会社 (木更津市)	42

(出典 学生の企業訪問報告書「千葉匠の力」：現地閲覧資料29)

台湾國立聯合大学との国際交流協定締結

2006年12月13日（水）

日台シンポジウムの期間中である12月13日（水）に、台湾國立聯合大学（聯合大学）の李隆盛学長以下14名の先生方が本校を訪問しました。

校内施設見学後、河上校長、黒田副校長及び鵜田教授から日本の教育システムから本校の教育システムや JABEE 受審に関する講演が行われました。その後、台湾代表処の来賓同席の内、両校の間に「教育研究活動の相互交流に関する協定書」が締結されました。今後、両校間での情報交換、人材交流、共同研究における今後の進展が期待されことになりました。



李学長(左)と河上校長(右)



記念品贈呈



交流協定締結歓迎会

(出典 木更津工業高等専門学校ウェブページ)

<http://www.kisarazu.ac.jp/kokusai/COOP2006.html>

ドイツ外務省との協定締結

木更津高専が「パートナーシュール(PASCH)」に参加

(日本で最初の参加校)

2008年12月4日(木)

ドイツ外務省が進めているプロジェクトである「パートナーシュール」(Partnerschule 略: PASCH)に木更津工業高等専門学校(校長:河上恭雄)が参加することに決まりました。このプロジェクトは世界各国でドイツ語を学習している学校500校、ドイツ人学校500校、合計1000校がパートナー校として協定を結び、交流活動を通してドイツ語能力を向上させるとともに、ドイツ語学習者を拡大しようとするものです。木更津高専は日本における最初のパートナー校に決まり、12月4日(木)午後、「PASCH」協定の調印式およびパーティーが木更津高専にて開催されました。

パーティーでは「PASCH」の実施団体であるゲーテ・インスティトゥートから本場ドイツのソーセージやパン(ブレッツェル)が用意され、VW(フォルクスワーゲン)車の展示や、VWの最新技術のプレゼンテーションなどが行われました。さらに学生には図書や記念Tシャツが贈呈されました。

今後、木更津高専はゲーテ・インスティトゥートが提供するパートナー校の様々な特典を活用して、学生がドイツ語能力を向上させ、ドイツ語検定試験に合格し、奨学金を得てドイツでの研修・交流活動に参加することを目指していきます。



調印式での記念撮影



記念パーティ

(出典 木更津工業高等専門学校ウェブページ)

<http://www.kisarazu.ac.jp/kokusai/pasch2008.html>

資料11-3-②-7

部活動における外部指導員委託状況

平成 25 年度クラブ技術指導員依頼者名一覧

	コ ー チ 氏 名	ク ラ ブ 名	住 所	電話番号	備考
1	●●●●	陸上競技部	●●●●	●●●●	卒業生(H10年度) 11年
2	●●●●	女子ホッケー部	●●●●	●●●●	本校元教員 3年
3	●●●●	ホッケー部	●●●●	●●●●	卒業生(H20年度) 1年
4	●●●●	バレーボール部	●●●●	●●●●	卒業生(H10年度) 3年
5	●●●●	女子バレーボール部	●●●●	●●●●	卒業生(H20年度) 2年
6	●●●●	バスケットボール部 女子バスケットボール部	●●●●	●●●●	元千葉県高校教諭 1年
7	●●●●	空手道部	●●●●	●●●●	卒業生(H14年度) 8年
8	●●●●	華道部	●●●●	●●●●	近隣有技能者 15年
9	●●●●	茶道部	●●●●	●●●●	近隣有技能者 7年
10	●●●●	囲碁部	●●●●	●●●●	近隣有技能者 8年
11	●●●●	ソフトテニス部	●●●●	●●●●	本校元教員 (新規)

(出典 学生課学生係資料)

一般特別研究発表会における特別講演の実施実績

●平成19年2月27日(火)

特別講演1 ■■■先生(■■高専・一般科目・数学)「全国高校生科学コンテスト(JSEC2006)への参加と入賞の報告」(9:00~9:20)

特別講演2 ■■■■先生(■■高専・一般教科人文社会系・経済学等)「■■高専における連携授業の概要」(14:20~14:30)

特別講演3 ■■■■先生(■■高専・一般教科自然科学系・数学)「計算機を用いた数学の授業に関する紹介」(14:30~15:20)

●平成20年3月3日(月)

特別講演1 ■■ ■■■先生(■■■■高専・一般科目・社会)「作って学ぶ日本史授業」(9:00~10:00)

特別講演2 ■■ ■氏(建築家, ■■高専建築科出身)「蟻鱒鳶ル双六」(14:00~15:00)

●平成21年3月3日(月)

特別講演1 大阪府立高専特研発表会優秀学生による発表(9:00~9:30)

特別講演2 ■■ ■■氏(■■■■社員 高専プロコン王者・プロコン最優秀賞3回, 審査員特別賞1回受賞, ■■高専専攻科卒業) (14:10~15:10)

●平成22年2月26日(金)

特別講演 ■■大学工学部 ■■ ■先生(木更津高専電子制御工学科■■■■卒業生)
「南極調査隊の話」(14:10~15:10)

●平成23年2月25日(金)

特別講演 ■■ ■氏(木更津高専電子制御工学科■■■■卒業生)
「ブラジルでのNPO活動の話」(14:10~15:10)

●平成24年2月22日(水)

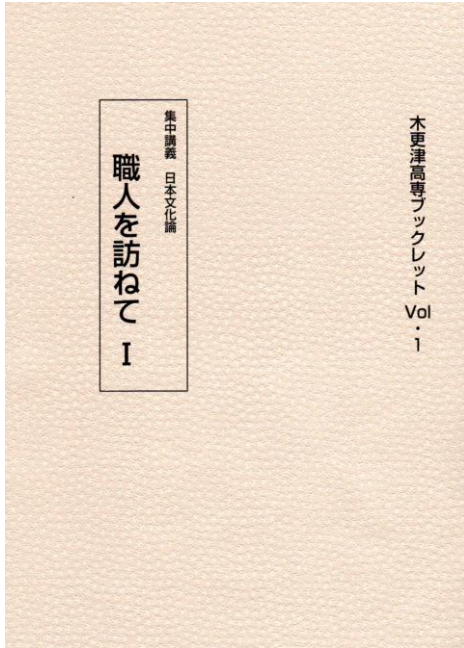
特別講演 ■■ ■■氏(木更津機械工学科■■■■卒業生)
「道具の面白さ」(14:00~15:00)

●平成25年2月21日(木)

特別講演 ■■ ■■氏(木更津高専機械工学科■■■■卒業生)
「飴細工師への道」(14:00~15:00)

(出典 一般特別研究発表会配布資料)

日本文化論における地元職人の訪問



◎目次

はじめに 1

父の技を受け継ぐ (矢師・鳥山真さん) 1

やりたいもの やれるもの (白作り・元良吉弘さん) 7

遊び心で工夫を重ねる (上総角風・高澤文雄さん) 13

伝統の技を伝える (雨城楊枝・森隆夫さん) 19

やりたい時にやりたいだけ (木象嵌・戸島甲喜さん) 23

あとがき 29

はじめに

人文学系・国語科 五十嵐譲介

「もの作りの面白さ」は現場にある、と思ってきた。何とか高専生をもの作りの現場に触れさせたいと思いつながらも、国語教師である自分にはなかなか難しい課題であった。それがひょんなことから実現した。人文学系非常勤時間数削減を目的としたカリキュラム改訂の苦しい模索の中で、国語科案の夏休み「集中講義」が承認されたのだ。「日本文化論」と題した夏休み中の集中講義の内容は「職人取材」に焦点を絞ったものだ。職人の作業場に出かけ、職人の話を聞き、それを短い記事にまとめる。この生きた言語活動を1単位の集中講義「日本文化論」として新カリキュラムに組み入れることが実現したのである。

ここで他高専の先生方への参考のためにこの授業の概要を説明しておく。

一、テーマ「日本文化論」―千葉県の職人文化を探る―

内容は取材活動が中心となる。最後に取材記事をグループごとにまとめ、ブックレットを作成する。

二、授業スケジュール 夏休み中の3日間(1日6時間×3日=18時間)

取材活動(1日6時間) 編集作業(1日6時間) 合計30時間(1単位)

三、授業形態 2年生対象の自由選択科目(3年以上も履修可能)

四、国語科教員の負担 常勤教員は2名。それぞれが1日を担当し、残りの1日は外部より非常勤講師を依頼する(今回は、物作りの現場で活躍している卒業生に非常勤講師をお願いし、更に現役の新聞記者にも特別講演をお願いすることができた。取材活動は10、12月中の休日を利用する。

学生は22名が受講した。学生達は、新聞記者の講演で取材の基本を学び、その後、5グループに分かれて、取材先の選択から実際の取材を行い、短い記事にまとめた。どのグループも楽しく新鮮な気持ちで職人さんの話に聴き入っていた。特に職人さんの仕事場に入らせてもらい、物作りの道具を間近に見て、もの作りの苦心と楽しさを直接聞いたことは、学生達にとって新鮮で刺激的な体験になったことだろうと思う。そんな学生達の思いはこの取材記事によく表われている。我々教員もこれほど面白い授業を実践できて本当に良かったと思っている。何よりもこの集中講義のために、お忙しいにも拘わらず快く取材を了承して下さった職人さん達には本当に感謝申し上げます。

最後に、まとめのブックレットを完成するのが、いろんな事情が重なり大変遅くなってしまったこととは、取材先の職人さん始め、御協力頂いた関係者の方々に大変申し訳ないこととお詫び致します。しかし、難産の末、拙いながらも心を込めて手作りの冊子にまとめることが出来ましたので、お読み頂ければ幸いです。

(出典 集中講義日本文化論「職人を訪ねて I」, 現地閲覧資料30)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、企業技術者等活用プログラム等を有効に活用し、地域企業の技術力を本校の教育に取り入れている他、台湾国立聯合大学及びドイツ外務省との協定締結による他機関資源の活用、卒業生及び退職教員による学友会部活動の指導等、学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用している。

観点11-4-①： 高等専門学校における教育研究活動等の状況や、その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

(観点に係る状況)

本校の使命、各学科・専攻の学習教育目標、基本組織等に関しては、毎年度発行している「学校要覧」(資料11-4-①-1)に掲載している。学校行事等に関しては、年2回発行している「木更津高専だより」(資料11-4-①-2)で近況の報告を行っている。地域連携に関する活動内容は、毎年度当初に発行している「テクノセンターニュース」,「地域共同テクノセンター活動報告書」,「地域共同テクノセンター事業報告書」(資料11-4-①-3)に掲載している。教員の研究内容については、「研究シーズ集」(資料11-4-①-4)を発行し、研究成果については、「木更津工業高等専門学校紀要」(資料11-4-①-5)の研究業績目録に掲載している。これらの刊行物は、全て本校ウェブページ(資料11-4-①-6)から閲覧できる他、「木更津工業高等専門学校紀要」はCiNii Articlesからも検索及び全文の閲覧が可能である。また、本校ウェブトップページ(資料11-4-①-7)には「ニュース&トピックス」及び「イベントカレンダー」を掲載し、教育研究活動のわかりやすい公表に努めている。さらに、学校教育法施行規則第172条の2第1項に規定されている情報の公開に関しては、本校ウェブページの学校概要において「教育情報の公表」という独立したページ(資料11-4-①-8)を設け、わかりやすい形で公表している。

学校要覧



Kisarazu National College of Technology

国立木更津工業高等専門学校

学校要覧 2012

目次	CONTENTS
2	本校の使命 The Social Responsibility of the College
2	教育方針 The College's Educational Policy
3	本校の沿革 History
4	組織 Organization
5	準学士課程の学習・教育目標 Education in the Semi-Advanced Courses
6	一般教育 General Education
9	機械工学科 Dept. of Mechanical Engineering
11	電気電子工学科 Dept. of Electrical and Electronic Engineering
13	電子制御工学科 Dept. of Control Engineering
15	情報工学科 Dept. of Information and Computer Engineering
17	環境都市工学科 Dept. of Civil Engineering
19	専攻科概要 Advanced Engineering Courses
19	専攻科課程の学習・教育目標 Education in the Advanced Courses
20	機械・電子システム工学専攻 Mechanical and Electrical Course
21	制御・情報システム工学専攻 Control and Information Course
22	環境建設工学専攻 Civil and Environment Course
23	「生産システム工学」教育プログラム The "General Engineering" Education Program
24	国際交流 International Exchanges
25	地域との連携 Alliances with the Community
25	地域共同テクノセンター Cooperative Technology Center
27	図書館 Library
28	ネットワーク情報センター Information Network Center
28	実験実習センター Experiment Practice Center
29	学寮 Dormitory
30	保健室、学生相談室、福利厚生施設 Dispensary, Counseling Center, Welfare Facilities
31	学生会組織 Student Council
32	平成24年度の行事予定 College Calendar
33	学生の概況 Students
35	卒業後の進路 Course after Graduation
37	収入・支出額等 Incomes and Expenditures
38	建物配置図 Map of the Campus
38	施設の概要 Facilities
39	学校位置図 Location of the College

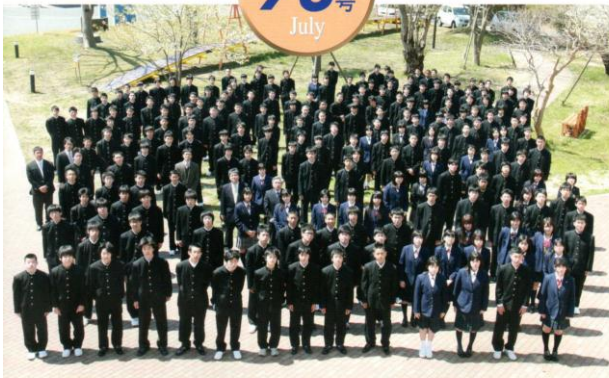
(出典 木更津工業高等専門学校学校要覧2012)

<http://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/yoran2012.pdf>

木更津高専だより

木更津高専だより

2012
73号
July

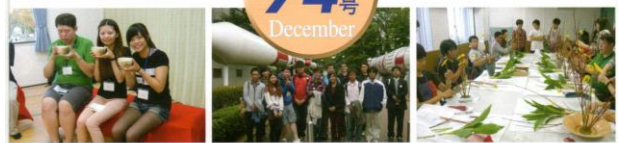


平成 24 年度学科新入生

校長講話	1	新留学生紹介	8
専攻科の近況報告	2	研究室紹介	8
教員の高専間交流	3	新入生合宿研修、2年生校外学習	9
国際交流	4	平成23年度 修了生・卒業生進路先一覧	10
退職教職員挨拶	5・6	クラブ紹介	11
新任教職員紹介	7	お知らせ	11

木更津高専だより

2012
74号
December



台湾国立聯合大学から短期留学生 10 名を受け入れました (関連 11 ページ)

校長講話	2	デザコン報告	9
専攻科の近況報告	3	バーチャルリアリティコンテスト報告	9
4年生見学旅行	4・5	パソコン甲子園報告	9
第47回全国高等専門学校体育大会	6	体育祭を終えて	10
授業紹介	7	祇園祭を終えて	10
クラブ紹介	7	国際交流	11
ロボコン報告	8	お知らせ	12
プロコン報告	8		

(出典 木更津高専だより第73号, 第74号)

<http://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/dayori73.pdf>

<http://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/dayori74.pdf>

地域連携に関する活動報告

平成 24 年 3 月 31 日

木更津工業高等専門学校平成 23 年度 地域共同テクノセンター活動報告

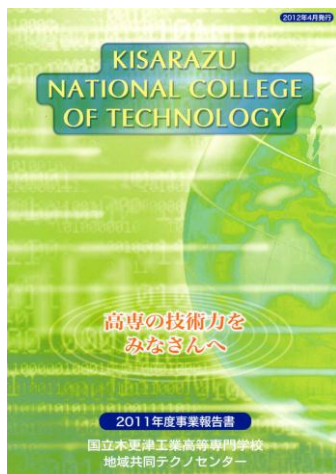
I 平成 23 年度活動の結果と点検評価

1. 新たな活動
 1. 1 企業技術者等活用プログラムの実施(教員OBと産業界とのCOOP教育の実践)
 1. 2 研究設備シーズ集の作成と公開
 2. 継承した事業活動
 2. 1 小中学校教員への教育支援
 2. 2 外部資金獲得に関する啓蒙活動
 2. 3 木更津工業高等専門学校技術振興交流会への協力
 2. 3. 1 テクノフォーラム
 2. 3. 2 技術振興交流会分科会
 2. 3. 3 レベルアップ講座
 2. 4 生涯教育, 出前授業など
 2. 4. 1 2011 サイエンススクエア
 2. 4. 2 出前授業
 2. 4. 3 公開講座
 2. 4. 4 テレワークセミナー
 2. 5 外部資金の確保
 2. 5. 1 共同研究, 受託研究, 奨学寄附金及び受託試験
 2. 5. 2 技術相談事業
 2. 5. 3 知財講習会
 2. 5. 4 科研費獲得にむけての講習会実施
 2. 5. 5 科学研究費の申請に関するアンケートの実施
 2. 6 その他外部機関等との交流
 2. 6. 1 高専間・大学間交流
 2. 6. 2 市町村との交流
 2. 6. 3 県との交流
 2. 6. 4 地域交流(来校)
 2. 7 広報事業
 2. 7. 1 メディア作成
 2. 7. 2 メディア発信
 2. 7. 3 公的機関の広報紙発信
 3. ラボの稼働状況
 4. 課題
- II 運営委員会の実績
- III 運営委員会委員と事務部担当

:: センターニュース

PDFデータです

創刊号	開所式と各ラボの紹介 (2001年6月)
第2号	事業報告、研究者紹介 (2002年1月)
第3号	共同研究事例、Topics、地域協力活動報告 研究者紹介 (2002年7月)
第4号	研究者紹介、新任教官紹介 (2003年3月)
第5号	共同研究事例、中学校出前授業報告 (2003年12月)
第6号	研究者紹介、地域連携の記録、取材(相川昭夫氏) (2005年3月)
第7号	専攻科研究紹介、取材(アロマ工芸) (2005年9月)
第8号	研究者紹介、活動記録、取材(ナノン(株)) (2006年3月)
第9号	研究者紹介、取材シリーズ(有)ワイエヌエスエラスティック) (2006年9月)
第10号	専攻科特別研究紹介、取材シリーズ(千葉オイレッシュ(株)) (2007年3月)
第11号	サイエンススクエア、出前授業、取材シリーズ(富津オートサービス)) (2007年9月)
第12号	若手研究者紹介、活動記録(2008年3月)
第13号	レベルアップ講座、若手研究者紹介、新聞記事紹介(2008年10月)
第14号	退職教員挨拶、地域活動、研究者紹介(2009年3月)
第15号	副センター長挨拶、レベルアップ講座、地域活動、研究者紹介 (2009年10月)
第16号	センター長・副センター長対談、プログラミングコンテスト活動報告、実験実習センターの改修、SPP実施報告、海外協力プロジェクト、研究者紹介、地域連携、産学連携の記録(2010年3月)
第17号	センター長・副センター長挨拶、コラボ産学官での講演、出前授業等の実施状況、レベルアップ講座、新任教員紹介、専攻科特別研究紹介(2010年10月)
第18号	副センター長・退職者挨拶、地域連携・産学連携の記録、イベント実施状況・共同研究等受入れ状況、木更津サイエンススクエア実施報告、シーズ集発行のお知らせ(2011年3月)
第19号	センター長挨拶、企業技術者等活用プログラムの実施、地域連携・産学連携の記録(2012年3月)



(出典 ①地域共同テクノセンター活動報告書, ②テクノセンターニュース, ③地域共同テクノセンター事業報告書)

① <http://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/techno2011.pdf>

② <http://www.kisarazu.ac.jp/techno/houkoku/act-repo-2011.pdf>

③ http://www.kisarazu.ac.jp/techno/activity_report.htm

研究シーズ集（抜粋）

研究
シーズ集

Kisarazu National College of Technology



木更津工業高等専門学校

木更津高等 シーズ集 基礎学系

蛍光計測による植物診断技術の開発

研究概要

我々はレーザー技術を応用した光計測に関する研究を行っています。現在、特に力を入れているのは、**レーザー誘起蛍光法**による植物診断技術の開発です。既に、植物葉から放出される**蛍光情報**を**葉の活性評価**を行うことに成功しております。

光計測による物理的診断手法は、従来の熟練者の経験に基づく目視診断や葉の成分分析といった化学的手法と比較すると客観性、簡便性において有利であり、**広範囲にわたる植物生育モニタリング**に適しております。本技術を用いて地球温暖化等の大規模な環境変動に起因する様々な**植物障害を早期に検出**して適切な処置を施すことで、農作物や森林の被害を最小限に食い止めることが可能となり、**食料問題及び環境問題**の解決に大きく貢献できるものと考えております。

紫外LED励起 → 紫外線ストレスを与えたラッカセイ葉 → 蛍光強度 (a.u.) vs Wavelength (nm) graph showing peaks for Control, UV-B 400nm² × 2h, UV-B 400nm² × 4h, and UV-B 400nm² × 6h.

紫外レーザー励起 → クロマトン断面写真 → 蛍光イメージ → マツノザイセンチュウを接種したクロマトン断面

マルチチャンネル分光システムを用いて葉の蛍光スペクトルを測定

イメージング分光画像解析システムを用いて蛍光の葉内分布を測定

キーワード 蛍光分析, 紫外レーザー, 分光計測, 画像解析

主な研究分野 ・植物診断技術の開発
・紫外LEDを利用した蛍光計測

技術相談分野 ・微弱光(主に蛍光)スペクトル計測
・イメージング分光計測

装置一覧 高感度マルチチャンネル分光測定器, イメージング分光画像解析システム, 各種レーザー光源(UV~可視)

氏名: 福地 健一 (ふくち けんいち)
所属: 基礎学系
Mail: fukuchi@kisarazu.ac.jp

Kisarazu National College of Technology

(出典 研究シーズ集表紙 72頁)

http://www.kisarazu.ac.jp/techno/seeds/seeds_frame.html

木更津工業高等専門学校紀要（抜粋）

Cinii		日本の論文をさがす	大学図書館の本をさがす	国立高等専門学校機構 様	定額	新規登録	ログイン
論文データ更新の中断・一部機能停止(3/29~3/31)のお知らせ							
TOP > CINIi本文収録刊行物ディレクトリ > 木更津工業高等専門学校 > 木更津工業高等専門学校紀要 > 45							
木更津工業高等専門学校紀要		木更津工業高等専門学校		45 (20120300)		CINIi Books	
表紙 本文: CINIi							
目次 本文: CINIi							
キャリア指導における「自信をもて」と「やりたいこと」		本文: CINIi		1-10			
機械的なシステムの効率的な運動		本文: CINIi		11-15			
校内樹木資源の活用-樹木名調べ,樹木ラベル貼りとホームページ作成-		本文: CINIi		17-20			
イギリス議会開会式にふりかざされる境界の問題		本文: CINIi		21-25			
日本人英語学習者に対する「Test-taking strategies」指導の効果検証		本文: CINIi		27-32			
紫外及び近紫外LEDを用いた植物葉内色素励起光源の作製		本文: CINIi		33-43			
図入り教材作成用CASマクロパッケージKETpicの新機能		本文: CINIi		45-50			
N字問題における周期解のカタログ-衝突踏解の場合-		本文: CINIi		51-54			
J・ポール・S・R・ギブソン『シェイクスピアが使用した超自然』第2章「シェイクスピアが使用した超自然の様々な形態」の翻訳		本文: CINIi		55-70			
シズルトン・ダイアー『シェイクスピアのフォークロア』第7章「戯題」の翻訳(その2)		本文: CINIi		71-86			
シズルトン・ダイアー『シェイクスピアのフォークロア』第10章「民間療法」の翻訳(その2)		本文: CINIi		87-98			
研究業績目録(2010.10月~2011.9月)		本文: CINIi		99-		104	
編集委員・奥付 本文: CINIi							
CONTENTS 本文: CINIi							

99

研究業績目録（2010.10月～2011.9月）

(研究論文・研究ノート)

KURODA Takaharu et al.: "New Contact Probe without Cleaning Process"; Transactions of the Japan Institute of Electronics Packaging, Vol.3, No.1, pp.91-96, (2010.11)

KURODA Takaharu et al.: "Contact Probe Card with Large Overdrive"; ECS Transactions, The Electrochemical Society, 33(21), pp.57-67, (2011.1)

ODA Isao et al.: "Fluorescence Spectroscopy in Rapid Analysis of Scallop Adductor Muscle"; Transaction of the Institute of Electrical Engineers of Japan, Section A (Fundamentals and Materials), (The Institute of Electrical Engineers of Japan), Vol.131, No.1, pp.51-52, (2011)

内田洋彰: "アクチュエータのダイナミクスを考慮した6脚歩行ロボットの変勢制御"; 日本機械学会論文集 (C編), 76巻, 772号, pp.3680-3688, (2010.12)

高橋秀雄, 高橋三喜男, 他: "プラスチックねじ歯車の寿命推定方法に関する一考察 (グリース潤滑の場合)"; 日本設計工学会誌, 第46巻, 5号, pp.286-294, (2011.5)

丸岡邦明: "低炭素鋼の高周波振動におよぼすC量およびAl量の影響"; 材料技術, 第29巻, pp.129, (2011.4)

UEMURA Shigeki et al.: "Partial nitrification in an airlift activated sludge reactor with experimental and modeling investigations of pH gradient inside sponge support medium"; International Journal of Environmental Research, 5(1), pp.33-40, (2011.1)

清野哲也, 小澤健志, 平安隆雄, 嘉敷祐子, 田所勇樹, 黄野銀介, 浅野洋介, 坂元周作, 栗本育三郎, 鬼塚信弘: "木更津高専における第2学年での混合学級の導入(第2報)"; 論文集「高専教育」(独立行政法人国立高等専門学校機構); 第34号, pp.101-106, (2011.3)

(学会講演・研究発表)

KURODA Takaharu, DAITOH Teruyoshi, KONO Ginsuke: "Practice of the Volunteer

(出典 木更津工業高等専門学校紀要第45号)

http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AN00050946/ISS0000476150_ja.html

ウェブページ上での刊行物の公表状況

独立行政法人国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校

HOME | 交通案内 | 採用情報 | 入札公示 | サイトマップ | お問い合わせ | English

学校概要 | 入試情報 | 学科紹介 | スクールライフ | 卒業生の進路 | 産学連携 | 公開講座等

刊行物

- ◆学校要覧
 - 学校要覧2012【PDF: 5.3MB】
- ◆高専だより
 - 高専だより第74号(平成24年12月発行)【PDF: 4.2MB】
 - 高専だより第73号(平成24年7月発行)【PDF: 3.0MB】
 - 高専だより第72号(平成23年12月発行)【PDF: 4.0MB】
- ◆研究シーズ集
 - 地域共同テクノセンターホームページよりご覧いただけます
- ◆地域共同テクノセンター事業報告書
 - 地域共同テクノセンター2011年度事業報告書【PDF: 5.5MB】
- ◆紀要
 - 図書館ホームページ(GiNiオープンアクセス)よりご覧いただけます

▲このページの先頭に戻る

(出典 木更津工業高等専門学校ウェブページ)
<http://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/magazine.html>

木更津工業高等専門学校ウェブトップページ（ホームページ）

独立行政法人国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校

HOME | 交通案内 | 採用情報 | 入札公示 | サイトマップ | お問い合わせ | English

学校概要 | 入試情報 | 学科紹介 | スクールライフ | 卒業生の進路 | 産学連携 | 公開講座等

中学生の方へ
求人企業の方へ
公開講座
技術相談
図書館
在校生・保護者専用ページ
証明書の発行
国際交流
刊行物

受験生の方へ
学生の目
学生取材記事を掲載しています！
祇園祭
ROBICON
プログラミングコンテスト
PROCON

Google 検索
WWWを検索 | kisarazu.ac.jpを検索

ニュース&トピックス
バックナンバーを見る

- 2013/03/19 【重要】ネットワーク停止について(3月20日)
- 2013/03/14 「JASSO東京日本語教育センター高専編入学留学生に対する実践講座」を実施しました
- 2013/03/14 3年生スキー合宿研修を実施しました
- 2013/03/08 「第4回高専技術教育研究発表会in木更津」を開催しました
- 2013/03/07 平成25年度本校第2志望者合格発表を掲載しました
- 2013/03/07 平成25年度学力検査による入学者選抜を受験した者の入学成績の開示について

イベントカレンダー
バックナンバーを見る

※申込期間等、各イベントの詳細については、リンク先をご覧ください。

- 2013/03/02 学年末休業(3/31まで)
- 2013/03/19 卒業式・修了式

(出典 木更津工業高等専門学校ウェブトップページ)

<http://www.kisarazu.ac.jp/>

本校の教育情報の公表



独立行政法人国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校

Google 検索
WWWを検索 Kisarazu.ac.jpを検索

HOME | [交通案内](#) | [採用情報](#) | [入札公示](#) | [サイトマップ](#) | [お問合せ](#) | [English](#)

[学校概要](#) | [入試情報](#) | [学科紹介](#) | [スクールライフ](#) | [卒業生の進路](#) | [産学連携](#) | [公開講座等](#)

教育情報の公表

学校教育法施行規則第172条の2の規定に基づき、本校の教育情報を公表します。

【1】高専の教育研究上の目的に関すること(第1号関係)

- (1) [進学士課程の学習・教育目標](#)
- (2) [専攻科課程の学習・教育目標](#)

【2】教育研究上の基本組織に関すること(第2号関係)

- (1) [進学士課程\(学科・学系紹介\)](#)
- (2) [専攻科課程\(専攻科総合紹介\)](#)

【3】教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること(第3号関係)

- (1) [教員組織、教員の数](#) (PDF)
- (2) 各教員が有する学位及び業績
 - a [木更津高専 教員紹介](#)
 - b [木更津高専 研究シーズ集](#)
 - c [高専・技科大連合 技術マッチングシステム\(KNTnet\)](#)

【4】入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること(第4号関係)

- (1) [入学者に関する受入方針\(アドミッション・ポリシー\)](#)
- (2) [入学者の数、収容定員、在学する学生の数](#) (PDF)
- (3) [卒業又は修了した者の数、進学者数、就職者数、その他進学及び就職等の状況に関すること](#) (PDF)

【5】授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること(第5号関係)

- (1) [シラバス\(進学士課程、専攻科課程\)](#)
- (2) [進学士課程の教育課程表](#) (PDF)
- (3) [専攻科課程の教育課程表](#) (PDF)

【6】学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること(第6号関係)

- (1) [木更津工業高等専門学校卒業成績審査規程\(進学士課程\)](#) (PDF)
- (2) [木更津工業高等専門学校専攻科授業科目の履修等に関する規程\(専攻科課程\)](#) (PDF)

【7】校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること(第7号関係)

- (1) [キャンパスマップ](#)
- (2) [交通案内](#)
- (3) [教育・研究・福利施設](#)
- (4) [施設の概要、学校位置図](#) (PDF)

【8】授業料、入学科料その他の大学が徴収する費用に関すること(第8号関係)

- (1) [入学科料・授業料](#)
- (2) [奨学金制度](#)
- (3) [授業料の免除、高等学校就学支援金](#)

【9】高専が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること(第9号関係)

- (1) [就職担当教員](#)
- (2) [保健室、学生相談室](#) (PDF)
- (3) [学生会組織\(課外活動\)](#) (PDF)
- (4) [年間行事予定](#) (PDF)

▲このページの先頭に戻る

(出典 木更津工業高等専門学校ウェブページ)

<http://www.kisarazu.ac.jp/gaiyo/kohyo.html>

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育研究活動の状況及びその活動成果に関する情報を、「学校要覧」、「木更津高専だより」、「テクノセンターニュース」、「地域共同テクノセンター活動報告書」、「地域共同テクノセンター事業報告書」、「研究シーズ集」、「木更津工業高等専門学校紀要」等の刊行物の発行及びウェブページにおける「教育情報の公表」という形で広くわかりやすく社会に発信している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

校長が各学科・学系主任及び全教員に対して定期的に面談を実施し、的確に組織の運営状況及び教員の教育研究活動を把握することで、組織を掌握している。

不慮の事故に備え、教職員向けに普通救命講習会を実施し積極的に参加を促している他、メール一斉配信システムを導入し、全学生・保護者・教職員に対する緊急時の情報伝達体制を整備している。

外部評価で指摘された事項に対する対応策を策定し、一定期間後にそれらの進捗状況調査を実施し、確実に改善が実施されているかの検証を行っている。

高専校長間ピアレビューを実施し、校長自らが自身の仕事について点検・評価を行い管理運営上の改善に結びつけている。

台湾国立聯合大学及びドイツ外務省と協定を結び、海外機関の教育資源を有効に取り入れている。本校退職教員をコーディネータとしての専攻科生の地域企業訪問取材及び国語科の集中講義「日本文化論」における準学士課程学生の地域職人訪問取材等、積極的に地域の技術力を教育に取り入れている。

(改善を要する点)

なし。

(3) 基準11の自己評価の概要

木更津工業高等専門学校では、「学則」及び「組織及び運営に関する規則」等の規則によって校長、各主事、各委員会等の役割が明確に定められており、運営調整会議、運営協議会、教員会議等の審議及び合議を経て、校長の強いリーダーシップの下で効果的な意思決定が行える態勢となっている。また、校長は各主任並びに全教員との面談を通して、的確に組織を掌握している。管理運営に関する諸規則も整備されており、各委員会及び事務組織の役割が定められ効率的な組織運営が行われている。また、「危機管理規程」に基づきリスク管理室を設置して、普段より緊急災害マニュアル等の整備や教育訓練等を実施している他、一斉メール配信システムを導入する等、本校で発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処できる管理体制を整備している。

本校では、中期計画推進委員会を中心として各委員会、組織と連携しつつ、活動の総合的な状況に対して、中期計画及び年次計画の策定、各計画の実施状況調査及び実績評価を実施しており、その結果をウェブページ上で公表すると同時に、運営協議会等にフィードバックして、改善が必要と認められる事項については、必要に応じて校長裁量経費を重点的に配分しながら、各委員会、組織等に対して改善を求めている。また、自己点検・評価結果の外部有識者による検証のために、外部評価委員会を設置しており各種提言に対しては、即座に対応策が策定され、各委員会、組織にフィードバックし、一定期間後に点検・評価委員会により進捗状況の調査を実施し、適切に管理運営の改善に反映されていることを確認している他、機関別認証評価及びJABEE審査の結果も同様に改善に結びつけている。さらに、高専校長間ピアレビューを実施し、校長自らが自身の仕事について点検・評価を行い管理運営上の改善に結びつけている。

外部教育資源の活用状況については、企業技術者等活用プログラム等を有効に活用し、地域企業の技術力を本校の教育に取り入れている他、台湾国立聯合大学及びドイツ外務省との協定締結によ

る他機関資源の活用，卒業生及び退職教員による学友会部活動の指導等，学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用している。また，教育研究活動の状況及びその活動成果に関する情報については，「学校要覧」等の刊行物の発行及びウェブページにおける「教育情報の公表」という形で，広くわかりやすく社会に発信している。

